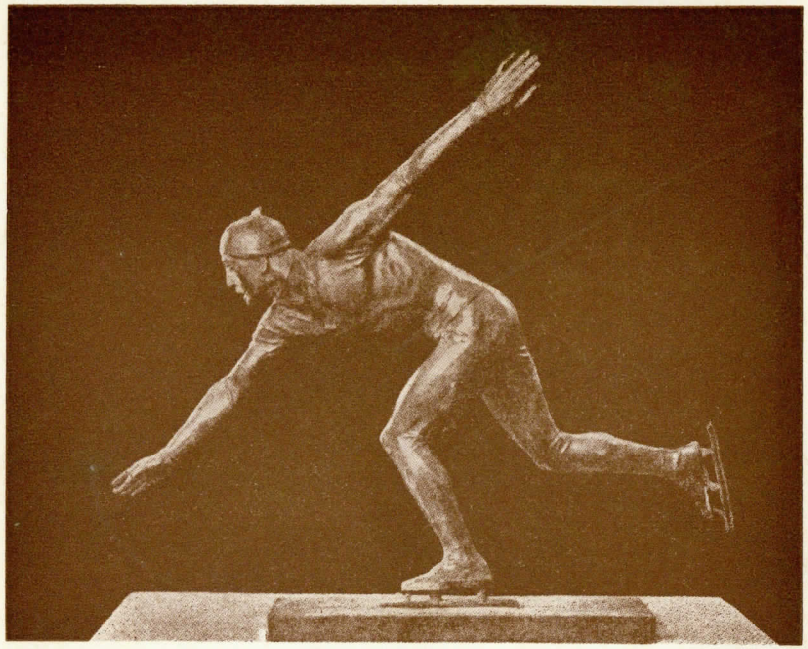
鑑年トーケス

紀元二六〇〇年－二六〇一年

大日本スケート競技聯盟



鑑年トーケス

1

大日本スケート競技聯盟

明治神宮大會總裁　秩父宮殿下

第十回明治神宮國民體育大會冬季スケート大會は昭和五十年二月二日より三日間長野縣上諏訪町海の蓼スケート場で挙行されました。總裁宮殿下には二月四日に諏訪を訪れさせられました。

盃　賜　宮　父　秩

（權手選ーケツホ・スイア）

盃　賜　宮　邇　久

（權手選アユギイフ子男）

盃　賜　宮　田　竹

（權手選ドービス子男）

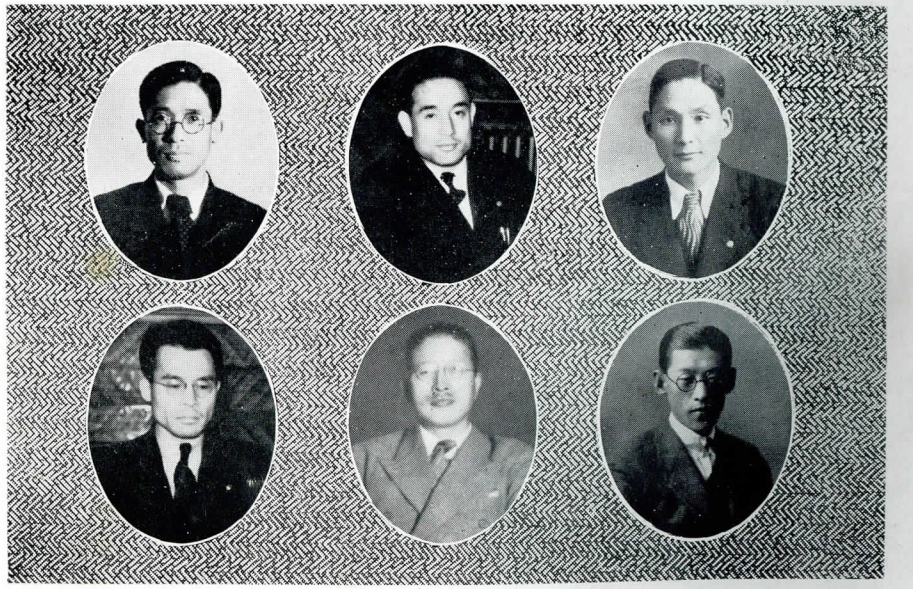
盃　賜　妃　宮　德　昌

（權手選アユギイフ子女）

正副會長と役員

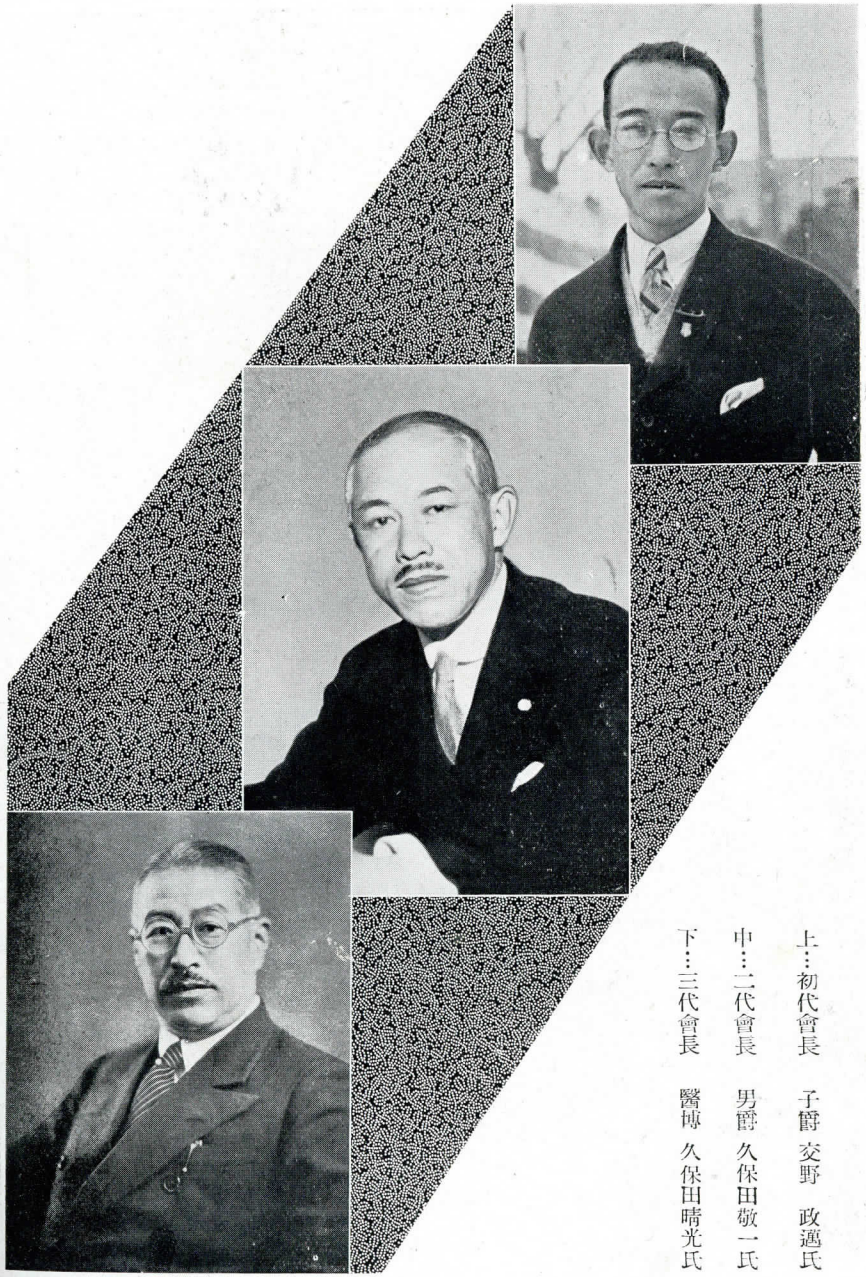
副會長　田所哲太郎氏

會長　喜多壯一郎氏



上右から　倉町、翠川、兩角氏
下右から　三島、金子、榎本氏

前會長の面影

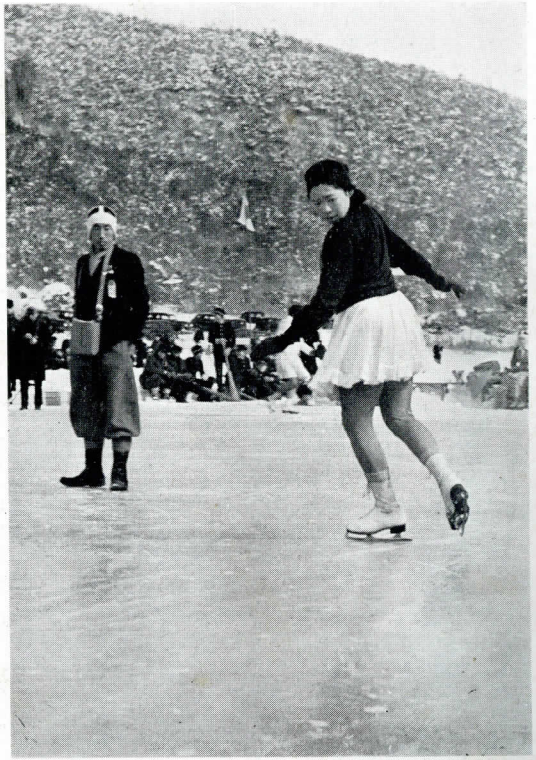


上…初代會長　子爵　交野　政邁氏
中…二代會長　男爵　久保田敬一氏
下…三代會長　醫博　久保田晴光氏

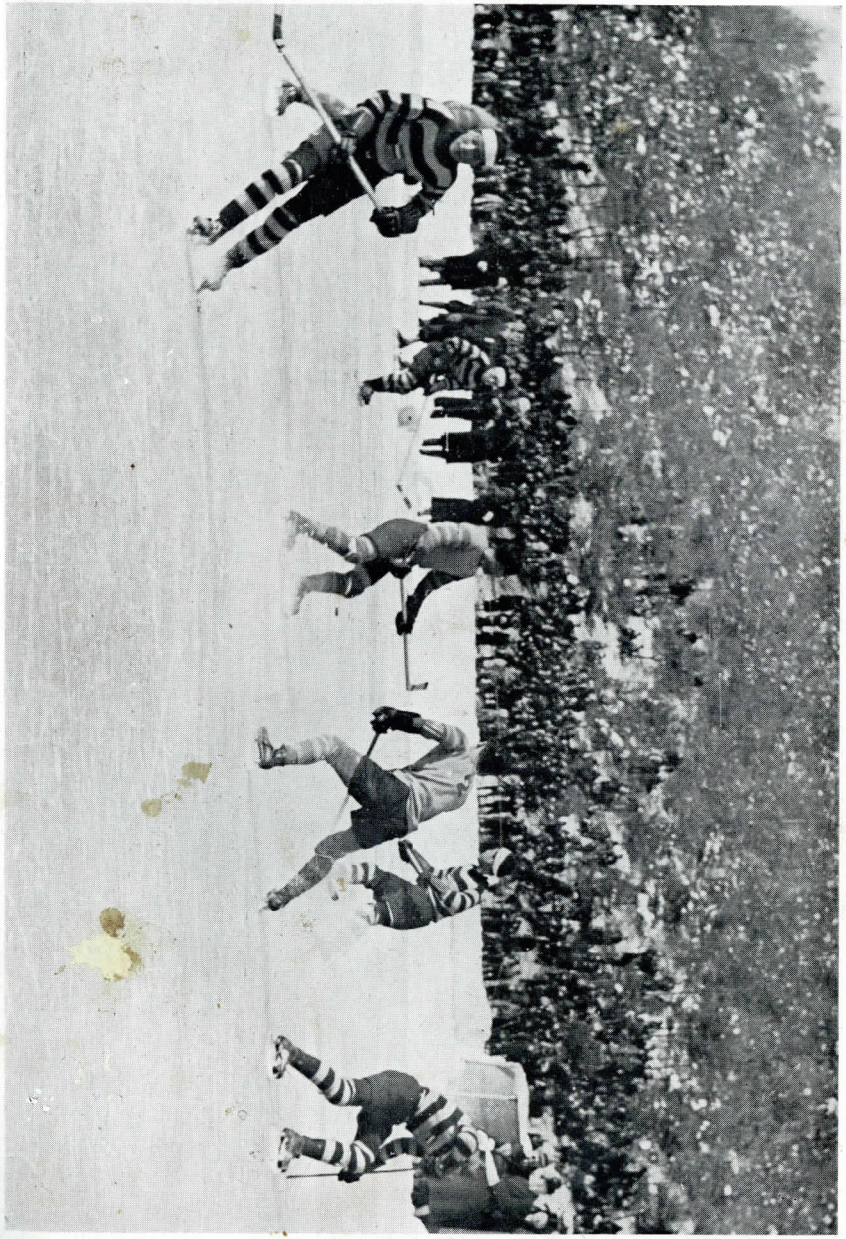
第十回明治神宮冬季大會

上…聖恩の旗を奉迎し式會開てし二月二日長野縣上諏訪町蓼の海スケ
たれさ行擧くし々華で場トー
下…蓼の海スケートに於ける國旗降納式

第十回明治神宮冬季大會

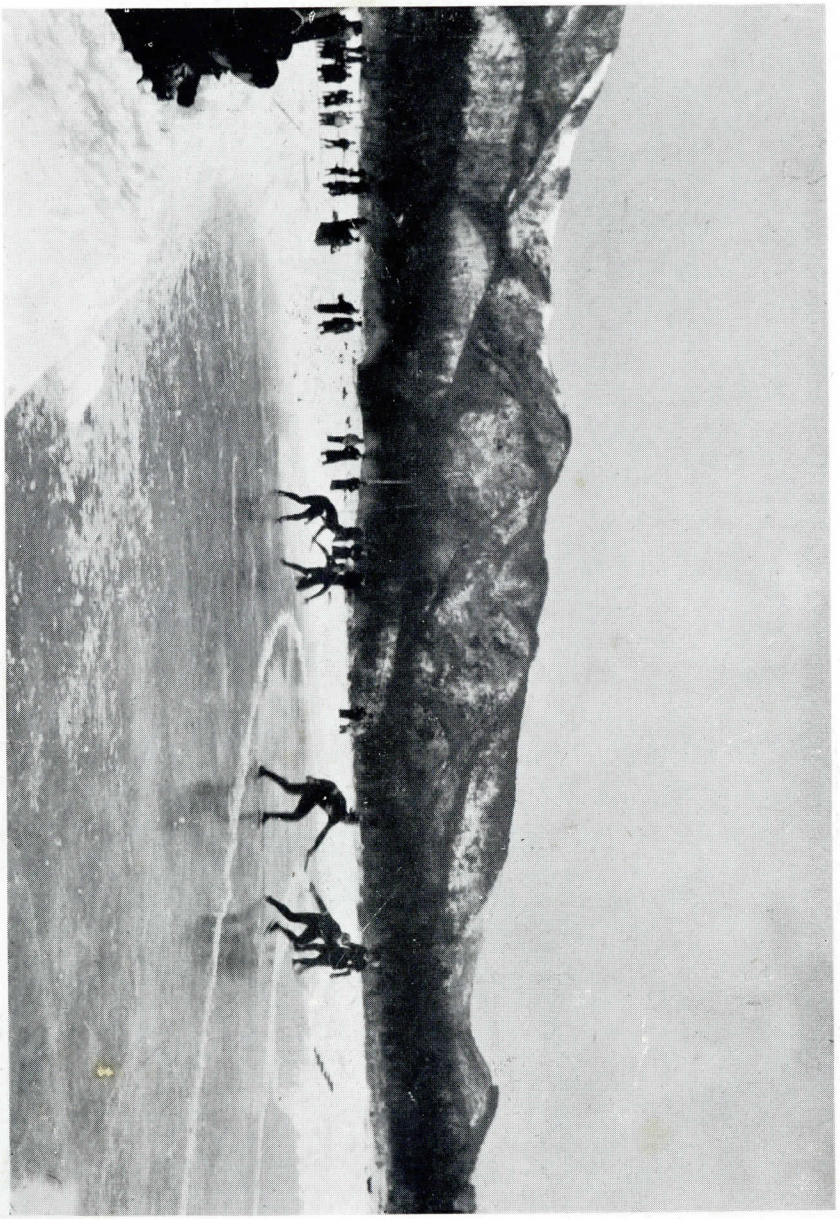


右……稲田悦子嬢のスクールフイギュア
下……月岡芳子嬢のフリースケーティング



第十回明治神宮冬季大會

第十回明治神宮冬季大會



チツタントバの洲滿對抗東走纜米千二ドーピス子男る於を終最の會大

第九回明治神宮冬季大會

（昭和十年一月廿六日）式會開の海の蓼てし迎奉を旗の恩聖……上

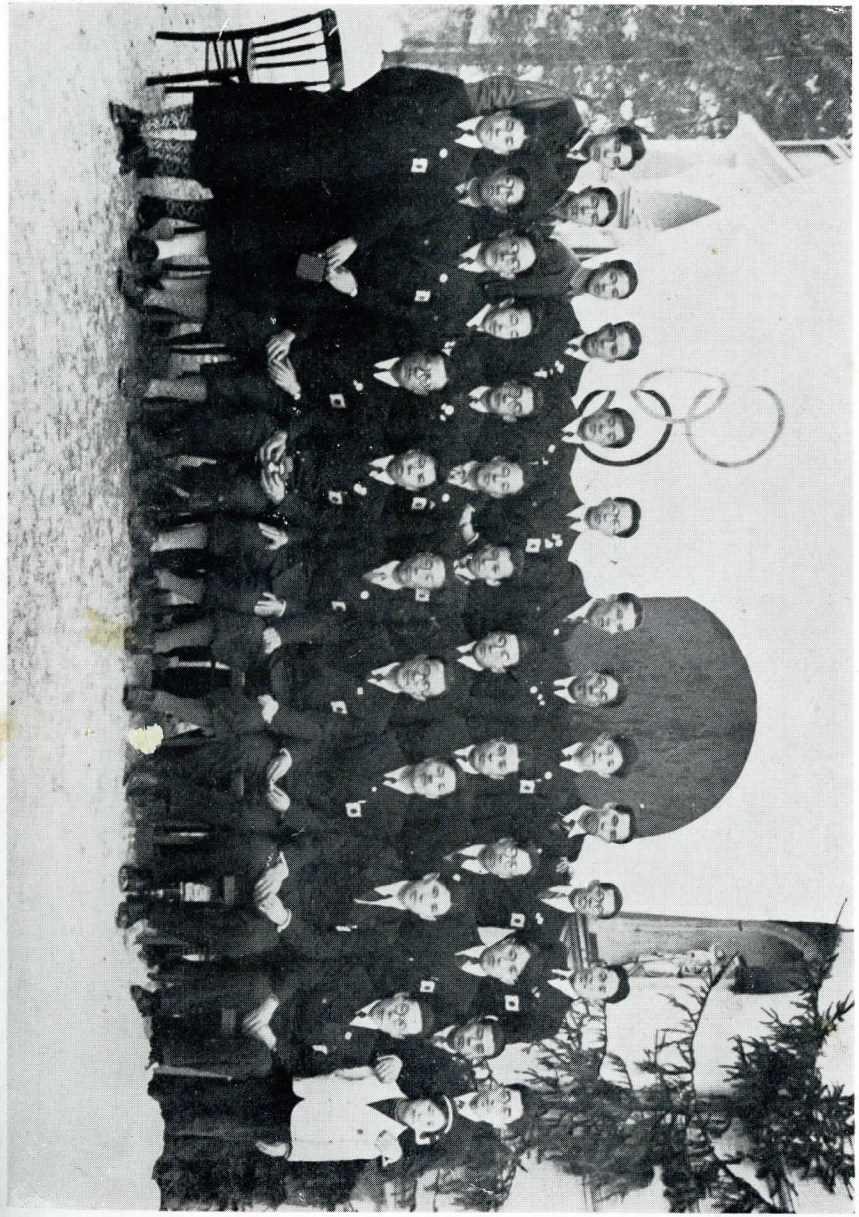
走滑の手選熙重安たし躍活に會大……下

第十一回全日本スピードスケート選手權大會

第十一回全日本スピードスケート選手權大會は昭和十五年一月十八日、九日に長野縣上諏訪市の諏訪湖上に於て行はれ、國旗掲揚式は上原寫眞師の注目を引く中に行はれ、優勝者に賞品を授與された。

第三回冬季オリムピック大會

第三回冬季オリムピック大會は昭和十七年二月六日から十日迄ドツシラプクーレ國米間に於て開會式を挙行した。上は選手團の入場式、下は日本選手團の代表者、左列前列、谷木、松老、谷帶、村河、野星、原石、林小、左列後列、藤監督、間潤、上氏諸氏



表代會大ユシツミルガ

ヒツトラー總統の開式宣言

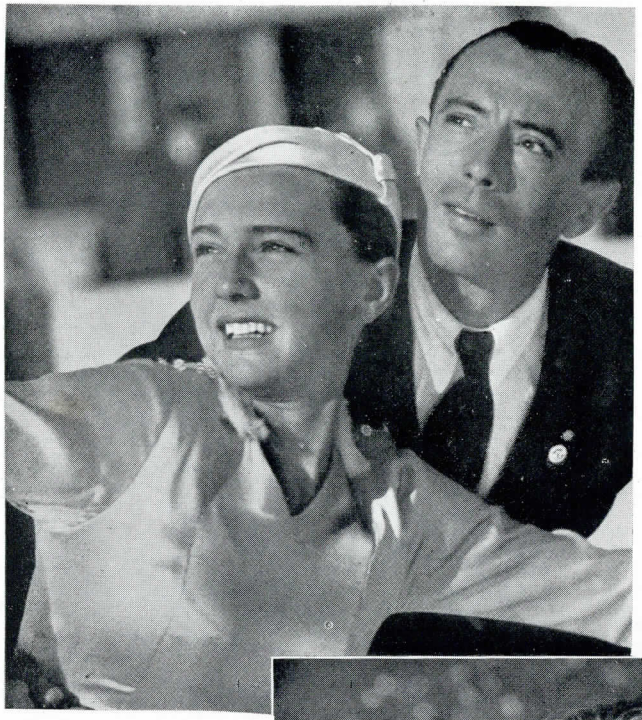
十らか日六月二（年一十和昭）年六三九一は會大クツピムリオ季冬回四第
會同は眞寫。たれさ行擧でンヘルキンテルパユシツミルガ・ツイド迄日六
るあで聲一第の言宣式開式會開の統總ヒるけ於に場

第四回冬季オリムピクツ大會

場入のムーチ本日日當式會開……上

ムアイデタスーケツホスイア……下

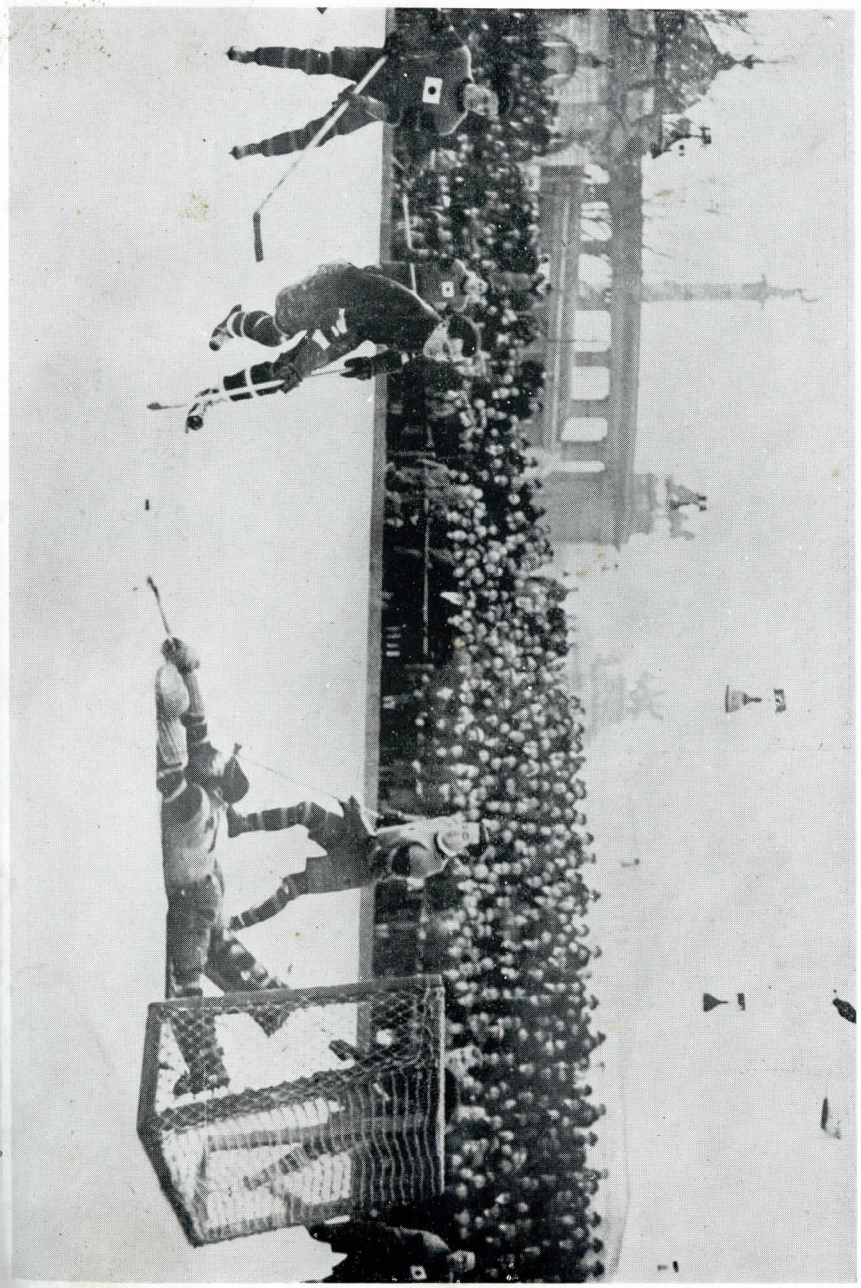
雙璧のアユギイフ



バイアー、ハーバー（獨）←

パウジン姉弟（墺）→

戰善のムーチ本日



走滑丸彈

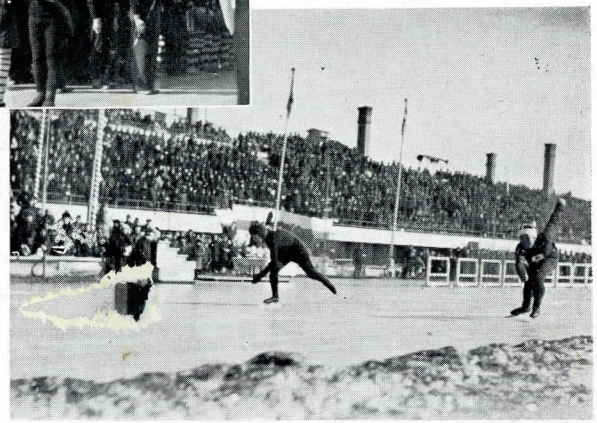
（影撮氏三幸村谷）　クツニクテ・ーナーコの手選久勝下山大早

日滿氷上對抗戰

（奉天競技場）

安達滿洲主將と大野日本主將のペナント交換

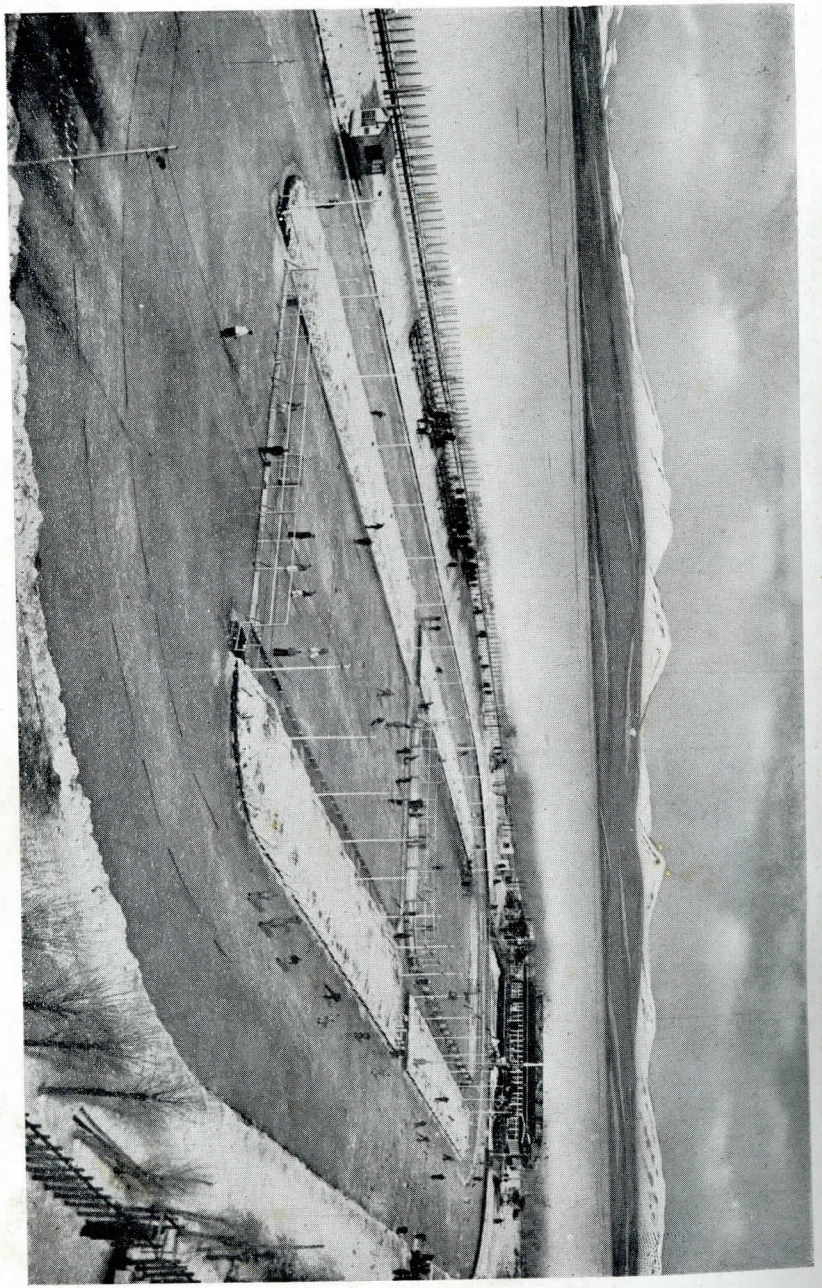
←



→

女子五百米レースの接戰

東京驛に歸つた日本代表軍（昭和十四年二月八日）



クンリ子王牧小吉道海北

場トーケス定指盟聯トーケス

海の麥町訪諏上縣野長……上

湖訪諏縣野長……下

スーコ・ドーピス湖原松郡久佐北縣野長……上

クンリーケツホスイア湖原松同……下

場トーケス定指盟聯トーケス

場トーケス根長市戸八縣森青……上

場トーケス尾細光日縣木栃……下

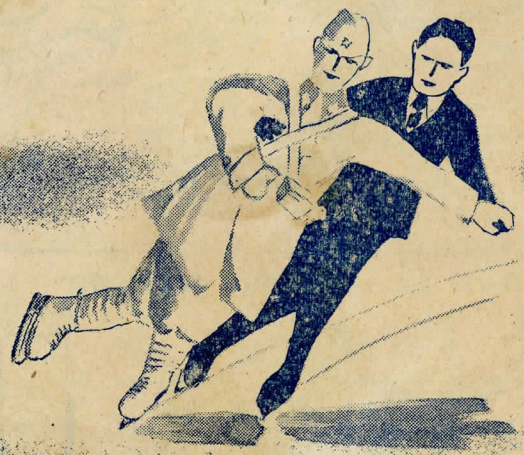
場トーケス内室

場トーケス浦芝京東……上

場トーケス王山京東……下

國報育体

冬強け れば夏も強し



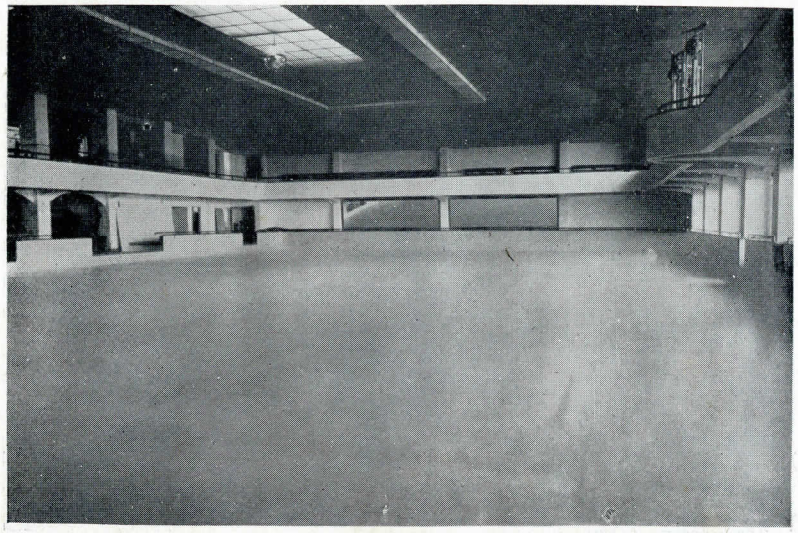
日本屋運動具店

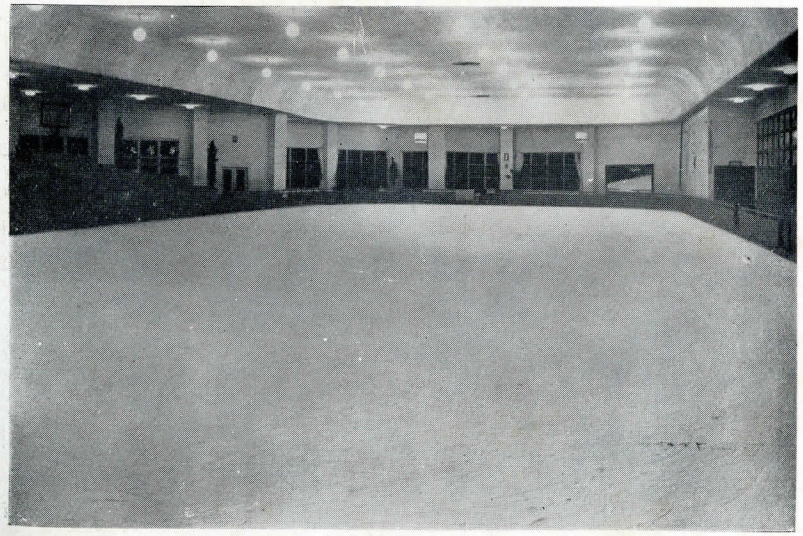
札幌市十字街　神田區淡路町

電話九二〇四　電話六六九四(25)

カタログ呈

室内スケート場





東京伊勢丹新宿スケート場……上

神戸商業館スケート場……下

願祈勝健・ーキス・トーケス

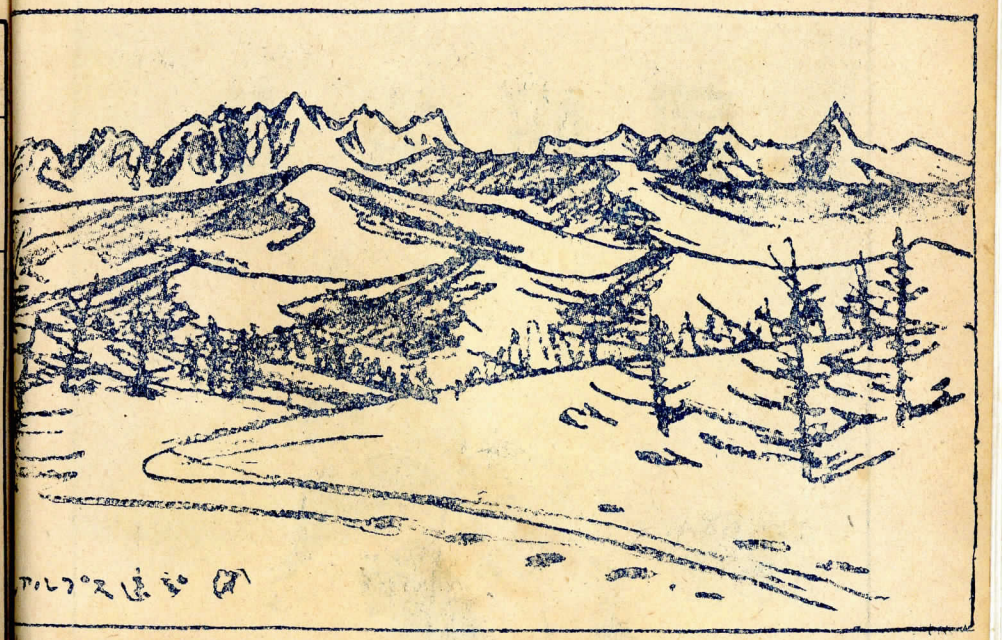
冬の鍛錬道場

霧ケ峰
蓼の海
諏訪湖
諏訪之
諏訪明神

信州上諏訪温泉
代表的温泉旅館

布半別莊 電三一〇 五三三
たかの湯 電三三〇
成田屋ホテル 電二〇五 二〇九
富貴の湯 電三五六
油屋別館 電五一〇 五一一
鷺の湯 電二五九 七一四

（イロハ順）



霧ケ峰より北アルプスを望む（櫻井光二氏畫）

冬季競技（ウインタースポーツ）の殿堂

上諏訪温泉！

霧ケ峯のスキーと
諏訪湖（町營リンク）
蓼の海のスケート!!

中央線上諏訪驛下車、自動車バスの運轉あり、
溫泉は全市四百三十餘口、一日三萬三千餘石
の溫泉湧き流る、各ホテルサービス改善。

上諏訪觀光協會

上諏訪町役場内
電話上諏訪 一四七四番 七一一番

日本を代表する

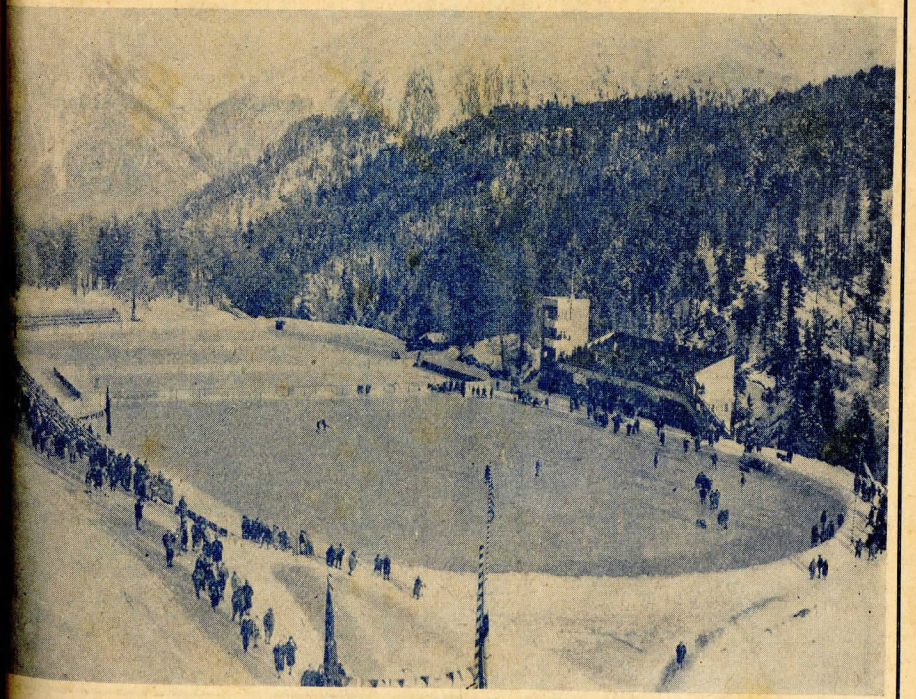
玉澤のスケート用品

牛込區矢來下終點前

玉澤

電話牛込 一三二七 一三二八 四〇六七

支店 大連・名古屋



目次

卷頭言……一

いまこそ國家的與力となるわれらの氷上競技……大日本スケート競技聯盟會長 喜多壯一郎……二

日本スケート界に希望す……大日本スケート競技聯盟副會長 田所哲太郎……六

日本スケート界の進む路……兩角政人……八

第十回神宮スケート感想……兩角政人……二

第十回神宮氷上ホツケー……翠川茂次郎……一四

第十回神宮フイギュア競技……中澤周平……一六

第十回神宮スピード競技……倉町太郎……一八

大日本スケート競技聯盟小史……大日本スケート競技聯盟……三

我國スケート界の歴史的展望……大日本スケート競技聯盟……二四

スケート競技發達史……大日本スケート競技聯盟……三三

大日本スケート競技聯盟の創立……大日本スケート競技聯盟……四二

北海道地方に於けるスケートの沿革と發達……內藤芳雄……五八
北海道のスケート場……安田泰次郎……六三
スケートの搖籃時代を回顧して……三輪充武……六八
朝鮮に於けるスケートの沿革と發達……朝鮮氷上競技聯盟……七二
滿洲に於けるスケートの沿革と發達……木谷辰己……八一
我國スケート界の國際的進出……大日本スケート競技聯盟……八八
第五回冬季オリムピック札幌大會……札幌冬季大會組織委員會……一〇六
最初のオリムピック出場……大日本スケート競技聯盟……一五五
レークプラシッドの想出……潤間留十……一六五
第四回冬季オリムピック出場準備……大日本スケート競技聯盟……一六八
第四回冬季オリムピック大會……大日本スケート競技聯盟……一七一
ガルミッシュ大會の運行を顧る……西田信一……二一七
ガルミッシュ印象記……藤原文雄……二二五
歐洲轉戰とオリムピックの想ひ出……金正淵……二三六
オリムピックフイギュア印象記……片山敏一……二四三

滿洲氷上遠征記……兩角政人……二五〇
蓼の海日記……宮澤留十……二七〇
全日本選手權競技會記錄……大日本スケート競技聯盟……二七八
全國學生氷上競技聯盟の創立と競技會……大日本スケート競技聯盟……三二一
明治神宮國民體育大會記錄……三三八
昭和十五年度代表委員會議事錄……三五四
昭和十五年度全國技術委員會議事錄……三五六
大日本スケート競技聯盟……三六三
大日本スケート競技聯盟規約……三七二
スピード・スケート記錄……三八〇
大日本スケート競技聯盟競技規約……一
カット說明(扉及卷頭言)……二二六

卷頭言

茲に本聯盟年鑑第一號を發刊する。

體育の國家的意義は、意志力を伴つてはじめて完全を見る。吾等は、スケート競技の戰鬪的强靱性と、スケート技の體力的抵抗性と以つて、完全なる體育の一助たらしめんと欲するものである。

吾等は、その大いなる手段として、スケートの發達と普及に努力を拂ひつゝある。

現下國家は、高度なる國防國家の建設に邁進して居る。體育はその基礎的根底である。吾等はスケートを通じ、その根底の一部を負擔せんとするものである。

いまこそ國家的與力となるわれらの氷上競技

――それは高度國防國家完遂へのスポーツ――

大日本スケート競技聯盟會長　喜多壯一郎

一

國防力を國民生活それ自體の力で、充實させなければいけない。これは、いつどの時代にあつても、眞實且つ重要なことである。そして、今ほどそれの眞實さと重要さとを痛感する。却ち、現在の日本は、高度なる國防國家を最大限に要請してゐるのである。

この高度國防國家建設の重要なる役目を、われ〳〵は國民として、國民生活の一分野としてひき受けてゐるが、それは一に國民體力の增强が解決する。しかし、この國民體力の增强そのこと自體が簡單の如くあつて最も難事である。且つ遠大なる計畫と實行力を要するものである。たとへば、健全なる體力と精神力をもつ壯丁をつくるためには、廿年間といふ長い間の努力がなくてはならない。その爲めには、國家は先づ第一に充分なる體力計畫を樹てることが必要なのである。スポーツは、その體力計畫中に包含さるべき使命を有つて居る。

つまり、スポーツは體力擴充にとつて必要缺くべからざる分野をなして居るのである。

一頃、このスポーツを、スポーツのためのスポーツ、體育のための體育、といふやうに、國民生活から分離して、別に大目標を考へない時代即ちスポーツ至上主義ともいふべき時代があつた。それはスポーツを自由主義的にみたのであつた。然し現時に於ては、さうした自由主義的なスポーツ觀は絶體に許すべきでない。即ちスポーツを現實に即せしめ・スポーツと國民生活とを完全に融合せしめた新らしいスポーツ國家觀を樹立する必要があるのである。

そのスポーツと國民生活とを融合せしめるためには、スポーツと體育の完全なる一致を期することが必要となつて來る。從來スポーツは、一種の娯樂としてのみ取り扱はれて來た。野球にしても蹴球にしてもアイス・ホッケーにしても、單なる樂しみ、面白いからといふことだけで行はれて來た。今はその樂しみ、面白さからの觀念を一歩も二歩も前進させる時である。スポーツと體育とを十分合致せしめるのである。

國民生活に於て、體育が如何に必要なものであるかは、必ずしも國防國家的見地からでなくとも知ることが出來るが、スポーツに對する從來の認識は、時に誤りを受けないでもなかつた。それは未だスポーツと體育とが完全なる融合一致を見なかつたが爲めである。スポーツが遊びの觀念の中に封じられて居たからである。高度國防國家建設の達成に關し、吾々スポーツ關係者は、先づスポーツと體育の結合を期し、そしてその體育的意義の高揚を以つて國家への寄與としたいのである。そこに新らしいスポーツ觀が生れ、國民生活とスポーツの聯繫を直截に判斷し認識し更にそれを實行し得る新時代の要求する新らしいスポーツマンシップ及びスポーツマンが生れるのである。

二

スケートが我國に行はれて四十年、異常なる發達躍進を遂げつゝあるが、若しそれが形だけのものであつたならば、むしろ無に歸せしむるに然かずである。吾々はスケートといふ極寒を克服し得るスポーツの中から、スケート獨自の精神を求めたいと常日頃思つて居る。それはどこ迄も寒氣克服と闘爭的意識といふ精神力の涵養であらう。スケートに於てはスケート技に依つて體力を鍛へると共に寒氣に依つて强靱にして彈力のある精神力を養ふことを他のスポーツに對する特異

性としたいのである。そしてこれを以つて多少とも國家への體育的寄與としたいのである。であるから、若し大日本スケート競技聯盟の經濟が許すならば、アイス・ホッケー、スピード、フキギュア、全競技種目を擧げて、諏訪湖のやうな、蓼の海のやうな、松原湖のやうな、八戸長根リンクのやうな、北海道のやうな、大空のもとで嚴肅に莊重に競技會を開催したいと思ふ。それでこそ冬季運動競技としてのスケートの意義と特色が國家的體育として發揚出來るのである。

この見地から、明治神宮國民體育大會冬季大會スケート競技會が、寒風を截つて山間、戸外に三競技種目を集めて行ふことになつたのは、洵に喜ばしいことであると同時に、青年の意氣を明治神宮の大前にお示しすることのふさはしさを大いに意義ありと感じるのである。今後スケートは、スキーと共に冬季體育の双璧として益々隆盛に向ふと思はれるが、スケートは寒氣を對象としてはじめて意義をなすものであることをどこ迄も忘れたくないし、そこにスケートの生命の躍動するものであることをもよく認識して置きたいと思ふ。

然して寒氣を對象とするものであるならば、日本はまだまだスケートの普及と發達に對して餘地が殘されて居る。北海道にしても東北にしても、中部にしても、それ等の各地は、未だ完全なる普及を見て居ない。大日本スケート競技聯盟は中央にあつて普及と發達に出來得るだけの努力を拂ふ決意を十分に持つて居るから、各地共協力體育としてのスケートの發達に萬全を期したいものである。

このスケートの普及發達に關して最も必要なことは、スケートをよく理解し認識することである。それは既に述べたやうに、國家國防力の重點が體育にあり、然してスケートはスポーツとして體育に結合して居るといふことの理解認識である。スケートを遊びと見ないことである。この新らしいスポーツ觀が體得出來れば、それは直ちに國防力としての體力に對する認識となるのである。

この意味に於て、スケートを普及發達せしむるためには、中央、地方が協力して目的の完遂を期すべきであるが、最近

この協力の實が顯著となつたことは、スケート關係者の一人として喜びに絶えないものがある。簡單な例であるが、競技會開催に當つて各屋内スケート場、各スケート地の方々が競技會の完全なる遂行の爲めに、全機能を擧げて協力する態度はスケートに對する理解、熱意、ひいては體育思想の高揚と見て居るのである。競技會が完遂されることは、その地その地に於けるスケートの理解認識に依るものであつて、これは同時にその地方に對するスケートの普及發達に影響を與へるもの洵に大なりと感ずる。幸ひ全國スケート地が一致協力してスケートの普及發達、體育思想の向上强化に一段の努力を拂はれつゝあるは國家としても喜ぶべきものがある譯である。

スケートの普及發達に關しては、各スケート地の協力を待つと共に、選ばれて選手となつたスケーター諸君の協力をも併せ持たなくては、容易に普及發達の度を高めることは出來ない。從つて選手諸君に對しては、眞に日本的なスポーツ觀新らしいスポーツマンシップといふものを理解し體得して、技術的に精神的に最もよい體育的指導者となるべき自信と心構へを特に期待しいものである。そしてこの選手諸君の眞に日本を愛する祖國を護らんとする精神がスケートに溢れた時スケートは完全なる普及を見、發達が期せられ、更に國防國家の根底を爲す體育は、少なくも冬季體育の分野に於ては强化の實を擧げ得られることになるのである。

スケート年鑑第一號の發刊を見るに至つたが、新らしいスポーツ觀として、またこれが現在の日本に於ては當然のスポーツ觀として、スポーツを通じスケートを通じ國防力擴充といふ國家への寄與、臣道實踐の實を擧げるやうこゝに强調するものである。

日本スケート界に希望す

大日本スケート競技聯盟副會長　田所哲太郎

日本スケート界も毎年神宮スケート大會を中心に緊張して練習に熱中しつゝある事は喜びに堪えぬ處であり、又現今叫ばるゝ心身の鍛錬と云ふこともスケートの練習間に於いて其目的の達せらるゝ事であるから、時局に添ふ所以で、神宮競技の中に入つてゐるのもこの爲である。更に望ましい事は心の鍛錬に用意として緊張した氣持が必要な如く、身體の鍛錬にも、特に寒さに對して耐える爲めに、又電光石火の活動や肢體の圓滑な瞬間的動作に對して必要な用意としてビタミンBとかビタミンCとかの愛用に迄で心掛けて進みたいものであると思ふ。即ちスケート技術の練習は同時に心身鍛錬の道程を行くのである。是に必要な要素が備はねば甚だ其効果や疑はしく、從つて技能の進歩も望み難いと思ふのである。勿論心身の鍛錬を傷ける如き所作行動は最も慎まねばならぬことは云ふ迄もない事と思ふ。

スケート聯盟各團體は地方的のものであるから地方により自然の狀況も異り、屋内スケート場に出入して練習する地方と屋外スケート場による地方で競技種目の發達上にも大きい影響を有するから、此點を考へて其特色を延して行く事に心掛くべきであると思ふ。屋外にスケート場を有して且つ積雪の少い地方ではスピードに、長距離に特色を發揮し屋内のスケート場を有する地方ではフイギュアに力を入れると云ふ樣な行き方が必要かと思ふ。即ち地方的特異性を發揮すれば技術の進歩に極めて能率的であるのでは無いかと考へられる。

屋内スケート場を常置する地方では、建物の改良に心掛けてもらへたいと思ふ。之は敢て立派な事を必要とせずに換氣と採光とに注意して、出來るだけの設備を此の方面に向けてもらひたいと思ふのである。此等の不充分の爲めに長時間の練習に堪えぬとか、身體衛生上保健上に多少とも惡影響ありてはスケート技術上の進歩をも阻止すること多いからである。

スケート其物も時局柄鐵の質の宜しいものを多量に之に消費するのも考へねばならぬと思ふから、全體の構造に例へばアルマナイトの如きものを用ゐて肝要な部分のみに鋼鐵の最良質のものを使用すると云ふ樣な改良は不可能ではないから其方向に進めて貰ひたいと思ふ。

最後にスケート界への最も緊要な事は通俗化、大衆化に効顯すべき運動を起す事が即ちスケート界發展の所以にあると考ふるのである。

日本スケート界の進む路

大日本スケート競技聯盟專務理事　兩角政人

現在日本に於けるスケートの普及發達狀態はどうであらうか。東京とか大阪とかいふ都會地の屋内スケート場を利用する人達は年々增加一方のやうである。スケート競技會の如きも、年毎に盛んになつて、洵に今昔の感にたへぬものがある。然しこれが直ちに日本全體の普及發達の狀態とは云へまい。總べての文化が都會に集中して、そこに現はれる現象が日本文化の水準かのやうに見られて居ると同じやうに、スケートも華かな都會の脚光を浴びるとそれが直ちに隆盛發展の總べてゞあるかの如く感じられて居るが、まだ〳〵日本のスケート界は隅の隅まで普及して居るとは云へない。日本のスケートは二度のオリムピツク出場と體育運動としてのスケートといふ新らしい認識とに依つて、漸く普及發達の軌道に乘つたばかりで、躍進はむしろこれからである。

スケートの體育運動としての價値、スケートの國防的價値に就いては今更いふまでもあるまいが、單的にいふならば、スケートは冬季行はれる、つまり寒氣を對象として行はれる特種的體育運動であるだけにその價値は體育運動的にも國防的にも、充分檢討し研究すべき重要な位置にあると云ひ得られるのである。從つて我が大日本スケート競技聯盟はこれを積極的に普及發達せしむべき責任を負はされて居る譯である。

普及發達に關しては、いろ〳〵の方法もあるであらうが競技會を現在より以上に盛んならしめることは、その最大なる手段である。さうかと云つて競技を普及の道具に使ふといふのではない。競技が行はれるようになるまでの

地方のスケート熱が高まるのである。この熱度に對して積極的普及策を講じるのである。この普及策が從來比較的不足がちであつたが今後は大いにこれを利用して、その地方の青年子女を寒風の戸外に導かうといふのである。

この普及策と關聯するものに、"スケート競技會開催指定地"がある。昭和十五年の全國代表委員會で決定したものであるが、北海道苫小牧、札幌、青森縣八戸市、岩手縣盛岡市高松池、栃木縣日光細尾スケート場、長野縣諏訪(諏訪湖、蓼の海)及同松原湖の七ケ所で、これを公認スケート大會地として、大日本スケート競技聯盟主催の競技會及び聯盟關係の競技會はこれ等の大會地に於てのみ競技會を開催することが出來るもので、これに對しこれ等七つの指定地は積極的に協力して競技會の完遂は勿論、スケート場として完全な施設をなしてその地方に於ける普及をも援けやうといふのである。この指定地は將來適當と認めるものは出來得る限り廣範圍に亘り指定するものと見られて居る。

競技會が如何に普及に役立つものであるかは既に今日迄の經驗がよく判つて居るが、今迄はこれを積極的に活用して居なかつた。これは競技一點張りであつたといふよりは普及に對して全く放任主義、うかつであつたのである。

神宮大會が厚生省の手に移管されてから、神宮大會は面目を一新したかの觀がある。事實一新もし、併せて時局の關係もあつて、神宮大會の體育運動界への使命は日本最高の演技を奉納するといふばかりでなく體育運動界全般に對し非常に重大さを加へて來た。だからこそ體力局體育課は一年を通じて、この神宮大會の準備に忙殺されて居るのだが、厚生省はむしろこの際、神宮大會の特殊性を大いに發揮せしめて最高の演技奉納と共に、現在國家が要望して居る體力增强の徹底的普及策に合致せしめる意圖に出づべきが至當であらう。この意味に於て各競技の府縣對抗、團體競技は、特種的、實質的に、全日本選手權にまさるものであるからこれを最高演技として强化し、普及させるのが現實に即した神宮大會の行き方ではあるまいか、スケート競技は、全日本選手權競技と同樣にこの團體的な地域的競技にも全力を注いで、一面地方々々の普及發達に備へたいと思つて居る。何れにせよ普及といふことは、講習會や映畫講演會だけでは効果は擧げ得られるものでなく、完全なる

競技會を行ふことに依つて、効果は一段と高められるものである。

大日本スケート競技聯盟は普及事業に力を注ぐと共に競技會にも同等の力を注ぐことになつて居る。これは競技に依つて現はれる力を體力的に技術的に日本スケート界の標準としてスケート選手の體力、スケート愛好者の體力を體育運動の上から見た檢討の對象に置かうとするが爲めである。同時にまた選手生活に依つて體得される人格と練磨された技術を通じて示される指導力の涵養をも期するものであつて、これは直ちにスケートの技術の上にまた精神力向上の上に大きな指導力を齎らすものとなり、健全なる普及もこれに依つて完全が期せられると信ずる。

かゝる點からいふと選手の責任は非常に重い譯けであつて單に强いだけではいけない、選手としての人格、技術を具備することが必要となる譯である。

日本のスケート界にとつて滿洲國のスケート界は絶對に忘れ難いものである。これは技術を向上させる上からも、スケートを一段と普及發達せしめる上からもである。このことは滿洲側からも云へることである。滿洲國にとつて日本のスケート界は忘れることの出來ない存在である今後兩國のスケート界は一層緊密に提携して進むべきで、これは直ちに世界への飛躍ともなる。世界への飛躍と云へば、ソ聯とのスケート交驩はどうであらうか、最近のソ聯のスポーツ界は非常に活潑のやうであるが、このソ聯と最も早くスポーツ交驩をするのはスケートであらう、これは日本スケート界の責任でもあらう。

最後にスケートは盛んになつたが用具はどうかといふことになるが、これは厚生省の腹一つである。冬季に於ける體育運動たるスケートの健全なる發達に對し協力を乞ふものである。

★

★

☆

第十回明治神宮國民體育大會スケート競技會

大會感想

兩角政人

第十回神宮スケート大會の特色と云へば、スピード、アイス・ホッケー、フイギュア三種目が同一開催地で同時に行はれたことゝ、地域を北から南へと北海道、東北、關東東京、中部、關西、朝鮮、關東州、滿洲の九つに分けて地域對抗戰を行つたことである。

三種目が外に出て、自然のリンクでやつたらといふ話はこゝ二三年來スケート關係者の間にかはされたことであつたが、屋内リンクの便利に馴れた大部分の人々は、なかなかおいそれといふ氣になれず、この神宮大會迄のびてしまつた。この神宮大會でも從來のまゝならその氣になる人も少なかつたであらうが、「厚生省主催」がピンと來たし、スケートの普及發達の爲めには屋外に出で、これと並行して地域對抗戰とすることが促進にもなり、同時に寒い地方の人達の健康的見地からも隆盛が直ちに健康、體力增進と一致するといふので、第十回大會の特色をも併せてこの計畫が實現することになつた。

會場の長野縣上諏訪町蓼の海スケート場は、上諏訪の町から約一里山間に入つた場所にあつて、こゝでは既に數回の全國的競技會や第九回の神宮大會もやつて居るので、スケート競技關係者にとつては、相當おなじみの場所である第十回大會が、こゝで行ふことに決定するや上諏訪町は全町を擧げて準備に努力し、總裁　秩父宮殿下の台臨に當つては厚生省、長野縣と共に萬遺漏なきを期した。

大會は、二月二、三、四の三日間に亘つて行はれたのだが、三日の午前が、前夜から明け方にかけて降つた雪を除雪するのに手間取つた爲め豫定通りに行かなかつたゞけでその三日も朝から快晴であつたのだから、降雪に依る除雪の難はあつたが大會三日間競技日程には聊かの狂ひもなく自然を相手のスケート大會としては、先づ普通のコンディションに依つて行はれた。

この大會に參加した競技者は、男子のスピードには九地域全部出場し、アイスホッケーには、中部を除く八地域、フイギュアには北海道、關東、關西、關東州、滿洲、女子は、北海道、朝鮮、滿洲のスピード、關東、關西、滿洲のフイギュアと云つたところで、この參加成績は大體に於てよい方で、殊に三種目が一ケ所に集つたので久しぶりで賑やかな競技會を見ることが出來、同時にこの參加の狀態で現在日本の有するスケートの普及發達の極くあらましも知ることが出來た譯である。そして參加した各地域も、何か一つ位は得るところがあつたであらうから、スケート競技關係の人達が意圖した普及政策も先づ緒についたのではあるまいかとも思はれた。

そこで第十回大會の競技成績はどうであつたかといふと概してよかつたやうである。それは、各參加選手が全日本選手權大會同樣に或はそれ以上にこの大會を重視し、ベストを盡したからであつた。夏や秋の大會のことは別としてこのスケートは、シーズンが僅々一ケ月位しかないので、この間に行はれる競技會に對しては各選手共に全力を傾けるべく努力を拂つて居る。僅か一ケ月位の間に三つ四つと競技會があるとすれば、その何れにもベスト・コンデイシヨンを持つて行くといふことは、骨の折れるものであるがこれを敢てして居る各選手の努力は大變なものである。

スピード競技にして見ても、全日本選手權大會以上の記錄が次々と現はれて今シーズンの最高記錄を作つて居る。

この大會から行つたオープン・レースの如きは殊に好成績で、女子三千米オープン・コース・レースは一等の平井、二等の大倉、三等の江島と、三孃揃つて世界記錄を破つて世界最高記錄を樹立する有樣であつた。尤もこのオープンコースに依るレースといふのは歐洲では殆んどやつて居ないから、向ふでこれをやつたら或はこれ以上のものが出るかも知れないが、それにしても、日本の女子選手でもこれだけの力は持つて居るぞ、と中外にこれを知らせることは出來た譯で、何にしても大きな收獲であつたと云へる。またオープン・コースに依るレースそのものは、興味的にはセパレート・コースのレースでは味はへないスリルを感じるのだから觀衆にとつては興味百パーセントで、今後この競技は神宮大會の大きな特色となるものと信じられる。

アイス・ホッケーは、中部地區のほか全部出場した。ス

ケート王國と云つて居た諏訪地方からアイス・ホッケーの代表の出ないのは何んと云つても淋しいことで、岡谷工業・諏訪中學など、今少し積極的に冬季體育運動としてのスケートを研究して然るべきと思ふものが多分にあつた。

地元が一つの代表さへ作り得なかつたことは淋しいことであつたが、その他の各チームが、屋内から屋外に出て大空の下に大氣を吸ひ、寒風を截つて技を競つたのは嬉しかつた。勿論、北海道とか朝鮮、關東州、滿洲は屋外育ちではあるが關東(立大)、東京(明大)の屋内チームを外に出して覇を爭つたといふことは、青年の意氣躍如として明治神宮大會としてこれほどふさはしいものはないと思つた。これはフイギュアにも云へる言葉で、各選手は自然の氷の上で競技を行つて、はじめてスケートの妙味を感得し得たであらうと思つて居る。

この第十回大會は競技的には、非常な成功であつた。若し會場の整理などゝいふことが完全に行はれて居たとしたならば、今大會は更に大成功であつたであらう。この會場の整理はいふべくして容易に行はれるものではない。殊に一里餘の山奥では無理といふかも知れない。然しこの大會を遂行する場合、さういふハンデイキャップをつけた考へ方は一切しないことにして、今後も大成功を期する爲めに努力したいと思つた。

上諏訪町も年一年と蓼の海スケート場の完備には努力を拂つて居るから、競技役員の訓練と共にこの次の大會には必ず大成功が期待出來ると信じる。

かく開催地地方が、大會のあるごとに、いろ〳〵と努力を惜まず總力を擧げて大會の成功を期するといふことは、冬季大會以外には見られないものであつて、體力增進、體育思想の普及徹底の見地から、直接地方の人達に接し、親しく體力增進の必要を說く機會のあるスケートなどは、夏秋の大會に比し遙かに意義があると信ずるのである。

殊に聖恩旗に對する開催地の眞摯且つ嚴肅な態度は、國家觀念を一段强く植へつけるもので、神宮大會の精神的意義はあの熱情だけでも足りて居ると感じた。

第十回明治神宮國民體育大會冬季大會スケート部競技會は、第二日目總裁　秩父宮殿下を奉迎して一層光榮に輝いたが、第十一回大會は更に大會の意義を徹底せしめ、國民生活と體育運動の融合を認識せしめたい。

アイス・ホッケー

翠川茂次郎

第十回明治神宮國民體育大會冬季之部のスケート部アイスホッケー戰は二月二日より嚴寒滿蒙を想はせる信州蓼ノ海リンクに於て全日本各地區の精鋭及滿洲、關東州よりもはる〳〵來征を得て代表八チームの間に鄕土の誇を賭けて明治神宮の御前に其全技、全力を傾けて白熱戰が續けられた。參加の八チームは先づ關東地區を代表して今年學生大會の覇者技術の立教大學チーム、關西地區を代表するに同志社、京大並關學の大學選拔軍、朝鮮代表は今年度インターミドルの覇者京城師範、滿洲を代表して新京商業チームに奉天の選手を三、四加へたる實力の全滿洲軍、關東州代表は老巧全大連チーム、東北を代表して東北帝大、北海道を代表して强引全苫小牧チーム、最後に東京を代表せるは今年初めて全日本の覇者と成つた新鋭明治大學等である。

第一日目劈頭關東對關西戰は關東2（0—0、1—0、1—1）1關西にて意外の接戰となり砂田、田中不出場の立教チームは得點力無く、後藤を專らデフエンスに下げて消極的戰法に出たとは云へ關西軍が暫々立教ゴールをピンチに追ひ込んだ邊り破れて悔無き仕合振と云ふべく中にもセンター飯塚は東京大學チームの第一戰プレーヤーと遜色のない立派な技術を示した。

第二試合は關東州と東北との間に行はれ、關東州22（6—0、10—0、6—0）0東北の大差にて一方的試合を以つて老巧關東州は完全に東北をかきまわした。

第三試合の朝鮮對滿洲戰は開始間も無く降雪となり滿洲9（3—0、4—0、2—0）0朝鮮にて豫想通り滿洲軍の强襲に若冠朝鮮力闘及ばず一たまりも無く敗退した。然し雪中終始善く戰ひ盡したる京城師範チームに心からなる同情と感謝を惜まない。

第四試合は東京6（0—1、2—1、1—1、3—0）3北海道で降雪中兩軍の大接戰となり、明大はデフエンスの名手滑川負傷不出場の爲得意の防禦陣に穴を生じ、名キーパー結家もミスゴールを許す等勝敗は後半迄見分つかず後半八分にライトキング二瓶の得點は北海道强敵明大を破つたかと思つたが同十分明大江副(兄)キーパーのリバウンドを叩き込んで幸運の同點として延長戰に入るや勢に乘じて江副(兄)四分と五分半續け樣のゴールを得て勝敗を決定し、タイムアップ直前景物とも云ふべき內藤のゴールと合せて三點を擧げ快勝した、北海道は闘將センター西浦全日本大會の負傷尙癒えず、其不出場は一軍の士氣に影響して强引疲勞を知らず殊に室外を得意とする同チームが敗退したのは惜しい。

さて第二日目準決勝戰は關東と滿洲、關東州と東京の四强豪との間に行はれた。

第一試合は關東0（0—0、0—0、0—1）1滿洲で兩軍好守好防得點を許さず大援戰を演じ、後半タイムアップ直前十秒滿洲栗矢の得た止めの一點は、遂に關東代表立大チームの善戰も及ばず惜敗となる、然も後半を後一分に殘して立教デフエンス內藤は、自陣より逆襲のチャンスを得てパックを出しノーマークの儘ゴールを得たかと思へたが少しくパックを離し過ぎたるため間一髪滿洲ゴール女池の絶好の跳出に遭つて逸した邊り全く勝負の山とも云ふべく觀衆を沸かせた。若しかゝる只一回とも見えたるチャンスを立教得んか滿洲は全回攻勢に出乍ら得點無く終る事と成り餘りにも好運なる試合を得て勝負は全く運にあるの感を更に深くしたであらう。立大は攻擊中心たる砂田、田中兩君の缺場により、攻擊を從に守備を主に採り老巧後藤を專らバックに下げ、全員が滿洲軍殊に新京商業を以つて固めたる大西松本のフオワードと伊藤吉武のバックのフアイブメンが行ふ得意の强襲を善く防いで堂々滿洲と對抗し得たるは流石頭腦的作戰に秀でたる同チームと感心する。第二の關東州對東京は結局關東州4（0—1、2—0、2—0）1東京の成績にて明大チーム完敗を喫す。此試合に於て明大不幸にも攻擊の中心センター福元と精神的中心たる主將の草苅を共に風邪の爲メンバーより除けて關東州に對したるも之に代る新人群は技術は兎も角ビツグゲームに對する用意が不充分の爲チーム全體を不調にまかせ如何とも挽回の機會無く敗れ去つて終つた。逆に關東州は漸く調子を出してバックに好技球さばきを以て鳴る富田並びに老巧木下主將あり、フオワードの戸島はスピードとステックワークで味方をリードし、明大陣の弱點を衝き堂々快勝を博し、遠來老巧チームとして萬丈の氣を吐く。

愈々決勝戰は畏くも總裁秩父宮殿下の台臨の下に行はれ

滿洲3（0—0、1—0、2—0）0關東州にて滿洲軍は堂々の技と力を以つて榮ある優勝を獲得した。關東州も善戰よく防ぎ全回滿洲の强引なる攻擊に脅され乍らも無得點に前半を終らせたが中半、後半と流石に疲勞の色現れ、滿洲は其主力が若く元氣な商業の學生で大西、松本、申のフオワードに伊藤、吉武の攻擊デフエンスが加つて行ふ總攻擊は相手に息つく暇を與へず、執拗にバックを追ひ之をシユートする光景は物凄いものがあつた。本大會に好守並び無き關東州のキーパー小關なればこそ三點に喰ひ止め得たのである。

戰評はこの位にして本大會の教訓として銘記すべきは非常時國民體位の向上が叫ばるゝ折から寒氣に挑戰して少々の惡コンデシヨンは克服して行ふ試合訓練に具へ、練習に勵まるゝならば內地のアイスホツケーも又一段の進步發達を得らるゝ事と信ずる。

最後に降雪の際御盡し下すつた諏訪中學校生徒の除雪勤勞奉仕の涙ぐましき御助力が本大會に寄與したる貢獻に對し絕大の感謝を送る。

フイギユア競技

中澤周平

總裁宮殿下の台臨を仰ぎ奉り、多少の氷の缺陷と風にも拘らず無事斯競技を終了するを得たるは明治神宮の御前に競技を奉獻する者にとつて等しく大いなる喜びとする處であつた。競技は遠來滿洲國の田中君、原田孃、關東州の高森君、北海道の辻村君を加へ關東、關西の最高のメンバーを以て開始された。殊に興味があつたのは初出場の滿洲國と關東州であつた。昔時滿洲からはフイギユア選手は絕對に生れないと云はれて居た丈に其の出場を慶んだのは筆者のみではなからうと思ふ。スクールに於て田中君が廣野君辻村君をリードしたのはフリーに於て結局破れたとはいへ偉とするに足ると考へる。神宮競技によつて滿洲にもフイギユア競技が發達してゆくならば大きな收獲である。然しフリーについては多くを學ばねばならない、田中君も原田孃も高森君も殆んど內容を持つて居ない。よき指導者が必要である。この短い競技日程中に於て相當大量のものを吸る斯競技會に學生として有終の美をなしたのは本望であつたらう。

女子競技に於ては重量のない選手達にとつて風は全く苦手である。結果は當然の事であつたが戶外のフリーのプログラム編成は男子より女子に於て特に注意しなくてはならぬと考へる。內容の充實を重視して演出方法に缺くる所がなかつたかと思ふ。滿洲の原田孃は其點自己の持つて居る內容を程度は低いにせよ技術に相應しく生かして居た事は賞讃に値すると思つた。

他の氷上競技と異り「最高のものを」との點について競技の遂行上多少矛盾を免れぬし種々議論のある處であつたが戶外の試みとして大膽にも强行せしめた。スクールの課題については惡條件にあつて、酷にすぎるとの非難もあつた。バツクループチエンヂループの如き屋內に於ても困難な課題である。次回に於てこの點相當考慮せらる可きものと思つた。出場者のレヴエルを下げない樣にとの意圖もあつたのであるが、之は他の方法によらねばならないであらう。フリーについても戶外に於て屋內の選手權競技と同じ時間を定めた點にも無理があつたかも知れぬ。男子五分間

收してゆかねばならぬ諸君の今後の奮鬪を期待する。スクール競技は戶外に於て正しい結果は得られぬと考へられて居るが餘り豫想外の番狂せもなしにすんだ。スクールに於て氷面の手入れは非常に重要な事なのだが蓼の海の氷の管理者がフイギユア關係者でなかつた事もあり不充分であつた。最近にない試みとして止むを得なかつたのであらうが今後戶外の斯競技についてはこの點再檢討を要するものと思ふ。フリー競技に於ては競技中時々寒風に見舞はれ、充分各人の技を發揮し得たとは思はれぬが、屋內に於けるより一般にのび〳〵と寧ろ上出來であつた樣に思はれた。寒風中の競技に往年の松原湖上のインターカレツヂの競技會を想起した者は筆者のみではなかつたらう。殊に音樂や技術は變つて居るが其當時の覇權を爭つた久保、金子の兩君がこの蓼の海に同じく役員として會したのも因緣淺からず、兩君の胸中は更なりと思はれた。

芝浦で行はれた選手權競技の時よりは各人、ジヤンプは數倍勝つて居た。同じ面積でも白雪に覆はれた大自然の中に思ひきり背のびが出來たのであらう。小林君、近藤君は選手權の時より順位を進め、不振であつた有坂君も光榮あ

は四分間に女子四分間は三分間に短縮さるべきであらう。風の中にあつて選手權競技と同程度のプログラムを組んでは最後迄は力のあるスケーティングは出來ない。以上の誤算はあつたが技術的の問題はおいて各人の最善の努力により完全にこの競技が遂行された事は幸であつた。

戸外の競技に馴れるといふ事は屋内の競技を相當犠牲にせねばならぬので之を要求する事は不可能であるが、この樣な光榮ある競技會に出場するに適當なる努力は必要なりと考へる。事實戸外の競技の後屋内に歸り正常な狀態に戻すのに相當の時日を要する程ラフになるとは屢々聞く所であるにも拘らず、我々は戸外に於ける競技は斯競技が屋内に於て陷り易い自惰落さに對し何か回生劑を與へるのではないかといふ考へを否定する事が出來ない、殊に個人競技である斯競技が團體的訓練の下におかれる嚴肅な神宮競技に於て然りと考へるのである。

スピード競技

倉町太郎

二週間前に行はれた全日本選手權大會が全く個人競技を以て終始するに反して本大會は地域對抗を主眼としたる爲め競技方法にも修正を加へ神宮體育大會の主旨に合致する樣に努めた結果男子五種目、女子四種目中世界最高記錄三日本記錄並に最高記錄十三、神宮大會新記錄二十九、同對記錄一を出現した事は〝劃期的な大成功〟と聲を大にして叫びたい。

日程の都合に依り女子五千米等をプログラムより削除しなければならなかつたが、種目を增す事が許されたならばまだ〳〵多くの收獲を得る事が出來たのではなからうかと考へる。

又參加選手を地域別に見ても女子に於ては滿洲、北海道朝鮮の三地方丈である、が男子に於ては關東州を除く全地方が相當數の選手を派遣して來た事は未だ嘗て其の例を見ざる處であり、誠に欣びに耐へない、次回からは全地域が揃つて男女選手の參加を要望する次第である。

第一日（二月二日）は壯嚴なる開會式に引續いて男子五百米レースより開始された。氣溫零下三度、東南の微風を受け、此の蓼ノ海闘特の清澄さは絶好のコンディションで之以上の喜びはあるまい。

男子三千米豫選の項より天候惡化し强風に見舞はれたが一同怯む所か反つてオープンレース入選を目ざし第一組より三組に至るまで、入選者九人が揃つて大會記錄を更新した。殊に第一組の三著迄全部が日本記錄を凌ぎ、五千米豫選にも同樣神宮大會記錄六を數へ、新進、古豪鎬を削り明日の決勝の壯觀を思はせた。

第二日（二月三日）は昨日來の降雪尺餘に及んだが奉仕隊員一同の除雪作業に感謝しつゝ豫定より約一時間遲れて十一時より千五百米が開始せられ全日本で優勝した朴（滿洲）は等外に落ち南洞（東京）は最も得意とする此種目に優勝全日本選手權の雪辱をなした。南洞はスタートより非常に好調を續け三百米のラップ二九秒で滑走しラストにへばるのではないかと懸命されたが流石に老巧よくその後力をセーブして力一杯ゴールに飛込み、第四、五位の高林、山下と共に大量得點をなし東京軍の優勝を確實にした。第二位の金健會（朝鮮）も巨軀を利用し二分二八秒九の好記錄を以て朝鮮軍の爲め氣を吐いた。

女子千米は本大會には始めてであつたが六位迄の入賞者あつた。四四秒二で優勝した阿部（東京）を始め内藤（滿洲）、山下（東京）、高林（東京）は共に四四秒臺を出し何れも本年度最高記錄を出してゐる。日本記錄四三秒五及び神宮大會記錄四三秒六には及ばないが四三秒臺の記錄はそう滅多に出せるものではない。吾國に於ても國内に於て出したのは崔（元明大）一人で短距離界に不朽の名を殘し、オリンピックに初入賞をした石原（元早大）でさへ國内競技會では四四秒八を出したに過ぎない。之等を思ひ併せて考へるならば、四選手の出した四四秒臺の記錄こそ短距離日本依然强しの感を深くした。順調に本年オリンピックを迎へてゐたならば、彼等に依つて入賞確實であつたらうと思ふ。

女子五百米は繩手（滿洲）によつて五〇秒六の日本新記錄が樹立されゝば續いて坂本（北海道）は老巧江島（滿洲）と組合せ五一秒二を出し江島の持つ五一秒八を完全に破り去つて了ひ男子以上の心意氣を示してくれた事は嬉しかつた。敗れた江島と雖も神宮對記錄を出してゐる優勝した繩手は從來非常な不運に舞はれ相當な實力を持ち乍ら豫選で落ち檜舞臺に出場したのは今回が始めてゞあり本人として

全部が全日本選手權の時の優勝記錄を凌駕してゐた事は氷の狀態にも依るが各人の進歩の後が偲ばれた。男子三千米決勝は入賞者九名に依つて爭はれ、朴の周到なリードに南洞、金聖（朝鮮）張等の追擊を退け堂々優勝した。これも三着迄全部日本記錄を破つてゐる。殘念乍ら公認記錄として問題無きセパレートに依る種目は女子五百米丈で、反對に從來好記錄が出ず常に不愉快なレースと思はれてゐたオープンレースは先頭責任制を採用した爲に全レース共新記錄を生み、短距離選手の長距離進出は面白い現象で將來兩方法を比較檢討する必要に迫られた。

最終日（二月四日）は前日の白雪に化粧を凝らし秩父總裁宮殿下台覽の下に清澄の氣漲り、女子三千米には一等平井冴子（北海道）を始め大倉（滿洲）江島（滿洲）共に世界記錄を破る歴史的なレースを展開した。十三名の選手は何れも先頭責任を果す可くスタートより猛烈なスパート戰となり、前述の繩手と同樣玆數年間不運な下積選手に置かれてゐた同孃によつて把握せられた事は何よりの餞けであつた。男子五千米も三千米同樣朴（滿洲）に依つて征覇成り、完全に本年度の長距離界を獨占して了つた感がある。

第二位に這入つた中楠（東京）は三千米の失敗に凝りて上手に逃げ込み巧さを見せ、これに反し牛島（滿洲）が再び入賞出來なかつたのは氣の毒であつた。

最後を飾るリレーレース男子は東京と滿洲の大接戰となり、昨年の日滿對抗を再現した組合せで最も興味を呼び、アンカアーの內藤は山下を追つたが及ばず東京の勝つ處となり、昨冬の復仇成り東京チームには感慨無量のものがあつたらう。女子も男子同樣滿洲對北海道は昨冬日滿對抗以來の大レースとなつたが滿洲軍繩手、木村のバトンタッチ失敗に破れ再度苦杯を嘗めた。

以上を以て總得點に於て東京（男）滿洲（女子）夫々優勝したが男女共に滿洲軍の活躍は目覺しく愈々本格的な地力を發揮してスケート王國の再現を計りつゝある事は國防的見地からしても最も望ましい事である。

大日本スケート競技聯盟小史

全日本スケート界の健全なる發達と進歩と統制、更にスケーヽを通じての日本精神の顯揚を目的として組織された大日本スケート競技聯盟も、成立後早くも十二年を經過した。

その間、生みの惱み成長の惱みと云つたやうな、種々の苦難はあつたが、兎に角その苦難を切り拔け切り拔けしながら、代表選手を二度に亘つてオリムピツク大會に派遣し、カナダからアイス・ホツケー・チームを招聘するなどして、技を錬り經驗を重ねつゝ、我がスケート界の水準を世界的レベルに引き上げることの出來たのは、スケートを愛好する人々のお互ひに喜ぶべきことであると云ひたい。

外國から選手を招いたり、外國に選手を派遣したりすることを以つて、直ちに日本スケート界躍進の姿の總べてと判斷するのは早計かも知れないが、全日本のスケート界が完全に統制されて一丸となり、その發展し躍進して行く進路が、完全なる組織體といふ軌道にあつて、然る後外國から一流選手を招き、オリムピツク大會に選手を派遣するのは、總べての原則に適合すべき態形を整へてからのことであるだけに、實力は强化され、日本スケート界の將來に對しては一段と期待がかけられるのである。と同時に日本のスケート界は、漸く外國依存の時代を過ぎて、大日本スケート競技聯盟といふ全國的統制機關のもとに、技を錬り精神を鍛へ、經驗を重ねての研究的、創造的進化の時代に入つたのである。

大日本スケート競技聯盟は、日本のスケート界を統制し、スケート界の發達と心身の鍛錬技術の向上を期する重大な使命のもとに組織されたのであるが、成立後僅かに十二年、幸ひ今日の隆盛を見つゝあるのは、我國スケート界の異常なる

躍進と見ることが出來、同時に世界の水準突破もさう遠くはないぞと期待させるものがある。

その躍進の大日本スケート競技聯盟が、重大なる使命と全日本スケート界の全幅の期待を背負つて生れたのは、昭和四年の暮のことであつた。そして昭和七年には我スケート界最初のオリムピック大會出場として、遠く米國レークプラシッドの第三回冬季オリムピック大會に代表選手を派遣して居る。更に昭和十年三月には、カナダから世界最強を誇るアイスホッケー・チームを招聘して一戰を交へ、次いで同年の十二月には、獨逸のガルミッシュ・パルテンキルヘンの第四回冬季オリムピック大會にホッケー、スピード、フイギュア三部門三十五名の代表を送り、尙ほこの間、昭和五年には滿洲醫大のアイスホッケー・チームが歐洲各地に、昭和六年には、スピード選手が北歐に轉戰する等目覺しい國際的進出を爲して居るが、これが創立後僅かに十二年間の大日本スケート競技聯盟の國際的進出であることを思へば、競技成績は兎も角として、その急速なる國際飛躍には誇り得るものがあると云へる。殊に大日本スケート競技聯盟創立の經緯が、他の運動競技團體では、かつて經驗しなかつたやうな、多岐多難のものであつたゞけに、今日の隆盛は、創立關係者の苦心に對し、深甚の敬意を表すると共に、感慨深いものが多分にある。

大日本スケート競技聯盟は、創立の翌年、即ち昭和五年大日本體育協會に加盟したが、初代の會長子爵交野政邁氏以下聯盟役員は、我國に於ける運動競技團體の最高統制機關である大日本體育協會を援護すると共にスケート界の一層堅實なる發展に努力した。

交野會長は昭和九年會長を辭任し、その後任會長として就任されたのは前鐵道次官久保田敬一氏であつて、副會長には前滿洲醫科大學學長久保田晴光氏が就任され、この正副會長のもとに、第四回冬季オリムピック代表三十五名は派遣されたのである。

會長はその後久保田敬一男の辭任、久保田晴光博士の就任となり、次いで久保田博士の病氣歸國後昭和十三年四月理事會

長喜多壯一郎氏の第四代の會長就任を見た。同時に副會長には北大教授田所哲太郎博士が就任された。

大日本スケート競技聯盟は、昭和四年の暮成立されると共に昭和五年一月直ちに第一回全日本スケート競技選手權大會をスピード、アイス・ホッケー、フイギュアの三部門に亘つて擧行した。この選手權大會は、その後毎年開催され、大日本スケート競技聯盟の重要なる事業の一つとして、大いなる好成績を示して居る。

かくて我が大日本スケート競技聯盟は、國內的には選手權大會を擧行し、國際的には冬季オリムピック大會に代表選手を派遣する一方、機會ある毎に海外から一流選手、一流チームを招いて技術的方面に一段の研究を續ける方針ではあるが、氷上王國を誇る滿洲國とは一層緊密なる連絡と步調を合せて冬季競技の向上を計り、國內的には全日本のスケート地を總動員してスケートを生活力充當の必須項目たらしめるやう努力を拂つて居る。

日本スケート界の國際關係は、大正年間よりドイツ、ガルミッシュ・パルテンキルヘンのオリムピック大會迄、日本スケート會に於て日本の代表權を保つて居たが、昭和十二年十二月に至り、日本スケート會々長本聯盟顧問河久保子朗氏より、正式その國際代表權が大日本スケート競技聯盟に移讓されるに至つた。

大日本スケート競技聯盟は、日支事變以來專ら國內力の充實に意を注いで居り、歐洲第二次大戰勃發以後は、喜多會長を中心に、聯盟本部各地方聯盟共に新時代認識の下にスケートの國家的寄與に努力を重ねて居る。

我國スケート界の歴史的展望

我國で氷滑りが、スケーチングの形式をとつて行はれるやうになつたのは、外國から用具としてのスケートが移入されてからのことである。

それ迄にも寒い地方では踏みつけられた雪の道を、下駄の下に竹を打ちつけた竹下駄と云はれるもので、滑つて居たといふ記錄もあるが、これはスケートに依るスケーチングに比べたら全く原始的のもので、スケーチングの部類には恐らく入らないものであらう。

信州諏訪地方では、今でも下駄スケートと稱して、下駄の裏にスケートを取りつけたものを穿いて滑つて居るが、これは日本のスケートの起源とは何等關係あるものでなく、明治三十六七年頃から、ぼつ〳〵と、この地方に移入された靴スケートに模して作られたものであらう。

では本格的なスケート器具が、またスケート術が、この極東の一島國へ、はる〳〵とやつて來たのは何時頃のことであらうか、然るに遺憾のことに、高田の金谷山が日本に於けるスキーの發祥地であり、テオドル・フオン・レルヒ氏がその恩人である、かの如き正確さを有つて居ない。只北海道に明治十年米人ブルツクス氏が北大の前身札幌農學校の教師として雇はれた時、米國からスケートを携へて來たといふ記錄があるが、この北海道移入が恐らく我國最初のスケート渡來ではあるまいかとされて居る。

その後明治二十四年三月彼の新渡戸稲造博士が、米國から三足のスケートを持つて札幌に來られたといふが、新渡戸博士がスケートを移入したと同時にスケーチングをやつて見せたかどうかは判然して居ない。或は新渡戸博士以前に既に神戸や仙臺と云つたスケート地附近に居住して居た外國人に依つて、スケートとスケート術が同時に移入されて居たかも知れない。

何れにしても、スケートの渡來は明治初年のことで、その發祥の地は確然とはして居ない迄も、北海道とか仙臺とかの寒い地方であることは、自ら知ることが出來やう。然し寒い國とし、またスケート地として代表的の諏訪湖地方は交通の關係から、ずつとおくれて、中央線が開通した明治三十七八年頃から漸く盛んになつた。

我國のスケート界は、中央線が開通して諏訪湖への交通が整備すると共に急激な程目覺ましい進歩を示した。明治四十年頃にはもう冬季の休暇を利用して、京濱地方や關西方面からも續々とスケーターがつめかけるやうになつた。

中には觀光團體迄募集して、近代的スポーツの名所諏訪湖へ、大量で出かける趣向迄考へられて、スケートは一時に急速なスピードを以つて全國に傳播し、スポーツ界の寵兒となつた。

スケーターの數は、諏訪湖への交通が便になり、スケーチングの快味が、喧傳されると共に愈々增加する一方であつたが、同時にスケーチングの技術も、追々と上達して、スピードの他にフイギユア・スケーチングを研究する人達も現はれて來た。

その頃のスケートと云へば、今のやうに大都市に人工の特設室内リンクがある譯ではないから、どうしても諏訪湖等の天然スケート場を利用しなければならず、またその頃の諏訪湖といふのが、近頃のやうに正月十日前後でないと結氷しないなど〳〵いふことがなく、必ず十二月二十日と云へば全面結氷し暮から正月にかけてがまた絶好のスケート・シーズンを爲して居たのだから、學生には、またとない心身の鍛練所として歡迎され、フイギユア・スケーチングは先づこれ等の學生に依つて研究が進められたのである。

暮から正月にかけての、最も理想的の諏訪湖のコンデイション、つまり雪のまじつて居ない青氷、諏訪湖地方で云ふ油氷、濃藍色をした玻璃盤を敷きつめたかのやうな氷の上では、一本の長いトレースを殘すスピード・スケーチングも決して惡くはないのだが、これが若し圓形に蔓形に、かはつたトレースを刻み殘すことが出來たなら、一本の長い線のみにとゞまるスピード・スケートとは、またかはつたスケーチングを味はひ得るのではあるまいか、これは必ずしも學生諸君が發見したのではないが、スケート技術の當然の歸結としてフイギュアの技術が研究されることになつたのである。

明治の末期から大正の初期、つまり我國スケート界の搖藍時代に於て早くもスケーチングを試み、スケート界の先達の位置にあつた人達は、帝大、學習院、二高、早大、慶大などの先輩達であつて、これ等の人達は、十二月の聲をきゝ、諏訪湖結氷の快報を得ると共に何物を置いても諏訪湖へと馳せ參じたのであつた。赤門前の美滿津運動具店の店頭に大きく立看板に「諏訪湖結氷す、氷厚五寸！」などゝいふ電文そのまゝの文句が書き出されてあつたのも確かにその頃のことであつた。

そのスケート界の先達といふのは、學習院時代の二荒芳德伯、交野政邁子、三島彌彥氏、仙臺二高の田代三郎氏、河久保子朗氏、佐藤幸三氏、慶大の平沼亮三氏、早大の松宮三郎氏と云つたところで、これ等の人達は、何れも冬來りなば、諏訪湖への大旆を押し立てゝ諏訪湖のスケートを滿喫したのである。

中でも交野、河久保、田代、佐藤氏等のスケートに對する關心は特別のもので、殊に漸く興味を感じて來たフイギュア・スケーチング研究のためには直接外國から專門の書物を取り寄せて、理論と實際とに就いて大いに研究を重ねるといふ熱心さであつた。

その熱心さに加へて幸ひをしたのは、大正十二年の冬、歐洲遊學中獨逸で專門の師について親しく研究を遂げた佐久間

のが最初のことであり、各研究家の熱心さと共に、日本のフイギュア技術は劃期的飛躍を示し、續いて大正十四年歐米視察の途次スケートを研究された日本スケート會會長（後本聯盟初代會長）交野政邁氏の歸朝は、フイギュア技術を一段と躍進せしめた。

交通が發達し諏訪湖との往復が簡便になると共に、スケート愛好家の諏訪湖訪問は一層激しくなり、人數も鼠算的に增大した。もう學生ばかりではなく、會社員も銀行員も、官吏もあらゆる階級、職業の人達が玻璃盤の油氷にトレースを描いて居た。そこでこれ等のスケートを愛する同好の人々が、何か吾々スケートを愛好するものだけの友交機關を設けやうではないかと、中での世話好きが音頭を取つて出來上つたのが日本スケート會であつた。大正九年一月我が國最初のスケート團體として產聲を擧げたのである。

日本スケート會の誕生に參加した人々は、交野、河久保、田代、佐藤氏等を中心に東京、仙臺、關西、地元の諏訪の有志であつて、その翌年には會員約百名となつて、頗る優秀なる成績を示して來た。

日本スケート會の創立趣旨は、スケートの愛好者を以つて組織し、フイギュア・スケーチングの研究並に普及を計るを以つて目的となし、これが爲には、徒に會員の多數を欲せず、堅實で力强いスケートの親睦機關でありたいといふにあつた。從つて以後毎年のやうに行はれた競技會は、事實上會員相互の親睦競技會であり、それも殆んどがフイギュア競技のみであつたのは止むを得ないものであつた。

大正十年頃から昭和初頭にかけての時期は、云はゞスケート界としては、勃興の時代であつて、諏訪湖を中心に、北海道、東北、關西、朝鮮、滿洲の各地などでも、それ〴〵競技會が催うされて、將來の飛躍が準備されたのではあつたが、その頃は未だフイギュア・スケーチングが普及されて居ない頃のことであり、競技會と云へば徹頭徹尾スピード・レースであつた。つまり日本スケート會の競技會が、フイギュア一點張りなるに對し、興味ある對象をなして居たのである。

だが、これは單に興味ある對象であるといふに過ぎなく、競技が一方にのみ片寄ることは、スケート界の將來といふことや技術の發達を考慮した場合、スケート競技界の全體的躍進は望まれないことである。

果してこれは、日本スケート會内部に於ても問題となり、その結果漸く、スピードの種目も競技會に加へることになつた。即ちフイギュア及びスピード競技の並行的發達を期する目的を以つて、日本スケート會の競技會にもスピードの種目が加へられることになつたのである。

日本スケート會は、その後北海道、仙臺、諏訪、松本、阪神と、各地のスケート愛好家を會員に加へて全國的統制を企てたのではあつたが、封建的な内部組織は、依然として排他的であり、個人主義的であるとの世評を蒙つて、一般とは意見の合致を見ず、從つて日本スケート會の存在は、單に一部スケート愛好者の親睦機關としてのみ、認められるにすぎなくなつた。

日本スケート會が、封建的な自己陶醉に陷つて居る間に、日本のスケート界は漸次起ち上つて來た。その第一着手として大正十三年、早大、慶大、明大、東京帝大、松高、二高、日齒七校に依つて、全國學生氷上競技聯盟が組織され、その翌年の一月第一回選手權大會を、信州松本市外六助池リンクで擧行した。全國學生氷上競技聯盟の結成は、獨立獨歩完全に學生自身の手に依つて結成され、その統制ある組織内容と、力强い自治力とは聊かの微動もなく今日の隆盛を見るに至つたのである。

信州淺間で第一回大會を開いて以後、全國學生氷上競技聯盟は、連年この學生選手權大會を開催して、我國スケート界の發達を促進せしめ、更に大日本スケート競技聯盟の統制下にあつて、全國各地のスケート團體と共に、全日本スケート界の發達に努力を續けて居る。

全國學生氷上競技聯盟が堅實なる基礎のもとに、目覺ましい活躍を開始した頃、日本スケート會では、會員達が歐米に視察をなし、大正十五年の春國際スケート聯盟（I・S・U、International Skating Union）に加盟して我國に於ける國際代表權を握つた。

その後日本スケート會は、スケート界の全國的統制に乘り出すことしば〳〵ではあつたが、國際スケート聯盟に加盟して日本に於ける代表權を得たといふことだけで、肝心な内部組織には聊かの進歩も示されないので、この頃漸く自然結成をして來た各地方の團體や全國學生氷上競技聯盟とは、容易に意見の一致を見ず、從つて全國的結合は困難を極め、昭和二年かへつて學生聯盟の先輩團に依つて大日本氷上競技聯盟の組織を見るに至つた。即ち學聯先輩團の意圖が實現したとも云へるもので、會長にはスポーツ界の大先輩齋藤力氏が就任した。

この大日本氷上競技聯盟は、萬端の準備を整へて、翌年の昭和三年一月第一回の全日本氷上競技選手權大會を信州諏訪湖高濱灣に開催した。かうして氷聯主催の下に全國的大會は行はれたのであるが、考へて見ると、何んと云つてもスケート界に於ける大先輩は日本スケート會であるから、若しこれが大日本氷上競技聯盟と合體して完全なる全國的統制が成し遂げられたとしたなら、我國スケート界の躍進にどんなにか稗益するところが多からうと、氷聯内部の意見が一致を見たので、直ちに日本スケート會に對し、私的感情を除いて、眞實に日本スケート界の進歩發展を期する意味に於て、氷聯と日本スケート會との合流を希望したのだが、遂に氷聯の期待して居た日本スケート會との合體は見られなかつたのである。そして日本スケート會は、大日本氷上競技聯盟が諏訪湖に於て第一回全國大會を開いたその年の暮、自ら大日本スケート聯盟を組織した。

日本に二つの全國を統制しやうとする團體が出來た。一つは大日本氷上競技聯盟、も一つは大日本スケート聯盟。これが昭和四年一月ほゞ日を同じうして大日本氷聯は第二回大會を鴨綠江安東で、スケート聯盟は第一回大會を諏訪湖で擧行した。

大日本氷上競技聯盟と云ひ、大日本スケート聯盟と云ひ、共に全國的統制をなし、全日本スケート界の健全なる發達、躍進を期する信念には、聊かの差違はないものと思ふのではあるが、スケート界の進出發達に重大なる任務と責任を有すべき統制機關が一時に二つも出來上ることは、どう考へても發達の任務、責任を果し了せるものでなく、むしろこれはスケート界を混亂に陷れ、折角の發展をも阻止するものである。そこで、昭和四年、大日本氷上競技聯盟の鴨綠江に於ける第二回大會、大日本スケート聯盟主催の第一回大會が諏訪湖に行はれた年、漸くこの常識的な意義が發見され、その年の暮兩聯盟の合體が實現してこゝに名實共に備つた全國的統制團體たる大日本スケート競技聯盟が組織され、同時に前二聯盟は解消するに至つた。

かくて大日本スケート競技聯盟は昭和五年大日本體育協會に加盟して、全日本スケート界の全面的飛躍を約束し、また飛躍躍進に全幅の努力を傾注することになつた。

この頃既にスピード及びフイギュア競技と共にアイス・ホツケーの技術も漸次進歩を示して來たが、當時アイス・ホツケー界に最强を誇つた滿洲醫大アイス・ホツケー・チームは昭和五年我國スケート界の歷史的な壯擧として歐洲に遠征を試み、またその翌年には、スピード王國滿洲から木谷、石原、河村の三選手が北歐に派遣される等、ぼつ〳〵と國際的進出が開始され、昭和七年大日本スケート競技聯盟は、第十回國際オリムピツク大會第三回冬季競技大會に、スピード、フイギュアの代表選手を遠く米國レーク・プラシツドに派遣して、大日本スケート競技聯盟として最初の海外遠征を決行した。

この時の成績は決して良好のものではなかつたが、これに依つて與へられた我がスケート界への刺戟は多大のもので、技術的にも急激な進歩を促かすものとなつた。同時に東京に於ける屋内スケート・リンクの出現は、この進歩に一段の拍車をかけるものとなつたが、中でもアイス・ホツケー、フイギュア・スケーチングの技術の上に與へた影響は素晴しく同

時にスケートは完全に大衆化されるに至つた。

この機運に乘じて來朝したのが、第三回冬季オリムピツク大會の女子フイギュア競技で第二位を得た世界的女子フイギュアの名手フイリツツ・ブルガー孃と世界一と評判のカナダ・アイスホツケー・チームであつた。この二つ何れも時季を同じうして、昭和十年、ブルガー孃は二月、カナダ軍は三月來朝した。

ブルガー孃は朝日新聞の招聘、カナダは、大日本スケート競技聯盟の招きに應じて來朝したもので、オリムピツク大會を翌年に控へてこの來朝は、我がスケート界に大きな刺戟と技術的進歩を與へた。

昭和十年は、これ等海外本場からの優秀選手、チームの來朝があつて、國際的色彩はスケート界はじまつて以來の濃厚ぶりを示したが、それよりも、その暮に、ドイツ、ガルミツシユ・パルテンキルヘンの第四回冬季オリムピツク大會に向け、總員三十五名といふ大部隊を我がスケート代表として派遣したことは、單なる國際的色彩を蹴とばして、國際戰線への超飛躍的進出であつた。

第十二回オリムピツク大會が、東京と決定したのは、第十一回ベルリン大會の國際オリムピツク委員會總會であつた。夏のこの大會が東京で行はれる、つまり日本で開催することになつたので、冬季大會も當然日本で行ふことになり、有力候補地として日光、札幌があげられた結果、冬季競技に最も經驗のある札幌が第五回冬季オリムピツク大會の會場になつた。勿論この札幌開催が決定する迄には、國際オリムピツク委員會は數回に亙つて開かれたのであるが、何れにしても日本でオリムピツク大會をやらうなどゝいふことは夢想だにしなかつたのだから、東京、札幌共に、大いに緊張をし、札幌大會のスケート競技運行に關し直接その衝に當る大日本スケート競技聯盟はこゝに大動員計畫を立て準備を開始したのであつた。一方スケート競技會の經驗の乏しい札幌の爲めに、昭和十三年一月同年度のスピード、アイス・ホツケー選手權大會を開いて、競技會の訓練を重ねると共に、新設スケート場の凍結狀態を研究するなど、聯盟は札幌大會の成功に對

し献身的であつた。

然るに今次の日支事變は、東京、札幌兩大會の開催を返上することになり、昭和十三年七月十四日遂に返上、これにかはるべき會場として第十二回大會は、フインランドのヘルシンキに、第五回冬季大會はサンモリツツとなつた。尤も第五回冬季大會々場は、一九三九年度國際オリムピツク・ロンドン總會の結果ドイツのガルミツシュ・パルテンキルヘンが再び開催を委任された。

日本のスケート界は、札幌オリムピツクで大いに張り切つたのだが、これが返上となつた爲め、力のやり場に苦しんだ幸ひ昭和十四年一月滿鐵の招聘があり、スピード、アイス・ホツケー、フイギュア三部門役員選手三十五名が大日本スケート競技聯盟として最初の滿洲遠征を試み、技を練ると共に日滿スケートの連絡と交友に盡すものが大いにあつた。

札幌大會にかはつた第五回冬季ガルミツシュ大會にスケート選手を派遣するかどうかは、時局柄愼重を期したが、それより先昭和十四年九月第二次歐洲戰爭が勃發してヘルシンキ、ガルミツシュ兩大會共自然消滅となり、結局第十二回及び第五回大會はお流れになつたのは、惜しくはあつたが、また一面には外來スポーツの日本化、國內力の充塡など、またとない機會で、スケート界もこの好機を逃さず、十二分に力を蓄へやうと目下それのみに意を注いで居る。

明治二十四年新渡戸稻造博士に依つて、スケートが移入されてから五十年。日本のスケート界が、大日本スケート競技聯盟といふ躍進の軌道に乘つてから十二年。我がスケート界は、今や勇ましき進軍を續けつゝある譯である。

スケート競技發達史

スケーチングが、競技となつて世に現はれたのは、明治四十年以降のことである。北海道では明治二十四年新渡戸稻造博士が、スケートを移入した翌年の二十五年には北大の前身札幌農學校と札幌一中の前身北鳴學校とが競技會を行つたといふが、これは恐らく陸上運動會式のものであつて、近代的形式をとつたのは矢張り明治四十年以降であらう。明治四十年と云へば、スケーチングの技術が渡來してから既に二十年を經過した後のことである。

この二十年もの長い間、スケートの世界はどんな動きを見せて居たであらうか、スケートは時季が冬季に限られて居ることや、滑るスケートといふ器具が簡單に手に入らず、手に入つたとしても、その上達迄には相當の期間を必要とし、それに第一スケート場と云へば今の芝浦や山王のやうな人工的な屋內スケート場がある譯でないから、どうしても都會地を離れた交通不便の山間の僻地に出かけないと滑ることが出來ない。こんな情況のもとにあつたのだから、スケーチングをやる人と云へば、極く一部の人達だけで、まして競技などゝいふ觀念は聊かもなかつたのである。この停滯に近いスケート界の動きは、交通が發達し各方面との連絡が容易にとり得られるやうになつた明治三十八九年頃迄變化を見せなかつたのである。

つまり交通が便になる迄の二十年間スケート界は世間一般から少しの關心も持たれず、進步もなく過して來たのであつた。ところが諏訪湖がスケートのセンターを成すに及んで面目一新、急激な隆盛を見、こゝにスケート界最初の競技會が開かれるに至つた譯である。

我が國で最初に行はれたスケート競技會は、スケート地に於ける小學校の氷上運動會類似のものは別として、明治四十一年二月十一日長野縣上諏訪町南信日日新聞社主催のもとに開催された諏訪湖一週スケート大會が正式競技會のトップを切るものであつた。即ち二十年の沈默はこの「諏訪湖一週」に依つて打ち破られたのである。

當時のスケート界は、歴史は二十年の過去を有つて居たにせよ尙黎明期にあつたのだから、全國を統制する機關などなく、まして競技會をやらうなどの考へを起すのは新聞社でゞもなければ他にはなかつたのである。

これはスケートばかりでなく、他の殆んど總べてと云はれる程多數の競技が、黎明期乃至は勃興期に於ては、新聞社の手をわづらはして居つたもので、これを回顧すると、我國運動競技發達史上新聞社の運動界に遺した功績は偉大なものであり、同時に新聞社の存在は忘れ難いものである。

スケートに於ては、この技術が地方的に發達した關係上、地方新聞である南信日日新聞社が、目新しい企畫事業として諏訪湖一週スケート大會を思ひついたのであつた。

この「諏訪湖一週」大會は、競技方法から云へば洵に幼稚なもので、マラソン競走と大した變りなく、只スケートを穿いて居るところに新味があつたゞけであつたが、このスケートを穿いたところに大會としての重點があつたのだから、見物人は各方面から山の如く集つて素晴しい成功を收めた。

我が國最初のスケート競技會は、南信日日新聞社の手に依つて豫想外の大成功を收めることが出來たが、この成功を祝すと同時に、スケート界自身は各方面にスケートに對する認識を與へたことが更に大きな收穫であつたと云へる。從つて結果から見て、當時南信日日新聞の「諏訪湖一週」大會の意圖が單に新聞社の宣傳にすぎないものではあつたにせよ、我國スケート競技の口火を切つたその功績に對しては、深甚の敬意を表してもよろしいと思ふ。

それが翌年の二月末日迄續いたのであるから、諏訪湖の氷面に一週コースをとつて競技會を開くなどは實に容易のことであつた。それにまた諏訪湖それ自身も、既に日本一のスケート場として喧傳されて居り、諏訪湖一週スケート大會の名は關東、關西、殆んど全國的に知れ渡つた。

この頃競走に使用したスケートといふのは、何れもこの地方特有の下駄スケートで、現在スピード選手が使用して居るやうな輕いチュウブラーのスケートなど持つて居るものは一人もなかつた。

然し、この諏訪湖一週大會が成功を收め毎年行はれるやうになつてから三年目に、西本願寺の大谷光明師が、一冬諏訪湖を訪れたことがあつたが、その時、この頃としては全く思ひもよらないチュウブラーのスピード・スケートを持つて來られたことがあつた。このチュウブラー・スケートを、諏訪湖一週大會の覇者下諏訪町の小口卓襄氏が借りて早速その年の諏訪湖一週大會に出場したのだが、斷然好調を示してその年もまた優勝の榮冠は小口卓襄氏の獲得するところとなつた。

技量はあり、スケートはよし、優勝したのは洵に當然のことではあつたが、チュウブラー・スケートをレースに使用したのが、我が國でこの小口氏が最初の人であつたことを思ふと實に感慨深いものがあるのである。

明治四十三年に小口卓襄氏がチュウブラーのスケートを穿いて以來諏訪地方のスピード用スケートは、從來のフイギュア型下駄スケートから一變して、同じ下駄スケートではあるが、チュウブラー・スケートと同型の前後へ長く出たスピード用スケートが出現して諏訪湖の油氷に長い長いトレースを描くやうになつた。

スケートが原則的に下駄スケートであつたと同じやうに、服裝も當時は今から見ると實に古風のなつかしみのあるものであつた。今全盛を極め輕快味を現はして居るセーターにタイツなど思ひもよらず、上も白、下も白、これが葛木の布地で出來て居り、半ズボンの下には野球用のストッキングをはき、中には脚半なんぞといふ勇ましいのもあり、それが下駄のスケートをしつかりと足にゆはへて競走に出場したのである。つまり陸上運動會の格好をそのまゝ氷の上に持つて行つ

たのであつて、今から思ふとおよそ奇異の姿に感じられるのだが、これが當時はなか〳〵スマートな競走用の姿であつた。

諏訪湖一週スケート大會は、その後も引き續いて行はれたが、折からフイギュア・スケーチングが隆盛を來すと共に將來に多大の期待を持たれたこの諏訪一週スケート大會は、大正五年を最後として惜しくも中止の止むなきに至つた。

諏訪湖一週スケート大會は、今から見れば實に幼稚極まるお祭り的競技會ではあつたが、これに出場する選手の意氣込みとレース前の訓練とは今の選手に比し聊かの見劣りもなく、これが若し大正十三、四年頃迄引き續いて居つたならば、スピード界は一層活氣を呈し、優秀な選手も養成されたであらうにと殘念に思ふものが多大である。

このフイギュア偏重は、練習期間を多く持たない都會の人達に多く、漸次諏訪地方に浸潤し、遂に一種の流行と化して、將來スケート界の中心を握るべき學生間に迄傳播してしまつたので、漸く隆盛の波にのつたスピード競技は、一頓挫を來し、その後全く衰退を呈する狀態に陷つてしまつた。

諏訪湖のスピード競技が凋落に頻した時、一方滿洲に於けるスピード競技界は、俄然活況を呈して來た。滿洲にスケートが渡來したのは內地より遙かにおくれた明治三十七年十二月で、浦鹽に居たスケート界の先輩石川用之助氏が鴨綠江安東で滑つたのにはじまる。

これ迄冬の滿洲と云へば、戸外運動としては何ものもなく、徒らに屋內の暖房で時を費やし頗る不健康的生活を送つて居たのであつたが、一度スケーチングの快味を知るや、その普及は驚くばかりで、從つて技術方面にも急激な進歩を見せた。この技術の進歩は、同時に競技會の開催ともなり、大正四年二月十一日奉天滿鐵氷滑部主催のもとに第一回滿洲氷上運動會が奉天に於て開かれ、それ以來每年撫順、或は安東で行はれたが、大正十年には規模を擴大し全滿スケート大會を奉天に於て擧行し、今尙引き續いて行はれて居る。

發達せしめる上に大きな支障を來して居たが、眞摯なスピード・スケーターは、競技會はなくもスピードのみが有する獨自の世界を愛撫しつゝ練習を續け、時に開かれる村內の大會、村と村との對抗競技等極く地方的な小さな競技會に出場して自分の力を試し、技を練ると共に鬱憤を晴して居た。

都會人や學生の間にスケーターが增加するや、これ等の人達を中心として大正九年の一月日本スケート會が創立されたがこれはフイギュア・スケーチングのみを愛好する人達だけの集りと稱してもよい程のものだけに、スピード畑の人達とは餘り密接の關係を結ぶことは出來なかつた。然し何んと云つても日本のスケート界に團體として生れた最初のものであつたし、それに會員の顏ぶれを見ても何れも知識階級の人達ばかりであつたから、我國スケート界の將來に多大の期待を持たれた。

日本スケート會は、その最初の競技會を大正十年二月十一日萬朝報後援のもとに諏訪湖に開いた。然し殘念なことにはフイギュアの競技規定が確然として居なかつた爲めにフイギュア競技は行はれず、スピード競技のみが擧行された。競技は大學、中學、小學靑年組に分けて、これを招待競技として行つたが、內容は現在行はれて居るやうな記錄本意のものではなく、むしろ陸上運動會式の五周レース、十周レースと云つたものであつた。然し只一つ會員のみに依つてスピード選手權競技と云ふのが行はれた。これは距離もはつきりと決つて居り、これが大會隨一の呼物といふので優勝者にはチヤレンヂ・カツプがかけられてあつた。優勝者は松本高校の吉川淸一君で、日本スケート會の第一回大會を大いに飾つた譯である。この日北海道札幌中島公園リンクでも第一回競技會が開かれ、また關西を中心とした六甲には、大每後援のもとに六甲大會が行はれた。但しこの大每大會は次年度から無期延期となつて中止された。

日本スケート會主催の第二回大會は大正十一年一月信州下諏訪リンクで開かれた。この年は競技規定、競技方法共によく研究されたので華々しくフイギュア・コンテストが開かれた。出場資格者は會員のみであつて、基本圖型の課題は、圓

型S字型（No. 1）S字型（No. 15）3字型（No. 7）の三つと自由圖型であり、フリー・スケーチングは採點されなかつた。この時の入賞者は一等五代正友（帝大）、二等平川一郎（松高）、三等小澤重武（諏訪）の各氏であつた。

その翌年の第三回大會は諏訪湖で行はれ、フイギュアでは五代（帝大）、スピードのリレーでは日齒と諏訪中學がそれぞれ優勝した。この年はじめて現在使用して居るセーター・タイツの服裝を早大が用ひて大いにスマートのところを見せたが、肝心のスケートは未だチユウブラー・スケート等穿くものがなく、フイギュア隆興の波は、スピード・レースに迄フイギュア・スケートを使用させて居た。

この大正十二年といふ年は過去のスケート界にかつて見ないやうな華かな年であつた。日本スケート會主催の大會にはオープン・レースではあるにせよ各大學に依つてリレー・レースが行はれて競技會を景氣づけ、北海道の競技會では北大の本科と豫科とが我國最初のアイス・ホツケー試合をなし、歐洲からは佐久間信氏が最新スケート術を輸入してスケート界の隆盛と發展を約束づける等、我國のスケートは俄然活氣づいて來た。札幌で我國最初のアイス・ホツケー試合が行はれた翌年即ち大正十三年一月長野縣下諏訪町諏訪神社秋宮脇の特設リンクで早大對松高、慶大對帝大に依つて內地としてははじめてのアイス・ホツケー試合が行はれた。これは正に對抗試合の形式で行はれた我國最初のものであつた。

この頃から日本のスケート界には、漸く全國的統制の機運が醸成されたのではあつたが、日本のスケート界に一種の先鞭をつけて組織された日本スケート會の內部組織が依然として社交的倶樂部組織の範圍を脫せず、云はゞフイギュアを樂しむ會であつたが爲に、進步的意識を持つて居るスケーターとの折り合ひがつかず、從つて兩者の間には絕へず對立的空氣が漲る有樣であつた。この混亂の狀態中にもかゝはらず　秩父宮殿下が信州諏訪郡川岸村のリンクに台臨あらせられて親しく、新興スポーツとしてのスケート競技を台覽遊ばされたことは洵に畏き極みであつた。

の第一回全日本學生氷上競技選手權大會が、信州松本市外六助池リンクに於て擧行された。この時の競技種目は、スピード、アイス・ホツケー、フイギュアの三種目であつたが、この年は各地共暖氣で、この六助池も完全な結氷を見なかつたので、アイス・ホツケーとフイギュアの選手權競技を行つたのみでスピード競技は遂に中止した。

全國學生氷上競技聯盟主催にかゝる全日本學生氷上競技選手權大會はその後每年行はれ現在に及んで居るが、この間第二回大會より昭和五年の第六回大會迄は信州松原湖に於て、七、八、九回は岩手縣盛岡市外の高松池にて、それ以降は日光細尾リンク、蓼の海、八戸、更に芝浦、山王の屋內リンクが利用されて居る。

かくの如き我國のスケート界は、その主流を學生聯盟が掌握することになり、その活躍は各方面に注目され期待されたが、果してその先輩團は昭和二年大日本氷上競技聯盟を組織し、第一回大會を翌昭和三年一月十四、五の兩日信州諏訪湖高濱灣頭に開催した。

この大會が開かれる迄の四五年間、我が國のスケート競技界は、或種の混亂的時代を現出して、眞摯な選手諸君に對して技を磨く聊かの機會をも與へることが出來なかつたのであるが、大日本氷上競技聯盟の成立は、スケート競技界に飛躍的絕好のチャンスを與へるものとなり、遠く滿洲體育協會では佐川、木谷、大澤、多田選手等當代一流のスピード選手を派遣したので、內地の一流潤間兄弟、金子選手等は思ふ存分爭覇レースを行ふことが出來た。

一周五百米のダブル・トラツクを使用してのスピード・レースは、學生選手權大會を遙かに凌ぐ好成績を擧げ、五百米千五百米、五千米、一萬米、二千米リレーの各種目に學生記錄を一蹴した好記錄を樹立した。その記錄は、

五　百　米

1、佐川（滿洲）五〇秒一　2、木谷（滿洲）五〇秒八　3、大澤（滿洲）五一秒五　4、多田（滿洲）五一秒八（以上日本新記錄）

千五百米

1、木谷(滿洲)二分四四秒四　2、大澤(滿洲)二分四五秒六　3、金子(明大)二分四九秒六　潤間留十(諏訪)二分五二秒四（以上日本新記錄）

五千米

1、木谷(滿洲)九分五二秒四　2、金子(明大)　3、潤間留十(諏訪)

一萬米

1、木谷(滿洲)二〇分九秒四　2、潤間留十(諏訪)二〇分九秒八　3、大澤(滿洲)二〇分一七秒　4、金子(明大)二〇分二三秒（以上日本新記錄）

更にフイギュア競技に於ては、學生界の新人大宮正彦（法政）君が、當時一流を誇つた諏訪の老巧小澤重武君を破り、アイス・ホツケーでは早大チームが覇を稱へた。

昭和三年度のスケート競技界は、滿洲體育協會のスピード選手內地派遣に依つて非常に刺戟されるところとなつたが、これと同時にアイス・ホツケーの世界も滿洲醫大チームの學生選手權大會參加に依つて劃期的な進展をなすことになつた。

これ迄行はれて居た內地各大學アイス・ホツケー・チームの技術といふのは、その殆んど總べてが、陸上ホツケーの流れを汲むものであつて、スケートを利用しての巧みなるテクニツクは全く見られなかつたのであつたが、滿洲醫大チームの內地遠征は、技術的に一生面を展くことになり、スピードと共に一段の躍進が約束されたかに感ぜられた。

大日本氷上競技聯盟主催の第二回大會は翌昭和四年一月遠く鴨綠江安東に於て開催され、內地よりは潤間兄弟、その他一流選手多數遠征して滿鮮のスケート界に大いなる刺戟を與へた。

スケート界の混亂は、大日本氷上競技聯盟に對立して、日本スケート會中心の大日本スケート聯盟を昭和三年の暮組織せしめることになり、その第一回競技會は、昭和四年一月丁度大日本氷上競技聯盟の鴨綠江大會と前後して信州諏訪湖上に開催　久邇宮朝融王殿下の台臨を仰いで盛會を極めた。

その競技會に於けるスピード記錄は左の通りであつた。

五百米	伴野（明大）		五三秒九
千五百米	小池（諏訪）		二分五二秒六
五千米	小池（諏訪）	一〇分	八秒二
一萬米	小池（諏訪）	二〇分	一〇秒七

大日本氷上競技聯盟と大日本スケート聯盟と、この二つの合同體大日本スケート競技聯盟主催の記念すべき第一回大會は、昭和五年一月、スピード・レートは青森縣八戸市、アイス・ホツケー及びフイギュアは日光精銅所リンクに於て擧行された。もう全く日本のスケート界は融合結束した譯で、全日本選手權大會には學生聯盟加盟の各大學、北海道、東北、中部、關西、朝鮮、關東州、滿洲など各加盟團體選出の精鋭が參加して、記錄も技術も世界の水準に到達するに至つた。そして昭和七年には北米レークプラシツドにスピード、フイギュアの代表を送り、同じく十年のガルミツシュ・オリムピツク大會にはスピード、フイギュア、アイスホツケーの代表を送つて、スキーと共に冬季競技の双璧をなすことになつた。

第二次歐洲大戰の勃發に依つて今後スケート界はどんなに動いて行くか、國際的にはこのところしばらくは、希望はつなげないが、今後滿洲國との友好關係を一層緊密にし、昭和十四年二月滿鐵三十周年記念に招かれて、我が聯盟が代表を滿洲に送つたと同樣に兩國は交互に選手を派遣し合つて、親善と共に技術を練り心身を鍛錬し、同時に兩國は、お互に國內の力を大いに充實せしめて、スケートが單に滑ることだけで終らないやう、何等か國家のお役に立たせる、これが、現在我が大日本スケート競技聯盟に與へられた大きな課題のやうである。

大日本スケート競技聯盟の創立

全國的統制の實現

大正十三年の暮に、全國學生氷上競技聯盟が生れ、それが强固な基礎の下に發達を重ねるに從ひ、學生聯盟の先輩の中に全日本的統制團體の必要を說くものが現はれて來た。それ〴〵スケートの出來る地方に滑り手が多くなり、優秀な選手が出て來ると、その地方地方をまとめて、全國的組織體の中に集める必要を考へるものゝ出て來るのは、普通のことであつた。

日本のスケート界に、たとへそれが、どんな形であらうとも、どんなに貧弱な內容であらうとも、兎に角競技會が聞かれるやうになつてから、この頃既に十五年を經過して居る。この十五年の中には、我國最初のスケート團體である日本スケート會の誕生もある。もうそろ〳〵全國的統制機關が生れてもよささうなものだつたが、學生聯盟の先輩を除いては、こんなことを考へるものは、およそ一人もなかつたやうである。日本スケート會は、我國最初のスケート團體ではあつたが、この全國的統制問題に關しては、拱手傍觀的に見られた。

この態度が、どういふところから出發して居たか、日本スケート會は社交機關で、統制機關となるべきものではないと自分達の個人主義的趣味のみに依つて、實際的體育迄は未だ考へが及ばなかつたか。少なくも學生聯盟の先輩の意圖に對しては好意を持つて居ないものゝやうであつた。先輩達は、それならば、スケート界の先輩である日本スケート會には賴らず、學聯OBの手に依つて全日本的統制團體を結成しやうといふことになつた。そして昭和二年の暮鳥藤力氏を會長と

して大日本氷上競技聯盟が創立された。

ところが、大日本氷上競技聯盟が創立された翌年日本スケート會は、如何なる意圖があつたか學生OBの期待を裏切つて、大日本スケート聯盟といふ、これもまた全國的統制を目標にした團體を組織した。日本のスケート界には突如として二つの統制團體が生れたのである。

かゝる內紛的狀態は、スケート界を一層混亂に陷れるものであつたが、幸ひのことにこの謬見は正せられて、昭和四年の春スケート・シーズンが幕を下すや、兩聯盟の委員は、合體した全國的統制團體の結成に着手することになつた。

この時の折衝委員は大日本氷上競技聯盟側から、小口孫六、高畠直定、青木末弘、飯田洋二の四氏、大日本スケート聯盟側からは、交野政邁、河久保子朗、五代正友の三氏が選ばれて、お互ひが腹臟ない意見を開陳して懇談を遂げた結果、大日本スケート競技聯盟の組織を見たのであつた。新團體結成迄に要した時日は約半歲、年若き學生OBに依つて組織されて居た大日本氷上競技聯盟は、先輩團體である日本スケート會を中心として組織された大日本スケート聯盟に對し出來るだけ謙讓の態度を取り、こゝにはじめて新團體が結成された譯である。

大日本スケート競技聯盟の組織は、全國を北から、北海道、東北、關東、中部、關西、朝鮮、滿洲の七地區に分け、これを地方的統制母體となし、全國學生氷上競技聯盟は、各學校の所在地別にその地方の聯盟に加盟することになつた。

スケート界の大先輩團である日本スケート會が、從來の封建的一切の觀念から目覺め、學生聯盟のOBもまた謙讓の態度を持して、この大日本スケート競技聯盟の結成を見たのは、日本スケート界の躍進第一步として大いに祝福すべきことであつた。我國にスケートが渡來して四十年、競技的段階に入つて十五年、餘りにもおそい全日本的統一ではあつたにしても、この間に於ける波亂は、むしろ强固なる結束への試錬であらうと、創立第一年スケート界は、この新聯盟の成長に多大なる期待をかけた。

この創立初代の大日本スケート聯盟會長以下役員及び加盟團體は左の通りである。

大日本スケート競技聯盟役員

會長	子爵 交野政邁
副會長	五代正友
常務委員	小口彌六
〃	高畠直定
〃	飯田洋二
〃	河久保子朗
〃	青木末弘
〃	藤野忠彦

地方加盟團體

北海道氷上競技聯盟	
東北スケート聯盟	
關東スケート聯盟	
甲信スケート聯盟	
全關西スケート聯盟	
朝鮮氷上競技聯盟	
滿洲體育協會	

全日本選手權大會

大同團結と全國的統制を見た大日本スケート競技聯盟は、その翌年の昭和五年一月記念すべき第一回全日本選手權大會を青森縣八戸市と栃木縣日光に於て擧行した。八戸市の長根リンクではスピード選手權大會を、日光の古河精銅所内リンクに於ては、フイギュア及アイス・ホツケー選手權大會を行ひそれ〴〵多大な收穫を收めた。スピード選手權大會に出場した選手の中には、はる〴〵と滿洲體育協會から派遣された木谷德雄、河村泰男、小池富治、大澤義一、吉岡正隆、石原省三の諸君、朝鮮からの崔在殷君他數名、信州諏訪の潤間兄弟、濱、今井君等優秀なる顔ぶれが揃つて、統制後の大會にふさはしい好成績を收めた。

このスピード選手權大會は總べて世界選手權競技規約に依つて行はれ、競技場は一周五百米、これを二重コースにして二名づゝ幾組かのレースを行ひ最後に最もよいタイムのものを勝者とし更に選手權獲得の爲には、競技種目五百米、千五百米、五千米、一萬米の四種目に全部出場し、然も失格なきことを原則として、これに全勝するか、中三種目の勝者となるか、或は各種目のタイムを點數に換算してその總計點數の最低なるものを最良として優勝を決定することにした。その結果五百米と一萬米に第一位、千五百米と五千米に各々第二位を得た滿洲の木谷選手が最良なる得點を以つて第一回の選手權を獲得した。

アイス・ホツケー及フイギュア・コンテストは、日光精銅所内のリンクに於て行はれた。アイス・ホツケー選手權競技には早慶兩大學をはじめとして大學專門學校及倶樂部チーム、遠く朝鮮から京城帝大が出場、フイギュアには同じく大學專門學校の優秀選手が參加して妙技を演じ、アイス・ホツケーでは慶大が早大を破つて優勝、フイギュア競技に於ては明

大の久保選手が慶大の常將金子選手を壓倒して大會最初の選手權を獲得した。

大日本スケート競技聯盟は、年毎に結束を固くし、組織內容も完璧を期され、その主催する全日本選手權競技會もまた一年毎に盛大に赴きスピード競技に於ては記錄が、アイス・ホツケー及フイギュア競技では技術が年々と向上したので、ぼつ〳〵國際的水準に對する檢討が開始されるやうになつた。

今でこそアイス・ホツケーの技術は內地、滿洲殆んど同格のものとなり、こゝ數年はむしろ滿洲チームを壓倒する勢ひにあるのだが、昭和の初頭に於ては內地の諸チームは到底滿洲醫科大學チームには齒が立たなかつた。

昭和三年はじめて滿洲醫大チームが松原湖の全國學生氷上選手權大會に出場した時、あの庄司選手の素晴しい妙技は『成る程あれがほんとうのアイス・ホツケー・スケーチングだ』と歡嘆せしめたものであつた。滿洲醫大チームは向ふところ敵なく完全に當時のアイス・ホツケー界を征壓し、その溢れ切つた勢ひを以つて昭和四年の暮遠く歐洲に遠征したのだつた。

この時は既に大日本スケート競技聯盟が組織されて滿洲體育協會もその構成の一母體として、加盟した直後のことであつたから、スケート競技聯盟は直ちに滿洲醫大の歐洲遠征を認め、激勵の辭を呈すると同時に、醫大チームの技術的土產を大いに期待した。

國際的進出に賑はふ

日本のスケート競技界が國際的に進出を開始したのはこの滿洲醫大アイス・ホツケー・チームの歐洲遠征が最初のものであつたが、その翌年の昭和六年には滿洲體育協會が木谷、石原、河村の三スピード選手を世界選手權競技會に出場せしめて日本のスケート界を世界に認識せしめた。

かくて昭和六年十二月大日本スケート競技聯盟は待望久しきオリムピツク大會へ代表選手を派遣したのであつた。大日本スケート競技聯盟創立後僅かに三年目である。派遣選手はスピードに於て石原、木谷、潤間、河村の四選手、フイギュアで老松、帶谷の二選手、共に昭和六年十二月横濱を出帆シヤトル經由で大會地北米レークプラシツドに向つた。

第十回オリムピツク大會第三回冬季大會は、昭和七年二月レークプラシツドに行はれ、これに出場した日本選手の成績は、決して香しいものではなかつたが日本と世界との力の比較、世界スケート界の水準に對する認識及技術的研究、今後の對策等その他世界スケート界一切の現狀を知ることの出來たのは矢張りオリムピツク出場の賜であつた。オリムピツク大會への代表選手派遣は、躍進を期するスケート界としてはむしろ當然のことではあつたが、創立後僅かの歷史と經驗しか有さない大日本スケート競技聯盟にとつては大事業の敢行であつた。

このオリムピツク出場の前後から東京市內のあちこちにインドアの特設室內リムクが計畫され、オリムピツク選手が華々しく歸朝した時には、既に新宿の伊勢丹及赤坂山王下の山王ホテルには立派なインドアリンクを造つて六名の代表選手を迎へ、更に昭和八年には芝浦に正規の屋內アイス・ホツケー・リンクが偉容を誇りながらお目見得した。東京市內にこれ等のインドア・リンクが出來た頃と前後して大阪にも京都にも、神戶にも同樣に特設のリンクが續々と現はれて來た。これ等多くのインドア・リンクの出現は、時勢を見るに敏い事業家がスケートの隆盛に着眼した金儲けの手段であることは判り切つたことであるが、一面スケートの技術的進步と一般的普及に資するところ又大であつたことはいふ迄もない。

このインドア・リンクの公開期間といふのは、各々のスケート場に依つて異つて居るが、十月頃から翌年の五月末頃迄を最少限度として公開して居るから從來天然氷のみを相手として居た時代に比較するとその滑り得る期間はザツと半歲延長されたことになつてフイギュアやアイス・ホツケーの選手諸君は勿論のことスピードの選手にとつても絕好の練習場が

提供されたのである。

だから日本のスケート界は、昭和四年暮の大日本スケート競技聯盟の成立を躍進の第一段階とし、昭和七年のオリムピツク冬季大會出場とインドア・リンクの出現を第二の段階として、基礎的訓練の時期に當てられ、それ以後は、世界の水準に並行して鍛錬の段階に入つたのである。然も幸ひのことに、昭和七年以降明治神宮體育會のスケート大會を委囑され競技會を開くことになつたのは、明治天皇の御聖德を憬仰し奉り、併せて體力練磨の機會が與へられたことにもなり、スケート界にとつてこの上もなく喜ぶべきことであつた。

スポーツ日本の大繪卷ともいふべき明治神宮體育大會に新たなる精彩を加へた第七回明治神宮體育大會第一回スケート競技大會は、日本のスケート史に記念すべき一ページを加へつゝ昭和九年一月二十五日から二十八日迄日光及芝浦の兩スケート場に於て華々しく開かれた。競技方法はスピードのみ一般對學生の對抗形式をとり、フイギュアとアイス・ホツケーは全日本選手權の準決勝に殘つた四チームを以つて行ひ、その結果スピードでは二十九對十六點で一般軍が快勝、フイギュアでは關西學院の片山選手が、アイス・ホツケーは滿洲醫大補仁チームが優勝した。

最初の記念すべき神宮スケート大會が終つて、翌昭和十年は、ドイツのガルミツシュ・パルテンキルヘンに開かれるオリムピツク大會の前年であつたので、大日本スケート競技聯盟は再度の代表選子派遣の爲め、準備にとりかゝることになり、スケート界は俄然活況を呈して來た。この年の二月朝日新聞社では、アメリカ・レークプラシツドの冬季オリムピツク大會に於て、女子フイギュア競技に第二位を占めたブルガー孃を墺國から招聘し、その三月大日本スケート競技聯盟ではアイス・ホツケーの本場カナダから世界最強を誇るといふカナダ・サスカトン・チームを呼んで、全日本、學生選拔軍、日光、滿洲補仁、苫小牧王子の我國に於ける代表的強チームと芝浦スケート場に於て對戰せしめた。その結果は、日本全敗といふ惨めな記錄を殘したが、ブルガー孃の來朝と云ひ、カナダチームの來征と云ひ、ガルミツシュのオリムピツク大會出場を控へて訓練的な收穫は大へんなものであつた。

交野會長の辭任と聯盟內部の改變

大日本スケート競技聯盟は、昭和四年十二月創立されて以來、國內的にも國際的にも、至極順調に進展躍進の經路を辿つて昭和十年十二月第二回目のオリムピツク代表選手をドイツに向け派遣することになつたが、スケート界全體の躍進は聯盟の組織內容にも變革の必要が認められ、昭和九年九月會長交野政邁氏、副會長五代正友氏が、業務上の都合でその位置を退かれ、昭和十年三月新會長として前鐵道次官久保田敬一氏が就任され同時に會長補佐として喜多壯一郎氏と滿洲スケート界の功勞者滿洲醫大學長久保田晴光氏がそれ〴〵副會長に就任し、更に常務委員の異動と機構の改革を行つた。

從來聯盟の內部組織は、スピード、アイス・ホツケー、フイギュア三種目の事務は直接常務委員會から全然別個のものとなつて居たので內部的、外部的共に聯絡を缺き、ひいては事務上技術上の事務に圓滑を缺くことがしば〴〵であつた。新役員はこの點に着目して、先づ種目別に部門制を布き、その一つ一つの部門には部長を置き、更に競技委員を定めて、競技方面の直接の事務は一切この部長を中心に各競技委員會に於てなすことになつた。尙會長以下の事務運行機關としては副會長、名譽主事、常務委員の他の各競技部長は常務委員をも兼任して事務と、競技兩方面の聯絡をとり全體的事務の圓滑を計ることになつた。つまり細胞組織に依つて合法的に事務を進捗せしめることになつたのである。

聯盟の內部組織もこれで改革を見たので、今度は多年問題となりながらそのまゝに放置されてあつた國際スケート聯盟（I・S・U International Skating Union）に對する代表權問題の解決を急ぐことになつた。

このI・S・Uに對する日本の代表權は、大正十五年交野日本スケート會々長が渡歐したのを機會に、日本に於ける代

表團體として、日本スケート會が加盟したので、その當時は未だ完全なる統制團體もなく、また國際競技などゝいふものもなかつた當時のことであつたから、スケート界はこの代表權に對しては全く注目を拂はなかつたのである。然るに昭和四年大日本スケート競技聯盟が成立するに及んで、漸く國際代表權の所在に對し、關心が拂はれることになつた。大日本スケート競技聯盟としては、統制機關たる聯盟が出來たのであるから、代表權は日本スケート會の責任者から當然引きつがれるものと思つて居たのであるが、その責任者達は、代表權を虎の子のやうに思つてか言を左右にして渡さず、引きつぐ迄にとうとう八年間もかゝつてしまつたのである。然もこゝに不可思議とされることは、日本スケート會の會長であつた交野政邁氏が大日本スケート競技聯盟の會長となり、更にまた日本スケート會が聯盟の組織母體である關東スケート聯盟の加盟團體であつたにもかゝはらず代表權が、肝心の聯盟本部に移讓されず固く日本スケート會に仕舞ひ込まれて居たことで、日本スケート會側のこの非常識な態度に憤激を禁じ得なかつたのは勿論のことである。

この代表權問題は、日本スケート界の發達に大きな阻害をなすものであり、また第三者からは、この代表權問題が聯盟內部の混亂、相剋のやうに曲解されることにもなつて居たので、この代表權問題は一日も早く解決せねばならないのであつた。この問題の解決を積極的に行動しはじめたのは昭和十年六月からであつた。これはガルミツシユのオリムピツク大會出場を目前に控へて居ることゝ、會長、役員が交替して、問題解決に絕好の機會であつたからである。

常務委員が奔命したことは勿論のことであるが、久保田會長もあらゆる機會を利用して解決に全力を注いだ。聯盟內部ばかりではない體協でも終始支援を惜しまなかつた。日本スケート會の責任者河久保子朗氏と親交ある澤田一郎氏を通じても何んとか解決は出來ないかと、解決に努力したのであるが、總べては無爲に終り交渉は遂に決裂に終つた。

問題がこゝに逢着すれば氣はかへつて樂になり、聯盟は直ちに體協の裏書きを得、日本スケート界の現狀及び來るべき

みをなした。交渉を開始してから五ヶ月目の十月末日のことであるから、この氣の長かつた行動に對し多少の非難はあつたが、聯盟當事者としては止むを得ないものがあつたらう。

日本スケート會との折衝は、聯盟の直接加盟申込みに依つて一段落したが、殘された問題として、オリムピツク出場選手の選手氏名の申込みはどうするか、があつた。尤もこれは、I・S・U(國際スケート聯盟)へ直接申込をする前から、體協との間に相談が出來て居り、現在I・S・Uの加盟團體である日本スケート會は問題とせず、大日本スケート競技聯盟では會長久保田敬一氏が、體協では副會長平沼亮三氏がそれ〴〵署名して、後はスケート監督として派遣される大日本スケート競技聯盟主事の平林博氏が現地ドイツに於て適宜方法を講じるといふことになつた。

かくて聯盟は十一月十七八兩日のオリムピツク・フイギユア代表選手決定の詮衡競技會を最後として、代表選手役員三十五名を決定して、スピード選手六名(河村選手は既に出發をしてオスローに向ふ)は、監督靑木末弘氏に引率されて十二月一日奉天の合宿練習に臨み、アイス・ホツケー、フイギユア選手は十二月二十日東京驛發、奉天でスピード選手と合して一路ドイツに向つて出發した。このオリムピツク代表選手と共に滿洲氷上競技聯盟では女子スピード選手五名を世界選手權、歐洲選手權の兩大會に派遣して日本女子スピード陣最初の國際進出を試みた。

オリムピツク大會に於ける成績は、二度目の出場としては先づ好成績の方で、殊にスピード競技五百米に於て石原省三選手が、四三秒五の記錄を以て第四位に入賞したことは、日本冬季チームの初得點として歷史的なものである。

第十一回オリムピツク大會の終了と共に次回大會は東京と札幌に決定したので、大日本體育協會は直ちに東京及び札幌大會の爲め組織委員會を編成して準備にとりかゝつた。この第十二回オリムピツク大會組織委員會の事務總長に衆望を擔つて就任したのは本聯盟會長久保田敬一氏であつた。然るに久保田會長は、大會準備進行の半ば嚴父讓男の逝去と會長自身の關係して居られる鐵道その他各關係諸方面の業務繁忙のため昭和十二年六月本聯盟會長並に組織委員會事務總長の位

置を退かれたのは洵に惜しいことであつた。

喜多壯一郎氏の會長就任

久保田會長の後任として本聯盟會長に就任されたのは、副會長久保田晴光博士で、丁度博士が滿洲醫大學長の重職を退かれて上京、東京に居を移された直後のことであつた。然るに何んといふ不運なことであらうか、新會長は健康勝れざる爲め昭和十三年三月辭任、同年四月現會長喜多壯一郎氏が副會長から會長に新任され現在に至つて居る。

この間聯盟本部常務委員會にも委員の變更職制の改革などがあつた。即ち、聯盟名譽主事として活躍された平林博氏はガルミツシュ・オリムピツク大會から歸朝間もなく病を得て療養を續けることになり、その不在中の事務は常務委員村津要氏が代行したがこれまた自身の業務繁忙の爲め辭任したので競技委員朝長實氏があとを襲ふことになり、併せて平林氏の辭任と共に常務委員制と理事制に變更、競技部を技術部に替へ、朝長實氏は專務理事といふことになつた。また委員も實際的に働き得られるものを、多少若くてもよいから持つて來た方が能率的だといふので、それ〴〵缺員の場所には働き得る若手を理事に持つて來た。

尙こゝに聯盟構成上の變化として特筆することは、創立以來大日本スケート競技聯盟の有力母體であつた滿洲氷上競技聯盟が、昭和十三年滿洲國の治外法權撤廢に依つて、本聯盟から分離され、この別體として關東州體育協會が新參加をしたことで、本聯盟の沿革史上看過出來ないものである。然し滿洲國氷聯とは一種の特殊的關係にあり、全日本選手權大會への出場は從來と變りなく行はれることになつた。

聯盟の內部組織が變革されて居る間にも、第五回冬季オリムピツク札幌大會の準備は着々進行、本聯盟からは、札幌大會實行委員會委員として會長喜多壯一郎氏が、幹事として、朝長專務理事の京城轉任の後を受けた兩角政人氏及び北海道氷上競技聯盟理事佐藤昌彥氏がそれ〴〵責任者として選ばれ、聯盟と實行委員會との聯絡をとることになつた。そしてガルミツシュ大會に日本代表選手を派遣しながら尙解決を見なかつた國際スケート聯盟（I・S・U）の加盟權問題は、日本スケート會、大日本スケート競技聯盟兩團體當事者と稻田男、鷲田成男氏等の斡旋に依つて漸く日本スケート會は加盟權を本聯盟に移讓して、一時はこの問題の爲めに札幌大會の成否迄云々されやうとした難問題も、やつとのこと解決されるに至つた。然るに日支事變は東京、札幌兩大會を中止せしめ、スケート界は競技の目標を何處に持つて行かうかと研究したが、南滿洲鐵道株式會社の創立三十週年のスポーツ界への記念として日滿對抗戰の壯擧が實現され、昭和十四年二月この招きに應じて、新京、奉天、大連、安東の各地に約二週間に互り轉戰したことは、日本のスケート界として意義深いことであつた。

日本のスポーツ界は、スケートと云はず各方面共新體制主義に順應して進むことになつたが、大日本スケート競技聯盟は歷史こそ淺いが、冬季の心身鍛錬の機關、體力增强の國家的機關として充分その機能を發揮しやうと努力を續けて居る大日本スケート競技聯盟各年度に於ける役員は次の通りである。

大日本スケート競技聯盟役員

昭和四年（創立年度）

會長	子爵 交野政邁	同
副會長	五代正友	同
常務委員	小口孫六	同
		高畠直定
		飯田洋二
		河久保子朗
		藤野忠彥

昭和七年

會長　子爵　交野政邁
副會長　五代正友
常務委員　中澤周平
同　太田幸兵衛
同　東克己
同　小西健一
同　三島一夫

昭和八年

會長　子爵　交野政邁
副會長　五代正友
常務委員　青木末弘
同　中澤周平
同　東克己
同　手塚俊一
同　小西健一
同　三島一夫

昭和九年

會長　子爵　交野政邁
副會長　五代正友
常務委員　青木末弘
同　中澤周平
同　帶谷龍一
同　倉町太郎

昭和十年（二月）

會長　久保田敬一
常務委員　青木末弘
同　村津要
同　手塚俊一
同　榎本容二
同　小西健一
同　三島一夫
同　倉町太郎

昭和十年（六月）

會長　久保田敬一
常務委員主事（兼フイギュア部長）平林博
常務委員　小野木敏雄
同　兩角政人
同　村津要
同（兼スピード部長）青木末弘
同（兼ホツケー部長）飯田洋二
同（兼會計）小里頼忠
同　小野木敏雄
同（兼會計）三島一夫

昭和十二年

會長　久保田敬一
副會長　久保田晴光
副會長　喜多壯一郎
專務理事　朝長實
理事（兼スピード部長）倉町太郎
同（兼ホツケー部長）小西健一
同（兼フイギュア部長）中澤周平
同　榎本容二
同　兩角政人
同（兼會計）三島一夫

昭和十一年

會長　久保田敬一
副會長　久保田晴光
專務理事（兼フイギュア部長）村津要
理事（兼スピード部長）青木末弘
同（兼ホツケー部長）朝長實
同　兩角政人

昭和十三年

會長（十二年十月就任）久保田晴光
（病氣の爲め三月辭任）
會長　喜多壯一郎

副會長　田所哲太郎
專務理事　兩角政人
理事（兼スピード部長）倉町太郎
同（兼ホツケー部長）小西健一
同（兼フイギュア部長）中澤周平
同　三島一夫
同　榎本容二
同　翠川茂次郎
同（兼會計）矢崎猶重

昭和十四年

會長　喜多壯一郎
副會長　田所哲太郎
專務理事　兩角政人
同（兼スピード部長兼會計）倉町太郎
同（兼ホツケー部長）小西健一
同（兼フイギュア部長）中澤周平
同　三島一夫
同　榎本容二

昭和十五年

會長　喜多壯一郎
副會長　田所哲太郎
專務理事　兩角政人
同（兼スピード部長兼會計）倉町太郎
同（兼ホツケー部長）翠川茂次郎
同（兼フイギュア部長）中澤周平
同　三島一夫
同　榎本容二
同（兼普及部長）金子諭吉
同　小西健一

明治神宮體育會評議員

昭和七年より九年迄　青木末弘
昭和十年　平林博
昭和十一年より十四年迄　中澤周平

第十回明治神宮國民體育大會演技部囑託

兩角政人

第十一回明治神宮國民體育大會演技部囑託

兩角政人
久保信

大日本スケート競技聯盟構成團體

北海道氷上競技聯盟
東北スケート聯盟
關東スケート聯盟
中部スケート聯盟
全關西スケート聯盟
朝鮮氷上競技聯盟
關東州體育協會

紀元二千六百年奉祝第十一回明治神宮國民體育大會施行方針

明治神宮國民體育大會は、明治天皇の御聖德を景仰し平素に於ける心身鍛錬の成果を奉納する神事奉仕にして國民の氣魄と體力とを中外に顯揚し、國民錬成の機會たると共に我體力國策の精髄を成すものなり、而して本年は紀元二千六百年に當り、且明治神宮鎮社二十周年に相當するを以て之を記念する爲大會を一層充實し窮り無き皇運の彌榮を奉祝すると共に萬邦無比の光輝ある歴史を有する我國民の意氣と感激とを發揚せる一大學國的體育大會たらしめんとす。

北海道地方に於げるスケートの沿革と發達

內藤芳雄

北海道地方に於けるスケートの沿革に關しては、正確な記錄などはないが、北方文化建設の中心だつた札幌農學校がやはり本道にスケートを植えつけ、發達せしめた中核をなしたことは誤りない事實である。

話は大分古く明治十年札幌農學校に米人ブルックスが教師として招聘された際、自國から携へて來たスケートで滑つた事があつたと言ふ、恐らく之が本道に於けるスケートの第一歩であらうと推測せられる。

爾後何年頃から初められたか知るを得ないが、少年等が「竹草履」と稱し本道產根曲竹を草履に取付けたるものを穿いて雪道を滑走した、筆者も六七歲頃、それをやつた一人である。其後この竹草履が「下駄ガネ」或は「ベツタ」と稱する鐵製の鎹形の原始スケートに改良され更に「下駄スケート」に進んだのである。

然るに偶々明治二十四年三月新渡戸稻造氏が海外留學より歸朝の際米國製スケート三足を携へ來つて、當時のスケート界に、大センセーションを卷き起した。即ち同年初冬の結氷を待ち詫びた多數の學生達は、此の三足のスケートを巡つて、深刻なる爭奪戰を演じ、吾れ先きに之を使用せんとしたのであるが、一人にては極めて短時間の獨占使用より許されず、大いに不滿焦燥の念堪へ難きものがあつたといふことである。

此處に於てか或るものは、米國に注文を發し、又或るものは岩井靴店をして米國製と同型のもの（但し臺丈けは厚さ五分位の靴底型をなせる木製にてバンドを附す）を製作せしめ、僅かにこの不滿を慰やしたといふことで、以つて當時のスケート熱の如何に旺盛であつたかを想像することが出來やう。

更らに、此シーズン中に札幌農學校と北鳴學校（札幌第一中學校の前身）の同好者七十名許りが集まつて、札幌スケーチング倶樂部を組織し、北海道廳の池をスケート場とし除雪は會員自ら之を行つた。

此の年初めて氷上運動會を開催し、競技種目は當時の陸上運動會と同一のものを選び、提灯競走、芋拾ひ或は巾飛び等を行つた。

更らに、明治二十七年頃に至り會員の增加と共にスケート場の狹隘を感じ之を北一條東二丁目にあつた札幌工業所の池に移した。

當時、外國雜誌に依り、或は外人の話に依つて、各種のフイギュアなる滑り方のあることを知つては居たが、インサイドエッヂ以外の滑り方をなし得るものなく、米人宣教師ローランドが初めてアウトサイドエッヂを滑りスケーター驚異の的となつたといふ挿話がある。

明治二十九年頃からはスケート場を中島遊園地（現公園）の池に移し、スケーターの便を圖つたが面積の擴張につれ除雪の困難を來たし。其後は僅かのスケート愛好者が集まつて小面積の除雪をして、スケートを樂しんだといふことで此頃から已に除雪の苦勞を嘗めた譯である。

明治三十三四年頃と思ふが、熊本といふ憲兵大尉が熱心に世話を燒いて前記工業所の池で大氷上運動會を催し、軍隊式に號令をかけて前進後退回轉等を行ひ、餘興として豚を氷上に放ち、棍棒を手にせるスケーターが、悲鳴を上げて逃げ廻るのを叩き乍ら追ひかけ、遂に撲り殺し閉會後豚汁にして舌鼓をうつといふ甚だ野蠻な事をやつた。筆者は未だ小學生時代で出場出來ず、池の緣で物珍らしく見物したものであるが、この頃の除雪には囚人を利用し、除いた雪を一ケ所に數丈の高さに積み上げ、頂上に觀覽席を設けそこで永山將軍などが見物して居つたことを覺えてゐる。

明治三十七年、札幌農學校內にスケーチング部が設立され、校庭のエルムの下に約百坪の細長いリンクを作り、スケートに關する書籍を參考としてフイギュアの研究をなすものもあつたが、其頃は單にアウトサイド又はインサイドの半圓形の連續前進、或は後進をなす程度であつた。大正五年一月北海道帝大スケーチング部員であつた筆者が諏訪に遊び、河久保先輩等に逢ひ中央との連絡がとれた。

大正八九の兩年札幌鐵道局に金井法學士在任當時同氏の

計畫により鐵道倶樂部（現集會所）北側に約四十坪のリンク（自然凍結）を設けたが同氏の轉任と共に廢止された。

大正九年札幌野球協會スケート部の設立があり翌十年獨立して札幌スケート協會創立さるゝに及んで札幌のスケートも漸く軌道に乘つたのである。

大正十二年には道廳内にスケート部が出來廳員並にその家族のために構内の池にリンクを經營したが數年にして廢止された。

札幌スケート協會の誕生と共に中島の池に約三百坪のリンクを經營し、盛んな發會式を擧げ、全市のファンを歡ばしたが、會員は三四十名に過ぎなかつた。ホツケーは未だ知られずフイギュアもスピードも今から見れば極めて幼稚なもので僅かに大學關係のスケーターに依つて少し宛研究されてゐた。

其後リンクも次第に面積を擴張され、會員數も增加し各方面の刺戟により技術も進歩するやうになりアイスホツケーもとり入れられた。

昭和二年道内各地のスケート團體を糾合して北海道氷上競技連盟が結成され昭和三年第一回全道氷上競技選手權大會が開かれ、札幌スケート協會、北大スケート部、苫小牧運動協會スケート部の三團體が參加した。小樽、函館、旭川、帶廣、釧路等も聯盟には加盟して居たが出場を見るに至らなかつた。

全道選手權大會の外、官廳實業團大會、全道中等學校選手權大會等が矢繼早やに計畫され、對抗意識の高揚から記錄、技術共に急激に向上し、會員數も壹千名を超ゆるに至り、日曜日など壯幼男女入亂れてリンクを彩る樣な偉觀を極めた。

昭和三年には　秩父宮殿下、四年には　高松宮殿下、と二年引きつゞき宮樣御臨場の光榮に浴し數年來札幌冬の名物となつて居た氷上カーニバルも台覽の榮譽を擔ひ、スケートファンを狂喜せしめた。あの御伽噺の夢の國を想はせる感激の一夜こそは氷上に亂舞せるものにも、リンクをとり圍んだ萬餘の觀衆にも忘れがたき印象を與へたことであつた。當時の女流スケーターの活躍は、目覺ましいものがあつた。

中島ライオン食堂と共に之に通ずる橋が撤去さるゝに及んで一百五十米よりとれなかつたコースは四百米となり、

スピードの記錄も逐年向上して來た、

前回ガルミツシュに於けるオリムピツク冬季競技に早稻田から出場した中村選手なども、苫工時代中等學校大會、全道大會には常に大活躍をしてゐた。同じくホツケーのメムバーとし慶應から行つた龜井選手も、札師時代このリンクで育つたのである。東京其他で活躍してゐる選手中に札幌出身のものゝ多いのは周知の事實であり、又毎年日光で行はるゝ全國中等學校大會のアイスホツケーは宛然北海道大會の觀あることも一般の知る通りである。

兎に角札幌の氷にスケートが植えつけられてから約半世紀、今日の狀態にする迄には經營上の苦心はよく筆紙の盡す處でないが、今はその詳細は省略する。只既往を顧みて此地が第五回冬季オリムピツク大會會場に選定されたことは途中返上とはなつたが、誠に感慨深いものがある。かうなる迄には多くの人々の熱意と努力が累積して來た結果と感謝に堪へない。

次に札幌以外の地方に於ける代表的なスケート地として苫小牧の狀況に關し同地伊藤健二氏の記述から拔萃拜借する。

苫小牧はスケートの大敵たる雪の寡少なこと、氣溫の低いこと、沼澤に富めることの三條件に惠まれ、更らに加ふるにリーダーの熱と意氣に依つて今日の地歩を獲得したのであるが、其歷史は餘り古いものでなく、大正十三年秋西田信一君の苫工就任以來のことである。

大正十四年一月札幌スケート協會役員一行の巡回コーチに依り、協會設立の機熟し、二月一日協會發會式を兼ねたる苫小牧最初の競技會を急設せる雲雀ケ丘リンクにて擧行した。

爾來昭和二年運動協會の一部に併合され更に昭和四年獨立して協會内容の充實を圖り、活潑なる活動と涙ぐましき苦鬪を續けること十五年、この間前後六回に亘る全道大會の開催、相苫小牧工業、王子製紙の全國制覇、オリムピツク選手の招聘、更らに榮譽ある鄕土オリムピツク選手役員の派遣等の畫期的壯擧は、スケート熱に加速度的な拍車を加へ、今や創立當初の苫工中心時代より王子、苫工、苫高女、苫西小、苫東小を初めカナデイアンスター、郵便局、役場等の强チーム群立する黃金時代を現出し、正會員二千名を超え協會リンク、王子專用リンク、大沼リンクの三リ

ンクを使用し、全道全日本に覇を唱へ更に世界の檜舞臺に活躍せる國際選手を產み出し、斷然「日本一」を呼號し、全日本スケート界に君臨する盛況を見るに至つたのである。この驚異的一大發展は地の利と人の和、熱烈なる鬪志と積極的戰法、擧町一致の支援と町當局の理解、協會役員の犧牲的奮鬪、更に實際競技指導の中心となれる西田信一、廣瀨藤四郎、富澤泰吉、吉田正男の四大名監督の寢食を忘れし熱誠の一大結晶とも見ることが出來る。

（筆者北海道氷上競技聯盟理事）

紀元二千六百年奉祝神宮大會の趣旨（一）

一、國民體育の國家的意義、特に現時下に於ける國民體力增强の重要性を强調し全國民をして體育を實踐せしむると共に體育に對する關心を深からしむること

一、最高の演技を綱羅し肇國二千六百年の我國體育の進步發達の狀況を八紘に顯示し紀元二千六百年を記念するに相應しき國家的體育大會ならしむること

一、體育式典及體育行進は之を莊嚴嚴肅に實施し深き國民的感激の顯現たらしむると共に國民の意氣と力とを發揚せしむること

一、表彰を盛大に行ひ、本大會の演技優秀者を表彰する他更に紀元二千六百年に因み特に我國體育の進步普及に功績多大なる者を選び之に對し莊重なる表彰式を實施し顯彰すること

（八十七頁へ續く）

北海道のスケート場

安田泰次郎

北海道のスケートは、先年米國で逝くなられた北大の大先輩故新渡戸博士が明治二十四五年頃外國からスケートを持ち歸られて以來の事だといふから、隨分古い歷史を持つて居る。それにも拘らずスキーに比べてスケートが大衆的スポーツとしてその割に發達しないのは二つの理由から考へられる。

その一つは、スケーチングがスキーイングに比べて非常に難しいからであつて、之はスケートをやつた者がすぐスキーを履いて滑れるのに反し、スキーが上手でもすぐスケートが滑れるといふ譯には行かない事でも肯ける。又スキーには所謂「駄履き」と云つて唯滑るのに使はれるのがあるが、スケートはフイギュア用、アイスホツケー用、スピード用と夫々著しく變つて居て、何れも唯滑る丈では滿足出來ない處にもスケートの難しい處がある。

もう一つの理由は、滑る場所たるリンクが場所的に制限せられる事と、リンクが手易く得られない爲である。「スケートは轉ぶと他人が見て居るから恥しい」とはよくスケートを初める人から聞く言葉であつて、スキーは場所的に制限されないから轉んでも大して恥しい事もなく、他面山を樂しむといふ面白味も加はつて、下手は下手乍ら樂しむ事が出來るが、スケートの方は場所の制限を受け、特定のリンクで滑らなければならないから勢ひ他人に見られる事になる。又滑る場所たるリンクも、今日では屋內のリンクを作れば可なり暖い處でも滑る事が出來、又寒いといふ條件さへ具はれば、地上に撒水して人工的に氷を作る事も出來るが、スケート場と云へば「スケート・ボンド」といふ言葉が使はれる位今日迄は湖沼を利用して居た爲に場所的な制約を受ける事が多く、之も亦スケートの大衆的に發達

しない一つの理由を成して居ると思はれる。

我國のスケート場は最近迄自然の湖沼を利用したものが多く、特にスケート・リンク（此處ではアレナの事はしばらく度外視する）として作られたものは極く稀にしかなかつたが、北海道に於ても同じであつて、只湖沼の得られない地方に於て人工的に撒水してリンクを作つて居たに過ぎない。そして人工的なリンクも其作り方が誤つて居た爲に大して成功したものが見當らないが、又湖沼を利用したものも氷の作り方及手入方法等は完全になかつた樣である。內地の何の地方よりも——と云ふよりも寧ろ日本の何の地方よりも氣候的に惠まれて居る北海道に於て、完全な理想的なリンクが作られなければ、日本ではより良いリンクは作り得ないのは明かな處である。北海道のスケート場は第五回オリムピツク冬季大會會場決定を機會に、今後大いに發達せしめなければならないと考へる。

先づ札幌には有名な中島のリンクと、北大で地上に撒水して作られるものがある。前者は中島の池をそのまゝ凍らして作るものであるが、眞中に大小二つの島がある又アイス・ホツケー・リンクは一つしか取れないし、又一般スケーターの滑る處も少い。然し之も其昔島に橋が架かつて居た頃には、四百米のコースが採用出來なかつたし、又島の一方を削る迄はバツクストレツチは直線ではなかつた。今日では島があつても正規の四百米コースを採り、又アイスホツケーのリンクを採るのに支障はないが、せめて小さい方の島でもなかつたら、もう一つホツケーリンクが採れるものをと嘆かざるを得ない。此のリンクの除雪手入費は一シーズン千圓はかゝる。

北大のリンクは自分等の學生時代には佐藤助教授の御世話で學校の空地を堀下げて水をためてリンクを作つて貰つたものだが、湧水と士手の作り方が惡かつた爲に每年甘く凍らなかつた。それで今では理學部前の空地に撒水して作つて居るが、大きさもホツケー・リンク丈であり、又手入も豫算の關係からうまく行かないので餘り良い氷の張つて居た事はない樣である。每日除雪して夕方撒水して居たら相當良い氷が出來る事だらうと思ふ。

次に順序としてスケートの發達に古い歷史を持つ苫小牧に移る。此處は札幌から汽車で約一時間半の小さな町であるが、非常にスケートに熱心な町長を戴き、而もその町長

さんがスケート協會の會長をして居られるので、スケートには惠まれた町である。スキーの出來ない此町ではスケートを町技（?）として町の人は必らず冬はスケートをすると迄發達して、町營リンクも出來て居る。此の町は雪は殆んど降らなくて可なり寒いのでスケートには惠まれた町であるが、今日の發達を見る迄には西田氏の大きな努力があつた事を忘れてはならない。又王子會社にもスケート・リングがあつて之は御手の物の夜間照明をしてあるから晝となく夜となく何時でも練習する事が出來る。

苫小牧に近い室蘭は極く最近になつてスケートが初まつた町である。北海道中でも比較的暖い處なので今迄ウインター・スポーツは發達しなかつたが、オリムピツク選手潤間留十君の令弟潤間正見君の來室と、熱心な富盛氏のコンビによつて急にスケート熱が高くなつて來た。此の町のリンクは郊外の輪西町にあるイタンキ沼である。一週四百米のコースが樂に採れるのでスピード用としても申分がないが、少し風が强いのが缺點。然し防風設備もあり、オリムピツク大會の時には練習用リンクとして使用して貰ひたいと云つて居た程であるから、コンデイションも漸次改善され、從つて町の熱心になつて來たこともうかゞはれる。

次に北海道の入口函館に行かう。

此の町も雪が少くてスケートには惠まれて居るが、現在のリンクは古戰場たる五稜廓の堀を利用したものであつて長さはいくらもあるが巾が狹いのが缺點である。

スキーの殆んど出來ない此の町の人が、もう少しスケートに熱心になり、それに日魯といふ弗箱が力を入れて呉れたら、もつと良いリンクが出來さうなものであるが、今の處は大火の傷手もまだ癒へて居ないので、それも無理かも知れない。

次は小樽だ。小樽は昔は長橋の池や公園裏の千歲溫泉の池あたりで滑つたものだつたが、現在は公園グラウンドを利用して地上に撒水したりリンクを使つて居る。水は市の水道が無料で提供して呉れるとの事だが、此の町も雪が多いのと又下から水を流し込む爲に餘り良い氷が出來ない。撒水の方法を變へればまだ〳〵氷は良くなる事と思ふ。唯此の町も、スキーの中心地丈けにスケートの發達は容易でない。

旭川のリンクは常盤公園の池だ。然し之も四百米のレー

スコースを探るには狹過ぎる。リンクの設備も良くなく、スケートも餘り發達して居ないが、之は今迄スケート界の中心者が轉々として居たのと、やはりスキーの影響とによる。然し最近は基礎も出來たので發達に向ふであらう。可なり寒氣が嚴しい處だから經費次第で地上リンクも不可能ではない。

北海道で何と云つてもスケートに氣候的に惠まれて居る處は東北海道だ。帶廣、釧路共に雪が少く又可なり寒いからスケートには好條件を具へて居る。又雪は遲く降るのでスキーのシーズンとスケートのシーズンが多少異るのも良い條件の一つとして數へる事が出來るだらう。

帶廣のスケート協會はかなり前からあつたが、道聯盟に入つたのは最近のことである。リンクは郊外の養鯉園の池で漸くホツケーをやる位しかない。然し市中の小學校の校庭にも水を撒いてリンクを作り生徒を滑らして居る。スケート協會にも若い熱心な人が澤山居るから玆數年の中にはかなり發達する事と思はれる。此處も財政が許しさへすれば市内適當な處に撒水してリンクを作る樣にして欲しいと思つて居る。

釧路にはすぐ町の近くに春採湖（はるさつこ）といふ周圍二里以上もある湖がある。氷が張つた時にはセーリンクも出來ようといふ處だ。雪が少いから除雪費もかゝらない。然し悲しい事には此の沼に海水が入るので少々鹽分がある事と、もう一つは風が強い爲に土が飛んで來るのが缺點だ。從つて此の町のリンクとしては市内に撒水をしてリンクを作る方が得策である。數年前の冬自分がアドバイスしてホツケー・リンクの大いさのリンクを作つて貰つたが、かなり良い氷が得られた。小學校の校庭を一面氷らして大リンクを作つて貰ふ樣に賴んであるが經費さへ許せば出來る事と思ふ。

以上で北海道のスケート場の事に關して一通り述べて來た。こうしてみると札幌、苫小牧を除いて滿足なリンクは殆んどないといふ事になる。然し北海道のリンクの發達は之からである。今迄我々當事者も水を相當貯めなければ良い氷は出來ないものと思つて居た。又水を撒いて作るリンクも唯水を流し込んで、之がうまく行かないから地上に良いリンクは出來ないものと思つて居た。然し今日になつてみれば之は根本的な誤りである。今や我々は地上に撒水して湖沼を利用したリンクよりも良い氷を作る方法を知つたのである。此の方法で氷が得らるゝならば北海道の自然的條件を以てして至る處リンクの出來ない處はない。我々はスケートポンドといふ觀念を離れて居る處に良いリンクを作り、多數の良いスケーターを輩出せしめたいと思つて居る。只北海道の氷は比較的堅いので、フイギュアの爲にはアレナの設備を必要と考へるが、之は建設は勿論維持費の關係から至る處に望めない。若しオリムピック冬季大會が札幌で行はれたならば、此の方面に大いに期待すべきものがあつた譯けであるが返上し、またそれが中止された現在では室内リンクは一切考慮に入れず、我々は何處迄もスケートはウインター・スポーツであつて、屋外で寒い冬を征服してこそ初めて意義があるものと考へる必要がある。スピードは勿論、アイス・ホツケーも勿論屋外で行ふべきものであり、フイギュアも室内でなければ出來ない等と云つて、昔の發生地を忘れ、餘り興業化して行く傾向は感心出來ないものと考へる。

（筆者前北海道氷上競技聯盟理事）

紀元二千六百年奉祝神宮大會の趣旨（二）

一、本大會が明治神宮御祭神に對する神事奉仕たるに鑑み之が參加者は啻に技術に長じたるにとゞまらず人物に於ても優れたる者を選拔すること

一、國民體育の尊嚴性の自覺の下に參加者並に觀衆に規律統制ある行動を行はしめ以て眞摯明朗なる雰圍氣の裡に國民的訓練を實施する機會たらしむること

一、本大會實施に際しては中央地方の關係各官廳體育運動團體其の他關係各方面と密接なる連絡を保ち充分なる協力を得て眞に官民一致の擧國的大體育祭典たるに遺憾なきを期すること

スケートの搖籃時代を回顧して

三輪充武

スケート年鑑の發刊に際して上記の樣な主題を頂いた。なる程我ながらスケートに關係して此の方、隨分年をとつたものだと驚く位である。想ひ回らして顧ればスケートの會、つまり競技會、何かとお顏出ししたのは大正六、七年の頃からで、今日迄にざつと二十年の歲月を經て居る。勿論諏訪地方へスケートが輸入せられたのは明治三十七八年の頃で其頃から大正六、七年迄には既に十何年かの間隔がある。其上に諏訪地方にスケートが行はれる以前に札幌、仙臺等の地方は數年以前から普及して居た事を考えれば、搖籃時代とは正確には何の時代を云つてい〻のか迷ふ譯だが、二十年以前と云へば、現在活躍されて居る選手諸君などが赤ン坊の頃であつた事に免じて其時代の事を主に思ひ出して見たいと思ふ。それも自分の育つた諏訪湖の畔を中心として思ひ出した事を書いて見たいと思ふ。

ずつと以前の事では明治三十四、五年の頃、信州松本地方が中部地方では最初であるらしい。松本市に當時二家族の獨逸人が在留して松本城跡の外濠でスケートをしたのが初めで、人々を驚かせたと小學校の頃松中出身の先生から聞かされ、スケートと云ふ言葉を其時初めて教えられた。それから松本地方に滑走者が出來、松本中學校內同氣會購賣組合とか云ふのが仙臺から所謂ブレードに溝のある仙臺式スケートと云ふのを取次捌賣した。仙臺との關係はどうして始められたか不明である。諏訪では明治三十年頃農學博士稻垣乙丙氏が歐洲から歸朝の際、靴に着脫する木部と金具で出來て居るスケート機具を携へて上諏訪の小學校に寄贈され、諏訪地方で此のスケートを行ふ事を勸められたとの話が殘されて居る。本格的に普及して來たのは北海道

示めされたからで、當時既に下駄スケートが出來、非常な勢ひで流行していつた。此諏訪式下駄スケートがスケートを諏訪地方に普及せしむるに非常に役立つた代りに器具として不合理な此の爲めに技術の發達を阻害せられ、今日に至つてまだ其影響を受けて居るのは惜い事である。

明治三十九年から四十二、三年頃までは此地方の地方として尤も熱のあつた時代でスエーデン公使夫妻、英國代理大使大使館員等多數、外人も次々と來遊して湖畔には木造ながら休憩所も數ヶ所建てられ大會も盛んに擧行され、數萬の觀衆を吸收した。今から考へると嘘の樣な狀景であつた。當時の大會と云つても陸上の運動會をそのま〻氷上に移した樣なもので、選手達は何週競爭、滑走出來る程度の人は旗拾ひ、パン喰競爭と云つた程度のものや假裝行列等カニーバル式のものばかりであつた。でも中等學校レースに松本中學や大町中學の參加があつたのを見ても普及の速かであつた事が分かる。陸上競技界の猛者三島彌彥氏や二荒伯などが見へられたのも當時である。下諏訪の秋宮リンクも開設され宿舍は滿員の盛況であつた。明治四十二、三年頃から地元の南信日日の主催で毎年諏訪湖一週スケート大會が開催され十年位續行された。

かくて大正四、五年頃からは常連も出來、日本スケート會が結成され、會員は僅か三、四十名であつたが全日本結成への基礎をなして行つた。

萬朝社では此頃から毎年諏訪湖へスケート團體を募集して來て氷上運動會を催した。諏訪湖畔には旅館は鷺之湯一軒で、そこで朝食を食べたりした。よくこんな前準備等のお世話を委せられたりした。

日本スケート會の第二回スケーティング大會は萬朝報の後援で大正十一年二月十一日紀元節に下諏訪秋宮リンクに擧行された此大會の劃期的であつた事は初めて國際ルールに準據（と云つても今から見れば變な事ばかりであつた）したフイギュア・コンテストが行はれた事である。競技種目と云へばスクール、フイギュアに於てはサークル、エイト No. 1、No. 2、チェンヂ No. 5a、No. 5b、スリー No. 7の三種目でこれにフリー・スケーティングは別に時間の制限もなかつた。審判は交野政邁氏、河久保子朗氏、田代三郎氏、柳澤敏文氏の四氏で、出場者二十數人、面白いから得點表を出して見ると次ぎの通り。

		スクールフイギヤア得點	フリースケーティング得點	合計
一等	五代正友（帝　大）	二〇・二	一〇・〇	三〇・二
二等	平川一郎（松　高）	一三・一	一二・三	二五・四
三等	小澤重武（上諏訪）	一二・〇	六・三	一八・三
四等	小口勝郎（下諏訪）	九・九	七・五	一七・四
五等	篠原茂雄（下諏訪）	一〇・二	六・七	一六・九
六等	森田諒二（松　高）	一二・四	三・六	一六・〇
七等	村津　要（松　高）	一一・六	四・二	一五・八
八等	小口孫六（早　大）	九・五	四・二	一三・七

我が國最初の榮冠は五代正友氏によつて占められ、フイギュア、スケーティングに對する研究熱は勃然として擡頭した。此のコンテストでスリーの足をかへる時、フリーレツグを降ろしてストツプしてから次ぎの足のフイギュアにかゝり、これをしないで滑つた者もたつた三名きりであつたので、大體の程度は想像出來る。此會には北海道から内藤芳雄氏も出席され、當時として全日本を網羅して居た。アイス・ホツケーは下諏訪秋宮リンクの出來る頃から行はれ、競技も時々行はれたがオフサイド等の事もなく誠に自由なもので、誰れか一人は敵ゴール前にチャンスを待つて居る等呑氣なものであつたが、追々カナダ式ルールに依る様になつた。此第二回大會の同日に東京チーム對諏訪チームの仕合があり、引分けに終つたが其メンバーをあげると次の様な諸氏で、スケートのよく滑れる人は誰れでも選手になれた。其時代にはデフエンス三名、センター一名、ウイング二名、ゴールキーパー一名で合計七名であつた。

〔東京チーム〕　河久保、田代、宮川、澤田、藤田、柳澤
小口孫

〔諏訪チーム〕　河西、小口勝、小口卓、篠原、小澤、田中、渡邊

大會の翌日十二日モスコウに於てスケートを修得せられた渡邊理惠氏來諏せられ、實地にフイギュアのコーチをせられ河久保氏の所持せるパニンのスケート（露語）を解説された。

大正十二年には上諏訪に上諏訪スケート倶樂部が出來て公園の濠にリンクを經營する様になり帝大學友會スケート部も上諏訪湖畔へ早大スケート部は下諏訪へ各々合宿して練習する等非常に賑はつた。第二回の日本スケート會のコンテストには遠く北海道より、關西より選手諸君が來られた。一月二十一日スクールフイギュア競技終りたるも翌日雨の爲めフリースケーティングを中止したるは實に殘念で

あつた。フイギュアの課題も前年に比し非常な進歩で、次の様であつた、

一、後進サークル・エイト　No. 3
二、前　進　チェンヂ　No. 5b
三、前　進　スリー　No. 8a
四、前　進　スリー　No. 8b
五、前進ダブルスリー　No. 10

出　場　者

松浦（帝大）　可知（松高）　久保（北海道）　中島（北大）
田中（帝大）　佐藤（帝大）　平川（松高）　小澤（上諏訪）
小口勝（岡谷）　後藤（北大）　五代（帝大）　波多野（學習院）　中西（帝大）　村津（松高）　和達（帝大）

審　判　員

交野、田代、山際、内藤、河久保の五氏

であつた。尚當日行はれた專門學校二千五百米リレーは、日齒、帝大、松高、早大等の出場あり、其メンバー等を見ても青木末弘氏、佐藤昌彦氏、五代正友氏、中西久氏、村津要氏、平川一郎氏、兩角政人氏、小口孫六氏、柳澤敏文氏等があり、隨分珍らしいものであつた。

大正十三年の第四回日本スケート會大會には　秩父宮殿下の御台臨を仰ぎ、川岸村のリンクで擧行された。殿下も早朝夜間共に高島公園リンクにてスケート御練習遊ばされスポーツの宮様の御名に背かせられず忽ち要領を御會得遊ばされた。

今年度特記すべきは上諏訪スケート倶樂部が、日本で最初の五百米に正規トラツクでスピードの競技をI・S・Uの規則に準據して行つた事で、こゝに記錄が生れたけれ共其結果たるや甚だ失望すべきものであつた。上諏訪スケート倶樂部では此以後諏訪聯合青年會の後援を得て毎年數年間に亘つて擧行した。内地の諏訪に幾分なり共スピードスケートの選手が出來たとすれば此結果であると云へる。當日二月三日には西風が相當強くあつた事も、レコードに大分關係して居る。朝日の植村陸朗氏も此會に態々來諏されて種々助言を與へられた。次ぎに記錄を上げれば、

五　百　米	一分二秒
千　五　百　米	三分四十五秒
五　千　米	十四分八秒
一　萬　米	三十三分三十秒

優勝者は小林喜勢雄氏であつた。

第二回目よりは潤間兄弟、小池富治氏等が次第に表はれる様になり、記錄もどし〳〵更新された。

次ぎの年にはインターカレッヂが松本の六助池で擧行される様になり、スケートは次第に學生の手に移つて行つた。一方日本スケート會を中心としたフイギュアの大會を年々整備して今回の基礎をなした。又劃期的の事は室内スケート場の發達で、これによつて全く野外スケート場からフイギュア・スケーターの姿を消し、アイス・ホッケーも同様の運命に進み、スピード・スケートのみが野外スケート場を使用される狀態となつた。

以上は自分を中心にした見方で、甚だ蕪雜な記錄であるけれ共、こんな事もあつたと今こゝでスケート年鑑の初刊に當つて述べる事も滿更無駄の事でもないと考へて、たゞとりとめもなくぐだ〳〵記したけれ共、追々は歴史として今日のある所以を思考せしむる一端として取纒めたいと思つて居る。

（筆者中部スケート聯盟理事）

明治神宮國民體育大會の歌

定詞曲
撰作作
省强荏
生　耕
力　田
厚一山

秋の空　ゆたかに澄みて
菊薫る　代々木の聖地
我等　今
御靈仰げば
畏さに　心はふるふ

聖恩旗　輝き渡り
感激の　若き血燃えて
吾等　今
意氣も高らに
興國の　力を誇る

君が代の　御惠うけて
鐵と　强く雄々しき
吾等　今
神の御前に
體育の　精華を競ふ

青雲の　たなびく極
大八洲　護らひ立てる
吾等　今
大き御民の
身と心　磨かむこゝに

朝鮮に於けるスケートの沿革發達

朝鮮氷上競技聯盟

はじめに

朝鮮は滿洲、北海道と共に冬季競技就中氷上競技に惠まれた土地である。然し乍之を詳しく云へば、京城以南の土地は氣溫も高く餘り適して居らず、北も日本海岸方面は降雪多く好適の地でなく、朝鮮に於ける氷上競技の盛な地としては、最北鴨綠江岸の新義州、大同江岸の平壤、漢江岸の京城、國境の江界、此の四地方を揚げなければならぬ。

京城に於ける氷上競技の期間は例年十二月末から一月下旬までの一ヶ月間を普通としてゐる。期間の長さから云へば到底滿洲北海道に及ばないが、幼年時代よりスケートに親しむ者の數の多いことは滿洲同様である。のみならず特に朝鮮の人はその體軀が非常にスケート競技に適してゐるやうであるから、朝鮮の氷上競技は將來益々盛になることゝ考へられる。

尙亦朝鮮に於ては野球、陸上競技その各種の競技選手の中心をなすものが殆ど内地からの移入選手であるといふのに比し、獨り氷上競技の選手のみは、朝鮮に育ち、朝鮮に養成せられたものであり、内地の移入選手の如き殆んどその影を見ないといふ現狀で、此の氷上競技こそは獨自の立場に於て、眞の朝鮮の鄕土スポーツであると自負するに足るものである。亦逆に東都の各大學に活躍してゐる優秀選手が之また多く朝鮮出身者に依つて占められてゐるといふことは、如何に朝鮮が全日本の氷上競技に重要な位置を占めてゐるか明白に物語つてゐるものである。

搖籃時代

詳らかな事は記錄もなく判然としてゐないが、大正十年

頃の京城に於けるスケートは漢江の人道橋下、總督府慶會樓、昌慶苑等の池、郊外の田等に於て、締め金物付の練習用スケート、下駄スケート等に依つて行はれてゐたやうである。現在のスピード・スケートの如き殆どその影を見なかつたやうである。當時スケート大會と名のつくものは朝鮮體育協會が主催で慶會樓の池で行はれてゐたものがあつただけであると聞き及んでゐる。その後漢江リンクが設備され、此所で年に一回全鮮氷上選手權大會が開かれるやうになつたのである。京城以外の他の土地に於けるスケートに就いては前述の事より推して知ることができると思ふ。之等の時代は現在朝鮮或ひは東都各大學に於て活躍しつゝある幾多の名選手輩出の大いなる礎石となつた譯である。

清溪川リンクの二ケ年

昭和二年十二月京電が始めて、京城中央部を東西に流れる清溪川の下水を東大門附近で堰き止め、五百米の細長いリンクをつくつた。設計の失敗から第一年目はうまくいかなかつたやうであつた。次年昭和三年十二月五百米リンクを東大門に到る橋を境として上流に一つ、下流に一つ都合二つつくつた。此の年は前年の經驗により大成功を來し、下流の方のリンクでは翌年一月全鮮氷上選手權大會が華々しく開催せられた。此の大會には當時新義州商業在學中の石原省三君が參加し、五百米、五百米背進等の選手權を獲得した。二回に亘る冬季オリムピックに活躍した石原選手の少年時代の滑氷振りは當時のスケート關係者の記憶にあるところである。

城大豫科並びに城大の氷上ホッケー部設立に大いに力を盡くし、ひいては朝鮮ホッケー界を今日あらしめる基礎を作り、後年には城大、城大豫科、全京城等の各軍の名監督として活躍せられた萩健一氏は當時城大豫科スピード選手として石原選手等と大いに競つたものである。

かく考へ來ると京電リンクには數々の思ひ出話があるが衞生上の見地から三年目に當局が不許可の方針をとつたため、爾來再び清溪川上のスケートなど全く思ひもよらぬことになつてしまつた。

朝鮮に於ける氷上ホッケー競技の誕生

昭和三年十二月から昭和四年一月にかゝる期間は實に吾

が朝鮮氷上ホッケーにとつて記念すべきときであつた。

即ち此のシーズンに於て京城帝大、城大豫科、鐵道局の三團體にホッケー・チームの誕生を見たのである。之等チームの誕生に、また競技の指導に大いに力を盡されたのは城大豫科教授藤井秋夫氏並びに京城高工教授佐伯國治氏であつた。此の兩氏こそは朝鮮の氷上ホッケー界にとつて忘れることの出來ぬ大恩人といはねばならぬ。

朝鮮最初の外來チーム

昭和四年一月鴨綠江の全日本氷上大會に出場、その歸途にある柳澤監督引率の早大軍を迎へて漢江リンクで全朝鮮との對抗試合が行はれた。ホッケーは昭和三年十二月末滿洲各地に轉戰大いに研鑽を積んだ後、前記全日本大會に參加して貴重なる體驗を得て歸城した城大チームが、スピードは白狗クラブを中心とせる全京城軍が對戰した。兩競技何れも技倆の差により慘敗を喫したが、此の競技會は吾が朝鮮氷上競技界殊にホッケー競技に重大なポイントを與へたのである。即ち現在の飛躍せる朝鮮のスケート競技は此の時を轉機として生れたといつても過言ではない。

第一回全鮮アイス・ホッケー選手權大會

昭和四年十二月から五年一月に亘るシーズンに京城師範にホッケー・チームの誕生を見、朝鮮のホッケー・チームは四つとなつた。例年漢江に行はれてゐる全鮮氷上選手權大會に此の年始めてホッケー競技が加へられた。當時の新聞記事を左に轉記して初期の朝鮮ホッケー競技を偲ぶことにする。

城大軍優勝す

全鮮アイス・ホッケー

第一回全鮮アイス・ホッケー選手權大會は二十六日午後二時から漢江人道橋リンクで開催せられ一進一退の接戰の後、京城帝國大學チーム終に覇權を獲得した。戰績左の通り

城大ユーリステン對鐵道

ユーリステン 1—0 鐵道
1—1
0—0

ユーリステン（坂本、梶山、柱、妹尾、齋藤、佐藤）
鐵道（宮川、大平、綱干、吉松、全龍吉、早稻田）
（第一ラウンド）
七分城大妹尾鐵道のルーズを見事にぬきシングルドリブルでゴールを得。
（第二ラウンド）
鐵道軍攻勢に出で三分後大平ゴール左横よりシュート一點を加へ一對一にて試合は白熱し十六分城坂本ゴール直前よりシュート一點リードする。
（第三ラウンド）
二對一の接戰に開始され鐵道五分にしてよくゴール直前より好機を得たが城大ゴールキーパー佐藤の好防にならず十二分頃からゴール四十碼にしば〳〵迫つたが得點とならず終に二對一でタイムアップ。

大豫對京城

京師 3—0 豫科（2—0、2—1）

豫科（松岡、桝永、齋藤、川口、伊藤、佐伯）
京師（正木、中島、洪祐伉、秦、武藤、一柳）
（第一ラウンド）
京師軍のコンビネーションよく豫科を制して五分京師武藤シュートゴールなし十分中島一擧に續いてゴールを見せ二點をリードす。
（第二ラウンド）
豫科回復を計つて攻勢に出でタックルよく三分桝永のシュートに一點を回復したが、京師軍の奮鬪は五分中島、十二分洪祐伉のゴールに二點を加へる。
（第三ラウンド）
京師軍のコンビネーションは豫科を壓し、終始ゴール四十碼に攻め入つて三分中島、七分正木、十一分秦シュートゴール、あり三點を加へ結果七對一で京師大勝。

決勝戰

京城帝國大學對京城師範戰

（城大ユーリステン棄權す）

城大 0—0、3—1、3—0 京師

城大（花井、拓植、原田、伊藤、萩、植松）
京師（正木、中島、洪祐伉、秦、武藤、一柳）
（第一ラウンド）
一分にして城大拓植ゴール直前よりシュート一點を得、京師軍活躍したが再び城大軍ゴールにパックあつて五分拓植シュートゴールを見舞ひ、十六分拓植のパス見事にシュート三點を獲得す。
（第二ラウンド）
城大の攻勢は京師軍に一歩も讓らず四分、六分に拓植、八分萩とシュートに三點を得る、京師軍正木の奮起は九分ゴールとなり一點を收め、京師の勇躍となる、十五分城大、拓植ドリブルシュートゴールを加へる。
（第三ラウンド）
京師軍最後の攻勢に出で終始城大軍のゴールに迫り、十四分中島のゴールに一點を得たが六對二で遂に城大軍第一回アイスホッケー選手權を獲得した。

朝鮮アイス・ホッケー聯盟創立

昭和五年十二月、藤井氏、佐伯氏、宮川氏、萩氏、花井氏の獻身的努力に依り朝鮮アイス・ホッケー聯盟の創立を見、加盟するもの城大城大豫科、鐵道、京師、高工の五團體であつた。昭和六年一月中旬同聯盟第一回のリーグ戰が開かれ、此所に現在の朝鮮氷上競技聯盟の母胎を見るに至つたのである。此の第一回のリーグ戰には後年城大チーム黄金時代を現出せしめ、また朝鮮のホッケー競技の向上躍進に力のあつた梅津、川西兩選手が城大豫選手として始めての出場をなしてゐたのである。（此の年城大豫科は盛岡に遠征しインターハイのホッケースピード兩競技に優勝し吾が朝鮮のために萬丈の氣を吐いた）

京城フイギュア・スケート會創立

昭和七年十二月佐伯、新木、增見、小口、白石等の諸氏によつて京城フイギュア・スケート會が組織され、會員を廣く募集、始めて朝鮮に於けるフイギュア競技向上の機關が生れたわけである。

滿大を破る（昭和七年二月）

當時歐洲遠征後の滿大は庄司、平野氏等の名選手を多數

擁し、日本内に於ては未だ敗戰したことの無いといふ强豪であり、全日本の大會には連年優勝をしてゐた。黎明期にある朝鮮氷上ホツケー界の向上飛躍の爲には多數の選手を滿洲に送り、此の强豪滿大と對戰せしむるにありといふ藤井氏、萩氏その他聯盟役員の意向により多大の犧牲を拂ひ朝鮮氷上界に於ては全く稀有の二十數名からなる全京城チームを奉天に派遣した。

試合は滿大リンクで行はれたが、接戰の末延長戰を演じ遂に一點の差を以て全京城軍の優勝する所となつた。此の試合は無敵滿大を破つたことを偉とすることのみならず、各チームより選拔された二十數名の選手が滿大の優秀なるテクニツクを夫々自分のチームに持ち還り、愈々朝鮮ホツケー界の隆盛を來す基礎が出來たといふことに於て、此の滿洲遠征は所期の効果を十分に收めたのである。

朝鮮氷上競技聯盟設立

昭和八年十二月、朝鮮アイス・ホツケー聯盟、京城フイギュア・スケート會、從來內地人側として別個の行動をしてゐた白狗クラブをはじめ各種スピード競技團體等を打つて一丸とした朝鮮氷上競技聯盟の設立を見た。聯盟會長にはアイス・ホツケー聯盟會長の林茂樹氏を推戴した。此處に於て始めて、大日本スケート競技聯盟の如き統制的な體制を有する聯盟になつたわけで以來今日に到るまで、加盟團體の統一、氷上競技の普及發達、競技精神の昂揚等、年々その發展を來したのである。

學生競技會に活躍（昭和八年一月）

全國學生氷上競技大會並びに五帝大聯盟戰に城大、全國高專大會に大豫、全國中等大會に京師が夫々出場し、城大は五帝大聯盟戰に優勝（以後連年優勝）大豫は高專ホツケーに優勝三年制覇の榮冠を得、京師また中等ホツケーに優勝、各躍進途上にある朝鮮ホツケー界の爲に萬丈の氣を吐くの慨を示したのである。

明大、新京商業來征（昭和八年一月）

難波選手を始め有數の選手を多數擁する明大スケート部を迎へ漢江リンクで全京城とのホツケー戰が行はれた。レフェリーは滿大OB庄司氏、全京城は梅津川西の名コンビに京師中島、吉原、草島選手を加へ完璧の陣容を以て肉迫したが僅かの差で惜敗した。新京商業對京師の一戰は大接戰の末京師軍に凱歌が揚がつた。

此の時小林選手のフイギュア・エキジビションが行はれ比較的他の競技に比し遲れてゐた朝鮮フイギュア・スケート界によき刺戟劑を提供したのである。

早稻田大學氷滑部招聘大會（昭和九年一月、昭和十二年一月）

スピードにホツケーに東都に於て斯界に重きをなしてゐる早大氷上軍を京城に前後三回迎へてゐる。第一回の來征は既に記した通りであるが、第二回の來征は小須田、中島鈴木、吉崎、廣松、岡、別所、小片等の名選手で固めたホツケー・チームとスピード選手數名であつたが、ホツケーのみ城大、全京師の二チームが對戰、前者は七對二、後者は五對三夫々惜敗した。

第三回目の來征は牧監督の引具したスピード李聖德、南洞邦夫、中村禮吉、ホツケー安部忠文等のオリムピツク選手を始め三十數名からなる豪華陣であつた。

戰前既に京城否全朝鮮のスケート・ファンは大いなる關心を寄せてゐたが、殘念ながら此の年は例年にない甚しい暖氣の爲淸凉里リンクの氷質惡く、折角の大會も好記錄を見ず甚だ遺憾であつた。然しながらスピードに於ては朝鮮軍李仁源、金基滿、尹明洙等の選手は此の無敵早大軍を前に善戰し、來るべきオリムピツクを目指す半島スケート界の爲貢献する所大なるものがあつた。

ホツケーに於ては、朝鮮に於けるホツケーの技術向上の爲に牧監督は勝敗を度外視し一日三回の試合を快諾され、鐵道、延專、醇和の三チームと夫々戰を交へた。何れも早大軍の優勝する所となつたが、朝鮮のホツケーは內地の夫に比し甚しき懸隔あるものでなくインドアリンクの現出、組織的合理的練習如何によつては全日本選手權獲得も遠き日ではあるまいとの印象を强く與へたのであつた。フイギュアは黑田、伊藤兩選手のエキジビションを行つた。

全體を通じて此の早大軍の來征は昭和十二年一月シーズンに於ける最も大なる收穫で必ずや來るべきオリムピツク選手の輩出に大いなる源泉となるものであることを確信して止まぬ。

明大ペンギンクラブの來征

（昭和十二年一月）

早大軍來征の後を受けて金正淵選手を筆頭にスピード王國明大軍を迎へ、此の年は朝鮮スピード・スケート會の當り年の觀を呈したのである。

例年行はれてゐる諸大會

1、朝鮮神宮奉賛氷上競技大會

朝鮮全道の守護神朝鮮神宮奉賛競技は毎年一月上旬行はれることになつてゐる。朝鮮の現狀がシーズン短かく、他に競技會を種々行ふ事困難なるため、常に此の神宮大會は聯盟の選手權大會をも兼ねしめてゐる。參加するものスピードに全鮮各地より百名内外あり、ホツケーは十數チームフイギュアは十數名あり、此の參加選手は年々增加の傾向を示し、此の大會に益々光彩を放つてゐる。

2、全鮮女子オリムピツク氷上大會

朝鮮新聞社に於ては大正十四年より毎年全鮮女子オリムピツクを行ひ、女子スポーツ發達向上の爲大いに貢献する所あつたが、昭和十年一月より氷上競技をも行ふことになつた。廣來數年特に擅れてゐる女子スケート競技の發展は此の女子オリムピツクに依つてなされてゐるのである。

3、鮮滿對抗氷上競技大會

朝鮮と滿洲は鴨綠江を境界として隣接の地にあり、鮮滿一如の名の下に種々の物に於てその交驩が行はれてゐる。スポーツに於ても古くから陸上競技、柔道、水泳等各種の對抗競技が行はれてゐたが、氷上競技に於ても昭和十一年二月第一回鮮滿對抗氷上競技大會が鴨綠江リンクに於て行はれた。第二回は昭和十二年一月末同じく鴨綠江で行はれたが、第一回のスピード、ホツケー兩種目敗戰の雪辱をなした。即ち榮あるスピード優勝の大トロフイーを朝鮮に持ちかへることが出來たのである。

將來益々此の大會は發展を示し、名選手を産み好記錄を作り全日本の氷上競技會に大なる貢献をなすことを信じて疑はぬ次第である。

むすび

前回オリムピツクの選手金正淵、李聖德兩氏を迎えた今後の朝鮮スピード競技界は益々隆盛を極める事であらう。

ホツケー、フイギュア兩競技は今後インドア・リンクが現出すれば格段の飛躍をなすことであらう。

滿洲に於けるスケートの沿革と發達

木谷辰己

滿洲に於けるスケート界の歷史も相當古い。まだロシアが滿洲に勢力を張つて居た日露戰爭前から行はれて居た形跡がある。日露戰爭直後、日本人がドシ〳〵滿洲開拓に入り込んでから、中には長野縣や東北の人々があつて、冬の娯樂として安東や奉天や大連等で川の上や池や沼で、極めて幼稚なスケートが行はれて居た。無論日本人ばかりで滿人でやるものはなかつた。滿人と云へば今のやうに非常に文化が發達した今日でも、滿人でスケートなどやるものは學生の一部を除いた以外絕對にないといつていゝ。だから滿洲のスケーターと云へば必ず日本人だと云ふことを記憶して貰ひたい。

先年の冬、諏訪に滿洲選手が遠征した時、方々で滿洲國人に間違へられて、抗議すればする程滿洲國人と思はれ「滿洲國人も日本語が上手になつた」なんて云はれ、選手のお孃さん方が、カン〳〵になつて怒つたと云ふナンセンスさへあつた。滿洲國人が滿洲スケート界の第一線に飛び出すのは、恐らくこれから五年以上經たなくては實現しないだらう。

滿洲のスケート界が競技會化したのは大正十年位であつたらう。その頃のスピード競技は、全滿都市對抗兼選手權大會も行はれて居たがタイムなんかはどうでもよかつた。一周百五十米か百六十米か正確な計測はなく、たゞ狹い小さなリンクを五周とか十周する競技會であつた。無論スケートも選手級は本スケートと稱して、靴の底に捻ぢつけるもので、何回目かの大會に大連の選手がロング・スケートを持つて出たら、問題になつた事さへあつた。それ位だから一般の人は餘程いゝ人が本スケートで、他は皆諏訪で流行して居るやうな下駄スケートであつた。

競技も大正十三年位からやゝ本格的になつて安東では、鴨綠江上に滿鮮大會とか、奉天では全滿選手權大會とかが行はれた。個人競技ではあり乍ら、尙都市對抗の氣分が濃厚であつた。勿論此の頃ではカナダ製や歐洲製のクリスチヤンヤーなどが使用されて居た。そしてボツボツ安東からは吉岡とか穴戸とか、大連からは佐川とか、遼陽からは中野とか、奉天から多田とか安達とかの名選手が現はれて來た。大低の競技はオープンコースで行はれて居た。間もなく安東から木谷、石原等、後世名を擧げた選手が出て來るし、撫順から津山、奉天から倉町、大澤等が擡頭して來た。

當時から滿洲では安東の鴨綠江、長春（今の新京）の他以外は悉く地上に撒水して凍結させたもので、何も北歐のものを眞似したものではない。たゞ井戸水が地上に落ちると直ちに立派な氷になるから、それからヒントを得たと云つた方が早い。昨年暮北海道からのニュースとして本邦に於て初めて歐洲視察の結果、地上撒水のリンクを作成して見るんだと發表されて居るが、日本內地では初めてであらうが、滿洲では今から廿年も前から日本人の手によつて撒水リンクが實現して居たのだ。手入の方法などは農家や油屋が多い丈け、それ丈歐洲より滿洲の方が苦心をした譯である。北歐の撒水方法や手入の方法なども視察して見たが大して滿洲より進んで居るとは思はなかつた。然し滿洲でも地上撒水によつて正規のリンクの出來たのは昭和五年奉天に國際運動場が建設されて初めてであつたのだから大した自慢にもならない。

偖て話は以前に歸つて大正十四、五年になると選手出現ばかりでなく、これを統制指導する機關も創設せられて、愈々本格的になつたが、當時その任に當つた人々は前大日本スケート競技聯盟會長久保田晴光氏を初めとし、木谷辰己、岡部平太、林田學、齋藤兼吉の諸氏であつた。この頃から女子スピード選手も現はれた。まだ〳〵幼稚ではあつたが、嘗て極東大會に日本氷上を代表してマニラに遠征した飯村敏子孃はその當時の代表者であつた。その頃は男子の記錄が五百米で多田君のもつ五四秒フラットであつたから（恐らくそれが日本記錄であつたらう）女子の記錄の如きは全く問題でなく一分十二、三秒であつた筈だ。越へて大正十五年豫ねてハルビンに四十七秒臺のルスチヤイと云ふ大選手の居ることを聞いて居たので、これを奉天に招聘

してコーチに當らせることとした。此の時滿洲の選手達は初めて無理のない外人のフォームに接する事が出來て喜びもするし驚きもした。今迄は全く我流で、各人各樣の型で地方地方によつて滑り型を異にして居た。ある處は中腰の處もあるし、ある地方は手を左右にやけに振つたり、或る地方は又兩手を同時に前後に振つて前に行つた時丈けは艶をつけるつもりか額の處に一寸合掌を組んで見たり、今から想像すると全く苦笑ものであつた。ルスチヤイはモスコウで鍛へ上げ世界選手權にも出場した事があると云ふので、スケーターの尊敬の的となつた。滿州のスピード・スケーターはルスチヤイから教へられる處が多い。

其の後色々と微細の點に就いて攻究されたが、大體に於てルスチヤイのフォームが滿洲選手全部の根本となつて居ることは否み難い。此は朝鮮、滿洲に迄及んで居る筈で、若し今日外國の選手のフォームと日本の選手とが異つて居る處がありとすれば、其の後の研究が今日あらしめたものと云つて差し支へない。例へば日本の選手は外國選手に比し上半身の曲折が甚だしく、多少胸部を壓してストロークを短かくして居るが如きが脚部の短い日本人にとつて止むを得ない改造と云はなくてはならぬ。ルスチヤイのストロークは、一歩十二米位はあつた。それでこれを一時は皆眞似した時代もあつたが、徒らにストロークを長くするために更にピッチが上がらず、いゝ効果をもたらさなかつたが爲である。何と云つてもルスチヤイは日本スケート界の一恩人だが、此恩人の出身國ロシアに對して翌昭和二年に斷乎として國際競技を挑んだ事は劃期的な壯擧であつた。

ハルビンを中心とするロシア側のスケート界はこの滿洲の挑戰を心よく引き受けた。即ち世に云ふ日露對抗氷上競技がこれである。此の時に撰ばれた日本側の選手は石原省三、木谷德雄、津山滿男、倉町太郎の四名で總監督は岡部平太君であつた。戰前ハルビンの居住民では日本側も露西亞側も日本選手の餘りに小さなのに勝敗は問題にして居なかつた。餘計なことをして態々恥をかきに來なくてよさゝうにと眉の間をしかめた御役人すらあつた。何故かなれば體格ももとよりであるが、第一記錄が全然違つて居た。日本の五百米五四秒に對してロシアの四七・八秒だから、局外者がさう思つたのも當然であらう。

ルスチヤイはもうモスコウに歸つて居なかつた。だがル

スチヤイと同格と稱する選手も澤山居た。何しろ初めての國際對抗競技であるからその人氣の素晴らしいことは全く驚いた。

ハルビンのスタヂアムは小さくはあつたが、その頃運動施設のあまりなかつた滿洲の日本人としては一寸驚されもし、又其の氷質のいゝのにも感心させられた。練習をやつて見ると氣持のよい程滑走する。そこでタイムを取つて見ると先づトツプの倉町が五〇秒フラツトを出して一同が驚くよりむしろ呆れてしまつた。その頃の倉町は五五秒位な筈であつた。石原がやつて見るとこれ又四九秒八と出た。誰れもかれも五〇秒を割るのでコースの計測が怪しいと云ふ事になり、ロシア側に再計測を要求するとカン〳〵に怒つた。それでも日本側で頑張つて計つて見ると二百五十米の筈が二百二十何米しかなかつたのでガツカリした。

イザ戰つて見るとロシア側は宣傳程の力はなく、全く問題にならず、五百米から一萬米迄日本側全勝と云ふ事になつた。今手許にその記錄がなくて殘念だが確か五百米は石原が五〇秒フラツトでロシアの選手の一番いゝのが五七秒だつたと記憶して居る。此の對抗競技は豫期した程の刺戟はなかつたが、兎も角も外國人にも勝てると云ふ強い自信が出來て勃興せんとするスピード競技に素晴らしい拍車が掛けられたことは事實である。

此の機運に乘じて第一線に乘り出した選手は、奉天の河村泰男、大澤義一、大連の池見義男、撫順の吉野正滿等の諸君があり、又女子としては安東の鹽谷綠、奉天の井上浩子の諸嬢があつた。其の間日本内地に於ける全日本選手權大會に男女選手を派遣して常に王座を占めて居た事は周知の事であらう。諏訪の小池君が滿洲を慕つて奉天に來たのも亦此の時代であつた。時恰かも昭和五年スケートを中心とする國際運動場が數十萬圓を投じて滿鐵の手に依つて建設された。これを機として滿洲スケート界發祥地たる安東から漸次その勢力が奉天に移動し初め、昭和八年滿洲氷上競技聯盟が創立せられ、その本部を奉天に置くに至つて全く名實共に奉天は滿洲氷上界の中心となつてしまつた。

滿洲のスピードスケート界の發達に就いて絶對に見逃がす事の出來ないのは滿洲單獨で北歐に選手を派遣した事であらう。其の豫選は昭和六年一月十日、十一日兩日に渉つて新設國際運動場リンクに於て行はれた。兩日共に風速强く殊に前日の如きは砂塵を含む朔風が遠慮なくリンク上に舞い下り氣溫も亦零下十八度と云ふ最惡のコンデイションであつたため、その記錄の如きも期待を裏切る事甚だしいものがあつた。

◆第一日目

河村	五百米	五千米	
小池	五〇秒〇	一〇分四〇秒六	
石原	五六秒一（轉倒）	一〇分二四秒六	
吉岡	五〇秒一	一〇分二五秒一	
木谷	五三秒七	——	
池見	五一秒	一〇分一三秒一	
大澤	五一秒九	一〇分二二秒九	
	五〇秒八	一〇分二九秒三	

出場選手は全滿より指命選拔された以上七名であつた。

◆第二日目

河村	千五百米	一萬米	
小池	二分四一秒〇	二一分一七秒〇	
石原	二分五〇秒〇	二〇分四一秒五	
吉岡	二分四一秒六	二〇分二一秒一	
木谷	二分四三秒五	二〇分〇六秒三	
池見	——	——	
大澤	二分四一秒八	二〇分五六秒七	
	二分四七秒八	二一分一五秒一	

以上の成績に基いて直ちに石原省三、木谷德雄の兩君を日本代表と決定し、別に河村泰男君を同行せしむる事になつた。

此の破天荒な壯擧は日本スピード・スケート界を世界のレベルに迄引上げた。そしてこれが自信となり動機となつて易々として一九三二年のレークプラツド及び一九三六年のガルミツシュの冬季オリンピツク大會に日本をして選手を派遣せしめ得る事になつたのである。

滿洲のスピード・スケート界は今や質に於て、量に於て全くの黃金時代である。新進山下、阿部を祖國日本の東都に送つたとは云へ、未だ後續部隊は雲の如く、將來の日本スケート界を背負つて立つべく意氣込んで居る。試みに滿洲各地のスケートリンクを一巡せんか。其處には無數の有名無名の選手、若くば選手たらんとする者が飛燕の妙技を盡しての猛練習を見るであらう。殊に施設に於て手入れ法

に於て東洋一を誇る奉天の如き一日平均三千名の練習者を見るに及んでその壯觀に一驚すると共に絶大な心强さとを感ずるであらう。

ホッケー

滿洲に於けるアイス・ホッケーの歴史も亦相當に古い。張作霖氏華かな時代、これを取り卷く外人官廳及び出入商人の數は相當多かつた。そしてかうした近代スポーツには在住日本人より一歩先じて居た事は否まれない。奉天には英、米、露人等によつて形成されたムクデンクラブなるホッケーチームがあつた。天津にも英、米人によるクラブ・チーム。哈爾濱にも露人チーム等があつて常に試合が行はれて居た。

そんな時日本人は金網の外から物珍らしさうにオズ〳〵と眺めたやうな時代もあつた。大正十二、三年頃から大連奉天、撫順に日本人のチームが出來たが、それは誠に幼稚なものであつた。次で滿洲醫大に學生のみによるチームが編成されムクデンクラブのパーカー氏（元米國某大學のアイス・ホッケー選手）のコーチを受けて漸次チームらしいチームとなつて忽然と滿洲の斯界に君臨することになつた

其の頃の競技成績を擧げて見ると、

大正十四年　滿洲醫大 12——1 全撫順
ムクデンクラブ 13——1 滿洲醫大
ムクデンクラブ 3——1 滿洲醫大
昭和元年　天津クラブ 5——0 滿洲醫大
ムクデンクラブ 2——0 滿洲醫大
ムクデンクラブ 3——0 天津クラブ

此の頃滿洲醫大のチームは北河、稻葉、大賀、奥澤、林等一二年遲れて庄司、森川等が加はり、尙多少遲れて平野木下等云はば將來日本アイス・ホッケー界を背負つて立つ豪の者揃ひであつた。

昭和五年滿洲醫大は單獨を持つて歐洲遠征の壯途に立つた。競技成績としては殆んど見るべきものはなかつたが、新興日本の意氣を充分に見せて技術的に幾多の刺戟と收獲とを得た事は云ふまでもない。其の後各地の中等學校にも續々とチームが形成され、その實力あなどり難いものとなつた。就中新京商業、奉天中學等はチームとしてガツチリし內地の大學チームによく對抗し得る實力を養成することゝなつた。現在滿洲にあるアイス・ホッケーチームは無慮數十チームに達して居る。インドアリンクの建設と共に、その將來は一層期待されるであらう。

尙、滿鐵會社學務課に於ては冬期保健の見地から相當の補助を支給して直轄小學校に迄アイス・ホッケーを奬勵する事になつたので、その普及發達は云ふ迄もなく、輝ける過來の傳統と歴史とを充分死守し得るであらう事を約束出來る。

フイギユア

最後にフイギユアだが、滿洲のフイギユア・スケートは遲々として進歩しない。それはいゝ指導者の居ない事も大きな原因だが、冬の戸外はあゝした優長なデリケートな細技を要するスポーツには餘り寒さが嚴し過ぎるし、風速があり過ぎる爲だ。現在でも到る處フイギユアらしい事をやつてる人は隨分多いが、物になつたものは居ない。それでも新京の女學校がこれがトップを切つて殆んど全校こぞつて熱心にやつた爲、漸く全滿の女學生を初め有志達が目醒めて來つゝある。而かも滿鐵三十周年記念として滿鐵が全日本氷上軍を招聘したことは、フイギユアにも大きな刺戟を與へるものであつた。將來スピード、ホッケーと並んで內地に脅威を與へ得ると信ずる。

尙、現在曲りなりにもフイギユアらしいスケートが行はれるやうになつたのは、元醫大教授新京特別市立病院長山口夫妻及び東北出身武田二郎君あたりの熱意ある指導の贈物と云はなくてはならぬ。

（筆者、滿洲國氷上競技協會顧問、本聯盟評議員）

我國スケート界の國際的進出

日本のスケート界が、兎も角も國際的に知られたのは、大正十五年の春、日本スケート會が國際スケート聯盟に加盟してからのことである。勿論これは、日本でもスケートが出來る位にとゞまつて競技的には聊かの注目も拂はれなかつた。

この頃日本のスケート界は、全國學生氷上競技聯盟の結成に依つて、競技的に著しい進歩が促され、競技的國際進出に多大の興味と期待を抱かれたのではあつたが、未だ全國的統制を見ない頃ではあり、國際スケート聯盟に加盟した日本スケート會にしても組織的根據の上にある統制團體ではないのだから競技的に滿足のものを望むのはむしろ無理の話で、結局全國學生氷上競技聯盟の結成と活躍が動機となつて、やがて誕生するであらうと思はれる全國的統制團體の成立以後のスケート界に望みをかける以外、この場合としては何ものも求めることは出來なかつた。

さりながら、昭和の初期、方や全國學生氷聯を背景とする大日本氷上競技聯盟、方や日本スケート會の身がはりであるところの大日本スケート聯盟の二つの團體が日本のスケート界を中に挾んで全國統制のつば競り合ひをして居る所謂スケート界戰國の時代にあつても、スケートの技術方面だけは驚くべき躍進を遂げ、殊にアイス・ホツケー技は、滿洲醫科大學チームの精進と內地遠征に依つて著しい進歩を示した。

滿洲醫大チームが內地遠征を試みたのは、昭和三年で、この年醫大チームは完全なる全國的制覇を成し遂げたので、昭和四年の暮、我國スケート界の國際進出のトツプを切つて歐洲遠征を決行した。恰もこの昭和四年は日本のスケート界が統制されて大日本スケート競技聯盟の組織を見た年であるから、このスケート界はじまつて以來の破天荒の歐洲遠征には

全國一致を以て首途を祝し、激勵の辭を呈することが出來た。

滿洲醫大アイス・ホツケー・チームが國際戰線への競技的火蓋を切つて以來、つまり全國的統制機關たる大日本スケート競技聯盟が結成して以來、我國のスケート競技界は俄かに活況を呈し、滿洲醫大チームが歐洲遠征を決行した翌年滿洲氷上競技聯盟は、木谷德雄、石原省三、河村泰男等三名のスピード選手を監督岡部平太氏と共に、フインランドの世界選手權大會に派遣した。

そして滿洲醫大チームが歐洲にホツケー行脚をなし、スピード選手が世界選手權大會に出場した翌年、即ち昭和七年吾等が待望久しかつたオリムピツク出場がやつとのこと實現された。

第十回國際オリンピツク大會第三回冬季競技會は、昭和七年（一九三二年）二月四日から十三日迄十日間、アメリカ合衆國ニューヨークのレークプラシツドに擧行された。これに出場した我が代表は、監督佐藤昌彥、副監督飯田洋二、トレーナー小林進、星野仁十郎、スピード選手木谷德雄（主將）、石原省三、潤間留十、河村泰男、フイギュア選手老松一吉、帶谷龍一の十名で昭和六年十二月スキー選手一行と共にシヤトル航路の氷川丸で壯途に就き、昭和七年四月初日凱旋をした。

大日本スケート競技聯盟が少なからざる犧牲を拂つて第三回冬季オリムピツクに代表選手を送つたことは、その目前の利益である競技成績を無視して將來の効果、大會出場といふ經驗に依つて得られる將來の收穫に期待を置いたのであつて、この點から鑑みて、我國スケート史上に記念すべき一頁を作つた最初のオリムピツク遠征は、我がスケート界にとつて誠に貴い捨石であつたと云へる。

この考へ方は昭和十一年度の第四回冬季オリムピツクの場合にも適用されるのであつた。昭和十年の春來朝した世界的女子フイギュアの名手フイリツツ・ブルガー孃、世界的强豪と噂されたカナダ、サスカトン・アイス・ホツケー・チームの美技と强味を見た時、ホツケー、フイギュア、スピードこの三種目代表選手の檜舞臺への出場は、世界各國の技倆を充

分に檢討して來て貰へばよいのだと思ふより他何ものもなかつた。

だからこそ初出場のホツケー・チームは、全國的技術の普及を計る目的のもとに先づ選拔チームを以てこれに當て、フイギュア、スピードの種目も經濟能力の許す限りと事情の許す範圍に於て大多數の代表を派遣することに決定したのであつた。

我國のスケート競技界は漸くのこと世界のレベルには到達したが、水準突破迄には尙相當の時日を要するであらうから第一回、第二回と、このオリムピツク出場を貴い捨石として、この捨石を無にしないやう一層の努力を勵む必要がある。

滿洲醫大ホツケー・チームの歐洲遠征

我國スケート界に於ける國際進出のトツプを切つた滿洲醫科大學アイス・ホツケー・チームは、昭和四年十二月廿五日奉天を出發、シベリヤ經由で渡歐し滯在四十日間十二回の試合を行ひ、翌年三月五日奉天に歸つた。

この滿洲醫大ホツケー遠征チームの陣容及遠征日程更に試合成績は次の通りである。

◇メンバー

〔選手〕北河清(主)、稻葉喜久、大賀潔、林清一、西田豐比古、庄司敏彥、高橋壽夫、木下昌樹、平野進

〔監督〕山口清治、十川彌一

〔醫員〕三名

◇遠征日程

昭和四年十二月廿五日奉天發、廿八日敦賀發、卅一日ウラジオ發、昭和五年一月九日モスコー着、十二日ウキン着（四日間滯在）ウキン倶樂部と對戰、十六日ダボス着（滯在六日間）、インターナショナルチーム、サンモリツツ倶樂部、劍橋、牛津大學と對戰、廿三日パリ着（滯在五日間）在パリ倶樂部チームと對戰、廿九日ロンドン着（滯在七日間）在ロンドン倶樂部チームと對戰、劍橋、牛津大學チームと對戰、二月六日ベルリン着（滯在七日間）ドイツ體育大學、在ベルリン倶樂部チームと對戰、

十三日ベルリン發、廿五日ウラジオ着、廿八日敦賀着、三月一日下關、二日奉天着

◇試合成績

（醫大）

1	全ドイツ	15	4
2	全ベルリン	12	2
3	全ミュンヘン 一回戰	1	0
4	同 二回戰	3	1
5	全スイス	8	1
6	全チエツコ	12	1
7	全ポーランド	5	0
8	全イングランド	7	2
9	ケンブリツヂ	5	4
10	全オーストリヤ	7	4
11	全ウイン	5	1
12	全アイブゼー	0	1

以上

滿洲醫大チームの歐洲遠征の目的は、只アイス・ホツケーの勉强にあつたのである。

滯在期間僅かに四十日、この間に十二回の試合を行つて居る。途中の汽車、汽船の時間を省けば、二日に一回の割合で試合をしたことになり、全く身體を休める暇もなく次から次へと轉戰をしたのであつた。

然もその相手は殆んどその國の代表チームである。成績は十一敗一勝で、誠に香しくないのではあつたが、恐らくこのチームとしての目的はちやんと達して居たものと見られる。

滿洲醫大チームは勝敗は別として、殆んど各國の代表チームと手合はせをすることが出來、從つてその各々の力も充分に知り得た譯けである。この一九三〇年度に於ける歐洲選手權はドイツが獲得したので、先づドイツが最强と云ひ得られるが歐洲の第一流チームと云へばドイツをはじめとしてイギリス、オーストリー、ポーランド、チエツコ・スロバキヤ等で第二流は、フランス、イタリー、スエーデン、ハンガリー、ベルギーといふところである。

最初の全ドイツとの試合は、十日間汽車汽船にゆられた疲勞の上に、初めての試合で彼等の戰法もわからず、またインドア・リンクにも慣れて居なかつたので散々であつた。

身體の小さい日本選手が、大きな彼等に向ふ時は、子供

が大人に双向ふ感があり、日本選手が直ぐへたばつてしまふのに反して、彼等は幾度となくくりかへしくりかへし猛烈に攻め立てゝ來る樣は恐ろしさを感じさせる程のものであつた。見物に來て居た日本人はこれを見て一樣に體力だと叫んで居つたが事實この時ばかりは體力の增進、體格の改造を痛切に感じたといふ。

然し各所を轉戰して居る中にだん〳〵と試合馴れもし、ロンドン以後五つの試合は、彼等の戰法もわかり、一行の元氣も恢復して全力を擧げて戰ふことが出來、これと同時に彼等のスピードも決して恐るゝに足らず、從つてシュートも防ぎ得られ、體力の差も感じなくなり、差は只技倆にありと思ふやうになつた。

スコアの差も少なくなり、試合の初めから接戰することが出來た。彼等はよく攻め、よく守る。全員が防禦に當りまた前衛三人が攻擊する戰法は見ごとなもので、フェンス等は殆んど使用しない。シュートも身體のスキングに依るシュートではなく、むしろプッシュに近く、然も非常にドライブのかゝつた强いものであつた。

歐洲の選手は一般に日本選手より年長者が多く最高三十八歲、最低十九歲、然も中年のもの達がチームの中心となつて活動して居り、そのプレーは實に洗練された美しいものであつた。

アメリカやカナダのアイス・ホツケーは、今や野球を壓し、フツトボールと共に人氣の中心をなして居るが、歐洲もこの頃既に著しい進步を遂げカナダに對立しやうとして居る。

イギリス、ドイツ、スイス何れも熱心ではあるが、中でもオーストリーの熱心には驚くべきものがあつた。

ドイツは非常に盛んではあるが、まだまだスポーツ・パラスト等もアイスホツケー中心として使用出來ず、僅か一週間の中四時間位ホツケーに時間を與へてあるばかりである。ロンドンにも五つのリンクがあるが選手は總べてカナダで練習した既成品ばかりで、然もこゝでも多くの練習時間を持たないのである。スイスはまたアマチユア競技といふよりは世界各國から集つて來る觀光客のために、または客を呼ぶための政策に競技を行つて居るかの臭ひがある。

それから見るとウインの選手は未成品ではあるが、一シーズン二千圓のカナダのコーチヤーを雇ひ、猛練習をやつて居る。大きなリンクも晝間は一般に開放し、夜間はこのリンクが見る間に五つのアイス・ホツケー・リンクに組み立てられて猛練習がはじまる。また子供に盛んに練習をさせ「自分達の時代には、世界に覇を唱へることは出來ないかも知れないが、次の時代にはきつと世界を征服して見せる」と云つて居た。これでこそ雨天の中ではあつたが、カナダに一對零でたつた一度にせよ勝つことが出來た譯だと感心したのであつた。

滿醫ホツケー・チームは、試合に於ては不成績を極めたが、このチームの遠征の目的は完全に遂行することが出來た譯で、然もスポーツを通じた歐洲人に與へた日本選手の印象は頗る好感的のものであつた。

殊に氷などあるまいと思はれて居た日本から一大學チームがアイス・ホツケー選手を歐洲に送り、各國の代表選手と試合をしたことに對しては、日本人の進步的努力にいよ〳〵以つて驚異を感じたのは當然と云へやう。

滿洲スピード三選手の歐洲遠征

石原省三、木谷德雄、河村泰男のスピード・スケートの三選手が、監督岡部平太氏に引率されて世界選手權に出場する目的を以つて奉天を出發したのは、昭和六年一月廿日午後三時半であつた。

一行は、シベリヤを經由して一路ストツクホルムに向つたが、こゝには二月七、八日の二日間歐洲スピード選手權があるので、これに先づ出場、次いで二月廿一日、廿二日兩日フインランドのヘルシンクフオルスで擧行される世界スピード選手權大會に臨むことになつて居た。

この歐洲派遣選手決定の爲、滿洲體協の滿洲氷上競技聯盟では、一月十日及び十一日の兩日奉天の國際競技場のスケート・リンクで派遣選手詮衡の競技大會を開いた。競技は二日共午後一時から行つたが、第一日目の氣溫は實に零下廿七度、第二日目もこれに劣らず、從つて氷質堅くコンディションは頗る惡いものであつた。

詮衡方法は、世界選手權通り五百米、千五百米、五千米一萬米の四種目に全部出場することを必要し、その總得點の最良のもの二名を派遣することにした。

競技の結果 木谷德雄選手が二二七・一二五點で第一位、

石原省三選手二二八・五三一點を得て第二位となり、この二選手が派遣選手に決したが、五百米及び千五百米に優勝した河村泰男選手も同行することになつた。派遣選手詮衡競技會の成績は次の通りであつた。

◇五　百　米

1河村五〇秒、2石原五〇秒一、3大澤五〇秒八、4木谷、5池見、6吉岡、7小池

◇五　千　米

1木谷一〇分一三秒一、2池見一〇分二二秒九、3小池一〇分二四秒六、4石原、5大澤、6河村

◇千五百米

1河村二分四一秒、2石原二分四一秒六、3池見二分四一秒八、4木谷二分四三秒五、5大澤二分四七秒八6小池二分五〇秒

◇一　萬　米

1木谷二〇分六秒三、2石原二〇分二一秒一、3小池二〇分四一秒五、4池見二〇分五六秒七、5大澤二一分一五秒一、6河村二一分一七秒〇

以　上

滿洲スピード選手一行は、ノルウエーの首都ストツクホルムに到着するや直ちに二月七、八兩日擧行された歐洲選手權大會の招待レースに第一日は河村、木谷の兩選手を第三日目は三選手を出場せしめた。

成績は五百米に於て河村選手が四七秒九、五千米では木谷選手が九分二九秒五を出して、潤間留十選手がこの年の一月諏訪湖上で行はれた全日本大會で作つた日本新記錄九分三二秒二を破つた。

第二日の千五百米に於て木谷選手は二分三四秒六の日本新記錄を出して第一位、二位は河村選手で二分三五秒八、三位の石原選手は二分三六秒九であつた。

この年の歐洲選手權では二〇〇・九一點でフインランドのツンベルグが優勝し、二位は同じくフインランドのプロムグイストで二〇二・三六點、三位はオランダのヴアンデルシエアで二〇三・八七點であつた。

世界選手權大會は二月廿一日、廿二日の兩日フインランドのヘルシングフォルスで擧行、日本選手一行大いに健闘これ努めたが未だ及ばず、第一日第二日を通じフインランドのツンベルグ選手が壓倒的好成績を占めて、この年の世

界選手權を獲得した。然し日本選手諸君も目覺しい奮闘ぶりで日本新記錄を續出せしめた。

世界選手權に於ける日本三選手の成績は次の如し。

◇五　百　米

1ツンベルグ(芬蘭)四四秒四

〔日本選手タイム〕　木谷四七秒二、河村四七秒六、石原四七秒六　▲木谷選手の四七秒二は日本公認記錄の四八秒と石戸選手の作つた日本最高記錄四七秒六を共に破つて居る。

◇五　千　米

1プロムグイスト(芬蘭)八分五八秒六

〔日本選手タイム〕　木谷九分三一秒、河村九分三六秒一、石原九分五三秒四　▲木谷選手の九分三一秒は歐洲選手權で自身で作つた九分二九秒五には及ばなかつたが、尙この年の全日本選手權で潤間留十選手が作つた九分三二秒二の日本新記錄を破つたものである。然し木谷選手自身の最高記錄九分二三秒八には及ばなかつた。

◇千五百米

1ツンベルグ(芬蘭)二分二四秒四

〔日本選手タイム〕　木谷（十一位）二分三三秒九（日本新記錄）、石原(十五位)二分三五秒五、河村(廿位)二分三九秒五

◇一　萬　米

1プロムグイスト(芬蘭)一八分二二秒二

〔日本選手タイム〕　木谷選手(十三位)一九分二五秒二河村選手(十六位)一九分五四秒八、石原選手(廿位)二〇分三秒三

一行が歐洲を立つて歸途に就く最後の招待レースであつたフインランドのタムペレーでの成績は、木谷二一〇・六四點、石原二一二・六〇點、河村二一三・二四點（この年の全日本選手權獲得者大澤選手の記錄は二二〇・一三點）石原選手は五百米で四五秒九を出し、木谷は五千米に九分一二秒の大記錄を出した。その他日本記錄も歐洲で作つた各選手自身の記錄もこの大會で全部破つてしまつた。

尤もこの大會の會場は一週三三三米で、國際規約の正規コースではないからこれが國際記錄として公認され得るかどうかは疑問であるが、一行としては歐洲に行つてから一

週間毎に目覺ましく進んで來た記錄が四週間目の最後にこゝ迄達したといふことに對して少なからず滿足をした。

スピード選手一行が歐洲へ行つて四回の大會に參加し、一回毎に躍進に躍進を重ねて行つた理由は、恐らく次の諸點に原因すると思ふ。

1、氣溫　一行が居た頃の北歐の氣溫は、大低零下五度から零下十度だつた。只タムペレーの第二日目は廿度にも降つたが、その他は大體右の氣溫だつた。それに北歐は殆んど無風と云つて良い狀態で、滿洲の四米以上の風速に比較したら練習も、競技も非常に樂なものであつた。

2、氷質　氷は湖水や海邊や或は普通の競技場を凍らせたものであるが、自然氷の場合であつても、その上に非常に丁寧に加工してあつて誠に滑りよい。それに手入れが行届いて居る。

來る年も來る年も五〇秒が切れなくて全く自信を失つて居た選手達が、歐洲に着くや否や、いきなり四八秒臺となり、四七秒臺となり、四六秒臺となり、遂に四五秒九迄出したといふことは、勿論技術の進歩といふことも多少はあるが、重大な原因は、むしろ氷面の狀態にあつたと云へる。歐洲では必ずしも自然氷ばかりではなく、純然たる加工リンクもある。歐洲選手權の會場であつたストックホルムのリンク、及びモスコーのデナムの如きは陸上競技場をそのまゝ凍らせたもので、日本でも中部、東北、北海道にかけもつとよい氷が出來るのではないかと思ふ、若しその邊に澤山のリンクが出來たら日本のスケート界は一層進歩するのではなからうか。

ブルガー孃の來朝

女子フイギュア・スケーチングの世界的名手フリツツ・ブルガー孃が、朝日新聞社の招きに應じて、ウインからはる〴〵とやつて來たのは昭和十年二月であつた。

ブルガー孃は、一九三二年の第三回冬季オリムピツク大會並に同年度の世界選手權大會に於て、ノルウエーのソニア・ヘニー孃と覇を爭ひ、惜しくも第二位となつたが、その後の歐洲選手權にはチャンピオン・シツプを獲得して、女子アマチュア・スケート界ではソニア・ヘニー孃と共に

世界の双璧をなして居る。從つてその妙技は、スケーチング・パヴロヴアとして謳はれ、女子フイギュア界の珠玉である。

同孃は一月十五日單身故鄕ウイーンを出發し、十八日にはモスクワでシベリヤ鐵道に乘りかへ、卅日關釜聯絡船で下關着、二月一日晴れの入京をした。

同孃の妙技は、二月十、十一日の兩日東京芝浦リンクに於ける公開大會をはじめとして、關西に於ける數回のフイギュア大會に公開されたが、その圓熟した妙技は、觀衆を悉く魅了するものがあつた。

大日本スケート競技聯盟では、この遠來の名手の爲、あらゆる援助を與へることになり、男子及び女子のフイギュア選手を大會に出場せしめ、更にアイス・ホツケーの模範試合をもなして、公開大會を盛會ならしめた。

ブルガー孃は、滯在二ケ月間、四月四日神戸から海路歸國したが、彼女が日本のフイギュア・スケート界に與へた印象の一つ一つは、それが世界フイギュア・スケート界の全貌である點に於て誠に貴重な來朝であり、殊に第四回冬季オリムピツク大會の前年であつたことは、我がフイギュア選手に目標と信念とを與へるものとなつた。

ブルガー孃のフイギュア・スケーチングを見て、日本のフイギュア界は、これからだといふことを強く感じたが、それにしてもブルガー孃のなし得るフイギュアを當年十二歲の稻田悅子孃が曲りなりにも、然も個々的に見れば完全になし得て居るのを見て、フイギュア・スケート界に於ける日本の位置も、世界のレベルを追ふて着々と實をあげて居ることを知つた。

ブルガー孃の公開第一回歡迎スケート大會は、二月十日午後二時半から芝浦スケート・リンクで開催された。

當日は　秩父宮、同妃、高松宮、同妃、竹田宮、同妃六殿下の台覽を仰ぎ、松田文相、內田鐵相も臨場、また一般觀衆も指定席、普通席を埋め盡して素晴しい盛況を極めた。

ブルガー孃の妙技は、P・C・Lオーケストラの奏する伴奏曲ハツピイタイムに依つて最初のスケーチングが行はれ續いてブリユー・ダニユウブが伴奏された。この時の服裝は第一回目が燃えるやうな眞紅のもの、二回目はダニユウブ河の水を想起させるやうな靑のコスチユーム。鏡のやうな氷面にその艶姿をひるがへすスケーチングぶりは、ス

ケーチング・パブロヴアの名にふさはしいもので、觀衆を歡嘆と興奮の坩堝に誘ひ込んだ。

スケート會第二日は翌十一日午後二時半から同じ芝浦リンクで　朝香宮、同湛子女王、北白川宮、同多惠子女王の四殿下の台臨を仰いで行はれた。

ブルガー孃の公開スケート大會は同十六日、同廿四日の四回に亘つて開催され、この間、十三日から三日間赤坂山王リンクでは講習會が開かれ、廿三日には同リンクで送別カーニヴアル祭が行はれ、この他關西でも數回の公開スケート會があつて四月四日神戸出帆の香取丸で歸國した。

ブルガー孃の日本訪問に依る印象は次のやうである。

日本のスケート界の設備と技倆がこれ程迄進歩して居やうとは思つて居ませんでした。まだ見知らぬ日本へ參つて見ますと、そこには澤山のスケーターが居られて、恰も親戚の娘が參つた時のやうに喜んで歡迎して下すつたことも全く豫期しないことでありました。

私の今度の御訪問が日本のスケート界に少しでも御役に立てばよろしいがと念じて居ります。

カナダ、アイス・ホツケー軍の來征

大日本スケート競技聯盟招聘のカナダ、サスカトーン・アイス・ホツケー・チームは、昭和十年三月二日バンクーバーを出帆、同十五日横濱に入港し、直ちに山王ホテルに投宿、東京に於て六回、關西に於て一回の試合をなして四月九日横濱出帆の氷川丸で歸國した。

スキーのノルウエーに對して、カナダはアイス・ホツケーに依つて世界を席卷して居る。その强味に就いては殊更に云々する迄もないことであるが、一九二〇年初めて世界選手權がアントワープに開催されて以來、大會毎に選手權を獲得し、一九二八年正式に國際アイス・ホツケー聯盟が成立してからは、サンモリツツ、ベルリン、スリニカ、レークプラシツドと連年選手權を獲得し、更に一九三五年ダボスに於ける世界選手權をも握つて、七年連續制覇の偉業に輝き、堂々アイス・ホツケー王國たるの誇りを示して居る。冬季オリムピツクでも全勝の記録を保持して居るは勿論のことである。

大日本スケート競技聯盟の招聘に應じて來征したサスカトーン・クエーカー・チームは前年ブタペストの世界選手權大會に出場した强チームであつて、オリムピツクを控へた我國のチームにとつては、水準檢討の爲めにも技術錬磨のためにも非常に役立つものであつた。

來征のカナダ・サスカトーン・チームはカナダ・アマチユア・ホツケー・アツソセーションに所屬する一流チームで、一行はサスカトーン・チームの名譽會長フランシス・レオ・ビショツプ氏夫妻、監督ジョニー・ウオーカー氏、コーチ、ロヂャース氏、選手九名の十三名で、これを個人別に紹介すると、

フランシス・ビショツプ氏夫妻　サカストーン・アイス・ホツケー・チームの名譽會長である、同氏はオツタワ市の大實業家で製粉會社、ビール會社の重役、バトルフオード地方に廣大な農園をも經營して居る。カナダの名士である同氏が夫人同伴で來朝したのはスポーツを通じ日加親善に貢献するところが大と云へやう。

ジョニー・ウオーカー氏　カナダに於てアイス・ホツケーの名監督として有名の同氏は、先年も同チームの歐洲遠征に參加して全勝の快記録を殘した。サカストーン・チームがカナダに於ても國外に於ても常に優秀な成績を收めて居るのは、一に氏の規則正しい科學的なマネージメントに依ると云はれて居る、同氏が今回の來征に參加した理由は、未だ若い日本のアイス・ホツケーの爲に、カナダの模範的ゲームを見せ度いことゝ、日本のアイスホツケーを本格的にコーチしたい希望からであると云はれて居た。

アルバート・ロヂャース氏　チームのコーチと選手を兼ねて居る同氏はウエズレー大學のコーチから引き拔かれてサスカトーン・チームに移つた人である。以前からサスカトーン・チームの缺點はデフエンスの弱いことであつた。その爲長い間良いコーチを探して居たが同氏を得て宿望は達成した。選手として一度DF線を守ればスタート早く斷然光つて居た。

ピーター・アトキンソン氏　FWのライト・ウイングを守る、身長五尺八寸、十九歳で將來を矚望されて居た。

ダグラス・ケーンス氏　F・C、スチツクワークが巧みで、チームのゴール・ゲツター、十九歳、頭のよいプレ

ーぶりは充分觀衆を魅了した。

アル・ニューボルド氏　FWのレフト・ウイング、十七歳の最年少者、然し非常に有望なプレーヤーでホッケーの爲めに生れて來たやうな選手である。スピードのあるキビ〳〵したプレーが特色をなして居た。

エディ・マーティンソン氏　FWのライト・ウイング、練習熱心のプレーヤー、ニューボルド氏と同年であるが身長六尺の巨人である。

ジョニー・バーレンデイン氏　F・C、來朝選手中唯一の妻帶者で年齢も廿五歳、豐富な經驗を持つプレーヤーだけに何んとも云へない巧味がある。F・Wではあるが輕い靴をはいてデフエンス線を助ける等はヴエテランならでは見られぬところ。

ナツプ・キヤリヤー氏　F・Wのレフト・ウイング、小さい時からF・W專門、年齢廿四歳、身長五尺七寸、特にスケーテングは一行中指折りの名手。

ジヨセフ・オスボーン氏　デフエンスの偉材、バトルフオード大學卒業六尺豐かの選手、身體が大きいだけにカヴアの範圍も廣くテクニツクの巧い選手で、カナダでは度々模範試合に出るので有名である。

ロナルド・サザーランド氏　デフエンスの有力のメンバーで、防禦の次にすかさず攻めるその早さはチームの至寶と云はれたのもなる程とうなづけた。

クラーク・バーリンガム氏　ゴールキーパーを承つて全軍の士氣を鼓舞する同氏は當年十八歳、身體は小さいが勇敢でよく動き、まるでゴムのやうである。

カナダ・チームは十五日來朝。中一日休養の後十七日日光軍と對峙して待望の世界一の腕前を見せてくれた。試合に先だち一時半、カナダ軍を先頭に日光、全學生、慶大軍が陸軍戸山學校軍樂隊の吹奏に迎へられて入場、次いて日加兩國々歌吹奏裡に國旗掲揚をなし、續いて大日本スケート競技聯盟會長久保田敬一氏の挨拶、カナダ公使の祝辭あつて、愈々歴史的國際試合の第一戰は開始となつたが、流石は世界一のカナダ軍、十九對三で日光軍は輕く一蹴された。

日光との試合を皮切りにカナダ・チームは七回連續的に試合を行つたが、日本チームはどれも、これも完全にカナダ・チームの敵でなく、遠來のカナダ・チームに捷らて名をなさしめた。

カナダ・チームとの試合成績左の如し。

第一試合

（三月十七日）　於芝浦

カナダ　19 ｛6—0、8—2、5—1｝ 3　全日光

〔開始午後一時半、審判　小西、牧二氏〕

〔カナダ〕		〔全日光〕
アトキンソン	FW	星野（仁）
マーチンソン	FW	神山（淸）
ケーンス	FW	阿部
パーレンデイン	FW	星野（藤）
ニユーボルド	FW	齋藤
キヤリヤー	FW	神山（武）
オスボーン	DF	和久
サザーランド	DF	澤本
ロヂヤース	DF	銀澤
バーリンガム	GK	金子
2	反則	0

第二試合

（三月廿一日）　於芝浦

カナダ　14 ｛6—0、6—0、2—1｝ 1　全學生

開始——午後二時

審判——中澤、難波二氏

〔カナダ〕		〔全學生〕
アトキンソン	FW	藤野（慶）
マーチンソン	FW	龜井（慶）
ケーンス	FW	古屋（慶）
バーレンデイン	FW	堤（慶）
ニユーボルド	FW	富田（早）
キヤリヤー	FW	小須田（早）
	FW	小柳（立）
オスボーン	DF	市川（早）
ロヂヤース	DF	須藤（立）
サザーランド	DF	村越（明）
	DF	鹽田（慶）
バーリンガム	GK	千村（立）
	GK	中島（早）
2	反則	0

第三試合

（三月廿四日）　於芝浦

カナダ 17（6－0、8－0、3－0）0 全日本

開始——午後二時
審判——手塚、三島二氏

〔カナダ〕		〔全日本〕
アトキンソン	FW	原
マーチンソン	FW	野司
ケーンス	FW	平下（梢）
バーレンデイン	FW	庄瓶
ニューボルド	FW	木倉
キヤリヤー	FW	二藤保
オスボーン	DF	朝間
サザーランド	DF	須元
ロヂヤース	DF	安
バーリンガム	GK	本平
1	反則	0

第四試合

（三月廿八日）　於京都

カナダ 23（1－0、16－0、6－1）1 慶大

開始——午後七時
審判——手塚、三島二氏

〔カナダ〕		〔慶大〕
アトキンソン	FW	藤井
ケーンス	FW	亀井
ニューボルド	FW	古屋
マーチンソン	FW	丹羽
バーレンデイン	FW	玉澤
キヤリヤー	FW	十嵐
オスボーン	DF	五田
ロヂヤース	DF	鹽川
サザーランド	DF	平崎
バーリンガム	KG	河
0	反則	0

第五試合

（三月卅一日）　於芝浦

カナダ 14（2－0、9－0、3－0）0 満醫補仁

開始——午後二時五分
審判——金子、中澤二氏

〔カナダ〕		〔補仁〕
アトキンソン	FW	林（昌）
マーチンソン	FW	栗矢
ケーンス	FW	庄司
バーレンデイン	FW	木下（梢）
ニューボルド	FW	平野
キヤリヤー	FW	西田
オスボーン	DF	早間
サザーランド	DF	堀
バーリンガム	GK	本間
3	反則	2

第六試合

（四月四日）　於芝浦

カナダ 22（6－0、8－0、8－0）0 苫小牧王子

開始——午後二時廿五分
審判——平川、朝長二氏

〔カナダ〕		〔苫小牧〕
アトキンソン	FW	瓶澤
ケーンス	FW	二北
ニューボルド	FW	原
マーチンソン	FW	戸卷
バーレンデイン	FW	朝倉
キヤリヤー	FW	重本
オスボーン	DF	安保
バーリンガム	DF	福井
バーレンデイン	GK	芳賀
0	反則	0

第七試合

（四月六日）　於芝浦

カナダ　16（5－0、9－1、2－1）2　全日本

開始――午後七時

審判――西田、安田二氏

〔全日本〕

澤瓶　柳　久藤保川　間元

野司（昌）

北二平庄木小　FW　下

和須安市　FD

早平　GK

〔カナダ〕

アトキンソン
ケーンス
ニューボルド
マーチンソン
バーレンデイン
キヤリヤー

オスボーン
サザーランド

バーリンガム

2　反則　0

カナダ・サスカトーン・アイス・ホツケー・チームの滯在は、一ケ月にも足らない極く短かいものではあつたが、彼等が殘した足跡は餘りにも力强い、また貴いものであつた。

總體的に見て彼等の一人々々がよきスケーターであることであつた。これは極めて平凡のことであるが、而も根本的なことである。彼等はスケートそのものが足の一部となして居る。これを比較的に云へば、日本人のスケートは、彼等が下駄を穿いて走る程のぎごちなさがある。これは彼等を育てた環境が然らしめたものであることは、十分うなづけることではあるが、既にインドアリンクを持ち、地方的にも發達して來た日本の今日、このハンデイキャツプは努力に依つてよく取り戻せるものと思ひ、また必ず取り戻さねばならない。この足あつてのステイツク・テクニツクであり、コンビネーションであることは、一度ステイツクを握り、また握らなくともアイス・ホツケーを知る人ならうなづけるところである。

よきスケーターであることは、よくエツヂを使ひ得るスケーターであることを示すものである。このエツヂを完全に使ひ得る結果は、ゲームの進行に應じ體を急激にかはすことも出來急停止することも出來、急激にスタートを起すものともなつて試合の運行上必要缺くべからざるものである。

彼等は足の一部であるスケーチングの巧みさをはじめとして、ステイツク・テクニツクにも、チームの編成、選手の適時交替にもよき範を示してくれた。

七戰七勝、段違ひの成績で全勝したカナダ、サスカトーン・アイス・ホツケー・チームの監督ジョニー・ウオーカー氏は日本を去るに臨み、我國プレヤーに對する印象、注意等を左の如く語つた。

『アイス・ホツケーは氷の上でする試合であるから上手にスケートすること、殊にスピードのあることが重要であるが、日本の選手がスケートの上手であることには感心した吾々滯在三週間中にも非常な進歩を見せて、吾々を驚かせた程であるからスケート技術についてはいふことはない。

然しアイス・ホツケーはスケート技術だけではない。第一にパツクをチエツクし、シュートする技術即ちステイツク・ハンドリング、第二にチーム・ワーク、そして第三にチームとしての戰法が必要である。第一は選手の各個練習に待ち、第二はチームの集團的練習に待つより他にないが第三の作戰は氷上に居ない監督の指揮が重要な役割を演ずるものであるから十分なる研究を必要とする。

最終の全日本との試合で、初めの十分間は非常な接戰で吾々も驚いたのであるが、日本選手が疲勞したので大差となつた。作戰上最初の五分で勝敗を決することもあると同時に、六十分のプレーであることを忘れず、これだけのプレーに對する體力をセーヴすることが大切である。吾々のプレーヤーは子供の自分からスケートで育つたやうなものであるし、ステイツクを持ちつけて居るので、くるぶしと手首の筋肉が發達して居る。自分は日本人の體格、試合氣分等から見て、アイス・ホツケーが大きな將來を持つて居ることを確信すると同時に、現在のプレーヤーよりももつと若い人々が子供の時から練習をはじめたら、吾々にとつても恐るべき相手となることゝ思はれる。吾々の訪問に依つて日本のホツケーを少しでも向上せしめたとすれば幸であるが、同時に吾々の受けた好遇に對しては深く感謝して居る。

第五回冬季オリムピック札幌大會

【第十二回オリムピック東京大會報告書より轉載】

冬季大會の招致

1、札幌が候補地となる迄

第十二回オリムピック大會の開催地が東京と決定した昭和十一年七月のI・O・C伯林總會では、次回の冬季オリムピック大會の開催地は遂に決定を見るに至らなかつた。我々關係者は東京が決定した以上、當然札幌も決定するであらう事を信じてゐたので、この結果は實に意外であつた。これはF・I・S(國際スキー聯盟)が、其年の二月の總會で確認したアマチュア規定に對し、I・O・Cと相容れぬものがあつたためで、これが完全に解決する迄、其決定を留保した爲である。

F・I・Sの確認したアマチュア規定とは屢々話題になつてゐる所謂スキー教師に對する見解の相違であつて、F・I・Sの見解によれば「スキー教師はプロフエショナルとは認められない。從てこれをプロフエショナルと斷定してゐるオリムピックには出場出來ない」と決議してゐる。從てこの儘では、假令札幌と決定しても、スキー競技は行はれないことになる。

斯樣な次第で、やがて決定するであらう札幌冬季大會の成功を願ふならば、第一にこのF・I・SとI・O・C間の問題を解決してから招致運動に着手せねばならない次第であつた。併し、關係者はこの問題を放棄して札幌を決定してゐる

解決に乘出すべく考へ、差當つては札幌招致に全力と全神經を注いだのであつた。

これには理由がある。それは「オリムピック憲章」に

國際オリムピック委員會は冬季オリムピック競技會開催地を選定する權限を有す。但し若し夏季競技の開催國にして冬季競技の全種目を組織するに充分なる保證ある時は其國に先づ選擇權を與ふる事を要す。

とあり、當然定まるべきものが定まらなかつたからである。つまり、夏季大會が東京と決定した以上は、冬季大會は日本に優先權がある次第でI・O・C伯林總會の直後、ラツール會長も我が副島伯に對しこの點を指摘し、且「安心せられたし」と言明する處があつた。

オリムピック憲章のこの條項は、昭和十二年六月のI・O・Cワルソー總會で多少グラ付き出し、翌十三年三月のカイロ總會で完全に改訂され、今後は、冬季大會の開催地は夏季大會とは全く別個に選定される事となつた。從て今は既に空文となつた條項とは云へ、當時の我國關係者の賴みの綱は正にこの憲章の存在だつたと言へる。

先に昭和十年一月にローマが東京大會のため立候補を辭退したと云ふ事實は、第十二回大會招致が有望視されて來たと同時に、東京に於ける招致運動も次第に本格的となり且白熱化して來た。これに附隨して冬季大會招致運動もスキー、スケート兩團體の間に活氣を帶びて來た。然し乍ら、未だ國內の開催場所が決定した譯ではなく、自薦他薦の候補地が續出し、加へて全日本スキー聯盟と大日本スケート競技聯盟の間に於ても意見の一致を見る事が出來なかつた。

此處でこの冬季大會競技場問題解決のため乘出したのが大日本體育協會である。體協は期限付にて立候補の届出を求めた處、昭和十年十一月二十日の期限迄に豫算額を添へ名乘りをあげて來たのが次の六地方であつた。

場所名	豫算額

霧ケ峰（長野縣）　三、四八〇、〇〇〇圓
乘鞍山麓（長野縣）　一、五八三、〇〇〇圓
志賀高原（長野縣）　一、六五〇、〇〇〇圓
菅平（長野縣）　一、五〇〇、〇〇〇圓
日光（栃木縣）　二、〇一九、五〇〇圓
札幌（北海道）　一、五一四、〇〇〇圓

以上六ケ所の候補地に就て體協は昭和十一年二月七日より三月十日に亙り調査員を派遣し、冬季オリムピック大會競技場としての自然的條件、人爲的條件並に財政狀態其他に就て調査せしめた。

日時	場所	調査員
二月七日	乘鞍山麓	木原均、小川勝次、伴素彦
二月八日	霧ケ峰	同上
二月九日	志賀高原	同上
二月十日	菅平	同上
二月十三日—十六日	日光	鄕隆、田畑政治、小川勝次、木原均、中川新、伴素彦、保科武雄
三月八日—十日	札幌	大島又彦、小川勝次、李相伯

以上六ケ所の候補地に就ては夫々調査員により報告書が提出された。

この資料を基礎として體協にては昭和十一年三月十八日に「冬季競技場調査委員會」を開催し、結局「札幌」を第一候補地とする事に決定した。

2、ワルソー總會と札幌

かくして、日本に於て第五回冬季オリムピック大會が開催される場合には札幌に於て開催することに決定した。札幌では早速「オリムピック準備委員會」なるものが結成され準備と招致の第一歩を踏み出したのであつた。一方全日本スキー聯盟は、昭和十二年二月シヤモニーに於て開催されたF・I・S理事國會議に津田正夫、高橋次郎兩代表を出席せしめ、F・I・SとI・O・Cの對立問題を解決すべく努力した。

一年經つてI・O・Cワルソー總會は昭和十二年六月に開催された。日本からはI・O・C副島伯が出席され、冬季競技關係者として全日本スキー聯盟顧問稻田男と高橋次郎が出席された。此の總會の模樣に就ては省略するが、結局、第五回冬季オリムピック大會は我が札幌と決定したのである。但しこの決定は條件付であつて、その條件は準備にあつた。即ち翌昭和十三年三月のI・O・Cカイロ總會に於て「札幌の準備良し」と認定を得る事が必要で然らずんばノールウェーで開催される事になつてゐた。

札幌決定が打電され、併せてそれには準備が條件であるとの事實を知るや、札幌は俄然活況を呈するに至り、大日本體育協會の慫慂により第五回冬季オリムピック札幌大會實行委員會を結成し直ちに準備に取掛るに至つた。立上りも鮮やかに又準備も急速に進捗した。

昭和十三年一月に札幌を訪れたクリンゲベルグは札幌の自然的條件並に準備狀況に就て絶讃の太鼓印を押した。從てワルソー總會で條件となつた準備に就ては關係者は等しく安堵したのであつたが、氣懸りな問題はF・I・Sの不參加であつた。幸にも昭和十三年二月にヘルシンキでF・I・Sの總會があるので、全日本スキー聯盟と協力して大野副會長と高橋次郎を派遣し、一擧にこの問題を解決すべく試みたのであつたが、不幸にも少數の差を以て敗れ、F・　・Sは依然I・

O・Cと對立し、オリムピックに不參加の態度を持續する事となつた。

3、札幌確定、されどスキー除外

F・I・Sのこの態度は同年三月のI・O・Cカイロ總會にも甚大なる惡影響を與へた。即ち同I・O・C總會に於ては第五回冬季オリムピック大會は札幌と確認されたが、スキー競技は正式のプログラムから除外され、加へて「如何なる形式に於てもこのシーズンに外國からスキー選手を招聘して、スキー國際競技を行つてはならぬ」とのキツイお達しに接したのであつた。已むなく日本は之を承認した。併し、勿論この儘で札幌大會を開催する意志はなく、今後の二年間に必ずこの問題を解決して、スキー競技を正式のプログラムに加へた完全な冬季オリムピック大會の開催を希望し、どうしても左樣せねばならぬと決意したからである。

ともあれ第五回冬季オリムピック大會は札幌に於て開催する事にI・O・Cカイロ總會は決定した。

4、スキー問題打開の努力

カイロ總會が終了し、永井事務總長の歸朝を待つて、稻田札幌大會事務局長が米國經由にて渡歐された。米國にて先づI・O・Cガーランドに面會、次でシカゴに同ブランデージを訪問し意見の交換をなし、意見全く一致し、スキー競技問題解決に多大の光明を認めて勇躍伯林へ出發されたのであつた。

ブランデージはI・O・Cの新進であり、且有力者で大の日本贔屓である。カイロ總會で札幌が危かつた時敢然札幌を主張し、遂に札幌確定を見たのは全く同委員の發言によるものである事は既に御承知の通りである。

此處にブランデージが永井事務總長宛の書簡と、スキー問題に關する意見書を掲載する。

拜啓

私ガアメリカノスキー新聞ニ掲載スルタメ用意シタオリムピック大會スキー問題ニ關スル記事ニ關心ヲ持タレル事ト思ヒ茲ニ同封御送附申上ゲマス。

一九三八年六月一日

アベリー・ブランデージ

永井松三殿

スキートオリムピック大會プログラム

國際オリムピック委員會ニヨリスキーハオリムピック競技種目中カラ除外サレタト言フ誤ツタ印象ヲ一般ニ與ヘテキル、コレハ眞相デハナイ。第五回冬季オリムピック大會ハ日本ノ札幌ニ於テ擧行サレル事ニナリ、一九四〇年二月三日ヨリ十三日迄行ハレル豫定デアル。スキーハ正式承認サレタ競技ノリストニ載ツテキル。而モ國際オリムピック委員會及ビ日本ノ組織委員會ハ共ニ國際スキー聯盟代表選手ノ參加ヲ希望シテキル。カクノ如キ參加ハ、言フ迄モナク國際競技聯盟ニヨリ準備サレ、ソノ上オリムピック規約ニ從テ取扱ハレネバナラナイ。

コレ別ニ新シイ事デモナケレバ特別ノ事デモナイ。而モ總テノ競技ニ於ケル總テノオリムピック種目ハ常ニ國際オリムピック委員會ニヨリ定メラレタル規約ノ指圖ヲウケテ行ハレネバナラナイ。ソノ規約ノ一ツハアマチユアノミガ大會ニ參加シ得ル事デアル。然シナガラ國際オリムピック季員會ハ各競技團體ノ各々異レル事情ヲ悉知スル故I・O・C自身アマチユアノ定義ノ下サウトシテハキナイ。

國際オリムピック委員會ハ一、二ノ競技聯盟ガ過去ニ於テ、有給ノ教師ヤ、コーチニアマチユアトシテ、競技參加ヲ許可シテキタ事ヲ關知シタカラ一九三七年ワルソー總會ノ決議トシテ、次ノ規約ヲ通過サセタ。

「オリムピック大會ニ參加セル競技ノ教導ノタメノ報酬ヲ受ケタル教師タルベカラズ、但シ教育課程ノ通常課目ト共ニ體操又ハ競技ノ初歩ヲ附隨的ニ教授スル者ヲ除ク」

オリムピック大會ニ於テ、アマチユアノ資格ガ保存サレル場合、カヤウナ規則ガ必要トナル事ハ明ラカデアル。

五十ケ國或ハソレ以上ノ加盟國ヲ有スル二十五種目以上ノ全テノ國際競技聯盟ハ、今迄F・I・Sヲ除イテハコノ規則ニ何等異議ヲ唱ヘル者ハナカツタ。コノF・I・Sハヘルシンキニ於ケル最近ノ會議ニ於テ加盟國中極ク少數ノ出席國ノ投票ノ結果僅カノ差ヲ以テナシタ議決ニヨリ今後オリムピツクノ規則ニ從ハヌ事ニ決定シタノデアル。

最近ノ國際オリムピツク委員會總會ノ報告ニヨルト前記ノ決定ハF・I・Sノ會長ノ個人的ナ影響ニヨル所多ク、同會長ハ教師ノ競技參加ヲ許可スル事ニ贊成シ、而モ、若シ彼ガ支持サレナイ場合ニハ辭職スル旨ヲ宣言シタ事ニヨルモノデアル。

コノ事實ニ拘ラズ、同會長ノ母國タル諸威スキー聯盟ニ於テハ、オリムピツクノ規約ニ從フ事ニ贊意ヲ表シテヰル。而シテF・I・Sノ行動ハ次ノ事ヲ想起スル時、一層驚クベキモノガアル。即チF・I・S選手權大會ニ教師コーチ及ビ他ノ職業選手ガ參加出來ルカ否カノ問題ヲ自分達ノ手デ決定スル事ヲ今迄許サレテ來タ事デアル。

經營者及ビ他ノ商賣人ガF・I・S委員會ニ於テ大ナル影響ヲ與ヘテヰルト云フ噂ガ廣ク傳ツテヰル。或所デハ、コノ影響ガヘルシンキニ於ケル行動ヲ生ミ出シタトサヘ言ハレテヰル。

オリムピツクノプログラムニ冬季競技ヲ包含スル事ニ反對シテ來タ委員ハコノ情勢ニ乘ジ冬季競技ヲ廢業ショウトシテヰルガ筆者ハ多クノ國ヤ聯盟ガ純アマチュアスキーニ力ヲ捧ゲテ來テ居リ、此等ノ國ヤ聯盟ハ國際オリムピツク委員會ニヨツテ見棄テラルベキデナイ事ヲ主張シタ。コノ見解ハ容レラレテ、眞ノアマチュアノスキー及ビオリムピツク・ムーヴメントニ關心ヲ持ツ聯盟モ個人モ從來行ハレテ居ル競技ヲ確實ニ持續シテ行フ樣ナ處置ヲ取ル事ヲ希望シツツ第五回冬季大會ヲ進メテ行クコトニナツタ。

コレヲ要約スレバ若シスキー競技ガ第五回冬季大會ニ於テ行ハレナイナラバ、スキーヤー自身ガアマチュア規約ノ下ニ競技スル事ヲ望マヌ所以デアルト言フコトニナル、コノアマチュア規約ハオリピムツク・プログラムニ載セラレテヰル他ノ總テノ競技ヲ統轄シ而モ二十五年ノ大國際聯盟ニヨツテ、是認サレル規約デアル。

ヘルシンキデナサレタルF・I・Sノ行動ハ加盟各國スキーヤーノ意嚮ト一致シナイモノデ又アマチュア・スキーノ爲ヲ思ヘバ決シテ善イコトデモナイト言フ意見ハ諸方ニ披瀝サレテヰル。中ニハ更ニ强硬ニ、若シ國際スキー聯盟ガコノ不都合千萬ナ態度ヲ捨テナイ場合ニハ、スポーツヲ商業的見地カラ見ズ、アマチュア・スキートシテ重要視スル個人及ビ聯盟ハ、結成シテアマチュア・スキ

ーノ安泰ヲノミ切望シ、專ラオリムピツク規約ヲ全面的ニ認メル聯盟ニ加勢スルデアラウトマデ言ツテヰル者モアル。

若シ米國カラスキーヤーガ一九四〇年ノ大會ニ參加スル事ニナレバ、現在ノ情勢ヲ變更セシメルタメノ處置ガ一日モ早ク採ラレネバナラナイ。之ハ多クノ國々カラ必ラヤ支持サレル、勿論期日ハ迫ツテヰル、代表チームハ一九三八年カラ九年ノシーズンニ選拔サレザルヲ得マイシ、又ソノ資金調達ハ直チニ着手セラレネバナラナイ。

I・O・Cガカイロニ於ケル總會ニ於テ今後、夏期大會ヲ保持セル都市ヲ有スル國モ必ズシモ冬季大會ヲ開催スル優先權ヲ有シナイト規定ヲ變更シタ事ハ、冬季競技ファンガ知ツテ置クベキコトデアラウ。今後ハ諸國都市何レカノ冬季大會開催申込モ同等ニ考慮サレルコトトナラウ。

諸威ノオスロー及ビスイスノサンモリツツハ既ニ一九四四年ノ冬季大會ヘ開催ノ申込ミヲナシテヰル。

歐洲に到着後の稻田事務局長は伯林に於て全日本スキー聯盟のアタツシュ高橋次郎と協力、先づ獨逸スキー聯盟に働きかけて大成功を收め、次で瑞西、伊太利、ユーゴースラビヤ、ハンガリーを巡り大童の奮鬪をされた。この結果、札幌オリムピツクにスキー競技を加へる件は愈々有望となり、正に次の階梯たる北歐へ向け出發せんとしつゝある際、突如第十二回オリムピツク東京大會並に第五回冬季オリムピツク札幌大會は中止返上する事となつた旨の電報に接したのであつた。

× × ×

現在に於てもF・I・Sは依然I・O・Cと對立狀態にある。然し今日迄の我國の努力により、現在のF・I・Sは形骸を殘し、新F・I・Sが結成される氣運に向ひつゝあるものと見る事が出來る。換言すればやがての冬季オリムピツクからスキー競技も立派に正式のプログラムに入るであらう事を信ずる。

實行委員會の機構

昭和十二年六月、I・O・Cワルソー總會に於て、第五回冬季オリムピックが條件付とは云へ札幌と定まるや、大日本體育協會は、N・O・Cの立場から北海道廳、札幌市、北海道體育協會等に働きかけ昭和十二年七月十九日に「第五回冬季オリムピック札幌大會實行委員會の誕生を見た。

この實行委員會は取りも直さず、札幌冬季大會の組織委員會であり、當初關係者は總て、米や獨の過去の冬季大會が採つたと同樣に、夏季の組織委員會とは別個の、冬季競技だけの組織委員會を作るべく希望し且運動したのであつたが、N・O・Cは遂にこの意見に同意を與へず、東京大會組織委員會の統制下に置くべく、其名も實行委員會としたのであつた。

委員長は石黑長官之に當り、副委員長に三澤市長と全日本スキー聯盟副會長大野精七博士が就任し、總務部長も大野博士の兼任となつた。この總務部長の椅子は東京組織委員會の事務總長（ゼネラル・セクレタリー）に當る重要な位置である。然し間もなく稻田男が歸朝され、今度は大野博士が渡歐されたので、代つて稻田男が就任され、同時に職制を改革して從來の總務部を事務局と改め、稻田男が事務局長に就任された。

實行委員會は、昭和十二年十二月二十七日に開催された第十九回組織委員會に於て、豫定通り第十二回オリムピック東京大會組織委員會の統制下に置かるゝことゝなつた。冬季オリムピックが夏季オリムピック組織委員會の統制下に置かるゝ事となり、實際はとも角、形式に於ては夏期の組織委員會が兼ねて冬季競技をも開催する樣になつたのはオリムピック競技史に新例を作つたものである。

尙實行委員の最後の顏觸は次の通りである。

第五回冬季オリムピック札幌大會實行委員會

委員長　石黑英彥　北海道廳長官

副委員長　三澤寬一　札幌市長
　　大野精七　全日本スキー聯盟副會長

委員　下村宏　大日本體育協會會長
　　永井松三　第十二回オリムピック東京大會組織委員會事務總長
　　小島三郎　全日本スキー聯盟會長
　　喜多壯一郎　大日本スケート競技聯盟會長
　　高辻武邦　北海道體育協會會長
　　伊澤廣曹　札幌市助役
　　田所哲太郎　大日本スケート競技聯盟副會長
　　柳壯一　日本ボブスレー協會會長
　　大瀧甚太郎　札幌商工會議所會頭

週間毎に目覺ましく進んで來た記錄が四週間目の最後にこゝ迄達したといふことに對して少なからず滿足をした。

スピード選手一行が歐洲へ行つて四回の大會に參加し、一回毎に躍進に躍進を重ねて行つた理由は、恐らく次の諸點に原因すると思ふ。

1、氣溫　一行が居た頃の北歐の氣溫は、大低零下五度から零下十度だつた。只タムペレーの第二日目は廿度にも降つたが、その他は大體右の氣溫だつた。それに北歐は殆んど無風と云つて良い狀態で、滿洲の四米以上の風速に比較したら練習も、競技も非常に樂なものであつた。

2、氷質　氷は湖水や海邊や或は普通の競技場を凍らせたものであるが、自然氷の場合であつても、その上に非常に丁寧に加工してあつて誠に滑りよい。それに手入れが行届いて居る。

來る年も來る年も五〇秒が切れなくて全く自信を失つて居た選手達が、歐洲に着くや否や、いきなり四八秒臺となり、四七秒臺となり、四六秒臺となり、遂に四五秒九迄出したといふことは、勿論技術の進歩といふことも多少はあるが、重大な原因は、むしろ氷面の狀態にあつたと云へる。歐洲では必ずしも自然氷ばかりではなく、純然たる加工リンクもある。歐洲選手權の會場であつたストツクホルムのリンク、及びモスコーのデナムの如きは陸上競技場をそのまゝ凍らせたもので、日本でも中部、東北、北海道にかけもつとよい氷が出來るのではないかと思ふ、若しその邊に澤山のリンクが出來たら日本のスケート界は一層進歩するのではなからうか。

ブルガー孃の來朝

女子フイギュア・スケーチングの世界的名手フリツツ・ブルガー孃が、朝日新聞社の招きに應じて、ウインからはる〴〵とやつて來たのは昭和十年二月であつた。

ブルガー孃は、一九三二年の第三回冬季オリムピツク大會並に同年度の世界選手權大會に於て、ノルウエーのソニア・ヘニー孃と覇を爭ひ、惜しくも第二位となつたが、その後の歐洲選手權にはチヤンピオン・シツプを獲得して、女子アマチユア・スケート界ではソニア・ヘニー孃と共に

世界の双璧をなして居る。從つてその妙技は、スケーチング・パヴロヴアとして謳はれ、女子フイギュア界の珠玉である。

同孃は一月十五日單身故鄕ウイーンを出發し、十八日にはモスクワでシベリヤ鐵道に乘りかへ、卅日關釜聯絡船で下關着、二月一日晴れの入京をした。

同孃の妙技は、二月十、十一日の兩日東京芝浦リンクに於ける公開大會をはじめとして、關西に於ける數回のフイギュア大會に公開されたが、その圓熟した妙技は、觀衆を悉く魅了するものがあつた。

大日本スケート競技聯盟では、この遠來の名手の爲、あらゆる援助を與へることになり、男子及び女子のフイギュア選手を大會に出場せしめ、更にアイス・ホツケーの模範試合をもなして、公開大會を盛會ならしめた。

ブルガー孃は、滯在二ケ月間、四月四日神戸から海路歸國したが、彼女が日本のフイギュア・スケート界に與へた印象の一つ一つは、それが世界フイギュア・スケート界の全貌である點に於て誠に貴重な來朝であり、殊に第四回冬季オリムピツク大會の前年であつたことは、我がフイギュア選子に目標と信念とを與へるものとなつた。

ブルガー孃のフイギュア・スケーチングを見て、日本のフイギュア界は、これからだといふことを強く感じたが、それにしてもブルガー孃のなし得るフイギュアを當年十二歲の稻田悅子孃が曲りなりにも、然も個々的に見れば完全になし得て居るのを見て、フイギュア・スケート界に於ける日本の位置も、世界のレベルを追ふて着々と實をあげて居ることを知つた。

ブルガー孃の公開第一回歡迎スケート大會は、二月十日午後二時半から芝浦スケート・リンクで開催された。

當日は　秩父宮、同妃、高松宮、同妃、竹田宮、同妃六殿下の台覽を仰ぎ、松田文相、內田鐵相も臨場、また一般觀衆も指定席、普通席を埋め盡して素晴しい盛況を極めた。

ブルガー孃の妙技は、P・C・Lオーケストラの奏する伴奏曲ハツピイタイムに依つて最初のスケーチングが行はれ續いてブリユー・ダニユウブが伴奏された。この時の服裝は第一回目が燃えるやうな眞紅のもの、二回目はダニユウブ河の水を想起させるやうな青のコスチユーム。鏡のやうな氷面にその艶姿をひるがへすスケーチングぶりは、ス

ケーチング・パブロヴアの名にふさはしいもので、觀衆を歡嘆と興奮の坩堝に誘ひ込んだ。

スケート會第二日は翌十一日午後二時半から同じ芝浦リンクで　朝香宮、同湛子女王、北白川宮、同多惠子女王の四殿下の台臨を仰いで行はれた。

ブルガー孃の公開スケート大會は同十六日、同廿四日の四回に亘つて開催され、この間、十三日から三日間赤坂山王リンクでは講習會が開かれ、廿三日には同リンクで送別カーニヴアル祭が行はれ、この他關西でも數回の公開スケート會があつて四月四日神戸出帆の香取丸で歸國した。

ブルガー孃の日本訪問に依る印象は次のやうである。

日本のスケート界の設備と技倆がこれ程迄進歩して居やうとは思つて居ませんでした。まだ見知らぬ日本へ參つて見ますと、そこには澤山のスケーターが居られて、恰も親戚の娘が參つた時のやうに喜んで歡迎して下すつたことも全く豫期しないことでありました。

私の今度の御訪問が日本のスケート界に少しでも御役に立てばよろしいがと念じて居ります。

カナダ、アイス・ホツケー軍の來征

大日本スケート競技聯盟招聘のカナダ、サスカトーン・アイス・ホツケー・チームは、昭和十年三月二日バンクーバーを出帆、同十五日横濱に入港し、直ちに山王ホテルに投宿、東京に於て六回、關西に於て一回の試合をなして四月九日横濱出帆の氷川丸で歸國した。

スキーのノルウエーに對して、カナダはアイス・ホツケーに依つて世界を席卷して居る。その强味に就いては殊更に云々する迄もないことであるが、一九二〇年初めて世界選手權がアントワープに開催されて以來、大會毎に選手權を獲得し、一九二八年正式に國際アイス・ホツケー聯盟が成立してからは、サンモリツツ、ベルリン、スリニカ、レークプラシツドと連年選手權を獲得し、更に一九三五年ダボスに於ける世界選手權をも握つて、七年連續制覇の偉業に輝き、堂々アイス・ホツケー王國たるの誇りを示して居る。冬季オリムピツクでも全勝の記録を保持して居るは勿論のことである。

大日本スケート競技聯盟の招聘に應じて來征したサスカトーン・クエーカー・チームは前年ブタペストの世界選手權大會に出場した强チームであつて、オリムピツクを控へた我國のチームにとつては、水準檢討の爲めにも技術錬磨のためにも非常に役立つものであつた。

來征のカナダ・サスカトーン・チームはカナダ・アマチユア・ホツケー・アツソセーシヨンに所屬する一流チームで、一行はサスカトーン・チームの名譽會長フランシス・レオ・ビショツプ氏夫妻、監督ジヨニー・ウオーカー氏、コーチ、ロヂヤース氏、選手九名の十三名で、これを個人別に紹介すると、

フランシス・ビショツプ氏夫妻　サカストーン・アイス・ホツケー・チームの名譽會長である、同氏はオツタワ市の大實業家で製粉會社、ビール會社の重役、バトルフオード地方に廣大な農園をも經營して居る。カナダの名士である同氏が夫人同伴で來朝したのはスポーツを通じ日加親善に貢獻するところが大と云へやう。

ジヨニー・ウオーカー氏　カナダに於てアイス・ホツケーの名監督として有名の同氏は、先年も同チームの歐洲遠征に參加して全勝の快記録を殘した。サカストーン・チームがカナダに於ても國外に於ても常に優秀な成績を收めて居るのは、一に氏の規則正しい科學的なマネージメントに依ると云はれて居る、同氏が今回の來征に參加した理由は、未だ若い日本のアイス・ホツケーの爲に、カナダの模範的ゲームを見せ度いことゝ、日本のアイスホツケーを本格的にコーチしたい希望からであると云はれて居た。

アルバート・ロジヤース氏　チームのコーチと選手を兼ねて居る同氏はウエズレー大學のコーチから引き拔かれてサスカトーン・チームに移つた人である。以前からサスカトーン・チームの缺點はデフエンスの弱いことであつた。その爲長い間良いコーチを探して居たが同氏を得て宿望は達成した。選手として一度DF線を守ればスタート早く斷然光つて居た。

ピーター・アトキンソン氏　FWのライト・ウイングを守る、身長五尺八寸、十九歳で將來を囑望されて居た。

ダグラス・ケーンス氏　F・C、スチツクワークが巧みで、チームのゴール・ゲツター、十九歳、頭のよいプレ

ーぶりは充分觀衆を魅了した。

●●アル・●●ニューボルド氏　FWのレフト・ウイング、十七歳の最年少者、然し非常に有望なプレーヤーでホツケーの爲めに生れて來たやうな選手である。スピードのあるキビ〳〵したプレーが特色をなして居た。

●●●エデイ・●●●マーテインソン氏　FWのライト・ウイング、練習熱心のプレーヤー、ニューボルド氏と同年であるが身長六尺の巨人である。

●●●ジョニー・●●●バーレンデイン氏　F・C、來朝選手中唯一の妻帶者で年齡も廿五歳、豐富な經驗を持つプレーヤーだけに何んとも云へない巧味がある。F・Wではあるが輕い靴をはいてデフエンス線を助ける等はヴエテランならでは見られぬところ。

●●●ナツプ・●●●キヤリヤー氏　F・Wのレフト・ウイング、小さい時からF・W專門、年齡廿四歳、身長五尺七寸、特にスケーテングは一行中指折りの名手。

●●●ジョセフ・●●●オスボーン氏　デフエンスの偉材、バトルフオード大學卒業六尺豐かの選手、身體が大きいだけにカヴアの範圍も廣くテクニックの巧い選手で、カナダでは度々模範試合に出るので有名である。

●●●ロナルド・●●●サザーランド氏　デフエンスの有力のメンバーで、防禦の次にすかさず攻めるその早さはチームの至寶と云はれたのもなる程とうなづけた。

●●●クラーク・●●●バーリンガム氏　ゴールキーパーを承つて全軍の士氣を鼓舞する同氏は當年十八歳、身體は小さいが勇敢でよく動き、まるでゴムのやうである。

カナダ・チームは十五日來朝。中一日休養の後十七日日光軍と對峙して待望の世界一の腕前を見せてくれた。

試合に先だち一時半、カナダ軍を先頭に日光、全學生、慶大軍が陸軍戸山學校軍樂隊の吹奏に迎へられて入場、次いで日加兩國々歌吹奏裡に國旗揭揚をなし、續いて大日本スケート競技聯盟會長久保田敬一氏の挨拶、カナダ公使の祝辭あつて、愈々歴史的國際試合の第一戦は開始となつたが、流石は世界一のカナダ軍、十九對三で日光軍は輕く一蹴された。

日光との試合を皮切りにカナダ・チームは七回連續的に試合を行つたが、日本チームはどれも、これも完全にカナダ・チームの敵でなく、遠來のカナダ・チームに徒らに名

をなさしめた。

カナダ・チームとの試合成績左の如し。

第一試合

（三月十七日）　於　芝　浦

カナダ　19　（6－0、8－2、5－1）　3　全日光

〔開始午後一時半、審判　小西、牧二氏〕

〔カナダ〕		〔全日光〕
アトキンソン	FW	星野（仁）
マーチンソン	FW	神山（清）
ケーンス	FW	阿部
パーレンデイン	FW	星野（藤）
ニューボルド	FW	齋藤
キヤリヤー	FW	神山（武）
オスボーン	DF	和久本
サザーランド	DF	澤
ロヂヤース	DF	銀澤
バーリンガム	GK	金子
2	反則	0

第二試合

（三月廿一日）　於　芝　浦

カナダ　14　（6－0、6－0、2－1）　1　全學生

開始――午後二時

審判――中澤、難波二氏

〔カナダ〕		〔全學生〕
アトキンソン	FW	野井（慶）
マーチンソン	FW	屋（慶）
ケーンス	FW	堤（慶）
バーレンデイン	FW	田（慶）
ニューボルド	FW	田柳（早）
キヤリヤー	FW	須（早）
オスボーン	DF	川（立）
ロヂヤース	DF	藤（立）
サザーランド	DF	越（明）
バーリンガム	GK	村（慶）
2	反則	0

藤亀古　富小小　市須村鹽　千中　島（立）（早）

第三試合

（三月廿四日）　於芝浦

カナダ 17（6－0、8－0、3－0）0 全日本

開始——午後二時
審判——手塚、三島二氏

〔カナダ〕		〔全日本〕
アトキンソン	FW	原
マーチンソン	FW	野
ケーンス	FW	司
バーレンデイン	FW	平
ニューボルド	FW	庄
キヤリヤー	FW	木
		二
オスボーン	DF	朝
サザーランド	DF	須
ロヂヤース	DF	安
バーリンガム	GK	本平
		下（梢）瓶
		倉
		藤
		保
		間元
1	反則	0

第四試合

（三月廿八日）　於京都

カナダ 23（1－0、16－0、6－1）1 慶大

開始——午後七時
審判——手塚、三島二氏

〔カナダ〕		〔慶大〕
アトキンソン	FW	藤
ケーンス	FW	龜
ニューボルド	FW	古
マーチンソン	FW	丹
バーレンデイン	FW	玉
キヤリヤー	FW	井
		井
		屋
		羽
		澤
オスボーン	DF	五
ロヂヤース	DF	鹽
サザーランド	DF	平
バーリンガム	GK	河
		十 嵐
		田
		川
		崎
0	反則	0

第五試合

（三月卅一日）　於芝浦

カナダ 14（2－0、9－0、3－0）0 満醫補仁

開始——午後二時五分
審判——金子、中澤二氏

〔カナダ〕		〔補仁〕
アトキンソン	FW	林
マーチンソン	FW	（昌）
ケーンス	FW	矢
バーレンデイン	FW	司
ニューボルド	FW	栗
キヤリヤー	FW	庄
		木
		平
		西
		石
オスボーン	DF	早
サザーランド	DF	堀
バーリンガム	GK	本
		下（梢）野
		田
		黒
		間
		間
3	反則	2

第六試合

（四月四日）　於芝浦

カナダ 22（6－0、8－0、8－0）0 苫小牧王子

開始——午後二時廿五分
審判——平川、朝長二氏

〔カナダ〕		〔苫小牧〕
アトキンソン	FW	瓶
ケーンス	FW	澤
ニューボルド	FW	原
マーチンソン	FW	卷
バーレンデイン	FW	倉
キヤリヤー	FW	本
		二
		北
		戸
		朝
		重
オスボーン	DF	安
バーリンガム	DF	福
バーレンデイン	GK	平
		保
		井
		賀
		元
0	反則	0

第七試合

（四月六日）　於芝浦

カナダ　16（5—0、9—1、2—1）2　全日本

開始——午後七時

審判——西田、安田二氏

〔全日本〕

澤瓶野司（昌）柳　久藤保川　間元

FW：北二平庄木小

FD：和須安市

GK：早平

下

〔カナダ〕

FW：アトキンソン、ケーンス、ニューボルド、マーチンソン、バーレンデイン、キヤリヤー

FD：オスボーン、サザーランド

GK：バーリンガム

2　反則　0

カナダ・サスカトーン・アイス・ホツケー・チームの滯在は、一ケ月にも足らない極く短かいものではあつたが、彼等が殘した足跡は餘りにも力强い、また貴いものであつた。

總體的に見て彼等の一人々々がよきスケーターであることであつた。これは極めて平凡のことであるが、而も根本的なことである。彼等はスケートそのものが足の一部として居る。これを比較的に云へば、日本人のスケートは、彼等が下駄を穿いて走る程のぎごちなさがある。これは彼等を育てた環境が然らしめたものであることは、十分うなづけることではあるが、既にインドアリンクを持ち、地方的にも發達して來た日本の今日、このハンデイキヤツプは努力に依つてよく取り戻せるものと思ひ、また必ず取り戻さねばならない。この足あつてのステイツク・テクニツクであり、コンビネーションであることは、一度ステイツクを握り、また握らなくともアイス・ホツケーを知る人ならうなづけるところである。

よきスケーターであることは、よくエツヂを使ひ得るスケーターであることを示すものである。このエツヂを完全に使ひ得る結果は、ゲームの進行に應じ體を急激にかはすことも出來急停止することも出來、急激にスタートを起すものともなつて試合の運行上必要缺くべからざるものである。

彼等は足の一部であるスケーチングの巧みさをはじめとして、ステイツク・テクニツクにも、チームの編成、選手の適時交替にもよき範を示してくれた。

七戰七勝、段違ひの成績で全勝したカナダ、サスカトーン・アイス・ホツケー・チームの監督ジョニー・ウオーカー氏は日本を去るに臨み、我國プレヤーに對する印象、注意等を左の如く語つた。

『アイス・ホツケーは氷の上でする試合であるから上手にスケートすること、殊にスピードのあることが重要であるが、日本の選手がスケートの上手であることには感心した吾々滯在三週間中にも非常な進歩を見せて、吾々を驚かせた程であるからスケート技術についてはいふことはない。

然しアイス・ホツケーはスケート技術だけではない。第一にパツクをチエツクし、シユートする技術即ちステイツク・ハンドリング、第二にチーム・ワーク、そして第三にチームとしての戰法が必要である。第一は選手の各個練習に待ち、第二はチームの集團的練習に待つより他にないが第三の作戰は氷上に居ない監督の指揮が重要な役割を演ずるものであるから十分なる研究を必要とする。

最終の全日本との試合で、初めの十分間は非常な接戰で吾々も驚いたのであるが、日本選手が疲勞したので大差となつた。作戰上最初の五分で勝敗を決することもあると同時に、六十分のプレーであることを忘れず、これだけのプレーに對する體力をセーヴすることが大切である。吾々のプレーヤーは子供の自分からスケートで育つたやうなものであるし、ステイツクを持ちつけて居るので、くるぶしと手首の筋肉が發達して居る。自分は日本人の體格、試合氣分等から見て、アイス・ホツケーが大きな將來を持つて居ることを確信すると同時に、現在のプレーヤーよりももつと若い人々が子供の時から練習をはじめたら、吾々にとつても恐るべき相手となることゝ思はれる。吾々の訪問に依つて日本のホツケーを少しでも向上せしめたとすれば幸であるが、同時に吾々の受けた好遇に對しては深く感謝して居る。

第五回冬季オリムピック札幌大會

【第十二回オリムピック東京大會報告書より轉載】

冬季大會の招致

1、札幌が候補地となる迄

第十二回オリムピック大會の開催地が東京と決定した昭和十一年七月のI・O・C伯林總會では、次回の冬季オリムピック大會の開催地は遂に決定を見るに至らなかつた。我々關係者は東京が決定した以上、當然札幌も決定するであらう事を信じてゐたので、この結果は實に意外であつた。これはF・I・S(國際スキー聯盟)が、其年の二月の總會で確認したアマチュア規定に對し、I・O・Cと相容れぬものがあつたためで、これが完全に解決する迄、其決定を留保した爲である。

F・I・Sの確認したアマチュア規定とは屢々話題になつてゐる所謂スキー教師に對する見解の相違であつて、F・I・Sの見解によれば「スキー教師はプロフエショナルとは認められない。從てこれをプロフエショナルと斷定してゐるオリムピックには出場出來ない」と決議してゐる。從てこの儘では、假令札幌と決定しても、スキー競技は行はれないことになる。

斯樣な次第で、やがて決定するであらう札幌冬季大會の成功を願ふならば、第一にこのF・I・SとI・O・C間の問題を解決してから招致運動に着手せねばならない次第であつた。併し、關係者はこの問題を取扱ふに札幌と決定してから

解決に乘出すべく考へ、差當つては札幌招致に全力と全神經を注いだのであつた。

これには理由がある。それは「オリムピック憲章」に

國際オリムピック委員會は冬季オリムピック競技會開催地を選定する權限を有す。但し若し夏季競技の開催國にして冬季競技の全種目を組織するに充分なる保證ある時は其國に先づ選擇權を與ふる事を要す。

とあり、當然定まるべきものが定まらなかつたからである。つまり、夏季大會が東京と決定した以上は、冬季大會は日本に優先權がある次第でI・O・C伯林總會の直後、ラツール會長も我が副島伯に對しこの點を指摘し、且「安心せられたし」と言明する處があつた。

オリムピック憲章のこの條項は、昭和十二年六月のI・O・Cワルソー總會で多少グラ付き出し、翌十三年三月のカイロ總會で完全に改訂され、今後は、冬季大會の開催地は夏季大會とは全く別個に選定される事となつた。從て今は既に空文となつた條項とは云へ、當時の我國關係者の頼みの綱は正にこの憲章の存在だつたと言へる。

先に昭和十年一月にローマが東京大會のため立候補を辭退したと云ふ事實は、第十二回大會招致が有望視されて來たと同時に、東京に於ける招致運動も次第に本格的となり且白熱化して來た。これに附隨して冬季大會招致運動もスキー、スケート兩團體の間に活氣を帶びて來た。然し乍ら、未だ國內の開催場所が決定した譯ではなく、自薦他薦の候補地が續出し、加へて全日本スキー聯盟と大日本スケート競技聯盟の間に於ても意見の一致を見る事が出來なかつた。

此處でこの冬季大會競技場問題解決のため乘出したのが大日本體育協會である。體協は期限付にて立候補の届出を求めた處、昭和十年十一月二十日の期限迄に豫算額を添へ名乘りをあげて來たのが次の六地方であつた。

場所名	豫算額

霧ケ峰（長野縣）	三、四八〇、〇〇〇圓	
乘鞍山麓（長野縣）	一、五八三、〇〇〇圓	
志賀高原（長野縣）	一、六五〇、〇〇〇圓	
菅平（長野縣）	一、五〇〇、〇〇〇圓	
日光（栃木縣）	二、〇一九、五〇〇圓	
札幌（北海道）	一、五一四、〇〇〇圓	

以上六ケ所の候補地に就て體協は昭和十一年二月七日より三月十日に亙り調査員を派遣し、冬季オリムピック大會競技場としての自然的條件、人爲的條件並に財政狀態其他に就て調査せしめた。

日時	場所	調査員
二月七日	乘鞍山麓	木原均、小川勝次、伴素彦
二月八日	霧ケ峯	同上
二月九日	志賀高原	同上
二月十日	菅平	同上
二月十三日—十六日	日光	鄕隆、田畑政治、小川勝次、木原均、中川新、伴素彦、保科武雄
三月八日—十日	札幌	大島又彦、小川勝次、李相伯

以上六ケ所の候補地に就ては夫々調査員により報告書が提出された。

この資料を基礎として體協にては昭和十一年三月十八日に「冬季競技場調査委員會」を開催し、結局「札幌」を第一候補地とする事に決定した。

2、ワルソー總會と札幌

かくして、日本に於て第五回冬季オリムピック大會が開催される場合には札幌に於て開催することに決定した。札幌では早速「オリムピック準備委員會」なるものが結成され準備と招致の第一歩を踏み出したのであつた。一方全日本スキー聯盟は、昭和十二年二月シャモニーに於て開催されたF・I・S理事國會議に津田正夫、高橋次郎兩代表を出席せしめ、F・I・SとI・O・Cの對立問題を解決すべく努力した。

一年經つてI・O・Cワルソー總會は昭和十二年六月に開催された。日本からはI・O・C副島伯が出席され、冬季競技關係者として全日本スキー聯盟顧問稻田男と高橋次郎が出席された。此の總會の模樣に就ては省略するが、結局、第五回冬季オリムピック大會は我が札幌と決定したのである。但しこの決定は條件付であつて、その條件は準備にあつた。即ち翌昭和十三年三月のI・O・Cカイロ總會に於て「札幌の準備良し」と認定を得る事が必要で然らずんばノールウェーで開催される事になつてゐた。

札幌決定が打電され、併せてそれには準備が條件であるとの事實を知るや、札幌は俄然活況を呈するに至り、大日本體育協會の慫慂により第五回冬季オリムピック札幌大會實行委員會を結成し直ちに準備に取掛るに至つた。立上りも鮮やかに又準備も急速に進捗した。

昭和十三年一月に札幌を訪れたクリンゲベルグは札幌の自然的條件並に準備狀況に就て絶讃の太鼓印を押した。從てワルソー總會で條件となつた準備に就ては關係者は等しく安堵したのであつたが、氣懸りな問題はF・I・Sの不參加であつた。幸にも昭和十三年二月にヘルシンキでF・I・Sの總會があるので、全日本スキー聯盟と協力して大野副會長と高橋次郎を派遣し、一擧にこの問題を解決すべく試みたのであつたが、不幸にも少數の差を以て敗れ、F・・Sは依然I・

O・Cと對立し、オリムピツクに不參加の態度を持續する事となつた。

3、札幌確定、されどスキー除外

F・I・Sのこの態度は同年三月のI・O・Cカイロ總會にも甚大なる惡影響を與へた。即ち同I・O・C總會に於ては第五回冬季オリムピツク大會は札幌と確認されたが、スキー競技は正式のプログラムから除外され、加へて「如何なる形式に於てもこのシーズンに外國からスキー選手を招聘して、スキー國際競技を行つてはならぬ」とのキツイお達しに接したのであつた。已むなく日本は之を承認した。併し、勿論この儘で札幌大會を開催する意志はなく、今後の二年間に必ずこの問題を解決して、スキー競技を正式のプログラムに加へた完全な冬季オリムピツク大會の開催を希望し、どうしても左樣せねばならぬと決意したからである。

ともあれ第五回冬季オリムピツク大會は札幌に於て開催する事にI・O・Cカイロ總會は決定した。

4、スキー問題打開の努力

カイロ總會が終了し、永井事務總長の歸朝を待つて、稻田札幌大會事務局長が米國經由にて渡歐された。米國にて先づI・O・Cガーランドに面會、次でシカゴに同ブランデージを訪問し意見の交換をなし、意見全く一致し、スキー競技問題解決に多大の光明を認めて勇躍伯林へ出發されたのであつた。

ブランデージはI・O・Cの新進であり、且有力者で大の日本贔屓である。カイロ總會で札幌が危かつた時敢然札幌を主張し、遂に札幌確定を見たのは全く同委員の發言によるものである事は既に御承知の通りである。

此處にブランデージが永井事務總長宛の書簡と、スキー問題に關する意見書を掲載する。

拜啓

私ガアメリカノスキー新聞ニ掲載スルタメ用意シタオリムピツク大會スキー問題ニ關スル記事ニ關心ヲ持タレル事ト思ヒ茲ニ同封御送附申上ゲマス。

一九三八年六月一日

アベリー・ブランデージ

永井松三殿

スキートオリムピツク大會プログラム

國際オリムピツク委員會ニヨリスキーハオリムピツク競技種目中カラ除外サレタト言フ誤ツタ印象ヲ一般ニ與ヘテキル、コレハ眞相デハナイ。第五回冬季オリムピツク大會ハ日本ノ札幌ニ於テ擧行サレル事ニナリ、一九四〇年二月三日ヨリ十三日迄行ハレル豫定デアル。スキーハ正式承認サレタ競技ノリストニ載ツテキル。而モ國際オリムピツク委員會及ビ日本ノ組織委員會ハ共ニ國際スキー聯盟代表選手ノ參加ヲ希望シテキル。カクノ如キ參加ハ、言フ迄モナク國際競技聯盟ニヨリ準備サレ、ソノ上オリムピツク規約ニ從テ取扱ハレネバナラナイ。

コレ別ニ新シイ事デモナケレバ特別ノ事デモナイ。而モ總テノ競技ニ於ケル總テノオリムピツク種目ハ常ニ國際オリムピツク委員會ニヨリ定メラレタル規約ノ指圖ヲウケテ行ハレネバナラナイ。ソノ規約ノ一ツハアマチユアノミガ大會ニ參加シ得ル事デアル。然シナガラ國際オリムピツク委員會ハ各競技團體ノ各々異レル事情ヲ悉知スル故I・O・C自身アマチユアノ定義ノ下サウトシテハキナイ。

國際オリムピツク委員會ハ一、二ノ競技聯盟ガ過去ニ於テ、有給ノ教師ヤ、コーチニアマチユアトシテ、競技參加ヲ許可シテキタ事ヲ關知シタカラ一九三七年ワルソー總會ノ決議トシテ、次ノ規約ヲ通過サセタ。

「オリムピツク大會ニ參加セル競技ノ教導ノタメノ報酬ヲ受ケタル教師タルベカラズ、但シ教育課程ノ通常課目ト共ニ體操又ハ競技ノ初歩ヲ附隨的ニ教授スル者ヲ除ク」

オリムピツク大會ニ於テ、アマチユアノ資格ガ保存サレル場合、カヤウナ規則ガ必要トナル事ハ明ラカデアル。

五十ケ國或ハソレ以上ノ加盟國ヲ有スル二十五種目以上ノ全テノ國際競技聯盟ハ、今迄F・I・Sヲ除イテハコノ規則ニ何等異議ヲ唱ヘル者ハナカツタ。コノF・I・Sハヘルシンキニ於ケル最近ノ會議ニ於テ加盟國中極ク少數ノ出席國ノ投票ノ結果僅カノ差ヲ以テナシタ議決ニヨリ今後オリムピツクノ規則ニ從ハヌ事ニ決定シタノデアル。

最近ノ國際オリムピツク委員會總會ノ報告ニヨルト前記ノ決定ハF・I・Sノ會長ノ個人的ナ影響ニヨル所多ク、同會長ハ教師ノ競技參加ヲ許可スル事ニ賛成シ、而モ、若シ彼ガ支持サレナイ場合ニハ辭職スル旨ヲ宣言シタ事ニヨルモノデアル。

コノ事實ニ拘ラズ、同會長ノ母國タル諸威スキー聯盟ニ於テハ、オリムピツクノ規約ニ從フ事ニ賛意ヲ表シテヰル。而シテF・I・Sノ行動ハ次ノ事ヲ想起スル時、一層驚クベキモノガアル。即チF・I・S選手權大會ニ教師コーチ及ビ他ノ職業選手ガ參加出來ルカ否カノ問題ヲ自分達ノ手デ決定スル事ヲ今迄許サレテ來タ事デアル。

經營者及ビ他ノ商賣人ガF・I・S委員會ニ於テ大ナル影響ヲ與ヘテヰルト云フ噂ガ廣ク傳ツテヰル。或所デハ、コノ影響ガヘルシンキニ於ケル行動ヲ生ミ出シタトサヘ言ハレテヰル。

オリムピツクノプログラムニ冬季競技ヲ包含スル事ニ反對シテ來タ委員ハコノ情勢ニ乘ジ冬季競技ヲ廢業ショウトシテヰルガ筆者ハ多クノ國ヤ聯盟ガ純アマチユアスキーニ力ヲ捧ゲテ來テ居リ、此等ノ國ヤ聯盟ハ國際オリムピツク委員會ニヨツテ見棄テラルベキデナイ事ヲ主張シタ。コノ見解ハ容レラレテ、眞ノアマチユアノスキー及ビオリムピツク・ムーヴメントニ關心ヲ持ツ聯盟モ個人モ從來行ハレテ居ル競技ヲ確實ニ持續シテ行フ樣ナ處置ヲ取ル事ヲ希望シツツ第五回冬季大會ヲ進メテ行クコトニナツタ。

コレヲ要約スレバ若シスキー競技ガ第五回冬季大會ニ於テ行ハレナイナラバ、スキーヤー自身ガアマチユア規約ノ下ニ競技スル事ヲ望マヌ所以デアルト言フコトニナル、コノアマチユア規約ハオリピムツク・プログラムニ載セラレテヰル他ノ總テノ競技ヲ統轄シ而モ二十五年ノ大國際聯盟ニヨツテ、是認サレル規約デアル。

ヘルシンキデナサレタF・I・Sノ行動ハ加盟各國スキーヤーノ意嚮ト一致シナイモノデ又アマチユア・スキーノ爲ヲ思ヘバ決シテ善イコトデモナイト言フ意見ハ諸方ニ披瀝サレテヰル。中ニハ更ニ強硬ニ、若シ國際スキー聯盟ガコノ不都合千萬ナ態度ヲ捨テナイ場合ニハ、スポーツヲ商業的見地カラ見ズ、アマチユア・スキートシテ重要視スル個人及ビ聯盟ハ、結束シテアマチユア・スキ

ーノ安泰ヲノミ切望シ、專ラオリムピツク規約ヲ全面的ニ認メル聯盟ニ加勢スルデアラウトマデ言ツテヰル者モアル。

若シ米國カラスキーヤーガ一九四〇年ノ大會ニ參加スル事ニナレバ、現在ノ情勢ヲ變更セシメルタメノ處置ガ一日モ早ク採ラレネバナラナイ。之ハ多クノ國々カラ必ラヤ支持サレル、勿論期日ハ迫ツテヰル、代表チームハ一九三八年カラ九年ノシーズンニ選拔サレザルヲ得マイシ、又ソノ資金調達ハ直チニ着手セラレネバナラナイ。

I・O・Cガカイロニ於ケル總會ニ於テ今後、夏期大會ヲ保持セル都市ヲ有スル國モ必ズシモ冬季大會ヲ開催スル優先權ヲ有シナイト規定ヲ變更シタ事ハ、冬季競技ファンガ知ツテ置クベキコトデアラウ。今後ハ諸國都市何レカノ冬季大會開催申込モ同等ニ考慮サレルコトトナラウ。

諸威ノオスロー及ビスイスノサンモリツツハ既ニ一九四四年ノ冬季大會ヘ開催ノ申込ミヲナシテヰル。

歐洲に到着後の稻田事務局長は伯林に於て全日本スキー聯盟のアタツシュ高橋次郎と協力、先づ獨逸スキー聯盟に働きかけて大成功を收め、次で瑞西、伊太利、ユーゴースラビヤ、ハンガリーを巡り大童の奮闘をされた。この結果、札幌オリムピツクにスキー競技を加へる件は愈々有望となり、正に次の階梯たる北歐へ向け出發せんとしつゝある際、突如第十二回オリムピツク東京大會並に第五回冬季オリムピツク札幌大會は中止返上する事となつた旨の電報に接したのであつた。

× × ×

現在に於てもF・I・Sは依然I・O・Cと對立狀態にある。然し今日迄の我國の努力により、現在のF・I・Sは形骸を殘し、新F・I・Sが結成される氣運に向ひつゝあるものと見る事が出來る。換言すればやがての冬季オリムピツクからスキー競技も立派に正式のプログラムに入るであらう事を信ずる。

實行委員會の機構

昭和十二年六月、I・O・Cワルソー總會に於て、第五回冬季オリムピツクが條件付とは云へ札幌と定まるや、大日本體育協會は、N・O・Cの立場から北海道廳、札幌市、北海道體育協會等に働きかけ昭和十二年七月十九日に「第五回冬季オリムピツク札幌大會實行委員會の誕生を見た。

この實行委員會は取りも直さず、札幌冬季大會の組織委員會であり、當初關係者は總て、米や獨の過去の冬季大會が採つたと同様に、夏季の組織委員會とは別個の、冬季競技だけの組織委員會を作るべく希望し且運動したのであつたが、N・O・Cは遂にこの意見に同意を與へず、東京大會組織委員會の統制下に置くべく、其名も實行委員會としたのであつた。

委員長は石黒長官之に當り、副委員長に三澤市長と全日本スキー聯盟副會長大野精七博士が就任し、總務部長も大野博士の兼任となつた。この總務部長の椅子は東京組織委員會の事務總長（ゼネラル・セクレタリー）に當る重要な位置である。然し間もなく稲田男が歸朝され、今度は大野博士が渡歐されたので、代つて稲田男が就任され、同時に職制を改革して從來の總務部を事務局と改め、稲田男が事務局長に就任された。

實行委員會は、昭和十二年十二月二十七日に開催された第十九回組織委員會に於て、豫定通り第十二回オリムピツク東京大會組織委員會の統制下に置かるゝことゝなつた。冬季オリムピツクが夏季オリムピツク組織委員會の統制下に置かるゝ事となり、實際はとも角、形式に於ては夏期の組織委員會が兼ねて冬季競技をも開催する様になつたのはオリムピツク競技史に新例を作つたものである。

尚實行委員の最後の顔觸は次の通りである。

第五回冬季オリムピツク札幌大會實行委員會

委員長　石黒英彦　北海道廳長官

副委員長　三澤寛一　札幌市長
　　大野精七　全日本スキー聯盟副會長

委員　下村宏　大日本體育協會會長
　　永井松三　第十二回オリムピツク東京大會組織委員會事務總長
　　小島三郎　全日本スキー聯盟會長
　　喜多壯一郎　大日本スケート競技聯盟會長
　　高辻武邦　北海道體育協會會長
　　伊澤廣曹　札幌市助役
　　田所哲太郎　大日本スケート競技聯盟副會長
　　柳壯一　日本ボブスレー協會會長
　　大瀧甚太郎　札幌商工會議所會頭

前委員

村上元吉	北海道會議長
村田不二三	札幌市會議長
手塚操	札幌鐵道局長
安田丈助	札幌遞信局長
河原直孝	小樽市長
岡田信	北海道拓殖銀行頭取
留岡幸男	北海道廳總務部長
中村忠充	同　土木部長
遠山信一郎	北海道廳經濟部長
青柳秀夫	同　拓殖部長
土肥米之	同　警察部長
船水喜幸	札幌中央放送局長
男爵稲田昌植	札幌大會實行委員會事務局長
藤井崇治	前札幌遞信局長
久保田晴光	前大日本スケート競技聯盟會長
奥野定八	前北海道廳拓殖部長

幹事

板谷宮吉	前小樽市名譽市長
佐藤昌彦	大日本スケート競技聯盟理事
廣田戸七郎	全日本スキー聯盟理事
小川勝次	全日本スキー聯盟專務理事
兩角政人	大日本スケート競技聯盟專務理事
大濱芳雄	北海道廳學務部長
筒井銀平	札幌市教育課長
高田通	北海道廳體育運動主事
中根光一	日本ボブスレー協會專務理事

書記

上田初男	北海道廳學務課
町野久作	札幌市立體育所長

札幌大會實行委員會の事務所は市役所の地階一室、二階一室計二室に置いたが、手狹なため新に新築する事とし、場所の選定も市役所隣接の空地と定まり、正に工事に着手せんとする處であつた。

事務局は局長稲田昌植男の下に次の様な各部を置き、昭和十三年四月二十八日の第六回實行委員會に於て、夫々部長を詮衡委嘱した。

會計部長　筒井銀平（札幌市教育課長）
スキー部長　稲田事務局長兼務
スケート部長　田所哲太郎（大日本スケート競技聯盟副會長）
ボブ部長　柳壯一（日本ボブスレー協會會長）
建設部長　神保金衛（北海道廳勅任技師）
交通部長　平野重雄（札幌鐵道局運輸部長）
通信部長　伊藤順二郎（札幌遞信局監督課長）
宿舍接待部長　伊澤廣曹（札幌市助役）
宣傳部長　杉田安太郎（札幌市經濟課長）

以上九部の外、庶務部長は遂に決定に至らなかつた。尚この外に式典部、醫務部の二部を設置する事に決定を見たが、部長の詮衡迄に至らなかつた。

尚、實行委員會に直屬してゐる委員會には實行委員會の小委員會たる常務委員會の外、神保金衛技師を委員長とせる競技場調査研究委員會、北大教授倉塚良夫博士を委員長とせる科學委員會並に美術委員會の三委員會がある。之等の各部並に委員會は、差當つて準備を遂行の上に必要なものだけを構成したにすぎず、準備が進行し、又大會の期日が切迫して總ての機關の活動を必要とする樣になれば、次々と必要な部並に委員會を作つて對應する手筈になつてゐたのである。

競技設備

第五回冬季オリムピツク札幌大會の準備一切を引受けて活動を開始した同大會實行委員會は、企劃並に實施に關する事務を處理する爲事務局を設け、其事務局の下に次の十二部を設け、局長の下に夫々部長を任命した。

一、庶務部　二、會計部　三、スキー部　四、スケート部　五、ボブ部　六、建設部
七、式典部　八、宿舍接待部　九、醫事部　十、交通部　十一、通信部　十二、宣傳部

昭和十三年七月二十二日、實行委員會委員長石黑長官が「札幌大會中止に當りて」と題する聲明書を發する迄に、開催された委員會の數は實行委員會六回、常務委員會二十五回、臨時常務委員會五回其他數十回に及ぶ各種專門委員會並に部會を開催し、着々準備を進めたのであつた。之等諸準備の中、最も重要なものは競技設備であり、以下返上聲明迄に着手された諸設備並に計畫を述べる事にある。

尚、實行委員會はI・O・Cカイロ總會に於て、スキー競技は正式のプログラムから降外されたにも拘らず、尚開幕迄には正式のプログラムに加へ得る事を確信し、スキー競技關係の諸設備をも進行せしめた

一、式場

冬季オリムピツクの閉會式、閉會式を行ふ中心會場は市立陸上競技場を豫定してゐる。この陸上競技場は札幌神社裏にあり、一周四百米のトラックで日本陸上競技聯盟の甲種公認を得てゐる。冬季オリムピツクの第一日に行ふ開會式及び最後の閉會式を此處で行ひ、壯嚴と感激の幾多の場面を、オリムピツク炬火と共に眺める外に、スキー競技の耐久競走、長

距離競走四〇粁繼走競技の全デイヽタンス・レースは總てこの式場をスタートし又ゴールする事になつてゐる。換言すれば全期間十二日間の中五日間はこの式場が會場となる豫定であつた。札幌市の中心より四粁にすぎず、電車、徒歩、自動車、馬橇何れによるも交通の便良くこの陸上競技場の隣には野球場があるため、これを駐車場とする事も豫定されてゐた又大倉シャンツエで行ふスキー飛躍競技も三角山で行ふスキー廻轉競技も、貴賓席からは眞正面に見る事が出來て距離も近く、ボブ競技場は一層近距離にある。

式場としての施設として内外貴賓客、招待者の休憩室、通信記者席、大小食堂、競技用具室、新聞報道機關の設備通信設備、掲示場、應救醫務室等の建物の他一萬人を收容し得るスタンドの建設を豫定してゐた。其他優勝者の國旗揭揚柱、優勝者の表彰臺、オリムピツク炬火塔等の設置も計畫され、其位置も略決定してゐた。

之等の諸設備の費用として五萬五千圓計上されてゐた。そして冬季以外は陸上競技場の諸設備として、將來活用され、斯界に貢獻する處蓋し甚大なるものがある事を豫想してゐた。

この式場は、昭和十三年二月八日、第十六回全日本スキー選手權大會を札幌に於て開催した際、オリムピツクの豫行演習的に此處も式場に使用した。即ち四百五十名の全選手を府縣別に夫々標識板を捧持せしめて、オリムピツクの際の各國別と見做して大行進を行ひ、開會式も型の如く行ひ好成績を擧げてゐる。

二、スキー競技場

由來スキーと札幌との關係は極めて深い。日本のスキーが一九一〇年（明治四十四年）墺國武官テオドル・フオン・レルヒ少佐に依り、新潟縣の高田市にあつた第十三師團歩兵第五十八聯隊で、初めて行はれたそれ以前に於ても、北大講師の一外人によつて行はれたと云ふ歴史的の事實を有してゐる。爾來北大の學生を中心として盛に行はれ、其發達振は誕生

地たる信越を壓し、内地を凌駕し、今や日本のスキー界の技術的中心地はこの札幌であると言はるゝ迄に普及して來た。「雪都札幌」と言はるゝも宜なる哉と思ふ。日本の冬季オリムピツク競技場としてスケートに未經驗であり乍ら、札幌に決定を見たのも、結局は餘りにスキー地として優秀であつた爲であらう。

左樣な次第で、スキーに關する限り、オリムピツクがこの冬に開催される樣になつても、關係者は何等の躊躇なく、又立派な競技會を開き得る自信と施設を持つてゐる。即ち、雪質及雪量、地勢等の自然的條件は勿論のこと、競技會を遂行するに必要な人員並に經驗は極めて豐富であり、加へて七一米の飛距離記錄を有する大倉シャンツエをはじめ、廻轉競技場、滑降競技場等競技を行ふに萬全を期し得る一通りの施設を有してをり、現有の施設を以てしても過去の冬季オリムピツク會場たるサンモリツツやレークプラシツドの夫れに劣る樣な事はない。更に詳述すれば、

A、デイスタンス・レース

長距離競走（一八粁）耐久競走（五〇粁）繼走競技（四×一〇粁）は何れもスタートとゴールを式場とし、平地並に起伏多き附近の山野にコースを採る豫定で、コース中の標高差も八百米位迄自由に選ぶことが出來る。その上現在でも式場より二〇粁以内の山中にだけでも約十五個のヒュッテを有し、これを利用し通信並に途中給與所とし又監察員其他の宿泊に當てる豫定である。尙スキーのコースは國際規定により豫め發表する事は出來なく、競走開始の前日に發表するのが普通である。從て未だ全くコースの豫定は出來て居らなかつたが、以上のヒュッテの外、當然通過する樣な地點にもつと施設する事は可能であり、その設備を豫定してゐた處であつた。更にコースは、特に耐久競走に於ては、從來兎角非難のあつた急傾斜のみのコース、又は緩傾斜のみのコースと云ふ樣に片寄つたコースとせず、極めて變化の多い而もスピードを生かす合理的なものを、走路選定委員會にて選ぶ豫定であつた。況んや第三回大會の如く耐久競走に二五粁を二回走らせる樣な失禮な事は絶對にない。

札幌の氣溫は市中に於てすら一月、二月の平均は氷點下五度前後である。山中に於ては、もつと低下するは明らかであり、從て雪質の良好なるは云ふ迄もない。而も中部地方の如く馬鹿雪に災される事もなく、平均して五〇糎内外である爲條件は正に上乘と云ひ得るであらう。

B、飛　躍　競　技

飛躍競技專用としては、諸威スキー聯盟の前會長オラフ・ヘルセット中尉の設計により七一米（龍田峻次）の飛距離記錄を有する大倉シャンツェを更に少しく改造して八〇米級の記錄が出る樣にして使用する。

複合競技用として使用する飛躍臺は、六〇米級のものとし、大倉シャンツェに並行して、其右側に建設する豫定であつた。第四回大會のガルミッシュのシャンツェが、飛躍用と複合用が並んで作つてあり、萬事に至便であつたに鑑み、この計畫をたてた次第で、この複合用のものは今秋から着工する豫定であつた。

大倉シャンツェの觀覽席は現在は精々二千人内外に過ぎないので、これを大擴張し座席二萬人、立席一萬人計三萬人收容し得るスタンドを建設する豫定であつた。これに附帶して審判臺、掲示板、場内擴聲器、通信設備等の施設も豫定してゐた。大倉シャンツェは、勿論國際スキー聯盟（F・I・S）公認であり、八〇米級の公認シャンツェとなると、この大倉シャンツェの外世界中で獨逸に三ケ所あるだけで、サンモリツツのオリムピアシャンツェも七〇米の記錄を有してゐるに過ぎない。

尙大倉シャンツェ、複合用シャンツェの他に三〇米級並に五〇米級と二個の練習用シャンツェの建設をも豫定してゐた。大倉シャンツェの改造、複合用並に練習用シャンツェの建設、スタンド其他の附屬施設に要する經費は一二七、〇〇〇圓で、使用鐵材の豫定は一三〇噸であつた。

以上の諸設備が完成しても、更に飛躍競技場下に相當廣大な駐車場を設ける必要があり、地勢的にこの工事は相當憾

みであつたが、北海道廳並に札幌市は、オリムピック經費外に道路費として相當額の豫算を計上したので、この希望も軈て實現する運びとなり、關係者に安心を與へたのであつた。

C、廻　轉　競　技

二、三年から拔開し、引續き使用してゐる三角山東側の斜面をオリムピックのスキー廻轉競技にも使用する豫定であつた。三角山の標高は三一一米で昭和十三年二月の第十六回全日本スキー選手權大會の廻轉競技の際は、スタートとゴールの標高差二三〇米、平均傾斜一八度、距離約五百米で、使用した旗數は二十六双であつた。

三角山麓のスタンドに居れば全コースを一望の中に收める事が出來、ガルミッシュのオリムピック・コースより遙かに優秀な競技場と云ふ事が出來るであらう。此處にも新に三千人を收容するスタンドを建設する計畫であつた。山麓一帶は廣大な平原で眺望がよくきくため式場を此處に設けてはと云ふ意見も出た程である。

D、滑　降　競　技　場

スキー諸競技の中、强ひて云へば、この滑降競技が一番難がある。それは國際規定により、スタートとゴールの標高差を八百米以上と定めてゐるためで、近くに標高差八百米以上有する滑降競技場を持つてゐるスキー地は、世界にもそうたくさんはない。現に諸威のオスローも又芬蘭のラハティもこの點では落第である事により、よくその邊の事情を察知する事が出來る。

右の次第で札幌では標高一、〇二三米を有する手稻山を使用する事とした。第十六回全日本スキー選手權大會では、ゴールを式場に近い右股としたが、これは滿足すべきものでなく、結局、豫ねて圖上で考へてゐた樣に手稻山頂から輕川驛（小樽札幌間本線）附近をゴールとするコースに落付いたのである。但しこのコースは未だ拔開も出來て居らず、未完成で、次のシーズン迄に完成せしむる豫定であつた。此のコースは距離約五粁標高差八二〇米平均傾斜は約一〇度

である。

札幌驛から輕川驛迄は一〇粁で乘車時間二十分、この競技だけは止むなく會場が稍遠方となる豫定であつた。併し冬期と雖も汽車、自動車、馬橇の便がある樣にする事は勿論である。

以上により長距離競走、耐久競走、繼走競技、飛躍競技、複合競技、滑降競技、廻轉競技のスキー競技種目の全部並に番外競技の軍隊競走をも行ふ事が出來る次第であつた。

三、スケート競技場

札幌に於てスケートの行はれた歴史は、スキーのそれよりも一層古い。併し降雪量がスケートには多過ぎて除雪に厄介な爲と内地に於ては勿論、附近にも苫小牧其他の良スケート競技場があり、それに當初の關係者がスキー程熱心でなく、又後進を指導しなかつた爲、競技的方面は殆んど發達を見ず、又指導者もなく今日に到つた觀がある。僅に一部學生の間にアイス・ホツケーが行はれ、又厚生運動的なフイギユア・スケートが愛好されたに過ぎず、永久的な正規の競技場の施設も亦なかつた。併し毎年一回中島公園の池で行はれる、式典としてのスケート・カーニバルは全國的に有名である。

A、屋外リンク

スピード・スケーティングを行ふ屋外リンクは市内中島公園に建設する豫定であつて、其試驗は昭和十三年一月の第九回全日本スケート選手權大會が札幌に於て擧行されるのを機として行はれた。この屋外リンクは中島公園の野球場に作られ、一周四百米の正規なものであつた。勿論オープンとし地下のパイピングも施工せず、僅にコース地表の地熱の遮斷裝置材料に留意した程度の、云はゞ節約した施設で行はれたのであつた。此の試驗は關係者を齊しく緊張せしめた。氷盤がうまく出來ず地下のパイピングを必要とする樣な結果が生れては、選手權大會に間に合はぬばかりでなく、

オリムピック豫算に莫大の狂ひが出來て、大問題の惹起も想像されたのであつた然るに幸なる哉、撒水により完全なる氷盤を作る事が出來て、この屋外リンクの試驗は大成功を收め立派に權威ある選手權大會を開く事が出來て、關係者に多大の安心を與へたのであつた。この屋外リンクの試驗的構築はオリムピック開催の前年である、昭和十四年の冬期迄に本格的なスピード・スケーティングリンクを作るに非常な安心と希望を與へ、同時に建設費も安くて濟むことを如實に示してくれた。それで一月の競技會が終り、二月に入り多量な降雪期に入つても、工事關係者は引續き氷質の研究、地熱遮斷裝置の研究、除雪の方法などの研究を進め、益々自信を得た次第で、除雪方法に就ても確信を以て、秋からの本格的な屋外リンクの着工を待つてゐたのである。この本格的なリンクのスタンドは座席八千人、立席二萬人合計二萬八千人の觀衆を收容する豫定であり、其他附屬設備を併せ豫算五萬圓であつた。

尙この屋外リンクの中央にはアイスホツケーのリンクも設けられる事になつてをり、これも立派に試驗濟であつた。即ちアイス・ホツケー・リンクは屋内リンクと併せ二個の正規リンクが生れる事になつてゐた。

B、屋内リンク

フイギユア・スケーティングとアイス・ホツケーを行ふ屋内リンクも、中島公園の屋外リンクに近接して建築される豫定であつた。其規模は競技場の廣さ、幅二五米、長六〇米で、スタンドの觀客收容力は四千五百人である。

この建築に要する鐵材は地下のパイピングを併せ七四〇噸で、總經費は四十八萬圓の豫算であつた。鐵材の七四〇噸は屋根に要する鐵材をも含めた數量で除雪の方法すらうまく運べば、屋根のない前回のガルミツシュ大會の屋外リンクの樣に作つても勿論差支へないのであつたが、實行委員會は後日の利用價値を考慮して、完全なる屋内リンクの建築を決めたのである屋外リンクの成功により、屋内リンクに於てもパイピング無しを考へた關係者もあつたが、觀衆の體溫により氣溫は當然上昇するので、多額の經費を要しても完全な屋内リンクを作る事としたのである。この屋内リンクの

建設には總豫算の約三分一が充當され諸競技設備中最大の構築事業であつた。

尙屋外、屋內兩リンクの外、中島公園の池は簡單なる手入と除雪により練習用として立派に使用する事が出來るし、其他にも市內に練習用リンクを作る豫定であつた。又汽車で一時間四十分、苫小牧は北海道のスケートの本場で立派な競技場と選手及指導者を有し、氷質も札幌よりは良好とされてゐる。恐らくオリムピックの開幕の直前にはこの苫小牧に、各國の選手が練習のため殺到するのではないかと想像してゐた。

四、ボブ競技場

この競技は殘念ながら、日本に於ては殆んど經驗もなく、又經驗者もをらなかつた。それで昭和十二年六月I・O・Cワルソー總會で「第五回冬季オリムピックの會場は札幌」と決定した際、最も關係者の頭を惱した問題はこのボブ競技であつた。ボブコースも亦使用する權も所有してをらない事は勿論、嘗て外遊した冬季競技關係者の中にも、見學したと云ふ者すら尠い狀態で、東京大會の射擊、フエンシング、近代五種等の未經驗種目以上に困難を感じたのであつた。

それでI・O・Cワルソー總會に出席された全日本スキー聯盟顧問稻田昌植男（後に札幌大會實行委員會の事務局長に就任さる）は、同會議終了後早速ボブコース建設のため權威者を祖國に送る事を考へられ、過去の冬季オリムピック會場たるレークプラシツド及びガルミツシュ兩大會のボブコースを建設し、斯界の第一人者たる在獨伯林のスタニスラウ・エム・ツエンチツキー（ベルリーナー・ターゲブラット新聞社勤務）と交渉され、實費に近い經費を以て招聘する事に成功したのであつた。ワルソー總會の札幌決定は條件付であり、其條件付であり其條件は準備に在つたので稻田局長もツエンチツキーの招聘を急がれ、遂に急速にその實現を見たのであつた。

ツエンチツキーは夫妻で昭和十二年九月十八日に米國經由にて來朝し、直ちに札幌に赴き、滯在する事滿一ヶ月、十月

二十日に札幌を出發、各地を觀光の上、同月三十日に神戸より印度洋經由にて歸國の途に就いた。

ツエンチツキーにより設計されたオリムピック・ボブコースは次の通りである。

札幌神社西南方、同神社所有の神社山東側山腹標高二〇五米の地點をスタートし、式場南側の林地帶標高六〇米の地點をゴールとする全長一、七一八米六〇で平均傾斜は九パーセント、途中三ケ所にSカーブを含んでゐる。

ツエンチツキーの計算によれば、このコースに於ては一分三〇秒の記錄は容易に出るであらうと、そして經驗のない日本選手のために比較的容易なコースを選んだと彼は云ふてゐる。

彼はこのコースの設計圖を作ると共にコースの築造方法、維持方法並に競技方法等をも蘊蓄を傾けて傳授して呉れ、關係者はこれによつて漸く冬季オリムピックの競技施設に對する自信を得た次第であつた。

此のボブコースは大部分の敷地が札幌神社の飛地となつてゐる關係上、着工は內務省の許可を要し神社局と折衝してゐる間に秋も過ぎ、工事に取掛る事出來ず、遂に昭和十三年二月の第一回全日本ボブ選手權大會に間に合はなくなつてしまつた事は誠に遺憾であつた。それで關係者はやむなく試驗的、別に式場に近き小別澤廢道を利用して、經費約二千圓を以て距離約五百米の小規模なボブコースを作り、使用する權は二人乘三臺を北大工學部の實習室にて作製し、之を以て二月十二日の選手權大會に使用したのであつた。

日本の氷の上に初めて動いたボブは、關係者の想像以上に猛烈なスピードを以つて走つた。併し技術的に未熟な選手はSカーヴの操縱が未だしだつた。併し、ともあれ、試驗としては成功だつたと言へる。

ツエンチツキーによつて設計されたボブコースの構築費、並にスタンド其他の附屬施設に要する經費は十二萬圓であつた。

尙、競技方法、特に百分一秒迄計時する事を要するボブ競技の計時に就ては、東京大會の科學施設研究會に札幌の科學

委員會が夫々之を研究し素人には至難と考へられたこの計時方法も、其道の專門家からは極めて容易である事が教示され關係者を安心させたのである。

この冬、日本ボブスレー協會會長柳壯一博士は歐洲に遊學中にて、丁度ボブシーズンは獨逸、瑞西に滯在された關係上あちらのボブ競技を具に研究された上、見學され又試乘され、歸朝に際しては二人乘及四人乘の橇を各一臺持參された。初めて本場の而も競技用の橇を見た關係者は何よりもその巨大なるに驚くと共に、昭和十四年一月には完成されるであらうオリムピック・ボブコースでこれが試走するのを樂しみとしてゐたのであつた。

又柳博士は、このシーズンはオリムピックの前年であるに鑑み、ボブコースの萬全を期し、一方又日本選手の養成と强化のため、前回のガルミッシュ・パルテンキルヘン大會に好成績を擧げた選手並にコース管理者計三名をも招聘すべく、即に人名も決定し、內諾を得て歸朝されたのであつた。この三名の來朝により、コースも完成するであらうし、その管理方法も會得出來るであらう。更に日本選手を指導し强化する事は、この誕生したばかりのウインター・スポーツに對し、輝しき將來性を與へるもので、關係者は何れも多大の期待を持つてゐたのであつた。

大會返上によりオリムピック・ボブコースの完成は當分望むべくもなくなつた。併し日本ボブスレー協會は、引續き斯道への精進を聲明し、小規模乍らコースを作り選手の養成に努めるであらう。獨學のボブではあるが、軈てそれが實を結ぶのを期待してゐる。

× × ×

以上は第五回冬季オリムピック札幌大會のための既存の競技設備、並にこれから行ふ豫定であつた施設の大要である。之等の完成により我々はスキー競技、スケート競技、アイス・ホッケー競技並にボブ競技を行ふことが出來、之等の種目の外この施設によつて番外競技をも行ふことが出來る。

附屬設備

冬季オリムピック競技を行ふ爲の競技場、即ちスキー、スケート(アイス・ホッケー)、ボブスレー等を行ふ諸競技場の施設に次で重要なる施設は、オリムピック村と一般外來者の宿泊設備と道路であつた。特に宿泊の設備に就ては選手、役員、一般觀客を併せ合計約三千人の外人を豫想したので、これが宿泊問題は實行委員會としても、又N・O・Cとしても相當頭痛の種であつた。從來の冬季オリムピックには嘗て實行されなかつたオリムピック村の建設も斯樣な點から考へられ計畫されたのである。

一、オリムピック村

關係者は冬季オリムピック札幌大會の參加選手を次の如く豫想してゐた。

白耳義	二人	カナダ	四九人
チェッコ	一六人	フインランド	一六人
フランス	三人	獨逸	三八人
英國	三人	洪牙利	五人
伊太利	二八人	諸威	三〇人
ポーランド	二五人	ルーマニヤ	六人
瑞典	二二人	瑞西	一七人

米國	五二人	濠洲	五人
合計	三一七人		

以上外來選手三一七人に役員及日本選手を加へる時は、優に四五〇人を突破することになる。從て此四五〇人を收容し得るオリムピツク村の建設を考慮したのであるが、萬一の場合は、女子選手及日本選手を他に宿泊せしめて最小限度三〇〇人を宿泊せしむる村に就て計畫したのである。

この計畫を進めてゐる折柄、札幌市に於ては高等小學校の增築計畫があり、兩者次第に歩み寄り、結局昭和十四年度中に成るべく式場の近くにこの高等小學校を建築し、學校として使用する前にオリムピツク村として使用する事になつた。この構築費の豫算は三十五萬圓である。かくて昭和十五年一月から續々來朝するであらう各國の選手、役員に新築したばかりの校舍をオリムピツク村として開放し、札幌滯在を心から樂んでもらふ豫定であつた。宿泊の費用も一日食事付にて五圓內外にし、極めて安價に提供する豫定であつた。五圓と云へば現在相場で一ドル半に達せず、レヂスターマルクで六マルクに達しない安さである。レークプランツド及ガルミツシュ・パルテンキルヘン當時の値段とは比較にならない程安價であるが、物價が安く且食料物資の豐富な日本に於ては、この値段で充分な滿足を與へ得る事を信じてゐた。

二、一般旅館

外來選手の宿泊をどうするかは大きな問題であつた。東京大會の技術顧問クリンゲベルグが指摘するまでもなく、我々關係者も當初から頭を惱し、この對策を協議した。然るに昭和十三年三月I・O・Cのカイロ總會に於て果然この問題に就て論議され、その結果は却つて地元を決意せしむるに至り、前途の見透しも付く樣な結果となつたのは幸であつた右總會に於て永井事務總長が報告された樣に、先ヅグランドホテルの增築が豫定された。その收容人員は約百名分であつた。

グランドホテル以外の日本旅館に於ても札幌市の五八軒（室數九三〇）、定山溪溫泉の八軒（室數一八七）、小樽市の三六軒（室數五九五）は夫々暖房の設置、便所の改造等を自發的に行ふ樣計畫をたてた。これらの旅館の中には既に改造を了した處もあつた此の改造によつて收容力は多少減少するかとも考へられるが、現在の日本旅館の收容力は札幌市三千人、定山溪溫泉一千人、小樽市二千人の合計六千人である。

以上の和洋旅館の他、札幌市の富豪の邸宅、倶樂部、其他をも利用する時は、內外の來客數を相當收容する事が出來、且滿足をも與へる事が出來る見透しが付き、一應關係者を安堵せしめた。

尙、小樽市と定山溪溫泉の旅館に就て言及したので、札幌市との交通關係に就て表示する。

地名	人口	札幌迄距離	時間	往復汽車賃
札幌市	二〇〇、〇〇〇人			
小樽市	一六〇、〇〇〇人	三三粁	一時間	一圓〇八錢
定山溪溫泉	三、〇〇〇人	三〇粁	五〇分	一圓〇〇錢

三、道路

札幌市の人口は二十萬人である。過去の冬季オリムピツクの開催地であるシヤモニー、サンモリツツ、レークプラシツド、それにガルミツシュ・パルテンキルヘンに比すれば比較にならぬ程大都會であり、而も札幌市は日本に於ては典型的の近代都市である。從て道路も市內中島公園に設立される豫定であつた屋外及屋內リンクへの道路は、擴張或は增設する必要はない。駐車場も場所が公園なので廣大な廣場がある。

式場、飛躍競技場、ボブ競技場、廻轉競技場等各競技場へは、現在に於ても相當立派な道路が出來てをり、冬期の積雪

期間と雖も除雪により自動車の運行は差支へない。併し、いざオリムピツク開幕となれば、多數の觀客と自動車、橇等が一時に殺到するので、捌きがとれない樣な混雜を來すことは明白である。故に現在ある道幅を擴げる事は勿論、道路も數を增加し、更に夫々の競技場の附近には相當廣大な駐車場を作り、且道路は總て一方交通とする計畫であつた。

道路關係の費用は實行委員會にて計上した豫算外であることは前述の通りで、この經費に就ては北海道廳、札幌市、手稻村並に王子製紙株式會社が負擔する事となり、總額四〇萬圓を計上されてゐる。由來冬期の道路は夏の道路と異り障害物さへ除去すれば、積雪を單に踏み固める事によつても相當重量に耐え得るもので、換言すれば經費も尠くて濟む事になる。從て土地購入等と大袈裟に考へる必要は割合に尠ない。

道路の着工も秋から開始の豫定であつた。

規則決定

第五回冬季オリムピツク札幌大會の一般規則及プログラムに就ては大會の開催を引受けて同大會實行委員會並に關係競技團體たる全日本スキー聯盟、大日本スケート競技聯盟、日本ボブスレー協會の四者間にて、日本の實狀に徵して種々檢討し、I・O・Cの承認を得て決定したものである。然し乍ら其內容は前回の獨逸ガルミツシュ・パルテンキルヘンに於て行はれた第四回大會のそれと殆んど變化のないものとなつた。

但し競技の日程は第四回大會の場合には二月六日から十六日迄の十一日間であつたが、札幌大會は二月三日から十四日迄の十二日間、即ち一日だけ長い會期とした。而して會期の前半に主としてスケート競技及アイスホッケー競技を行ひ、後半にスキー競技を行ふ內容も從來と大體同樣である。

I・O・Cの內意では二月の成るべく遲い日時に開催する樣希望があつたが、それでは氣溫が幾分上昇する虞があるので、スケート競技に不安が伴ひ、二月三日開始とした次第である。又二月十一日の紀元節は、恰も紀元二千六百年の國家的の意義ある日に當るので、適當な時間に祝典を行ひ、參加各國選手並に役員をも全部招待する豫定であつた。

番外競技は軍隊競走を行ふことは決定してゐたが、日本固有の競技として何を行ふかの問題に就ては未だ決定を見なかつた。全國中等學校スキー繼走競技、犬橇又は馴鹿競走、カーリング、女子スピード・スケーティング等が候補種目であつた。次に第五回冬季オリムピツク札幌大會のプログラムを掲げる。

プログラム

開會式

時日　昭和十五年二月三日（土）

場所　**オリムピツク式場**

主宰並ニ統制團體

スキー

主宰團體

國際スキー聯盟

會長　**メゼアー・オストガード**（諾威）

秘書　**スミス・ケーランド**

事務所　諾威國　**オスロー**市

日本ニ於ケル統制團體

全日本スキー聯盟

會長　醫學博士　小島三郎

副會長　醫學博士　大野精七

專務理事　小川勝次

事務所　東京市本鄕區駒込神明町三〇八

（電話駒込一〇五二）

スケート

主宰團體

國際スケート聯盟

會長　**フアン・レーヤ**（和蘭）

事務所　和蘭國　**アムステルダム**市

日本ニ於ケル統制團體

大日本スケート競技聯盟

會　長　喜多壯一郎
副會長理、農學博士田所哲太郎
專務理事　兩角政人
事務所　東京市麴町區丸ノ内三ノ八仲六號館

アイス・ホツケー

主宰團體

國際アイス・ホツケー聯盟

會　長　**パウル・ロイク**(白耳義)
事務所　白耳義國　**ブラツセル**市

日本ニ於ケル統制團體

大日本スケート競技聯盟

會　長　喜多壯一郎
副會長理、農學博士田所哲太郎
專務理事　兩角政人
事務所　東京市麴町區丸ノ内三ノ八仲六號館

ボブスレー

主宰團體

國際ボブスレー及トボガニング聯盛

會　長　伯爵　**フレギオレール**

日本ニ於ケル統制團體

日本ボブスレー協會(札幌)

會　長　醫學博士　柳壯一
專務理事　中根光一
事務所　札幌市北四條西十五丁目(電話札幌二二三二)

番外競技

軍隊スキー競走

全日本スキー聯盟

會　長　醫學博士　小島三郎
副會長　醫學博士　大野精七
專務理事　小川勝次
事務所　東京市本郷區駒込神明町三〇八(電話駒込一〇五二)

申込

各國ハ昭和十四年十二月二十日迄ニ參加種目ノ申込ヲ爲スベシ。
各國ハ昭和十五年一月十二日迄ニ參加競技者及ビチーム氏名ノ申込ヲ爲スベシ。
爾後申込書ノ變更或ハ追加ヲ許サズ。

各國參加團體引率者ハ抽籤ノ日ノ前日、即チ各競技開始ノ四日前ノ正午迄ニ第五回冬季オリムピック札幌大會實行委員會ニ、參加種目ニ對スル最終出場者名簿一通ヲ提出スベシ。

抽籤

各競技トモ其最初ノ種目ノ三日前ニ抽籤ヲ行フ。
各國際競技聯盟代表者及ビ當該競技ニ參加申込アリタル各國代表者ハ抽籤ニ立會フ。
抽籤ハ札幌市役所ニ於テ行ヒ、其結果ハ實行委員會事務所、スキー競技場及ビスケート競技場ニ發表ス。

個人競技

申込者數及出場者數

申込者數ハ各國八名迄トス
出場者數ハ各國五名迄トス

賞品

一等　銀臺金鍍金賞牌及ビ賞狀
二等　銀賞牌及ビ賞狀
三等　青銅賞牌及ビ賞狀

種目

スキー競技

五〇粁耐久競走
十八粁長距離競走
複合競技(長距離競走及飛躍競技)
滑降・廻轉複合競技
女子滑降・廻轉複合競技

氷上競技

スピード・スケーティング
五〇〇米
一五〇〇米
五〇〇〇米
一〇〇〇〇米

フイギユア・スケーティング

男子
女子

團體競技

賞品

一等　賞狀、各競技者ニ銀臺金鍍金賞牌及ビ賞狀
二等　賞狀、各競技者ニ銀賞牌及ビ賞狀
三等　賞狀、各競技者ニ青銅賞牌及ビ賞狀

種目及申込者數出場者數

スキー競技

繼走競技（四×一〇粁）
申込者數ハ各國八名迄トス
出場者數ハ各國四名迄トス

氷上競技

ペア・スケート
申込者數ハ各國四組迄トス
出場者數ハ各國二組トス

アイス・ホツケー

申込者數及ビ出場者數ハ各國一チームトス
一チームハ十名トシ、補缺三名及ビゴール・キーパー補缺一名トス

ボブスレー競技

四人乘
申込者數ハ各國四名宛三組トス
出場者數ハ各國四名宛二組トス

二人乘
申込者數ハ各國二名宛二組トス
出場者數ハ各國二名宛二組トス

賞品

番外競技出場者ニハ記念章ヲ授與ス

種目及申込者數、出場者數

軍隊スキー競走（二十五粁）
申込者數ハ一チームトシ指揮將校一名、下士官一名、兵二名トス。但シ補缺トシテ將校一名及ビ兵一名ヲ申込ムベシ

申込

申込ハ第五回冬季オリムピツク札幌大會實行委員會ノ特別招待トス

規約

規約ハ各國際競技聯盟ノ競技規約ヲ適用ス

プログラム

昭和十五年二月三日（土曜日）
午前十一時開會式（於オリムピツク式場）
午後二時五〇〇米スピード・スケーテイング

昭和十五年二月四日（日曜日）
午前九時五〇〇米スピード・スケーテイング
午前十一時スキー女子滑降競技

昭和十五年二月五日（月曜日）
午前八時ボブ競技（四人乘）
午前九時一五〇〇米スピード・スケーテイング

午前十一時スキー男子滑降競技

昭和十五年二月六日（火曜日）
午前八時ボブ競技（四人乘）
午前九時一〇〇〇〇米スピード・スケーテイング
午前十時スキー女子廻轉競技

昭和十五年二月七日（水曜日）
午前十時スキー男子廻轉競技
午後一時男子スクール・フイギユア

昭和十五年二月八日（木曜日）
午前九時スキー繼走競技（四×一〇粁）
午後一時男子スクール・フイギユア

昭和十五年二九日（金曜日）
午前八時ボブ競技（二人乘）
午後一時女子スクール・フイギユア

昭和十五年二月十日（土曜日）
午前八時ボブ競技（二人乘）
午前十時スキー長距離競走（十八粁）兼複合競技
午後一時女子スクール・フイギユア

昭和十五年二月十一日（日曜日）
午前十一時複合飛躍競技
午後二時ペア・スケーテイング、夜カーニバル

昭和十五年二月十二日（月曜日）
午前八時三十分五十粁スキー耐久競走
午後一時男子フリー・スケーテイング

昭和十五年二月十三日（火曜日）
午前九時軍隊スキー競走（二十五粁）
午後一時女子フリー・スケーテイング

昭和十五年二月十四日（水曜日）
午前十時三十分スキー純飛躍競技
午後四時閉會式（於オリムピツク式場）
尙アイス・ホツケーハ參加國決定後日程ニ追加ス
番外競技モホツケー日取リ決定後適當ニ配置ス

閉會式

賞狀及賞品授與式

時日 昭和十五年二月十四日（水）

場所 **オリムピツク式場**

關係競技團體の準備

第五回冬季オリムピツク札幌大會の日本に於ける關係競技團體は、全日本スキー聯盟大日本スケート競技聯盟及日本ボブスレー協會の三者で、アイス・ホツケー競技は、日本では大日本スケート競技聯盟が統轄してゐる。

第五回冬季オリムピツクが札幌と決定したのは昭和十二年六月である。第十二回オリムピツクが東京と決定したのは其前年、即ち昭和十一年七月であつたので、冬季大會は正に一ケ年後れて決定した次第である。而も開幕は、夏季大會は九月であり、冬季大會は二月であるので札幌大會の準備期間は東京大會のそれに比し正味一ケ年半だけ短い事となる。又出場選手の立場から云へば、東京大會關係は三シーズンの練習期間があるにも拘らず、冬季大會關係は二シーズンの練習期間しかないと云ふ不利な狀態にあつた。

從て札幌大會實行委員會並に關係競技團體は夏季關係團體より一層安閑としては居られない立場にあつた。それが爲關係團體は正しく總動員してオリムピツクに對する內外の準備に取掛つた次第で、左に簡單乍ら關係團體の紹介並に準備狀態に就て述べる事とする。

一、全日本スキー聯盟

大正十四年（一九二五年）の創立に係り初代の會長は札幌實行委員會事務局長稻田昌植男であつた。全國で現在六百萬人を數へるスキーフアンの統轄團體で、登錄會員五萬五百人、日本に於ける各種競技團體中最も有力な團體の一である。昭和十二年六月I・O・Cワルソー總會で、次の冬季オリンピツクが札幌と決るや、全力を擧げて札幌大會の人的並に物

質の準備に取掛り、札幌大會實行委員會並に日本ボブスレー協會の創立にも寄與する處が尠くなかつた。これは札幌が日本の代表的スキー地であり、幾多の關係者が在住してゐる關係によるものである。

然し乍ら昭和十一年以來國際スキー聯盟（F・I・S）は次期冬季オリムピツク大會からスキー競技の不參加を聲明し此の儘では結局札幌オリムピツク大會にスキー競技が無くなるのでI・O・C對F・I・Sの問題にも甚大なる關心を持ち、打開の途を考へたのである。即ち高橋次郎、津田正夫兩名を全日本スキー聯盟アタッシエとして活動を願ひ稻田顧問の二回に亙る歐洲派遣、大野副會長の渡歐など、極力この問題の解決に努力したのであつた。然し乍ら昭和十三年三月のI・O・Cカイロ總會に於て、スキー競技は正式のプログラムに入れる事が出來なくなつたにも拘らず、稻田男の再度の渡歐はF・I・S新結成に大いなる光明を認めるに至り、關係者の努力も漸くオリムピツク開幕迄には實現するかと思はせるに至つたのであつた。

スキー聯盟關係者は、昭和十一年東京大會の決定と同時に、冬季大會も札幌と決定するを見越し、早くも選手の强化を計つた。從來各地で行つた選手權大會をオリムピツク前年迄札幌に固定せしめ、オリムピツク會場での强力な練習を開始し、又選手權大會終了後は札幌、小樽、ニセコに五、六十名づゝ合宿せしめ「オリムピツク選手養成委員會」の事業とした。一方昭和十二年暮には世界スキー選手權大會に出場し併せて新知識を獲得するため伊黑、菊地、次井、藤山の四選手を歐洲に派遣した。この四選手を歐洲の派遣は折柄ヘルシンキで開催され、我が大野、高橋兩代表も出席した第十五回F・I・S總會に對する一種の掩護射擊でもあつたが、見事な成績を收め、見聞を廣めて歸朝した。

オリムピツク前年である昭和十四年一月には五名の獨逸スキー選手を招聘する計畫をたて、既に獨逸の體育長官チヤンマー・ウント・オステンは快諾した處であつた。

二、大日本スケート競技聯盟

昭和四年（一九二九年）の創立であるが、日本スケート會としての存在は古い。當初の會長は交野政邁子で、久保田敬一男、久保田晴光博士と變り現在の喜多壯一郎に及び、專務理事も小口孫六、平林博、朝長實と變り現在の兩角政人と夫々變遷があつた。

日本のフイギュア・スケーティング、スピード・スケーティング及アイス・ホッケーの三競技を統轄し、內部的にはこの三つの部門に分れ登錄會員は約二萬五千人である。

國際スケート聯盟（I・S・U）の加盟は大日本スケート競技聯盟が成立する迄は日本スケート會がその權利を所有してゐた。然るに大日本スケート競技聯盟が成立して、日本スケート會はそのメムバーの一となつたが、對I・S・Uの加盟權は其の儘放置されたが爲に、後にこの問題をめぐり粉爭が起り昭和十一年二月、ガルミッシュ大會當時のI・S・U總會に迄持ち出され容易に解決を見なかつたのであつた。第五回冬季オリムピックが札幌と決つてからも、この問題は容易に解決せず、この爲に札幌大會の成否迄云々さるゝに至つたが、昭和十二年十二月兩團體の當事者の努力と稻田男、鷲田成男等の斡旋により多年の懸案を一擧に解決して、日本スケート會は手を引くに至つた。當然の歸結ではあるが、札幌オリムピックに對する成功を期待しての關係者の熱意の現れと見ても良い。

かくして大日本スケート競技聯盟は內部の癌を除去し、一意札幌オリムピックの爲に專心することゝなり、實行委員會に協力して屋外リンクの構築に着手し、大成功を收めた。札幌市に於けるスケート關係者の數はスキー關係者の數に比すれば遙に尠いが關係者は何れも眞に獻身的の努力をした。

全日本スケート選手權大會もフイギュア・スケーティングを東京で行ひ、スピードとアイス・ホッケーは昭和十三年度

も、昭和十四年度も札幌にて行ふ事とした。札幌をオリムピック大會で日章旗を揭げる爲には、其競技場で練習する事が何よりの强味であり、且その期待はスケート然らずんばスキー以外の種目にはあり得ない。この意味でオリムピック候補の優秀選手の合宿も此處で行はれた。そして全日本大會並に明治神宮體育大會には、嘗てなき迄に新記錄が樹立され、洋々たる日本スケート界の前途を謳歌し、併せて札幌オリムピックに對して甚大なる期待を持つたのであつた。

三、日本ボブスレー協會

この團體の創立は極めて最近である。即ち昭和十二年六月I・O・Cワルソー總會に於て、札幌と決定してから創立された、云はゞ札幌オリムピック大會が生んだ團體である既に述べた通り、夫れ迄の日本のウインター・スポーツ界には、未だ登場しなかつた競技種目であるにも拘らず、札幌オリムピックではどうしても擧行せねばならない競技種目であつたので、之が準備をする爲に、又一方日本選手を養成し出場せしむるために結成されたのであつた。從て經驗も一シーズンを、夫れも獨學によつて得たにすぎず、選手も札幌を主とし僅に東京、諏訪あたりに四、五散在すると云ふ程度である。而も札幌の選手を除いては本格的のボブ競技には未經驗である。

斯樣な次第で、本部は札幌に在り、會長も北大教授の柳壯一博士である。專務理事は當初小林卯三郎であつたが後、中根光一が之に代つた。總ての全國的競技團體の所在地は東京にあるにも拘らずこの日本ボブスレー協會のみは札幌にあるのも成程と頷ける次第であるが、軈て全國的に發達すれば東京に移り、全國的の大團體となるであらう。

札幌を中心とした急造の日本ボブスレー協會ではあつたが、關係者は札幌オリムピックの爲に、眞に獻身的の努力をした。昭和十二年秋、オリムピック・ボブコース建設の爲獨逸から斯界の權威者ツエンチツキーが來朝するや、全員擧げて之と協力して設計に盡力し、併せて教へを受けた。不幸このオリピムツク・ボブコースは其シーズンに完成を見なかつた

が拱手する事なく、直ちに別に五百米の小規模なコースを小別澤に作り、橇も資を投じて北大工學部に依頼して三臺製作する事に成功した。これにより選手を養成した。選手には北大相撲部、柔道部の體重ある者が好んで參加し、一般市民の中からも自動車の運轉に心得のある者が二三參加し、歴史的な第一回全日本ボブ選手權大會を開催した。

一方會長柳博士は協會が成立すると間もなく渡歐され、一シーズンみつちり研究され、二人乘及四人乘の本格のボブを持參して歸朝された。又オリムピック・ボブコースの完成を期するため獨逸よりコース管理者を、選手養成のため獨逸選手を夫々招聘する計畫をたて、内交渉迄して歸朝されたのであつたが、總て空しくなつてしまつた事は誠に以て遺憾千萬な事であつた。

併し、日本ボブスレー協會は、これで挫折する事なく、今後も引續き斯道の奬勵と研究をなし益々普及に力め、軈て再び札幌オリムピックが招致され、開催される日を待つてゐる旨の聲明を發したのは心強い限りである。

宣　傳

昭和十三年一月、札幌市に赴き各方面を視察した第十二回オリムピック東京大會組織委員會技術顧問ウエルナー・クリンゲベルグは、歸京後左の意見書を札幌大會實行委員會に進言した。

A、宣　傳　方　面

1、札幌がスキーをはじめとしてウインター・スポーツ場として優秀な地勢、地形を具備してゐるにも拘らず、現在迄海外に知られて居らないのは遺憾至極故、もつと宣傳に努めて頂きたい。

2、既定方針並に計畫、設計等總ての準備狀態をもつと中外に報道する事。

3、言語の不自由から來る認識の不足を除去すべく、計畫、設計等少くとも英、佛、獨三ケ國語で印刷發表して頂きたい。

B、組　織　方　面

1、外國語に堪能なる人（事務總長）の任用。事務總長はよろしく海外のスポーツ團體との接觸を保ち、文通を繁くしてその認識理解を增すこと。

2、人事、上記事務總長の下に競技部、宣傳部兩專任主事（この仕事に專念出來る人）をおくこと、勿論有給とす。他に職業ある人は困難なり競技部主事は海外スポーツ團體にこちらの情況を報じ、一九四〇年大會の海外よりの參加團體と充分疏通を計り、協力して大會を成巧に導く樣努力すること。宣傳部主事は海外よりの參加團體はもとより、一般觀客誘致に力をそゝぎ、彼等をして不便を感ぜしめざる樣

イ、交通運輸狀態

ロ、宿泊設備及其料金を明示し、又通信事務擔當者（新聞其他報道機關）の爲郵便、電信、ラヂオ放送等の設備等に關し、豫め知悉せしむること

C、宿　泊　設　備

1、海外よりの參加選手期待數　五〇〇名

同　役員審判員數　三〇〇名

一般觀覽客　一、〇〇〇名

國内觀衆　一〇、〇〇〇名

2、同上施設

イ、全選手、即海外諸國よりの參加チームを一個所に纏める案（オリムピック村）

ロ、新聞班も一ヶ所に纏める案

ハ、I・O・C及N・O・Cも一ヶ所に纏める案（掲示、報道等聯絡を容易ならしむる故）

D、宿　舍　係

1、係主任は全收容人員、可能ベット數（歐風）を知悉、チエックしおくこと。洋風ホテル、日本旅館、個人住宅にても宿泊可能の家の間數、寢臺等登錄すること。小樽、定山溪溫泉の宿泊人收容數をも含む。

2、料金の確定。上、中、下、等級公定價格等

3、宿泊割宛決定權は宿舍係が保留すること。個人、其他旅行會社（トーマスクック、日本旅行協會等）の直接ホテル等との交渉を許さぬ事。

由來我々日本人は總ての場合に於て、外人から宣傳下手を指摘される。クリンゲベルグの意見書も結局宣傳に關する事項が大部分を占めてゐる。我々の氣持は宣傳を敢て行はなく共、若し眞に實力があるならば、軈てキットこの實力が一般に知れ渡るであらうから、當初から自ら聲を大にして宣傳をする必要はないと云ふ信念から來てゐるものと考へられる。

札幌オリムピックの場合に於ても同樣の事が言へる。併し、全然宣傳しないと云ふのではない。札幌に於て行ふ冬季オリムピックは、決して過去の冬季オリムピック會場に比し劣つてをらず、來觀者にも滿足を與へ得る事は見聞の廣い關係者も承知してゐる。從て大會開催に方り、一人でも多く外來の觀客を誘致出來れば、それだけ國の爲になる理で、相當規模の宣傳を計畫してゐた處であつた。只未だ時期尚早の樣に考へられ、それに特に對外宣傳はどうしても東京に於て行ふ必要があり、その機關の充實しなかつた事も一原因と云へる。

それで、札幌オリムピックの對外國宣傳は、當分の間、時期、經費の三點から、一切東京大會組織委員會事務局宣傳部

で行ふ事になつた。

斯樣な次第で、昭和十二年六月のI・O・Cワルソー總會の際、及同十三年三月のカイロ總會の際に夫々製作したパンフレットには札幌關係の資料も掲載し、又東京大會組織委員會で毎月刊行してゐる「オリムピック・ニュース」にも時折東京大會の記事、寫眞に交ぜて掲載した。又札幌大會實行委員會でも「オリムピック・スピリット・イン・ホッカイドウ」（昭和十三年四月）なるパンフレットを發刊し、其他札幌觀光協會及札幌鐵道局でも數種のリーフレットを印刷配布した。

札幌大會のマークに就ては、美術委員に於てこれを作成したが、實行委員會の贊成を得るに至らず、更に研究する事とし、結局決定に至らなかつた。この公式マークとは別にシールを使用してゐた。

札幌大會の宣傳用ポスターは實行委員會に於て稻田事務局長に一任となつたので、稻田局長は之を伊原宇三郎畫伯に依頼し、五月に完成した。尠く共五萬枚は各國に配布する豫定であつたが、併しこれも未だ印刷するに至らなかつた。全く總てはこれから本格的に開始し樣と云ふ處であつた。

交　通

東京から札幌迄の距離は鐵道により一、一九六粁、所要時間は、途中一六〇粁の青森——函館間の乘船時間を加へて、最短の分が二十四時間四〇分にて達する。賃銀は三等片道十二圓九〇錢（稅及急行料金共）である。現在一日に双方から二本の急行列車が出發してゐる。他に東京、札幌間には夏期は双方より二回づゝ飛行便があり、これによれば、途中仙臺市、及青森市に立寄り、四時間にて達する。昭和十五年の冬季オリムピック開幕迄には冬季も飛行便が通ずる樣計畫されてゐた。料金は片道五五圓である。

要するに、東京、札幌間の交通は、汽車に依れば一晝夜要するが、各列車には何れも寢臺及食堂の設備があり、愉快に且安全に往復する事が出來る。夏季大會の東京と冬季大會の札幌とが餘りに遠距離にありと云々する向もあるが、レークプラシッドとロサンゼルス、伯林とガルミッシュを比較するならば何等の問題はない筈で、外來の選手、役員が遙々東京迄やつて來て、あともう一日の札幌を遠距離すぎると文句言ふ筈はないと考へる。

更に札幌オリムピックを控へ、東京から札幌迄の列車の增發、並にスピードアップを計畫し一方オリンピック關係者には賃銀の五割引を決定發表を見たのであつたが、結局、何れも實現せずに終つてしまつた。

氣　象

札幌の一月と二月の氣象に關する昭和二年以來の統計を左に掲げる。これによつて、札幌が氣象學的の立場から、如何にウインター・スポーツに好適な條件を具備してゐるかを知悉することが出來る。即ち氣溫は程良く寒冷ではあるが、雪積量は大して多からず、風力も大したる事なく濕度も適度なるを示してゐる。

一、氣　候

	昭和二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年
一月	−5.8	−5.2	−7.0	−7.2	−7.7	−2.5	−6.8	−4.9	−5.5	−6.0	−5.4
二月	−2.5	−6.4	−6.2	−4.1	−7.9	−5.6	−7.1	−4.9	−2.1	−4.3	−3.5

右表に依り大體に於て一月の方が、二月より寒冷である事を示してゐる。そして過去十一年間に於て、一月中最も寒かつた月は昭

和六年の氷點下七度七分であり、二月では同年の氷點下七度九分である。反對に最も暖かつた月は一月では昭和七年の氷點下二度五分であり、二月では十年の二度一分であつた。

A、最高平均氣溫

	昭和二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年
一月	−1.4	−0.5	−2.9	−3.5	−3.5	−1.6	−2.6	−0.4	−1.2	−1.9	−1.0
二月	−3.1	−1.7	−1.6	−0.0	−3.6	−0.7	−2.5	−1.3	−2.2	−0.4	−0·2

右表により一月中の最高氣溫の平均は昭和七年度で一度六分を示し、二月では十年度の二度二分である事を知る。右は十一ヶ年統計により、最高平均氣溫と雖も氷點より上昇するは精々一ヶ年に過ぎない事を知る次第で、氣溫上昇の爲氷が解け始めると云ふ樣な醜體は先づ懸念なしと見て良いと思ふ。

B、最低平均氣溫

	昭和二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年
一月	−10.7	−11.0	−12.0	−12.4	−12.7	−7.1	−11.5	−9.8	−9.5	−10.7	−10.3
二月	−12.6	−11.9	−12.1	−9.2	−13.3	−11.2	−12.8	−9.4	−6.8	−8.6	−7.8

十一年間の最低平均氣溫は氷點下七度前後より十三度前後に及び、總てのウインター・スポーツには絶好の條件を與へてゐる。而も、この氣溫に於ても大して風力がないので、夫れ程寒さを感ずる事なく快適な日に接する事が出來るのを示してゐる。

二、積　雪　量

	昭和二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年
一月	28.2	59.2	121.3	50.9	62.7	8.7	35.7	36.9	30.7	34.5	31.0
二月	63.5	93.2	128.7	56.4	90.1	16.4	26.7	74·7	49.4	83.8	90.9

（單位糎）

積雪量の最も多かつた年は一月では昭和四年の一二一糎三であり、二月では同年の一二八糎七となつてゐる。又反對に最も尠なかつた年は一月では昭和七年の八糎七で、二月では同年の一六糎四と五つてゐる。更に過去十一年間の積雪量の平均を求むれば、一月では四五糎四（一尺五寸）となり、二月では七三糎五（二尺四寸）となり、多からず、さりとて尠なからずと云ふ適量を示してゐる尤も此の數字は市街地での測量であり、一歩郊山の山に入れば多少の增加は當然である。降雪量に關しての一般的の常識は、餘り寒冷では多く積らない。我國の降雪地方を通觀するに寒冷な北海道、樺太に於て一〇〇糎以上積る年は減多にない。これに反し溫暖な中部地方の山岳地に近い地方では毎年二〇〇糎以上は珍しくなく、三〇〇糎を突破する事すらある。スキーを行ふに多量な積雪はいらない、蓋し札幌程度の積雪量が他のスケート及ボブ等を行ふ場合を考慮する時、眞に理想的ではあるまいかと思ふ。

三、風　力

	昭和二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年
一月	3.1	2.6	3 7	2.9	2.5	2.9	2.6	2.9	3.3	2.6
二月	3.0	3.0	3.2	3.1	2.7	2.2	2.8	2.7	2.3	2.4

（秒測、單位米）

風力は平均して二月の方が平穩であるが、殆んど一月と大差はない。即ち一月二月も二、三米の風がある程度で、日本の冬の氣候から云へば寧ろ尠い方である。

四、濕　度

	昭和二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年
一月	77	82	83	78	80	72	79	71	76	72
二月	81	78	81	80	78	73	78	79	73	79

（單位パーセント）

右表の示す通り一月、二月平均して七十八パーセント程度で、冬季は夏季に比し尠いのを特長とし（七、八、九月の東京の平均は約八十二パーセント）全く無難であると云ふ事が出來る。

五、降雪日數

	昭和二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年
一月	25	27	28	29	30	24	28	25	24	25
二月	27	23	22	20	27	16	26	27	23	25

降雪日數で最も多いのは、一月では昭和六年の三十日、二月では二年、六年及九年の二十七日で、平均すれば一月が二十六日、二月二十三日となる。何處でも冬期は同樣であるが雪の日が多い但し勿論朝から晩迄降り續けると云ふ樣な現象は減多になく、一日の中でも晴れたり降つたりしてゐるのが普通で、實際に於てはこの統計が示してゐる樣な陰氣さはない。

要するに、降雪及積雪多量のため、又强風のため、海陸の交通機關が杜絶する樣な事は絶對になく、札幌に於て開催した各種の競技會に於ても、過去二十年間に於て、天候不良のため競技を中止し、又は延期した樣な例はない。過去の日本のウインター・スポーツに於ては、內地で行つたスケート競技に於て、融氷のため、時に競技を延期した例はあるが、ス

キー競技に於ては信越に於て一夜に一米近くの降雪に遭遇しても、尙五〇粁競走を決行してゐる。即ち內地に於てはスケート競技に於て天候に禍された事はあるが、札幌に於ては斯る心配は絕對に無いと信ずるものである。然し乍ら何十年振りの暴風、何年振の薄雪といふ言葉はよく聞く事で、札幌大會のプログラムを組む上に於ても、この點を考慮に入れた事は勿論である。

即ち、第五回冬季オリムピツク札幌大會の會期を二月三日からと豫定した所以のものは、スケート競技を考慮して定めたのであつた。寒氣は統計の示す通り、二月より一月の方が低いので、從て氷の狀態も良い理で、成るべく二月早々に開催した方が安全であるからである。スキー競技は一月中旬からは、每年積雪量も相當になり、根雪もしまつて來るので、オリムピツクの如き權威ある競技會も開催して差支へなく、二月は勿論、三月中旬迄は同樣な、そして良好な條件の下に開催する事が出來る。

日本の從來の習慣から云へばスケートは一月中にスキーは二月中に夫々選手權大會を開催してゐる。

札幌大會豫算

第五回冬季オリムピツク札幌大會の總豫算は、同大會實行委員會にて計上した分が一、五〇〇、〇〇〇圓、其他で計上した分が七八五、〇〇〇圓、合計して二、二八五、〇〇〇圓である。

其內譯を收入、支出別にして見ると次の通りである。

尙、第五回冬季オリムピツク札幌大會が解散する迄に要した經費は九五、五五四圓（實行委員會負擔六三、四九三圓、北海道廳、札幌市及地元團體負擔三二、〇六一圓）である。これに對し昭和十三年十月東京大會組織委員會は六一、七九二圓

の政府補助金を交附した。

收入之部

一、補助金	一、二〇〇、〇〇〇・〇〇円
A、政府補助金	六〇〇、〇〇〇・〇〇
B、北海道廳補助金	三〇〇、〇〇〇・〇〇
C、札幌市補助金	三〇〇、〇〇〇・〇〇
二、寄附金	一八〇、〇〇〇・〇〇
三、入場料	一〇〇、〇〇〇・〇〇
四、雜收入	二〇、〇〇〇・〇〇
	一、五〇〇、〇〇〇・〇〇

支出之部

一、權築費	八五二、〇〇〇・〇〇円
A、式場設備費	五五、〇〇〇・〇〇
B、飛躍競技場費	一二七、〇〇〇・〇〇
C、スキー競技場費	二〇、〇〇〇・〇〇
D、ボブ競技場費	二〇、〇〇〇・〇〇

E、屋内スケート競技場費　四八〇、〇〇〇・〇〇
F、屋外スケート競技場費　五〇、〇〇〇・〇〇
二、大會開催費　三六一、〇〇〇・〇〇
A、開催準備費　一七六、七一二・〇〇
B、大會費　一八四、二八八・〇〇
三、外來選手優遇費　一五〇、〇〇〇・〇〇
四、宣傳費　五〇、〇〇〇・〇〇
五、豫備費　八七、〇〇〇・〇〇
一、五〇〇、〇〇〇・〇〇

其他の負擔分

一、道路費　四〇〇、〇〇〇・〇〇
（北海道廳、札幌市、手稻村、王子製紙會社負擔）
二、オリムピック村借用料　三〇、〇〇〇・〇〇
（札幌市負擔）
三、電氣裝置費　一七五、〇〇〇・〇〇
（電燈會社、遞信局負擔）
四、用地費　一八〇、〇〇〇・〇〇

（北海道廳、札幌市負擔）　七八五、〇〇〇・〇〇

札幌冬季オリムピック總豫算

札幌大會實行委員會負擔分　一、五〇〇、〇〇〇・〇〇円
其他にて負擔分　七八五、〇〇〇・〇〇
總計　二、二八五、〇〇〇・〇〇

札幌大會遂に返上

斯様に準備した第五回冬季オリムピック札幌大會ではあつたが、遂に政府の意を體して中止返上の止むなきに至つた。我々は此處で敢て死兒の齡を數ふるの愚をいたさぬ勇氣を必要とするものであると同時に、やがて明朗な氣持を以て晴れの冬季オリムピックを再び獲得し開催する様、その日を期待し又その日のために準備する事を誓ふものである。

此處に、第五回冬季オリムピック札幌大會實行委員會會長石黑英彦北海道廳長官の「札幌大會中止に當りて」と題する聲明を掲載する。

昨年六月條件附ヲ以テ札幌開催ニ決定シタルオリムピック冬季大會ノ實施ニ關スル諸準備ノタメ、私ハ今日迄實行委員諸氏ト共ニ御國ノタメニナレカシト微力ヲ致シタノデアツタガ、今回政府ハ時局ニ鑑ミオリムピック大會ヲ中止セラルルコトニナツタ。依テ非常國策ヲ遵守シテココニ一切ヲ中止スルモノデアル。唯コノ間ニ處シテ札幌及北海道則チ日本ノ名譽ヲ傷クルナキヲ得タコトハ幸デア

ツタト感ズルノデアル。

元來冬季大會札幌開催ノコトハ、往年道ノ希望ニ基キ日本代表ヨリオリムピツク總會ニ對シ招請方ヲ懇望シ、昨年六月總會ハコレヲ容レタノデアツタ。然ルニ總會ノ一部ニハ日本ニ對シ疑惑ヲ抱クモノガアリ、コレガタメ當時總會ニ於テ「去ル三月開催セラレタルカイロ會議迄ニ準備工作ヲ完了セザルニ於テハ札幌大會ヲ取消ス」トノ條件ヲ附シタルコトハ日本ニ對シ認識ヲ缺クモノデアツテ、憤激ヲモ感ジタノデアツタ。日本ハ正義ノ國デアル、一度約シタカラニハ謂ハレナク反古ニハシナイノデアル。況ンヤ自カラ申入ルルニ當リ自信ナクシテナスモノデハナイ、則チソノ後事變勃發シタルガタメ時局ニ顧ミツツ豫備工作デハアルガ、最小限度ノ準備ヲ進メ、遂ニ彼ノ蒙ヲ啓キカイロ會議ヲシテ札幌開催ヲ確認セシメタノデアル。

然ルニ又モヤカイロ會議ニ於テハ「職業選手ノ參加可否」ノ論爭カラ、遂ニスキー競技ヲ大會種目中ヨリ除クコトトナツタ。洵ニオリムピツクノタメ遺憾ト云ハネバナラヌ。併シ乍ラ日本トシテハ本來「冬季大會ノ招請」ヲナシノデアル。隨ツテ當時スキーノ有無ニ拘ラズ依然變ルコトナク約束ノ實現ニ努メタノデアルガ、畢竟コレハ正義日本ノ執ルベキ筋道デアルト信ジタカラデアル。而シテ他面冬季大會主催ノ責任者タル日本トシテハ、斯カル論爭ニ禍ヒセラレテオリムピツク冬季大會史上ニスキー除外ノ不名譽ナル記錄ヲ殘スコトヲ遺憾トシ、全世界ノスポーツ精神ノ擁護發揚ノタメニ事務局長稻田男ヲシテ關係國ノ間ニ猛省ヲ促サシメタノデアル。西電ニハ相當ノ反響アリト傳フルガ、要スルニ結果如何ヲ問ハズ日本ハソノ正義感ニ基キ責任者トシテナスベキノ務ヲ盡シタ次第デアルト信ズル。

今國家ノ總力ヲ擧ゲテ長期難ニ赴カントスルノトキデアル。大會開催ノ中止セラルルハ理ノ當然デアリ何人ト雖首肯シ得ルノデアル顧レバ過去一年有餘札幌大會ハ難航ヲ續ケタノデアツタガ、幸ニモ内ニハ銃後ノ護リニ力ヲ盡シツツモ公約ノ履踐ニ努メ、外ニハ機會アル毎ニ諸外國人ニ對シ正義日本ヲ理解セシムベク力ヲ致シ得タコトハ、實行委員會諸氏ノ熱心ナル協力ハ勿論、組織委員會ヲ初メ道民諸氏ノ親切ナル指導ト鞭韃トニヨルモノデアツテ厚ク感謝ノ意ヲ表スルノデアル。

昭和十三年七月十五日

最初のオリムピツク出場

第十回國際オリムピツク大會第三回冬季競技大會は、一九三二年（昭和七年）二月四日から十三日迄十日間に亘り、アメリカニユーヨーク州レーク・プラシツドで擧行された。

大日本スケート競技聯盟から派遣された代表選手及び役員は左の十名である。

【役　員】

監　督　佐藤昌彦

副監督　飯田洋二

トレーナー　小林進

同　星野仁十郎

【選　手】

スピード　（主將）木谷德雄

同　石原省三

同　潤間留十

同　河村泰男
フイギュア　老松一吉
同　帶谷龍一

聯盟が昭和四年の暮に生れ、それから數へて三年目の暮に早くも世界の檜舞臺オリムピックに選手を送つたことは何んと云つても急がしいことであり冒險的のことであつた。

然し技量の見當がつかないからと云つて、いつまでも消極的に居ることは、日本のスケート界をいつ迄も現狀維持で進歩させないことにもなるのだつたが、多くの犧牲を拂ひのけ、思ひ切つて選手を送つたことは、スケート界に新生面を與へ、同時に將來の躍進が約束されるものであつた。

大日本スケート競技聯盟內部にこのオリムピック派遣の話が持ち上つたのは一年前の昭和六年の春で、これに關して異存のあらう筈がないのであるから、五月十日に東京に聯盟臨時代表委員會を開催して左記の選手諸君を候補選手として推薦し、この中からフイギュア二名、スピード六名、ホツケー九名を、追つて行はれる詮衡委員會に依つて決定するといふことになつた。

【推薦候補選手】

スピード

石原省三、木谷德雄、河村泰男、池見正信、大澤義一、小池富治、吉野正滿（以上滿洲）
潤間留十、行田和（以上諏訪）

フイギュア

老松一吉（關西）、帶谷龍一（慶大）、小林進（日本スケート會）

アイス・ホツケー

聯盟加盟諸チームより九名選拔

スピード六名、フイギュア二名、ホツケー九名、これが聯盟で最初に決めた派遣選手の人員であつたが、愈々經濟問題に直面して見るとなか〳〵豫定の通りには行きさうもないので、遂にホツケーは派遣を中止し、スピードも人員を減して四名にすることになつた。これが爲に學生聯盟では自分達に依つてホツケー・チームを送らうと數回の會合を開いたがその實現を見ず、大日本スケート競技聯盟は、前記候補選手中からスピード四名、フイギュア二名を詮衡決定し、十月廿七日の大日本體育協會評議員會に於て正式に代表選手として承認されたのであつた。

かくて選手は決定して費用の問題となつたが體協から聯盟へ支給された金額は六千圓で、體協としては選手一人當り一千圓を豫定したであらうが、さうなると役員迄には行き渡らないことになる。それに冬季オリムピックはレークプラシッドに行はれるのであつて夏季オリムピックのロサンゼルスから見ると倍以上の費用を要し、結局體協からの補助金六千圓は總額の三分の一にしかすぎなくなつてしまつた。

この不足分の補充は各地方のスケート聯盟が分擔して寄附を集めてといふことになり、大いに努力して貰つたのであつたが、それでも間に合はず出發準備費金七百三十七圓十二錢也は借金といふことになつてしまつた。

選手一行は十二月廿日滿洲、諏訪、大阪の各地方より上京し、同日正午から上野松坂屋の貴賓室で打合せ會を開き、廿二日午後三時には學士會館の送別會、廿三日夜は丸の內中央亭に開かれた大日本體育協會主催のスキー、スケート選手送別會に臨んで愈々廿四日午後三時スキー選手と共に氷川丸で遠征の壯途に就いたのである。

一行は一月四日バンクーバー着、在留同胞の歡迎を受けた後直ちに大會場レーク・プラシッドへ向つたが、途中七日夜

はウイニベッグ市の招待に依つて同市のアイフイシアター及びウエズリー・リンクに於てスケーチングのエキジビシヨンに出場した。翌八日は市長主催の午餐會に臨み、同夜同地出發、途中十日朝オツタワ驛頭に於て、徳川公使の歡迎を受け正午モントリオール着、十一日愈々待望のオリムピツク開催地レーク・プラシツドに到着して宿舍のアレン・カツテージに入つた。

この頃この地方の天候は、練習にことは缺かないにしても降雪が少なく、まして到着前晩は雨と云つた具合で選手の氣持を相當腐らせた。

然し、雨の後の寒氣は、かへつて氷のコンデイシヨンを良好にし、スキーには氣の毒であつたが、スケートにとつてはむしろ惠まれたものであつた。

この良好なコンデイシヨンのもとに、練習は佐藤監督の指揮で毎日午前十時から十二時まで、午後二時から四時迄二回に亘つて行はれた。

大會は漸く近づいた。レーク・プラシツド到着後の天候は、頗る惠まれざるもので、スキー、スケート選手共非常に惱まされ、これで大會が出來るのかとさへ危ぶまれたのであつたが、奇蹟的にも開會間際となつて雪も降り、氷も充分に張り詰めて、先づ申分のない大會コンデイシヨンとなつた。各國選手は、大會前日最後の猛練習を行ひ、何れも必勝の意氣を示して居た。レーク・プラシツドの地元千五百の村民達は、この山間の小村が一躍「世界冬季競技」の首都として華かな地位を獲得したことに依つて有頂點となつて居た。

一九三二年二月四日午前十時、第十回國際オリムピツク大會第三回冬季競技會開會の幕は、アメリカ合衆國ニューヨーク州レーク・プラシツドの屋外オリムピツク・スタデイアムに切つて落された。

参加十七ケ國チームは主催國たる米國選手を先頭に、各々國名標と國旗とを捧げた主將に從ひABC順で場内を一週し

中央スタンド前に並列した。

日本チームは第十一番目であつた。スキーの保科主將が輝く日章旗を捧げ、これに役員選手が續いたが日章旗のマークを胸間にかざしたスキー、スケート廿一名の役員選手の入場はまことに颯爽たるものであつた。

かくてルーズベルト名譽會長開會を宣し、米國チーム主將ジヤツク・シエー君が全選手を代表して宣誓をなし、これで開會式を閉じ午前十一時から五百米スピード・スケーチング豫選A組の競技が開始された。

大會は四日から十日間開催された。我が代表選手はスキーとスケートの二競技種目に出場、更にスケートはスピード・レースとフイギユア競技とに分れて活躍した。

スピード及びフイギユアの成績は次の通りである。

スピード・レース

五百米豫選

第一組 1フランク・スタツク（カナダ）四四秒三、2ジヤツク・シエー（米國）、3石原省三（日本）、4アーリング・リンドボー（ノルウエー）、5河村泰男（日本）

第二組 ベルンド・エヴエンソン（ノルウエー 四四秒三、2ビル・ローガン（カナダ）、3、レイ・ミユウレー（米國）、4木谷德雄（日本）、5レオ・シベルストル（カナダ）

第三組 1アレツクス・ハード（カナダ）四四秒九、2オネイル・ファレル（米國）、3アラン・ポツツ（米國）、4ハーコン・ペテルゼン（ノルウエー）、5ハツヅ・エングネスタンゲン（ノルウエー）

五百米決勝

1ジヤツク・シエー（米國）四三秒四、2ベルンド・エヴエンソン（ノルウエー）差五碼、3アレツクス・ハード米國

◇……レースは何れもオープン・コースで行はれ、その結果日本選手は全敗して決勝への出場權を失つてしまつた。日本選手の最高タイムは、非公式ではあつたが、石原選手は四四秒六で日本選手としては堂々たる記録であつた。快勝へは豫選第二位までが出場した。

五千米豫選

第一組　1アーヴイング・ジヤフイー(米國)九分五一秒六、2エドワード・マーフイー(米國)、3イバル・バラングルード(ノルウエー)、4ハリイ・スミス(カナダ)、5オシアン・ブロムクイスト(フインランド)、6ミカエル・スタクスルード(ノルウエー)、7アレツクス・ハード(カナダ)、8石原省三(日本)、9潤間留十(日本)

第二組　1ベルンド・エヴエンソン(ノルウエー)一〇分一秒四、2テイラー(米國)、3ビル・ローガン(カナダ)、4フランク・スタツク(カナダ)

五千米決勝

1アーヴイング・ジヤフイー(米國)九分四〇秒八、2エドワード・マーフイー(米國)、3ビル・ローガン(カナダ)、4ハーバード・テイラー(米國)、5イバル・バラングルード(ノルウエー)

◇……オープン・コースを用ひ、四位迄が決勝に出場した。

千五百米豫選

第一組　1ハーバード・テイラー(米國)二分四九秒三、2フランク・スタツク(カナダ)、3ベルンド・エヴエンソン(ノルウエー)、4ハツヅ・エングネスタンゲン(ノルウエー)、5オシアン・ブロムクイスト(フインランド)、6潤間留十(日本)

第二組　1ジヤツク・シエー(米國)二分五八秒、2ビル・ローガン(カナダ)、3イバル・バラングルード(ノルウエー)、4フラツク(カナダ)、5石原省三(日本)、6グエンサー(米國)

第三組　1レイ・マレイ(米國)二分二九秒九、2アレツクス・ハード(カナダ)、3ミカエル・スタクスルード(ノルウエー)、4河村泰男(日本)、5木谷德雄(日本)、6リンドバーグ(スエーデン)

千五百米決勝

1ジヤツク・シエー(米國)二分五七秒五、2アレツクス・ハード(カナダ)、3ビル・ローガン(カナダ)、4フランク・スタツク(カナダ)、5レイ・マレイ(米國)、6ハーバード・テイラー(米國)

◇……この種目もオープン・コースで行ふ、オープン・レースの當然の結果としてタイムには全く見るものなく、決勝の記錄など世界記錄の二分一七秒四に比したら雲泥の差がある。我選手は河村、木谷の出場した組が相當の競り合ひを見せたので、全體がそれに引きづられ、二分二二秒八のオリムピック記錄に近いものとした、我選手の記錄は非公式ながら、河村選手二分三一秒、木谷選手二分三三秒。

一萬米豫選

第一組　1ハード(カナダ)一七分五六秒四、2バラングルード(ノルウエー)、3ビアリイス(米國)、4ウエッヂ(米國)、5ブロムクイスト(フインランド)、6スタクスルード(ノルウエー)

第二組　1ジヤフイ(米國)一八分五秒四、2スタツク(カナダ)、3エヴエンソン(ノルウエー)、3シユレーダー(米國)、5ローガン(カナダ)　6エングネスタンゲン(ノルウエー)、7木谷德雄(日本)

一萬米決勝

1アーヴイング・ジヤフイー(米國)一九分一三秒六、2イバル・バラングルード(ノルウエー)、3フランク・スタツク(カナダ)、4エンデイー・ウエッチ(米國)、5ヴアレンタイン・バイアリス(米國)、6ベルント・エヴエンソン(ノルウエー)7アレツクス・ハード(カナダ)、8エドワード・シユレーダー(米國)

◇……この一萬米は、AB二組の豫選を行ひながら遂に紛擾を起し、豫選から全部再レースを行ふといふ大醜態を演じてしまつた。右の記錄は再レースに依る記錄である。

この最初の豫選を行ふ直前競技委員は突然以下のやうな意味の二個條の新規則適用を申渡した。

1、各出場選手は少なくとも一回はリードすること、

2、一周を四五秒以内でスケートすること、

ところが果然フインヲンド、諸威、瑞典より抗議があつて、ハード、ウエッヂ及石原は一回もリードに出なかつたとの理由のもとに、またスタツクはバラングルードにフアウルしたといふ別の意味で役員は上記の四名から決勝へ出場する資格を奪つてしまつた。問題はこゝに於てアメリカ・ルールの不備を指適することになり、オリムピツク委員會、國際スケート聯盟の出馬となつて再レースが決行されたのであつた。

我が選手は最初の豫選に於ては第一組で石原が五位、潤間八位第二組では木谷五位となつたが、再レースの結果は石原、潤間疲勞の結果棄權し、僅か木谷が豫選第二組で七位となつて終つた。

我選手の非公式記錄

五百米	石原省三	四四秒五
千五百米	河村泰男	二分三一秒六
	木谷德雄	二分三二秒
一萬米	石原省三	一七分四二秒
	木谷德雄	一七分五九秒

フイギュア競技

成績順位

1カール・シエーフアー(オーストリア)、2ギルス・グラーフストローム(スエーデン)、3モントーマリ・ウイルソン(カナダ)、4マーカス・ニツカネン(フインランド)、5アーネスト・バイエル(ドイツ)、6ローガー・ターナー(米國)、7ジエームス・マデン(米國)、8ゲール・バアーデン(米國)、9老松一吉(日本)、10ウオルター・レンヂヤー(チエツコ)、11ウイリアム・ネゲル(米國)、12帶谷龍一(日本)

スケートは以上の記錄が示すやうに、入賞者一人もなく淋しい成績に終つた。然し初出場のスケートとしては豫め豫想して居たことであつたから聊かも驚かず、寧ろ選手諸君の涙ぐましい迄の活躍に感謝の意を表するのであつた。

然し我が選手とて全然歐米の一流選手に齒が立たないのでは決してなかつた。スピード各選手の出したタイムの中には、日本最高記錄を破り、且つ他の豫選組の勝者のタイム、並に決勝レースに於ける第一着のタイムより良いものもあつた位で、豫選の組合せが惠まれて居たならば、或は決勝に出場したのではあるまいかと思はれるものがあつた。また、フイギュアでも、最初に豫想した如きものでなく、歐米選手の中にも採點の結果、日本選手に劣るものがあることを發見して、今度の出場がスピード、フイギュアを通じて決して無爲でなかつたことを示し、同時に將來の發達、進歩に對し大きな目標を得たのは何んと云つても喜ばしいことであつた。

この大會のスピード・レースは最後の一萬米レースに於て再レースを行ふといふ、オリムピツク大會にふさはしからざる大醜態を現出して選手は勿論、一般スピード競技に關心を有する人達の氣持を暗くした。

この大會のスピード・レースに用ひられた競技方法は、オープン・レースの所謂アメリカン・ルールであつて、問題はこれが爲に起り、少なくもこのルールが國際競技に不適當であることを明白にした。米國自身もこのルールに重大の缺點のあることを知つた筈であるから、米國式オープン・レースと歐洲式セパレート・レースの可否は別として今後このオープン・コースに依るアメリカン・ルールは、國際競技用としては恐らく採用せられなくなるであらう。

我がスケート選手一行は、二月十四日大會終了後レークプラシツドに開催された一九三二年度の世界選手權大會に出場し、それより大陸を横斷し三月二日ロサンゼルスに至り、各方面の歡迎を受け夏期オリムピツクの諸準備を視察した後同九日ロサンゼルス出帆の大洋丸で歸途に就て、途中十一日サンフランシスコで加州スケート選手權大會に出場した後三十日無事横濱に到着、四ケ月に亘る遠征を終つた。

一九三二年度世界選手權

第三回冬季オリムピツク競技終了後我がスピード選手は、二月十九日二十日の兩日レーク・プラシツド四百米ダブル・トラツクで擧行された世界選手權競技大會に出場した。

成績左の如し。

五百米

1、ペテルゼン(ノルウエー)四四秒四
2、エヴエンセン(ノルウエー)四四秒五
3、ポツツ(米國)四四秒八
4、エングネスタンゲン(ノルウエー)四四秒八

〔日本選手〕11石原省三四六秒二、15河村泰男四六秒九、18木谷德雄四七秒四、19潤間留十四九秒〇

五千米

1、バラングルード(ノルウエー)八分三七秒六
2、シユレーダー(米國)八分四一秒九
3、スタクスルード(ノルウエー)八分四三秒〇
4、ブロムクイスト(フインランド)八分四八秒八

〔日本選手〕17河村泰男九分二二秒七、18潤間留十九分二二秒七、19木谷德雄九分二三秒三、24石原省三九分四〇秒七

千五百米

1、バラングルード(ノルウエー)二分二四秒八
2、スタツクスルード(ノルウエー)二分二五秒八
3、テーラー(米國)二分二六秒四
4、ブロムクイスト(フインランド)二分二六秒五

〔日本選手〕12河村泰男二分三三秒一、21木谷德雄二分三八秒四、23石原省三二分三八秒九、25潤間留十二分四二秒〇

一萬米

1、バラングルード(ノルウエー)一七分五八秒
2、エヴエンセン(ノルウエー)一八分〇五秒四
2、テーラー(米國)一八分〇五秒四
4、スタクスルード(ノルウエー)一八分〇七秒五

〔日本選手〕12木谷德雄一九分三六秒五、14河村泰男一九分五五秒四、15潤間留十一九分五七秒二、20石原省三二〇分三〇秒二

選手權順位

1、バラングルード（ノルウエー）一九九・二三
2、スタクスルード（ノルウエー）二〇〇・四七
3、エヴエンセン（ノルウエー）二〇一・六六
4、テーラー（米國）二〇三・四七
15、河村泰男　二一三・八一
17、木谷德雄　二一五・三五
19、石原省三　二一八・七一
20、潤間留十　二一九・一三

聖恩之旗の由來

明治神宮體育會主催にかゝる第五回明治神宮體育大會に際し昭和四年十一月一日畏くも

天皇陛下に於かせられては體育御奬勵の思召を以て明治神宮外苑競技場に行幸あらせられ各種競技を最と御熱心に天覽遊ばされました。當時の體育會關係者は勿論、本邦體育界は擧つて洵に聖代の盛事として感激恐懼に堪へなかつたのであります。

因つて主催者體育會は此光榮を永へに記念すると共に優渥なる聖旨を奉戴して吾國國民體育の進展の爲一層の碎勵協力を誓ふ事として宮內當局と協議致しました結果御下賜金を以て國旗を謹製して名づけて「聖恩之旗」と命しました。爾來大會毎に之を奉揭して聖恩の有難さを銘記することになりました。昨年從來の大會を政府に移管して、第十回明治神宮國民體育大會を開催するに及び「聖恩之旗」も亦引繼いだのであります。大會場に翩翻として飜る「聖恩之旗」は之を仰ぐすべての國民に國民體育に垂れさせ賜ふ聖旨の渥きを感銘せしむると共に大會の榮光を眞精神の象徵として言ひ得ぬ感激と緊張を與へて居るのであります。

× × ×

レークプラシッドの想出

潤間留十

一九三二年一月第三回冬季オリムピック競技の開催地北米ニューヨーク州アデイロングダック山脈の高地レークプラシッドに到着した我日本選手は、スキーとスケートの二つに分れて宿舍をとり、晴れの日を目ざして練習に精進してゐた。

此の地に日本人としてたゞ一人相當の店を經營してゐる今井敬一と云ふ老人が、歡喜の內に我々を迎えてくれ、滯在の四十日間を何事によらず面倒を見てくれたことは、今だに忘れることが出來ぬ。レークプラシッドからへだたること四哩サラナックレーキに近い町に住む親日家が二人、我々の到着した一週間程たつたある日、我々遠征の日本チームを招待してくれることゝなつた。數年前まで日本の中國地方に牧師をされてゐた人と、もう一人は此の町の腦病院の院長で中學生時代横濱にゐたことがあり、父君は當時横濱で醫師を開いてゐたと云ふいづれも大の日本通の親日家である。

横濱出發以來バンクーバーに、ウイニペックに、モントリオールにいたる處招待にあづかり、その都度色々の赤ゲットーを演じて來たので、だいぶなれては來たが、今度の招待會には一つの難問題がついてゐる。それは招待の日に是非共日本選手の隱し藝を拜見したいと云ふのである。スキーのチームでは代表者が一人ピアノを演奏すると云ふから、我々スケート部でも何かやらねばならぬと云ふので、佐藤監督を中心に協議を開いた處、スケート部のメンバーときたら無藝大食ばかりでたれもやる者がない。まさかアメリカ迄來て、裸踊も出來ないと云ふので、一同困惑に陷

つてしまつたが、種々協議の末その白羽はとうとう私の處へ來てしまつた。

我々の宿舍の奥さんが相當の音樂家であつて素晴らしいピアノやマンドリン、ヴアイオリン等があつた。私は小さい頃から音樂ずきで、ヴアイオリンを少し習つてゐたので、此のヴアイオリンをかりて毎日一二度いたづらをしてゐた。これをみんなが知つてゐるので、是非代表してやつてくれと頼まれ、とんだ受難と御座つてしまつた。幾度か辭しては見たが、みんなに是非にと頼まれて引かれぬ立場になつてしまつた。しかたがないので、旅の恥はかきずて、だとばかりひき受けてしまつた。ところが何を演奏したらよからうと考へて見たが、樂器が外國物であるから下手の洋曲をやつたのではとんだ味噌をつけてしまふと云ふわけで、和曲「カツポレ」を演奏することにして直ちに練習にとりかゝつた。

これに反し河村、老松、石原、星野君等のモダンボーイはあすの招待會には美しい御嬢さんが大勢來られると云ふので、服の手入れやネクタイや頭髪の手入れに大多忙の有樣、自分はそれどころか和曲の樂譜なぞもちろんないので樂譜無しの獨奏をやらねばならぬ。スケート以外にこんな苦勞をせねばならぬかと思へば藝は身をたすけるどころか身をけづる思ひだ。

猛練習効果ありで、どうやら物になつて來たので、大分自信がついて來た、同時に心臓も強くなつて來て、むしろ此の代表に選ばれたことを光榮とし、かつ欣快の至りとばかり勇躍當日の來るのを待つことゝなつた。

愈々招待の日は訪れ、スケート部は佐藤監督を先頭に一行九名、スキー選手の合宿を訪れ一行二十何名意氣揚々と當夜の御馳走を征服すべく自動車に分乘して出發した。

途中まで出迎えがあつて、直ちに牧師さん主催の御茶の會に臨んだが、此の町全部のクリスチヤン初め多數の客人で大賑ひだ。約一時間餘りで辭し、今晩の會場であるドクトルさんの家に行く、一同玄關に來て歡待の親日ぶりにまづ驚いた。日本の大きな提燈に赤々とローソクをともし、しかも此處の美しい御嬢さんが日本の居酒屋のハツピー・コートをきて出迎えてくれるではないか。そして此の主人ドクトルさんが流暢たる日本語で「今晩は皆さんよくいらつしやいました」と鄭重に挨拶してくれる。

出發以來あらゆる招待會でなやまされて居た私たちは、急に元氣が出てほがらかな氣分で案内された。席へ着いて見るとまた一層その親日ぶりに驚くのみ、席には日米の國旗を各々立て、しかも日本のだるまさんの切紙に日本字を以つてめい〳〵の名を記し着席を決定してある、ドクトルさんと牧師さんの挨拶あつて、我日本チーム、スキー、スケート兩監督の謝辭あつて大變な御馳走にあづかる。吾々の腹には十二分の御馳走が一ぱいにつまつた。ドクトルはやおら立ち上つて、これから日本選手の餘興がありますから皆さん御ゆつくり御覧下さいと挨拶された。スキーチームの代表者は（誰であつたか忘れてしまつたが）ピアノを演奏して一同の拍手を受ける。次にアメリカのゼントルマンが立つてピアノを白魚の飛ぶごとくやつて見せた。今度は潤間選手のヴアイオリンを持つてステージに立つと一同から拍手を以つて迎えられ、しくじつては大變と和曲「カツポレ」と題してスタートした。どうにか間違ひもなく彈き終つて拍手裡に席へかへると盛んなアンコールで、いく度か辭したが駄目で、とう〳〵もう一つやることゝなつて再びステージに立つた。大分私の心臓も強くなつて來た。今度は日本海軍の軍艦マーチをやると披露して、これもどうやら無事に終り大いに拍手を蒙つて席へ歸つた。ハンカチを取り出してあせをふくと、今度はまた大變な申出があつた。それは是非共日本の流行歌を頼むと云ふ、仕方が無いので皆で立つて當時内地で流行した「人を切るのが武士なれば戀の未練はなぜ切れぬ」と云ふのを唄つた處大變御嬢さん連中によろこばれ、アンコールまたアンコール、ついに七回程やらせられ、帶谷君等はこれでは殺されてしまふと云つて表へ出る有樣であつた。とにかく大歡迎を受けて十一時頃送られて宿舍へ引上げたが、アメリカのオリムピツクに參加した人たちは此の一文を見て當時を回想することゝ思ふが、私としてはまつたく大競技會に出場すると少しも變らぬ氣持でこの招待會に出席したので、オリムピツクを思ひ出すごとに思出を新たにして居る。

今回スケート聯盟で年鑑發刊にあたり何かオリムピツクに際し參考なことを書いて下さいと云つて來たが、時あだかも今回の支那事變それに日もなく突としてこんな回想記を書いたのだが、次回には何か有効なことでも書かせてもらうとして、今回はこれで悪しからず。

（信州諏訪湖畔にて）

第四回冬季オリムピック大會出場準備

第十一回國際オリムピック大會の序曲第四回冬季競技會は、一九三六年二月六日から同十五日迄ドイツ・ガルミッシュ・パルテンキルヘンに於て擧行された。

我が大日本スケート競技聯盟は、この大會にスピード、フイギュア、アイス・ホッケー三競技種目の代表選手を派遣したが、その選手銓衡は、昭和十年（一九三五年）に於ける成績をこれに當てた。

レーク・プラシッドの第三回大會には、スピードフイギュアの二種目の選手を送つたゞけであつたが、今度はこれに更にホッケー・チームを加へ、スケートに依る競技の總べてを世界の檜舞臺に見參せしめ得たのである。

代表選手決定方法は、スピードに於ては、この年の全日本大會を參考にして第一次候補選手を選び、次いで第二次候補選手決定の爲め、一月廿九日日光細尾リンクに詮衡競技會を開き、こゝから選ばれた七名の選手は、青木末弘氏が監督となつて二月四日から二週間北海道苫小牧で合宿練習をなし、ホッケーと共に四月廿五日の常務委員會で正式に代表選手四名が決定したのである。この正選手四名の他に萬が一正選手中事故のあつた場合を考慮して中村、南洞張の三選手が補缺に選ばれたが、結局これ等の三選手も代表選手に推薦され、十一月十九日の臨時全國代表委員會に於て承認され、スピード代表選手は七名となつた。

ホッケーは、全日本大會の優勝チーム苫小牧王子製紙チームを中心としてチームを編成したのであつた。

またフイギュアは、全日本大會で男女候補選手を擧げ十一月十八、九の兩日最終豫選を行ひ臨時代表委員會の承認を得、正式代表選手が決定した。

役員決定は、各種目に於ける監督及トレーナーは各部競技委員會に於て詮衡し、視察員は地方聯盟で推薦した地方聯盟委員をこれに當てた。また總監督として久保田會長の

出馬を懇望し承諾を得たのであつたが、出發間際になつて止むを得ざる事情の爲め中止され、聯盟主事平林氏が總監督といふことになつた。

選手役員は十一月迄に全部決定し、スピード選手は奉天で合宿練習をなす爲十二月一日先發し、他のホッケー、フイギュアの選手役員は十二月廿日東京驛發華々しく壯途に就いた。一行はシベリヤ經由で大會地に臨んだのである。

我がスケート代表は、左記の如く役員九名、選手廿五名合計三十四名である。尙一行の遠征日程も次の通り。

第四回冬季オリンピック スケート日本代表

總監督　平林博

庶務兼視察員　安田泰次郎

同　上　西田信一

スピード

監督　青木末弘

トレーナー　木谷辰巳

同　小池富治

選手（主將）河村泰男（滿洲）

同　金正淵（明大）

同　李聖德（早大）

同　石原省三（早大）

同　南洞邦夫（早大）

同　張祐植（早大）

同　中村禮吉（早大）

フイギュア

監督　大石雄一郎

選手（主將）老松一吉（關西）

同　長谷川次男（慶大）

同　片山敏一（關學）

同　渡邊善次郎（慶大）

同　稲田悅子（關西）

ホッケー

監督　手塚俊一

トレーナー　藤野正彦

選手（主將）庄司敏彦（滿洲）

同　平野進（滿洲）

同　木下　楷（滿洲）
同　早間雅博（滿洲）
同　本間悌次（北海道）
同　北澤正辰（北海道）
同　原　信男（北海道）
同　二瓶寅雄（北海道）
同　平元光喜（北海道）
同　須藤信夫（立大）
同　市川辰雄（早大）
同　古屋健一（慶大）
同　龜井信吉（慶大）

日本代表スケート選手オリムピツク遠征日程

昭和十年（一九三五年）

十二月一日　スピード選手東京驛先發（午後三時）
同　二十日　ホツケー、フイギユア選手東京驛出發（午後三時）
合宿練習（於奉天）

一月三日　奉天發
同　十四日　伯林着

〔ホツケー〕

伯林よりプラーグ、ブカレスト、ウイーンに轉戰の後一月廿六、七日頃ガルミツシユ着

〔スピード〕

伯林より一月廿五、六日歐洲選手權出場（オスロー）、二月一、二日世界選手權出場（ダボス）ガルミツシユ着
伯林よりガルミツシユへ、一月廿五、六日歐洲選手權（伯林）に出場、その後ウイーンにて若干日の練習をなす豫定

〔フイギユア〕

二月六日より十六日迄　オリムピツク大會
同　十七日　各地轉戰後マルセーユに至る
二日廿一、二日　フイギユア女子世界選手權出場（巴里）
同　廿八、九日　フイギユア男子世界選手權出場（巴里）
同　廿八日　スピード、ホツケー、マルセーユにてN・Y・K白山丸に乘船
四月二日　神戸歸着

第四回冬季オリムピツク大會

我が選手團の活躍

大會地ガルミツシユ・パルテンキルヘンはベルリンより約六百キロ南直下したチロルの國境と指呼の間にあり、バヴアリア・アルプス連峰に取圍まれた獨逸屈指のウキンター・スポーツの聖都で、街の西方に紺碧の空を背景として聳え立つツーグス・ピツツのワクセンシユタインはバヴアリア・アルプス中の靈峰として名高い。

大會地の地理を略述すると街の中心に獨逸の大會組織委員會本部があり、此處から約五丁隔てた所にオリムピア・アイススタヂオン、西方二キロ半杉森の間からツウグスピツツを仰ぐ山腹にスピード・レースのリーサー・セー、南方二キロの山麓にシー・スタヂオンがあり、リーサー・セー、本部、シー・スタヂオンは丁度大きな三角形の三頂點となつてゐて、この大會地の範圍は相當廣いものであつた。

雪質、氷質共に良好で、降雪量も多いと云ふのが、此の土地の特徴である。然し乍ら、大會のシーズンに限り降雪量極めて少く、加へて大會前は暖氣の爲、結氷の狀態も思はしからず、圓滑な競技の運行が危ぶまれたけれども、開會直前から降雪あり、氣溫も降下した。此の間、我選手は最後のトレーニングと休養を攝つてベスト・コンデイシヨンに持つて行くやう努めた。

大會開會式は二月六日シー・スタヂオンに於て折からの降雪を衝いて、二十八ケ國約一千名參加の下に盛大に擧行され

た。參加人員は前回大會に比較すると丁度倍加してゐる。

劈頭の入場式には東洋からの唯一の參加國たる我が冬季代表軍が老松旗手を先頭としてイタリーに次いで第十一番目に入場した。參加國名は次の通りである。

オーストラリア、ベルギー、ブルガリア、エストニア、フインランド、フランス、ギリシヤ、イギリス、オランダ、イタリー、日本、ユーゴスラヴイア、カナダ、レトワニア、リーヒテンシユタイン、ルクセンブルグ、ノールウエー、オーストリー、ドイツ、ポーランド、ルーマニア、スエーデン、スキス、スペイン、チエツコスロヴアキア、トルコ、ハンガリー、アメリカ合衆國

以上の順で各國は國旗をトツプに立て、祭壇に向つて大シヤンツエを背に、縱隊を作つて整列した後、開會式が擧行された。先づ近代オリムピツクの創始者ピエール・ド・クーベルタン男の『世界の若者に告ぐる』メツセーヂに次いで、大會組織委員會々長リツター・フオン・ハルト氏の挨拶I・O・C會長バイエ・ラツール伯の挨拶、獨逸體育局長官チヤンマー・ウント・オステン氏の歡迎と激勵の辭、獨逸代表の選手宣誓あつた後獨逸大會組織委員會名譽總裁アドルフ・ヒトラー總統の開會宣誓によつて十一日間に亘る大會の幕が切つて落され、オリムピツク・シヤンツエの傍に立つ「鐵の塔」に聖火が紅々と燃え上つた。

十一日間にわたる競技の成績は各部門に於て詳述してあるが、此處に全般的に述べて見よう。

我が代表軍が何處まで戰ひ拔くかといふ戰前豫想の材料となつたものは、スピードとフイギュアは前回大會に參加した時の材料と歐米からの情報を綜合したものであり、始めて參加するアイスホツケーは數年前渡歐した滿洲醫大チームの殘した戰跡、之に大會前年招聘したカナダの實力及びこれと歐洲各國との實力の對比などを參考としたもので、從つて基礎の極めて薄弱であつた事は免れ得なかつた。更に前回の第三回大會場が歐洲を離れてゐた當時の事情と、その後の歐洲の

進歩など狀勢の變化これらを綜合して見ると實際に於ては戰前の豫想といふものがはつきり出來なかつた。これに加へて歐洲各地を轉戰して見て、我が選手よりも一段上にある優秀選手の層が厚い新事實を知るに及び、前回大會以來四年間に我がスケート界に遂げられた目覺しい進歩が、これらの新情勢の中に揉み消されてしまふのではないかとの危惧の念さへ腦裡を離れず、唯入賞の希望をひそかに繼いでゐたものは、スピード五百米に於ける石原のみで、これも最高の成績で六位に入るか、入らぬかといふ程度に過ぎなかつた。

然し乍ら實際に於ては、石原が群がる强豪を抑えて堂々四位に入賞して、大會參加二度目に初めてオリムピツクの入賞記錄を殘したのである。石原のこの素晴らしい成績は確かに我が短距離走法の勝利であつたと言ふ事が出來た。三位のフライシンガー（米國）との差は僅かに〇秒一で、此の差がなければ日章旗を擧げ得たものをと、つい慾も出たが、先づ豫想以上の大成功として今回は此の邊で滿足せねばならない。

中距離、長距離に於ては第一人者金正淵、これに次ぐ李聖德、張裕植等に期待をかけたのであるが、この種目に於ける彼我の實力の差は、未だ未だ大きいことを痛感した。特に長距離になると比較的に洗錬されてゐる我が軍のよい走法も、彼等の持つ絕大な天賦の體力の前には物を言はなかつた。選手全員、日本に於けるよりは遙かに優秀なタイムを出してゐたにも拘らず、その出來榮えも群がる超弩級の威力に遭つて遂に揉み消されてしまつたのである。長距離に於ては耐久力の强化と並行して、ラツプの低下防止とピツチの引上げとの關係は特に今後研究すべき課題たるを敎へられた。

アイス・ホツケーは最も慘めな戰績を殘すものと思はれたが、强豪スエーデンと殆んど對等の戰ひで二對〇、オリムピツク優勝チーム英國と三對〇、何れも負けたには違ひないが、案外なクロス・スコアであつたのは、歐洲との實力の差がさして懸隔しておらぬとの自信を我々に與へ、將來への希望を倍加させた。

然し乍ら、我が軍が無得點に終つた事實は、そのまゝ我が攻擊陣得點能力の微弱なる事を示してゐるのは認めざるを得

なかつた。大會を通じて大局的に我々が何を彼等のチーム・プレーから得たかと言へば、カナダの積極的攻擊戰法と英國の防禦法及び逆襲戰法の三つである。

そして攻擊力の强化、攻擊に於ける積極戰法への研究と努力、これが先づ我々の專心すべき主眼點となつた。

フイギュアに於ては、スピードと同樣、歐洲に於ける優秀選手の『數量』に關する情報が貧弱であつた爲、內地に於ては勝手な豫想がされてゐたが、我が選手より實力に於て一段上にある選手數の意外に多いのに驚かされた。これはスピードと同じく歐洲に入つてから眼のあたり見せつけられた新事實である。

これが、フイギュアの戰績に於て豫想したよりも稍惡い結果を招いた主因であつて、我が選手の出來榮えそのものに於ては決して惡いものではなかつた。唯アウト・ドアの經驗が乏しかつたところへ、第一日のスクール・コンテストには風と雪と硬度の高い氷質とに各國選手より一層惱まされたことは、今後充分考へなくてはならぬと思つてゐる。このコンテストに於ては我々は歐洲フイギュア界に擡頭しつゝあるフイギュア・スケーティングの新しい美的觀念、バリエーションの新形式、伴奏音樂に於ける近代的感覺への順應など、斯界の新動向を掴むことが出來た。

何れにせよ、オリムピック競技に於ける成績を全般的に見るならば、これまでの努力が着々結實してゐて、大體に於いて成功を收める好結果に終り、不完全ながら斯界の輿望に答へ、責任の一端を果し得た喜びは蔽ひ得ない。同時に我々はオリウピックを中心とする歐洲滯在中に今後一層研究努力に値ひする數多くの課題を更に與へられた。

我々は競技以外の分野に於ても遠征に依る多大の効果を殘した事實を附言しておきたい。即ち大會前我々は歐洲各地は勿論の事、ガルミッシュに於てすら一般から「日本に降雪と結氷があるか」といふ奇問を屢々受けたが、大會中に於ける我が軍各部門の活躍は彼等のこの認識不足を完全に解消せしめたのみならず、オリムピック夏季大會開催國に於て冬季競技も亦開催可能の場合は該國は冬季競技開催權をも與へられる、オリムピック憲法の條項中冬季競技に關する限り我が代

表軍は日本冬季競技界の現狀を具體的に明示し得たと確信する。

人氣の日本選手

大會地ガルミッシュ・パルテンキルヘンに於ける日本選手の人氣は不思議な程大きかつた。その理由は大體に於て次の樣である。第一に彼等は東洋に對する憧憬と好奇の念を持つており、日本が東洋からの唯一の參加國であつたので、日本人に對して人種的興味の目を以て接した事は事實だ。これは選手以外の日本人に對して迄一般が日本字のサインを執拗に求めた些細な一例が物語つてゐる。しかも東洋といへば何處でも暖かく、ウインター・スポーツをやるのが不思議で堪らぬと言ふのが一般の通念であるらしかつた。その上彼等は日本が北歐の雄フインランドと對峙しつゝ、次回大會にプロポーズしてゐる事を知つてゐる。これらの興味は彼等の關心を奪ふに充分であつた。これに加へて大會の幕が切つて落されるやスピードの石原の四位入賞といひ、その他短、中距離陣の活躍ホッケーの奮鬪、亦、歐洲女子選手の絢爛たる群の中に敢然小軀を躍らす稻田孃のフイギュア・スケーティングなど皆競技と技術に洗錬された目を持つてゐる歐洲の觀衆の心を惹くには充分であつた。我が選手は競技に於ける成績以上に歐洲人の胸にウインター・スポーツ日本の印象を力强く植えつけ得たのは事實だと思ふ。

通信機關の整備

大會場は元來ウインター・スポーツの街であると共に避暑地でもある。ミュンヘン以北は冬季は氣候が惡く、加へて太

陽光線が著しく缺乏してゐるが、ガルミッシュは氣候がよいので療養地ともなつており、從つてホテルが多く、設備はさして贅澤ではないが整つてゐる。一般のペンジョン（登錄した貸間業）も澤山あり、外客の收容力は大きい。

町内に於ける交通標關は電車がない爲、自動車が主體となつてゐたが、朝の競技直前、夕刻の競技終了直後などは非常に混雜して、一方交通にも拘らず交通量の急激な膨脹には少なからず不便の場合があつた。街の要所要所にはラウド・スピーカーの設備があつて競技の進行中は街中を歩きながら競技の狀況が聞かれたのは便利であつた。ベルリンとの連絡は急行列車で十時間、飛行機で三時間二十分。

大會本部は街の中心にあり、こゝで大會運行の中心をなしたのは勿論であるが、其他毎日のプログラムの發行の外、オリムピア・プレス・ポストの設備に依つて刻々のニュースを新聞通信社に提供した。新聞通信社を主體とする會期中の外國電話數約一萬三千九百、電報送受信取扱語數約十三萬三千語の多數に上つてゐるから、そのニュースサービスもおろそかには出來ぬわけであつた。電報發信所及び國際電話室は大會本部は勿論各競技場にそれぞれ直屬してゐて、郊外から敏速に直送したのも大きなサービスであり、同時に各競技場に於ては夫々競技の區切り區切りにニュースを印刷して發行した。一競技が終つて印刷されて配布される迄の時間は大體五分位でその敏速さには大いに便利を感じた。

I・S・U總會

當聯盟のI・S・U（國際氷上競技聯盟）加盟問題に就ては大會開催中ガルミッシュのアルペン・ホテルに於てI・S・U總會が開かれたのを機會に加盟實現の積極的行動をなして遂に奏効した。

即ち平林總監督は在獨鶴岡アタッシェの助力を得てI・S・U會長ウルリッヒ・サルコー氏を再三訪問して、日本スケート界に於ける現狀、大日本スケート競技聯盟の日本に於ける地位等に就て詳細説明した後、現狀に即した公平なる處置を希望したに對し、サルコー氏はこれを諒とし、I・S・U總會の臨時議題として上提大日本體育協會證明書、並に文部省の紹介文書と照合して審議の結果、我が大日本スケート競技聯盟日本に於けるスケート競技界の眞の統轄團體たるを確認して、同月十日附を以て當職盟の加盟を正式に承認I・S・Uの日本代表として當聯盟會長久保田敬一氏を登錄した旨通告を受けた。

總會其他の決定事項は、一九三七年度歐洲並に世界選手權男女子スピード・フイギュア及びペア・スケーティングの開催地並に期日であつたがこれは省略する。

スピード

スピード選手一行は、十二月中約一ケ月奉天の合宿練習を皮切りに、歐洲に入つては、ノルウェー・オスローに於ける歐洲選手權大會出場、次いでスイスのダボスに於ける世界選手權大會にも出場して、各國選手と接すると共に十分な技術的準備をしてガルミッシュのオリムピック大會に乘り込まふと計畫を立てた。

東京を出發したのが昭和十年十二月一日、奉天に於て約一ケ月間の合宿練習を試み、ホッケー、フイギュア選手及び本部役員と合して二十八、九兩日の滿洲氷上聯盟主催の送別競技會に出場、翌三十日午後四時半全員三十餘名のスケート軍は、シベリヤ經由一路ベルリンへと向つた。

シベリヤ旅行中は勿論滿足なトレーニングは出來なかつたが、それでも停車した驛々では輕いウオーム・アップが出來てコンデイションを崩すやうなことのなかつたのは幸であつた。

第一の目的地オスローへ到着したのは一月十六日。雪と氷、憧れの都である。先發の我等の主將河村選手が多數のスケート關係者と共に出迎へに來て居た。河村主將の顏を見て一同喜びに溢れた。

待望の第三十七回歐洲選手權大會がフログナー・リンクに開催されたのは十日後の廿五、六兩日であつた。日本チームとして最初の出場である。

この大會には石原、河村、金、中村、南洞、李等の出場で記錄的には五百米に於ける石原の大記錄四三秒五以外は大した收獲はなかつたが、技術方面に於ける收獲は多大であつた。

オスローを引き揚げガルミッシュ・パルテンキルヘンに着いたのは二十九日午後八時四十分、二三日練習の後二月一、二兩日スイスのダボスに開催の世界選手權大會に出場した。

こゝはオスローより更に設備一切が優れて居り、過去に於て數多くの記錄がこのリンクから生れたのかと思ふと感慨深いものがあつた。

世界選手權に出場したのは石原、李、中村の三選手を除く四選手であつたが、氷質が軟かすぎた爲一般に期待した程のものはなかつた。

第四回冬季大會は二月六日から開催されたがスピード・レースのはじまるのは十一日からだから、それ迄の約一週間練習と休養を適宜案配し最良のコンデイシヨンを作ることに努力した。

いよ／＼スピード・レースとなつたが、ホッケー惜敗に次ぐ惜敗、フイギュアも豫期の成績に及ばず、更にスキーも不運と聞いて、我等一番一層の努力すべきを感じた。

かくてスピード・レースは終つたが、四種目悉くがノルエー選手に依つてその第一位が占められ、而も千五百米を除く三種目はバラングルード選手の優勝である。彼の今シーズンの活躍は實に目覺しく、歐洲、世界の兩選手權を獲得、更にオリムピックをものにして、天晴れスピードの王者たるの貫錄を示した。

飜つて我が代表の活躍は如何と見れば、石原先づ五百米に四四秒一の大記錄で第四位を占め、苦節幾星霜我がスケート史上に輝く記錄をとゞめた。

スピード參加國（十六ケ國）

ノルウエー、アメリカ、日本、オーストリー、フインランド、オランダ、レトワニア、スエーデン、ドイツ、エストニア、オーストラリア、チェッコスロヴアキア、カナグ

ベルギー、ポーランド、ハンガリー

△五百米（二月十一日午前九時—午後零時）

第二組
- 中村禮吉　四五秒〇
- ペーターセン（米）　四五秒〇

第七組
- 石原省三　四四秒一
- ヨハンソン（瑞典）　四六秒一

第十組
- 南洞邦夫　四六秒六
- ポッソ（米）　四四秒八

第十七組
- 李聖德　四五秒九
- レバン（墺）　四四秒八

參加三十六名（十八組）天氣快晴無風、氣溫零下十二度、氷質稍硬く、トラックのホームストレッチは杉木立に日影となり、バックストレッチだけ朝日を受ける。氷面に龜裂が多數あり、そのためうねりを生じて、コーナーは特に轉倒の危險性多分にあり、このためタイムは全般的に惡かつた。優勝者バラングルードと肩を並べるハラルドセン、エングネスタンゲンの諸威兩雄は、何れもコーナーで轉倒した。ヨハンソンと組んだ我がホープ石原は、接戰の末、敵を二秒リードしてゴールしたが、此のコーナーのうねりに重心の安定を削かれたことゝ後半に疲れてラストスパートが効かなかつたゝめ四三秒臺は出し得なかつたが、ラム、ボッソ等短距離に得意な米國のスプリンターを抑えて堂々四位となり、初の入賞記錄を殘した。ペーターセンと同着の中村を初め、李、南洞三者何れも夫々の最高記錄を出して、ワズレック（墺）、ヨハンソン（瑞典）、ブロムキス（芬）とデイツクストラ、ランゲデイツク（和）、ザメス（獨）等の强豪を夫々抑え、短距離への自信を加へた。優勝者バラングルードはその巨軀を利した强靱なストロークと云ひ、美事なコーナーテクニツクと言ひ、更にラストスパートの確實さは流石と思はせた。レースの相手がリヒネ（ベルギー）で全然弱く殆んど獨走の形であつた。

順位

1、バラングルード（諸威）　四三秒四
2、クローグ（同）　四三秒五
3、フライシンガー（米國）　四四秒〇
4、石原省三（日本）　四四秒一（日本新）

5、ラ　ム（米　國）四四秒二
6、ポ　ッ　ツ（同　　）四四秒八
6、レ　バ　ン（墺太利）四四秒八
8、ルキツサロー（芬　蘭）四四秒九
8、オ　ヤ　ラ（同　　）四四秒九
8、ヴアゼニユウス（同　　）四四秒九
11、ペーターセン（米　國）四五秒〇
11、中村禮吉（日　本）四五秒〇
13、ワズレツク（墺太利）四五秒一
14、ヴアン・デア・シエーア（和　蘭）四五秒七
14、ベルジンシユ（レトワニア）四五秒七
16、李　聖　德（日　本）四五秒九
16、アンドリクソン（レトワニア）四五秒九
18、ヨハンソンス（瑞　典）四六秒一
19、ブロムキスト（芬　蘭）四六秒二
19、ザントナー（獨　逸）四六秒二
21、ブラインドル（墺太利）四六秒四
22、南洞邦夫（日　本）四六秒六
22、ミ　ツ　ト（エストニア）四六秒六　（以下略）

△千五百米（二月十三日午前九時—午後一時）

第五組
石原省三（日　本）二分二六秒七
ポ　ッ　ツ（米　國）二分三一秒二

第十二組
中村禮吉（日　本）二分二九秒六
ジユローダー（米　國）二分二八秒九

第十五組
李　聖　德（日　本）二分二八秒九
ヨハンソン（瑞　典）二分二九秒九

第十六組
金　正　淵（日　本）二分二五秒〇
ヒドヴェギイ（洪牙利）二分二九秒〇

三十七名（十九組）出場、快晴氣溫零下十度、無風我が軍の第一人者金正淵はヒドヴェギイと前半接戰を演じたが、インコースでスタートした金は得意の急ピッチで漸次差をつけ十五米の差でゴール、堂々たる日本新記錄を作つたが、二分二〇秒から二四秒までの間に北歐中歐の强豪がずらりと列んだため、十五位に甘んじねばならなかつた。好調の石原が李を凌ぐ優秀記錄で十九位に入つたのは偉とすべきであつた。

此の種目では、五百米に於て我が選手の下位にあつた北

歐、中歐の進出がぐつと上つて來てゐるのが目につく。その原因は走法よりも後半に於ける彼我の體力の差がやゝ物を言ひ出してゐるためである。

順位

1、マテイーゼン（諾　威）二分一九秒二（オリピツク新記錄）
2、バラングルート（同　　）二分二〇秒二
3、ヴアゼニウス（芬　蘭）二分二〇秒九
4、フライシンガー（米　國）二分二一秒三
5、ステイープル（墺太利）二分二一秒六
6、ワズレツク（墺太利）二分二二秒二
7、ハラルドセン（諾　威）二分二二秒四
8、エングネスタン（同　　）二分二三秒〇
9、オ　ヤ　ラ（和　蘭）二分二三秒二
9、ヴアンデア・シエーア（和　蘭）二分二三秒二
9、ブロムキスト（芬　蘭）二分二三秒二
12、レ　バ　ン（墺太利）二分二四秒三
12、シユローダー（米　國）二分二四秒三
14、ランゲディツク（和　蘭）二分二四秒六
15、金　正　淵（日　本）二分二五秒〇（日本新）
16、ザントナー（獨　逸）二分二五秒三
17、ペーターセン（米　國）二分二五秒四
18、ベルジンシユ（レトワニア）二分二五秒八
19、石原省三（日　本）二分二六秒七
20、ディツクストラ（和　蘭）二分二七秒二
20、ヱ　ク　マ　レ（芬　蘭）二分二七秒二（以下略）
23、李　聖　德（日　本）二分二八秒九
28、中村禮吉（日　本）二分二九秒六

△五千米（二月十二日午前九時—午後二時）

第一組
張　祐　植（日　本）九分八秒七
リヨウキンガー（墺太利）八分五三秒九

第十四組
金　正　淵（日　本）八分五五秒九
シユローダー（米　國）八分四九秒一

第十七組
南洞邦夫（日　本）九分二〇秒一
ワズレツク（墺太利）八分三八秒四

第十九組
李　聖　德（日　本）九分八秒七
マテイーゼン（諾　威）八分三六秒九

三十九名（二十組内二名棄權）晴、時々臺微風、零下七度、氷質稍硬。

期待をかけた金正淵は強敵シュローダーと組んで終始猛烈な競り合ひを續けたが、金の急ピッチに對して重量のシュローダーは強引なストロークで後半から少しづゝ差をつけ、金必死の追走を續けたが及ばず、ホームストレチで約十五米の差となつた。

李、張、南洞三者も亦歐洲の第一線選手に組んで、よく戰つたが、何れも後半から次第に引離されて惜しくも敗れた。記録は何れも優秀であつたが、一流選手は皆八分臺の記録を出しており、この分野には僅かに金が入つたのみであつた。

順位

1、バラングルート（諸威）八分一九秒六
2、ヴァゼニウス（芬蘭）八分二三秒三
3、オヤラ（同）八分三〇秒一
4、ランゲデイツク（和蘭）八分三二秒〇
5、ステイーブル（墺太利）八分三五秒〇
6、ブロムキイスト（芬蘭）八分三六秒六
7、マテイーゼン（諸威）八分三六秒九
8、ワズレツク（墺太利）八分三八秒四
9、スタクスルード（諸威）八分三八秒五
10、ヴアン・デア・シエーア（和蘭）八分四三秒三
11、ペーターセン（米國）八分四六秒五
12、カルバルチツク（波蘭）八分四七秒七
13、ザメス（獨逸）八分四八秒五
14、クープス（和蘭）八分四八秒五
15、シュローダー（米國）八分四九秒一
16、デイツクストラ（和蘭）八分五一秒五
17、ヒドヴエギイ（洪牙利）八分五三秒二
18、ベルジンシユ（レトワニア）八分五三秒四
19、レヨウキンガー（墺太利）八分五三秒九
20、ワングベルク（諸威）八分五四秒七
21、金正淵（日本）八分五五秒九
22、エクマン（芬蘭）九分〇〇秒四
22、ミツト（エストニア）九分〇〇秒四

（以下略）

27、李聖德（日本）九分〇八秒七
27、張祐植（日本）九分〇八秒七
31、南洞邦夫（日本）九分二〇秒一

△一萬米（二月十四日午前九時—午後四時）

第七組
李聖德（日本）一八分五〇秒三
張祐植（日本）一九分〇〇秒一

第十六組
金正淵（日本）一八分〇二秒七
ミツト（エストニア）

三十四名（十七組内三名棄權）出場、快晴、無風、氣溫零下六度、氷質硬。

金正淵と組んだミツトは四周目に轉倒して棄權したゝめ金の獨走となつたが、獨走に得意の金は同僚の聲援を受けつゝ急ピッチで全コースをカバーして大記録を出す、然し十七分臺の猛者が行手を遮ぎつたので十三位となつた。此のレースにザントナーの作つた一八分二秒〇は獨逸の最高記録となつており、金の記録はこれに匹敵する優秀なものである。

李、張は幸か不幸か同一の組に顔を合せたが、この兩者のレースは特種の興味を觀衆に與へた。

兩選手とも輕い氣持で好記録を目標に競合つたが後半から李が漸次リードして、最周回ホームストレッチでは約二十五米の差で李の勝となつた、金と此の兩者の間には、ザメス、シエーア、ワングベルク、ヨハンソン等の強者が列んでゐる。上位のバラングルート、ワゼニウス、ステイーブル、マテイーゼン等の超弩級選手は何れもその巨大な體軀から繰出される馬力を生かす粘りのあるロング・ストロークと云ひ、ラップの低下を防ぐピッチ引上げの巧味、確實なラスト・スパート何れも流石とうなづかせるものがあつた。

斯界第一流選手は何れも十七分臺を出しており、これを見ると日本の長距離に於ける實力は未だしの感があつた。然し乍ら金の示した大記録は十七分臺の記録出現のさして遠く無いことを物語つており、此處に我々の希望をつながしめた。

順位

1、バラングルート（諸威）一七分二四秒三

2、ワゼニウス（芬蘭）　一七分二八秒二
3、ステイープル（墺太利）　一七分三〇秒〇
4、マテイーゼン（諸威）　一七分四一秒二
5、プロムキスト（芬蘭）　一七分四二秒四
6、ランゲディック（和蘭）　一七分四三秒七
7、オヤラ（芬蘭）　一七分四六秒六
8、シユローダー（米國）　一七分五二秒〇
9、カルバルチック（波蘭）　一七分五四秒〇
10、スタクスルード（諸威）　一七分五六秒七
11、ワズレツク（墺太利）　一七分五七秒一
12、ザントナー（獨逸）　一八分〇二秒〇
13、金正淵（日本）　一八分〇二秒八（日本新）
14、ヒドヴエギイ（洪牙利）　一八分〇四秒〇
15、ザメス（獨逸）　一八分〇四秒三
16、ヴアン・デア・シエーア（和蘭）　一八分〇四秒九
17、クープス（同）　一八分一一秒五
18、ワングベルク（諸威）　一八分一五秒八
19、ベルジンシユ（レトワニア）　一八分二二秒五
20、デイクストラ（和蘭）　一八分二三秒六
（以下略）
25、李聖德（日本）　一八分五〇秒三
26、張祐植（日本）　一九分〇〇秒一

フイギユア

十二月二十日東京驛をホツケー選手一同と共に出發す。オリムピツク選手の出發とて道行く人、何れも足を止めて我等を激勵し、プラツトフォームは見送の群衆で埋まり、誠に感激の場面であつた。車中賑かに大阪に下車する。

二十一日朝日ビル、二十二日京都、二十三日神戸と連日エキジビションスケーティングを行ひ觀衆に多大の感銘を與ふ。エキジビション後は必ずその關係筋から歡迎送別の宴を受け激勵に接する都度、我等はその責任の大なるを感じた。

十二月二十四日早朝より桃山御陵および石清水八幡に參拜し、武運長久をお祈りし、その夜の汽車で大阪を出發す

十二月二十六日安東に到着、ここで安東市民の要望に應へてエキジビションを行ふ。稀に見るフイギユアの美技に

市人は驚き斯技の認識を深めしむるに大いに効果あつたと考ふ。

奉天に着いたのは十二月二十七日、二十八、九兩日奉天國際運動場にてスピード、ホツケー、フイギュア三部門のエキジビションおよび試合あり盛況を呈した。奉天はスピード、ホツケーは盛んなるも、フイギュアは至つて不振で今回のこのエキジビションが奉天スケート界にフイギュアの新しき種子を植えつけたるものとして、やがて芽をふき實を結び、斯界に雄飛する數多くの選手がこの地より輩出するを樂しんで待ちたきものとの氣起りたり。

十二月三十日朝奉天發、新京に夜着き、瀧八千代館で心盡しのお雜煮を食す。正月はまだなれど車中で迎へる正月はお雜煮なし、茲で繰りあげて食す雜煮の味一入にて旅情を唆る感慨深し、三十一日早朝ハルビン着、汽車を乘り換え午前九時半滿洲里行車中の人となる。薪をたきつゝ走る汽車は前世期の如き感を與へ、木雪の冷さに喘ぎ〳〵して延刻に延刻を重ね汽關車の故障屢出し、一ケ所に留まつて動かぬこと五時間の久しきに及びしこともあつた。この車中にて除夜を迎へ、お正月を迎へて一同食堂車に集り全員起立、遙かに東方を拜して君が代齊唱、日本萬歳を三唱した、嚴かな氣分に浸つて壽ぐこと目出度し。

一月一日夜半十二時滿洲里に着く、午前八時到着の豫定なりしも、十六時間の汽車遲延でこの深夜に着いたのである。寒夜を重い荷物を提げて宿舍に向ふ寒さ、足は滑り勝ち、手に持つ鞄は力を出せども兎もすれば感覺を減じて落す、零下三十九度とかにて我等の旅の中茲が一番酷寒だつた。極寒の國境を守る將士の勞を思ひ感激に堪へぬ。日本ホテルに一泊。

一月二日パン、鍋その他食料を買ひ込み午後三時半滿洲里發、愈々ソ聯邦領内に入る。八五番驛でソビエート稅關の檢査を受く、大量の荷物全部を互ひに檢査所に運び入れる勞苦、仲々大變であつた。車中の食事はミールクーポン（食券）を豫め購ひ置いたけれどもインツーリスト（ソビエートの車中世話係員）乘車し居らず、食券が物を云はぬので持ち込みの罐詰とパンで食事す、食券以外のもので臨時食事すれば一皿のチキン七圓五十錢、魚七圓、スープ五圓といふ法外の値段にてお話にならぬ。食堂で食事しこの高價を支拂はされた人もある。

一月三日インツーリストが乘り込み食券問題解決し、我等は食堂車で堂々食事することが出來るやうになつた。

ミールクーポンは一日邦貨約十圓見當、我等は萬一を慮つて奉天で果物野菜、滿洲里でパン、その他内地より多數の罐詰類それに白米までも用意して行つたが、これ程までの準備は不要であらう。シベリア鐵道は驛々で湯が豐富にあるので、この湯を利用し固形ミソ汁、紅茶、キャベツの鹽漬などを食事の間食として食したのは甚だ乙であつた。又ロシア・スープに味の素を配したのは味よく物が食せるので仲々有効であつたと思ふ。汽車であり、ベットは板張りであつたが、四人一室で内部より錠まで出來るやうなつてゐる。我等は内地で買つて置いた空氣ブトンと奉天で買つたロシア毛布を持ち込み比較的樂に其日々々を送ることが出來たので案外に苦痛にならなかつた。ラヂオ體操を一日二回やり、驛にありては四肢を練り、車中に於ける筋肉の弛緩を防いだ。またこの車中ベルリン到着後の諸對策、諸行事の打合せも行ひ萬遺洩なき期す。

一月九日夜十二時モスクワに着く、一夜を車中に過し、十日大使館を訪問し挨拶、歡迎宴に接した後、市内見物をする。ディナモ競技場で十日振りにスケートする、仲々立派な設備、四百米のスピード・トラック内部でホッケー競技、フイギュアをやることが出來、周圍は全部スタンドで數萬の觀衆を容れる足るものである、市内の廣場到る所で子供大人がスケートに集ひスキーを樂しみスポーツは甚だ盛であつた。

ベルリン着

一月十一日ストルプチエ通過、十二日午前十一時ベルリンへ到着した。

一月十三日ベルリンの屋外リンク、アイス・スタディアムに行き練習、終つて市内見物し、十四日はアイス・スタディアムとスポーツパラストで練習する長途の汽車旅行でコンディションは未だ充分ならざるも選手一同元氣であつた。片山、老松、稲田は特に見事な練習振りを示し安睹する。大使館の招待會あり激勵の辭あり、代表選手として、大いに活動すべき決心を強む。

一月十五日、ベルリン出發、フイギュア・スケートの世界の王國ウイーンへ向ふ。茲で世界一を誇るフイギュア名

手に謳れ大會に備へる最後の意義ある練習をせんがためなり、墺太利公使館および在ベルリン野口寛氏の盡力によりホテル・テゲットホツフに泊つてアイスラウフ・フエライン のリンクを借用し練習する。斯界往年の覇者、名聲高きフーゲル老の懇切なる助言により我等は技を磨いた。茲でカスパー、メイ、ライネルシエンク等のスケーティングに接し、またツワツク、パペツツのペアに接し大いなる參考となる。日本選手の評判高く特に稲田のスケートには皆感嘆の聲を放つ。

一月十九日にはエンゲルマン・スケートリンクへ見學に行き選手一同こゝでも練習する。茲は往年日本を訪問したブルガー孃（現西川夫人）の屬してゐたリンクで、シエフアー、プツチンガー、ステヌフなど世界の名手のスケート振りを傍に見ながら練習し技を磨く。

一月二十日アイス・ラウフ・フエラインにてエキジビションスケーチイングを行ふ。カスパー以下同リンクに屬する選手と日本選手の一行が混合してのこの催しは彼地の人氣を昂め、觀衆四千餘を算し盛況を呈した。稲田の人氣特に高かつた。

このアイス・ラウフ・エラインは晩春から初秋まではテニスコートとして利用し冬季はパイプを地下に設備してスケート場として經營をやつてゐる。面積一萬平方米といふ大なるリンクで茲へ早朝から夜は十一時まで數千の人々が押寄せて斯技を樂しむ。人の出盛る頃にはさしも廣いこのリンクもすつかり人を以て埋まる盛況を呈し老若男女、心からスケートを樂しみ、これだけ多數の人々が日々スケートをやるなら成程世界に誇る名選手も出るは當然だと首肯せしむる。リンクの外側も、スピードの選手が練習してゐる。内部の彼方の端で二三ケ所フイギュアも練習してゐるかと思へば此方ではアイスホッケーが四組互に練習してゐると云ふ日本では一寸見られぬ廣大なものである。我等のエキジビションの日にはこの氷面へ三十米、六十米の滑走面を設けた上、四千人からを容れるに足る木造スタンドを持ち込んで、尚その外側でホッケーとスピードの連中が練習してゐたのを見て驚いてしまつた。

エンゲルマン・スケート場は八十米、四十米の廣さで金持ちのエンゲルマン所有のリンクでスケートシーズン以外は拳闘場として利用してゐる。アイス・ラウフ・フエライ

ンと違ひ小さい代りにガッチリと纏まり氷面の手入れも仲々よく行き屆き殆んどフイギュアのみに使用されてゐる。フイギュアの名手シェフアー、ブルガーを初めプッチンガー、ステヌフ更にバイアー・ハーバーの域を摩すると云ふペアのパウジン姉弟がこゝから生れたのも宜なるかなとうなづかせる。二階つきのスタンド……と云つて實は屋敷の一部廊下に相當するものだが……があつて觀覽本位に出來上がつてゐる。

歐洲選手權大會へ

一月二十一日、我等はウイーンより再びベルリンへ歸つた。二十四日から三日間ベルリンのスポーツパラストで擧行される歐洲フイギュアスケート選手權大會に出場するためである。歐洲で日本選手がフイギュアの競技に參加する誠に我國斯界としては劃期的なことである。未だ來ぬ大會に對して一同胸躍らせつゝもよく氣を靜め練習を勵んだ。愈々當日は來た。

第一日（一月二十四日）男子スクールフイギュアおよびペア競技

第二日（一月二十五日）女子スクールフイギュアおよび男子フリーフイギュア

第三日（一月二十六日）女子フリーフイギュア

第一日片山の出來榮え見事にフインランドのニツカネンと六位を競爭し、萬場を熱狂せしむ。老松はスクール不得意にてよく頑張つたがヂリ〳〵と押され、長谷川はやゝ上氣してか振はなかつた。渡邊は男子三名の出場しか許されなかつたので出場せず見學する。

第二日男子フリーに於て片山が頑張りニツカネンを拔けば六位入賞が可能なのである。然かもニツカネンは練習の時から推してフリーが拙く、片山の六位は稍や確實と考へてゐたが、片山ジヤンプ・スピンに尻をつき減點され、フリーそのものではニツカネンを追ひ詰めたがスクールの差を縮めたと云ふのみで總得點に於て及ばず惜しくも第七位となる。

老松のこの日のフリーに得意とは云ひながら稀に見る好技を發揮し五點五、六、七と滿點近い得點が、各審判員の頭上高く揭げられ、滿場大喝采、誠に氣持よき光景であつた。このため彼は一躍前三者を追ひ越して第九位となつたのである。長谷川は第二日の早朝より下痢を起し殘念ながら棄權の止むなきに至つた。

女子スクールに出た稻田は各種目五點內外の得點でトレースは比較的良好を示したが、身體が小さくスピードなかつたのが不利を招き、それに女子は男子に比し優秀選手の數多くヂリ〳〵と得點を離されて行つたのは初めての參加と云ふハンデイキャップもあり已むを得なかつた。

第三日の女子フリーは流石ヘニー、カレツヂ、テイラアなど見事なものにて觀衆を熱狂せしむ、我が稻田もこの日の出來見事にコンテンツ、パーフオーマンスともに彼女としてはベストであつたと云ひ得よう。緊張し過ぎて名選手中、一回若しくは二回倒れた者が數名あつたが、稻田はミスなく豫定のプログラムを終つた。稻田はこのフリーの出來榮えにより二人を拔いて第九位となつた。

一九三六年度歐洲選手權大會成績

男子	總得點
1、ジエフアー（墺太利）	四三二、二
2、シヤール（英國）	四一三、七
3、バイアー（獨逸）	四〇八、二
4、カスパー（墺太利）	四〇七、七
5、テルターク（洪牙利）	三九六、四
6、ニツカネン（芬蘭）	三七〇、三
7、片山敏一（日本）	三六六、一
8、トムリンス（英國）	三六四、四
9、老松一吉（日本）	三六一、五
10、ゼーブレツク（白耳義）	三五三、九
11、メゾー（同）	三四六、一
12、アンリヨン（佛蘭西）	三四〇、二
13、ローレンツ（獨逸）	三三三、八
14、ヘルテル（同）	三三一、六
15、ブローベルト（波蘭）	二七二、二

女子	
1、ソニア・ヘニー（諸威）	四三四、六
2、カレツヂ（英國）	四一七、二
3、テイラア（同）	四一三、九
4、ランドベツク（白耳義）	四〇三、六
5、フルテン（瑞典）	四〇〇、二
6、ステヌフ（墺太利）	三九一、〇

7、ハ　ー　バ　ー（獨　逸）　三九〇、〇
8、リンドパイントナー（同　　）　三八九、七
9、稲　田　悅　子（日　本）　三七二、七
10、ジ　ヤ　ツ　ガ　ー（英　國）　三五九、三
11、マ　ツ　ク　リ　ン（同　　）　三四九、一
12、プ　ラ　イ　ヤ　ー（同　　）　三五〇、五
13、G・ボ　タ　ン　ド（洪牙利）　三三六、四
14、E・ボ　タ　ン　ド（同　　）　三三七、五
15、フ　　ル　　バ（チェコ）　三三二、二
16、ボーデクラーン（佛蘭西）　三二四、三
17、ウ　エ　ー　ゲ　ラ　ー（瑞　西）　三二四、〇

なほ第一日のペア・スケーティング成績次の如し。

1、バイアー・ハーバー（獨　逸）
2、ク　リ　フ　夫　妻（英　國）
3、ピロスカ、セクレニエッシイ（洪牙利）

一月二十七日スポーツパラストでエキジビションを行ひベルリンへ別れを告げニュールンベルヒ、ミュンヘンを經てガルミッシュへ向つたのであるが、スポーツパラスト・リンクの概況を左に説明する。

スポーツパラストは二階建の觀覽者六千五百人を收容し得る設備を有し氷盤横縱二十六米、五十二米である。主としてスポーツ催し物場として使用され拳闘をやる際には平面へ板を敷き中央にリンクを設け、このときは收容人員一萬人である。氷が全部水となつて了つても九時間で全部を完全な氷とするに足る冷凍設備を有す。催し物のとき以外練習用としてリンクを開放してゐるときは一日に六百人から千人位の人が來るとのことである。大體ドイツ、特にベルリンではテニスコートを引用する屋外のスケート場が到るところにあり、寒い日は自然氷で暗い日にのみコートの地下に通じたパイプで氷を張らして經營してゐるので、この方が料金も安く住居の近くに到るところにスケート場がある譯で、屋内リンクは練習用として餘り利用されない立場にある譯だが、然かも前述の如くスポーツパラストへ多い日には千人もの人が集るといふからスケート技の普及狀態が優れてゐることを物語つてゐる。歐洲選手權大會のフリー・フイギュアの日は一等場所を十マーク（邦貨十三、四圓、で發賣したがプレミアムが付いて二十マークまで昇り、六千五百人を容れるスタンドが立錐の餘地なき盛況を

呈したことも此の間の事情を物語る一の現れであらう。

愈々ガルミッシュへ

一月二十八日一行はニュールンベルヒでエキジビションを行ひ、次で翌二十九日ミュンヘンでエキジビションを行ひ、二ヶ所とも日本選手の人氣は高く、歐洲選手權大會に於ける片山の成績、老松のフリーの見事さ、稲田の巧味ある滑走振から多大の人氣を呼んだ。

この兩地に於てはフイギュアのエキジビションとアイスホッケーの競技を併せ行ひ、觀衆を惹付けるのが眼についた。この點は日本とやり方が違ひ、今後何かの參考とならうと考へた。初めフリー・フイギュアを二人が見せる、ホッケーゲームの前半をやる、十分か十五分の中休みの時間にフリー・フイギュアを二人乃至三人をやる。次でホッケーの中半をやると云つた風にホッケーとフリーを混ぜ合せて氣分を變へつゝエキジビションをやつて行くのである。フイギュアを主としたエキジビションの時はホッケーは上等でないものを配し、ホッケーを主としたエキジビションの時はフイギュアを比較的輕いものを入れるのである。

尤も二つとも觀衆を惹きつける立派なものをやる時もあるが、この時は入場料を高くするのである。

一月三十日ミュンヘン出發、待望のガルミッシュへ向つた。ミュンヘンよりガルミッシュまで一時間半の汽車の旅驛頭には平林總監督以下先着の各選手が迎えに來られ、宿舍ショネックに入る。愈々大會である。

今回の第四回オリムピック冬季大會は二月六日入場式に引續き直ちに競技開始となつたが、我がフイギュア・スケートは二月九日の男子スクール・フイギュアが初日であつたのでガルミッシュ到着後競技の日までは練習に沒頭したのである。夜間行はれたアイスホッケー試合を二回ほど見に行つただけで、晝は他の競技を全く見なかつた。西川眞吉夫妻が練習の時にはつき切つて足なほしやフリーの仕上げに助言をして呉れ、我等は兎に角、大會に備えて精進した。

第一日（二月九日）男子スクール・フイギュア前半
第二日（二月十日）同　後半
第三日（二月十一日）女子スクール・フイギュア前半
第四日（二月十二日）同　後半

第五日（二月十三日）ペア・スケーティング
第六日（二月十四日）男子フリー・フイギュア
第七日（二月十五日）女子フリー・フイギュア

フイギュア競技成績

男子

男子競技參加國

オーストリー、カナダ、イギリス、ドイツ、フインランド、ハンガリー、アメリカ、スイス、日本、ルーマニア、チエツコスロヴアキア、レトワニア（十二ケ國二十五名）

審判長　サルコー（瑞）

審判員　ロツチ（米）、シヤープ（ウヰルソン）（英）、ヤコブソン（芬）、マツカードウ（加）、マウバア（瑞西）、カーラア（墺）、オルバン（洪）、シイコーラ（チエツコ）

1、シェファー（墺太利）　四二二、七
2、バイアー（獨逸）　四〇〇、八
3、カスパー（墺太利）　四〇〇、一
4、ウイルソン（加奈陀）　三九四、五
5、シヤープ（英國）　三九四、一
6、ダン（同）　三八七、七
7、ニツカネン（芬蘭）　三八〇、七
8、タードンファルヴイ（洪牙利）　三七九、〇
9、パタキー（同）　三七四、八
10、トムリンス（英國）　三六四、四
11、リンハート（墺太利）　三六四、二
12、ロビン・リー（米國）　三六三、〇
13、ライター（同）　三五二、九（プレス九五）
14、メイ（墺太利）　三五四、八（プレス九六）
15、片山敏一（日本）　三四七、四（プレス一〇八）
16、エートス（英國）　三四三、七（プレス一一〇）
17、ブユーラー（瑞西）　三四三、六
18、ローレンツ（獨逸）　三四三、五
19、ツルサンコ（ルーマニア）　三三七、八
20、老松一吉（日本）　三三二、二
21、渡邊善次郎（同）　三二五、四
22、ヒル（米國）　三二五、一
23、長谷川次男（日本）　三一四、六

24、サデイレク（チエコ）　三〇五、〇
25、オールス（ラトヴイア）　二二二、六

女子

女子競技參加國

ベルギー、カナダ、ドイツ、イギリス、日本、レトワニア、ノールウエー、オーストリー、スエーデン、スキス、チエツコスロヴアキア、ハンガリー、アメリカ（十三ケ國三十三名）

審判長　ヤコブソン（芬）

審判員　ロツチ（英）、シヤープ（ウヰルソン）（英）、ショーバア（獨）、ヨハンセン（諾）、ホヨツクス（白）、アンダーベルグ（瑞典）、バヤーレ（墺）、フユールスト（チエツコ）

1、ソニア・ヘニー（諾威）　四二四、五
2、カレツヂ（英國）　四一八、一
3、フルテン（瑞典）　三九四、七
4、ランドベック（白耳義）　三九三、三
5、ヴインソン（米國）　三八八、七
6、ステヌフ（墺太利）　三八七、六
7、プツテインガー（同）　三八一、八
8、リンドペイントナー（獨逸）　三八一、四
9、ライネル（墺太利）　三七三、四
10、稲田悦子（日本）　三六八、一
11、ヒリツプス（英國）　三六六、二
12、ペツプ（米國）　三六三、三
13、アンドレス（瑞西）　三五六、四
14、シエンク（墺太利）　三五六、四
15、E・ボタンド（洪牙利）　三五六、一
16、ベリタ（英國）　三五二、六（プレス一〇七）
17、フルバ（チエコ）　三五三、三（プレス一一一）
18、リヒネ（白耳義）　三四八、二
19、フレデクスラー（瑞西）　三四五、四
20、メツツナー（チエコ）　三三九、二
21、L・ウエイゲル（米國）　三三六、四
22、E・ウエイゲル（同）　三二四、六
23、ディーガス（ラトヴイア）　二八〇、九
ペア・スケーティンゲ參加國

ベルギー、カナダ(二)、ドイツ(二)、エストニア、イギリス(二)、イタリー、レトワニア、ノールウエー、オーストリー(二)、ルーマニア、ハンガリー(二)、アメリカ(二)、(十二ケ國十八組)

審判長　ヴエント（獨）

審判員　ロッチ(米)、ダンネルベルク(獨)、ウキルソン(英)、フウバア(瑞西)、グリュナウア(墺)、ポプリモント（白)、コルデルウプ（諾)、ミイニツヒ(洪)、ヤコブソン(芬)

〔ペア・スケーティング〕

1、バイアー・ハーバー（獨　逸）　一一、五
2、バウジン　姉　弟（墺太利）　一一、四
3、ロッテルツオラス（洪牙利）　一〇、八
4、ツクレニエツシイ夫妻（葡萄牙）　一〇、六
5、ヒル・ヴインソン（米　國）　一〇、四
6、バートラム・レバーン（加奈陀）　九、八

結果は前記の如く豫期以上に悪い成績であつた。原因はどこにあつたか我等はオリムピツク後世界選手權大會に參加して再び同樣の感じを深めたのであるが、この不振の原因は日本內地でやつてゐたスケート方法と外國のそれとの相違、審判員の採點の眼のつけ所の相違、無蓋リンクの吹雪中で競技が行はれ日本フイギュア選手は屋內のみで養成され吹雪の中では勝手が違つたと云ふやうなことを擧げることが出來る。

（一）　スケーティグに際してはシャープ・エッヂ、ディープ・エッヂに乘らなければならぬ。このことは從來でも日本で盛んに云はれてゐたことではあるが、日本選手はその度合が足らなかつた。ターンの華かさ確實さ不足に減點を喰ふことが大きかつた。片山のスケーティングはこの點に於て最も優れたものであり、從つて彼のスクールは好得點を物したのであるが、他の選手のものは度合ひが不足してゐたのである。それから圖型中、圓の接線軸に對し兩圓は完全な接線をなさねばならぬのを日本選手の多くは一つの圓を書き終つて次の圓を書き初める時に接線軸に對しカブリ過ぎとなり流れ込みが多かつた。

（二）　スクールの規則に依れば正確な兩圓、美しきフオーム、動作、トレースの合致、圓の大きさと順次採點の北方が規定されてゐるが歐洲選手權、オリムピツク大會、世界選手權大會と經驗を積んだ結果、外國の審判員は『トレースの合致』と云ふことに採點の重點を置いてゐることが判つたのである。我々は、この點で大いに損をしたのである。兩圓がダルマの如くなつてゐても線が合致してゐれば點が比較的よく、圓は正確だが線が合致せぬ場合は點が比較的尠い。これはどの採點仕方が良いとか悪いとかの問題ではなしに外國では斯うしてゐると云ふだけである。これまでも日本が屢々國際的の試合に出てゐれば斯の如き事情が早く判つてゐて、今回の大會に非常な參考となつたのであらうが、四年に一回の外國遠征では事情に疎かつたのも致し方なく、斯界の覇を目指すなら尠くも二年に一回は遠征を企て、外地の空氣に觸れる必要あるを痛感した。

（三）　フイギュア競技中の荒天さはヒドかつた。氷面鏡の如き屋內のリンクで人となつた日本選手にとつての不利は大きかつた。スピードが風のために削がれた困憊、例ふるに物なく特に長谷川の如く平常からスピードの尠い選手にとつてはハンデイキャップは殊に大であつた。北歐の諸選手又は比較的風雪に慣れて練習してゐる選手はあの荒天にも華かなスピードでフイギュアをやつてのけたのを見てた位である。大會で第三位か四位に入賞するだらうと噂されてゐたアメリカのロビン・リーが振はなかつたのも一原因としては屋內のみで技を磨いたリーにとり荒天は苦手であつたからであらう。ドイツがフイギュア・スケートに關してだけは何故荒天の場合に善處するだけの考慮を拂つて置かなかつたかを疑ひたいのである。ドイツ當局はこの點に關し注意が屆かなかつたのであらうか。

世界選手權大會

二月十六日オリムピツク大會の閉會式を終つて十七日ガルミツシュ出發、ミュンヘンの各國オリムピツク選手招待夜會に列し想ひ出の華かな集ひに歡を盡しミュンヘンで再びエキジビションを行ひ二月十九日出發、二十日パリに到着した。パリで行はれる世界フイギュア・スケート選手權大會に出場する者はホテル・マゼスチツクに泊ることになつてゐて、パリ日本大使館と主催者との交渉により我等はこの大ホテルの客となつた。

世界選手權大會はパリのパレ・デ・スポルトと稱する屋內リンクで行はれた、その日程次の如し。

第一日（二月二十一日）女子スクール・フイギュア
第二日（二月二十二日）同　フリー・フイギュア
第三日（二月二十八日）男子スクール・フイギュア
第四日（二月二十九日）同　フリー・フイギュアおよびペアスケーティング

世界選手權大會成績

男子

1、シエフアー（墺太利）　三八三、五六
2、シヤープ（英國）　三七七、二六
3、カスパー（墺太利）　三七〇、二六
4、ダン（英國）　三六八、九四
5、ウイルソン（加奈陀）　三六一、四〇
6、パタキー（洪牙利）　三五五、三三
7、リンハート（墺太利）　三三六、六二
8、ロビン・リー（米國）　三三五、〇四
9、アルバード（墺太利）　三三三、〇二
10、メソート（白耳義）　三三三、一八
11、ライター（米國）　三一九、九〇
12、ヘンリヨン（佛蘭西）　三一四、七八
13、片山敏一（日本）　三一六、三八
14、ビユーラー（瑞西）　三〇八、一六
15、老松一吉（日本）　三〇二、〇〇
16、渡邊善次郎（同）　二九一、七六
17、長谷川次男（同）　二八八、四〇

女子

1、ソニア・ヘニー（諸威）　二三七、六五
2、テイラア（英國）　二二八、七二
3、フルテン（瑞典）　二二二、五八
4、バトラー（英國）　二一七、四二
5、リンドパイントナー（獨逸）　二一五、九一
6、プツテインガー（墺太利）　二一二、八二
7、マツクリン（英國）　二〇六、一一
8、ヒリツプス（同）　二〇二、九四
9、プリアー（同）　二〇一、二七
10、稲田悅子（日本）　一九八、五七
11、リヒネ（白耳義）　一九八、一七
12、ステフアニイ（英國）　一九五、七四
12、クレリセツテイ（佛蘭西）　一九五、七四
13、ナシ
14、フオーデイラネ（佛蘭西）　一九四、二二
15、ジヤツガー（英國）　一九三、四二
16、ペツプ（米國）　一八六、八五
17、ガランガー（佛蘭西）　一八六、六一

〔ペア〕

1、バイアー・ハーバー（獨逸）　一一、四〇
2、パウジン姉弟（墺太利）　一一、一〇
3、クリツフ夫妻（英國）　一〇、七二
4、レバーン・バートラム（加奈陀）　一〇、五六
5、ヒル・ヴインソン（米國）　一〇、五四
6、マツデン姉弟（同）　一〇、〇四

パリの世界選手權大會は屋内リンクであつたので、荒天のハンデイキヤツプこそ無かつたが、技術的にはオリムピツク大會と同樣のことが云へ、日本選手の不利と不振の因は前項通りである。然し乍ら稲田のプレーは大いに賞讃を浴び、ソニア・ヘニーの幼時に比し初めてソニアが競技會に出た時は少女の常として足に振ひがあつたが、稲田の足は安定し、この點は却つてソニアを凌ぐものとの好評を受け、現在の天分を適當のコーチによつて育てあげるなら必ず將來銀盤の女王たるは不可能でないと聞かされた。お世辭でなく眞實のことであるらしく日本にこれを立派に仕上げるコーチの要あるを痛感した。

世界選手權の行はれたパレ・デ・スポルトは屋内リンクとは云へ、その規模の廣大さ全く世界一と云つてよく觀衆の收容力一萬八千人である。氷面二十七米、六十米、周圍に四階からなる見物席あつて、凡ゆるスポーツの催しに利用されてゐる。天井は全部ガラス張りで充分に光線を取入れてゐる。拳闘、レスリングは勿論、スケートリンクの周圍には自轉車競走路があり、百時間耐久サイクル・レースがパリの年中行事の一としてこゝで催ほされる。

ロンドンからスイスへ

三月一日我等は豫定の大會出場を終つて、フイギュアの本場英國へ渡りロンドンに滯在してコーチを受けた。英國にはロンドンだけで六ケ所からの立派な屋内リンクがあり金持連中が日々多數にこれ等のリンクに押しかけて斯技を樂しみ、その設備の見事さ日本では一寸眞似の出來ぬもの

がある。各リンクには多きところは二十人、尠きところで十人から職業コーチが居り、高きは半時間十シリング（邦貨約七圓）安いので同じ時間五シリングと云ふコーチ料である。これだけのコーチがこれだけの料金をとつて日々食つてゐるのだからフイギュア・スケートの盛大さはこれによつても想像が出來やう、英國はシェフアー、ヘニー引退後は世界の覇權を獲得する國である。男子のシャープ、女子のカレツヂの一九三七年度の世界の覇權獲得は動かぬものと見てよい。

我等の一行は西川夫妻の通譯により滯英中カレツヂのコーチであるゲルシュピューラーに就てスクール・フイギュアの種々を學び、選手は何れも熱心に練習し、これをノートして持ち歸つた。これが我等後進選手を育んで漸く實を結び、スケート日本の偉名を世界に轟かす日の一日も早からんこと切望してゐる。

三月六日ロンドン發、スキスのチユウリツヒのエキジビションに出るためチユウリツヒに向ひそれより更に主都ベルンにてエキジビションを行ひ、三月十日マルセーユ出帆の郵船榛名丸で歸國の途に就き、四月十七日神戸入港無事故國の土を踏み、直ちに東上、宮城遙拜、明治神宮に報告詣でを濟し、エキジビションを行つて目出度く解散した。

ホツケー

日本チーム詮衡當時は未だ一回の國際試合も行はれた事なく、主として競技規約に依つてのみ發達して來た爲、列國に比して如何程の實力ありやの點に就ては詳でなかつた。從つて第四回冬季オリムピツク出場日本代表ホツケーチームを編成するに當つては愼重なる考慮が拂はれ、技術優秀なる選手を集めて其の向上に努め、日本最强のピツクアツプ・チームを編成すべく努力した。

選手詮衡に當つては昭和十年一月二十五日、二十六日、二十七日に擧行された全日本選手權大會に於ける成績を考慮して優勝チーム苫小牧、及び個人的に技術優秀なる選手三十一名を第一次候補に詮衡し、次で三十一日之等選手を適當に四組のチームに編成して詮衡競技會を擧行し、詮衡委員會に於て日本代表選手を決定した。

對オリムピツク準備の一つとして技術を練磨し、實力を

涵養せしめ、併せて國内に於けるホツケーの進歩發達を促す爲、大なる努力と犧牲を拂つて、前年カナダにて優勝歐洲遠征もした事のあるサスカトン・チームを招聘し、全國ホツケー・チームを集めて三月十七日より四月八日迄の間に、八回の試合を東京及び京都に擧行して、競技方法並に技術について大いに學ぶ所があつた。

正式合宿練習としては出發前即ち十一月二十五日より二十二日間に亘つて東京に合宿し、芝浦スケート場に於て毎朝一時間半乃至二時間、主としてチーム・ワークの練習を行ひ、カナダ・チームより學んだところを完全に會得せんと努力した。又各個人のスケーティングの練習は毎日午後一時より二時間實行して脚力を强める事に努力した。

十二月十七日で練習を中止して出發の用意につき、十九日、宮城及び明治神宮に參拜して一同の結束と決心とを更に强固にした。

東京より伯林迄

奉天に於て合宿練習中のスピード代表選手團と合する爲十二月二十日ホツケーの全員はフイギュア選手及び本部と共に東京を出發した。試合に依るチーム・ワーク並に實力の向上を計る目的を以つて、途中京都及び神戸に於て二試合を擧行、二十三日奉天に到着した。

奉天に於ては二十四日より滿洲醫科大學のホツケー・リンクに於て最後の練習を行ひ、二十七日、二十八日の奉天國際運動場に於ける送別試合に出場し、滿洲醫大と戰つて樂勝した。此の日の氣溫は零下二十六度肌さす滿洲特有の嚴寒であつた。

奉天出發は豫定より一日早めて十二月三十日午後出發、途中新京で乘換へて三十一日早朝氣溫零下三十八度のハルビンに到着、乘換時間の三時間半を利用して朝食及び暖を攝り、九時四十分滿洲里に向つた。列車故障の爲十八時間遲れ、明けて昭和十一年の初日の出を興安嶺に拜し、同夜十二時過ぎ滿洲里に到着した。時に氣溫零下四十度。

明ければ一月二日、愈々シベリヤの汽車の旅が始まる日だ。氣溫は零下四十度萬物は凍りついてゐる。國際列車に乘車して午後三時四十分滿洲里を出發した。程なく國境も過ぎ、ソ聯最初の驛に到着、吾々の車は最後部に增結された事であつて稅關迄距離が相當にあつたのと、荷物が可成

りあつた爲、非常な努力を要した。其の爲大切な手首を傷めた選手もあつて後迄相當痛手を負ふた。早や短い日も暮れて眞暗になつた六時になつて發車したのでホットする間もなく食事の心配があつたが、インツウリストも乘つて居ない。困惑も露語の話せる庄司君の働きに依つて解消し滯りなく食事も出來た。

シベリヤの旅は列車内の事とて運動は不足する。車内は暖かであつたが車外は滿洲里の比とはゆかなく共非常な寒さであつた。而も晝の日足は早く晝間らしいのは五六時間で日のある間に出來る食事は朝食許り、晝食は夜になつてからと云ふ狀態で夜行列車に乘つて居る有樣であつた。

運動としては車内に於ける體操と停車時に於ける戸外運動をする程度であつた。雪と氷に閉されたシベリヤの曠野を走る國際列車も嚴寒に喘ぎ午ら兎角遲れ勝で、モスコー迄七日間の旅が二日も遲れて一月九日夜十二時過ぎ、漸く到着した。其の夜は車内に泊り翌十日朝八時半にはスケートのみ持參の上、大使館に到り朝食後全員市中見學の上、ダイナモ競技場に行き、約二時間程一週間振りに氷上に立つて足馴しが出來た。先方の好意に依つてバンデーのステツク及びボール等を借りてホッケーの練習は出來ぬ迄も非常に良い運動になつた。此の競技場は陸上競技場であり、周圍は全部スタンドで圍まれ、約八萬の收容力がある。冬季はトラック及びフイールド全部結氷せしめ、周圍はスピード競技、中央がバンデーの競技場になつて居て、氷の手入れも良く行屆き、夜間照明裝置が施されて居る立派なものであつた。

此のバンデーはアイス・ホッケーの前身とも云ふ可きもので北歐及びスコットランドに盛に行はれて居たが、現在ではアイス・ホッケーに轉じて了ひ、バンデーを行つて居るのはソ聯位なものであらう。競技場の廣さや競技者の數は陸上ホッケーと同樣で、ボールを使用し、陸上ホッケーステツクに似た幾分長めのステツクを使用し、其の先の曲つて居る部分が兩面共平である。

一日の陸上に於ける休息も終つて十日夜十時再びモスコーを發した。雪と氷のソ聯を過ぎ一度ポーランドに入れば車外には、綠の草原や水を湛へる沼等が見えて春を思はせる。列車は速度を增し十一日午後八時半ポーランドの首府ワルソーに到着した。此處でホッケー選手は一行に分れて

下車、一旦公使館に立ち寄つた。

歐洲各地轉戰

その日同國會長ヤノフスキー氏と國際試合の件に付面談したが、平年ならばポーランドの氣候としては零下十度内外なるべき所、歐洲一帶にわたる暖風の爲約二十度近く高溫で十度を上下してゐるため、前年アイス・ホッケー歐洲選手權を行つたクリニタは競技不可能につき、試合場はポーランド唯一の人工リンクのあるカトウツツに變更した旨の話があつた。

ワルソーに休息する事三時間半、再び十一時に汽車にのり七時間搖られながら、十二日午前六時工業都市カトウツツに到着した、

カトウツツのリンクは巾五十米、長さ六十米の屋外人工リンクである。一部分フイギュアの選手の練習に區分されてゐた。

此のリンクに巾三十米、長さ六十米の板圍が施され十二日の午後八時渡歐第一戰たるポーランド、シレジカ混合軍との試合が開始された。

日本軍には奉天出發以來一日も休息を採れなかつたハンデキャツプはあるが、歐洲でも强剛に位する此のポーランドと如何程試合するかと云ふ事は、或る程度まで全歐洲の實力と我が實力との對比となり得る。

選手一同は旅の疲勞を冒してステツクを握つた。

勿論是非共勝たねばならぬのがゲームである。試合は日本軍が意氣と技術で攻勢を持續し、實際は四對三で勝つた試合であつたが、レフリーの誤認の爲三對二で敗れて了つた。然し午ら日本の實力に觀衆は驚嘆し、シレジカの幸運なる一勝に讃辭を送つて居た。

ポーランド 3（1—1、2—1、0—0）2 日本

試合經過

第一ラウンド 試合開始後二分十秒センター庄司のシュートをキーパー受けて前に落す所をR・W・龜井突つこんで先づ一點を先取した。スピードも日本選手の方が勝つて居た。然しポーランド軍も强く五分L・W・のシュートに依つて一點を返す。

第二ラウンド 三分十秒庄司の素晴しいレデイプレーに依つて爲されたパスを龜井受けてシュートして再びリードす。五分ポーランド軍モンター、シュートして同點となり續いて十五分更

にポーランド軍は一點を加へて三對二逆にリードして了つた。

第三ラウンド　日本軍は攻擊の手をゆるめず、火を吐く勢でポーランド軍のゴールを壓迫して行つた。終り頃古屋のドリブルシュートは惜しくもゴールとならず終つた。

斯くして我軍は健闘も甲斐もなく、三對二で第一戰を失つた。

續いて一月十二日午後八時、ポーランド、オリムピツク代表軍と顏を合せる事になつた。前日の疲勞も癒えて今日こそ完全に復讐せんものと、臨んだのであつたが、試合開始直後ポーランドのドツチングに依つて成された得點のうち、二點目は我がキーパーの判斷を誤つてのゴールで日本軍の意氣を削いだかの如く見えた。然し日本軍は前日に勝るスピードを出してぐん〳〵ポーランド軍を壓迫して行つた。パツクをキープして居る時間も、攻め込む固數も日本軍が寧ろ多いのであつたが、最後の決定力なく、第二ラウンドに又も一點を敵に許さねばならなかつた。

最終回、古屋、北澤、木下のコンビネーションは絶好のチャンスを幾度か迎へたが、惜しいところでゴールとならず、平野から爲されたゴール前のパスを龜井フリー・シュートしたが、キーパーの好防にはばまれて無爲に終り、唯一の得點が庄司に依つて擧げられたのみ、日本軍の健闘は寧ろ彼我の得點の逆を行くかの感があり、ポーランド恐るゝに足らぬことが判つた。

ポーランドはセンターが非常にうまく、得點の殆ど全部が此のセンターのドツヂングを中心としてゐた。

旅の疲勞が我軍に禍ひしてゐたことは事實だ。

ポーランド代表軍　5（2—0、1—0、2—1）1　日本

ポーランドの實力を確め得たのを疲勞勞頭の收獲として一月十四日午後一時カトウツツを發ちブレスラを經て午後八時伯林に到着、直に大使館に催された在獨日本人會の歡迎會に出席、先着の一行と合す。

一月十五日、スピードを北歐に、フイギュアをウイーンに送つた後、午後三時から一時間スポルツ・パラストに於て練習を行ひ、午後八時より此處に擧行された伯林倶樂部對ル國テレホン倶樂部のホツケー試合を見學した。

大會前の準備及び轉戰

國際試合の經驗を缺く吾々は、これまでの僅かの體驗に依り長身の外國チームに對しては可成り試合は不利に導かれ、不覺をとる恐れ十分あるを悟つたので、試合に依つて更にしつくりしたコンビネーションを得る目的で荷は勝ち過ぎて居たがガルミツシュ乘込前に於ける計畫を立てた。轉戰前に心身の休養の時間があつたならば更に好結果が得られる事であつたらうとも思はれるが、一面吾々は出來るだけの體驗を經たかつたのである。

休養らしい休養にならなかつた伯林の一日の滯在も終つて一月十六日午前十時オリムピツク前の轉戰に出發した。伯林を離れると間もなく列車はエルベ河沿ひに走り、美しい景色に見とれて居る間もなく午後四時チエツコスロバキヤの首府プラーグに到着した。小川代理公使に迎へられて宿舍に入る。プラーグはエルベ河に跨る美しい古都であり其の河に浮く島に屋外の人工スケート場がある。チエツコは前年歐洲選手權で第二位を獲得し、歐洲ではスイスと並び稱せられ、アイス・ホツケー界の最高峰に位する國であり、日本に來朝せるサスカトン・チームと戰ひ三對一の成績で惜敗してゐる。此の强剛に對して疲勞の未だ癒えぬ日本チームが勝つ事は困難に思はれた。

一月十六日午後八時對チエツコオリムピツク代表チームとの一戰が開始された。鏡の樣な氷、尨大なリンク五千有餘の觀衆、體格の大きい代表選手、日本の選手は彼等の首迄しかない。

カナダ育ちの名センター、マルチエツクを中心とする强力な攻擊陣を有するチームで、美事な技術をもつた、フエヤーなプレーで攻擊して來る。丁度カナダ・チームを思はせるが、それ程のスピードもなく、强引さもなく、之が日本チームに非常に戰ひ良くした。

此の日庄司、平野、龜井のフオワーヅが好調で再三の好機を迎へたが得點を見るに至らなかつたのは殘念である。

此の試合でチエツコは輕快にセンターを使つて美事なパスがしば〳〵成功し、日本チームはゴール前の弱さを暴露し、大量得點を與へて了つたが、試合を通じて日本軍は實に良く攻め込み、見事な試合に經過した。

チエツコ代表　7（2—0、1—0、4—0）0　日本

續いて一月十七日、午後八時對チエツコ第二回戰を行つ

た。敵は前夜のオリムピツクチームへ、LTZ倶樂部のカナダ人三名を加へチエツコ最後の布陣で向つて來た。其の實力は前日に比してかけ離れて强かつた。これ等の中心をなす選手は冬季間カナダより招聘して居る所謂アイス・ホツケーのコーチ連である。

此の日、日本軍は北澤、古屋、木下のフオワーヅ好調で北澤のロングシユートはキーパーの氣を許して居る間にゴールインして了ひ。觀衆の拍手喝采で判つた位妙なシユートであつた。

日本軍は得點こそ少なかつたが、そのコンビネーションは胸のすく樣なものであつた。然し乍ら敵も亦、センターの素晴らしいドツヂング、頭腦的なプレーは各所にひらめき、我軍を翻弄した。

チエツコ代表 10 (1—1, 4—1, 5—1) 3 日本

翌一月十八日午前中プラーグ市廳を訪問して、午後一時五十分發の列車でプラーグを後にハンガリーの首都ブタペストに着いたのは同夜十一時半であつた。此處には在留日本人が居らぬとの事で、充分覺悟は決めて來て見たが驛に夏目純一氏が迎へに出て居て下さつたのでホツトした。一切が同氏の世話でうまく運び早く休息する事が出來た。

スケート場は市街の中央にあり、夏はテニス・コート、冬はスケート場でホツケーリンクは五、六ケ所は取れさうな大きなリンクで、勿論人工の結氷を作つて居て美ましい限りだつた。丁度日曜日であつた爲、正午からハンガリーオリムピツク代表との試合を開始した。オリムピツク大會を除いて唯一回丈の日中試合であつた。

對チエツコの試合振りでは必ず勝てると云はれてブタペストに來たが、試合開始されるや敵の調子の出ぬ間に日本軍の出足實に良く、庄司からのパスを龜井受けてシユート一點先取。其の後市川單身ドリブルで進みシユートしたがパツクがサイドに流れ、それを取つて再びシユートして二對〇で前半を終る。

中半戰の半頃より我が軍は對チエツコの張切つた活潑な活動に疲れも加つて、眼に見えてスピードも低下し、ボディチエツクに遭ふと直ぐ轉倒する有樣となつたのに反してハンガリー軍は其底力を出して壓迫し、遂に二對五で敗れ去つた。

ハンガリー代表 5 (0—2, 2—0, 3—0) 2 日本

翌朝ルーマニアに向け出發の筈であつたが聯絡出來ず、遂に一日滯在休養して一月二十一日午後十時發にてダニウブ河を狹む美しいブタペストの都を後にルーマニアの首府ブカレストに向ふ。二十一時間の汽車の旅を續けて二十三日早朝ブカレストに到着した、驛へ迎へに來て呉れたのは公使館の〇〇氏及び坂氏で、其の日一日休養の上二十三日夜九時からテレホン倶樂部との試合を開始した。此のチームは伯林で試合するのを見學したが、ステツク・ワーク、スケーティング共に何等學ぶ所が無かつた。之迄試合をして來たチームとは格段の違ひで、荒削りの亂棒さがあり、未だレフアインされて居なかつた。

此の日午後より雨蕭條と降り續き、試合は不可能かと思はれたが開始直前に至りすつかり霽れ絶好のコンデシヨンとなつた。現在迄敗戰續きでゲームへの自信を失ひかけて居たのだが、ルーマニア側の態度に對する憤懣が爆發して物凄い鬪志を驅り立てゝ行つた。

テレホン倶樂部も最初は日本チームを見くびつて居たが試合になると手ごわいと思ふや、相當プレイが穢なくなつた。試合の經過は前半〇對一でルーマニア側のリードに終る。此の日日本軍はフオワード三組、庄司、平野、二瓶、北澤、古屋、木下、原、龜井、藤野として自由に使ひこなした。

中半一點を返し、後半二對一に再びリードされ、このまま押し切られるかと思はれたが庄司、平野の健鬪素晴らしく、其のコンビネーション又全盛時代を彷彿させて遂に、終了三分前に一點を加へて二對二の同點で終つた。

此の試合は徹頭徹尾押し切つて充分に勝てた試合であつたが引分けとなつて殘念であつた。然し乍ら遠征以來始めての引分けとに只胸が一杯になつてしまつた。

日本 2 (0—1, 1—0, 1—1) 2 ルーマニヤテレホン倶

一月二十四日午後一時四十五分ブカレストを出發して北行し、再びポーランドに入りレンブルグ、カトウツツを經る三十二時間の旅を續けて二十五日午後八時半再度伯林に入つた。

一月二十六日、この日稻田悅子孃が僅か十三歳の身で雲

煙萬里祖國日本軍を背負つての可憐な奮闘に感激を覺えつゝ伯林倶樂部と對戰した。

此の日も日本軍はフオワード三組を作り、古屋、北澤、木下、庄司、平野、二瓶、藤野、龜井、原の順序で、どし〳〵FWチエンヂを行つた。

伯林倶樂部一點を先取して氣焰をあげれば、藤野、龜井のコンビネーション良く直ちに一點を返して試合は一進一退の内に續けられ、吾がチームは伯林倶樂部に勝つだけの力を持ち乍ら、此處でも再び一對一の引分けとなつてしまつた。

日本 1 (1—1, 0—0, 0—0) 1 伯林倶

伯林で休養も採り得ず二十七日午前十時發にて愈々目的地たるガルミツシユに向け出發、午後八時半宿舍たるシエーネツクに落着いた。

心身の休養と血の出る樣な苦闘の好き實を結ばんが爲の練習をあと一旬に足りぬ日數の間にフイニツシユして置かねばならない。

日本チームの缺點としてはボデーチエツクの不熟練出足の比較的遲い事、敵ゴール前の最後の決めに餘裕の無い事及びゴール前に於ける防禦力の弱い點である。

之等の諸點を補強すべく委員會より指定された練習時間に猛訓練をなし、宿舍へ落着いた爲休養もとれ見違へる樣に良い體勢が採れて來たので、オリムピツク前に一度試合を行ふを良しとして二月三日ミユンヘンに出掛けて獨逸チームと一戰を交へた。

最初平野、庄司、龜井のフオワード・ライン好調で龜井屢々ロングシユートを放つて敵を壓迫して行つた。古屋、木下、藤野、二瓶、北澤、原のフオワードも編成されて健闘を續けた。斯くして前半は日本チーム優勢裡に終つた。

中半に入るや獨逸軍の中距離のシユートをキーパー樂にステツクで止めやうと出したのが握りが弱かつた爲ステツクをはじいて得點されてしまつた。此の一點が獨逸軍に非常な元氣を與へ、日本軍にとつては崩れる前兆であつた。其の後嚴格過ぎると思はれる反則に依つて龜井出されて居る間に再び一點を加へられて〇對二とリードされた。

後半崩れ始めた日本軍は此の陣容を建直す爲に最大の努力を拂つたがゴール前に於ける防禦力弱く、きれいなパスも無い押し込みの一手に依つて三點を獻上してしまつた。

日本軍の唯一の得點がゴールキーパーの失に依つて得られたが、敵も幸運の得點が多かつた。

獨逸チーム 3 (0—0, 2—0, 1—1) 1 日本

斯くて、幾多の試錬を經た我がチームは愈々第四回オリムピツク大會に初の出場を待つたのである。

オリムピツク

アイス・ホツケー競技

△アイス・ホツケー參加國（十五ケ國）

カナダ、ポーランド、ラトヴイア、オーストリー、アメリカ、ドイツ、スキス、日本、イタリー、ハンガリー、チエツコスロヴアキア、ベルギー、フランス、イギリス、スエーデン。

ホツケー競技は參加國十五といふ大量なる爲、四組に分けて第一回豫選を行ふ事になつた。其の組合せは二月三日夕刻發表された。

A組　カナダ、ポーランド、ラトヴイア、オーストリー

B組　アメリカ、獨逸、スキス、イタリー。

C組　ハンガリー、チエツコスロヴキア、ベルギー、フランス。

D組　英國、スエーデン、日本。

大會第一日の開會式に續いて午後から直にアイス・ホツケーのリーグ戰が華々しく展開された。

第一日（二月六日）

米國 1 (1—0, 0—0, 0—0) 0 獨逸

午後二時半（スタヂアム）

カナダ 8 (5—0, 2—1, 1—0) 1 ポーランド

午後二時半（リーサー湖）

ハンガリー 11 (1—1, 2—0, 8—1) 2 ベルギー

午後三時十五分（スタヂアム）

スエーデン 2 (1—0, 0—0, 1—0) 0 日本

午後九時（スタヂアム）

第二日（二月七日）

カナダ 11（2—0, 3—0, 6—0）0 ラトヴィア
午前九時（スタヂアム）

チェッコ 5（0—0, 4—0, 1—0）0 ベルギー
午前十時（リーサー湖）

米國 3（0—0, 3—0, 0—0）0 スキス
午前十時十五分（スタヂアム）

オーストリー 2（0—0, 0—0, 2—1）1 ポーランド
午後二時三十分（スタヂアム）

ハンガリー 3（0—0, 1—0, 3—0）0 佛國
午後二時三十分（リーサー湖）

英國 1（1—0, 0—0, 0—0）0 スエーデン
午後三時十五分（スタヂアム）

獨逸 3（1—0, 1—0, 1—0）0 伊國
午後九時（スタヂアム）

第三日（二月八日）

ポーランド 9（1—0, 4—0, 4—2）2 ラトヴィア
午前九時（スタヂアム）

カナダ 5（4—0, 1—2, 0—0）2 オーストリー
（スタヂアム）

英國 3（2—0, 0—0, 1—0）0 日本
午前十時（リーサー湖）

チェッコ 3（1—0, 1—0, 1—0）0 ハンガリー
午後二時三十分（スタヂアム）

伊國 2（0—0, 0—1, 1—0）1 米國
延長戰
（スタヂアム）

佛國 4（1—0, 0—1, 1—0, 1—0）2 ベルギー
延長戰
午後二時三十分（リーサー湖）

獨逸 2（0—0, 1—0, 1—0）0 スキス
午後九時（スタヂアム）

第四日（二月九日）

チェッコ 2（0—0, 1—0, 1—0）0 佛國
午前十時（スタヂアム）

オーストリー 7（4—0, 0—0, 3—1）1 ラトヴィア
午後二時半（リーサー湖）

スキス 1（0—0, 1—0, 0—0）0 佛國
午後二時（スタヂアム）

A組	カナダ	オーストリー	ポーランド	ラトヴィア
カナダ	×	5—2	8—1	11—0
オーストリー	2—5	×	2—1	7—1
ポーランド	1—8	1—2	×	9—2
ラトヴィア	0—11	1—7	2—9	×
ゴール	24—3	11—7	11—12	3—27
得點	6—0	4—2	2—4	0—6
順位	1	2	3	4

B組	スキス	米國	イタリー	獨逸
スキス	×	3—4	2—0	5—1
米國	0—3	×	0—1	2—5
イタリー	1—0	1—2	×	4—2
獨逸	1—5	5—2	3—0	1—4
ゴール	1—5	5—2	4—2	4—1
得點	2—4	4—2	2—4	2—5
順位	4	2	3	1

C組	チェッコ	ハンガリー	フランス	ベルギー
チェッコ	×	0—3	0—2	0—5
ハンガリー	3—0	×	0—3	2—11
フランス	2—0	3—0	×	2—4
ベルギー	5—0	11—2	4—2	×
ゴール	10—0	14—5	4—7	4—0
得點	6—0	4—2	2—4	0—6
順位	1	2	3	4

D組	英國	スエーデン	日本	ゴール	得點	順位
英國	×	1—0	3—0	4—0	4—0	1
スエーデン	0—1	×	2—0	2—0	2—2	2
日本	0—3	0—2	×	0—5	0—4	3

第一次豫選リーグ戰の結果より第二次豫選リーグ戰は左記の如き組合せとなり、再び十一日より開始された。

A組　カナダ、獨逸、ハンガリー、英國。

B組　オーストリー、米國、スエーデン、チエツコスロヴキア。

第五日（二月十日）

スエーデン 1（1—0、0—0、0—0）0 オーストリー

午後二時半（リーサー湖）

米國 2（0—0、2—0、0—0）0 チエツコ

續いて（リーサー湖）

獨逸 2（0—0、1—0、1—1）1 ハンガリー

午後八時（スタヂアム）

英國 5（1—0、3—1、1—0）1 ハンガリー

午前九時（スタヂアム）

チエツコ 2（0—0、2—1、0—0）1 オーストリー

續いて（スタヂアム）

カナダ 6（1—0、3—0、2—2）2 獨逸

午後八時（スタヂアム）

米國 2（0—0、1—1、1—0）1 スエーデン

續いて（スタヂアム）

A組	カナダ	獨逸	ハンガリー	英國	ゴール	得點	順位
カナダ	×	2—6	2—1	2—1	8—3	5—1	1
獨逸	6—2	×	1—1	1—5	5—8	3—4	3
ハンガリー	15—0	1—2	×	1—5	2—22	0—6	4
英國	1—2	5—1	5—1	×	22—4	4—2	2

第六日（二月十二日）

英國 2（1—1、0—0、1—1）2 カナダ

續いて（スタヂアム）

カナダ 15（3—0、9—0、3—0）0 ハンガリー

午後二時半（スタヂアム）

チエツコ 4（2—0、2—0、0—1）1 スエーデン

續いて（スタヂアム）

獨逸 1（0—0、1—0、0—1）1 英國

延長戰

午後八時（スタヂアム）

米國 1（0—0、1—0、0—0）0 オーストリー

續いて（スタヂアム）

第七日（二月十三日）

B組	オーストリー	米國	スエーデン	チエツコ	ゴール	得點	順位
オーストリー	×	0—1	0—1	1—2	1—4	0—6	4
米國	1—0	×	2—1	2—0	5—1	6—0	1
スエーデン	1—0	1—2	×	1—4	3—6	2—4	3
チエツコ	2—1	0—2	4—1	×	6—4	4—2	2

第二次豫選リーグの結果カナダ、米國、英國、チエツコスロヴキアの四國に於て決勝リーグ戰を行ふ事になつた。

第八日（二月十四日）

英國 5（2—0、3—0、0—0）0 チエツコ

午後九時（スタヂアム）

第九日（二月十五日）

カナダ 7（3—0、3—0、1—0）0 チエツコ

午前十時（スタヂアム）

米國 0（0—0、0—0、0—0、0—0、0—0）0 英國

延長戰

午後九時（スタヂアム）

第十日（二月十六日）

カナダ 1（1—0、0—0、0—0）0 米國

午後二時半（スタヂアム）

決勝リーグ	カナダ	米國	チエツコ	英國	ゴール	得點	順位
カナダ	×	1—0	7—0	1—2	9—2	4—2	2
米國	0—1	×	2—0	0—0	2—1	3—3	3
チエツコ	0—7	0—2	×	0—5	0—14	0—6	4
英國	2—1	0—0	5—0	×	7—1	5—1	1

表に示さる如き決勝リーグ戰の結果英國が優勝し、第二位はカナダ、次は米國、チエツコスロヴキアと順となつた

日本對スエーデン

降雪中にフエイス・オフされたパックは敵にとられた。敵は輕快にパス・ワークで日本陣に攻め込んで來る。日本チームは堅くなつて居る爲か氣合が合はない。危い。殆んど皆ながぼうつとして居る間に最初の一點を敵にとられて了つた。

其の後時間の經つにつれ、日本軍は漸次落着きを取り戻し、各人の技術を次第に發揮し、動きは活發となつて來た。

敵の右ウイングから切れ込んで來るドッヂングも庄司、平野の間で屢々カット、龜井のロングシュートが敵のデフエンスの頭上を越して幾回もゴール前に飛んで行つた。

前半は一對〇のまゝ過ぎ、愈々中半となる。雪は益々猛烈を極め、三分もたゝない内にパックは見えなくなり除雪しなければならない。此の雪の間をくゞつて敵の攻撃を食ひ止め、敢然逆襲に轉ずる日本軍の健闘、殊に再三の危機を見事に切り拔けたキーパー本間の此の日の好防。足を痛めたが八面六臂の働きを示したデフエンスの市川にどれ丈け全員が力付けられた事か

今迄轉戰又轉戰に中半もろくも崩れて了つた痛い經驗から最善の努力を拂つた此の中半は息もつかせず攻撃した。古屋から北澤への好チヤンスのパスも雪の爲足もとに近く失はれて了つた。斯くして中半に0對0のまゝ過ぎ後半、益々降りしきる吹雪の中を死守、突撃が展開された。七分頃敵のライトウイング持ち込んでシュートしたパックがスライドになつてキーパー本間の逆をつき又一點を敵に與へて了つた。其の後に於ける日本軍の攻撃は悲壯を極め、さすがのスエーデンも日本軍の攻撃に守勢一點ばりとなりゴルを守り通した。

スエーデン 2（1—0、0—0、1—0）0 日本

日本　井司野澤屋下間川間

日本 { 龜庄平北古木 FW　早市 DF

スエーデン FW { Engberg, Jonncke, Liljeberg, Norberg, Petersen, Erikson

DF { Bergguist, Lunnell

GK { Carlsson

日本對英國

カナデイアンの優秀なる選手を揃へた今年の英國は歐洲最強の實力を持つた瀟味のある落着いたチームであつた。此の日、日本チームは對スエーデン戰に全力を擧げた後に來た疲れからか試合前覇氣にゆるみを感じたが、試合開始されるや敢然と戰を挑み、技伯仲で接戰を續け平野、庄司、龜井のフオワーヅ好コンビでチヤンスを迎へたがものにならず、英國は執拗に我がデフエンスゾーンに止まり、こゝで我がフオワーヅからデフエンスに不用意に送られたパスを待ちかまへて居た英國のセンターに見事カットされて簡單に二點を獻上して了つた。前半の終り頃敵のライト・ウイングの強シートが早間のグローブを彈じいて方向が變つた爲、キーパー判斷を誤つて更に一點を重ねられた。

中半開始されるや日本チーム先づ攻撃し、兩フオーワヅのコンビネーション冴えて屢々のパックを割つてゴール間際へ突進し再三の好チヤンスを握み乍ら敵の好防に阻まれて、成功せずに終つた。

後半は二點リードした英國は防禦の體形を採り、日本軍最後の死力を盡す攻撃にも完璧な防禦にはみぢんのゆるぎもない。焦る内にセンター・ゾーンからの英國のロング・シュートをキーパー受け損じて更に一點を許して了つた。斯くして初參加の我が軍は第一次豫選に、敗退するの止むなきに至つたが、その奮闘は豫期以上のものであつた。

本　井司野澤屋下間川間

日本 { 龜庄平北古木 FW　早市 DF

英國 FW { Dailley, Archer, Coward, Brenchly, Borland, Stinchcombe

DF { Erhordt, Wymann

GK { Foster

英國 3（2—0、0—0、1—0）0 日本

大會後の轉戰

大會勞頭第一豫選リーグに敗れて後は各國チームの試合振り、並に技術の見學に餘念なかつたが、試合の出來ぬ淋しさは更に大きなものであつた。二月十四日オーストリーのインスブルツクに遠征して同市チームと試合を行つた。

試合は午後九時から開始された。此の日はフオワード、龜井、古屋、藤野、原、北澤、二瓶、デフエンス市川、須藤、キーパー本間の顏觸れであつた。此の日の相手のチームは割合に弱く、只キーパーが非常に目立つてよい防禦技術をもつてゐた。各回共壓倒的に日本チームが押して戰つたが流石はオーストリー代表選手たるキーパーの水も洩らさぬ好防に逢つて得點の開きも僅かであつた。更に此のリンクは照明が暗くパツクも兎角見え難く、場所馴れぬ日本チームには苦戰であつた。前半は1——1、中半龜井のロング・シユートが見事に決つて一點を擧げた。之が結局物を云つて二對一で歐洲轉戰以來始めての勝利を摑む事が出來た。

此の試合を見て感じた事は、スピードに於てテクニツクに於て實に日本チームの實力は斷然頭抜けて居るが、外國人チームに對しては得點を得る事は仲々困難で、下手ながらも外人チームは防禦には素晴らしい力を發揮する點である。日本チームは守る事も下手だつた。

日　本　2（1——1、1——0、0——0）1　インスブルツク

試合後直にガルミツシユに引返す。大會も餘す所二日である。

二月十七日ミユンヘンに出て歡迎會に臨み、十八日夜再び伯林に到着、一日滯在の上ハンブルグに向ひ、二月二十日午後八時から同市で試合を行つた。日本チームの強い事が評判になつた爲敵はハンブルグと伯林兩倶樂部の精鋭を送つた混合軍で向つて來た。其の實力は相當なもので、攻擊に守備に全力を盡したのであつたが、我に利あらず二對五で敗れた。

二月二十一日、午後八時よりハンガリー・オリムピツク選手と再び相見える事となつた。ハンガリーチームはブタペストで始めて試合した時に比して、大會に於ける試合には見違える程の上達を示してゐたが、此度は是非共雪辱せ

んと愼重に試合を始めた。日本軍は終始攻勢に出て敵ゴール間際へ壓して行つたが、キーパーの好防に再三のチヤンスを逸するに對し、ハンガリーは僅のチヤンスを完全にものにして得點を重ねた。後半遂に全軍總攻擊をなして敵ゴールを包圍したるも無爲に終り雪辱成らず再び敗れてしまつた。

ハンガリー　3（1——0、2——0、0——0）0　日　本

約一ケ月に亘る獨逸滯在も最後の日が來た。二月二十二日午前十一時半ハンブルグを出發、農園の堀割と風車の國オランダに入り、アムステルダムに着いたのは夜の八時であつた。嘗てはオリムピフクが行はれた事のある歷史的都市である。市中を隈なく見學して試合の用意にとりかゝつた。二月二十三日は日曜の事とて午後三時よりアムステルダム軍との試合が開始された。此のリンクは夏は水泳プールであり、冬はパイピングを施して結氷せしめる屋外リンクであつた。

試合は始めより接戰を展開し、庄司の好パスを龜井たゝき込んで一點を先取すれば、敵もセンターの奮鬪に依つて一點を返し一對一で前半を終る。中半からは日本軍攻勢をとつて出で二——一、二——二、三——三、四——三と白熱戰を繰り返して勝つた。

二點目は平野の好フオローで得點され、三點目は庄司のバツク・シユートで決り、四點目は庄司のシユートがリバウンドしたのを龜井突込んでものにした。

日　本　4——3　アムステルダム

二月二十四日、朝九時アムステルダム出發、ベルギーの首府ブラツセルに午後一時半到着、ホテルに休んだ上直に大使館に行つた。伯林の野口君がわざ〳〵來られて何くれとお世話下さつた事を感謝する。試合は其の夜八時から渡歐以來二度目の屋内リンクに於て擧行された。

この試合には國際アイス、ホツケー・リーグの會長の懇望を入れて出場する事にした。相手はノース・スター・チームといふのでチーム中にはキーパー始め六名のカナディアンが入つて居てカナダ・チームとの試合の感があつた。

之が最後の試合なので、全精力を戰ふも相手は此の競技に最大の攻擊力を持つカナディアンだ、白熱戰を演じたが遂に四對一で敗れた。此の遠征最後の得點は龜井のパスを

見事に古屋とつてシュートしたものであつた。

ノース・スター　4——1　日　本

二月二十五日朝ブラツセルを出發、パリーに一日足を休めて、二十七日夜マルセーユ到着、二十八日午後四時出帆の白山丸に乘船、スエズ——コロンボ、シンガポール——香港——上海を經て、四月二日神戸へ上陸、三日朝東京へ歸着。

四日、芝浦スケート場に於て擧行された歡迎競技會には立教大學と一戰を交へ、テクニツクの範を示すべく努力した。五日の解團式には一同揃つて出席散會後簡單に會合してこゝにホツケー・チームを解散したのであつた。

× × ×

× × ×

カットの説明

（扉及卷頭言寫眞）

扉のカット、スピード・スケーティングと卷頭言カット、アイス・ホツケーは、二つとも第十回のロサンゼルス・オリムピツク大會の藝術競技に出品されたものである。

扉のスピード・スケーティングは、題名"スケーター"、作者はスエーデンのカルル・フアゲルブルグ（CARL FAGFRBURG）、卷頭言のアイス・ホツケーは、題名同じく"アイス・ホツケー"作者はルクセンブルグのJ・L・Nヤコビイ（J. L. N. JACOBY）氏である。

何れも、その國の主要競技を表現せしめたところが興味的に見られる。

ガルミツシユ大會の運行を顧る

本聯盟オリムピツク大會視察員　西田信一

ガルミシユ、パルテンキルヘン

獨逸の首都伯林から特急で南へ走ること十時間アルプスの山麓ガルミツシユ、パルテンキルヘンに着く。海拔七百八米北を除く三方にはアルプスの連峰を廻らし其の間にアルプスペツツエ、ツークスペツツエ、ハーレンタルスペツツエ等の二千數百米の崇麗な峻峰が聳立し、街には華麗な商舗や瀟洒なホテル別莊等美麗な建物が立並んで、全市は綠と五彩の調和も美しく松と旗で紛飾され、街頭に溢れる二十餘ケ國選手の國際風景と共に渾然たるオリムピツク一色に彩られ、肉彈相搏つ聖戰地ガルミツシユの街は非常に快い柔か味を添へてゐた。

オリムピツク競技場設備に就て

獨逸の冬季競技は伯林の夏の競技とは全然別個な獨立した組織委員會の統制下に前三回の大會の諸經驗を集め、周到な用意の下に凡ての施設がなされただけに前三回の大會に比し遙かに優秀な設備が施され、競技そのものも未曾有の盛況と好結果を收めて終了した。そのオリムピツク諸施設の內スケート關係の設備の概要を述べて見やう。

アイススタデオンは驛のすぐ近くガルミツシユ村に建設された屋外人工スケート場で、アイスホツケーとフイギユア競技が此處で行はれた。氷面積は横三十米、縱六十米で

その四周は木造のグランドスタンドで取卷かれ、正面のメーンスタンドのみは有蓋他の三方は屋根なしで、收容力を增加する爲めメーンスタンドと新聞記者席を除く外全部立見席になつてゐて定員は八千人、最大收容力は一萬人であつた。

建物は建築家ハンス、オストレル氏の作になる建築美術の點からも立派なもので、メーンスタンドの下は役員室、選手室、來賓室、喫茶室、浴室、其他の諸室が設けられ、リンクの照明には垂下式深笠投光器を利用、八萬燭光の電力を使用し、建物外觀の夜景は特に美しかつた。

照明法で特に感心したことは、試合休止中はリンクは消燈されてゐて選手が入場して練習を開始するや順次點燈されて、やがて輕快な選手の姿がくつきりと浮繪の樣に觀客の眼に映じて來るなど、電力の經濟は兎に角として競技的効果の手法を巧に用ひてゐたことであつた。

また競技休止中のリンクの清掃に派手な揃ひの服裝の人夫が次々と現はれ場内のワルツの奏樂に合はせて一定の間隔で愉快な足取りでレビューを見る樣な和やかさを與へた

觀衆に退屈を感ぜしめないなど些細な點まで行届いた注意が拂はれてゐた。

インドアリンクを造らなかつたのは多分工費と收容力の關係だらうと思はれるが、第一日目のアイスホッケー競技は猛烈な降雪の爲め、かなり競技の興味が殺がれたし第五日目のフイギュアコンテストの時には暖氣の爲氷面の一部が融けて水が上つて競技に多少の支障を來した。

スピード競技とホッケーの一部、カーリング等はアイススタデオンから約三粁離れた山間の小湖リーゼルゼーの天然氷を利用して行はれた。ボッブコースの山の南面に背負つて植林の陰の陽當りの少ない場所を選んで、四百米のダブルコースと三百五十米の練習用コースを取り、その中にホッケーリンクが試合用と練習用各一ケ所宛設け、北側湖畔に三千人收容の木造スタンドがあり、その下は選手室に充當された。湖の周圍の道路は觀覽席に兼用され、湖の東隅にカーリング競技場が造られた。スピードトラックは湖の幅に制限されてコース巾は四米より取れず、氷面の手入れ方法も器具も思ひの外幼稚なもので、自然氷の最大の缺點である氷面の小凸凹や小龜裂、それに湖心氷面の盛上りなどがあり、それに天候の不良や經驗の不足も加つて氷質

は努力の割に完全とは云へず、オスローやダボスの競技會に比し記錄も低調の域を脱し得なかつた。

競技方法其他に就て

大會一週間前からの暖氣と引續く降雨で、折角の雪も氷も解けて練習さへも滿足に出來ず、延期說や會場變更說なども傳つて氣を腐らせてゐたが、大會前日から第一日目へかけての大量降雪と氣溫の低下で、大會は豫定の十一日間何等の故障もなく順調な進行を見て無事終了したが、大會終了の翌日には再び來つた暖氣と降雨で氷も雪も融けて仕舞ふといふ實に極どい而も非常に幸運な大會であつた。

競技方法にはフイギュア審判法が最も目新しい位のもので特に變つたところもなかつたが、大會が豫定通り何等の無理もなく不都合も起らずに進行無事終了したことは組織委員會の立派なマネージメントによるもので敬意を表するに吝でない。

獨逸の青年を連絡係として一名宛各國選手團に附けたことも大會の進行連絡上非常に役立つたものといふべく、この試みは非常な好評を博した。一體に競技役員や審判員には相當の年齡の人達が多く、その競技や審判振りには寧ろ餘りにルーズさへ感ずる位であつた。が斯界の元老格の審判に絕對の信頼と服從の下に競技を闘はせて行く選手達の態度も立派だと思ふ。

アイスホッケーのレフェリーも十數人の審判振りを見たが、二三の人を除く外、特に審判技術上學ぶべき點は見出せなかつたばかりでなく、却つて競技規則の適用に嚴格さを缺いてゐる樣な節が度々見受けられた。この審判傾向を以て直ちに正しき審判技術なりと鵜呑みに斷定することは早計ではあるまいか。なぜならば今大會のレフェリーが各國會議の席上兩テームによつて選定された結果、自薦賣込の審判が頗る多く、從つてそれが嚴正なるべき審判上少からぬ惡影響を及してゐることは爭へぬ事實であつたからである。この點は如何なる競技會に於ても大いに考慮さるべき問題だと思ふ。

アイスホッケーのスコアブックの詳細な記錄は競技が極めてスピーデーであるだけに隨分難かしい。併しこれは是非必要なことで自分は數年來種々研究してゐたので未完成ながらこの遠征に當つてそれを試みて見たところが各地で

珍らしがられた。流石の歐洲でもまだアイスホッケーのスコアブックは用ひてゐない。これは野球の樣に一定の樣式を定めて正確な記錄を殘す樣にせなければならぬと思ふ。

スピード競技は氣溫の低い午前中になるべく終了する樣に擧行された。役員は皆相當年配の人達で出發合圖員などは五十歲近い老年の人で、そのスタートも隨分のんびりしたもので、最初は赤旗を振つて「ゴー」の合圖で行はれたが、二日目からは選手の希望が容れられてピストルショットに改られた（國際ルールにはどちらでも差支ないことに規定されてゐる）コーナーにも監察員など全然附かず、チェンジコースのクロシングも四五米も手前からコースチェンヂしてゐる選手が澤山見受けられたが全然問題にならなかつた。その是非の批判は兎も角として、これ等は選手の人格を非常に尊重してゐる現れの一つとも見るべきで、規則の枝葉末節に拘泥し過ぎる日本の役員の一考を要する點であらう。要するにルールの解釋適用は宛も法律の運用に當つて立法の趣旨を云々する如く規則制定の根本精神を誤らない事が第一の要件であると思ふ。スピードレースでは各周回毎に直ちに擴聲器で各選手の公式ラップを發表してゐた觀衆も自らウオッチで計時をしたり、ラップの發表をノートしたり、可成り競技知識が豐富である樣に見受けられた。歐洲各地共新聞の競技記事には記錄と共に大體十位迄は必ずラップタイムが發表されてゐたが、これは是非日本でもそうしたいものだと思ふ。

戰績の回顧とその將來性

日本代表選手のオリムピック出場はスケートとしては僅かに二回目に過ぎない、にも拘はらず堂々三十五名の多數を送り、その躍進も亦確かに內外人の目を瞳らせるに足るものがあつた。そしてこの遠征によつて、日本の實力をはつきり認識され、その缺點も特長も明瞭となり、その將來性に或る見透しと確信を得たことは、先づ重大な意義を持つものである。吾々は今後如何なる進路に進むべきであるか。遠征の戰跡を回顧しつゝ（戰況の詳細な記述は省略する）その將來性に就て一言したい。

アイスホッケー

アイスホッケーはこれが全く初陣で、從つてその期待も亦甚だ薄いものがあつた。果してその遠征中の戰績は十五戰二勝二引分十一敗といふ慘目さで、その勝率は僅かに一割三分三厘に過ぎなかつた。之を大會前、大會、大會後に區分すれば大會前の各國遠征では八戰二引分六敗、大會中二戰二敗、大會後の轉戰では五戰二勝三敗といふ稍々尻上りの結果となつてゐる。オリムピックでは籤運に惠まれず豫選で退敗したが、世界の强豪瑞典とは二對零、優勝國英國と三對零の接戰を演じ、戰前問題視されなかつた日本軍意外の善戰は頗る賞讃の的となつた。これは結果から見て出發前大部分の人が抱いてゐた豫想以上の好成績とも見られる。日本出發前一般の豫想は遠征中一勝を得ば上々なりと全然見學の域を出ないものとしてゐた。が併しこの豫想は第一回の遠征に對し無理ないとしても日本軍は果してその實力を發揮してゐたか。換言すれば日本はこれ以上の戰果を收めることは事實不可能であつたらうか。これに對しはつきり「然り」を答へ得ないと思ふ。勿論長途旅行の疲勞があり、殊に國際試合不馴れの日本軍、オリムピックでの實力發揮の困難な事は認めねばならぬが、少くとも十五戰中四五回は充分勝ち得られる試合を拙戰にロストしてゐたし、オリムピックの二試合を通じて敵に一點を酬ひることは決して不可能事ではなかつた筈だ。然らばその原因何處にありや。靜かに內省檢討することは將來の爲徒事ではない。自分は日本軍の四つの重大欠陷が、その有する實力を二、三割減殺してゐるのを發見した。

第一は精神力の欠如である、その結果は鬪志に缺け攻擊力の著しい低下を來し戰法は消極的となつて得點能力は甚だ微弱となつてゐた。戰は勝利を目的とする以上常に强い戰鬪意識と攻擊氣魄がなくては絕對勝味はない。攻擊は最大の防禦法であることを忘れてはならぬ。

第二にはチームの編成、選手運用の根本的失敗を擧げねばならぬ。その結果はF・Wに中心を失ひ跛行的攻擊線となつて得點能力を喪失したのみならず、防禦力の薄弱をも招來した。强力な攻擊は老練にして完全な守備あつて初めて發揮される。F・Wに重點を置き過ぎD・Fを輕視する從來の傾向は是非改めねばならぬ。

第三には技巧戰法の失敗を擧げる。日本の大部分のF・Wの採つた技巧戰法は徒にスピードと鬪志を失ひ、勇猛果敢な外國チームに對し何等威力を示さぬばかりか却つて自

滅の因をなしてゐた。對英、對瑞典戰に許した五點の內三點は技巧戰法偏重の結果で、カナダチームの表面的模倣から禍された一つとも見られる。

第四には練習方法の失敗である。ピツクアツプテームとしての長期合宿に於ても重要な基礎的練習の度外視出來ないことは勿論である。兎に角吾々はこの遠征によつて技術的にも精神的にも幾多の尊い體驗をした。模倣時代から一歩を進めた獨創時代に進め、日本人の特性を織り込んだ日本戰術の確立こそ急務である。若し第五回大會が行はれたとしたならば、優勝は至難としても六位入賞のチャンスは充分であつたであらう。更に加、英、米の牙城に迫り世界制覇への第一歩を踏み出すことも決して至難事ではない。

スピード

スピードはホープ石原選手の健闘により日本冬季軍最初の貴重な三點を擧げ、スポーツ日本の爲萬丈の氣を吐いた外、中村君の五百米十一位、金君の五千米十三位を初め、何れも大體中位以上の好成績を收めた。殊に石原君は歐洲選手權の五百米でも日本新記錄で第四位を占め世界の短距離レーサーとなつて仕舞つたが、中距離は國際的にはまだ相當な間隔は免れない。技術的には日本選手のコーナーワークとスタートダッシュは斷然彼等に優れ、缺點としてはストレートでの脚の延びの足りないことや、蹴りの弱さ、耐久力の不足等が指摘される。併し、レークプラシツドの大會でコーナーに弱かつた日本が四年後のこの大會では却つてコーナーで彼等を抑へたことは、生活樣式の相違による下肢の屈曲の自由、重心低下の容易等もその原因の一つには違ないが、何といつても過去四ケ年間の苦心努力の結果で、この點は大いに敬意を表さねばならぬ。中長距離も短距離に比し不振ではあつたが五千米を除く他の種目は全部日本記錄を更新してゐる。

過去四ケ年の努力と熱を更に將來に向け集中し、理論に立脚した日本スピード滑法確立の今日こそ北歐諸國と堂々世界の覇を爭ふに至るであらう。技術の研究と共に考慮せらるべきは設備の問題である。完全なるリンクの建設、氷質氣象の研究（氷滑度、氷硬度、風速、風向、氣溫等）も必要のことである。

フイギユア・スケーチング

フイギュアーは大會前伯林の歐洲選手權で片山君奮闘して堂々七位を占め、稻田悅子さんは可憐な姿で全觀衆を魅了し盡して九位となり、先づ順調なスタートを切つたが、オリムピツクでは群雄の出場で片山君十五位、老松君二十位、渡邊君二十一位、長谷川君二十二位となつて入賞の望みは絶へたが悅子さん孤軍奮闘スクールで十五位の成績をフリーで一氣に挽回してよく十位に喰込み、滿場の喝采を浴びた。フイギュアは國內の期待が大きかつただけにその結果は稍々失望を感じたが、期待は寧ろ餘りに重きに過ぎはしなかつたか。

前回大會に老松君の得た九位を基礎として六位入賞を期待することは無理である。何となれば前回の十二名出場に比して本大會は優秀選手二十五名の出場であり、これを同一視は出來ない。見樣によつては國外選手に比し寧ろ急速な進歩を遂げてゐるとも云へる。技術的には日本選手はフリーに優れスクールに劣つて見えたが、一體に外人選手に比し線が細くステップが弱く感ぜられた。フイギュアーには門外漢でかれこれ云ふのは甚だ失禮だが、片山、渡邊兩君の樣などちらかと云へばウェイトを利用した大膽豪放な線の太いスケーチングが効果的ではあるまいか。その爲には時に自然を相手のアウトドアでも練習も必要な樣に思はれる。今後はこの體驗や研究を基礎に躍進を遂げるには違ないが、難解で進歩も遲々だけに相當の忍耐と努力を要すると思ふ。出來得れば速進法として一二名の選手の長期歐洲遠征か。或は良きコーチの長期招聘の途を講じたいものである。

日本スケート界の進路
目標に就て

以上通觀すれば日本のスケートは既に世界の水準線近くまで躍進を遂げたものと見て差支ないが、各競技を通じて日本軍に缺けてゐた大きなものは力である。精神的にも技術的にももつと力の養成をせなければならぬ。競技は戰である。戰の勝敗の分岐は極く僅かな力の差によつて決まるのだ。

力は時に技術を超越するものである。

強靱な戰鬪力の養成、線の太いスケールの大きい選手團の構成を忘れてはならぬと思ふ。

札幌大會は返上され、次回大會また歐洲戰亂の爲め消滅となつたが、日本のスケート界は日本スケート界最高唯一の指導統轄機關である大日本スケート競技聯盟を中心としてスケートに依る精神力、體力、技術の增强達成に向つて勇往邁進せねばならぬ。重ねて云ふが日本はもう既に世界の水準に到達したのだ。徒らな模倣傾向から一歩を進めて獨創的進歩的日本スケートの確立を期さうではないか。然らば日本は世界のスケート國として嚴然君臨するに至るであらう。

體育行進曲

くろがねの力

大日本體育協會撰定
淺井新一作詞
江口源吾作曲

清新の血は朝日ともえて、
見よ、高らかに伸びゆく日本。
ああ、我等、皇國の楯ぞ、
强き意志もてともに鍛へん。
力、力、くろがねの力。
さみどりの地、櫻は映えて、
見よ、黑潮の輝く日本。
ああ、我等、溢るる健康、
うちてをどりて磨き競はん。
力、力、くろがねの力。
たくまして腕、高張る胸に、
見よ、備あり、神國日本。
ああ、我等、無敵の誇、
若き眉あげ共に讃へん。
力、力、くろがねの力。

ガルミッシュ印象記

同盟通信社特派員　藤原文雄

ベルリンより南直下八百キロ、白雪峨々たるヴアバリア、アルプスに圍まれた盆地。その平坦部の半ばを占めるガルミッシュ、パルテンキルヘンの町は萬國旗と五輪旗に彩られ、オリンピアードのみが持つ興奮と華麗な雰圍氣に滿ちてゐる。

アルプスの彼方から押寄せる外客を吐き出す驛には Mittlopa の派手な赤いボギー車が何本も入り、白雪と美しい對照をし、驛前の廣場には車體を綠色に塗つた窓の四角い舊式のタキシーが列び、バイエルン特有の羽帽、短い革製パンツ、頑丈な靴の運轉手が客を引いてゐる。五輪模樣を配したアーチをくぐつて眞直ぐにアドルフ・ヒットラー・プラツツに拔けるバンホツフ・シュトラーセが町の本通りで、それを更に右へミツテン・ワルト通りを拔ければ盆地の一端グーディ・ベルクのオリンピア・シー・スタヂオンに達する。

この本通りはスキーをかついだ婦人や青年が選手氣取りで濶步し、ハンチングを粹にかぶつたデツプリ男がパイプをくえ、毛布を小脇に抱えて行く、往來は賑かだ。その中を縫つて特別仕立ての眞紅の大型バスがスリツプ止めのチェーンの冴えた音を響かせながら走る。道の兩側は白壁の窓わくを赤や綠に塗つた小壁に薄い繪を畫いたり、屋根ぶちを彩どつた小綺麗な軒並がつゞき、町の要所々々にはラウドスピーカーが外燈の樣に路傍に立つて、アイス・スタヂオンからのウキンナワルツを町一杯に響かせ、往來するスキー客の心を浮々とさせる。

東京から文字通りのスピード旅行で驅付けた私も、この寮圍氣にひたつて疲勞がどうやら消え去つた。ホテルの女中に風呂の用意をさせ、旅のあかを流した後、入浴後のぬくみを背や腕に感じたまゝ、バルコニーへ出て冷たい外氣に觸れて見た。

バウアリアの女王、ツーグス・ピツツの峻峯を近々と仰ぎ見る壯快さ。白雪に蔽はれたワクセンシュタインがホテルの庭に繁る夷松の林におほひかぶさるやうに聳え立つ。この全山が南歐特有の快晴、紺碧の空を背景として、旭日に輝映えて中々の美觀である。

ニツカーをはいて街に飛出す。雪をきゆつ〳〵と踏みつけ乍ら歩いて行くと、地元の連中が一々私の顏を見る。新聞記者とは知るまいが、彼等の此の異人種に向けるまなざしは、大體に於て好意的だが、寧ろ物珍らしさうな目つきだ。ミュンヘン以南では平常はめつたに日本人を見掛けないのだから無理もない。

街の中央にあるオリムピア・ツエントラーレ（大會本部）にはプレツセ・ポストがあり、此處には通信記者用の發信局、競技記錄發表所などが設備されてゐて、記事材料の提供が相當迅速でサーヴイスは中々よい。

英、獨、佛、伊、スペイン各國語のタイプライターが机の縱列の上に、何十臺もずらりと備えられて、三百五十名に及ぶ各國の特派員がニュースの速報に獅子奮迅の活躍をしてゐるが、こう澤山居てはリズムカルなタイピングの音も、ごつちやになつて燥音と化し、それに記者の出入りが繁しくて、うるさいこと夥しい。こんな有樣は軍縮會議や重大な政治的國際會議にも餘り見られない光景で、オリンピックの特異性が却つてこんな所に餘計に現れてゐる。而もこれに附隨して、短波無電の威力を誇る獨逸國營のトランス・ラヂオ海底電線を武器とする英國のグレート・ノーザーン兩電信會社の顧客爭奪戰があり、地の利を占めるトランス・ラヂオが英國を抑えれば、イースターン社がそのおこぼれを頂戴してゐる。これ等各社の交渉員が禮を盡し辭を低ふして特製の英文及獨文賴信紙を記者の机に置いて行く。ぱら〳〵と繰つて見ると、各ページの摘要欄には既に記者の名前と社名がちやんと印刷されてあり、語數と發信月日、記者番號の外は自分で搜入する必要がないやうにしてある程のサーヴイス振りだ。

ところが、發信局の事務員はみなドイツ人だから、トランス・ラヂオを使つて東京へ打電する度に『有難う御座います』と來る。

世界の注視を集めた晴れの開會式は愈々擧行された。一千餘名の若人は祖國の名譽を双肩に擔ひ、雪飢饉の嘆聲を吹き飛ばすやうに折から降り出した吹雪を衝いて、オリンピア・ジー・スタヂオンに勇壯無比の行進を開始した。

大會名譽總裁アドルフ・ヒツトラーの開會宣言は白雪の式場に響き渡り、グーデイ・ベルクにこだまする。シャンツエの傍に聳え立つ鐵の塔には、この素晴らしい光景を全世界に誇示するもの〻如く、オリムピアの不滅の炬火が降しきる白雪の中に紅々と燃え揚り、十一日間に亘る氷雪の聖戰が始まつた。ニュースの報道戰もこれに呼應して愈々本格的となつた。

木造ではあるが美事な設計に成つたアイス・スタヂオンでは、一萬人を收容して、アイスホツケーの激戰に湧き立つた。巨軀と馬力に物を言はせた肉彈戰、スピーデイな攻擊の應酬、アイス・ホツケーのみが持つスリルに觀衆は血を湧き立たせ、肉を躍らせる。

夜間の試合はまた別の趣きがあり、星空を仰げば、ツーグス・ピツツが漆黑の中にほの白く浮き上り、試合のインターバルに入ると、スピーカーを流れ出るワルツ曲がライトに映える氷盤上に旋回しあたりに强く反響を殘して、星空に消えて行く。お國自慢のウキンナ・ワルツでもかゝらうものなら、待つてましたとばかりに、口笛を吹きならし、友達同志が肩をつき合せて、ワルツのテムポに乘つて、左右へ大きくゆさぶる。

夜陰にひし〳〵と迫る寒氣を防ぐにもつて來いだ。皆曲をよく知つてゐるから期せずして〝一萬人の口笛合奏〟になり、觀衆の心と心が融合する情趣と歡喜に滿ち充ちる。

インターバルには除雪人夫が片隅から多數現れる。その揃ひの服裝がまた愛嬌があつて大した人氣なのだ。バイエルンの羽帽子に、ビロードの襟のついた短い上衣、ズボンすべて灰色で、これに頑丈な靴をはき、一人が一個づゝ鐵盤製の雪かきを持つて、一人づゝ雁行し、伴奏つきで整然とリンクを縱に雪かきを押して行く。この伴奏曲は『セント・ペテルスブルグの馬橇』といふ鈴の音や馬の嘶きの擬音を入れた諧謔味たつぷりの行進曲で、滑る氷に足を取ら

れまいとする人夫の走り方が、揃つてこのテムポに合ふので、除雪のたびに哄笑と大喝采を博する。これがスタヂオンの外まで聞えると『はゝあ！またやつてるな』といふわけで、このスタヂオンに缺かせぬ名物になつてしまつた。

この曲のメロデイを思ひ出す度に、ガルミツシユが懐かしまれるのも妙である。

スピード・レースの行はれるリーサー・セーは街から西へ二キロ、ツーグス・ピツツを仰ぎ見る山腹、兩側は杉木立の切り立つた急坂に挾まれた細長い池である。山麓から三百米ばかり昇ると池の突端に出る。其處にはホテルとレストランがあり、こゝからリーサー・セーの岩に立つて朝日に輝く靈峯を見る。

瑠璃色の氷盤。そのトラツクでは各國の精鋭がトレーニングに餘念がない。スカンヂナビアの雄、メルウエーの強豪バラングルート、マテイーゼン、エングネスタンゲン、スタクスルート、新人クローグ等が何れ劣らぬ巨軀をライト・ブルーのユニフォームに包んで滑走してゐる。隆々たる。筋肉のふくらみ、巨軀から繰出される見るからに強靱なストローク、一蹴りごとにぐーんと伸び切るコーナーの滑り方は物凄い。スピード王國の粒選りが見せる此の猛練習は正にあたりを壓する偉觀だ。

霜を置いたスタンドが忽ち滿員。いよ／＼五〇〇米レースが開始される。靜かだが零下十度に近い朝の寒氣を破つて、スタートのピストルが鳴つた。渾身の力を振ひ起して必死の力走に競り合ふ選手、コーナーで切込むブレードが旭光を受けてキラリと光る。

劈頭第一組のレースにクローグが四十三秒五を出した。續いて第二組、日本最初の出走者中村がペターセン（米）と組んで出た。中村のダツシユ効いてリードしたが、コース半ばで併行の接戰を演じ、ラスト・スパート戰に胸一重の差で中村遲れた。併し兩者共に四十五秒フラツト。次いでバラングルートが勇姿を現はし、その強靱なストロークと物凄いコーナーのスピードから四十三秒四の記錄が出た。

これに續いて第七組、我がホープ石原は強敵ヨハンソンと組んだ。タイプを打つ記者の手は痛い程凍えてゐる。石原が敵と肩を列べてスタート・ラインに着いた時、記者は思はず『四十四秒を切つてくれ！』と念じた。

いよ／＼スタートだ。石原獨得のキツクから生れるダツシユは美事ヨハンソンを抜いて、バツク・ストレツチに應援陣を布く同僚必死の聲援がこだまする中に、石原一代の力走が續けられ、敵の追走を退けて約八米、二秒五離してゴールに滑り込んだ。タイムは如何にと待つ僅かの時間が長い。

結果は四十四秒一とアナウンスされた。遂に切れなかつた。コーナーのうねりが祟つたのだ。こうなつたら、あとはバラングルートと石原の間に、割込んで來る選手が少いことを祈るのみである。

然し、未だ、ヴアゼニウス（芬）、ポツツ（米）、ハラルドセン、エングネスタンゲン（諾）と錚々たる強豪が殘つてゐるから油斷は出來ない。

だが、ヴアン・デア・シエーア（和）と組んだヴアゼニウスは四十四秒九、南洞と組んだポツツは四十四秒八と何れも石原に及ばなかつたあとは諸威の二雄のみだ。而も、見よ、物凄いダツシユでスタートを飛び出したハラルドセンは墺太利のワズレツクを見る／＼抜いて、第一コーナーを強引に切込んで廻り切らうとした瞬間、コーナーの頂點ではつと思ふ間に倒れた。アウトコースの彼は倒れたまゝ餘勢を喰らつて粉雪を蹴上げながらコース外に叩き出されて了つた。

石原の強敵が一人減つた……併し未だ四十四秒臺を割る事確實なのが、二人殘つてゐる。エングネスタンゲンとラムだ。あとに群がる選手はもはや問題でない。

獨逸のザカスと組んだエングネスタンゲンがスタートを切つた。その素晴らしいダツシユ、美事なコーナー・テクニツクこれは四十三秒臺確實だと觀念した瞬間、第三コーナーを切つた彼は、とたんに音もなくひつくり返つて、これ又コース外に拋り出されてしまつた。

何んと云ふ幸運だらう!! 氷面の龜裂とうねりは遂に諸威の二強豪を犧牲にしてしまつたのだ。それぱかりではない短距離の米國もフライシンガーが四十四秒フラツトで辛ふじて石原に先んじたのみで、他の諸選手は何れもこの惡コンデイシヨンの下に於て、石原の走法に一籌を輸したのである。あゝ苦節幾星霜!! 石原の入賞が遂に實現した。東京へ最初の至急報を打たう!! 凍え切つた手に電文を持つてリンクの傍にある電報發信所へ驅込む。東京まで十五

分だ。

豫期以上の成績、而も日本唯一の入賞を記錄した五百米レースはお晝までに終つた。然し、終つても池畔の一隅にあるスロープはスキーヤーで賑はつてゐる。ホテルやレストランの前庭では派手なスキー服をつけ、色眼鏡をかけた多數の都人士が椅子に深く腰を落し、强い日光を浴びて顏を小麥色に焦がしてゐる。レストランの中からはワルツのメロディが快く流れて澄切つた山の氣を震はす。

ふと碧空を仰げば、三千米の高空を一臺のグライダーが飛行機に曳航されて黃トンボのやうに飛んでゐる。午前中にあの激戰があつたことなど忘れられたやうな雰圍氣だ。

大會の華、女子フリー・スケーティングの練習が始まつた。出場選手二十八名がリンクの中央に手を繋いで列び新聞寫眞班の一齊射擊を受けてゐる。何れ劣らぬブロンドの美人揃ひである。伸々と發達した四肢、隆起した胸をぴつたりとはち切れそうに色とり〴〵のドレスに包んだ艶麗な肢態、白いスケート靴、銀色に光るスケート、美しい脚、々、々、さん〳〵と降り注ぐ陽光の中に繰展げられた絢爛豪華の大繪卷である。この素晴らしい肉體美の競演の中に悅ちやん獨り小さいのが對照的に目立つ。場內立錐の餘地もない。大觀衆は唯譯もなく大騷ぎしてゐる。

中央スタンドに五輪模樣を配した貴賓席に、ベルリンから飛行機で驅付けたヒトラー總統、ゲーリング空相、ゲッベルス宣傳相など、新興ドイツの首腦部が顏を揃えると、スタンドからはハイル・ヒットラーの歡聲が嵐の樣に湧き總統はこれに擧手の禮を返す。觀衆の一人が總統にサインを求めたのをきつかけに、我も〳〵とサイン・ブックに萬年筆を添えてこれをかざし、貴賓席の前は身動きならぬ黑山となる。總統は微笑を浮べながら一々サインをして平民的なところを見せてやる。

スタンドの四圍に林立する萬國旗は靜かに垂れ下り、空氣も爽々しい。仰げば空は高く靑々として一點の雲も無い。ドイツ氷聯のフィーレツクが、オリンピック誌の中でフイギュア、スケーティングの美と藝術を說いた後『四圍の山々は白雪の衣を着、紹碧の空が靑いドームとなり、新鮮な山の氣が胸に滿ち充ちるとき、スケーターと觀衆は忘れ得ぬ思ひ出を頒ち合ふ』と結んでゐるのは、此處の事だと解つた。

今まで高空を飛んでゐたドイツ・グライダー界の至寶ヒルト博士のスマートな一機が音もなくスタヂアム目がけて垂直に落ちて來た。餘りの大膽さにスタンドが總立ちになるのを尻目に、機は五十米の低空をぶーんと物凄い風音を立てゝ飛去る。

いよ〳〵競技が開始された。審判員は歐洲斯界の元老を以て編成され、何れも白髮の爺さんである。

拍手の嵐の中にコレツヂ孃が銀色のドレスで現はれた。プスタ・フオツクスのチゴイナーリツシなメロディーが流れ始めると、彼女は右隅から左へ大きく助走を始めた。お尻を少し出し氣味に駄鳥のやうな恰好で一寸愛嬌がある。だがその後はジャンプもスピンも驚くばかりの强引さと正確さだ。選手中ではチエツコのフルバ孃と共に最も重量級な長身と豐滿な肉體を、瞬時宙に躍らす素晴らしいアクセル、それにフラット・スピンは實に滑らかで美しい。プスタ・フオツクスとぴつたりと融合して情緒纏綿。ゲルシュヴュラアの薫陶と彼女の精進の跡が光彩を放つて觀衆はその伸び切つた脚や、美しいスキングに喰入るやうな目を注いでゐる。彼女が得意のバツクのトー・ストップをするとその伸々とした大型のポーズが晝さがりの陽光を受けて、氷面に倒影を作る。萬雷の拍手と歡聲が湧き起つた。サルコー審判長の審笛で、七名の審判員は一齊に基準點の得點版を双方の手にかざす。黑字が正數赤字がコンマ以下を示す。この冬から初めて採用された速示法である。何れもコンテンツ、パフオーマンス共に五・六から五・八あたりを示したので、スタンドはブラボーの歡聲で再び騷然とした。

續いてオーストリーの新人ステヌフ孃がピンクのドレスで現れ、アクセル・ジャンプを五回も、息もつかせず連續的に片附けて、天才シエフアーの偉大さをちよつぴりと芳はせれば、ハンガリーのプツチンガーやスピードから轉向した和蘭のランドベツク孃が競演し、瑞典のヴイビアンナフルテン孃が素晴らしいジャンプ、ステップなどに老練なところを見せ、歐洲選手が、その本領を發揮して競り合へば、アメリカのマリーベル・ヴインソン孃が唯一人、これに對抗したが殘りの新人は全く成つてない。アメリカのアマチュアア・フイギュアはこんなに淋しいものか。

チエツコのフルバ孃もいでたちの仰々しさに似ず重量すぎて演技平凡、日本選手の中のよい英國の十一歳の少女ジ

エプスン・ターナー孃は可愛想に三回もリンクの中央で行儀の悪い尻餅をついて減點された。

競技は愈々後半に進んで、日本のホープ悅ちやんが東洋唯一の出場者として眞紅のドレスに小軀を包んで現れた。この頃から太陽は漸く西に傾き、氷面は全部がかげり、稍々寒氣が出て來たせるもあつたが、悅ちやんの顏は遠目にも寒々としてその表情は異常に硬直してゐるやうだつた。僅か十三歳で、此の世界最高の檜舞臺に立つたのだ。リンクに降り立つた瞬間、彼女の心境はどうだらうか。恐らく『夢中』の一語に盡きてゐるに違ひ無い。觀衆が拍手を送つてゐる。これまでの出場者の成育し切つた體軀に比べて彼女は全く人形のやうだ。

ミリタリー・マーチが響き始めた。これまでワルツやトロットの甘い曲に馴れた觀衆の耳にはどう響いたゞらう。

だが、彼女の細い腕、小さい脚、小型のスケートが演ずるスケーティングは堂々歐洲選手に桔抗する內容を持つてゐた。觀衆の大部分は彼女の存在を競技前から既に知つてゐたであらうが、彼女のアクセル・ジャンプや正確なジャンプスピンなどを凝視してゐる。テンポが餘り合つてゐないのはいけないが、遙々東洋から出て來たのに歐洲型から餘り外れてゐないのに歡嘆してゐるものゝやうだつた。時折歎聲と拍手が湧き起る。

ジャンプに一回手をついた外は、大した失敗もなく、先づ上々の成績だつた。審判員の揭げる得點表は甘過ぎると言はれた日本での得點と、殆んど變らぬところを示してゐる。これを見て觀衆は一齊に拍手を送つた。日本にフイギュアー競技が輸入されて三十年、今この一少女の奮鬪によつて、オリンピック史に光榮ある記錄を殘すことが出來たのだ。

二時間に及ぶコンテストも、いよ〳〵最後の一名によつて終らうとしてゐる "Frl. Sonja Heni. Norwegen" のアナウンスが響き渡ると、場內のざはめきは一しきり續き、彼女が大膽なデザインをこらしたドレスの裾を飜えして一隅に現れると、觀衆は自制力を失つて、わーッと一わめきわめいたが、次の瞬間にはぴたりと靜寂になつた。二萬以上の眼玉が鋭く彼女に集中されてゐる。

場馴れ切つた彼女は、微笑と柔軟な手先の動作を忘れず氷上に降り立つと、デイーアブレザの華麗にして輕快なメロデーが流れ始めた。拍手の嵐の中に、アマチュア界に於ける彼女の最後の演技が始まつた。

安定し切つた快調のスピンは、何と云つても世界最高のものだ。そして鋭いジャンプ、その纖細巧緻を極めた美しいステップ、音樂との完全な結合は、觀衆の胸もたゞわく〳〵させるばかりだ。一點の隙も見せない洗錬されたスケーティングは氷上に表現し得る美の極致とさへ思はせる。

彼女は正に『氷上に完成された藝術家』だ。場內に漂ふ快美感は飽和點に達し、彼女の優勝は確實だ、といふ安定感が邊りを壓するやうだ。これ程あらゆる技術を收め盡し觀衆の心眼を完全に捉え、十年といふ長期間に亘つて斯界を席捲して了つては、彼女はもうアマチュア界の競技に何等の刺戟も興味も無くなつたのではないかとの感を强めさせる。斯くして、萬雷の拍手と歡聲の嵐の中に彼女のオリンピック三連覇の偉業が豫想通り達成された。興奮さめやらぬ大觀衆はひしめき合ひ乍ら場外に雪崩出す。

この競技には、トロツト曲が非常に多くなり、バリエーションのすべてが、これに即應する新形式を見せて來たのは注目すべき傾向だ。プスタ・フオツクスとデイアーブレザの嶄新なトロツト曲はこの大會の代表的な曲として、こゝ暫くは斯界に流行することだらう。

晝のスキー、スケート競技が終つて、夜が訪れると、バーンホツフ・シュトラーセ一帶の繁華街は中々の賑はひである。雪の道を歩いて行くと、町の公會堂ホールでは大バンドが、シュトラウスのワルツや勇壯なマーチを奏してゐる。鳥の丸燒で客を呼んでゐる店、ビヤ・ホール酒場などからも色々のメロディーが歡聲に混つて流れて來る。

中でもこの冬の初め頃からドイツを風靡した流行歌『レーゲントロツペン』(雨滴)のロマンテイツクでゐて哀傷的なタンゴの旋律が美しい。この曲の歌詞が上品で、少し感傷的なところへ、作曲者が昨秋これを最後に病死したといふ經緯が、曲の美しさに輪をかけて、一層若者達の心を捉えてゐるらしい。

カフエーの一つライマーは日本の新聞記者の行きつけてゐる酒場である。入口でオーバー、帽子を預けて、酒場に入ると多勢の客の一齊注視を浴びる。醉つたのか『ニツポン、ニツポン』と大聲をあげる。『わーい』と手をあげて挨拶するのもゐる。ソウトウの人氣である。それもその筈

この大會に日本人が特異の存在として異常な關心を惹いたところへ、このライマーで、僕等の同僚某社のK氏が、ある晩この酒場の眞ん中にあるダンス場に立つて、黑々と雪燒けした圓い顏に白い顏を出してにや〳〵笑ひながら衆人環視の中で堂々とおけさ踊りをやつたのが、大喝采を博して、爾來彼はこゝの『顏』になつてしまつたのだ。妙なことで幅をきかすことになり、大手を振つて乘込んだ。一隅のテーブルに納まると、大型ジョッキになみ〳〵とミュンヘン・ビールが運ばれる。一同バンザイで乾盃。泡の舌觸りと云ひ、冷し工合と云ひその甘さはまた格別一日中電報電報で驅け廻つた疲れを忘れてしまふ。

隣にゐるスキー服のドイツ青年が、僕の胸に日の丸バッヂを見つけて、自分の胸につけてゐるハーゲンクロイツのバッヂと交換しようと申込んで來た。これ一つしか無いから駄目だと言つても聞かない。彼等はバッヂの交換を我々の想像以上に好み、交換成立して相手のバッヂを胸につけて大得意なのである。

バンドの席からレーゲントロッペンのメロディーが流れ始めた。ピアノとサキソフオン、バイオリンとセロ、ちつちやなバンドだが、ダンス場は忽ちペアでぎつしり詰り、身動もならない。みな、この歌を口ずさんで、ひしめき合つてゐる。

あすの競技を樂しみつゝ歡聲とビールとドラムの音で夜は更けて行く。

時節外れの小雨の中に、大會最後を飾るスキー純ジャンプ競技が展開された。濡れた雪を踏みしめて二十萬に近い大觀衆が廣大なスタヂオンの四圍を黑く埋盡す。遙か高い木造やぐらのアプローチを滑り下つたジャンパーが、瞬時宙空に拋物線を畫いて美事着陸し、快スピードで廣場に達する頃漸くランディングの音が正面のメイン・スタンドに聞えて來る。ノルウエーのヒルガー・ルートス、エーデンのエリクセン等を初めとして北歐選手の素晴らしい飛躍振り、この中に日本選手が入賞を期して勇敢に飛ぶ。

英國のターナー孃とバトラー孃の妹の二人が、記者の傍へ來て日本選手の飛ぶ毎に、名前を聞いては一生懸命に聲援を送つてゐる、日本のホープ伊黑選手が鮮かに飛ぶと見る間に、彼の短軀がランディングして十米も滑り降つた頃均衡が崩れて惜しくも倒れた。瞬間全觀衆が一齊に『アー』

と聲を擧げる。バーンの傍にある電光掲示版は七一米の最長記錄を曇天のもとに赤々と報じたが、すぐに消えてしまつた。かくして、ジャンプのスリルを滿喫してゐる間に、刻々と閉會式が近づく。

薄暮のスタヂオンに閉會式が始まつた。各國の代表がジャンツェに背を向け、メインスタンドに向つて整列する。各種目の三位までが中央の表章臺に進み出ると、白髮のラツール伯、冬季大會々長リツター・フオン・ハルト博士等の手によつて一々表彰が行はれる。その間にも、暮れ易い冬の夕闇は刻々とあたりを包み、仰ぎ見れば、十一日間燃え續けたオリムピツクの炬火は、最後の炎を紅々と擧げて壯麗の氣一しほ加はる。

常勝カナダを軍門に降した、アイス・ホッケーの覇者英國、ペア・スケーティングに新機軸を作つたバイアー・ハーバー組、新進の素晴らしい技術を以てこれに肉迫し、あはやその牙城を陷れんとした弱冠パウジン姉妹、三位のロツター・ツオラス組が臺に上ると、獨逸國歌が響き渡る。バイアー・ハーバーは右手を擧げてヒトラーに敬禮する、全スタンドが獨逸國歌を誇らかに歌ふ感激の場面だ。

スピードの三種目に優勝してトリツプル・チャンピオンとなつたバラングルート、千五百米のマテイーゼン、この兩者の巨軀があたりを壓する。諸威の國歌が四回連續して奏される。ヘニー孃が純白づくめの服裝で立つ、これも諸威國歌だ。續いてシェフアーのオーストリー國歌、次いでポツプ・スレーの米國歌と瑞西國歌……國歌オンパレードの華かさと感激が續く。殘念乍ら君ケ代の壯嚴さを彼等に聞かすことが出來ない『勝たねばならぬ』切實感が胸一杯に擴がつて來る。

ジャンツェの兩側にマグネシユームの炬火が點綴し、白雪が照り映えると、この中を四人のスキーヤーが大きな五輪旗の四隅を摑んでランディングバーンを滑り降る。色とり〳〵の美しい花火がグーディ・ベルグに揚り、白雪が赤に青に黃に變り、觀衆の歡聲は山々にこだまする。數條のライト・ブルーのサーチライトが白雪に蔽はれたツーグスピツツの銳峯を星空にくつきりと浮ばせる美しさ。

かくしてオリンピツクの炬火は靜かに消え去つたが、ガルミツシュの盆地は歡乎の聲と光に滿ちて、いつまでもオリムピツクの名殘りを惜しんでゐるものゝやうだ。

歐洲轉戰とオリムピックの想ひ出

金　正　淵

長い間のシベリヤの旅疲れも三日間のベルリン滯在で些か癒り、二週間餘りも氷りに親めない爲か落付いて練習出來る場所へと急いた。

オスローへ着いて

一月十六日早朝我等一行は冬季競技の聖地であるオスローへ着いた。多數歡迎者の中、特に往年の覇者オスカーマテイセンの顏が目についた。奉天の練習から十九日目の練習だ。疲れを醫す間もなくフログナスタヂアムへ行つた。こゝは陸上トラックに水を撒いて全面氷らした一見鏡のやうに手入れがしてあつた。人夫達の洗錬された働き振り、一般人のリンクに於いての秩序、皆感嘆せざるを得なかつた。次トレバンスタヂアムは海拔千米突級の山で高山電車が敷かれ、登山客の便を計つてゐる。全山雪に蔽はれスキーを樂しむものも少なくなかつた。スケート場は頂上に作つてあつたが積雪高二米突に及んで反對側の人は全々見えなかつた。このリンクは十一月中旬に充分スケーティングが出來ると云ふ話しだが、專ら練習地として使用されてゐる。これから十日間以上の二つのリンクで我等の宿望であつた歐米先進の强豪連と一緒に練習することが出來た、彼等と直接對面することを無限に喜んだ。

一月十八九日の諾・米對抗競技を觀る

午後一時諸威皇太子殿下台臨、數萬の觀衆の下に華々しく開かれた。彼等のフォームに見取れた、この大會に米國のボッツが五百米實に四十二秒四の世界新記錄を作り、諸威のバランダルドが五千米突に八分十七秒二で世界新記錄を作つた。その度に國歌が奏せられ、全國民が喜び祝ふ。

約一週間後に迫つた歐洲選手權大會を指折り數へながら緊張した合宿練習を續けた。

ノツドデンの田舍大會

北歐はウインタースポーツの本場だけに田舍の所々でも毎週月曜日に國際大會と云ふ名目で各國の選手や地方の選手を招聘して賑やかな大會をやる。

河村、中村、私はノツドデンへ、石原、李、南洞、張はセヘンえと二隊に分れ渡歐始めての試合に出場した。オスロー北驛を發つて二時間位でノツドデンだつた。人口七千水力發電所のある小さな工業地で、山の中腹にリンクを設けて夜間練習や大會をやるのだ。流石スポーツ國諸威と驚いた。試合は午後八時頃開かれ、地元に强い選手なく我等に有利に終へた。日本人の顏を見やうと村の人達は薄暗い夜道を續々と上つて來たが、彼女達にはつきり見えたかどうか。

待望の歐洲選手權大會

我々がこの歐洲選手權大會に臨んだのは國際的銀盤に處女登場であり、且つ世界に君臨してゐる北歐の諸强豪の近情と技術に對する見學兼偵察の意味であつた。そして來るべきオリムピックに備ふ前哨戰である。

第一日（二十五日）この日は曇晴、無風氣溫は零下三度氷面は申分のない良好さ。

五百米突に最も期待をかけた石原は諸威のスプリンター新進クロゲームと組んで日本人だけがもつ獨特な輕快なフォームを見せ、最後まで力走して四十三秒五と云ふ驚異的記錄を出し第四位に喰ひ込んで、我々遠征團に力强い何ものかを與へてくれた。

第二日、この日も無風快晴に惠まれ氣溫は七度午後一時開始、日曜日で全市民がリンクに立錐の餘地なく一ぱいだつた。彼等は寒さに耐へ切れず持參のウイスキーを飲み、レコードに合せてスタンドを踏み鳴すリズム、この賑やかな聲援はノルウエーでなくては見られない光景である。

千五百米突と五千米突兩種目共に新記錄出ず、三種目は

諸威、五千米突は墺地利のステイプルが優勝した。我等は殆んど自己の記錄を破り一同元氣でこの大會を終へた。

ダボスの世界選手權大會

北歐銀盤の聖地であり世界的選手を育て上げたオスローを後に二月一、二兩日の世界選手權大會に出場すべくスイスのダボスに向ふ。一月三十一日朝つく。

參加選手の顏觸れは歐洲選手權の時と大差なく、芬蘭の六選手が老將ツンベルグに引率され參加し、五十名に近く集つた。

リシクのコンデイションは快晴無風ではあるが、前日の雨の爲、氷面は軟かつた。各選手は練習不足の爲いゝ記錄は出なかつた。二日目に二十二年間も破れなかつた千五百米突にバラングルートが、やつとタイ記錄を出したのみである。この日に雪さえ降らなかつたならば十分之一秒位は縮められ輝く世界新記錄を樹立したであらう。そしてダボスは相當高地なる故に氣壓稀薄の爲呼吸が苦しかつたことを感じた。記錄は歐洲選手權大會よりずつと惡かつた。

これでオリムピツク大會までの練習プランを大體終へ待望のガルミツシユへ向ふことになつた。

オリムピツク大會

渡歐以來諸威オスローに開かれた歐洲選手權を始め、瑞西のダボスの世界選手權大會に參加して、自己の實力を試錬して、南獨逸のガルミツシユに到着したのは二月四日だつた。

ガルミツシユは氷上競技場があつてホツケー、フイギユアーのスタヂアム、スピード競技の行はれるリザー湖等があり、パルテンキルヘンはガルミツシユより約二粁離れた地點で主にスキー場である。この年は歐羅巴全體が暖氣に被はれ一時はオリムピツクが開催されるかどうか疑はれた程であつた。入場式の前日まで寒氣は來ず、若干張つた氷さへも解氷して練習不可能となつた。我等長距離を旅行し風俗、習慣を異にした外國生活と云ふハンデキヤツプの上に練習不足と云ふ狀態である。大體歐洲各地の選手達はシーズンが長い關係上、大會までに約三ケ月あるから充分練習を重ねておいて、大會前は休養に全力を注ぐ習慣だそうである。そういふ彼等は何等の影響を受けないが、シーズンに惠まれない我等には相當不利な條件であつた。

二月四日から十日まで結氷は思はしくないので、毎日約一時間の練習しか出來なかつたが、大會の直前に雪が降り寒氣が來てリザー湖は完全に結氷し、難なく第四回冬季大會が開かれるやうになつた。

二月十一日（五百米突）出場選手は石原、李、中村、南洞の四選手を加へて三十六名。午前十時開始、氣溫は零下十三度無風、氷質は硬かつた。丁度鴨綠江に似て青い氷で良く滑つた。我々の練習して來た北歐洲と瑞西のダボスのリンクは大概陸上に撒水して結氷させたものだから天然氷に接する機會が少かつた。石原、李兩君は鴨綠江で育つた選手だけに比較的良好なコンデイションと見られた。この種目は歐洲選手權大會と世界選手權大會の結果、諸威のクロゲー、ハラルドセン兩大會選手權を獲得したバラングルド、五百米突の世界記錄保持者エングネスタンゲン、米國のポツツ、ブレシンガー、ラム、日本の石原諸選手の爭ひだつた。第一位の諸威の新進クロゲーは和蘭のプライストと組んで四十三秒五でクロゲーが第一位を占めたが、氷質の關係で四十二秒臺は出せなかつた。次に中村は米國のベターセンとスタートを切つて實力伯仲、最後まで接戰を演じて四十五秒の同タイム、第四組に米國の第一人者ブレシンガーが四十四秒で第二位、第五組に諸威のバラングルトが鐵壁のやうな體力走して新進クロゲーが作つた四十三秒五より十分の一秒を縮めて四十三秒四で一位を奪ひクロゲー、ブレシンガーの順の後第七組に我が代表選手中入賞の可能性濃厚な石原が瑞典のヨハンセンと一緒に走ることになつた。石原は歐洲選手權で四十三秒五の好記錄を出してゐるから誰もがこの一戰に興味を持つてゐた、相手は大して強くなかつたが石原は獨特なフォム、その奇妙なコーナワークで必死的に戰つて四十四秒一の記錄で第四位に列した、それでも米のポツツ、諸威のハラルドセン、エングネスタンゲン等强者が殘つてゐる。皆が不安を抱いてこれ等の選手達の走るのを待たなければならなかつた。入賞は確實だが現狀の第四位を維持するかどうかが問題であつた。幸か不幸か諸威の二人は惜くも轉倒し入賞圈外に去り、米のポツツも四十四秒八で第六位に入賞し、我が石原は結局第四位に喰ひ込み、日本が冬季オリムピツク大會に參加して以來二回目ではあるがスキーを通じて最初の貴重な四位

入賞を獲得した譯である、參考までに記錄を附す。1バランングルド(諾)43秒4、2クロゲー(諾)43秒5、3ブレシンガー(米)44秒、4石原(日本)44秒1、5ラム(米)44秒2、6ポツツ(米)44秒8、10中村45秒、16李45秒9、23南洞46秒6。

二月十二日、五千米突レースが行はれた、出場者は張、李、南洞、私と三十七名、午前十時より開始氣溫は零下五度微風、この種目は誰でも殆んど八分臺で走破する種目である。我がスピード陣中八分臺で走るのは私だと云つて入賞可能と御期待した種目だけに、私には過重な責任であつた。優勝したバランングルドは去る一月十八日諸米對抗競技の時に世界記錄を更新させた八分十七秒二には及ばなかつたが、八分十九秒六の優秀な記錄を樹立して昨日の五百米突と合せて二種目に優勝した。二三位を獲た芬蘭のワゼニュースとオヤラは墺太利の强豪ステイプル、ワズレツク等を一蹴して堂々と二三位に入賞したことは昨日の五百米突に一人も入賞出來なかつた芬蘭をして新しい活氣を出さしめた殊勳者達である。我が張君は第一線に墺太利のレヴィンガーと組んで前半までは元氣で悠々と追走したが、後半疲勞を見せて八分臺に入らず敗退してしまつた。第十四組に米國長距離の第一人者であるシユローダーと私が並走することになり、氷に馴れない關係か自己の記錄八分四十九秒九を更新すること能はず、シユローダーは八分四十九秒一、私は八分五十五秒九でレースは終り結局敗れた。第十七組に南洞は墺太利のワズレツクと戰つて破れ、最後に殘された李も十九組に諸威のマテイセンと最後まで善戰したが力盡きて涙を飲んで退かざるを得なかつた、殘された千五百米突、一萬米突にはあらぬ限りの力を出してベストを盡し今までより良き成績を出す決心のみ他は何も考へなかつた。1バランングルド(諾)8分19秒6、2ワゼニュース(芬)8分23秒3、3オヤラ(芬)8分30秒1、4ランデジツク(和)8分32秒、5ステイプル(芬)8分35秒、6ブロムキスト(芬)8分36秒6、21金8分55秒9、27李、張9分8秒7、31南洞9分21秒1。

二月十三日(千五百米突)午前十時開始、氣溫は零下五度無風參加選手は河村、石原、李と私で全部三十七名、氷上の千五百米突も陸上の中距離と同樣に不振の種目である。世界の標準は二分二十秒內外、昨年度の我等の記錄は

二分二十八秒內外で約八秒の差がある。この種目にも去る世界選手權大會に世界タイ記錄を出したバランングルドが優勝されるものと豫想されたがバランングルドは米國のブレシンガーと走つて二分二十秒二を作れば同僚のマテイセンが墺太利のステープルと接戰を演じて二分十九秒二でバランングルドの王座を奪ひ取つた。石原は相手の米國のポツツを構はず自己のペースで力走して二分二十六秒七の日本新記錄を作つた、河村は十二組に米國シユローダと猛烈な追走したが及ばず敗退し十五組の李は瑞典のヨハンセンと組んで相手に勝つて自己のベストレコードを作り上げた。第十六組に匈牙利のハイドベギと私がスタートして始終何等支障なく力走日本新記錄より三秒しか縮められず二分二十五秒入賞よりずつと遠退つて十五位。1マテイセン(諾)2分19秒2、2バランングルド(諾)2分20秒2、3ワゼニュース(芬)2分20秒9、4ブレシンガー(米)2分21秒3、5ステイプル(墺)2分21秒6、6ワズレツク(墺)2分21秒7、15金2分25秒、19石原2分26秒7、23李2分28秒9、28河村2分29秒6。

二月十四日、スピード競技最後の日(一萬米突)參加選手は李、張、私と三人全部で三十三名、午前九時半開始、氣溫零下五度。昨夜の滑走番組の結果、五千米突の成績の順で十位まで先走特權を與へてその後に殘つた選手を組合せて走らすことになつた。五千米十位以下の走順は第七組に李、張、私は最後より二番目にエストニヤのミツドと組んだ。以上强豪組に入つたのは諸威、芬蘭、和蘭、墺太利の四箇國選手だけである相手が相手だけに總て接戰を現出した。十名中九名までが十七分臺で走破して名實共に强豪振を發揮してくれた。成績は豫想通りバランングルドが優勝してオリムピツクの四種目中三種目の選手權を獲得し俄然彼の輝く戰績を殘した。

第七組に張、李は七千米突まで並走したが張漸次疲勞し約六十米突の差で十九分〇秒一でゴールイン。午後一時半最後のレース私はミツドとスタートを切つて三四周一緒に走つたが五周目にミツドは棄權し、餘す二十一周を私一人で走らねばならない運命だつた。遠征團の熱烈な應援の下に私のベストを盡して完走した結果第十三位に甘んじなければならなかつた。

1バランングルド(諾)17分24秒3、2ワゼニュース(芬)17

分28秒2、3ステイプル(墺)17分30秒、4マテイセン(諸)17分41秒2、5ブロムキスト(芬)17分42秒2、6ランデジック(和)17分43秒7、金18分2秒7、25季18分50秒3、張19分0秒1。

之れを以つて第四回氷上スピード大會は終つた。四種目全部に優勝した諸威軍の偉力には感服せざるを得ないが、之れは勿論彼等の努力は云ふまでもなく、自由な生活、氣候、指導者等の善き環境が然らしめたものである。

彼等の走法に於て多少參考となるべき點もあつたが彼等も多種多様の走法で一長一短があるやうに見受けられた。我等の興味を引くものは彼等の巨軀に對して、各自の體を如何に利用すれば最大限のスピードを出し得るか？ この問題と石原君の入賞を唯一のお土産に懷かしい故土を再び踏んだ。

昭和十六年氷上競技日程

全國中等學校選手權大會

一月二、三、四日　（青森縣八戸市）

全國學生選手權大會

一月七、八日……スピード大會（青森縣八戸市）

一月七日ヨリ十日迄……ホツケー及フイギュア（芝浦スケート場）

全日本選手權大會

一月廿五、六、七日……ホツケー及フイギュア（スピードは神宮大會奉納）（芝浦、山王スケート場）

第十一回明治神宮國民體育大會冬季大會

二月四日ヨリ九日迄　（北海道　苫小牧町）

オリムピック・フイギュアの印象

片山敏一

四年前の記憶を辿つてこゝにガルミツシュ・オリンピツク大會を中心に、歐洲フイギュア界の印象を綴つて見たいと思ふ。

私達のフイギュアー選手一行は、現關西スケート聯盟副會長大石雄一郎氏監督引率の下に四年前の十二月二十日アイスホツケーの選手一行と共に盛大なる歡送を受けて帝都を出發した。一行は途中大阪にて下車、關西の各位に送別エキジビションを行ひ、廿四日夜、校歌や萬歳の聲に送られて懷かしの地を後にした。安東及び奉天にて同樣エキシビションが行はれ、卅日午後四時滿洲氷聯及び各關係團體の歡送を受けて一路シベリヤに向つた。

一行三十餘名の元氣は、聞きかじつて内心案じて居たシベリヤの寒さを吹飛ばし停車の各驛では、トレーニング・シヤツとトレーニング・パンツでウオーミングアツプ、毎朝々々は車中の廊下に並んでラヂオ體操、仲良く無聊を慰さめ合ひ乍ら廣漠たる白雪のシベリヤ平野をひたむきに歐洲の地を目指して突き進んで行つた。長い〳〵八日間の旅の疲れをモスコーのダイナモリンクでの初練習で振ひ落し一月十二日東京出發以來二十三日ぶりでオリムピツク開催國の首都ベルリンに印した。

大石監督を始め、老松主將、長谷川、渡邊兩選手、オリムピツクの人氣を一人でさらつて仕舞つた豆選手稲田孃等一行の元氣は、將に天を衝くの慨で、旅の疲れも何のその練習開始とばかりアイススタヂオンに押しかけた。ドイツの選手選はガルミツシュに行つて一人も居らず一寸氣拔けはしたが、ジユニアー級以下の人達であらうが流石にステ

ツプ等の滑り方はブルガー孃（現西川氏夫人）以外に見たことの無い（勿論老松主將は前回のオリムピックに出場され、一流選手を見て居られるが）私達にスムースだなあと思はせた。

十五日ベルリンを發つて世界に於けるスケートの本場ウイーンに練習の機會を得た事は、僅か五日間ではあつたが實に有益であつたと思ふ。

ウイナーアイスラーフフエラインのリンクに於てフエリツクスカスパーの練習を見た時の驚きは未だに忘れる事が出來ない。最初スクール・フイギュアーを練習して居た時は、一週間後に開催される歐洲選手權大會の課題インサイドロツカーを滑つて居たが、フオアワードの方もバツクワードの方もターン後肩が逆にひねれて私達のターン後の苦しい時と同じ樣な缺點を示して居たので案外に思つて居たが、其のトレースを見ると實に良く重なり、圖型も正確そのものであつた。暫らくするとリンクのコーナーから走り出したが、そのスピードたるや猛烈なもので、最初に跳んだ時はパウルゼン・ジャンプとは思つたが、餘り簡單に跳んだのでスリー・ジャンプかと思はれる程雄大なものであつた。

其の時の驚きは私がスケートを始めて以來未だ嘗つて經驗した事のない程大きなものであつた。次々に行つたループジャンプ、ルツツジャンプ、ダブルループジャンプやそして未だ完全とは云へないが二回轉半のダブルパウルゼンジャンプを見て、今でこそこんな事を書いて居られるが一週間後に歐洲選手權大會を控へたその時の私が受けた精神的打擊は筆舌に盡されぬものがあつた。放心的な狀態になつて其の日は何をやつても今迄の樣には滑れず、ホテルへ歸つても皆呆然として仕舞つたきり、何事も手につかない位であつた。

翌日はもう覺悟して居たしエンゲルマンリンクへ私達の夢にさへ見て居たカールシェフアーの練習を見に行つた時にも、スクールフイギュアーのスムースであり、正確である點には感心したが、映畫で始終見て居た故もあるだらうけれど、フリースケーティングを見ても綺麗とは思つたがガスパーを見た時程驚かなかつた。然し彼のスクールフイギュアーの滑り方は、故國に於て映畫で見て憧れて居た通り少しも無理がなく、まだ／＼私達日本の選手の遠く及ばない所であると思つた。私達がスピードの消えて仕舞ふ點に於て最も困難とするバツクワードブラケツトチエンヂブラケツト等に於ても痛切に感じたが、最初のバツクワードのブラケツトはそう無暗にスピードをつけず（と云ふのは強いスピードはトレースを合はせるのに最も障害となるから）にトレースを合はせてターンし、フリーレツグを極く自然に前方に振り出すと同時にスケーティングレツグの膝を伸してチエンヂし、そしてチエンヂ後もう一度フリーレツグを前方に振り出してスピードをつける。斯樣な事は今迄私達が氣の付かなかつた所で、徒らにトレースのふれる事を恐れて居たが、シエフアーのを見れば少し伸びて居る位でトレースさへしつかり合はせれば全體の圖型から見て殆んど缺點とはならない事を知つた。シエフアーに於てもカスパーに於ても、そしてウイーンで見た他の選手ランドベツク夫人、プツチンガー、ステヌフ、ライナー諸孃に於ても先年來朝したブルガー孃に依つて示されたターン時に於けるディープエッヂ、即ち體軀を氷面に垂直にし、スケートのみを深く傾斜させる事の重要さを充分に認識させられた。其の他色々の點に深い感銘を受けてウイーンの練習を終り希望と不安の交錯した複雜な氣持でベルリンに歸り歐洲選手權大會に出場した。

選手の練習時間の充分にとつてあつた事は實に氣持が良かつた。芝浦リンク程の大きさの會場を三日間程練習の爲に開放しスクールフイギュアーの練習時間は午前八時から二時間宛數回に分け、二三ケ國の選手がその一回に割當てられた。フリースケーティングの練習時間も午後五時頃から豫め定められ、勿論一回／＼氷は手入れされて、その設備等は實に良く行屆いて居た。銀盤の女王ソニヤヘニー孃の練習が私達の練習時間の直ぐ後だつたので、早速目を皿の樣にして見學したが彼女の練習振りは實に熱心で、無駄口一つきかずインストラクターのニコルソンがつききりでコーチして居た。ウイーンで見たシエフアー始め各選手達もさうであつたが、彼女の如き一流選手でさへインストラクターにつききりで見てもらつて居るのかと思ふと、未熟な私達一行の中にインストラクターの居ない事が非常に情無く思はれた。此の次には事情が許すならば選手を一人減らしても是非インストラクターを加へねば駄目だと痛切に感じた。同じ程度の技倆を有して居る選手があるとしたな

らば、それは必ず試合前の練習の合理的か否かが勝敗に最後の決定を與へると云つても決して過言ではないと思ふ。然し現在の日本にはインストラクターが餘りに少い。僅かに大阪に永井康三氏東京に小林進氏を數へるに過ぎない。卓越した選手の現はれるのは勿論、選手自身の努力も大いに必要であるが、インストラクターの力も是非必要であると考へる。現今日本の競技界に於てインストラクターを職業選手として輕蔑する傾向のあるのは悲しむ可き事と思ふ。

一月二十四日オリムピツクの前哨戰として興味を唆つてゐる歐洲フイギュアースケート選手權大會は、世界の强豪十六人を集めてベルリンスポーツパラストに於て開會された。シエフアーは依然として選手權保持者の貫祿を示し、各課題に平均五點六七分を壓倒的優勢を持し、イギリスのグラハム・シヤープこれに次ぎ、カスパー、バイエルが僅少の差を以つて三、四位に位し、ハンガリーのテルタツクが異常の出來榮へを示して第五位を占め、フインランドの老巧ニツカネンが練習不足にも拘らず第六位を占めた。長谷川選手はコンデイション悪く自己の得意とするスムーズなスケーティングを發揮し得ず殘念乍ら成績は香ばしくなかつた。私は最初の課題インサイドロツカーを滑つた時コンデイションの非常に良いのを感じ、最初の國際的な競技會ではあつたが少しもあがらずに、自信を持つて滑る事が出來た。

女子スクールフイギュアーは十八名の世界一流選手を網羅して、二十五日朝から華々しく開始された。男子に於てと同じく過去九年間スケート界の女王として謳はれて居るソニヤヘニーが斷然他を壓して首位を占め、イギリスのセシリヤ・カレツヂ、ミガン・テーラーがこれに次ぎ、スピード・スケーティングから轉向したベルギーのランドベツクが四位を占め、前回のオリムピツクに於て印象深きスエーデンのヴイヴイアンナ・フルテン、マキシー・ヘルバーを破つてドイツの選手權保持者となつたヴイクトリヤ・リンドペインターがこれに次いで五、六位を占めた。一日でもインストラクターから離れたならば、それだけフイギュアーが荒れる十一歳の子供である稲田孃は仕方がないと思はれた。

男子のフリースケーティングは、同日夜行はれたが、老

松選手はブルーダニューブの波に乘つてその流麗なるスケーティングによつて滿場の觀衆を魅了し、前日の第十二位より九位に躍進した。長谷川選手は病氣の爲棄權し、私はスピンのジヤンプを失敗し、遂にニツカネンを抜く能はず前日の第七位を維持するに止まつた。殘念ではあつたが然し上位の六人の選手が何れも世界の一流選手であつて見れば第七位は實力から見て私の最上の成績であつたと思ふ。

翌日午後三時から女子フリースケーティングが行はれ、ソニヤ・ヘニーは完全された演技に依つて內容に於てはむしろ優れて居たセシリヤ・カレツヂの追擊を退け堂々選手權を獲得し、稲田孃はイギリスのマクリン、プリオアの兩人を抜き第九位となつた。

ペヤースケーティングは定評あるバイエル、ヘルバー組が優勝し、その纖細な技術は他の追隨を許さぬものであつた。我國に於ても近き將來に於て全日本の種目に入ることゝ思ふがそのスケート界に益する所は眞に大であらうと信ずる。この大會に於て老松主將を始め他の選手はスクールフイギュアーを、私はフリースケーティングをより一層練習しなければならない事を痛感して憧れの地ガルミツシュバルデンキルヘンに向つた。

途中二十八日ニユールンベルグに於てヴイヴイアンナ・フルテン等とエキシビシヨンに出場、歐洲選手權の際もだが、音樂によくマツチして居る點、綺麗な長い足によつて滑られるグラフストローム風のステツプ、そしてジヤンプスピン、ステツプ等凡ゆる場合に於ける美しいポーズ等は他の選手に比べて最も異色あるものである。マーカス・ニツカネンが「アイスダンスをやられせば、彼女は世界一だ」と賞讃して居たのも成程と頷ける。「惜しい事には足が弱く、ジヤンプが他の選手に比べて見劣りがする」と彼は付加へて居たが。

翌日二十九日夜もミユンヘンにてカレツヂ、ダン等とエキシビシヨンに出場、卅日愈々オリムピツクの聖地ガルミツシュに到着、直ちに宿舍シエーネツクに入つた。

皚々たる白雪におほはれたツウグスピツツの連峯を始めチロルアルプスにつながる山々に圍まれた南獨の一寒村も、町々の國際色にオリムピツク氣分はいやが上にも高潮する。

二月六日降りしきる雪を衝いてヒツトラー總統列席の下

に壯麗極みなき開會式は擧行された。聖火は銀雪に映えて號砲一發、オリムピツクベルは山々に谺し、五輪旗の靜々と揭揚される中に開會は宣せられた。

競技の開始されると同時に練習の場所に不自由を來たしスピード競技の行はれるリーゼル湖に或ひは山腹の小リンクに出掛けて行かねばならなかつた。

九日、男子スクールフイギュアーが開始され、老松選手が一番を引き、洗はれた樣な銀盤に最初のトレースを描いた。四番に渡邊選手、六番に私、長谷川選手は二十三番、出場選手二十五人、一つの課題に一時間以上を費して二日に亘つて續行された。今迄日本で行はれた競技會の如く十人位の選手が滑るのではなく、一課題を滑つて後、次の課題の番が來る迄待つ疲勞は非常に大きい。一室を選手室として提供しては呉れたが板張りの待合室の樣な腰掛に一時間も二時間も待つ事はフアイテイングスピリツトを失はしめて仕舞ふ。インドアーリンクと異つて、リンクの氣溫は非常に冷たく、室内の溫度との差が激し過ぎて慣れない私達には非常に苦しかつた。二日目バツクワードダブルスリーチエンヂダブルスリーの頃から降雪次第に增し、遂に風さへ加はり吹雪となつても强行、選手達から明日半日餘裕のあることだから殘りのフイギュアーを明日に延期して呉れる樣審判長である聯盟會長サルコー氏に懇請したが時間に餘裕がないとの理由で拒絕された。オリムピツクスタヂアムを三分の一に仕切つた中で水もまかず降積る雪をはいて（勿論いくら掃いても滑走中にトレースを消して仕舞ふ程積つて仕舞ふが）廿五人の選手が六つのフイギュアーを滑ると云ふ事は夢想だにもしなかつた。バツクワードブラケットトチエンヂブラケットのBに於て風の利用方法を誤つた自分の輕卒からと云へ、二度も足をついて未だにつけられなかつた三點臺の札を上げられた時には涙の出る程口惜しかつた。斯くて十四日行はれたフリースケーテイングを合してオリムピツク覇者の榮冠はシエフアーに輝き、バイエル、カスパー、ウイルソン、シャープ、ダンが之に次ぎ私が十五位、老松選手二十位、渡邊選手二十一位、長谷川選手二十三位、遂に日本軍の慘敗に終つた選手全部が同じ狀態にある以上前に述べた樣な惡條件が決して不振の原因であるとは云へないが、私達選手が抱いて居た期待を裏切られた事から起るフアイテイングスピリツトの喪失は重大

なる原因として考へられると思ふ。四年に一度世界の若人が集つて覇を爭ふオリムピツクであつて見ればもつと良好なコンデイシヨンであつて欲しいと希望する。之に伴ふに言語の來たす精神的萎縮も出發前から不安をもつて居た事ではあるが重大なる影響を齎らすことは否めない。

審判員の出席して居ない不利と云ふ事も考へられると思ふ。選手が斯んな事を書くのは許されないかも知れないが外國の選手が私達に「何故日本は審判員を連れて來なかつたのか」と訊ねた一語が充分にその不利なる事を物語つて居る。故意に自國選手に對して有利な點數を與へ、自國選手と競ふ他國選手には不利な點數を與へる。日本に力て斯かる事は考へられないかも知れないが、歐洲選手權の時にも充分その傾向はあつた。オリムピツクとなつて國家意識が激しくなるにつれ益々露骨に行はれた。悲しむべき事ではあるが事實は如何ともしがたい。

稻田孃が斯くの如き條件の下に第十位を占めた事は偉とするに足る。

吾々の最大目的たる、オリムピツクも失意の中に幕を閉じ、パリーに於ける世界選手權大會に出場したが、これも決して良い成績ではなかつた。三月一日、英國に渡つてセシリヤ・カレツヂを育て上げたゲルシユキラー氏に就て例へ三日間と云ふ短い時間ではあつたがコーチを受ける事の出來たのは、此の遠征中最大の收獲であつた。渡邊選手が私達一行から離れて英國に殘り半ケ年に亘つて彼にコーチを受けて歸られ、フイギュアースケーテイング殊にスクールフイギュアーの進むべき道を明らかにされた事に對してこの機會に感謝しておきたい。

六日、パリーに戻りスキスのチユーリツヒとベルリンに於てエキシビシヨンを行ひ、三月十三日スキー選手と共に榛名丸にてマルセーユを出帆。

滿洲氷上遠征記

兩角政人

日本チーム

役員

總監督 兩角政人

男子スピード監督 倉町太郎

女子スピード監督 松田功

ホッケー監督 翠川茂次郎

フイギュア監督 田山秀士

總務 難波憲男

牧定夫

古厩善人

選手

（男子スピード）

南洞邦夫（早大）

山下勝久（早大）

高林三郎（明大）

古厩泰治（岡工）

泉山貞義（明大）

金莊煜（明大）

張祐植（明大）

尹世植（明大）

（女子スピード）

中川キヨ（苦小牧）

大高妙子（苦小牧）

北澤キクエ（苦小牧）

坂本キヨ（苦小牧）

野澤光子（苦小牧）

（フイギュア）

有坂隆祐（明大）

小豆島藤丸（大阪）

稲田悦子（大阪）

（アイスホッケー）

中川哲（早大）

鬼鞍弘起（早大）

吉島清（早大）

市川辰雄（早大）

小野田馨（早大）

田中文雄（立大）

後藤博（立大）

内藤洋（立大）

堤正夫（慶大）

加賀谷國太郎（慶大）

大野寛（慶大）

福元清（明大）

以上 三十六名

スピード競技

女子五百米

第一組
- 2、坂本キヨ（日） 五二秒八
- 3、中村和子（新） 五六秒七

第二組
- **1、中川キヨ（日） 五二秒六**
- 4、峰下啓子（新） 五七秒八

女子千五百米

第一組
- 2、北澤キクエ（日） 三分四〇秒八
- 3、工藤律子（四） 三分一五秒九

第二組
- **1、大高妙子（日） 三分〇一秒二**
- 4、片田瑤子（新） 三分一六秒三

女子千米

第一組
- 2、坂本キヨ子（日） 一分五四秒五
- 3、中村和子（新） 二分〇四秒一

第二組
- **1、中川キヨ（日） 一分四九秒六**
- 4、片田瑤子（新） 二分〇七秒二

女子三千米

第一組
- 2、野澤光子（日） 六分三一秒八
- 3、峰下啓子（新） 六分四三秒三

競技成績

日滿交驩氷上競技新京大會

昭和十四年一月廿八、九日

新京兒玉公園スケート場

第二組 1、大高妙子（日） 六分二七秒六
4、工藤律子（四） 七分〇四秒九

女子千六百米繼走

1、日本（坂本キヨ子、野澤光子、大高好子、中川キヨ） **二分五一秒六**
2、新京（中村和子、工藤律子、片田瑤子、峰下啓子） 三分二〇秒三

男子五百米

第一組 5、南洞邦夫（日） 四六秒七
4、大谷武男（新） 四五秒七

第二組 2、高林三郎（日） 四四秒七
3、林哲夫（新） 四五秒六

第三組 1、山下勝久（日） **四四秒六**
6、ガブレリツク（哈） 四六秒九

男子千五百米

第一組 6、泉山貞義（日） 二分四五秒〇
4、安達和男（新） 二分三六秒一

第二組 3、金莊煜（日） 二分三四秒四
2、林哲夫（新） 二分三四秒五

第三組 1、南洞邦夫（日） **二分三四秒三**
5、坂下圭介（新） 二分四三秒八

男子三千米

第一組 4、尹世植（日） 五分三二秒八
5、方景河（新） 五分三四秒六

第二組 2、泉山貞義（日） 五分二九秒四
1、片昌男（新） **五分二八秒五**

第三組 3、張祐植（日） 五分三一秒〇
6、岡本豐（新） 五分三八秒五

男子五千米

第一組 3、尹世植（日） 九分三四秒一
4、片昌男（新） 九分三六秒六

第二組 6、古厩泰治（日） 九分五八秒三
5、方景河（新） 九分四四秒五

第三組 1、張祐植（日） **九分三二秒二**
2、安達和男（新） 九分三二秒五

男子二千米繼走

1、日本（山下勝久、泉山貞義、高林三郎、南洞邦夫） **三分〇六秒三**

2、新京（大谷武男、出口、坂下圭介、林哲夫） 三分一五秒〇

得點表

		五〇〇米	三〇〇〇米	一五〇〇米	五〇〇〇米	繼走	合計
男子	日本	一三	一二	一一	一一	四	五一
	新京	八	九	一〇	一〇	一	三八
		五〇〇米	一五〇〇米	一〇〇〇米	三〇〇〇米	繼走	合計
女子	日本	七	七	七	七	三	三一
	新京	三	三	三	三	一	一三

アイスホッケー（一月廿八日）

全日本對全新京（新京商業）

全日本 3（1—0、0—1、2—0）1 全新京

〔開始午後三時十分、審判平野氏〕

〔全新京〕		〔全日本〕
下井駒瀬崎武島藤	FW	川鞍島中藤川
山酒生渡島吉		中鬼吉田堤後市
峰伊	DF	藤元
女池	GK	野大

反則 3 4

日滿交驩氷上競技大連大會

昭和十四年一月卅一日、二月一日

滿鐵カバードリンク

アイスホッケー

全日本對全滿鐵（一月卅一日）

全日本 4（1—1、3—1、0—0）2 全滿鐵

〔開始午後八時半、審判木下、牧氏〕

〔全滿鐵〕		〔全日本〕
浦東置崎島部	FW	中藤川鞍島川藤谷
松百日玉戸阿		田堤後中鬼吉
垣田	DF	市内加賀
古左右尾崎		
藤	GK	大野
齋田仲		小野田

反則 3 2

全日本對全大連（二月一日）

全日本 7（2—1、2—0、3—1）2 全大連

〔開始午後七時、審判牧、左右田氏〕

〔全日本〕　〔全大連〕

川鞍島谷 中鬼吉加堤福元	FW	下田崎田島田垣 木富玉光戸久保
市川藤藤 内後野	DF	川村 古西木
大野田 小野	GK	川 中
2	反則	3

日滿對抗氷上競技大會（奉天）

昭和十四年二月四、五日
奉天國際スケートリンク

スピード競技（四百米コース）

女子五百米

第一組
8、北澤キクエ（日）　五七秒五
7、村山菊子（滿）　五七秒五

第二組
6、大高妙子（日）　五四秒五
4、江島八重子（滿）　五四秒〇

第三組
3、坂本キヨ（日）　五三秒九
4、今村俊子（滿）　五四秒〇

第四組
1、中川キヨ（日）　五一秒八
2、繩手滿喜子（滿）　五三秒二

第一組
6、野澤光子（日）　一〇分五二秒六
8、下根八重子（滿）　一一分二三秒〇

第二組
4、坂本キヨ（日）　一〇分二九秒〇
1、江島八重子（滿）　一〇分一一秒八

第三組
5、大高妙子（日）　一〇分四八秒三
7、村山節子（滿）　一一分〇〇秒五

第四組
3、中川キヨ（日）　一〇分二四秒二
2、汾陽泰子（滿）　一〇分一七秒六

女子千六百米繼走

1、日本（坂本キヨ、北澤キクエ、大高妙子、中川キヨ）　**二分四六秒四　日本新記錄**
2、滿洲（今村俊子、村山菊子、江島八重子、繩手滿喜子）　**二分四八秒八　滿洲新記錄**

男子五百米

第一組
3、林哲夫（滿）　四五秒七
4、泉山貞義（日）　四五秒九

第二組
9、大谷武男（滿）　四八秒〇
8、南洞邦夫（日）　四六秒八

女子千米

第一組
7、山本幸枝（滿）　一分五五秒六
8、北澤キクエ（日）（轉）　二分一〇秒二

第二組
1、江島八重子（滿）　一分四八秒三
3、大高妙子（日）　一分五一秒〇

第三組
4、汾陽泰子（滿）　一分五二秒二
5、坂本キヨ（日）　一分五二秒四

第四組
6、今村俊子（滿）　一分五四秒七
2、中川キヨ（日）　一分四九秒〇

女子三千米

第一組
6、村山節子（滿）（轉）　六分三八秒五
7、野澤光子（日）　六分四〇秒九

第二組
4、大高妙子（日）　六分二九秒九
1、江島八重子（滿）　六分〇六秒〇

第三組
5、坂本キヨ（日）　六分三六秒一
8、山本幸枝（滿）　六分五六秒二

第四組
2、汾陽泰子（滿）　六分一五秒五
3、中川キヨ（日）　六分二四秒七

女子五千米

第三組
2、阿部剛（滿）　四五秒五
10、金莊煜（日）（轉）　五二秒四

第四組
7、朴潤哲（滿）　四九秒七
6、高林三郎（日）　四六秒五

第五組
1、山下勝久（日）　四四秒七
5、三代正勝（滿）　四六秒二

男子千五百米

第一組
7、泉山貞義（日）　二分三六秒三
10、林哲夫（滿）　二分三八秒六

第二組
3、山下勝久（日）　二分三五秒〇
5、木谷清（滿）　二分三六秒一

第三組
9、安達和男（滿）　二分三六秒八
6、金莊煜（日）　二分三六秒二

第四組
8、三代正勝（滿）　二分三六秒四
1、張祐植（日）　二分三三秒四

第五組
2、朴潤哲（滿）　二分三四秒七
4、南洞邦夫（日）　二分三五秒六

男子五千米

第一組 10、高林三郎（日）一〇分二三秒二
8、片昌男（滿）一〇分〇二秒五

第二組 7、牛島義雄（滿）一〇分〇一秒九
9、南洞邦夫（日）一〇分〇二秒九

第三組 2、朴潤哲（滿）九分三八秒二
6、泉山貞義（日）一〇分〇〇秒七

第四組 3、松元茂（滿）九分四四秒四
5、尹世植（日）九分五五秒〇

第五組 4、安達和男（滿）九分五四秒五
1、張祐植（日）**九分三一秒五**

男子一萬米

第一組 8、方景河（滿）二〇分一九秒五
6、泉山貞義（日）一九分四二秒〇

第二組 9、金莊煜（日）二〇分二六秒一
4、牛島義雄（滿）一九分二七秒〇

第三組 10、古厩泰治（日）二一分三〇秒九
5、安達和男（滿）一九分二七秒七

第四組 7、尹世植（日）一九分四三秒一
3、松元茂（滿）一九分〇九秒六

第五組 2、朴潤哲（滿）一八分五五秒二
1、張祐植（日）**一八分四一秒一**

男子二千米繼走

1、滿洲（林哲夫、阿部剛、大谷武男、三代正勝）**三分〇四秒一**
2、日本（南洞邦夫、泉山貞義、高林三郎、山下勝久）三分〇五秒一

アイスホッケー

全日本對全滿洲（二月四日）

全滿洲 3（0—0、0—0、3—1）1 全日本

〔開始午後二時四十分、審判平野、庄司氏〕

〔全滿洲〕		〔全日本〕
矢田	FW	川
駒井	FW	鞍
黒	FW	島
栗	FW	中
富	FW	鬼
生	FW	吉
酒	FW	田
石	FW	堤
同	FW	後藤元
中	DF	市川
伊	DF	内藤
原	DF	加賀谷
藤	DF	
新	GK	大野
家	GK	

8 反則 3

全日本對全奉天（二月五日）

全日本 2（0—1、0—0、0—0、0—0、0—0、0—1）1 全奉天（滿洲醫大）

〔開始二時四十五分、審判小須田、富田氏〕

〔全日本〕		〔全奉天〕
矢	FW	川
黒	FW	鞍
原	FW	島
植	FW	中
端	FW	鬼
上	FW	吉
島	FW	田
森	FW	堤
崎	FW	後藤元
本	DF	市川
藤	DF	内藤
井	DF	
橋	DF	
新	GK	大野
家	GK	

3 反則 3

安東市鴨綠江氷上リンク

スピード競技（四百米コース）

男子五百米

第一組 1、林哲夫（滿）**四六秒三**
4、山下勝久（內）四七秒五

第二組 7、金莊煜（內）四九秒〇
2、任秉奎（朝）四七秒二

第三組 3、山本宏之（滿）四七秒三
9、許景日（朝）五〇秒〇

第四組 8、崔龍振（朝）四九秒五
南洞邦夫（內）轉

第五組 10、大谷武夫（滿）五〇秒二
5、高林三郎（內）四七秒八

第六組 6、三代正勝（滿）四八秒四
11、李明天（朝）五二秒二

男子千五百米

第一組 5、任秉奎（朝）二分四五秒八
6、三代正勝（滿）二分四六秒七

日滿交驩氷上競技安東大會

昭和十四年二月七日

得點表

〔男子〕

日		滿
10	五百米	11
14	千五百米	7
9	五千米	12
7	一萬米	14
1	リレー	5
47	總計	49

〔女子〕

日		滿
11	五百米	10
11	千米	10
9	三千米	1
10	五千米	11
5	リレー	1
46	總計	44

第二組 2、沈昌煥（朝）二分四四秒四
7、林哲夫（滿）二分四九秒二

第三組 8、山下勝久（内）二分四九秒四
朴潤哲（滿）轉

第四組 9、高林三郎（内）二分五一秒五
3、李明天（朝）二分四四秒八

第五組 11、張祐植（内）二分五四秒七
9、木谷清（滿）二分五一秒五

第六組 4、南洞邦夫（内）二分四五秒三
1、金健會（朝）**二分四三秒四**

男子三千米

第一組 10、尹世植（内）五分五五秒八
7、金漢集（朝）五分五一秒九

第二組 6、片昌男（滿）五分五一秒四
朴雲峰（朝）反則除外

第三組 2、張祐植（内）五分四四秒八
4、安達和男（滿）五分四七秒七

第四組 8、金健會（朝）五分五二秒五
11、古厩泰治（内）六分〇八秒一

第五組 9、松元茂（滿）五分五四秒四
5、泉山貞義（内）五分五〇秒七

第六組 1、金河吉（朝）**五分四四秒二**
3、朴潤哲（滿）五分四六秒八

男子五千米（オープンコース）

1、張祐植（内）**一〇分一九秒五**
2、崔龍振（朝）一〇分一九秒六
3、朴雲峰（朝）一〇分二一秒三
4、南洞邦夫（内）
5、金漢集（朝）
6、橋本實（滿）

男子二千米繼走

1、内地チーム（金莊煜、泉山貞義、山下勝久、高林三郎）**三分一八秒一**
2、朝鮮チーム（任秉奎、李明天、金漢集、崔龍振）三分二〇秒五
3、滿洲チーム（林哲夫、大谷武男、山本宏之、三代正勝）三分二二秒二

女子五百米

第一組 1、中川キヨ（内）**五三秒二**
2、繩手滿喜子（滿）五三秒五

第二組 9、孫仁實（朝）一分〇一秒六
3、山本幸枝（滿）五五秒一

第三組 11、仙波幸子（朝）一分〇八秒四
6、今村俊子（滿）五六秒四

第四組 7、北澤キクエ（内）五七秒八
10、李仁九（朝）一分〇三秒〇

第五組 4、大高妙子（内）五五秒四
金柄烈（朝）轉

第六組 5、坂本キヨ（内）五五秒七
8、河谷達子（滿）五九秒四

女子三千米（オープンコース）

1、中川キヨ（内）**七分一一秒〇**
2、汾陽泰子（滿）七分一一秒五
3、繩手滿喜子（滿）七分一一秒九
4、坂本キヨ（内）
5、大高妙子（内）
6、江島八重子（滿）

女子千六百米繼走

1、内地チーム（坂本キヨ、北澤キクエ、大高妙子、中川キヨ）**三分〇一秒六**
2、滿洲チーム（今村俊子、山本幸枝、繩手滿喜子、江島八重子）三分一一秒〇
3、朝鮮チーム（李仁九、仙波幸子、徐丙孫、金柄烈）三分五二秒五

アイスホッケー

全日本對龍山鐵道局（二月七日）

全日本 4（1—1、1—0、2—0）1 朝鮮龍鐵

全日本對全滿鐵（二月七日）

全滿鐵 2（1—0、1—0、0—1）1 全日本

〔開始午後二時、審判難波、牧氏〕

〔全日本〕川鞍島藤堤中元川藤谷田
中鬼吉後田福市内加賀小野田
FW DF GK

〔全滿鐵〕松東浦島置澤田右垣古藤
吉百松戸日相左古齋

0 反則 2

對抗戰の印象

滿鐵創業三十周年記念事業の體育方面への計畫が實現して、日滿對抗氷上競技大會が昭和十四年二月四、五の兩日奉天の國際運動場リンクで擧行された。大日本スケート競技聯盟は、この日滿對抗のためスピード男子八名、女子五名、アイス・ホッケー十二名、フイギュア男子二名、女子一名、合計二十八名の選手、これに役員八名を加へ三十六名を選拔派遣した。

競技會は奉天における日滿對抗戰の外新京、大連、安東の三箇所に於いて日滿交驩競技會が開かれ、全滿は擧げて日本代表チームを迎へ、滿洲における主要體育運動たるスケートの普及と發達に對して一段と新しき認識が植付けられたのを覺へた。

日本代表軍の遠征は各所で豫想外の反響を呼んだ。最初の交驩競技會である一月二十七、八日の新京における大會といひ、一月三十一日と二月一日の大連における第二回交驩競技會、更に二月四、五日奉天で擧行された日滿對抗競技會、更に一日置いて七日安東鴨綠江氷上に開催された內鮮滿競技會にせよ、日本には見られないといふばかりでなく、滿洲としても、滿場あふるゝばかりの盛觀は日本代表軍の來征によつて初めて見られたといはれ、滿鐵が創業三十周年の記念事業として招聘し滿洲國體育聯盟がこれを主管した今回の日滿對抗及び交驩競技大會は競技成績と共に大成功を收め、同時に冬季體育に對する日本代表軍の使命は完全に完うされるを見た、これ等日滿對抗戰及び交驩競技會における日本軍の成績を見ると決して香しいものでなく豫期に反するものが非常に多かつた。これは往復旅程を入れて僅々十七日間に四回の競技會を行つたといふ競技過多による選手の疲勞が先づ第一に原因をなしたが、それよりも滿洲氷上軍の力量が決して日本に劣るものでないことをよく語るものでもあつた。

◇

日本軍の成績を新京、大連、安東の交驩競技會と奉天における日滿對抗戰の二つに分けて檢討すると、先づ新京ではスピード、アイス・ホッケーの二つの競技種目の中、女子のスピードを除く男子スピード及びアイス・ホッケーは

甚だ感心しない成績に終つた。女子スピードは新京の氷が零下三十度の嚴寒によつて凍結し、しかも煤煙が氷面を砂でもまいたやうにおほつて居るトラックでありながら、よくエッヂをきかせ、力强いキックとストロークで中川、大高、坂本、北澤、野澤の五選手共に十二分の活躍をなし、しかも好記錄を出したことは新京の女子選手の力は別問題にして、記錄がよく日本女子軍の奮鬪を說明し、奉天での對抗レースに多大の興味をついただ。

女子軍の活躍に對して男子スピード陣は滿洲到着後の第一戰として甚だ物足らないものがあつた。この不振は單に氷質に不馴れであるといふばかりでなく、むしろ方景河(新京專賣署)、林哲夫(新京商)、片昌田(新京工學院)等、新進氣鋭の若き選手が滿を持して待ち構へたがためで、事實これ等名も知らなかつた新進選手の奮鬪は日本軍を瞠若たらしめるものが充分にあつた。不振の日本軍の中で豫期通りの成績を收めたのは、短距離五百米の早大山下と長距離明大の張祐植の二人であつた。山下はこゝで四四秒六の滿洲新記錄を出し、その後奉天の對抗競技會でも四四秒七を出して四四秒臺確實の選手であることを證明した。張祐植は記錄的には決して滿足すべきものはなかつたが、圓熟した技能と錬成された體力は、奉天の對抗競技、安東の交驩競技會と大いに精力的なところを見せて日本軍のホープたることを示した。

スピードに次ぐアイス・ホッケーは、勝つには勝つたが決して威張れるやうな成績ではなかつた。新京の代表軍といふのは全國中等大會で苦小牧工業を一蹴優勝した新京商業が全日本軍を相手に出動したので、これに苦戰したなど氷のコンディションばかりでなく、チームに缺陷のあつたことは見逃せない。全日本軍はその後各地の試合で、何れも苦戰をなめ、今後代表チームの編成に種々の示唆を與へた。フイギュアは模範競技であるだけに三選手(有坂、小豆島、稻田)共、自由の氣持で思ふ存分滑走したが風もあり、寒氣も激しく、氷質も固いのにも拘はらず十分に滑つたのは注目すべきものであつた。大連における交驩競技會はアイス・ホッケーとアイギュアだけであつた、先方は全大連と全滿鐵で、これには二勝したが全日本軍の奮鬪はまだ〳〵滿足出來るものではなかつた。

奉天の對抗戰を終了して安東、鴨綠江で最後の交驩競技

會を行つた。アイス・ホッケー二試合、男女子スピード・フイギュアと盛り澤山のプログラムを一日で敢行したのだからスピードの長距離レースはオープンレースを行ひ、アイス・ホッケーの如きは午前に全京城軍と交へ午後息つく間もなく全滿鐵軍と對戰するなど獅子奮迅の努力を續けたが、この場合旅行の疲勞、試合の過多など一切口にしないことにして鍛錬的に試合が行はれたのは嬉しかつた。スピードでは滿洲女子軍が奉天における敗戰をこの鴨綠江上で雪辱しようと大いに頑張つたが、日本女子軍もまた最後を飾るべく力戰これ努め見事返り討ちしたのは日本女子軍の實力の向上を物語ものであつた。

滿洲遠征に際しての豫想は、男子スピード、アイス・ホッケー共に文句なし、たゞ女子スピードだけは勝算なし、と決めてゐた。ところが決戰の火蓋を切つて見ると豫想は全然逆の指果を呈して、男子スピード、アイス・ホッケー共に敗れ、女子スピードが皮肉にも優勝に輝いたのだつた。しかし仔細に戰ひの跡を檢討すると決して不思議のこともなく、試錬となすべき數々のものがそこに考へさせられた。

◇

男子も女子も旅程は全く同一で、東京から新京へ直行、それから大連へ、更に奉天へと引返して居るのだから、若し疲勞を云々するのだつたら男子よりはむしろ女子の方が疲勞の多いのが普通であるべきだが、それが勝算絶對になしの豫想を覆へたしのは何故か、これは何んでもない、夏以來のたゆまざる努力とこの女子の五名を指導し育てあげた女子スピード監督苫小牧高女松田功先生の努力の結晶に外ならないのである。夏から秋にかけてのアウト・シーズンのトレーニングが、一月中旬長野縣上諏訪蓼の海リンクに行はれた全日本選手權に實を結び、北海道から上諏訪へ上諏訪から東京、滿洲へと男子以上の旅行を續けながら尙長い間の基礎鍛錬は遂に滿洲に於ても調子を亂さなかつたのである。

女子代表選手苫小牧の中川、大高、北澤、坂本、野澤の五選手は體がすつかり鍛錬されてゐたと同時に、スケーティングの技術に於いても先進國たる滿洲女子選手を壓倒するものがあつた。この洗錬された技術は僅々二三年間における進歩とは思へぬものがあり、優れたスケーテイグは激賞の的であつた。

滿洲の氷は新京、奉天を通じ硬いことで定評があり、これに滿洲特有の煤煙が氷面を蔽ふので全體的に滑りが惡く、この煤煙の氷に全然經驗のない女子選手は相當の苦心を感じたのは當然であつたが、よくエッヂに乘つて居ることゝキツクに當つて浮足スケートのインサイドエッヂが殆んど全部用ひられて居たことが十分なスピードを出し得るものとなり、更に滿洲女子選手に比し幾分速いピッチはこの煤煙のリンクに一層の効果を現し夢想だにしなかつた制覇を遂げたのであつた。之等の技術的方面の奏功と共に距離練習では滿洲選手が第一、第二のコーナーの練習のみに重點を置いて居るのに反し、日本女子軍は第三、第四のコーナーにも第一、第二同樣重點を置いたことが後半の强味をなして居た。要するに監督の松田先生が一貫して指導に當つて技術的、精神的訓練を與へたことが日本を代表した苫小牧女子軍の重大なる勝因となつたのであるといふことが出來る。

◇

男子スピード軍の敗戰は學生大會、全日本選手權等試合の過多も相當この對抗戰に影響をしたとは思はれるが、滿洲軍に侮れない底力のあつたことが日本軍敗退の主要原因であつた。但し滿洲軍の走法は無暗に急ピッチ主義を吹き込まれる結果舊時代の走法に加へリアウト・エッヂに乘らないスケーティングをしてゐた。煤煙のトラックばかりでなく、體軀の小さい日本人ではこの急ピッチが外人のストロークに對抗すべき唯一の武器ではあるがエッヂに乘らないスケーティングはむしろスピードを殺す結果となるので、この點は日本選手に一日の長があるものと見られた。

日本選手の敗れたのは滿洲軍の强かつたことと、更に根本的にはシーズン外の基礎訓練が未だ〳〵不足して居たからともいへる。五百メートルの山下勝久（早大）は滿洲出身で、こゝの煤煙の氷には馴れ切つて居り、しかも身體がよいので四四秒臺をコンスタントに出し四三秒臺も決して難事でないことを思はせたが、ゴール前七十メートルが未だ亂れ勝ちである。若し山下がアウト・シーズンにみつちりと基礎を作り、足にバネと力が備つたなら五百メートルばかりでなく、千五百メートルに於いても十分の力を發揮することが出來るであらう。千五百メートル、五千メートル、一萬メートルに優勝した張祐植（明大）はシーズン外

のトレーニングを重要視して絶えず努力を續けて來たゞけに尹、高林、泉山、南洞等第一線の選手が不振であつた中に一人超然たる活躍を示した。鍛錬の賜である。

滿洲選手がアウト・シーズンにどれだけの基礎練習をするかは知らないが、日本選手は夏休みと共にシーズンへのトレーニングを開始すべきで、それには合同練習の必要もあるがむしろ、個人々々の日常生活の中に基礎練習の時間を挿入し、同時に規則正しい生活をなす事がより一層重要なことである。男子スピードが滿洲軍に敗れた事は今後の日本スピード界にいろ〳〵の示唆を與へるものであつた。

◇

アイス・ホッケーも男子のスピード同樣豫想とは逆の不成績に終つた。全日本の代表チームが目指したのは全新京の新京商業や全大連、全滿鐵、全京城軍ではなかつた。全日本と對等に全滿洲から選りすぐつた全滿洲軍なのであつた。だから全滿洲を除く他のチームには何點の差で勝たうとも決して喜ぶべきものではなかつた。

その目指す全滿洲軍に敗れてしまつたのである。こゝでも遠征の疲勞だの試合過多だのの言譯は最早や口にする筋合ひのものではない。滿洲にはすぐれた個人プレーヤーである東京の各大學、滿洲醫大出の老練なプレーヤーが揃つて居て、若い學生の全日本チームを巧にあしらひ去つてしまつたのである。はつきりいへば滿洲のアイス・ホッケー界を見直さなくてはならないことになつたのである。日本の代表チームは最初の豫定では全日本選手權の優勝チームを主力としこれにオリムピック候補選手、學生大會に於ける優秀な技術、體力、精神力に富むプレーヤーを加へて編成することになつて居たが優勝チームの立大の選手中に卒業試驗を控へて居るもの、家庭の事情が許さぬもの、などが出來て結局第二位の早大が大體の主力をなし、これに各大學の優秀プレーヤーを加へて編成することになり、結果的に見ては選拔チームの域を脫し得なかつたのである。

この選拔チームの非は既に第四回冬季オリムピック・ガルミッシュ大會で辛い經驗をなめて居たのではあつたが、早大が主力をなしたところに多大の希望を持つてゐた譯である。全日本軍に對する全滿洲軍はこれは完全なる選拔チームであつて、白系露人アンドセフヂー兄弟、早大OB富田、新京商業の伊藤、滿洲醫大の栗矢、石黑、中原などの

諸選手を以て編成されてゐた。選拔チームが不可の理論から言へば全日本軍より惡い譯であるが、アンドセフヂー兄弟の妙技、富田の老功なるプレーは若い日本選手を輕くあしらつてしまつたのであつた。これらの諸點から考へて見ると、少くとも對外的に代表チームを編成しようとする場合には先づ膽の練れた老練な訓練を經たプレーヤーを必要とする譯で、これが若し優秀なる一チームとするならば鬼に金棒になる譯である。また純然たる選拔チームを編成するとしたならば最小限度一シーズンの共同訓練をなさなくてはならないものと思はれる。

◇

全日本チームの缺陷はこの編成上の不結果と共に屋外リンクでの經驗が絶無であつたことにも多大の敗因があつたといへる、寒氣と風と刻々に變る屋外リンクの氷質は全日本チームにとつては正に大きな痛手であつた。今後日本のアイス・ホッケー界の主力をなす學生チームは屋外リンクでの經驗を積む必要がある譯で、既に數年前から希望して居た學生大會の屋外移行を實現するに絶好のヒントをなしたものである。これが若し實現されてスピード・アイス・ホッケー、フイギュアの三種目が青空の下で擧行されたとしたならば各選手の實力を一層充實せしめるばかりでなく精神的方面にも當然期待すべきものあるはいふまでもないことである。

◇

今度の日滿對抗アイス・ホッケー戰は、全滿軍の秀れた個人プレーと落着きのある老練なる手腕のため敗退を喫したが、これは日本のアイス・ホッケー界に色々の點を認識せしめるものとなり、今回の日滿對抗戰は敗れてなほ勝利を得たことよりも一層大きな効果を得、教訓を與へられたのであつた。フイギュアは有坂、小豆島の男子選手に稻田悅子孃が加はつて新京、大連、奉天、安東で模範競技をなし多大の成功を收めた。大連を除く外はいづれも屋外リンクで寒さと風が屋内リングで育つた三選手を相當に苦しめたやうであるが、日本の代表であるといふことゝ、幼稚な滿洲フイギュア界に火を點じようと意氣込む三選手のいさゝかのひるみも見へざる努力は、風、寒氣を制壓して立派に日本代表の使命を果した。

滿洲のフイギュア界は、漸く發達への第一歩を踏み出し

たばかりではあつたが、各地共に豫想以上に熱心で、近き將來に必ず女子スピード同樣の發達をなすのではないかと思はせるものがあつた。殊に新京の女學校は情操的見地から見ても、フイギュアに限るといふやうな意見を持つ人が上層階級に多く見られ、男子中等學校におけるアイス・ホツケー熱と共に急激な躍進を遂げるのではあるまいかと想像されるものがあつた。

◇

滿洲には日本內地に見るやうな湖沼はないが、寒い所だけに水をまけば直ぐそれがスケート・リンクに化するのだから湖沼はなくともいさゝかの不自由も感じない。新京のスケート場も奉天のスケート場も何れも春になれば陸上競技のトラックと化すのである。アイス・ホツケーのリンクも矢張り地上のリンクである。たゞスピード・リンクとアイス・ホツケーリンクとの相違はスピード・リンクは陸上用をそのまゝ利用してゐるのに反して、アイス・ホツケーリンクはヘンスのまはりにスタンドを設け、それをアンペラで圍ひ、風除け兼用に作り上げてあることであつた。但し大連のアイス・ホツケーリンクは滿洲でも南端にあるだけに寒さが少く、日中の陽の直射を避けるために周圍のアンペラ同樣のもので、屋根を作つて氷のとけるのと風を防いであつた。滿洲ではこれをカヴアド・リンクと稱して居る。丁度內地の田舍で見る村芝居の小屋がけに似たものである。大連にはこのカヴアド・リンクが市で作つたものと、滿鐵が特に日滿交驩競技會のために作つたものと二つあつた。アンペラのリンクなら簡單であらうと感じられるが、どうしてこれが一つ五千圓かゝつたといふからなか〳〵簡單どころではないのである。大連の試合は午後七時から一試合づゝ二日間行つた。觀覽席は芝浦ほどないが立席など入れたら三千は入れたであらう。この三千人の他入れ切れず神宮球場を取卷くやうに列が長々と續いて居たのには、日本選手も外の氣溫が零下十五度であつただけに一層驚いてしまつた。これ等の長蛇の列は最早や入れ切れぬと知るや勇敢にもアンペラのかこひを破つてどし〳〵場內に闖入して來た。結局折角のカヴアド・リンクは穴だらけとなつて零下十五度の寒風が容赦なく場內に充滿、選手、觀衆共に滿洲らしい寒氣を滿喫した譯だつた。奉天での對抗戰に使用された。アンペラがこひの特設リンクも勿論大入り滿員で若

い元氣の中等學生や醫大生は滿場立錐の餘地なしと知るや簡單にアンペラの裾からはひ込み、それでも間に合はない時は支柱にはひ上つて、天井から觀戰に餘念ない有樣だつた。全日本選手權大會に芝浦スケート場の鐵柱がへし曲る程見物人があふれたのと全く同じ盛觀といへたが、これら辛抱強い支柱や天井見物人は熱狂と共に我を忘れ、全日本對全滿洲戰のクライマツクスにはつひにアンペラの屋根を破つて落下するといふ狀態で盛觀の極を盡くした。

スピード競技の行はれたのは新京と奉天、それから安東の三箇所だけであつたが、こゝの盛觀が又大したもので、滿洲の競技會始まつて以來だと關係者は驚いて居た。新京などは十錢、十五錢の入場料を整理のために取つたが、まさかこれ程のこともあるまいと陸上競技なみに入場券を印刷した處、俄然不足を來して臨時印刷をしてやつと二萬人の觀衆を滿足させたなど後日譚ではあるが凄いと思つた。

奉天はまたスタンドが滿員になつて、あふれた觀衆はつひに四百メートルのトラツク眞際までのして出る有樣で、整理員が聲をからして怒鳴らうが聞かばこそ、日本內地の競技會では一寸見られない風景と盛觀を呈した。

これが又安東になると素晴らしい、新京、奉天と違つてこゝは鴨綠江の一メートルの氷厚ある天然リンクに準備されて居り、觀衆は安東名物の寒風が吹きまくる中を國境線を越えて朝鮮からもどし〳〵とつめかけるのであつた。鴨綠江は鐵橋を境に上と下にその年々の氷のコンデシヨンでリンクを作るのださうだが、今年は鐵橋の上にリンクが設けられ、防風のアンペラがこひが滿洲風景を添へてゐた。觀衆はこの中に二萬人たつぷり入場して晴れの內鮮滿交驩競技會を見物した。

滿洲で何が一番盛んであり人氣があるといつてこのスケート程のものはない。スケートは漸次滿洲人の生活の一部となりつゝある譯である。

◇

冬の滿洲はスケートによつて從來の蟄居生活が開放された。新時代と共に國民の體力を如何にして增進したらよいかといふ問題が解決された譯である。殊に今回の日滿對抗及び各地の交驩競技會はこの問題解決に一層拍車をかけたといへる。

◇

零下卅度の嚴寒では誰しも戸外よりは春にも似た暖房の生活を好むのが當然であるが、若々しい青年の意氣に觸れるや嚴寒を制壓して先づ健康を求めようと氣のついたことに何の不思議もないのである。大連にアンペラながら五千圓もの巨費を惜氣もなく投じてしかも二つのカヴアド・リンクを作つたのも趣味とか愛好とかいふ生やさしい考へから出たものでなく、冬の健康をスケートによつて築き上げようといふことに重大な意義と根據があるのである。冬の滿洲は最早や完全に氷の王國、スケートの王國となつて居るのである。新京、奉天、撫順、大連の各地小學校、中等學校のグラウンドはスケートリンクに早變りしてスケートは正式な體育課目となつてゐる。旅順中學の生徒が四五百名ステイツクとホツケースケートを提げて勇ましくホツケーリンクへ行進する姿など日本内地では見られないほゝ笑ましいスケート王國風景であつた。

内地でスケート王國などゝ威張つてゐる信州地方など體育方面における近來の消極主義を見ると躍進すべき青少年の魂を無理矢理にすりへらしてゐるものであると云へる。

新京での交驩競技會が終つた晩關屋新京副市長は語つてゐる『冬の滿洲はスケートが健康增進の唯一の機關である。スケートが一段と隆盛となり一般化した時滿洲人の體位はいよ〳〵增大する。それには最も手取早く入門出來る屋内リンクを作ることだ、こゝでスケートの快を知つた人達は今度は廣々とした屋外の廣大なリンクに飛び出すに相違ない、新京を完全なる體育の中心地たらしめるために一日も早くこの屋内リンクを建設しよう』新京ではもう保健協會の中山技師が屋内リンクの設計に取掛つた筈だ。奉天でも滿鐵の厚生課長は屋内リンクの建設に大乘氣である。『冬の滿洲は至る處氷だから冬はむしろ屋内リンクを屋内體育館として一般體育方面に使用せしめ、氷のないシーズンのために屋内リンクを作らう』何れにしても日本内地では耳にだにしない氣持のよい新興滿洲の言葉である。決して競技を盛んにしよう、强いチームを作らうといふのではないが、體育熱の旺盛な處必ず競技は盛んに、優秀なる選手が輩出するは當然である。日本代表チームの遠征によつて滿洲の各方面に想像以上の反響を與へたことは嬉しいことであつた。

◇

スケートの一般化のためにはこれ等要路の人々によつて積極的に計畫が實現されるものと期待されるが、直接競技方面に與へた刺戟も大きかつた。日本女子軍のために夢想だにしなかつた滿洲女子軍の敗退は先づその技術に對する認識を新にするであらう。次で競技の根源をなす體力の科學的研究について一段の注意を拂ふことであらう、つまり女子スピード王國を誇つた滿洲も出直しの機を與へられた譯であつた。一方勝つた日本女子代表苦小牧軍も快勝を機に一層奮鬪努力するであらうから女子スピード界は日滿共に急激な飛躍を遂げるであらう。

★

★

★

また滿洲に於ける女子フイギュア界も一大刺戟を受けたのであるから、殊にフイギュアは女子に最適であるといふ見地からこれまた急激に進歩を見るものと大いに期待されることになつた。

日本代表チームは滿洲遠征によつて何を得て來たか、單的にいへば滿洲全體がスケートに對して異常な關心と理解と熱意を有して居ることを知ることが出來たことである。

滿鐵創業三十週年の記念招聘を機に日、滿は愈々提携を固く緊密にし、スケートを通じて兩國民の體力增强に力を盡すべきである。

蓼の海日記

宮澤留十

こゝに掲げた日記は、潤間君（現宮澤）のスケート競技場製作日記である。屋外の然も山間のスケート場は屋内のスケート場と違つて、寒い暖いの氣溫や降雪に全く左右されるので、これを放擲して置けば競技會は出來ないことになる。從つて完全な競技會を開くためには、開催地元の協力と、潤間君のやうな時間と勞力を惜まない篤志の人を是非とも必要とするのである。信州上諏訪の蓼の海では、既に全國大會が數回に亘つて行はれたが、潤間君は、いつもその時の椽の下の力持となつて競技場の製造に献身的になつてくれた。潤間君はスケートをやる人の誰もが知つて居るやうに、第三回オリムピック（北米レークプラシッドで擧行）大會に出場したスピードの代表選手で、今でも若いスケーターを指導して、スケートを愛すること人一倍といふスケートの爲めに生れて來たやうな人である。その潤間に依つて蓼の海競技場は毎年作られて來たのであるが、その製作推移がどんなであるか、この日記で一應知つて置いて貰ひ度いと思ふので、特に潤間君からこの日記の御提出を願つて掲載した譯けである。（兩角生）

★

昭和十三年十二月二十日午前九時三十分上諏訪町役場出發、蓼の海スケートリンク測定のため登山す。觀光課藤森土木課技師小池君、それに自分と人夫名數を加えて一同トラックに同乘、ホツケーヘンス除雪用具共の他必要品を滿載して出發、十時餘分リンク到着、氣溫プラス二度雲り。

今年は十二月十日から滑れたので岡谷工業外スケーターが不正規四百メートルトラックで練習をしてゐた、氷質は雪氷にて悪しく試走するも快ならず、直ちにトランシットにより測定、五時間後には完全なる四百メートル・ダブルトラックが出來上る。四時三十分下山、時、氣溫プラス三度にて寒からず、同夜七時より開かれた中部聯盟の全國學生氷上大會及中等學校大會並に全日本大會開催の準備委員會に出席。

二十一日　九時二十分町役場出發、今日はホツケーリンクを造るべく登山す、リンクに至るころより氣溫上りて南風吹き暖かし、ホツケーリンクを二箇所造る、リンクに撒水のため使用するポンプも町から到着する。四時二十分人夫一同下山、自分は池畔碧水莊に宿泊する。明日から本格的手入れにうつる、今朝九時の氣溫プラス四度、午後三時七度、夜の幕蓼の海一帶を閉ざしたれど氣溫以前として高く、南風にまじつて小雨リンクの氷面に落つ。

二十二日　雨　前九時、プラス一度、後三時プラス三度前夜より降り續く雨は、朝四時雪と變り、あたりは白雪におほわれて美しい、七時から八時に至る頃一段と降り續くリンクに撒水を理想的にすべく設計中の撒水器の製造方を町へ注文する、正後雪晴れてアルプスの彼方に青空が見え出す、中央大學スケート部員十二名來り碧水莊に合宿練習を開始す。

二十三日　曇　前九時マイナス四度、後三時プラス一度今朝は空曇れども氣溫下りて氷面堅く滑走自由、昨日登山合宿の中央大學選手練習を初める。今日は人夫の外に大工も來りホツケーのヘンスを取附ける、正午氣溫上りて滑走出來ず空益々曇り降雪となる。四時晴れて風強く霧來りて蓼の海は見えず。

二十四日　雨及雪　前九時、零度、後三時マイナス二度昨夜七時頃より降雨あり、夜明け迄盛んに降りて六時全く晴れる、湖岸全帶に亘り岸離れす、八時三十分雪舞ひて冬らしくなる、午後三時氣溫下りて氷上堅く一同滑走。

二十五日　吹雪　前九時、マイナス六度、後三時マイナス二度、夜半降雪あり、朝四時より六時に亘り大降雪となり湖上はたちまち白一色と化す、八時三十分晴、マイナス五度、非常に寒さ感じる、中大選手はホツケーリンクの除雪を初める、積雪五センチ、十五名の選手で二時間近く完

全に除雪された、スピードトラックは人夫三名に自分と練習に登つて來た岡工選手三名と協力して除雪終了、十一時報知新聞運動部東方利重氏來訪、十二時明大選手練習に來る。午後山の際に造られたホツケーリンクを人夫によつて除雪する、夜に入るとともに雪全く晴れて空には星光り寒氣加はる。

二十六日 曇　前九時マイナス六度、後三時マイナス三度、午後三時リンクに撒水を開始、五時十五分終了氣溫マイナス四度、空曇りて雪舞はんとしつゝあり。

二十七日 晴　風強し　前九時マイナス八度、今シーズンに入りての最低氣溫を示し昨夜撒水せるスピードコースは銀盤の如し。十二時明大スケート部並に早大スケート部員練習に來り賑かなり、三時ホツケーリンクに中大スケート部員と協力して撒水す。午後にいたりて氣づかはれたる天候も回復して寒氣愈々加はる。

二十八日 吹雪　前九時マイナス八度、三時マイナス六度、今日は吹雪となる、十時三十分早明スケート部員來湖二回に亘りて練習し、三時のバスにて歸宿、電信隊來りて配線し取附完了今夕より町役場と自由に聯絡出來る、昨日に增す寒氣襲來し、風呂より出ずればタオルたちまち結氷す。

二十九日 晴　前九時マイナス十度、三時マイナス三度今朝は風も無く晴天である、夜半に舞つた小雪がリンクを眞白くした、約二センチ、早速掃きとる、ホツケーリンクは中大部員によつて清掃される。スピードコースに在る木製ポイントを取去つてインクにてマークする。

三十日 晴　前九時マイナス九度、三時マイナス三度、朝七時三十分中島スケート部員一行六名合宿練習に來る。午前中は全くの無風狀態、先日注文の撒水器出來上りて到着三時から試運轉をする良好なり、聯盟本部兩角氏來る。リンクを視察し自分もともに下山、小松中部聯盟副會長外數名を加えて種々協議す、兩角氏同夜十一時四十二分にて歸京、自分は町に宿泊す。

三十一日 晴後曇　前九時マイナス六度、三時マイナス二度五分、前十時早大部員と同道バスにて登山、昨夜撒水せる結果良好、選手休憩所を造る、數日に連なる寒氣のためリンクに龜裂を生じ修理をほどこす。四時ホツケーリンクに撒水器を使用するも寒氣嚴しく効無し。

昭和十四月一月元旦 晴後曇　前六時マイナス十度、三時零度、無風晴天の元旦を蓼の海に迎える、一同勇躍日の出前の湖上に集合しばらくして太陽は南アルプスの彼方より昇り來る、一同感激のうちに拜す。中島スケート部員を加えて全員三十名、中大部員とともにホツケーリンクに整列し宮城遙拜、皇軍將兵戰歿勇士感謝默禱、君ガ代を聲高らかに奉唱　天皇陛下萬歲を奉唱、トレーニングをなし有意義に元旦の儀を終りて宿舍に引上ぐ、今日は元旦のためスケーケーは多數來りて大賑ひを呈す、正午早明部員來湖練習三時三十分スピードコースに撒水す空曇りて雪舞はんとす。

二日 晴　前九時プラス一度、三時プラス二度、昨夜十一時三十分頃より、降雪あり朝七時晴れたるも約二十五センチ積る、正月休みを利用せる東京關西方面のスケーター多數來る、人夫十五名にその他のスケーター全員にて除雪につとむ、十時を過ぐる頃より雪に濕氣加はり作業困難となる、全員努力の結果二時二十分完成、雪と氷は同じウインタースポーツの對象でありながら雪はスケーターにとつて絕對禁物、然し今日の如くスケートを相樂しむ老若男女が除雪作業に勞を惜まず共同團結してなしつゝあるを見る時雪もまた無駄ならず、自分のなし來れるスケートに益々精神的指導をさるゝものあり。

三日 吹雪　前九時マナス九度、三時マイナス二度、今朝七時には零下十四度に降り非常な寒さだ、昨日の除雪作業には人夫不足のためトラック內の雪を外に持ち運ぶことが出來得ずコーナーの二三ケ所は雪の重みの爲め龜裂を生じ湧出する水が結氷して氷山となる、直ちに人夫等とカンナを使用して九時三十分完全に取り去る、使用のカンナは十インチ三角形の鐵に木製の柄を取附けたもので、これでけづり取るのであるが、勞力を費やす割合に能率が上がらぬ、こうした場合機械的にカンナを使用するマシンを造りたい、三時より撒水開始、今日は立教、慶應、法政の選手來る。

四日 雪　前九時マイナス二度、三時マイナス一度、今朝は氣溫下らず、風は南風にて曇りなり、測定に町より小池技師來り、スタートライン、ゴールラインを實測。午後一時降雪となり四時猛烈に降る人夫十二名除雪に務め夕食は碧水莊にて造り一同にて食し、食後九時迄除雪をなす、

十時三十分聯盟本部より兩角、倉町氏外三名來り宿泊。

五日 半晴　前九時マイナス五度、三時マイナス六度、今日五日インターカレヂ氷上大會の開催日であるが、昨夜來降り續ける雪は今朝にいたり濕度加はり數ケ所に湧水して滑走不能に落入り、やむなく延期となる。昨日迄の銀氷に回復せんと終日除雪作業をなすも湧水のために惱まされ作業意の如くならず、前日の銀盤は期待し得ず、夜にいたるも人夫を督勵して荒れたる箇所へ撒水する、兩角氏も氷上に來りて應援す。七時空は以前暗く小雪舞へども明日の天候は快晴を約束されん。

六日 晴　前九時マイナス二十度、三時マイナス六度、朝七時氣溫二十二度を示し、今シーズン最低の寒さだ。七時に集合せる人夫をリンクに集合分業的に作業を開始、荒れたる箇所をカンナにて削り取る。氣づかはれたる荒雪も無く無風快晴、今日三日前の氷質であつたらと殘念でならぬ。三時間に亘り手入れをほどこすも意の如くならず、ゴール前アウトコース三十メートル、インコース二十メートルの箇所及び第一コーナーの如きは最惡の氷質だ。十時四十分入場式開始、青年學校音樂隊先頭に立ちて愛國行進曲を奏でトラックを右に行進明、早、慶、立、法の五校代表選手五十四名は各校のスケート部の旗を先頭に最先頭には日章旗を立て一周中央ホッケーリンクに整列さる、各校主將によつて國旗は揭揚され朝風に翻飜として飜る。同時に君ケ代齊唱、宮城遙拜、戰歿將士感謝默禱を終り、前年優勝校明大より優勝盃の返還あり、學生聯盟名譽主事兩角氏の開會の辭に次ぎ、明大主將張君選手宣誓をなし、十一時二十分退場各校選手は直ちにウォーミングアップを初める。十一時五十分千五百メートル、スピードレース開始、十二時四十分終了晝食、二時十五分より五千メートルレース擧行、四時終了直ちにリンクに撒水七時完成、今夕は空よく晴れて一點の雲だに無く、月は皎々と照り、蓼の海は四百メートル、セパートコースを寒夜の氷上にくつきりと描き出して、今しばし前迄若人の爭鬪せる會場とは思えず、四千尺の高所に靜寂な夜のねむりにつく。

七日 晴　前九時マイナス十四度、三時マイナス一度、昨夜撒水せる水は、完全に結氷し良好なコンデイシヨンとはいへぬが昨日よりはるかに滑りよい、今日も無風快晴、スピードスケートには氷質の良好も必要條件だが強い風は

禁物だ。第二日目レース五百メートル競技は十一時より開始され、結果は四十五秒臺の好記錄を四名共造り、早大山下君により四十四秒臺の大會新記錄を生れる、引續く午後の一萬メートル競技に於ても明大張君により十八分四十餘秒の大會新記錄續出し、昨日惡コンデイシヨンのため氣をくさらせた大會も、今日の好記錄により選手役員とも大いに氣を良くした。最後に擧行せるリレーレース早明の一騎打ちは觀衆をして手に汗を握らせ、一歩拔き、一歩拔かれ、最後のゴールにて早大一歩の差を以つて優勝し胸のすく樣なレースを展開し、これまた新記錄を造る。三時四十分終了直ちに撒水、今日はポンプを以つて大量の水を撒く閉會式は片倉館に於て擧行するので、一同と共に下山有意義なる會を開きて第十四回學生大會は無事終了す。

八日 吹雪　前九時マイナス七度、三時マイナス四度、昨夜十一時四十二分の最終列車にて歸京の早大チームを送り同夜靜柳館に宿泊、今朝練習に登る松都中學チーム（朝鮮）と共に登る、今日は人夫一同入營者送別のため午前中にて歸る。十一日より擧行の中學校大會はホッケー及びフイギュアをなすため、この二つのリンクをよく手入れせねばならぬ。

九日 晴　前九時マイナス十七度、三時マイナス三度、昨日の吹雪は夜半に晴れたがリンクには六センチの降雪あり、午前中清掃、正午町から增援の人夫五名を加へてホッケーリンクの手入れをなす。二時苫小牧工業のホッケーチーム來りて練習なし、スピードトラックには松都中學、三務中學、苫小牧工業、岡谷工業の各選手練習、スピードコース撒水中ポンプに故障生じ使用に絕えず、撒水器を用るずホッケーリンクはバケツにて撒水す、六時三十分終了宿舍に引上げる、今宵は宿泊者自分と外に一名のみ淋しい、リンクからは時たま氷の龜裂する音が聞えてくる。

十日 晴　前九時マイナス八度、三時マイナス三度、九時町よりポンプ修理の職工とヘンス組立ての大工等來る、スピードコース測定のため小池技師登山、十一時頃から天候急變雪降らんとす、今日はホッケーリンクで時間交代で練習する、ポンプの修理は三時完成、四時より撒水、ホッケーリンクへ撒水する頃全く暗くランプを燈して七時三十分終る。氷の手入れに從事する人夫は角間新田（蓼の海から約十五丁下の部落）の青年だが、自分の手足の如く働い

てくれる。此の寒夜おそくまで水にぬれて撒水作業に默々と從事してくれることは誠に涙ぐましい、先日のインターカレヂ大會の二日目氷が回復して大會新記錄續出を聞いて私等と相共に喜んだのであつた。

十一日 晴　前九時マイナス十四度、三時マイナス三度七時撒水器にて撒水、先日の大會の時よりはるかに優秀な氷質だ、けふは全日本中等大會十時入場式開始、日章旗を先頭に苫小牧、岡谷工業、新京商業、三務中學、松都中學學習院、これに續きてトラックを一周式場に入り開會の辭に次ぎ昨年度優勝校苫小牧工業優勝盃の返還並びに選手宣誓ありて退場、十一時より千五百メートル競技開始、良コンデイションに惠まれ大會記錄生る。午後一時より擧行の五千メートルには九分七秒一の好記錄を以つてこれまた大會新記錄、ホッケーは新京商業と苫小牧工業によつて開始さる、二時頃より氣溫上昇、雲低くたれ天候あやうし、三時を過ぐる頃より雪來り第一日目競技終了と同時に盛んとなる、夜六時青空雲間に見えて間もなく晴れ渡る。

十二日 晴　風寒し、前九時マイナス十七度、三時マイナス六度、昨夜の降雪きづかはれ朝五時起床す、積雪七センチをとゞめて快晴、人夫とともにリンクを清掃撒水器を使用、フイギュアリンクに撒水を開始時十時に近きため、役員一同不安にて危險なりと云ふ、我等自信ありて撒水續行三十分後完分な銀盤となる、昭和七年アメリカのオリムピックに參加の途路カナダウイニペックに到着市のリンクに練習せし時此處にては朝水道を利用噴水にて撒水せしが好結果であつた。十時二十分スクールフイギュア始まり、十一時五百メートル競技擧行、一着四十五秒一にて三着迄新記錄續出、昨日より氷質よし、一時フリースケーチング開始、同時に一萬メートル競技開かれ一着十九分三十九秒四にて三着迄大會記錄、二時よりホッケー決勝戰にうつり新京商業優勝、リレーレースを最後に幕を閉じ直ちに氷上にて閉會式擧行、スピードは岡谷工業、ホッケーは新京商業、フイギュアは學習院優勝にて十八の大會新記錄を殘して盛會裡に閉幕。

十三日 曇、風強し　前九時マイナス十度、三時マイナス七度、今日は町の消防組出初式にて人夫來らず、十時三十分明大チーム來りて練習する、午後三時早大チーム來る。今日は北風強く練習困難なり。

十四日 晴　前九時マイナス十一度、三時マイナス四度今朝は晴天を迎えたが、南風にてまた降るのかと心配する。〇〇聯隊で二十九日には此の氷上で戰車隊の演習をなすため視察隊來滑す氷を切つて說明をしてやる。十時早大チーム到着、同三十分明大來る。スピードコースに波が出來たので今日は大量の水を撒水する。

十五日 曇　前九時マイナス六度、三時マイナス二度、昨夜八時にて町に到着せる苫小牧女子選手五名今朝十時來る、昨夜撒水の結果は良好ならず、原因はコースのサイドの雪に水を取られるためである。今日各校全員登りて練習松本放送局配線準備を初める愈々全日本大會の準備なり三時聯盟本部より藤原氏來る、今夕撒水器使用、七時小雪舞ひ空暗し。

十六日 晴、風強し　前九時マイナス六度、三時マイナス一度、昨夜舞ひし小雪は積雪二センチ、直ちに清掃、選手一同午前のみにて練習終り歸町す。二時より撒水せんとするも強風にて雪コースに舞ひ入りて中止のやむなきにいたる。明早朝撒水と決定、放送局配線終了、空には星光りて明日は晴天ときまる。

十七日 晴、南風　前九時マイナス九度、三時マイナス三度、期待の全日本選手權は晴天に迎えられて開幕、今朝の撒水結果好し。日本記錄を希望せる五百メートル競技はスタート後百メートルとゴール前百メートルに、向ひ風を受けて面白からず、明大の高林四十四秒臺の記錄作るもわずかの差にて日本記錄を逸す、期待せる早大山下はゴール直前にて倒れ好記錄出でず、女子五百メートル競技は五十一秒九にて日本記錄に遲るゝこと十分ノ一秒、女子三千メートルは日本記錄生れ男子五千メートルは八分臺を作つて新記錄樹立さる、この種目の最終に組まれたる選手は夜の幕降りし蓼の海リンクに自働車の照らすヘッドライトにより力走せり。

【附】蓼の海日記はこゝで終つて居る。

（筆者　大日本スケート競技聯盟技術員）

全日本選手權競技會記錄

第一回大會（昭和五年）

大日本スケート競技聯盟の記念すべき第一回全日本選手權競技大會は、一月十二、十三日の兩日青森縣八戸市長根リンクに於てスピード競技を、一月十八、十九、二十日の三日間日光精銅所リンクに於てアイス・ホッケー及びフイギュア競技を行つた。

スピード競技を遠く八戸市で開催することになつたのは、この土地の先輩諸氏の要望と、スケートの地方的普及が目的であつて、幸ひ大成功を收めたことは何より喜ばしいことであつた。

この八戸市地方は降雪の多い東北の地であるにもかゝはらず、まるで別天地のやうに降雪がなく、冬の競技と云へばスケートが唯一のものであつた。從つてこの土地をスケート地としやうとの意見と大日本スケート競技聯盟の地方的普及の意志と合致したのであるが、八戸市官民諸氏の大會に對する熱意は驚くばかりで、この歴史的第一回大會が大成功を收め得たのは洵に八戸市のおかげであると感謝して居る譯である。

この八戸の長根リンクといふのは相當廣大の廣さを有し、四百米のスピード・リンクの他に多數のアイス・ホッケー・リンクがとれる程のものである。只降雪量の少ない許りか寒氣がきびしい爲に氷が堅く、それに海から吹きつける風が強いのでリンクの端を通つて居る道路から砂ほこりが舞ひ上り、これがリンクに蒔き散らされる難がある。然し若し快晴無風の日ならば少し堅すぎると思はれる氷質も日光の直射で漸次軟か味を帶び理想的のコンディシヨンとなる。

第一回選手權スピード大會は、充實した内容を以つて擧行された。滿洲の精鋭、諏訪の精鋭、東北及び北海の猛者、全日本の第一線を完全に動員したのであつた。

大會は二日間共天候に惠まれて氷のコンディシヨン良好、記錄も一萬米を除いて他の三種目悉く日本記錄を更新し、同時にこの大會に依つてはじめて公式の日本記錄が樹立された。

スピード競技が終つて今度は日光精銅所リンクでアイス・ホッケーとフイギュア競技が行はれた。

地方の一般チームと學生チームの參加があつて全日本大會にふさはしいものであつたが、これは全く全國統制に依る結果であつて、スピード競技會の内容充實と思ひ併せて、感慨深いものがあつた。

競技はホッケーでは早慶が快勝に殘つて白熱戰を演じた後、慶大が第一回選手權を獲得、フイギュアでは常將金子諭吉君が明大の久保選手に敗れる等興味多いものがあつた。

スピード競技

（一月十二、三日　於八戸）

五百米（タイム・レース）

1木谷德雄（安東）四八秒〇（日本新記錄）、2河村泰男（奉天）四九秒〇（日本新記錄）、3大澤義一（安東）、3吉岡正隆（安東）

千五百米（タイム・レース）

1石原省三（安東）二分三九秒五（日本新記錄）、2木谷德雄（安東）二分四二秒八（日本新記錄）、3河村泰男（奉天）二分四三秒七（日本新記錄）

五千米（タイム・レース）

1石原省三（安東）九分四二秒六（日本新記錄）、2木谷德雄（安東）、3潤間留十（諏訪）

一萬米（タイム・レース）

1木谷德雄（安東）二〇分一一秒五、2石原省三（安東）、3潤間留十（諏訪）

オープン・レース

二千米リレー（タイム・レース）

1安東（石原、大澤、吉岡、木谷）三分二〇秒〇（日本新記錄）2諏訪、3朝鮮

選手權順位

1木谷德雄（安東）二二二・〇〇二、2河村泰男（奉天）二二七・六八七、3大澤義一（安東）二三〇・八五七、4小池富治（奉天）二三一・七六八、5潤間留十（諏訪）二三二・二三二、6濱（諏訪）二三四・二一五

アイス・ホッケー競技

（一月十八、九、廿日、於日光精銅所リンク）

第一豫選

慶大　棄　札幌
東大AK　8—3　立大

第二豫選

早大　13—0　上諏訪
京城帝大　4—0　清瀧倶樂部
東大AK　12—4　稲門倶樂部
慶大　6—1　日光精銅所

準決勝

早大　5—2　京城帝大
慶大　8—1　東大AK

決勝

慶大　4（0—0、2—0、2—1）1　早大

〔慶大〕 川賀子藤島澤
平有金 FW 齋三 DF 尾 GK
〔早大〕 山西田坂 影小平保 田右山左桑羽 田

フイギユア競技

（一月十八、九、廿日、於日光精銅所リンク）

選手權成績順位

順位	氏名	所屬	スクール	フリー	順位點
1	久保信明	大	四七〇・七五	四四五	六
2	金子諭吉	慶大	四八九・二五	三九〇	九
3	小林進	日本スケート會	五三三・五〇	二七〇	一八
4	帶谷龍一	慶大	四八二・二五	三〇七・五	一八
5	老松一吉	關西	四三七・二五	二七〇	二六

第二回大會（昭和六年）

この年の大會は、スピード、アイスホツケー共に一月十七日から信州上諏訪町蓼の海リンクで擧行の豫定であつたが、氷のコンデイションが悪かつた爲めに一日延期して十八日からスピードは諏訪湖で、ホツケーは蓼の海で行つた。但し入場式と開會式だけは選手の都合、競技場の都合を考慮に入れてその前日の十七日午前上諏訪町湯の脇溫泉寺下の上諏訪町特設リンクで行つた。

試合の豫想は、スピード短距離で奉天の岩本、安東の大澤、諏訪の潤間正見、中距離は大澤、潤間正見、諏訪の濱一正、長距離では濱一正、小池、潤間留十、行田の諸選手が好成績を擧げるのではないかと呼び聲が高く、また練習中しば〳〵好記錄を出して居た。

ホツケーは滿洲醫大斷然强く優勝候補の筆頭にあつたが、インターカレヂで敗れた慶大、早大の雪辱戰にも期待がかけられた。この年は滿洲の强豪木谷德雄、河村泰男、石原省三の三選手が待望の世界選手權に出場した年であつて、それが爲にこの年の選手權には出場することが出來ず、大會そのものとしてはやゝ淋しさ感じられたが、内外相呼應しての活躍は、スピード界として歷史的のものであつた。

全日本選手權第一日は十八日スピードは諏訪湖六斗川沖で、ホツケーは上諏訪町蓼の海リンクで擧行された。快晴無風絶好のコンデイションに惠まれて兩競技共熱狂的盛觀を呈し、スピード五千米では日本記錄四つが生れ、滿洲勢を向ふにまはして諏訪勢の活躍物凄く全日本選手權大會にふさはしい好記錄の續出を見た。

大會は第二日も諏訪湖蓼の海の兩リンクで擧行。ホツケーは決勝戰に稻門倶樂部棄權して滿洲醫大軍が優勝し、スピードは千五百米にまたも日本新記錄が續出、一萬米では潤間留十選手日本新記錄を樹立して内地軍の爲め氣を吐き、優勝の決定に興味をひいたが滿洲大澤選手に依つて選手權は獲得され、二つの選手權は滿

洲の手に歸した。

尙、この大會に奉天から奉天高女四年生の井上浩子さんがわざ〳〵來征し、千五百米に三分二一秒六の記錄を出し、大會を賑ぎはした。

スピード及アイス・ホツケーに引き續いてフイギユア全日本選手權は、一週間おくれて一月二十四、五兩日仙臺五色沼リンクで擧行されたが、新進の擡頭目覺ましく、關西のNo.1老松選手が選手權を獲得した。

スピード競技

（一月十八、九日　於諏訪湖）

五百米（タイム・レース）
1大澤義一（滿洲）四八秒六、2潤間留十（諏訪）、3潤間正見（諏訪）

千五百米（タイム・レース）
1小池富治（滿洲）二分三五秒〇（日本新記錄）（2大澤義一（滿洲）二分三七秒二（日本新記錄）、3潤間留十（諏訪）

五千米（タイム・レース）
1潤間留十（諏訪）九分三二秒二（日本新記錄）、2行田和（諏訪）九分三四秒二（日本新記錄）、3大澤義一（滿洲）九分三四秒六（日本新記錄）、4小池富治（滿洲）九分三六秒〇（日本新記錄）

一萬米（タイム・レース）
1潤間留十（諏訪）一九分五六秒九（日本新記錄）、2小池富治（滿洲）、3行田和（諏訪）、4大澤義一（滿洲）

オープン・レース

二千米リレー（タイム・レース）
1滿洲（岩本、平野、小池、大澤）三分二六秒四、2諏訪

選手權順位
1大澤義一（滿洲）二二〇・二三〇、2潤間留十（諏訪）二二〇・三六五、3小池富治（滿洲）二二一・一八六、4行田和（諏訪）二二六・〇七三、5潤間正見（諏訪）二二六・四一六、6矢崎猶重（明大）二三二・七六〇

アイス・ホツケー競技

（一月十八、九日信州諏訪蓼の海リンク）

第一豫選
滿洲醫大 3—2 日光精銅所

第二豫選
上諏訪 3—3 諏訪中學
稻門倶樂部 13—0 白鳥倶樂部
慶大棄權 滿洲醫大棄權 ペンギン 帝大

準決勝
稻門倶樂部 3—1 慶大
滿洲醫大 13—0 上諏訪

決　勝

滿洲醫大　棄　稻門倶樂部

フイギュア競技

（一月廿四、五日　於仙臺五色沼リンク）

選手權成績順位

順位	氏名	所屬	スクール	フリー	總得點
1	老松一吉	（關西）	六七一・七五	五七〇・六	二四二・三五
2	帶谷龍一	（慶大）	七三四・二四	四七六・四	二〇〇・六〇
3	小林進	（日本スケート會）	六五〇・二五	四一六・四	一〇八六・六五
4	和田	（慶大）	五九〇・七五	四九〇・八	一〇八一・五五
5	今野	（明大）	五二一・九〇	三九四・二	九九六・一〇

第三回大會（昭和七年）

レークプラシッドの第三回冬季オリムピック大會にはじめて日本選手を出場せしめた我がスケート界にとつて記念すべき歴史的な年である。吾等が代表スピード石原、木谷、潤間、河村、フイギュア帶谷、老松等第一線に活躍する選手のオリムピック遠征は內地に於けるこの年の競技會を相當淋しいものにしたが、それよりも、この年は全國一般に暖氣で、寒さを特色とする諏訪に寒中豪雨が降ると云つた工合で大會それ自身が既に惠まれなかつた。

選手權大會は、アイス・ホッケーは青森縣八戸市、スピードとフイギュアは諏訪湖で行ふことになり、アイス・ホッケーは第一陣を承つて一月十六、七兩日行はれた、學生大會も暖氣の爲お流れといふ有樣だつたから學生選手はすつかり氣をくさらせ、全日本にも遂に姿を現はさず、これまた淋しいものであつたが、日光、苫小牧王子と云つた一般チーム中での一流が參加して居り、然もこれ等のチームが學生チームを凌ぐ程の技術の進歩を示してくれたことは、何よりも喜ばしく感じられた。

かくしてアイス・ホッケーは無事終了したがスピード、フイギュアはすつかり御難に會つた。

大會豫定日は一月二十三日であつたが、何しろ毎日春のやうな日和だつたので諏訪湖は勿論結氷せず、下諏訪のリンクと上諏訪の蓼の海と決めては居たが、それも危ないので二十二日の晩下諏訪町役場で選手會を開き善後策を講じた結果、フイギュアは二十五日迄に競技を行ふことが出來なければ諏訪で行ふことを中止し選手權だけを東京の室內リンクで行ひジュニアは中止、尙二十五日迄に氷のコンデイシヨンがよくなければ夜電燈をつけてもやつてしまふ。またスピードは二十六日迄に出來ない場合は中止し、競技開始後コンデイシヨンが惡くなり中止する場合は、その種目はそれで打ち切り、翌日は豫定通りの種目だけを行ひ、最後迄競技を完了し得なかつた時は選手權とせず、記錄だけを認めるといふ申合せをしたが、二十三日は夜半から豪雨で豫期の如く延期、幸ひ二十四日は早朝來寒氣が加はつたので無理にも決行しやうといふので午前八時十分から惡コンデイシヨンと闘ひつゝ何んとかかんとか兎に角に晩迄かゝつてスクールとフリーを完了することが出來た。

二十四日頃から幾分づつ寒氣が加はつたので二十五日蓼の海のスピード選手權は豫定の通り午前八時半から擧行した。風もなく快晴に惠まれたのではあつたが雪氷であつた爲めに太陽が上るに從つて氷面がだん〳〵と軟かになり五百米を終了して十一時半五千米を行ふ頃に至り競技不可能となり、午後四時迄待つたが依然として凍結を見ず、この日はこれで中止。

委員は直ちに下諏訪役場で協議會を開いたが翌二十六日果して可能となるや否や全く見透しがつかないので、スピード競技は遂に中止された。

この大會に滿洲から瀧三七子、井上和歌子、井上浩子の三孃がはる〴〵とやつて來たのだが何せよこの有樣で氣の毒に絶へなかつた。

アイス・ホッケー競技

（一月十六、七日　於八戸市長根リンク）

第一豫選

日光NCW　19—0　八戸白山

準決勝

日光　4—1　八戸中學

苫小牧王子　2—0　日光NCW

決勝

苫小牧王子　4（3—0、0—0、1—1）1　日光B

〔王子〕

原　木　卷　倉　元

鈴　林　戸　朝　平　GK

FW　子　邊　津　澤

金　渡　高　黑　池　澤

DF　田　弟　本　山

〔日光〕

フイギュア競技

（一月廿四日　於、信州下諏訪リンク）

選手權成績順位

1　佐藤金吾（關西）　四〇〇・五〇點

2　片山敏一（關學）　三九五・七〇點

3　和田（日本協會）　三八九・九〇點

スピード選手權競技會は一月二十五、六兩日信州上諏訪蓼の海リンクで擧行の筈であつたが暖氣の爲結氷惡く、二十五日五百米と女子五百米競技を行つたのみでスピード選手權は遂に中止した。

第四回大會（昭和八年）

フイギュアを山王リンクで、アイス・ホッケーとスピードを日光細尾リンクで行ふ。

フイギュアは一月二十一、二の二日間であつた。オリムピック

選手老松、帶谷老巧ぶりを示すも關學の片山、慶大の渡邊等新進の躍進があつてスクール及びフリー・スケーチング共に興味があつたが新進片山遵に選手權を獲得するに至つた。

スピード及ホッケーは一月二十七日から行はれたが第一日の二十七日は朝から雪が降つて競技の進行をさまたげた爲にスピードは翌日第一日を行ふことにして延期、ホッケーだけを擧行する。

この第一日早くも日光A對慶大、滿洲醫大補仁對苫小牧王子と優勝候補の顏合せがあつて興味ある試合を展開した結果、遠來の滿醫補仁先づ苫小牧の强力なる攻擊に合つて1——0で惜敗すれば、この年の學生大會の覇者慶大も日光精銅所Aの駿足に後陣を亂され2——1で敗退する。

スピード第一日、ホッケー第二日の二十八日は、朝來晴天、寒氣きびしく從つて氷質堅すぎてコンデイションは餘りよい方ではない。スピードは朝鮮の李、高二選手がオリムピック選手河村、潤間留十選手を凌ぐ好成績を擧げ、李は五百米に日本タイム記錄を作り、五千米でも日本記錄に迫る好記錄を出した。ホッケーでは豫想を裏切つて日光精銅所Aは早大の巧みな戰法のため2——1で敗れ、早大は決勝で苫小牧と對戰することになつた。

最終日の二十九日は氣溫零下四度、快晴、午前中行はれたホッケー決勝は、早大またもや豫想をくつがへして强敵苫小牧王子を破つてこの年のホッケー選手權を獲得、スピードでは朝鮮から初出場の李聖德選手が河村、潤間等オリムピック選手を抑へて堂々と優勝、選手權を握つた。

スピード競技

（一月廿七、八、九日　於、日光細尾リンク）

五百米（タイム・レース）

1李聖德（朝鮮）四八秒（日本タイ記錄）、2大澤義一（滿洲）、3高（朝鮮）

千五百米（タイム・レース）

1河村泰男（滿洲）二分三三秒六（日本新記錄）、2李聖德（朝鮮）二分三四秒九（新日本記錄）、3潤間正見（諏訪）

五千米（タイム・レース）

1李聖德　朝鮮）九分二六秒九、2小池富治（諏訪）、3潤間正見（諏訪）

一萬米（ダブル・コース）

1小池富治（諏訪）一九分四秒一、2行田和（諏訪）一九分七秒3李聖德（朝鮮）一九分一四秒七、4濱三人（諏訪）一九分一五秒二、5潤間正見（諏訪）一九分二六秒六、6堀（諏訪）一九分三八秒一（以上何れも日本新記錄）

選手權順位

1李聖德（朝鮮）二一四・〇三八點、2小池富治（諏訪）二一七・三〇五點、3行田和（諏訪）二一七・四二三點、4潤間正見（諏訪）二一七・八七點、5潤間留十（諏訪）二一二・五三八點

アイス・ホッケー競技

（一月廿七、八、九日　於、日光細尾リンク）

第一豫選

全東京 16——2 八戸倶樂部
苫小牧王子 1——0 滿洲醫大
日光A 7——2 慶大
早大 4——1 日光B

準決勝

苫小牧王子 12——0 全東京
早大 2——1 日光A

決勝

早大 1（1—0、0—0）0 苫小牧王子

〔早大〕 FW 中藤保伊古左桑羽 / 楯原坂藤 DF 右田山 / 田 GK

〔苫小牧〕 FW 林木鈴原芳大 / 賀和卷倉元 DF 戸朝 / 平 GK

フイギユア競技

（一月廿一、二日　於、山王リンク）

選手權成績順位

順位	氏名	所屬	スクール	フリー	順位點
1	片山敏一	（關學）	六九六・三	五八四・四	六
2	老松一吉	（大阪）	六六三・二	五八四・四	二
3	長谷川次男	（日本ス）	六九三・二	四九八・〇	一五
4	帶谷龍一	（三田）	六四九・八	四五六・〇	二五
5	小林	（慶大）	六四二・〇	四六五・六	二八

6渡邊（慶大）、7小林（明大）、8佐藤（大阪）、9長谷川次（日本ス）、10和田（三田）

第五回大會（昭和九年）

フイギユア一月十三、四日大阪朝日ビル、アイス・ホッケー一月十九日より三日間芝浦リンク、スピード二月三、四兩日鴨綠江安東といふ競技日程のもとに擧行された。

フイギユアは片山選手の躍進著しく遙か群を拔くの觀を呈して再び選手權を獲得、アイスホッケーは、參加九チーム（慶大、立大、明大、苫小牧王子、滿洲醫大、稻門倶樂部、全日光、全京城成城OB）早大はインターカレヂ終了と共に滿鮮に遠征して參加を見なかつた。試合は期待された苫小牧王子第二豫選で早くも明大の爲め敗退、決勝は滿洲醫大、慶大の顏合せとなり結局慶大が選手權を獲得した。

スピード第一日は二月三日安東鴨綠江の大リンクで午前九時から開始された天候晴、氣溫零下七度半、西北の風四米、氷厚二尺一寸、氷質は堅すぎて餘りよくない。參加選手は內地から小池富治、潤間留十、正見、行田、明大の金選手遠征、これに滿鮮の選手を合して四十餘名であつた。

第一日五百米で安東の石原選手四七秒八の日本新記錄を現はし五千米では明大の金正淵選手九分一四秒八の驚異的日本記錄を出して一九三一年潤閏留十選手が作つた日本記錄九分二三秒九を九秒も縮めた。第二日は午前九時二十分から擧行された。この日の氣溫は零下十六度、東北風四米半前日よりコンデイションが惡く、氣づかはれたが一萬米で明大金選手日本新記錄を樹立し四種目通算の結果この年のスピード選手權を掌握する。

スピード競技

（二月三、四日　於、鴨綠江リンク）

五百米（タイム・レース）

1石原省三（安東）四七秒八（日本新記錄）、2木谷德雄（安東）3李聖德（早大）

千五百米（タイム・レース）

1李聖德（早大）二分三六秒四、2、河村泰男（滿洲）、3金正淵（明大）

五千米（タイム・レース）

1金正淵（明大）九分一四秒八（日本新記錄）、2小池富治（諏訪）、3濱諏訪）

一萬米（タイム・レース）

1金正淵（明大）一九分二秒八（日本新記錄）、2李聖德（早大）3小池富治（諏訪）

選手權順位

1金正淵（明大）二一五・六二點、2李聖德（早大）二一七・六一點、3崔龍振（明大）、二二三・〇八點、4河村泰男（滿洲）二二三・二四點、5木谷德雄（安東）二二三・三三

アイス・ホツケー競技

（一月十九、廿、廿一日　於、芝浦リンク）

第一豫選

慶大 12—2 立大

第二豫選

明大 2—1 苫小牧王子
滿洲醫大 11—1 稻門倶樂部
全日光 8—0 全京城
慶大 16—0 成城OB

準決勝

滿洲醫大 3—2 明大
慶大 7—2 全日光

決勝

慶大 5（1—2、1—0、3—0）2 滿洲醫大

〔慶大〕
FW 藤野 正 / 龜井 / 古屋
DF 鹽田 / 新城
GK 阿部
反則 2

〔滿醫大〕
FW 木下兄 / 平野 / 木下弟
DF 早間 / 堀
GK 淺尾
反則 4

フイギユア競技

（一月十二、三、四日　於、大阪朝日ビルデイング）

選手權成績順位

順位	氏名	所屬スクール	フリー	順位點
1	片山敏一	（關學）	九七八・〇	八八三・五	七
2	渡邊善次郎	（慶大）	九〇三・一	七三〇・〇	一七
3	長谷川次男	（慶大）	九一三・五	七三三・五	一八
4	小林勝利	（慶大）	—	—	三六
5	長谷川章夫	（日ス會）	—	—	四〇
6	小林二	（明大）、7老松（大ス倶）、8倉橋新（大ス倶）、9倉橋哲（關學）、10北川（大ス倶）			

第六回大會（昭和十年）

翌年に迫つた第四回冬季オリムピツク大會に派遣すべき代表選手を決定する年であつたから各選手共異常の緊張を示した。

大會はスピード日光細尾リンク、フイギユア芝浦と伊勢丹リンク、ホツケー芝浦リンク。

スピード第一日は一月二十二日午前九時から日光細尾リンクに於て、今年第一回の女子選手權競技をも加へて擧行した。快晴氣溫零下四度、氷面滑かで突風性の西北風もさして強からず、天候氷質共に惠まれたコンデイションであつた。

この五百米に於て石原選手は四五秒五の日本新記錄を出し、李選手も四五秒九の新記錄を現はすや中村、木谷、三代、金の各選手何れも日本記錄を破つて素晴しい好成績を示した。五千米でも金選手は、この年のインターカレヂで作つたばかりの日本最高記錄をまたも一新して八分四九秒九の日本新記錄を樹立して滿場を驚喜せしめた。

スピード第二日は朝來薄雲りで十時頃から小雪とかはつたが無風で氣溫は零下四度。氣づかはれた雪も晝頃止んで薄陽が射して來た。覇權を目指して選手は最後の奮戰に火花を散した。千五百米に金選手は二分二八秒フラットの日本新記錄を樹立して李、石原を抑へた。然もこの千五百米は五位迄が全部日本記錄を破るものであつた。金選手の活躍は更に目覺ましく一萬米に於ても壓倒的で、全種目を合して總得點二〇四點六四の最優秀得點を收めスピードの選手權を二年連續獲得した。

ホツケー選手權第一日は二十五日午前九時半から芝浦リンクで擧行された。早、慶、明、立の關東勢に滿洲、北海道、朝鮮の遠征軍を合して九チームを以つて熱戰を展開した。

一般軍と學生軍との對戰に興味をつないだが、學生軍は第一日早くも早明敗退し、滿洲醫大も苫小牧王子に、慶大もまた日光古河に敗れて學生軍總くづれとなり、決勝では苫小牧、日光が顏を合せ、逆に苫小牧王子軍が選手權を握る。王子軍の勝因は滿々たる鬪志と強靱なる脚力、加ふるにねばりのあるステイツク・ワークに依るものであつた。

フイギユアは二十六日伊勢丹リンクでスクールを二十七日午後

一時からフリースケーチングを擧行した。男子選手權では片山選手が長谷川選手と接戰の後インターカレヂの雪辱をなしつゝ三年連續選手權を獲得し、女子は最年少の稻田孃がスクール、フリー共に斷然好成績を示して第一回女子選手權を獲得した。

スピード競技

（一月廿二、三日　於日光細尾リンク）

男子選手權

五百米（タイム・レース）

1石原省三(早大)四五秒五(日本新記錄)、2李聖德(早大)、中村禮吉(苫小牧工)

千五百米（タイム・レース）

1金正淵(明大)二分二八秒(日本新記錄)、2河村泰男(滿洲)3李聖德(早大)

五千米（タイム・レース）

1金正淵(明大)八分四九秒九(日本新記錄)、2李聖德(早大)3張祐植(明大)

一萬米（タイム・レース）

1金正淵(明大)一八分二四秒五(日本新記錄)、2李聖德（早大)、3張祐植(明大)

選手權順位

1金正淵(明大)二〇四・六四八點、2李聖德(早大)二〇八・一四〇點、3河村泰男(滿洲)二一四・〇四五點、4張祐植(明大)二一五・二七三點、5安達和男(滿洲)二一五・四六六點、6石原省三(早大)、7尹明洙(朝鮮)、8潤間留十(諏訪)南洞邦夫(滿洲)、10潤間正見(諏訪)

女子選手權

五百米（タイム・レース）

1瀧三七子(滿洲)五四秒四、1簗瀨暢子(滿洲)五四秒四、3岩田みよ子(滿洲)五九秒七、3木谷妙子(滿洲)五九秒七、5石橋幾(東北)、6畑內ちえ(東北)

千五百米（タイム・レース）

1瀧三七子(滿洲)二分五七秒四、2木谷妙子(滿洲)二分五九秒六、3簗瀨暢子(滿洲)三分三秒三(日本新記錄)、4岩田みよ子(滿洲)、5畑內ちえ(東北)、6島守もと(東北)

選手權順位

1瀧三七子(滿洲)一一三・五三三點、2簗瀨暢子(滿洲)一一六・五〇〇點、3木谷妙子(滿洲)一一九・五六六點、4岩田美代子(滿洲)一二三・八〇〇點、5畑內ちえ(東北)一六五・四六六點

アイス・ホッケー競技

（一月廿五、六、七日　於、芝浦リンク）

第一豫選

明大 3—1 全京城

第二豫選

苫小牧王子 7—4 早大
滿洲醫大輔仁 11—2 明大
慶大 9—2 滿鐵
日光 7—2 立大

準決勝

苫小牧王子 5—4 滿洲醫大輔仁
日光 7—1 慶大

決勝

苫小牧王子 6（1—3、3—0、2—0）3 日光

〔苫小牧〕		〔日光〕
瓶澤		井保
二北原	FW	野山部
福安戸	DF	星神阿澤
平	GK	金子
1	反則	5

フイギユア競技

（一月廿六、七日　於、伊勢丹、芝浦リンク）

選手權成績順位

順位	氏名	所屬	スクール	フリー	順位點
1	片山敏一	(關學)	九四三・三〇	七〇三・〇八	一四
2	長谷川次男	(慶大)	八四七・三〇	七八七・五〇	一五
3	老松一吉	(關西)	八四二・七〇	七一六・四六	二〇
4	渡邊善次郎	(慶大)	—	—	二三
5	倉橋新	(關西)	—	—	三八
6	小林勝利	(慶大)			
7	北川	(關西)			
8	長谷川章	(關東)			
9	倉橋哲	(關西)			

第七回大會（昭和十一年）

第七回全日本氷上競技選手權大會は、一月二十二日から二日間日光細尾に於てスピード競技大會を、同二十四、五、六の三日間は山王及び芝浦スケート場に於てアイス・ホッケー及びフイギュア競技大會を擧行した。

この年は恰度第四回冬季オリムピック大會が、ドイツのガルミシュ・パルテンキルヘンに於て開催の年であつたので、日本からも各種目に亘り代表選手を派遣したため、この年の選手權大會は、云はゞ留守軍ともいふべき選手の間に爭覇が行はれ、技術的の期待とか興味とかいふものは大いに減殺されて居た。

スピード競技第一日は二十二日午前九時半から開始された。曇天で從つて氣溫も上り氣味で零下一度といふにすぎなく、氷質は軟かすぎてコンデイションとしてはよくなかつた。參加選手は男子二十三名、女子七名、流石に淋しさを味はせた。

大會第二日は午前は比較的よい天候であつたが午後は烈風性の強風が吹きまくつてコンデイションは、よいとか悪いとかいふ問

題でなく、むしろ、この中で敢然とレースを行つた役員、選手の眞摯なる行動に敬意を表すものがあつた。

この中で、女子の江島孃が千五百米レースに瀧三七子孃の保持する二分五七秒四の日本記錄を更新したことは、男子の不振に比べ大いに氣を吐くものであつた。

アイス・ホッケーは二十四、五、六の三日間芝浦リンクで行はれた。出場チームは八つ、遠來の全撫順、滿鐵、延禧專門は第一回戰に於て早くも敗退、戰鬪は結局早、立、慶など大學チームの間に鬪はされることになつたが日光古河がなか〳〵ねばり强く、決勝迄殘つたのち五對四の接戰で敗れた。

フイギュア競技もスピード同樣オリムピック大會に第一線を送つて居るので第二線の人達の間に行はれ男子では大阪スケート倶樂部の北川選手が、女子は東京の東郷孃が優勝した。

スピード競技

（一月廿二、三日　於、日光細尾リンク）

男子選手權

五百米（タイム・レース）

1 三代正勝（滿洲）　四六・四秒
2 安達和男（同）　四七・二
3 安重淵（明大）　四七・三
4 金永河（同）　四七・五
5 木谷清（滿洲）　四七・八
6 李仁源（朝鮮）　四八・〇
7 張日弘（明大）　四八・二
8 崔龍振（同）　四八・三
9 朴潤哲（滿洲）　四八・五
10 許景日（明大）　四八・八
（以下略）

千五百米（タイム・レース）

1 崔龍振（明大）　二、二八・四秒
2 李仁源（朝鮮）　二、三一・八
3 安達和男（滿洲）　二、三二・八
4 木谷清（同）　二、三四・三
4 張日弘（明大）　二、三四・三
6 安重淵（同）　二、三四・五
7 尹世植（同）　二、三六・三
8 朴潤哲（滿洲）　二、三六・四
9 金永河（明大）　二、三六・六
10 朱鳳德（同）　二、三八・六
（以下略）

五千米（タイム・レース）

1 安達和男（滿洲）　九、〇五・四秒
2 崔龍振（明大）　九、一二・一
3 李仁源（朝鮮）　九、二三・六
4 木谷清（滿洲）　九、三一・四

5 尹世植（明大）　九、三一・八
6 安重淵（同）　九、三六・一
7 張日弘（同）　九、三七・〇
8 朴潤哲（同）　九、四一・〇
9 許景日（明大）　九、四四・〇
10 金永河（同）　九、四七・二
（以下略）

一萬米（タイム・レース）

1 李仁源（朝鮮）　一九、〇三・三分秒
2 安重淵（明大）　一九、一九・五
3 安達和男（滿洲）　一九、二三・七
4 崔龍振（明大）　一九、四一・五
5 木谷清（滿洲）　一九、四三・五
6 金永河（明大）　二〇、〇〇・二
7 潤間留十（諏訪）　二〇、一五・八
8 朱鳳德（明大）　二〇、二九・三
9 朴潤哲（滿洲）　二〇、四一・二
10 張日弘（明大）　二〇、三一・八
11 三代正勝（滿洲）　二一、〇八・〇
12 許景日（明大）　二一、一四・〇
13 谷田貝菊一（日光）　二一、三二・一
（潤間正見途中棄權）

選手權得點及順位

1 安達和男（滿洲）　二一〇點八五八
2 崔龍振（明大）　二一一點〇五一
3 李仁源（朝鮮）　二一一點一二五
4 安重淵（明大）　二一四點三八五
5 木谷清（滿洲）　二一五點五四八
6 金永河（明大）　二一八點四三〇
7 張日弘（同）　二一八點九二三
8 朴潤哲（滿洲）　二二〇點七九三
9 三代正勝（同）　二二一點七一三
10 朱鳳德（明大）　二二三點一三八
11 潤間留十（諏訪）　二二四點二四〇
12 許景日（明大）　二二四點五六六
13 谷田貝菊一（日光）　二二三點四五一

女子選手權

五百米（タイム・レース）

1 江島八重子（滿洲）　五五・四秒
2 今村俊子（同）　五五・五
3 村山菊子（同）　五七・〇
4 村山節子（滿洲）、5和田すま子（朝鮮）、6前田きよ子（朝鮮）、7渡邊光子（朝鮮）

千五百米（タイム・レース）

1 江島八重子（滿洲）　（日本新記錄）五、五〇・〇分秒
2 村山菊子（滿洲）　三、〇二・〇

3 今村俊子（同）　三、〇五・二
4 村山節子（同）　三、一一・〇
5 前田きよ子（朝鮮）　三、二九・六
6 渡邊光子（同）　三、三〇・七
7 和田すま子（同）　三、四八・〇

選手權得點及順位

1 江島八重子（滿洲）　一一二點〇六
2 今村俊子（同）　一一七點二三
3 村山菊子（同）　一一七點六六
4 村山節子（同）　一三〇點九六
5 前田きよ子（朝鮮）　一四〇點三六
6 渡邊光子（同）　一四一點〇三
7 和田おま子（同）　一四六點〇〇

アイス・ホッケー競技

（一月廿四、五、六日　於、芝浦リンク）

第一回戰

立大 5（1 1 0 / 3 1 0）0 全成城
早大 4（0 0 2 / 4 0 1）3 滿鐵
慶大 9（2 1 1 / 5 1 1）3 延禧專門

準決勝戰

日光古河 15（5 5 0 / 5 0 0）0 全成城
早大 5（2 1 0 / 2 1 1）2 立大

（審判　金子、難波氏）

早大〔FW 別所、平田、富田、安部、小須田、西堀〕〔DF 安田、柴山、松本〕〔GK 中島〕
立大〔FW 谷開、新柳、小田橋、砂谷、大熊中、田川、西谷〕〔DF 金谷、千葉〕〔GK 千葉〕
反則　立大 3　早大 4

日光古河 3（2 0 1 / 1 0 0）1 慶大

（審判　牧、清水氏）

慶大〔FW 丹羽谷、加賀堤、後藤嵐、五十菅、小澤葉〕〔FD 玉田、稻野、鹽村〕〔GK 大河、河野〕
日光〔FW 村山、神山、阿部、澤本弟、田野井、永山〕〔FD 星野、澤本兄〕〔GK 金子、小平〕
反則　慶大 1　日光 2

決勝戰

早大 5（1 3 1 / 1 3 1）4 日光古河

（審判　金子、難波氏）

早大〔FW 別所、西田、富田、安部、小須田、平田〕〔DF 松本、安田〕〔GK 中島〕
日光〔FW 井野、山本、山弟、田野兄、村山、阿部、永澤本、神山、星野、澤本兄〕〔DF 金子〕
反則　早大 1　日光 4

フイギュア競技

（一月廿四、五、六日　於、芝浦、山王リンク）

男子選手權成績順位

順位	氏名	所屬	順位點	スクール	フリー	總得點
1	北川靜二	（大阪）	10	七〇八・八	五六一・二六	二三七〇・〇六
2	小林勝利	（慶大）	12	七一〇・三	五四三・六六	二二四四・九六
3	倉橋新	（神戸）	16	七四九・八	五〇〇・〇八	二二四九・八八
4	東郷俊二	（關東）	22	六三三・六	五七二・二三	二二〇五・八三
5	倉橋哲夫	（關西）	29	七一七・二	四五四・八六	二一七〇・〇六

6 星野正三（慶大）一一四八・四三、7 山本嘉成（明大）一一四七・四七、8 長谷川章夫（關東）一一六三・七八、9 黑田長義（早大）一〇八一・六五

女子選手權成績順位

順位	氏名	所屬	順位點	スクール	フリー	總得點
1	東郷球子	（關東）	6	七〇〇・九	五五一・九五	一二四二・八五
2	月岡芳子	（大阪）	11	六九九・六	五八七・八六	一二八七・四六
3	手塚滿子	（關東）	16	六七六・〇	五八七・五五	一二五四・五五
4	中村衣子	（神戸）	18	六八三・七	五五九・九三	一二四三・六三
5	佐藤節子	（大阪）	24	六六六・四	四四八・二一	一一二四・六一

第八回大會（昭和十二年）

第八回全日本氷上競技選手權大會は、一月二十四五日の兩日長野縣諏訪湖南岸石舟渡でスピード競技大會を、同じく一月二十九日から三日間芝浦スケート場でアイス・ホッケー、フイギュアを山王、芝浦兩スケート場で擧行した。

スピード大會は豫定では一月二十二日から上諏訪から約一里半山の中へ入つた蓼の海スケートリンクで開催することになつて居たが、期日前日になつてから氣溫が俄かに上昇し、雨まじりのぼた雪が降ると云つた調子で、折角作つた四百米のスピード、トラックには水が四、五寸も溜つてしまひ大會は延期の止むなきに至つた。

これが爲に大會準備に二、三日早く出かけた倉町スピード部長は、中部聯盟の三輪、藤森、潤間、小池、有賀（賢）、伊藤、河西、有賀（二）君達と協力探しあてたのが諏訪湖南岸石舟渡であつた。

そして中部聯盟の各位上諏訪町が總力をあげて、徹夜の難事業を敢行雪の積つた凹凸のはげしい氷を手入れして四百米のトラックが出來上つた時は選手は勿論役員は歡喜に溢れた。スケート聯盟としてはこの上もなく貴い體驗をした譯であるが、上諏訪町及中部聯盟役員の御好意御努力に對しては深甚の謝意を表したい。

この大會には早大スケート部が、學聯の申合せで一シーズン學聯競技會へ出場しないことになつて居たので、早大は滿洲遠征をしてこの全日本大會にはスピード、フイギュア、アイスホッケーとも出場せずやゝ淋しい感があつた。

スピード大會第一日は二十四日この石舟渡で擧行、晴天無風の好天、八ヶ岳が晴れ上つた空にくつきり浮び出て、遠來の滿洲選手などかういふ風景に接しないだけに喜びは一入であつた。但しこの好天にかゝはらず氷は氷面がざら〳〵として居て滑り惡く、それに降雨雪のため選手は練習が思ふやうに出來なかつた爲め記錄的にはこれはと思ふものはなかつた。只女子競技に北海道苫小牧からの參加があつて滿洲女子軍と對峙したことは特筆すべきことであつた。

スピード選手權は、男子では金正淵、崔龍振兩選手の間に猛烈な接戰が展開され、最後の一萬米で勝敗が決し、崔選手が選手權を獲得した。女子の方は、この年から新たに三千米、五千米レースが加へられ滿洲の江島八重子孃が四種目全部に優勝二年連續覇權を握つた。三千、五千米は、女子にはどうかと思はれたがラストに入るも、尙ほ十分に餘裕があり、女子スピードの進歩を物語つた。

アイスホッケーは、參加七チーム、例に依り、屋内リンクを手近かに持つ東京の學生チームは何んと云つても條件に惠まれ、各地方チームを總なめにして快勝は立大對明大となつた。明大の精悍が何處まで喰ひ下るか興味をひいたが結局及ばず、立大の初優勝となつてしまつた。明大は體力的には立大に優るとも劣るものはなかつたが、FW、DFの技術の差が勝敗を決するものとなつた。立大は近來の好チームであつた。

フイギュアに於ける興味はオリムピック選手の活躍にあつた。男子では片山が素晴しい確實味を加へ、渡邊と共に他に飛び拔けて居た。この兩者のスクールは一寸他からは手が出せなかつたやうである。女子では稻田孃の飛躍と共に月岡孃の今後に大きな期待がかけられることを感じた。

スピード競技

（一月廿四、五日　於、諏訪湖リンク）

男子選手權

五百米（タイム・レース）

1 崔　龍　振（明大）　四六・八秒
2 三代正勝（滿洲）　四七・〇
3 金　正　淵（明大）　四七・九
4 泉山貞義（同）　四八・四
5 木谷　清（滿洲）　四八・六
5 石塚省三（同）　四八・六
7 尹　世　植（明大）　四八・七
8 安重熙（同）　四八・八
9 木谷　清（滿洲）　四九・〇
10 三代正勝（滿洲）　四九・三
（以下略）

一萬米（タイム・レース）

1 崔　龍　振（明大）　一九分二六・〇秒
2 金　正　淵（同）　一九、二九・〇
3 張　祐　植（同）　二〇、〇二・一
4 金　基　滿（朝鮮）　二〇、二一・一
5 泉山貞義（明大）　二〇、二二・二
6 尹　世　植（同）　二〇、二八・八
7 安達和男（滿洲）　二〇、三四・九
8 花岡光夫（諏訪）　二〇、三六・二
9 濱　三　正（滿洲）　二〇、四〇・二
10 朴　潤　哲（同）　二〇、四八・八
（以下略）

7 朴　潤　哲（同）　九、五八・二
8 安達和男（同）　一〇、〇〇・〇
9 許　景　日（明大）　一〇、〇八・〇
10 金　基　滿（朝鮮）　一〇、三八・〇
（以下略）

千五百米（タイム・レース）

1 崔　龍　振（明大）　二分二九・七秒
2 金　正　淵（同）　二、二九・八
3 朴　潤　哲（滿洲）　二、三四・九
4 金　基　滿（朝鮮）　二、三五・七
5 泉山貞義（明大）　二、三五・八
6 安達和男（滿洲）　二、三六・二
7 金　莊　煜（明大）　二、三七・一
8 花岡光夫（諏訪）　二、三八・六
9 三代正勝（滿洲）　二、三八・九
10 尹　世　植（明大）　二、三九・七
（以下略）

五千米（タイム・レース）

1 金　正　淵（明大）　九分一〇・四秒
2 崔　龍　振（同）　九、二一・四
3 張　祐　植（同）　九、二六・五
4 泉山貞義（同）　九、四六・五
5 金　基　滿（朝鮮）　九、五〇・二
6 朴　潤　哲（滿洲）　九、五六・六

選手權得點及順位

1 崔　龍　振（明大）　二一
2 金　正　淵（同）　二一
3 張　祐　植（同）　二一
4 泉山貞義（同）　二一
5 金　基　滿（朝鮮）　二一

6 朴潤哲（滿洲）
7 安達和男（同）
8 三代正勝（同）
9 尹世植（明大）
10 花岡光夫（諏訪）

女子選手權

五百米（タイム・レース）

1 江島八重子（滿洲）　五四・八秒
2 壹岐イサ子（同）　五六・〇
3 今村俊子（同）　五六・六
4 村山菊子（同）　五七・五
5 壹岐修（同）　五七・七
6 中川キヨ（北海道）　五八・一
7 坂本キヨ（同）　五八・二
8 汾陽泰子（滿洲）　五九・〇
9 大高タエ（北海道）　五九・六
10 村山節子（滿洲）　五九・八
（以下略）

千米（タイム・レース）

1 江島八重子（滿洲）　一、分五二・二秒
2 壹岐イサ子（同）　一、五三・一
3 木谷妙子（同）　一、五三・二
4 村山節子（同）　一、二四・三
5 汾陽泰子（同）　一、二八・〇
6 今村俊子（同）　一、五三・六
7 村山菊子（同）　一、五五・一
8 坂本キヨ（北海道）　一、五七・一
9 中川キヨ（同）　一、〇八・七
10 北澤ハナ（同）　一、〇八・九
（以下略）

三千米（タイム・レース）

1 江島八重子（滿洲）　一、五六・七
2 木谷妙子（同）　一、五七・七
3 壹岐イサ子（同）　一、五八・八
4 今村俊子（同）　二、〇一・六
5 村山菊子（同）　二、〇三・三
6 汾陽泰子（同）　二、〇三・九
7 坂本キヨ（北海道）　二、〇六・八
8 村山節子（滿洲）
9 中川キヨ（北海道）
10 壹岐修（滿洲）
（以下略）

五千米（タイム・レース）

1 江島八重子（滿洲）　六、分二九・八秒
2 木谷妙子（同）　六、二九・八
3 壹岐イサ子（同）　六、三四・一
4 村山節子（同）　六、四四・一
5 坂本キヨ（北海道）　六、四六・三
6 村山菊子（滿洲）　六、四八・四
7 汾陽泰子（同）　六、四九・三
8 今村俊子（同）　六、五一・二
9 中川キヨ（北海道）　六、五四・六
10 北澤ハナ（同）　七、〇二・〇
（以下略）

4 村山節子（同）
5 汾陽泰子（同）
6 今村俊子（同）
7 村山菊子（同）
8 坂本キヨ（北海道）
9 中川キヨ（同）
10 北澤ハナ（同）

選手權得點及順位

1 江島八重子（滿洲）　二三九・七七六
2 木谷妙子（同）　二四五・六二六
3 壹岐イサ子（同）　二四六・〇五三
4 今村俊子（同）　二五四・八四三
5 汾陽泰子（同）　二四八・〇二六
6 村山菊子（同）　二五六・〇二六
7 村山節子（同）　二五七・二三〇
8 坂本キヨ（北海道）　二五八・四二六
9 中川キヨ（同）　二六二・〇二〇
10 北澤ハナ（同）　二七〇・一二三

アイス・ホッケー競技

（一月廿九、卅、卅一日　於、芝浦リンク）

第一回戰

明大 5（2—1、1—0）2 延禧專門
（審判　金子、古屋氏）

〔延禧〕
FW　昇東變、李聖弘、金義福、唐誠變、韓享漢、沈景變
DF　崔完福、尹斗植
GK　韓崇植
反則　2

〔明大〕
FW　口本、村邊、田野、根田、渡荻、草光、平
DF　畑、林
GK　崔
反則　2

慶大 3（0—1、0—0、1—0）2 苦小牧（北海道）
（審判　手塚、難波氏）

〔慶大〕
FW　菅井、谷田、堤岡、小澤、龜賀、加葉、鹽藤
DF　玉野、稻大
反則　0

〔苦小牧〕
FW　瓶村、二野原、塚越、芳林、戸賀、朝卷、平倉、元
DF
反則　0

立大 5（2—2、2—0、1—0）2 日光古河
（審判　平野、小西氏）

準決勝戰

〔立大〕中村田谷柳開橋 FW 田木砂金小新 DF 大谷 GK 山三 本宅
〔日光〕弟山山井納岡 FW 澤本永神田野安吉 DF 野兄 GK 星澤 子金
反則 4 — 2 反則

明大 3（1 0 0 0 2 / 0 0 2 0 0）2 慶大

〔慶大〕谷賀堤田菅殿岡澤葉野 FW 加鹽小古藤 DF 玉稻 GK 大野
〔明大〕口本村野川苅畑林 FW 田根田荻笹草光 DF 崔平 GK
反則 0 — 4

立大 17（7 5 5 0 0 / 5 2）2 全京城

（審判 小西、平野氏）

決勝戰

〔立大〕小柳砂田田中新開金谷大村 FW 大橋谷 DF 山本 GK
〔全京城〕中日深島置拓澤植本平大橋川宮 FW 橋 DF 山本 GK
反則 2 — 0 反則

立大 7（3 0 0 / 4 0 / 0 1）1 明大

〔立大〕中田柳村谷開橋 FW 田砂小大金新大谷 DF 山本 GK 崔
〔明大〕田田荻根渡草 FW 光平 DF 崔 GK
反則 3 — 3 反則

（審判 平野、古屋氏）

フイギュア競技

（一月廿九、卅、卅一日 於、芝浦、山王リンク）

男子選手權成績順位

順位	氏名	所屬	順位點	スクール	フリー	總得點
1	片山敏一	（關學）	5	一八八・七六	一四四・一七	三三二・九三
2	渡邊善次郎	（慶大）	12	一八〇・五三	一三九・〇一	三〇九・五三
3	長谷川次男	（同）	13	一七三・五三	一三四・三三	三〇七・八五
4	倉橋新	（關西）	21	一五五・〇四	一二六・八四	二八一・一二四
5	神田博	（同）	24	一四四・八六	一二六・六一六	二七一・四七六
6	東郷駿二	（關東）	30	一二七・四二	一二一・二九	二四八・七一八

女子選手權成績順位

順位	氏名	所屬	順位點	スクール	フリー	總得點
1	稻田悅子	（關西）	5	二〇四・四四	一五一・六二	三五六・〇八
2	月岡芳子	（同）	10	一七五・三〇	一四〇・一八二	三二五・四八二
3	中村衣子	（同）	15	一三〇・一八	一三六・一九二	二六六・三七二
4	手塚滿子	（關東）	22	一二六・四二	一一七・〇四	二四三・四六
5	依岡禮子	（關西）	23	一二三・七四	一〇二・一四四	二二五・八八四

第九回大會（昭和十三年）

第九回全日本氷上競技選手權大會アイス・ホツケー及スピード大會は一月十四、五、六の三日間北海道札幌市中島公園特設スケート場で擧行、フイギュア競技會のみ東京芝浦スケート場、山王スケート場で行はれた。

選手權大會が北海道で行はれたのは、この年がはじめてのことであつた。紀元二千六百年に札幌で行はれることに決つた第五回冬季オリムピツク大會の準備として行つたものである。先づ第一に競技場である。それから競技の運行であつたが、競技場は北海道氷聯久保、安田理事の研究、努力で地面に撒水して作り、なか〳〵優秀に出來上つた。尙オリムピツク大會迄には餘祐のあることだから一段と良好のものが期待される。運行も札幌と苫小牧で熱心に努力されたので、スキー大會に負けない盛況を呈した。

大會第一日は十四日午前九時の開會であつた。天候に惠まれて快晴、滿洲、朝鮮、關西、中部、關東、北海道地區の順で、二百五十名の選手が、西田北氷聯理事の先導で四百米のトラックを札幌商業ブラスバンドの吹奏する愛國行進曲で入場、國旗揭揚、國歌奉唱、前年度スピード優勝者崔龍振選手選手を代表して宣誓をなし、次いで北海道學務部長北海道スケート聯盟高辻會長の開會宣言あつて直ちに競技に入つたこの日氣溫零下四度、氷はやゝ軟かであつたが北の風が少しあつたので氷面をたへず締めて居た。

スピード競技は、男子では北海道苫小牧工業の內藤晉選手が急激に擡頭して來たのが目立ち、女子は北海道苫小牧の躍進が著しく、最早やこの狀態では、スケート王國滿洲も安閑としては居られないものを感じた。男子選手權は崔龍振が二年連覇、女子は滿洲江島孃が三年連續覇權を獲得した。

アイス・ホツケーは、參加チームは奉天滿鐵の棄權はあつたが、北大、明大、早大、立大、慶大、全札幌師、日光古河、苫小牧工業、苫小牧王子の九チームで非常に盛んであつた。

この大會での興味は、いつも東京の屋內リンクを試合場として居る各大學チームが、屋外のリンクで果してどんな試合ぶりを見せるか、そこに多分の興味を持つて居た。試合は結局練習に惠まれて居る早大の覇權獲得となつたが、明大、慶大は豫選で早くも

敗退してしまつた。屋外の自然氷のリンクで鍛ひ上げこゝで試合をすることがスケート本來の使命と思はれるから全日本選手權大會も事情の許す限りに於て屋外を利用すべきであらう。

大會は第一日、第二日と好天に惠まれ、第三日の最終日も午前は小雪を交へて荒模樣の天候であつたが、午後一時一萬米レースを行ふ頃には晴れ上り良コンデイシヨンとなり、大會三日間先づ惠まれたと云へる。全競技は午後四時豫定通り終了、選手、役員全員整列、札幌商業ブラスバンドの吹奏裡に國歌奉唱、國旗降下の式が終り、引き續き丸井デパートの階上ホールで閉會式が行はれた。尙この大會の成績に依つて第五回冬季大會の日本代表第一次候補選手が銓衡發表された。

フイギュア競技は一月二十二、三兩日山王及芝浦兩スケート場で擧行された。關東の長谷川、渡邊などオリンピック選手、星野黑田の諸選手の不出場は量的にも內容的にも淋しいものであつたがフイギュア界革新の爲めにはこれ等選手の不出場も止むを得ぬものであつた。

從つて片山選手は好敵手を失つて易々たる優勝を遂げたが、何んと云つても好敵手の居ないといふことは精神的弛緩を來すものとなり、知らず知らずの中にそれが現はれて居た。神田、小豆島選手の進歩は目立つて居た。女子は稻田孃が一頭地を拔き、二位の月岡孃を百點近く引き離して優勝した。稻田孃は期待通り素晴しいスケーテイングを見せ、ジヤムプ、スピン、ステップの洗練された妙味は際立つて居た。

スピード競技

（一月十四、五、六日　於、札幌リンク）

男子選手權

五百米（タイム・レース）

1 崔　龍　振（明大）　四五・九秒
2 李　聖　德（朝鮮）　四六・七
3 南洞邦夫（早大）　四六・九
4 三代正勝（滿洲）　四七・三
4 許　景　日（明大）　四七・三
6 金　正　淵（同）　四七・七
6 朴　潤　哲（同）　四七・七
8 安　重　凞（同）　四七・八
8 內　藤　晋（苦工）　四七・八
10 中村禮吉（早大）　四八・一
（以下略）

千五百米（タイス・レース）

1 朴　潤　哲（滿洲）　二分二三・五秒
2 安　重　凞（明大）　二、三三・八
2 崔　龍　振（同）　二、三三・八
4 南洞邦夫（早大）　二、三三・九
5 李　仁　源（朝鮮）　二、三四・九
6 內藤晋（苦工）　二、三六・〇
7 泉山貞義（同）　一九、一九・四
8 高林三郎（同）　一九、三一・九
9 尹　世　植（同）　一九、三四・四
10 花岡光夫（諏訪）　一九、四三・二
（以下略）

五千米（タイム・レース）

1 張　祐　植（明大）　九分一三・八秒
2 崔　龍　振（同）　九、一六・四
3 泉山貞義（同）　九、一九・九
4 金　正　淵（同）　九、二二・二
5 南洞邦夫（早大）　九、二四・一
6 朴　潤　哲（滿洲）　九、二七・四
7 安　重　凞（明大）　九、二八・七
8 高林三郎（同）　九、二八・八
9 尹　世　植（同）　九、三一・〇
10 李　仁　源（朝鮮）　九、三五・三
（以下略）

一萬米（タイム・レース）

1 張　祐　植（明大）　一八分四四・九秒
2 崔　龍　振（同）　一八、五二・三
3 朴　潤　哲（滿洲）　一八、五六・五
4 南洞邦夫（早大）　一九、〇八・二
5 安　重　凞（明大）　一九、一四・八
6 金　正　淵（同）　一九、一八・九
7 金　正　淵（明大）　二、三六・一
8 張　祐　植（同）　二、三七・〇
9 崔　炅　洙（同）　三、三七・六
10 三代正勝（滿洲）　二、三八・四
（以下略）

選手權得點及順位

1 崔　龍　振（明大）　二〇九・四二二
2 南洞邦夫（早大）　二一二・〇二〇
3 朴　潤　哲（滿洲）　二一二・〇九八
4 張　祐　植（明大）　二一三・四五八
5 安　重　凞（同）　二一三・六七七
6 金　正　淵（同）　二一三・八九八
7 泉山貞義（同）　二一五・四六〇
8 高林三郎（同）　二一八・九〇八
9 花岡光夫（諏訪）　二一九・三一〇
10 尹　世　植（明大）　二一九・三五五
（以下略）

女子選手權

五百米（タイム・レース）

1 江島八重子（滿洲）　五三・九秒
2 中川キヨ（北海道）　五四・〇
3 今村俊子（滿洲）　五五・一

3 坂本キヨ（北海道） 五五・一
3 汾陽泰子（滿洲） 五五・一
6 大高タエ（北海道） 五六・八
7 村山節子（滿洲） 五七・六
7 村山菊子（同） 五七・六
9 野澤光子（北海道） 五八・二
10 平井冴子（同） 五九・〇
（以下略）

千米（タイム・レース）

1 江島八重子（滿洲） 一、五三・三分
2 中川キヨ（北海道） 一、五三・六
3 今村俊子（滿洲） 一、五五・三
4 汾陽泰子（同） 一、五九・四
5 村山菊子（同） 二、〇一・〇
6 大高タエ（北海道） 二、〇二・四
6 平井冴子（同） 二、〇二・四
8 村山節子（滿洲） 二、〇三・五
9 坂本キヨ（北海道） 二、〇四・六
10 野澤光子（同） 二、〇五・三
（以下略）

三千米（タイム・レース）

1 江島八重子（滿洲）（日本新記錄）六、一二・四分
2 汾陽泰子（滿洲） 六、一八・七
3 中川キヨ（北海道） 六、二一・一

4 野澤光子（同） 六、三六・二
5 大高タエ（同） 六、三七・四
6 村山節子（滿洲） 六、三九・四
7 坂本キヨ（北海道） 六、四〇・一
8 平井冴子（同） 六、四〇・四
9 今村俊子（同） 六、四三・二
10 村山菊子（滿洲） 六、四七・一
（以下略）

五千米（タイム・レース）

1 江島八重子（滿洲） 一〇、三六・〇分
2 汾陽泰子（滿洲） 一〇、三六・三
3 平井冴子（北海道） 一一、〇〇・二
4 大高タエ（同） 一一、〇五・一
5 野澤光子（同） 一一、〇七・一
6 坂本キヨ（同） 一一、一三・二
7 中川キヨ（同） 一一、二九・五
7 今村俊子（滿洲） 一一、二九・五
9 村山節子（同） 一一、四二・九
10 村山菊子（同） 一一、四三・四
（以下略）

選手權得點及順位

1 江島八重子（滿洲） 二三六・二〇〇
2 中川キヨ（北海道） 二四三・二六七

3 汾陽泰子（滿洲） 二四三・五四七
4 今村俊子（同） 二四八・九〇〇
5 大高タエ（北海道） 二五〇・八二三
6 坂本キヨ（同） 二五一・四〇三
7 平井冴子（同） 二五二・九四三
8 野澤光子（同） 二五三・五九三
9 村山節子（滿洲） 二五八・二〇七
10 村山菊子（同） 二五八・二九〇

アイス・ホッケー競技

（一月十四、五、六日　於、札幌リンク）

第一回戰

立大　棄　奉天鐵道總局

日光古河 5 ｛0 2 2 0｝ 4 全札幌師
　　1 0 1 3 0
　　0 0 1 1 0

第二回戰

苫小牧工業 4 ｛2 1 1 2｝ 2 明大
　　1 0 1 1 1
　　0 0 1 1 1

苫小牧王子 3 ｛2 0 1 0｝ 1 慶大
　　1 0 0 1 0

早大 9 ｛2 0 0 1｝ 1 北大
　　7 0 0 1 0

立大 8 ｛4 0 0 4｝ 1 日光古河
　　4 0 0 1 0

準決勝戰

早大 5 ｛0 1 2 2｝ 3 苫小牧王子
　　2 2 1 0 1

立大 9 ｛4 0 4 5｝ 4 苫小牧工業
　　2 0 2 0 5

決勝戰

早大 3 ｛2 1 0 0｝ 1 立大
　　1 0 0 1 0

（審判　難波、西田氏）

〔早大〕 FW 須田　鞍田　小川　澤
　　鬼田　田田　中田　川
　　中右木　七　安　中
　　左鈴　市　中
　　DF
　　GK
　　反則 5

〔立大〕 FW 柳田　中村　藤
　　小谷　橋
　　砂田　大村
　　田後　大木
　　反則 2

フイギュア競技

（一月廿二、三日　於、芝浦、山王リンク）

男子選手權成績順位

順位	氏名	所屬	順位點	スクール	フリー	總得點
1	片山敏一	(關西)	5	一八六・四〇	一三三・五六	三一九・九六
2	神田博	(同)	12	一七〇・〇四	一二四・三二	二九八・三六
3	小豆島藤丸	(同)	16	一五六・一六	一三二・四四	二八八・六〇
4	有坂隆祐	(關東)	17	一六四・六八	一二一・二四	二八五・九二
5	島川浩	(同)	25	一四九・六六	一〇一・〇八	二五〇・七四
6	山本嘉成	(同)	30	一二一・一六	九四・八〇	二〇五・九六

女子選手權成績順位

順位	氏名	所屬	順位點	スクール	フリー	總得點
1	稻田悅子	(關西)	5	一九一・三四	一五一・四八	三四二・八二
2	月岡芳子	(同)	10	一四四・三四	一三〇・七六	二七五・一〇
3	中村衣子	(同)	15	一三七・五六	一〇八・九二	二四六・四八
4	鑪美佐子	(關東)	22	一二八・四六	九八・〇〇	二二六・四六
5	依岡禮子	(關西)	23	一二〇・二八	一〇四・二二	二二二・七〇
6	矢野美知子	(關東)	30	一〇八・九二	九六・八八	二〇五・八〇

オリムピツク札幌大會
第一次候補選手

スピード

監督 木谷辰己

トレーナー 河村泰男

男子選手 張祐植(明大)、崔龍振(明大)、南洞邦夫(早大)、安重熙(明大)、朴潤哲(滿洲)、泉山貞義(明大)、金正淵(明大)、李聖德(朝鮮)、三代正勝(滿洲)、内藤晋(苫工)、花岡光夫(諏訪)、高林三郎(諏訪)、尹世植(明大)、崔炅洙(明大) 以上十四名

女子選手 江島八重子(滿洲)、中川キヨ(苫高女)、汾陽泰子(滿洲)、今村俊子(滿洲)、大高妙子(苫高女)、坂本キヨ(苫高女) 以上六名

アイス・ホツケー

監督 牧定夫

選手 市川辰雄(早大)、安田敬美(早大)、小須田孝吉(早大)、鬼鞍弘起(早大)、左右田忠男(早大)、七田武(早大)、中澤肇(早大)、中川哲(早大)、砂田重民(立大)、小柳誠司(立大)、田中文雄(立大)、大村耕一郎(立大)、谷仙吉(立大)、後藤博(立大)、山本正雄(立大)、大橋次郎(立大)、田村誠一(明大)、中村弘(明大)、平林爲雄(明大)、堤正夫(慶大)、小菅利雄(慶大)、大野寛(慶大)、澤本七五郎(日光)、二瓶宗二(苫)、原信男(苫)、林一郎(苫)、畠山博吉(苫)、西浦清輝(苫工)、戸島光男(苫工)、田原良平(苫工)、千葉(苫工) 以上三十一名

フイギユア

男子選手 片山敏一(關學)、神田博(甲南高校)、小豆島藤丸(大阪ス倶)、有坂隆祐(明大) 以上四名

女子選手 稻田悅子(大阪ス倶)、月岡芳子(大阪ス倶)、中村衣子(大阪ス倶) 以上三名

第十回大會(昭和十四年)

第十回全日本氷上競技選手權大會は、一月十七、八の兩日長野縣上諏訪蓼の海リンクでスピード競技を、同二十日から三日間、芝浦スケート場でアイスホツケー競技を、同三日間赤坂山王スケート場でフイギユア競技を擧行した。その結果男子スピード選手權は明大泉山貞義君に女子スピード選手權は北海道苫小牧高女の中川キヨ孃に、男子フイギユア選手權は、神戸甲南高校の神田博君女子フイギユア選手權は大阪梅花高女の稻田悅子孃、アイスホツケー選手權は、立教大學チームがそれ〴〵獲得した。

スピード大會第一日の一月十七日は快晴に加ふるに氣溫も午前八時には零下十度を示し、これが太陽の昇ると共に上昇して氷質を最上のコンデイシヨンにした。

夜行で到着した喜多會長は、布半ホテルで一風呂浴びたのち、既に數日前から來諏大會準備に萬全を期した各理事、技術委員諸君と共に自動車をかつて、一里半の山道を蓼の海リンクに向つた。空は日本晴れである。南の方に甲斐駒連峰がよく見へる。北方の谷間の上には北アルプスの盟主穗高岳が嚴然として、けふの大會を祝福して居る。上諏訪町の警防團の人々が會場の整理につとめてくれる。毎回この蓼の海を會場とし行はれる競技會には警防團には御厄介をかける。有難いことである。

午前十時、國旗揭揚、宮城遙拜、戰歿戰傷將兵への感謝默禱、皇軍將兵の武運長久を祈願したのち、喜多會長の開會の言葉があつて第十回スピード選手權大會の幕は切つて下された。空はあく迄も晴れ渡つて居る。紺碧の空である。風はそよともしない。この玲瓏とした聊かの濁りもない大空の下で行はれるスケート競技會こそ幸福である。

大會第二日は午前九時半から行はれた。女子千米、男子千五百米の途中迄は、東北風二米位 氣溫も零下三度でコンデイシヨンは良好であつたが、競技の進行に連れて風は次第につのり、遂に粉雪をまじへる强風となつてしまつた。殊に最後の一萬米レースは風速十米の猛吹雪と化して最惡のコンデイシヨンとなつた。然しレースは敢然として續けられ、選手權は明大泉山貞義君の獲得するところとなつた。泉山君の優勝は不斷の努力がむくひられたのである。午後三時半閉會式、同時に日滿對抗戰のスピード男女子代表が決定發表された。

アイス・ホツケー選手權競技會は、一月二十日から三日間、芝浦スケート場で行はれた。今大會の參加チームは、早、慶、明、立の學生四チームと苫小牧王子製紙、日光古河精銅所、滿鐵、關東實業團ピツクアツプチームの一般四チームで、組合せの上では學生對一般の對抗戰の如き觀を呈したのであつたが、一般軍は、

學生軍の進歩に置かれた形で、前年度程の波瀾も捲き起し得ず、何れも一回戰で姿を消してしまつた。

從つて準決勝からは、早慶明立の學生軍が今シーズン三度目の覇權爭ひを演ずることになつたのであるが、學生大會では早立に對し相當な實力的差違を見せた慶明も今大會に於ては、それ〴〵缺點を補强して早立の牙城に迫り、これ等四チームの間には、全く優劣がつけ難いまでになつて來た。即ち、慶大は定期戰制勝の餘勢を驅つて二對零と早大に迫り、明大も前半一點を許したのみで執拗に立大を追ひ、共に敗れて悔なき善戰を見せ、決勝に於ける早立の對戰も一度は早大がリードすると云つた正に文字通りの激戰であつた。

フイギュア競技會は、スクール・フイギュアを赤坂山王で、フリースケーティングを芝浦スケート場で、一月二十日から三日間行はれた。

玆二三年來、片山、長谷川、渡邊の鼎立と女子稻田孃の一頭地を拔く進境に順調の發達を辿つて來たフイギュア界も、今年は片山、渡邊が隱退し長谷川も病氣で出場せず、一ぺんに頭を持つて行かれた形となつた上に女子も月岡孃の病氣棄權などがあつて出場者三人等といふことになつた爲め質量共に低下を來し、稻田孃の洗練された技倆に僅かに前年以上のものを見出したにすぎなかつたのは止むを得ぬことであつたとは云へ全く淋しい限りであつた。

男子選手權は神田、有坂、小豆島の三人に依り最終日のフリースケーティングを勝敗の分岐點として興味深い爭覇戰を展開したが、フリーに優れた有坂、小豆島もスクールの點差を追ひ切れず順當に神田の優勝に終つた。

今年の選手權大會は、二月行はれる日滿對抗戰に送る代表選手の銓衡競技會ともなり、二三の例外はあるとしても大部分は、この大會の成績に依つて代表選手は決定したのである。

スピード競技

（一月十七、八日　於、蓼の海リンク）

男子選手權

五百米（タイム・レース）

1 高林三郎（明大）四四・〇秒
2 山下勝久（早大）四四・八
3 中村禮吉（同）四五・一
3 南洞邦夫（同）四五・一
5 張日弘（明大）四五・三
6 泉山貞義（同）四五・六
7 崔昊洙（同）四六・一
7 李仁源（同）四六・一
9 任秉圭（新義州東中）四六・二
9 金莊煜（明大）四六・二
11 崔龍振（朝鮮）四六・四
11 安重淵（明大）四六・四
13 金健會（朝鮮）四六・五
14 古厩泰治（岡工）四六・六
15 杉浦正一（早大）四六・九
（以下略）

千五百米（タイム・レース）

1 南洞邦夫（早大）二分二七・三秒
2 金莊煜（明大）二、三〇・一
3 中村禮吉（早大）二、三〇・七
4 泉山貞義（明大）二、三一・三
5 崔龍振（朝鮮）二、三一・五
6 崔昊洙（明大）二、三二・二
7 安重淵（同）二、三三・五
8 張日弘（同）二、三四・一
8 金健會（朝鮮）二、三四・一
10 張祐植（明大）二、三四・四
11 李仁源（同）二、三五・一
12 金漢集（朝鮮）二、三五・二
13 金永俊（明大）二、三五・六
14 金泰官（同）二、三六・三
15 鄭庚彦（同）二、三六・四
（以下略）

五千米（タイム・レース）

1 張祐植（明大）（日本新記錄）八、四七・〇
2 古厩泰治（岡工）八、五三・八
3 尹世植（明大）八、五八・五
4 泉山貞義（同）九、〇五・一
5 安重淵（同）九、〇六・八
6 南洞邦夫（早大）九、〇九・四
7 金健會（朝鮮）九、〇九・八
8 朴性用（明大）九、一三・五
9 金永俊（同）九、一五・〇
10 金漢集（朝鮮）九、一五・二
11 金莊煜（明大）九、一六・一
12 金河吉（朝鮮）九、一六・七
13 李仁源（明大）九、一七・〇
14 高林三郎（同）九、一九・二
15 中楠際（早大）九、二三・九
（以下略）

一萬米（タイム・レース）

1 泉山貞義（明大）二〇分一〇・六秒
2 張祐植（同）二〇、三七・三
3 金健會（朝鮮）二〇、五八・六
4 尹世植（明大）二〇、五八・七
5 高林三郎（同）二一、一〇・九
6 金莊煜（同）二一、一九・二
7 古厩泰治（岡工）二一、二二・一
8 安重淵（明大）二一、二五・四
9 南洞邦夫（早大）二一、三四・六

10 李仁源（明大）二一、四九・〇
11 山下勝久（早大）二一、五八・六
12 中村禮吉（同）二二、二三・五
13 崔龍振（朝鮮）二二、二四・五
14 張日弘（明大）二二、二五・八

選手權得點及順位

1 泉山貞義（明大）二一一・〇七三
2 南洞邦夫（早大）二一三・八七〇
3 張祐植（明大）二一四・二三二
4 金健會（朝鮮）二一五・七七七
5 金莊煜（明大）二一五・八〇三
6 高林三郎（同）二一五・八四八
7 尹世植（同）二一五・九八五
8 安重淵（同）二一六・五一七
9 古厩泰治（岡工）二一七・九一八
10 李仁源（明大）二一八・九一七

（以下略）

女子選手權

五百米（タイム・レース）

1 中川キヨ（北海道）五一・九秒
2 坂本キヨ（同）五三・九
3 大高タエ（同）五四・三
4 北澤キクエ（同）五四・九
5 野澤光子（同）五八・九

千米（タイム・レース）

1 中川キヨ（北海道）（日本新記錄）一分四八・四秒
2 大高タエ（同）一、五五・五
3 坂本キヨ（同）一、五六・五
4 野澤光子（同）一、五八・八
5 北澤キクエ（同）二、〇〇・〇

▲日本記錄一分四九秒五、一九三七・木谷妙子（滿洲）

三千米（タイム・レース）

1 中川キヨ（北海道）（日本新記錄）五分五五・六秒
2 坂本キヨ（北海道）六、〇九・三
3 大高タエ（同）六、〇九・九
4 野澤光子（同）六、一一・五
5 北澤キクエ（同）六、二〇・三

▲日本記錄 五分五六秒一、一九三八・江島八重子（滿洲）

五千米（タイム・レース）

1 大高タエ（北海道）一〇、五八・一分秒
2 野澤光子（同）一〇、五九・〇
3 中川キヨ（同）一〇、五九・七
4 北澤キクエ（同）一一、二〇・九
5 坂本キヨ（同）一一、三〇・二

選手權得點及順位

1 中川キヨ（北海道）二三四・七八六
2 大高タエ（同）二三九・六七七
3 坂本キヨ（同）二四一・八二〇
4 野澤光子（同）二四六・一一七
5 北澤キクエ（同）二四六・三七二

アイス・ホッケー競技

（一月廿、廿一、廿二日　於、芝浦リンク）

第一回戰

早 大 8（1—0、2—0、5—1）1 日光古河
慶 大 3（1—0、0—0、2—1）1 苫小牧王子
明 大 7（2—0、3—1、2—0）1 滿鐵
立 大 7（3—0、3—1、1—1）2 關東實業團

準決勝

早 大 2（2—0、0—0、0—0）0 慶大

（審判 難波、小森氏）

〔慶大〕
FW 葉堤銘 菊菅小 村瀨木 成
DF 賀谷加 岡藤 野大
GK
反則 1

〔早大〕
FW 島鞍川 津本田 西川木
DF 吉鬼中 島森七 川市鈴
GK 小野田
反則 3

立 大 1（1—0、0—0、0—0）0 明大

（審判 牧、辻氏）

〔明大〕
FW 兄副本 弟口 江副野 福村 江川田 荻林中 家
DF 滑川 平結
GK
反則 1

〔立大〕
FW 中田鞍村藤橋 田砂鬼大後高 內藤谷 山本
DF
GK
反則 2

決勝戰

立 大 4（1—1、2—1、1—1）3 早大

（審判 辻、難波氏）

〔早大〕 川島津田西川木田
中鬼吉島七川 FW 市鈴 DF 小野田 GK 1
〔立大〕 中田鞍村藤橋 反則
田砂鬼大後高 丙谷本山 3

フイギュア競技

（一月廿、廿一、廿二日　於、芝浦、山王リンク）

男子選手權成績順位

（審判　五十嵐、杉本、帶谷、小林、倉橋五氏）

順位	氏名	所屬	順位點	スクール	フリー	總得點
1	神田　博	（甲南校）	6	一七一・九八	一三五・七二	二九七・七〇
2	有坂　隆祐	（明　大）	9	一六一・三三	一三三・七二	二九四・〇四
3	小豆島藤丸	（大阪ス）	5	一四九・三三	一二八・二四	二七七・五六
4	伊賀　頼勇	（同　　）	22	一二七・六二	九八・五六	二二六・一八
5	小林　達雄	（明　大）	23	一二一・三六	一〇八・七六	二二一・二二
6	島川　浩	（早大ＯＢ）	30	一二〇・〇四	九一・九六	二一一・六〇

女子選手權成績順位

（審判　五十嵐、杉本、帶谷、小林、倉橋五氏）

順位	氏名	所屬	順位點	スクール	フリー	總得點
1	稻田悅子	（大阪ス）	5	二〇〇・七八	一三〇・九二	三五一・七〇
2	中村衣子	（同　　）	10	一三七・三六	一二四・八〇	二五二・一六
3	矢野美和子	（東　京）	15	一三八・六六	八八・七六	二二七・四二

第十一回大會（昭和十五年）

第十一回全日本スケート競技選手權大會は、スピード競技を一月十九日から三日間青森縣八戸市長根リンクで、フイギュアとアイス・ホッケーを同二十六日から三日間東京芝浦及山王スケート場（山王リンクは例年通りスクールフイギュアのみ）で行つた。そして選手權は、男子スピード朴潤哲君（滿洲）、女子スピード汾陽泰子孃（滿洲）、アイス・ホッケー明大チーム、男子フイギュア有坂隆祐君（明大）、女子フイギュア稻田悅子孃（關西梅花高女）がそれ〴〵獲得した。

スピード競技の行はれた青森縣八戸市長根リンクは、昭和五年に第一回の全日本スピード選手權大會を擧行し、更に昭和七年には第三回全日本アイスホッケー選手權大會を開き、今回を合すれば全日本選手權大會は三度びの開催となるのであつて、この間昭和十三年には全國學生スピード競技選手權大會が行はれて居るのであるから、全國的大會場として東北地方に誇り得る日本の代表的スケート場と云へるのである。

スピード大會第一日は、午前十時から全國の精鋭六十名に依つて開始されたが、競技に先だち國旗揭揚、宮城遙拜、皇軍の武運長久祈願、喜多會長代理兩角專務理事の開會挨拶、鈴木青森縣知事、神田八戸市長の祝辭があり、レースは女子五百米から開かれ

た。この日快晴、氣溫零下四度、風速西南三、米氷質良、レースの進むにつれて風が強くなり、女子五百米の終る頃には、五米から六米の強風が吹きつけて選手の力走を阻んだが、各選手共ひるむところなく最善を盡して奮闘したのは涙ぐましかつた。風が強かつた爲めに記錄の上らなかつたことは止むを得ないものであつた。

大會第二日は、前夜の降雪も止んで朝來快晴、氣溫も零下八度に下り、風も前日の強風に引きかへて二米前後で、選手は申分ないコンデイションの下で存分の活躍をした。

大會第三日も快晴、氣溫零下三度、風速二米、大會の最後を飾るには絶好のコンデイションであつた。かくて三日間に亘るスピード競技選手權大會は終了午後四時國旗降納、天皇陛下の萬歲奉唱大會及八戸市の萬歲を三唱して幕を閉じた。

今年度のスピード選手權大會に參加した選手は、關東の學生軍を中心に、朝鮮、滿洲、北海道、東北、中部など、ほとんど全國的に强豪を網羅したのではあつたが、實力的低下といふか力の出し不足といふか記錄は思つたより悪く、選手諸君に對し一段の努力奮闘を希望するものがあつた。然し記錄とは別に競技、大會の運行は好天に惠まれたことにも依るが滿點と云つてよい程成績がよかつた。これは八戸市全市が總力を擧げてこの大會の成功を期した結果に外ならないのであつて、この事實は單にスケート大會の成功といふことばかりでなく、日本運動競技界への大いなる寄與と云ひ度いのである。殊に高齡でしかも足の不自由の神田市長が連日寒い大會場に見へて眞劍な選手の努力を熱心に觀戰されたことは、聯盟本部の役員として大いに敬意を表さなくてはならないものであつた。また八戸中學の生徒が大會運行に奉仕的努力を惜まなかつたことは、この地方の體育運動に對する熱意の程がうかゞはれて喜ばしい場面であつた。も一つ弘前聯隊に入營中の前年度の選手權保持者泉山貞義君が特に賜暇休暇を得て開會式の優勝杯返還式に列席したことは、これまた軍隊の體育運動精神を十分理解して居る一面が現はされて喜びに絶へぬものがあつた。泉山君の歸隊に當つて役員、選手は勿論一萬の觀衆集つて泉山君の武運長久を祈つたのは洵に感激の一瞬であつた。

フイギュア及アイスホッケー競技は、地方チームの活躍に早慶立ばた〳〵と崩れる大波瀾を見せ、辛くも踏みとゞまつた明大が初制覇を遂げて、東京インドアチームの面目を保ち、フイギュア男子は有坂（明大）が神田（關西）を抑へて十年ぶりに覇權を關東に還して初優勝を飾り、女子は稻田孃の四連覇となつて、それも波瀾を極めた大會の幕を閉じられたが、この大會程動きの激しかつた大會は稀であり、それだけに教へられるところも多く、誠に意義深い大會であつたといふことが出來る。

アイスホッケーは學生軍の早慶明立が準決勝まで殘るものと豫想されたのであつたが、早大は全滿に、慶大は日光に、優勝候補筆頭と見られた立大も一日二試合のハンデイキャップを負つた苦小牧王子に敗退するなど豫想は完全に裏切られてしまつた。

然らば全滿、苫小牧王子、日光等は確かに學生軍を凌ぐ技倆を持つて居るかといふに必ずしもさうではなく、全滿には伊藤の快足、苫小牧王子には西浦、二瓶、佐藤の力、日光は安納、神山の好技が他に優れて居たとはいふものゝ他のチーム・メートは漸く

水準に達したにすぎなく、チーム・プレーには見るべきものはなかつた。從つて今大會の準決勝以後には味のある試合も巧味のある試合もなく、唯個人の力と荒いプレーが全體を支配したにすぎず技倆が五六年前に還つたかのやうな印象を與へたのは遺憾のことであつた。然して學生軍の不振は、結局餘りにも小利巧になりすぎた爲めと斷定することが出來やう。

フイギュア選手權競技は男女共に現在の國內第一線選手を集めて行はれたのであつたが、その結果は必ずしも滿足すべき狀態にあるとは云ひ難く、僅かに多數行進の力强い躍進に慰められるやうな有樣であつたことは誠に心淋しい限りであつた。

男子選手權では有坂君（明大）が豫定通りスクール、フリー共に前年の選手權保持者神田君（關西甲南高校）を僅かなからリードして優勝したが、有坂君自身も固くなりすぎて日頃の技倆を全面的に發揮出來なかつた憾みがあり、神田君は腰の浮いたスケーティングに練習不足を明瞭に現はし、共に低調を免れなかつたのは期待が大きかつたゞけに殘念この上もないことであつた。

一方女子選手權も稻田孃が豫想通り四連覇を遂げたが、その二位月岡孃との差は、月岡孃に進歩があつたにせよ、從來よりは甚だ小さなものであり、實質的にも技倆低下の傾向を見せて、全く期待を裏切つたことは、一層心淋しい思ひをさせるものであつた。

スピード競技

（一月十九、廿、廿一日　於、八戸リンク）

五百米（タイム・レース）

成績順位　1山下勝久（早大）、2阿部剛（明大）、3高林三郎（明大）、4南洞邦夫（早大）、金莊煜（明大）、6任秉奎（朝鮮）、7蔡昌烈（明大）、8李仁源（明大）、9金健會（朝鮮）、10林哲夫（明大）（以下略）

競技組合せ順及成績

	選手名	所屬	記錄	得點	順位
1	坂下仁圭	源（明大）	四八・六秒	五〇・八	三
2	任秉奎	金潤炅（朝鮮）	五一・四	四八・三	六
3	山下勝	高林忠三郎（中部）	五〇・三	五〇・五	一九
4	森茂	南洞邦夫（早大）	四八・二	五五・四	八
5	當舍	金健會（朝鮮）	四八・六	五五・九	八
6	韓槇	李明翊天（明大）	四九・三	五三・九	一四
7	山下勝	林哲夫（同）	四八・七	四五・八	一〇
8	高林三郎	金莊煜（明大）	四八・二	四七・四	四
9	金世龍	朴潤哲（滿洲）	五〇・〇	五〇・九	一八

10李明天（明大）（以下略）

成績順位　1朴潤哲（滿洲）、2南洞邦夫（早大）、3李仁源（明大）、4牛島義男（滿洲）、5金健會（朝鮮）、6高林三郎（明大）、7任秉奎（朝鮮）、8金永俊（明大）、9金莊煜（明大）、10李明天（明大）（以下略）

競技組合せ順及成績

			記錄	得點	順位
1	林正良	金在鶴（早大）	二、四六・九分	五五・六四	二九
2	山下勝	阿部剛久（早大）	二、四四・五	五四・八三	二六
3	南洞邦夫	高林三郎（早大）	二、三六・一	五二・〇三	一二
4	李仁源	蔡昌烈（明大）	二、三五・一	五八・三六	四〇
5	片柳昌男	得浩（滿洲）	二、四八・九	五五・六四	二九
6	坂下圭介	山下定男（早大）	二、四九・五	五六・五〇	二六
7	古牛厩泰	島義治（滿洲中部）	二、三八・九	五一・七六	一五
8	朴潤哲	安重熙（朝鮮滿洲）	二、三三・一	五〇・七〇	一一
9	尹世植	金永俊（明大）	二、三八・八	五二・九三	一四
10	李明天	鄭庚彦（同）	二、三七・八	五二・六〇	一〇
11	森茂	藤原哲夫（早大）	二、四八・六	五六・二〇	三五

顚倒失格

千五百米（タイム・レース）

12 小松潤章展（北海道大明） 二、五一・三 五七・一〇〇 三八
13 市川健一（早大同） 際 二、四三・九 五四・六三 三四
14 高林忠三郎（中部大OB） 張祐植 二、四四・二 五四・七三 二五
15 角本世正（早大明） 金龍 二、四七・四 五五・八〇〇 三三
16 村上文藏（慶大明） 坂口勇三郎 二、四一・五 五三・八三三 一八
17 韓槙翊（同） 金東傑 二、四六・七 五五・五六六 二八
18 金莊煜（同朝鮮） 任秉奎 二、三七・三 五二・四三三 九
19 金泰官（明大） 梁瀨泰男 二、四三・七 五四・三三三 三九
20 金健會（朝鮮大） 林哲夫 二、三六・三 五五・一〇〇 三一
21 深井恒雄（慶大） 當舍康生 二、四一・六 五三・八六六 四一

▲先川原桂吉（八戸）、邊邊力（早大）棄權　以上

五千米（タイム・レース）

成績順位　1朴潤哲（滿洲）、2南洞邦夫（早大）、3片昌男（滿洲）、4中楠際（早大）、5張祐植（明大OB）、6牛島義男（滿洲）、7深井恒雄（慶大）、8李仁源（明大）、9藤原哲夫（早大）、10高林三郎（明大）（以下略）

競技組合せ順及成績

1 小松莊章展（北海道大明） 金煜 九、五六・九 五九・二〇〇 二四
2 李下仁圭介源（同） 坂 九、三・三 一〇、〇九・八 三〇
3 任秉奎烈（朝鮮大明） 蔡昌 九、五五・〇〇 五八・八九〇 二三
4 尹世植翊（同明大） 韓槙 九、四五・二 一〇、三三・五 一五
5 渡邊勝久力（早大同） 山下 九、三三・九 五七・四七〇 九
6 藤原哲夫（早大明） 高林三郎 九、三三・九 五七・四七〇 一〇
7 張井恒雄植（慶大同OB） 祐 九、二四・〇 五六・八四〇 五
8 市川健一（早大中部） 古厩泰治 一〇、二五・二 六〇、五九〇 二九
9 坂口勇三郎（明大同） 金永俊 九、四八・〇 五八・八〇〇 一七
10 阿部健（同朝鮮） 金剛 一一、四二・三 七〇、二三〇 四二
11 高林忠三郎（中部同） 安重淵 九、三七・四 五七・七四〇 一二
12 李東明（明大同） 金傑天 一〇、〇五・八 六〇、五八〇 二八
13 金川原桂吉（東北明大） 先在鶴 一〇、三・一 六三、一一〇 三七
14 林泰官（明大） 金正良（早大） 九、五九・五 五九、五三〇 二六

（最終山下と組合す）棄權

15 朴潤哲（滿洲） 山下定男（早大） 一〇、四三・二 九、〇六・七 六四・三一〇 五四・六〇〇 四一
16 梁瀨泰男（同明大） 牛島義雄 九、二六・七 一〇、一四・七 五六・六七〇 六一、四七〇 六
17 金龍世（明大） 南洞邦夫（早大） 九、一九・六 九、五九・三 五五・九六〇 五九、九三〇 二五
18 鄭庚彦（同） 柳得浩（同） 一〇、〇一・〇 一〇、三八・二 六〇・一〇〇 六三・八二〇 二七 二九
19 林哲夫（同） 金潤昊（同） 一〇、二九・六 九、四九・三 六二・九六〇 五八・八三〇 三五 一九
20 當舍康生（明滿洲大） 片昌男（滿洲） 九、一九・七 一〇、五七・二 五五・九七〇 六五、七二〇 四一 三
21 中楠際（同） 角本正（早大） 一〇、二九・七 九、二三・八 六二・九七〇 五六・三八〇 三六 四
22 村上文藏（慶大） 森茂藏（慶大） 九、四三・七 九、四二・七 五八・二七〇 五八、二七〇 一三 一三
23 金在勝鶴（同） 山下勝久（早大） 九、三七・三 一〇、一三・二 五七・七三〇 六一、三二〇 一二 三

以上

一萬米（タイム・レース）

成績順位　1朴潤哲（滿洲）、2張祐植（明大OB）、3牛島義男（滿洲）、4南洞邦夫（早大）、5中楠際（早大）、6金永俊（明大）、7李仁源（明大）、8金健會（明大）、9高林三郎（明大）、山下勝久（早大）、11金莊煜（明大）、12蔡昌烈（明大）、13李明天（明大）、14任秉奎（朝鮮）

競技組合せ順及成績

1 高林三郎（明大） 山下勝久（早大） 一九・四九・〇 一〇・〇三・〇 五九・四五〇 六〇・一〇〇 九
2 蔡昌烈（同明大） 金永俊 一九・三七・〇 二〇・二四・三 五八・八五〇 六一・二一五 二六
3 李明天（朝鮮大） 金健會 一九・四五・七 二〇・二九・五 五九・二八五 六一・四七五 八
4 南洞邦夫（早大） 朴潤哲（滿洲） 一八・二・五 一九・二一・八 五五・七七五 五八・〇九〇 一四
5 張祐植（明大OB） 中楠際（同） 一九・六六・五 一八・四八・八 五八・三三五 五六・四四〇 五
6 任秉奎（朝鮮大） 金莊煜（明） 二〇・〇八・七 二〇・三一・四 六〇・二三五 六一・五七〇 一一 一四
7 李仁源（明滿洲大） 牛島義男 一八・五二・六 一九・四〇・六 五六・六三〇 五九・〇三〇 三 七

以上

選手權順位、タイム及總得點

		五百米	五千米	千五百米	一萬米	總得點
1	朴潤哲（滿洲）	五〇・〇	九・〇六・七	二・三三・一	一八・三五・五	二一・一四五
2	南洞邦夫（早大）	四八・二	九・一九・六	二・三三・六	一九・二一・八	二一三・四五〇
3	牛島義男（滿洲）	四九・四	九・二六・七	二・三五・三	一八・五二・六	二一四・四六六
4	山下勝久（早大）	四五・八	九・七・三	二・三六・一	二〇・〇二・〇	二二五・六六三
5	張祐植（明OB）	五〇・五	九・二四・〇	二・三八・七	一八・四八・八	二二六・二四〇
6	李仁源（明大）	四八・六	九・三一・三	二・三五・一	一九・四〇・六	二二六・四六〇
7	高林三郎（同）	四七・九	九・三六・七	二・三六・五	一九・四六・〇	二二六・四八〇
8	中楠際（早大）	四八・九	九・三三・八	二・四〇・〇	一九・二六・五	二二六・九三八
9	金健會（朝鮮）	四八・六	九・三七・四	二・三六・七	一九・四五・七	二二七・七二五
10	金莊煜（明大）	四八・二	九・五三・〇	二・三七・三	二〇・〇八・七	二二〇・二六八
11	金永俊（同）	五一・四	九・四八・〇	二・三七・一	一九・三七・〇	二二一・四一六

12 任 秉 奎（朝鮮） 四八・三 九・五五・〇 二・三六・六 二〇・三一・四 二三一・五七〇
13 蔡 昌 烈（明大） 四八・四 九・四八・九 二・四〇・一 二〇・二四・三 二三一・八七一
14 李 明 天（同 ） 四九・三 九・四五・四 二・三七・八 二〇・二九・九 二三一・九一五

以 上

女子選手權成績

五 百 米（タイム・レース）

成績順位 1木村芳子（滿洲）、2汾陽泰子（滿洲）、3坂本キヨ（北海道）、4北澤キクエ（北海道）、5渡部清子（北海道）、6平井冴子（北海道）、7關下智惠（北海道）、8品川京子（北海道）、9野澤光子（北海道）

以 上

競技組合せ順及成績

	選手名	所屬	時間	得點	順位
1	渡部清子（關下智惠）	（北海道）（同）	六〇・〇 六一・九	六〇・〇〇〇 六一・九〇〇	五 七
2	平井冴子（品川京子）	（同）（同）	六〇・八 六二・四	六〇・八〇〇 六二・四〇〇	六 八
3	坂本キヨ（木村芳子）	（同）（滿洲）	五七・二 五四・六	五七・二〇〇 五四・六〇〇	三 一
4	北澤キクエ（汾陽泰子）	（北海道）（滿洲）	五九・四 五六・七	五九・四〇〇 五六・七〇〇	四 二
5	野澤光子（獨走）	（北海道）	五七・〇	五七・〇〇〇	九

以 上

千 米（タイム・レース）

成績順位 1坂本キヨ（北海道）、2汾陽泰子（滿洲）、3木村芳子（滿洲）、4品川京子（北海道）、5北澤キクエ（北海道）、6野澤光子（北海道）、6平井冴子（北海道）、8渡部清子（北海道）、9關下智惠（北海道）

以 上

競技組合せ順及成績

1	木村芳子（汾陽泰子）	（滿洲）（同）	一、五五・八 一、五四・一	五七・九〇〇 五七・〇五〇	三 二
2	渡部清子（平井冴子）	（北海道）（同）	二、〇二・六 一、五九・四	六一・三〇〇 五九・七〇〇	八 六
3	坂本キヨ（北澤キクエ）	（同）（同）	一、五二・四 一、五九・一	五六・二〇〇 五九・五五〇	一 五
4	關下智惠（品川京子）	（同）（同）	二、〇七・七 一、五八・〇	六三・八五〇 五九・〇〇〇	九 四
5	野澤光子（獨走）	（同）	一、五九・四	五九・七〇〇	六

以 上

三 千 米（タイム・レース）

成績順位 1野澤光子（北海道）、2坂本キヨ（北海道）、3汾陽泰子（滿洲）、4木村芳子（滿洲）、5品川京子（北海道）、6平井冴子（北海道）、7渡部清子（北海道）、8北澤キクエ（北海道）、9關下智惠（北海道）

以 上

競技組合せ順及成績

1	品川京子（坂本キヨ）	（北海道）（同）	六、三七・七 六、一九・四	六六・二八三三 六三・二三三三	五 二
2	關下智惠（渡部清子）	（同）（同）	七、一六・六 六、四一・〇	七二・七六六六 六六・八三三	九 七
3	木村芳子（野澤光子）	（滿洲）（北海道）	六、二六・三 六、一八・八	六四・三八三三 六三・一三三三	四 一
4	平井冴子（北海）		六〇・八	一、五九・四	六、三九・三	一〇、四三・六	二五一・四一〇
5	品川京子（同）		六二・四	一、五八・〇	六、三七・七	一〇、五四・一	二五三・〇九三
6	北澤キクエ（同）		五九・四	一、五九・一	六、四九・一	一一、〇五・六	二五三・六九三
7	渡部清子（同）		六〇・〇	二、〇二・六	六、四一・〇	一一、〇七・五	二五四・八三三
8	野澤光子（同）		六七・〇	一、五九・四	六、一八・八	一〇、五一・二	二五四・九五三
9	關下智惠（同）		六一・九	二、〇七・七	七、一六・六	一一、五二・七	二六九・七八六

以 上

アイス・ホッケー競技

（一月廿六、七、八日 於、芝浦リンク）

第 一 回 戰

苫小牧王子 4（0—1、2—0、2—0）1 全大連

（審判 小森、安部氏）

〔全大連〕

FW	玉崎	田
	富島	松
	戸木	田
	植田	山
	野下	關
	光	子
DF	桑小	山
	木	下
GK	小	關

〔王子〕

FW	瓶二	西
	浦野	阿
	村山	山
	部舟	伊
	本佐	畠
	藤	山
DF	内小	山
	口舟	藤
	藤	畠
GK	山	畠

反則 全大連 3 — 0 王子

第 二 回 戰

全滿洲 4（0—0、4—3、0—0）3 早大

（審判　難波、須藤氏）

〔早　大〕　〔全滿洲〕

FW：中川、鬼塚、七田、川西、高島、北堀／井手、栗矢、松浦、大西、松本、申

DF：市川、松本／伊藤、吉武、百東

小野田　GK　女池

反則　2　1

明大　11（7－0、2－0）0　全延禧（朝鮮）

（審判　安部、大野氏）

〔全延禧〕　〔明　大〕

FW：康（儀）、韓（誠）、尹、崔（永）、孫、李（興）／江副、福元、江副兄、田口、草苅、酒井、内藤

DF：李（容）、鄭、崔（基）／滑川、山之内

崔（道）　GK　結家

反則　2　2

日光古河　6（3－2、3－2、0－1、0－0）5　慶大

（審判　小森、須藤氏）

〔慶　大〕　〔日　光〕

FW：銘刈、深澤、成瀬、山中、小菅、木村／澤本、安弟、川納、寺田、澤本兄、星野

DF：加賀谷、藤岡／齋藤、神山

増田　GK　古殿

反則　1　1

苫小牧王子　2（1－1、0－0、1－0）1　立大

（審判　鹽田、大野氏）

〔立　大〕　〔王　子〕

FW：田中、砂鞍、鬼村、大賀、多橋、高藤／二瓶、西浦、野村、阿部、山本、伊藤

DF：内藤、後藤／小山内、舟口、佐藤

畠山　GK　三宅

反則　1　1

準決勝戦

全滿洲　4（1－1、2－1、1－0）2　苫小牧王子

（審判　難波、辻氏）

〔全滿洲〕　〔王　子〕

FW：西本、大松、申／野村、二瓶、舟口、阿部（文）、山本、伊藤

DF：西本、松申、井手、栗矢、松浦／小山内、佐藤、阿部（知）

吉武、伊藤、百東

女池　GK　畠山

反則　1　2

明大　4（0－1、3－0、0－0）3　日光古河

（審判　小森、安部氏）

〔明　大〕　〔日　光〕

FW：江副弟、福元、江副兄、田口、草苅、酒井、内藤／澤本弟、安納、川田、寺山、澤本兄、星野

DF：滑川、山之内／齋藤、神山

結家　GK　増田

反則　2　2

決勝戦

明大　3（0－1、0－0、2－2）2　全滿洲

（審判　辻、小森氏）

フイギュア競技

（一月廿六、七、八日　於、芝浦、山王リンク）

男子選手權成績順位

			順位點	スクール	フリー	總得點
1	有坂隆祐	（明　大）	6	一六二・一〇	一〇七・六〇四	二六九・七〇四
2	神田　博	（甲南高校）	9	一五九・六二	一〇五・三三六	二六四・九六五
3	小豆島藤丸	（大阪ス倶）	15	一三七・〇八	一一三・四〇〇	二五〇・四八〇
4	酒井克巳	（日　大）	21	一二四・九四	一〇六・三四四	二三一・二八四
5	高山正明	（慶　大）	25	一二七・七〇	九二・九八八	二一〇・六六八
6	小林達雄	（明　大）	31	一二三・八八	七四・三四〇	一九八・二二〇
7	伊賀賴勇	（大阪ス倶）	33	一二一・五四	八七・四〇四	一九三・九四四

女子選手權成績順位

			順位點	スクール	フリー	總得點
1	稲田悅子	（大阪ス倶）	5	一七九・九二	一〇八・一一八	二九八・一〇八
2	月岡芳子	（同　　）	10	一四一・四〇	一一三・四〇〇	二五四・八〇〇

3 矢野美智子（關東ス倶） 17 一三五・〇〇 八九・七一三 三三四・七一三
4 生田　艶（大阪ス倶） 18 一一四・一〇 九一・三三四 二〇五・三三四

以上

大會年次優勝者

男子

年度	スピード	フイギュア	ホッケー
第一回 昭和五年	木谷（安東）	久保（明大）	慶大
第二回 六年	大澤（同）	老松（關西）	滿洲醫大
第三回 七年	中止	佐藤（關西）	苫小牧
第四回 八年	李聖德（朝鮮）	片山（關學）	早大
第五回 九年	金正淵（明大）	片山（關學）	慶大
第六回 十年	金正淵（同）	片山（同）	苫小牧
第七回 十一年	安達（滿洲）	北川（大阪）	早大
第八回 十二年	崔龍振（明大）	片山（關學）	立大
第九回 十三年	崔龍振（同）	片山（同）	早大
第十回 十四年	泉山（同）	神田（關西）	立大
第十一回 十五年	朴潤哲（滿洲）	有坂（明大）	明大
第十二回 十六年	片倉（滿洲）	有坂（北海）	明大

女子

第一回 昭和十年	瀧（滿洲）	稻田（關西）	—
第二回 十一年	江島（同）	東郷（關東）	—
第三回 十二年	江島（同）	稻田（關西）	—
第四回 十三年	江島（同）	稻田（同）	—
第五回 十四年	中川（北海道）	稻田（同）	—
第六回 十五年	汾陽（滿洲）	稻田（關西）	—
第七回 十六年	坂本（北海）	稻田（關西）	—

全國學生氷上競技聯盟の創立と競技會

全國學生氷上競技聯盟が生れたのは大正十三年の暮、最初の大會をやつたのは翌年の十四年一月、これ以前から各大學にはそれ〴〵スケート倶樂部、乃至はスケート部が出來て居つて毎冬のように諏訪湖へ出かけていつた。

大正十年十一年頃の諏訪湖は未だ今のようなことはなく、正月元旦と云へば全面結氷して氷滑子を喜ばせたものだ。早大を除く他校は殆んど悉く上諏訪の湖畔に合宿し、早大だけが下諏訪に合宿して、高濱灣頭から上諏訪の鶴遊館沖迄一面油を流したかのような、素晴しい油氷の上を、毎朝十人、十五人と隊を組んで滑つて來て居た。

各大學は諏訪湖でお互ひに名のりを上げたのであるが未だ〴〵結成して聯盟を作らうなどといふ進歩的なところに迄は考へが進んで居なかつた。みんな諏訪湖の素晴しい氷原に氣を奮はれてか只スケーチングそれ自身に對する熱情があつたのみ。

大正十二年頃から諏訪湖の結氷が思ふように早くなく、各大學の氷滑子は遠く富士見高原に迄氷を探しに出かけたり、高島城趾の猫の額のリンクで我慢したりして居たが、かゝるスケート場探しで苦心をなめて居る中、各大學スケート部員間に自ら相通ずるものが生じ、大正十三年の暮、氷がない〴〵と、ぐちをこぼしながら、とう〳〵全國學生氷上競技聯盟が組織されてしまつた。勿論ことこゝに至る迄には幾度かの折衝が各校間に行はれたのであつたが、スケート界の先輩と云はれる人達を、この結成に介入せしめず、學生自身がお互の信念を以つて結成し組織し、それがその後聊かの内紛内訌の如きものもなく強固なるスケート界の力となつたところに大いなり誇りがあると、當時の學生、今の先輩は若いものを集めて氣を吐いて居る。

諏訪湖の結氷が年毎に危ふくなつて來たので、先を見越した慶大は大正十二年の冬から八ヶ岳の東北側にある松原湖に根を生やした。これは一人の先輩が夏のハイキングで發見した湖氷だつたが案外結氷もよく、大正十三年には早大、明大も合宿するようになつた。だから第一回の學生大會を搖籃地諏訪湖で行ふべく計畫し、その諏訪湖の結氷があぶなつかしくて淺間の六助池に持つて行き、そこも全國的暖氣の爲ではあつたにせよスピード・レースは行ひ得なかつたのであるから、今後の大會場は少しは不便であらうとも松原湖に持つて行かうといふことに一決し、第二回大會からは八ヶ岳の硫黄岳の岩壁を眺めながらなつかしい松原湖のスケート大會といふのがはじまつたのである。

松原湖を會場としての大會は昭和五年迄四年間に亘つて行はれたが、スケート競技の地方的發達と普及をはかる爲に昭和六年及七年、八年の三ヶ年間は盛岡市外高松池を會場として大會を行ひ

東北地方のスケート界に刺戟を與へるところ大であつた。昭和八年の暮に日光の細尾に一周四百米の特設トラックが出來たので東京から便利だといふので昭和九年、十年はこゝで大會を行ひ、素晴しい成績を擧げるようになつた。

選手の技倆が向上し躍進する頃、東京の市内に屋内特設スケート場が二つ三つと現はれて來た。この特設リンクの出現は、フイギュアと云はずアイス・ホッケーと云はずスピード迄も長期に亘つて練習が出來るといふことが技術的に大きな効果を與へ、各選手の技術はまた一段と進歩を見せるようになつた。

スケート界の歴史は既に三十年にもなり、その間しば〳〵競技會も行はれたのではあつたが、何れも一部的のものであり、乃至親睦的運動會的のものにしかすぎなかつたゞけに、この學生聯盟の選手權大會は我國スケート界の最大の力となり、正しい方向を示す中心勢力ともなつた。

全國學生氷上競技聯盟の選手權大會も昭和十五年で十五回目になる。この間に於ける學生聯盟の使命は大きなものであつた。そして日本のスケート界は、大日本スケート競技聯盟と學生聯盟の協力に依つて正しい發達を續けつゝある。

スピード・レースで覇を稱へ强陣を誇つたのは早大であつた。第二回はじめてスピード・レースの行はれた松原湖の大會から盛岡市高松池の第七回大會迄兎に角六年間ぶつ續けてスピードの覇權を握つて居たなどは、如何に早大のスピード陣が充實して居たかを物語るものであつたが、昭和八年遂にこの堅陣は强敵明大のために崩されるに至つた。そしてその明大は早大にかはり既に八年間スピードの覇權を持續して居る。

アイス・ホッケーは昭和三年滿洲醫科大學チームの參加に依つて從來のアイスホッケー技術に一大革命を與へ、學生チームの强味と内容を愈々充實せしめた。

アイス・ホッケーの第一回大會に於ける選手權は早大が獲得、その後帝大、慶大の進出となつたが、現今に於ては、早、慶、明立、帝等力の接近を示し、技術的レベルも著しい上昇を示すに至つた。

フイギュア競技は、昭和三年の第三回大會以後完全に慶大に於て選手權を獨占したまゝ、これに追ひ迫る帝大、明大、關學を一歩も近づけずフイギュア王國の優位を誇つて居た。個人的には金子、久保、帶谷、小林、老松、長谷川、片山が代表的で、殊に片山のフイギュアは、男子選手として、斷然頭角を現はすものであつた。

學生選手權大會の選手權種目は以上のスピード、アイス・ホッケー、フイギュアの三種目であつて、この中二種目を獲得した學校がその年の綜合優勝校となるのである。また三つの選手が分割された場合は、團體競技としてのアイス・ホッケーに優勝した學校が綜合選手權の獲得者となることになつて居る。

今學生大會の競技成績を年度順に記錄すると次の通りである。

全國學生選手權競技記錄

第一回大會

（大正十四年一月六、七日　松本市外六助リンク）

アイス・ホッケー

第一回戰

松本高校（棄）　日本歯科

早　大　6——2　慶　大

準決勝戰

早　大　6——2　東京帝大

松本高校（不戰勝）

優勝戰

早　大　8——1　松本高校

フイギュア

1村津（東大）五點、2佐藤（東大）七點、3平川（東大）十一點

4小口（早大）十一點、5新寺（松本高校）十四點、6平林（慶大）二十點、7槇（慶大）二十四點

第二回大會

（大正十五年一月五日—七日　松原湖）

アイス・ホッケー

第一回戰

東京帝大　7——0　二　高

慶　大　3——1　早　大

北海道帝大　4——2　松　高

第二回戰

北海道帝大　8——0　明　大

東京帝大　2——1　慶　大

決勝

東京帝大　4——1　北海道帝大

フイギュア

團體成績

1北海道帝大、2東京帝大、3明大

個人成績

1村津（東大）、2久保（明大）、3赤羽（北大）

スピード

二百米

1西田（早大）二二秒四、2平林（慶大）、林（明大）中澤（松高）

五百米

1窪田（早大）一分五秒四、2平林（慶大）、3後藤（北大）

千米

1窪田（早大）三分二六秒八、2小里（早大）、3平川（慶大）

五千米

1窪田（早大）一三分三三秒二、2新城（慶大）、3小里（早大）

二千米リレー

1慶大（平川、高畠、新城、平林）四分四〇秒二、2早大、3

第三回大會

（昭和二年、諒闇中にて中止）

第四回大會

（昭和三年一月六日—九日　松原湖）

アイス・ホッケー

第一回戰

早　大　9—0　明　大

第二回戰

北　大　16—0　松本高校
滿洲醫大　16—0　東北帝大
早　大　3—2　東京帝大
慶　大　（棄）　法　大

準決勝

滿洲醫大　12—0　早　大
慶　大　6—2　北　大

決勝

滿洲醫大　7（1—3、1—0、5—0）3　慶　大

フイギュア

團體成績

1慶大（金子、新城、平林）六八七點七五二、2北大、3明大、4東大

個人成績

1金子（慶大）二六六點四七五、2久保（明大）二九五點三八、3大宮（法大）、4赤羽（北大）、5新城（慶大）

スピード

千五百米（タイム・レース）

1河村（法大）三分三秒、2窪田（早大）、3金子（明大）

五千米（オープン・コース）

1金子（明大）一〇分四〇秒二、2影山（早大）、3河村（法大）

五百米（タイム・レース）

1小西（早大）五八秒〇（大會新記錄）、2伴野（明大）、3平田（早大）

千米（タイム・レース）

1平野（滿醫）二分〇秒八、2影山（早大）、3伴野（明大）

一萬米（オープン・コース）

1金子（明大）二一分一一秒、2窩田（早大）、3金子（慶大）

二千米リレー（タイム・レース）

1滿醫チーム（林、北川、庄司、平野）、2早大、3慶大

第五回大會

（昭和四年一月七日—十日　松原湖）

アイス・ホッケー

第一回戰

慶　大　2—1　早　大
東　大　4—2　明　大
東北帝大　6—2　二　高

準決勝

慶　大　10—0　松本高校
東　大　3—1　東北帝大

決勝

慶　大　15（4—2、1—1、0—7）3　東　大

フイギュア

團體成績

1慶大（金子、西川、和田）、2明大、3東大

個人成績

1金子（慶大）、2久保（明大）、3西川（慶大）、4西村（關大）

スピード

五千米（オープン・コース）

1牧（早大）一一分二八秒八、2影山（早大）、3小西（早大）

千米（タイム・レース）

1伴野（明大）一分五九秒、牛山（早大）一分五九秒（以上大會新記錄）、3小西（早大）

千五百米（タイム・レース）

1牧（早大）二分五七秒六（大會新記錄）、2影山（早大）、3伴野（明大）

五百米（タイム・レース）

1倉町（明大）五三秒八、2伴野（明大）五四秒二、3小西（早大）五四秒四、4牛山（早大）五四秒八（以上大會新記錄）

二千米リレー（タイム・レース）

1早大（三分四八秒八）、2明大（三分五六秒八）、3慶大（四分一〇八）（以上大會新記錄）

一萬米（オープン・コース）

1牧（早大）二二分四四秒八、2影山（早大）、3金子（慶大）

各校總得點

早大　五九點　　明大　二六點　　慶大　四點

第六回大會

（昭和五年一月五日—八日　松原湖）

アイス・ホッケー

第一回戰

慶　大　9—0　明　大

東北帝大 26—0 東洋大學
松本高校 5—2 一高
北海道帝大 27—0 立大
早大 14—3 東京帝大

準決勝

松本高校、東北帝大共に棄權
慶大 5—1 早大

決勝

慶大 5 (2—0, 2—2, 1—1) 3 北海道帝大

フイギュア

團體成績

1慶大八點、2明大一三點(減點法)

個人成績

1金子(慶大)七點、2久保(明大)八點、3帶谷(慶大)一六點
4和田(慶大)二一點、5小林(明大)二六點、6今野(明大)二九點

スピード

五百米(タイム・レース)

1倉町(明大)五二秒八、2牛山(早大)、3保坂(早大)

千五百米(タイム・レース)

1矢崎(明大)二分五九秒〇、2倉町(明大)三分五秒四、3小口(早大)

五千米(オープン・コース)

1影山(早大)一〇分四〇秒八、2羽田(早大)、3寺田(明大)

一萬米(オープン・コース)

1影山(早大)二二分九秒四、2羽田(早大)、3寺田(明大)

二千米リレー(タイム・レース)

1明大(矢崎、寺尾、金子、倉町)三分四〇分四(大會新記錄)

各校總得點

1早大五一點、明大三二點、3立大三點半、4慶大三點、5東北帝大二點、6東洋大學一點半

第七回大會

(昭和六年一月六日—十日 高松池)

アイス・ホッケー

第一回戰

北海道帝大 26—0 岩手醫專
東北帝大 3—1 東京帝大
早大 (不戰勝)

第二回戰

慶大 23—0 立大
京城帝大 1—0 明大
北海道帝大 6—1 東北帝大

早大 棄 東洋大學

準決勝

慶大 3—2 北海道帝大
早大 4—1 京城帝大

決勝

早大 3 (1—0, 0—2, 2—0) 2 慶大

フイギュア

團體成績

1慶大九點、2明大一四點、3北海道帝大二四點、4東北帝大三一點

個人成績

1帶谷(慶大)五點、2和田(慶大)一一點、小林(明大)一六點
4今野(明大)一八點、5是安(北大)三一點、6林(慶大)三一點

スピード

五百米(タイム・レース)

1牛山(早大)五四秒四、2保坂(早大)、3倉町(明大)

千五百米(タイム・レース)

1小西(早大)二分五六秒九(大會新記錄)、3矢崎(明大)、4保坂(早大)

五千米(オープン・コース)

1牧(早大)一〇分二一秒八、2羽田(早大)二〇分三五秒二、3寺尾(明大)一〇分三五秒三(以上三名大會新記錄)

一萬米(オープン・コース)

1牧(早大)二分三二秒五、2矢崎(明大)、3寺尾(明大)

二千米リレー(タイム・レース)

1明大(矢崎、寺尾、高山、倉町)三分四〇秒三(大會新記錄)

各校總得點

1早大五四點、2明大三五點、3慶大五點、4立大三點、5京城帝大二點

第七回大會

(昭和七年一月三日 高松池)

稀有の暖氣の爲結氷悪く遂に本年度大會は中止となる。

第八回大會

(昭和八年一月三日—八日 高松池)

アイス・ホッケー

第一回戰

慶大 5—0 北大
早大 6—0 岩手醫專
明大 8—0 東大

京城帝大 8—0 立大

準決勝

慶大 8—2 京城帝大

明大 2—1 早大

決勝

慶大 2（1—0、1—0、0—0）0 明大

フイギュア

團體成績

1慶大、2明大、3北大豫科

個人成績

1片山(關學)、2小林勝(慶大)、3小林正(明大)、4小林次(明大)、5渡邊(慶大)、6五十嵐(慶大)、7山本(明大)、8上谷(東大)

スピード

五百米（タイム・レース）

1濱英(明大)四九秒、2三浦(早大)四九秒四、3柴山(早大)五〇秒八、4倉町(明大)（四位迄大會新記錄）

千五百米（タイム・レース）

1崔(明大)二分四六秒二、2濱英(明大)二分四七秒四、3三浦(早大)二分五五秒二、4濱三(明大)、5藤野正(慶大)（五位迄大會新記錄）

五千米（オープン・コース）

1崔(明大)九分五一秒二、2金(明大)九分五七秒二、3矢崎(明大)九分五七秒六（三位迄大會新記錄）

一萬米（オープン・コース）

1金(明大)二一分二一秒六、2矢崎(明大)、3羽田(早大)、

二千米リレー（タイム・レース）

1明大(矢崎、崔、濱英、倉町)三分二六秒、2早大三分三四秒六、3慶大三分三八秒（以上大會新記錄）

各校總得點

1明大五七點、2早大二六點、3慶大九點、4立大一點

第九回大會

（昭和九年一月二日—六日　日光細尾）

アイス・ホッケー

第一回戰

明大 3—0 早大

北大 4—2 東北帝大

慶大 6—1 立大

盛岡醫大 5—1 東大

準決勝

北大 5—3 盛岡醫大

慶大 2—1 明大

決勝

慶大 6（1—0、3—0、2—0）0 北大

フイギュア

團體成績

1慶大、2關學、3明大、4早大

個人成績

1片山(關學)、2長谷川(慶大)、3渡邊(慶大)、4小林二(明大)、5小林勝(慶大)、6倉橋(關學)

スピード

五百米（タイム・レース）

1崔(明大)四七秒九(大會及日本新記錄)、2濱英(明大)四九秒(日本タイ記錄)、3大澤(早大)

千五百米（タイム・レース）

1崔(明大)二分三七秒五(學生新記錄)、2濱三(明大)、3大澤(早大)

五千米（オープン・コース）

1金(明大)九分三一秒一、2矢崎(明大)九分四〇秒八、3寺尾(明大)九分四三秒八（三位迄大會新記錄）

一萬米（オープン・コース）

1金(明大)一九分五〇秒四、2矢崎(明大)二〇分九秒五、3安(明大)

二千米リレー（タイム・レース）

1明大(矢崎、金、崔、濱)三分一八秒二(大會及日本新記錄)

第十回大會

（昭和十年一月三日—九日　日光、芝浦）

アイス・ホッケー（於、芝浦リンク）

第一回戰

東京帝大 3—0 東北帝大

京城帝大 12—0 北海道帝大

立大 15—1 京都帝大

第二回戰

京城帝大 11—2 東京帝大

立大 5—3 早大

同志社大學 12—3 岩手醫專

慶大 8—5 明大

準決勝

立大 12—0 京城帝大

慶大 26—1 同志社大學

決勝

慶大 立 10（2—1、4—2、4—0）3 立大

フイギュア（於、芝浦リンク）

團體成績

1慶大八點、2明大一九點、3關西學院二四點、4同志社三二點、5早大三七點

個人成績

1長谷川次(慶大)八點、2渡邊(慶大)一〇點、3片山(關學)一二點、4小林二(明大)二〇點、5小林勝(慶大)二六點、6倉橋(關學)三一點

スピード（於、日光）

五百米（タイム・レース）

1石原(早大)四五秒(日本新記錄)、2崔龍振(明大)四七秒一(日本新記錄)、3張祐植(明大)

千五百米（タイム・レース）

1張祐植(明大)二分三一秒九、2濱(明大)、3崔龍振(明大)

五千米（オープン・コース）

1李聖德(早大)九分一三秒八(參考日本記錄)、2金正淵(明大)九分一四秒二(參考日本記錄)、3穗口(早大)

一萬米（オープン・コース）

1金正淵(明大)一八分四六秒三(參考日本記錄)、2李聖德(早大)、3穗口(早大)

二千米リレー（タイム・レース）

1明大(矢崎、張、崔、金)三分一六秒(大會新記錄)

各校總得點

1明大五一點、2早大四〇點、3立大五點、4慶大三點

フイギュア（於、芝浦リンク）

團體成績

1慶大(星野、小林、和田)二五點、2明大(山本、有坂、羽田)二三點、3早大(黑田、島川、吉川)一五點、4關學九點、5同志社大五點、6大阪商大一點

個人成績

1星野(慶大)七〇七點、2小林(慶大)六九〇點八一、3山本(明大)六八九點五三、4倉橋(關學)六四三點七三、5黑田(早大)六三七點一四、6有坂(明大)六三二點五二

スピード（於、日光細尾）

五百米（タイム・レース）

1崔龍振(明大)四六秒九、2安(明大)四七秒六、3渡邊(早大)

千五百米（タイム・レース）

1崔龍振(明大)二分三二秒八、2杉浦(早大)二分四四秒八、3張日弘(明大)

〔滿　醫〕　田矢植黑原順　西栗柘石中小　FW　小島　堀　DF　淺　尾　GK　1

〔早　大〕　小須田堀田部所田　西富安別平　FW　柴松安中中　DF　山本田　島澤　GK　1

反則

五千米（オープン・コース）

1尹(明大)九分一七秒八、2金永河(明大)九分一八秒、杉浦(早大)同タイム

一萬米（オープン・コース）

1金(明大)二〇分五八秒二、2尹(明大)二〇五八秒二、3穗口(明大)

二千米リレー（タイム・レース）

1早大(柴山、黑田、酒井、渡邊)三分一五秒二(日本新記錄)
2明大(許、、金、安、崔)三分二一秒、3慶大

各校總得點

1明大五六點、2早大三二點、3慶大一一點、4立大零點

第十一回大會

（昭和十一年一月二日—十二日）
日光細尾、芝浦リンク

アイス・ホッケー（於、芝浦リンク）

第一回戰

立教大學　9—0　慶應大學
早稻田大學　15—0　關西學院
京都帝大　3—1　北海道帝大

第二回戰

東京帝大　5—3　東北帝大
早稻田大學　4—3　立教大學
明治大學　2—1　京都帝大
滿洲醫大　8—3　同志社大

準決勝戰

早大　20（7—0、5—0、8—0）　0　東京帝大
滿洲醫大　2（0—0、2—1、0—0）　1　明大

決勝戰

早大　2（0—0、2—0、0—1）　1　滿洲醫大

第十二回大會

（昭和十二年一月五日より）

アイス・ホッケー（於、芝浦スケート場）

第一回戰

明治大學　6—0　東京帝大
東北帝大　1—0　京城帝大
慶應大學　4—0　北海道帝大
京都帝大　6—2　同志社大學

準々決勝

明治大學　11—0　東北帝大
慶應大學　7—2　京都帝大

早稲田大學　棄權　岩手醫專
立教大學　棄權　關西學院

準決勝

立教大學　4—2　明治大學
早稲田大學　1—0　慶應大學

決勝

立教大學　2（0—0、0—0、0—0）0　早稲田大學

〔立大〕
FW：中村、田谷、柳、開、橋
DF：田大砂金小新 谷
GK：山本
反則 1

〔早大〕
FW：田部鞍田田堀
DF：安安鬼小須富西 川田澤
GK：市平中
反則 1

三、四位決定戰

明治大學　2—1　慶應大學

フイギュア（於、芝浦リンク）

團體成績

1慶大二五點、2早大一五點、3明大一四點、4大阪商大一點

個人成績

1渡邊（慶大）一二八二點八、2長谷川（慶大）一二五五點六、3黒田（早大）一〇六五點八、4山本（明大）一〇四五點四、5星野（慶大）一〇四三點、6島川（早大）九四三點三

スピード（於、日光細尾）

五百米（タイム・レース）

1石原（早大）四五秒八、1李聖德（早大）四五秒八、3崔龍振（明大）四六秒〇

千五百米（タイム・レース）

1金正淵（明大）二分二七秒一、2崔龍振（明大）二分二八秒二
3張祐植（明大）二分二八秒四

五千米（オープン・コース）

1崔龍振（明大）九分一六秒〇、2張祐植（明大）九分一六秒二
3金正淵（明大）九分一六秒四

一萬米（オープン・コース）

1李聖德（早大）一九分三七秒〇、張祐植（明大）一九分三七秒二、3南洞（早大）一九分三八秒九

二千米リレー（タイム・レース）

1早大（中村、南洞、石原、李）三分三秒八（日本新記錄）、
2明大（泉山、許、金、崔）三分六秒五（日本新記錄）

各校總得點

1明大五〇點、2早大四一點、3慶大八點

第十三回大會

（昭和十三年一月五日—九日
於、八戸市長根リンク・芝浦リンク）

アイス・ホッケー（於、芝浦リンク）

第一回戰

慶應大學　2—1　京城帝大
滿洲醫大　9—0　東北帝大
明治大學　10—1　同志社大
東京帝大　棄權　北海道帝大

準々決勝

立教大學　棄權　京都帝大
早稲田大學　15—0　關學大學
滿洲醫大　3—1　慶應大學
明治大學　9—1　東京帝大

準決勝

立教大學　8—1　滿洲醫大
早稲田大學　1—0　明治大學

決勝

早稲田大學　3（0—1、1—1、1—0）2　立教大學

〔立大〕
FW：柳田中田藤村橋
DF：小砂田前後大 谷
GK：木村
反則 4

〔早大〕
FW：川鞍田島田
DF：中鬼小須右田 川田
GK：吉左七市安中澤
反則 0

フイギュア（於、芝浦スケート場）

團體成績

1慶大二八點、2明大一六點、3關學一〇點、4早大九點、5同大三點

個人成績

1長谷川次男（慶大）一三三六點七五、2片山敏一（關學）一二九六點一〇、3渡邊善次郎（慶大）一二四八點八〇、4星野（慶大）一〇五九點五八、5有坂（明大）一〇四五點八〇、6島川（早大）一〇〇三點四六、7小林（明大）、8木村（明大）、9河村（同大）、10小島（早大）

スピード

（一月五、六、七日於、青森縣八戸市長根リンク）

五百米（タイム・レース）

1崔龍振（明大）四五秒九、2中村禮吉（早大）四六秒四、3許景日（明大）四六秒五

千五百米（タイム・レース）

1崔龍振（明大）二分三三秒二、2南洞邦夫（早大）二分三六秒九、3金莊煜（明大）二分三八秒二

五千米（タイム・レース）

1張祐植（明大）九分一一秒五（大會新記錄）、2南洞邦夫（早大）九分一九秒、3尹世植（明大）九分二三秒三

一萬米（タイム・レース）

1張祐植(明大)一九分一四秒五、2尹世植(明大)一九分二五秒四3安重淵(明大)一九分二七秒二

二千米リレー（タイム・レース）

1明大(泉山、崔炅、許、崔龍)三分一一秒七、2早大(中村、幡田、南洞、穂口)三分一二秒一、3慶大(三野、木村、三島大川)二分二四秒九

各校總得點

1明大五九點、2早大三一點、3慶大九、4立大〇

第十四回大會

（昭和十四年一月六日—五日間 於信州蓼の海リンク、芝浦リンク）

アイス・ホッケー（於、芝浦リンク）

第一回戰

慶應大學 3——2 滿洲醫大
同志社大學 7——1 北海道帝大
京城帝大 4——1 法政大學
早稲田大學 14——0 中央大學
明治大學 16——0 京都帝大

第二回戰

慶應大學 11——1 東北帝大
立教大學 15——4 同志社大學
早稲田大學 11——0 東京帝大
明治大學 棄權 京城帝大

準決勝

立教大學 9——1 慶應大學
早稲田大學 6——1 明治大學

決勝

立教大學 3（2——1、0——1、1——0）2 早稲田大學

〔立大〕
FW：中田、村、藤、橋、鞍
DF：田谷、砂藤、内
GK：大山本
反則 0

〔早大〕
FW：島、鞍、川、津、田、西
DF：吉川、鬼木
GK：中田
反則 0

フィアギア（於、芝浦リンク）

團體成績

1明大二一點、2慶大一二點、3早大八點、4立大四點

個人成績

1長谷川次男(慶大)一三八六點九、2有坂祐隆(明大)一三六八點七、3小林(明大)一一一九點二、4木村(明大)一〇五〇點一、5富里(早大)八四五點六、6鹽田(立大)、7最賀(慶大)、8小島(早大)、9今野(早大)

スピード（於、蓼の海リンク）

五百米（タイム・レース）

1山下勝久(早大)四四秒九(學生新記錄)、2崔炅洙(明大)四五秒一、3高林三郎(明大)四五秒二

千五百米（タイム・レース）

1安重淵(明大)二分三三秒九、2崔炅洙(明大)二分三五秒九、3李仁源(明大)二分三七秒三

五千米（タイム・レース）

1張祐植(明大)九分二一秒〇、2尹世植(明大)九分二二秒九、3泉山貞義(明大)九分三〇秒三

一萬米（タイム・レース）

1張祐植(明大)八分五八秒〇、2尹世植(明大)一九分一六秒四、3金永俊(明大)一九分二一秒九

二千米リレー（タイム・レース）

1早大(中村、穂口、山下、南洞)三分三秒五(學生新記錄)、2明大(李仁、張日、高林、崔炅)三分三秒八(學生タイ記錄)、3慶大(深井、佐々木、田中、三野)三分三一秒八

各校總得點

1明大六〇點、2早大三二點、3慶大七點、立大零點、法大零點

第十五回大會

（昭和十五年一月七日—五日間 於日光細尾リンク、芝浦リンク）

アイス・ホッケー（於、芝浦リンク）

第一回戰

明大 20（6——0、8——0、6——0）0 北大
中大 5（2——0、1——0、2——0）1 關學
同大 3（1——1、1——0、1——0）2 法大
慶大 16（10——0、3——1、3——0）1 東北帝大

第二回戰

明大 7（2——0、4——0、1——0）0 同大
早大 7（2——0、3——0、2——0）0 中大
立大 14（6——0、5——0、3——0）0 京大
慶大 8（4——0、2——0、2——0）0 東大

準決勝

決勝

明大 7（2－2、3－2）4 早大

立大 5（1－1、2－2）2 慶大

立大 3（0－0、1－1、2－1）2 明大

（審判 安部、辻氏）

大〔中田 鞍村 賀橋 藤藤 宅〕

〔立大〕 FW 田砂鬼大多高 DF 内後三 GK 弟元兄口苅藤川内家 副副

〔明大〕 FW 江福江田草内滑山結 DF 副之 GK

反則 0 0

スピード（於日光細尾リンク）

五百米（タイム・レース）

1 山下勝久（早大） 四五・五秒
2 阿部剛（明大） 四六・二
3 高林三郎（明大） 四六・四
4 市川健一（早大） 四七・三
5 林哲夫（明大） 四七・三
6 三野勉（慶大） 四九・一

千五百米（タイム・レース）

1 南洞邦夫（早大） 二、三一・三秒
2 李仁源（明大） 二、三三・一
3 山下勝久（早大） 二、三三・五
4 李明天（明大） 二、三三・九
5 高林三郎（明大） 二、三四・九
6 市川健一（早大） 二、三八・七

五千米（タイム・レース）

1 深井恒雄（慶大） 九、〇七・一分
2 南洞邦夫（早大） 九、一一・〇

（以上大會新記錄）

3 李仁源（明大） 九、一一・七
4 尹世植（同） 九、一六・三
5 中楠際（早大） 九、二二・〇
6 村上文藏（慶大） 九、二二・〇

一萬米（オープン・コース）

1 中楠際（早大） 一八、五二・六分
2 深井恒雄（慶大） 一八、五三・二
3 尹世植（明大） 一八、五三・二

4 金永俊（同） 〃
5 金潤昊（同） 〃
6 村上文藏（慶大）

二千米リレー（タイム・レース）

1 明大（李仁源、高林、金莊煜、阿部）三分〇六秒〇

2 早大（中楠、市川、南洞、山下）三分一〇秒五
3 慶大（佐々木、森、田中、三野）三分二六秒二
4 立大 5 法大

各校總得點

1 明大四四點、2 早大三七點、3 慶大一七點（法大〇、立大〇）

フイギュア（於、芝浦リンク）

個人成績順位

	氏名	順位點	スクール	フリー	總得點
1	有坂隆祐（明大）	5	八〇〇・八〇	六一八・一一	一四一八・九一
2	小林達雄（明大）	11	六三四・八〇	五四六・九二	一二八一・七二
3	高山方明（慶大）	14	五八二・一〇	五〇七・三七	一〇八九・四七
4	鹽田直重（立大）	21	五五九・九〇	四一二・四八	九七二・三八
5	伊藤八郎（早大）	24	五二八・七〇	四〇一・一五	九二九・八五
6	佐藤（明大）八二九・七九			7 中上川（慶大）八一九・四五	
8	最賀（慶大）八〇〇・四一			9 廣野（關學）七七八・三三	
10	山口（早大）六九二・四一			11 井上（同大）12 辻村（北大）	
13	的場（關學）				

各校對抗順位

1 明大四五點、2 慶大三六點、3 早大二三點、4 關學一七點
5 立大一四點、6 同大一二點、7 北大六點

全國學生氷上競技選手權大會年次成績表

大正十四年	スピード	フイギュア	ホッケー	優勝校
大正十五年	ナシ	東北帝大	早大	—
昭和二年	早大	北大	東北帝大	—
昭和三年	（諒闇中にて中止）			
昭和四年	大慶大	滿洲醫大	—	
昭和五年	同	慶大	慶大	慶大
昭和六年	同	同	同	同
昭和七年	同	大	早大	大
昭和八年	（結氷惡く中止）			
昭和九年	明大	慶大	慶大	慶大
昭和十年	同	同	同	同
昭和十一年	同	同	同	同
昭和十二年	同	同	早大	早大
昭和十三年	同	同	立大	立大
昭和十四年	同	明大	大明	大明
昭和十五年	同	同	同	同
昭和十六年	早大	慶大	大明	大同

第八回明治神宮體育大會スケート競技會は、昭和十一年一月三十一日日光細尾リンクに於てスピード競技、二月一、二日の兩日東京芝浦スケート場に於て、フイギュア及びアイス・ホッケー競技を行つた。

スピード競技の行はれた一月三十一日は、數日來の暖氣の爲め大會開催不能といふやうな説が選手間に傳はり、遠隔の各地方選手は、その大部分が歸鄉して、參加選手は僅かに早明兩校と地元日光チームだけで、その數は實に十八名といふ淋しさであつた。

懸念されたリンクも、急激な寒氣の爲め結氷は見たが、レース前夜降雪があり、然もレース中にも小雪が舞ふ狀態であつて、記錄に對する期待は全然望めなかつた。だが何んと云つても淋しかつたことは、丁度この年ガルミッシュの第四回冬季オリムピック大會に七名の代表選手を送つて居たことで、これは、スピードのみに限らずアイス・ホッケー、フイギュア共に感ずることであつた。

スピード・レースの結果は、五百米と千五百米の短距離レースに崔君(明大)三千米及び五千米に尹世植君がそれ〴〵優勝した。

アイス・ホッケーの出場チームは、前回同樣全日本選手權の準決勝に殘つた四チームで、本大會には、早大、立大、日光、それから慶大の棄權に依つて推薦された滿鐵の四チームが、神宮大會の覇權を巡つて對峙し、第一日の準決勝で早大と立大が勝ち殘り決勝では早大が覇權を獲得した。

またフイギュアは、數日前終つた全日本選手權大會のあとであるだけに、捲土重來の意氣物凄く白熱せる競技が見られた。

スピード競技（一月卅一日日光細尾）

男子競技

五百米（タイム・レーム）

1崔龍振(明大)四七秒二、2許景日(明大)四八秒八、3福田一正(日光)五二秒三、4手塚勇(日光)、5寺内榮次(日光)

千五百米（タイム・レース）

1崔龍振(明大)二分三五秒六、2張日弘(明大)二分四二秒九、3朱鳳德(明大)二分四八秒三、4谷田貝菊一(日光)、5許景日(明大)

三千米（タイム・レース）

1尹世植(明大)五分四四秒九、2張日弘(明大)五分五三秒八、3朱鳳德(明大)六分〇三秒一、4谷田貝菊一(日光)、5小平清(日光)

五千米（タイム・レース）

1尹世植(明大)一〇分〇六秒四、2杉浦正(早大)一〇分二八秒〇3齋藤繁(日光)一〇分五三秒七、4穗口重雄(早大)一一分二一秒

女子競技

五百米（オープン・コース）

1星野トミ子(日光)一分〇九秒〇、2福田トシ子(日光)一分一〇秒二、3小田富士子(日光)一分一六秒四、4小平清子(日光)

千五百米（オープン・コース）

1星野トミ子(日光)三分四八秒九、2小平清子(日光)三分五五秒一、3小田富士子(日光)四分〇八秒八、4福田トシ子(日光)

アイス・ホッケー競技（二月一、二日　芝浦スケート場）

準決勝

立教大學 10（3—2、1—0、6—0）2 日光古河

（開始午後五時五分　審判　牧、小西氏）

〔日光〕
FW：山井弟部山上野平兄子、永野本田澤阿神村
DF：星小澤本金
GK：子
反則 1

〔立大〕
FW：田開柳谷谷、砂新小金熊谷
DF：中川村、田西千
GK：村
反則 0

早稲田大學 12（3—0、4—1、5—1）2 全滿鐵

（開始午後八時　審判　金子、難波氏）

〔滿鐵〕
FW：松部田植浦吉、植阿千拓松有
DF：右田垣野、左古山
GK：野
反則 0

〔早大〕
FW：所田田部田堀、別平富安小須西
DF：田本、安松
GK：島、中
反則 2

決勝戰（二月二日）

早稲田大學 4（2—0、1—1、1—2）3 立教大學

（開始午後三時半　審判　金子、難波氏）

〔立大〕
FW：田開柳谷谷、砂新小金熊谷
DF：中川村、田西千
GK：村
反則 2

〔早大〕
FW：所堀田部田須田、別西富安小平松安
DF：本田、安
GK：島、中
反則 2

フイギュア競技

（審判　帶谷、今野、三輪、德川、長谷川(章)氏）

男子競技

順位	氏名	所屬	順位點	スクール	フリー	總得點
1	倉橋　新	(神戸ス)	七	二七三・五	一七四・三七	四四七・八七
2	有坂　隆祐	(明大)	一四	二三三・六	一八三・三八	四一五・九八

3	黒田長義（早大）	一七	二五〇・五	一四五・二三	三九五・七三
4	山本嘉成（明大）	一八	二〇三・一	一八八・一五	三九〇・二五
5	東郷駿二（銀櫻會）	一九	二〇九・四	一八七・六三	三八七・〇三
6	小林達雄（關東フ・ス會）	三三	一八七・五	一三六・七四	三三四・二四
7	野崎勝豐（早大）	三四	一七九・七	一三四・〇三	三一三・七三
8	吉川豐（同）	三九	一五二・〇	一二九・八五	二八一・八五

女子競技

1	東郷球子（銀櫻會）	七	二六二・三	一七八・六一	四四〇・九一
2	手塚滿子（横濱女）	八	二四一・三	二〇八・八三	四五〇・一三

第九回大會（昭和十三年）

フイギュア及びアイス・ホッケー競技は、一月二十六、七兩日東京芝浦スケート場で、スピード競技は、同二十九、三十日長野縣上諏訪蓼の海リンクで擧行された。

先づ二十六日芝浦スケート場でフイギュア及びアイス・ホッケーの選手入場の後開會式と擧行、賀陽總裁宮殿下の令旨を奉戴のち、會長の式辭、片山選手の宣誓その他祝辭があつて競技に入つた。

競技は二日間行はれ、その結果フイギュアでは男子片山、女子稻田孃が優勝、呼物のアイス・ホッケーは立大が覇權を制するに至つた。早大と立大はこのシーズン顔を合はすこと四度び、勝敗はこれで二勝二敗づゝとなつた。

スピード・スケート競技は、一月二十九、三十日の二日間長野縣上諏訪蓼の海リンクで行はれたが、聖恩旗がはじめてこの地に靡つたことゝて、地元は大いに感激、全町を擧げて大會の成功に協力した。

二十九日開會式、總裁宮殿下の令旨奉讀、會長の式辭、選手代表崔龍振の宣誓があり、厚生、文部大臣の祝辭の後長野縣知事の祝辭があつて競技に入つた。

この日は珍らしい程よく晴れた大會日和で、參加五十餘名の選手は、聖恩旗の下に意氣衝天、白熱的レースを展開した。

第二日の三十日は午前九時から續行、曇天雪模樣、氣溫零下五度、氷厚四十センチ、東微風、午前のコンデイシヨンはよかつたが午後になるや東の强風となり、猛烈な吹雪と他レース毎に除雪する狀態ではあつた。然しこれはむしろ選手の志氣を愈々昂揚せしむるものとなり、好記錄はその中から生れた。かくて閉會式は吹きつのる雪の中に行はれたが、嚴寒然も白雪と鬪ふ意氣こそ明治神宮スケート大會にふさはしいものであると感じた。

スピード競技

男子競技

五百米（タイム・レース）

組合順	選手名	タイム	成績順位
1	寺島頴（同）	五二・二秒	一二
	岩波章（中部）	五五・二	五
2	山田豐（同）	六九・二	一七
	坂口勇三郎（明大）	五一・九	四

組合順	選手名	タイム	成績順位
3	岩本功（中部）	五五・七	一六
	渡邊綱秀（同）		
4	廣本治郎（滿洲）	四六・〇	一一
	張日弘（明大）	四六・三	一〇
5	朴三代潤正（滿洲）	四五・四	五
	哲勝（同）	四五・四	
6	崔吳洙（明大）	四五・六	九
	內藤晋（北海道）	四五・四	五
7	許南洞邦（早大）	四四・五	三
	景夫（明大）	四五・三	四
8	李聖德（朝鮮）	四四・一	二
	崔龍振（明大）	四三・六	一
9	林（獨走）益弘（中部）	五一・一	三

千五百米（タイム・レース）

組合順	選手名	タイム	成績順位
1	後藤宮慎（中部）	二、分	二
	坂家好（同）	四五〇・八秒	一
2	濱田波一（關西）	二、四八・三	八
	岩種章（中部）	三、〇八・二	七
3	林益（同）	二、四七・一	二
	韓棹弘翊（明大）	二、四四・五	七
4	岩本美功（中部）	二、四八・六	一
	野澤壽雄（明大）	五三・七	九
5	小松泰章（中部）	二、三九・三	二
	金展官（明大）	五〇・五	一
6	渡邊綱秀（中部）	二、五〇・二	二
	古厩善人（同）	四五・七	五〇

三千米（タイム・レース）

組合順	選手名	タイム	成績順位
1	後藤韓植（明大）	五、分	一
	藤慎翊（中部）	五五四・〇秒	一
2	古野澤壽美（明大）	五、〇九・二	一
	厩善雄（中部）	五三九・五	一七
3	宮坂口勇三（明大）	六、一一・八	一
	坂家郎（中部）	六〇一・六	五八
4	中楠際（滿洲）	五、一六・八	九二
	金莊煜（明大）	五二八・一	
5	高林三郎（中部）	五、二三・七	一
	安達和男（滿洲）	五三四・二	〇七
6	花岡重光夫（明大）	五、二二・八九	五八
	安凞（中部）	五一三・一	
13	崔南龍振（明大）	三、五三・一	三
	洞邦夫（早大）	二〇・四	二
12	李安仁重（同）	二、二二・五	三
	源凞（朝鮮）	二八・一	二
11	許內藤晋（北海道）	二、三三・九	八七
	景日（明大）	二三三・三	
10	三花岡光夫（中部）	二、三三一・五	九五
	代正勝（滿洲）	二三三・六	
9	廣崔吳洙（明大）	二、三二・二	二
	本治郎（滿洲）	二三七・九	六
8	張石塚日省（滿洲）	二、三三五・六	一
	弘（明大）	二三四・四	一〇
7	山寺田島頴豐（同）	二、二〇・四	二
		二二・二	三五

五千米（タイム・レース）

組合順　選手名　タイム　成績順位

7 李泉山仁貞源義朝鮮（同）　五、一二、八・九五　三
8 尹張世祐植植同明大　五、一八、五・九七　四一
9 古濱田厩泰種治一中部（關西）　五、四三、六・七五　一六
10 金泰官明大　六、二〇、一　一九

五千米（タイム・レース）

組合順　選手名　タイム　成績順位

1 小林章展（中部）　九分、三六秒・九　一〇
2 古安厩泰和治男中部（滿洲）　九、三五、三四・九五　九八
3 石金塚莊庄三煜三郎（滿洲）　九、二九、五一・五五　一一六
4 高尹林世三郎植中部（中明大）　九、三二、二二・〇九　七五
5 中泉山楠貞際義滿洲（滿明大）　九、一〇、二〇・〇八　三四
6 朴張祐潤哲植滿洲（明大）　九、〇四、〇〇・一七　二一

女子競技

五千米（タイム・レース）

組合順　選手名　タイム　成績順位

1 今村俊子（同）　五分、六三秒・四　一五

千五百米（タイム・レース）

組合順　選手名　タイム　成績順位

1 村山節子（同）　二分、五八秒・八　三
2 村山菊子（同）　二、五七・九　二
3 村山節子（同）　五、五六・九　四

アイス・ホッケー競技

準決勝

早大 4（1、1、1 / 1、1、1）2 日光古河

（審判　小森、鈴木氏）

〔日光〕
FW：山田七納島清
DF：神藤留
DF：川藤
GK：田中

〔早大〕
FW：川島鞍田田田本
DF：中吉鬼安七小森
DF：市川
GK：左右田
GK：小野澤
GK：中

1　反則　2

決勝

立大 8（4、0 / 2、2 / 1、2）3 明大

（審判　牧、辻氏）

〔明大〕
FW：畑光
FW：村田
FW：村中
FW：副江
FW：元福
FW：野田
FW：刈平
DF：口林
DF：林工
GK：藤結
GK：家

1　反則　0

〔立大〕
FW：中田
FW：田柳
FW：砂藤
FW：小橋
FW：齋藤
FW：高村
DF：谷
DF：橋
GK：大宅
GK：三

立大 0（0、0 / 2、0 / 1、0）0 早大

（審判　難波、辻氏）

〔立大〕
FW：柳小
FW：田砂
FW：中田
FW：藤齋
FW：藤後
FW：村大
DF：橋谷
DF：田前
GK：大三

〔早大〕
FW：川中
FW：吉鬼
FW：左小
FW：島鞍田
FW：右須田
FW：田
DF：川
DF：田
GK：市安
GK：中澤
GK：小野田

4　反則　2

フイギュア競技

男子競技

順位　選手名　順位點　スクール　フリー　總得點

1 片山敏一（關西）　三　七四・三　六三・二　一三七・五
2 有坂隆祐（明大）　六　六四・六　五三・二　一二七・八
3 小豆島藤丸（關西）　九　六三・五　四五・六　一〇九・一
4 小林達雄（明大）　一三　五一・一　三九・二　九〇・三
5 伊賀賴勇（關西）　一五　三九・六　四〇・八　八〇・四

女子競技

順位　選手名　順位點　スクール　フリー　總得點

1 稻田悅子（關西）　三　七六・〇　六七・二　一四三・二
2 鱸美佐子（關東）　七　五五・八　三七・八　九三・六
3 依岡禮子（關西）　八　五七・五　三六・八　九四・三
4 矢野美智子（關東）　一三　四四・三　三八・四　八二・七

第十回大會（昭和十五年）

明治神宮體育大會もこの第十回大會から、厚生省が主催することになり、その名も明治神宮國民體育大會と改つた。

その記念すべき政府主催最初のスケート競技會は、昭和十五年二月二日から四日まで、長野縣上諏訪町蓼の海スケート・リンクに於て華々しく擧行された。

競技會に先立つ前日の二月一日午前七時式典係長伊藤厚生事務官以下聖恩の旗を捧持して厚生省を出發、新宿驛より上諏訪に向ひ、午後零時三十七分役員、演技者、地元官民の奉迎裡に上諏訪驛に下車、沿道に堵列する地元民の奉迎を受けつゝ上諏訪役場に入り、聖恩の旗は奉安室に安置された。

今大會よりは、大會をより一層意義あらしめるべく、從來東京

の屋内スケート場などに分散されて居たフイギュア、アイス・ホッケー、スピード等の各演技を綜合して行ふことになり、遠く滿洲、關東州、朝鮮より一流選手を網羅し、中部スケート聯盟、地元町民の熱意ある支援に依つて大會氣分は全く横溢するに至つた。

大會第一日の二月二日は、午前九時半より聖恩の旗をお迎へして開會式を擧行、油氷の鏡のやうなリンクに役員を先頭に北海道、東北、關東、東京、中部、關西、朝鮮、關東州、滿洲の九地區代表三百餘名が入場、友末厚生省體育課長の開式の辭、國旗揭揚、聖恩の旗奉迎、君ヶ代齊唱、明治神宮遙拜、戰歿勇士の英靈に對する感謝並に出征將兵の武運長久を祈願、總裁　秩父宮殿下の令旨を大會委員長佐々木厚生省體力局長奉讀、會長吉田厚生大臣式辭を佐々木體力局長代讀スケート部役員長大日本スケート競技聯盟會長喜多壯一郎氏の挨拶を氷聯專務理事兩角政人氏代讀、富田長野縣知事祝辭、演技代表者明大有坂隆祐君の宣誓、上諏訪高等女學校生徒二百名に依る明治神宮國民體育大會の歌の齊唱あつて式を閉じ十時四十五分男子千五百米レース及びアイスホッケー一回戰並に男子スクール・フイギュアの三部に亘り戰ひの火蓋を切つた。午後天候急變して吹雪を交へたが、各選手の意氣は愈々高潮した。

第二日の二月三日は、前夜の降雪三十糎に及び競技の運行に多少の支障を來したが、地元有志、諏訪中學二百名の早朝からの除雪作業で大會は恙なく進行した。友末課長は「これこそ明治神宮大會に奉納する立派な神事奉仕である」と感激して居られた。

總裁　秩父宮殿下には、三日夜上諏訪町御着、大會最終日には前田事務官、富田長野縣知事を隨へさせられ、午前八時十五分御宿舍片倉館を御出發、官幣大社諏訪神社に御參拜の後、同九時十五分飯村厚生參與官、友末體育課長以下役員、演技者の奉迎裡に蓼の海リンクに御着、貴賓室で御少憩、女子三千米決勝の火蓋が切らるゝや畏くも貴賓席前のバルコニーにお出ましになり、更にリンクに降り立たせられて大日本スケート競技聯盟理事金子諭吉の御說明を聽召されながら終始御熱心に御總覽遊ばされた後、午後二時五十分諸員奉送の裡に御機嫌麗はしく御歸還、午後四時三十一分上諏訪驛御發御歸京遊ばされた。

かくて演技は女子千六百米繼走を最後に全演技を完了、午後三時二十分嚴肅なる閉會の式典があげられ、三日間に亘る第十回大會スケート部演技は幕を閉じた。

第十回大會冬季大會スケート競技會の光榮ある聖恩の旗捧持者は後藤博（立大アイス・ホッケー主將）、聖恩の旗護衞者南洞邦夫（早大スピード競技主將）、張祐植（明大スピード選手）、草刈敬直（明大アイス・ホッケー主將）、矢野美智子（東京女大出、フイギュア選手）、中川キヨ（苫小牧王子製紙スピード選手）の諸氏であつた。また國旗揭揚者は木下昌樹（滿洲醫大出、ホッケー選手）、安達和男（滿洲スピード選手）各地區標識保持者は長野縣諏訪中學校生徒であつた。

スピード競技

男子競技

五百米（タイム・レース）

成績順位

1阿部剛（東京）四四秒二、2內藤晋（滿洲）四四秒三、3山下勝久（東京）四四秒四、4高林三郎（東京）四四秒八、5三代正勝（滿洲）四五秒五、6山本宏之（滿洲）四六秒一、6安重凞（朝鮮）四六秒一

組合順　選手名　タイム

1（高林忠三郎（中部）洪鐘萬（朝鮮））五六・六秒　四七・五
2（寺島俊（中部）金健會（朝鮮））五一・七　四六・八
3（岩波章（關東）安重凞（朝鮮））五〇・九　四六・一
4（金煜（東京）川口莊芳樹（滿洲））四六・三　四六・三
5（李仁源（東京）山本宏之（滿洲））四六・三　四六・一
6（高林三郎（東京）富田勝久（滿洲））四四・八　五六・五
7（阿部剛（東京）三代正勝（滿洲））四四・二　四五・五
8（山下勝久（東京）內藤晋（滿洲））四四・四　四四・三
9（金聖奎（朝鮮）濱田種一（關西））四六・三　五一・五
10（後藤勇（關東）尾形滿（北海道））五一・六　四九・二
11（渡邊秀綱（關東）小口大八（中部））四九・〇　五三・五
12（寺島頴章（中部）安保（北海道））四八・四　四六・八
13（助光宏（關西）木村勝三郎（東北））五一・九　六四・六
14（宍戶六右衞門（同）小川榮（同））五四・三　五〇・七
15（先川原桂吉（同）津田朝照（北海道））五〇・九　五一・〇
16（伊藤行雄（北海道））四七・五

千五百米（タイム・レース）

成績順位

1南洞邦夫（東京）二分二八秒、2金健會（朝鮮）二分二八秒九、3牛島義男（滿洲）二分二九秒四、4高林三郎（東京）二分二九秒五、5山下勝久（東京）二分二九秒六、6古厩泰治（中部）二分三〇秒四

組合順　選手名　タイム

1（古厩泰治（中部）金健會（朝鮮））二分三〇・四秒
2（張祐植（關東）小松章展（北海道））二、三五・一　二、三九・二
3（李明潤（東京）朴哲（滿洲））二、四二・二　二、三〇・九
4（山下勝久（東京）牛島義男（滿洲））二、二九・六　二、二九・四
5（高林三郎（東京）內藤晋（滿洲））二、二九・五　二、三一・二

6 李仁源（東京）三代正勝（滿洲）二、三〇・九
7 南洞邦夫（東京）片昌男（滿洲）二、二八・四
8 渡邊秀綱（關東）濱田種一（關西）二、四九・一 二、五二・二
9 小川榮（北海道）洪鐘萬（朝鮮）二、三八・九 二、四三・四
10 高林忠三郎（中部）粟田榮（關西）棄
11 佐々木宗七郎（關東）岩波章（關東）同
12 相馬軍治（北海道）朴雲峰（朝鮮）二、四九・五 二、四一・四
13 黒濱耕治（關西）小口大八（中部）棄
14 寺島俊（同北海道）伊藤行雄（北海道）二、四八・九 二、三九・二
15 助光宏（關西）後藤勇（關東）二、四五・〇 二、四五・二
16 寺島碩（中部東北）先川原桂吉（東北）二、四〇・五 二、四〇・一
17 安重淵（朝鮮）安保章（北海道）二、三六・三 二、四〇・四
18 後藤慎（關東）李孝昌（朝鮮）二、五三・六 二、三四・七
19 高林忠三郎（中部）岩波章（關東）二、三八・七 二、五一・六
20 小口大八（中部）二、四八・九

三千米（オープン・レース）

豫選（三等迄入選）

第一組

1 朴潤哲（滿洲）五、〇一・七（分秒）
2 李孝昌（朝鮮）五、〇二・〇
3 古厩泰治（中部）五、〇二・九

第二組

1 山下勝久（東京）五、〇五・四
2 安重淵（朝鮮）五、〇六・三
3 張祐植（關東）

第三組

1 南洞邦夫（東京）五、〇六・一
2 片昌男（滿洲）五、〇六・六
3 金聖奎（朝鮮）五、〇六・七

決勝（六等迄入賞）

1 朴潤哲（滿洲）五、〇二・〇
2 南洞邦夫（東京）五、〇三・三
3 金聖奎（朝鮮）五、〇三・五
4 張祐植（關東）
5 李孝昌（朝鮮）
6 山下勝久（東京）

五千米（オープン・レース）

豫選（三等迄入賞）

第一組

1 南洞邦夫（東京）八、五三・二（分秒）
2 朴潤哲（滿洲）八、五三・五
3 李孝昌（朝鮮）八、五三・八

第二組

1 張祐植（關東）八、五四・二
2 牛島義男（滿洲）八、五八・六
3 朴雲峰（朝鮮）九、〇七・八

第三組

1 中楠際（東京）九、〇九・九
2 橋本清（滿洲）九、一〇・〇
3 片昌男（同）九、一〇・二

決勝（六等迄入賞）

1 朴潤哲（滿洲）八、四九・七
2 中楠際（東京）八、四九・九
3 李孝昌（朝鮮）八、五〇・六
4 南洞邦夫（東京）
5 片昌男（滿洲）
6 張祐植（關東）

二千米繼走（タイム・レース）

成績順位

1 東京（阿部剛、南洞邦夫、高林三郎、山下勝久）三分〇秒五（神宮及日本新記錄）
2 滿洲（三代正勝、川口芳樹、山本宏之、內藤晋）三分〇秒九（神宮及日本新記錄）
3 朝鮮（金聖奎、金健會、洪鐘萬、安重淵）三分〇五秒六
4 北海道（安保章、尾形滿、小川榮、伊藤行雄）三分〇八秒六
5 關東（張祐植、岩波章、後藤慎、渡邊秀綱）三分一八秒八
6 中部（寺島碩、宮崎健、高林忠三郎、古厩泰治）三分二一秒七

女子競技

五百米（タイム・レース）

成績順位

1 繩手滿喜子（滿洲）五〇秒六（日本新記錄）、2 坂本キヨ（北海道）五一秒二（日本新記錄）、江島八重子（滿洲）五二秒三（神宮タイ記錄）、4 汾陽泰子（滿洲）五三秒三、5 平井サエ（北海道）、五四秒一、6 北澤キクエ（北海道）五四秒二

組合順選手名

		タイム（秒）
1	繩手滿喜子（滿洲）平井サエ（北海）	五〇・六 五四・一（神宮、日本新記錄）
2	汾陽泰子（滿洲）北澤キクエ（北海）	五三・三 五四・二
3	鶴谷美江（朝鮮）三ケ尻照子（滿洲）	五八・二 五五・二
4	江島八重子（同）坂本キヨ（北海）	五二・三 五一・二（神宮タイ記錄）（神宮、日本新記錄）
5	李仁九（朝鮮）大高タエ（北海）	五七・三 五四・九
6	木村芳子（滿洲）中川キヨ（北海）	五九・二 五五・一

7 田代千枝子（朝鮮）　五九・三

千米（タイム・レース）

成績順位

1 江島八重子（滿洲）一分四八秒八、2 繩手滿喜子（滿洲）一分五〇秒六、3 坂本キヨ（北海道）一分五一秒一、4 平井サエ（北海道）一分五一秒三、5 汾陽泰子（滿洲）一分五一秒四、6 野澤光子（北海道）一分五二秒三

組合順　選手名　タイム

1 繩手滿喜子（滿洲）　一分五〇秒六
　鶴谷美江（朝鮮）　二、〇〇・三
2 大倉惠美子（滿洲）　一、五二・五
　品川京子（北海道）　一、五七・四
3 李仁九（朝鮮）　一、五九・八
　北澤キクエ（北海道）　一、五三・九
4 江島八重子（滿洲）　一、四八・八
　平井サエ（北海道）　一、五一・三
5 田代千枝子（朝鮮）　二、〇四・三
　淺海久子（同）　二、〇八・九
6 木村芳子（滿洲）　一、五九・四
　坂本キヨ（北海道）　一、五一・一
7 汾陽泰子（滿洲）　一、五一・四
　野澤光子（北海道）　一、五二・三

三千米（オープン・レース）

決勝（六等迄入賞）

1 平井サエ（北海）　神宮大會新記錄　五分二六・九秒
2 大倉惠美子（滿洲）　同　五、二八・〇
3 江島八重子（同）　同　五、二八・三
4 坂本キヨ（北海）
5 汾陽泰子（滿洲）
6 野澤光子（北海）

千六百米繼走（タイム・レース）

成績順位

1 北海道（坂本キヨ、大高タエ、北澤キクエ、中川キヨ）二分五八秒九
2 滿洲（繩手滿喜子、木村芳子、汾陽泰子、江島八重子）二分五九秒二
3 朝鮮（田代千枝子、淺海久子、李仁九、鶴谷美江）三分二八秒一

男子スピード得點表

地區名	五百米	千五百米	三千米	五千米	二千繼	合計
東京	一四	一二	六	八	七	四七
滿洲	七・五	四	七	九	五	三二・五
朝鮮	○・五	五	六	四	四	一九・五
關東	○	○	三	一	二	六
北海道	○	○	○	○	三	三
中部	○	一	○	○	一	二
關西	○	○	○	○	○	○
東北	○	○	○	○	○	○

女子スピード得點表

地區名	五百米	一千米	三千米	繼走	合計
滿洲	一四	一四	一一	五	四四
北海道	八	八	一一	七	三四
朝鮮	○	○	○	四	四

フイギユア競技

男子競技

順位	選手名	順位點	スクール	フリー	總得點
1	有坂隆祐（關東）	三	二三七・九	一六九・二	三九七・一
2	神田博（關西）	六	二二六・九	一四八・二	三六五・一
3	小豆島藤丸（關西）	九	一八九・六	一四一・〇	三三〇・六
4	小林達雄（關東）	一三	一七〇・六	一二九・六	三〇〇・二
5	酒井克己（同）	一四	一七二・〇	一二一・八	二九三・八
6	高山方明（關東）	二〇	一五一・七	一〇六・二	二五七・九
7	近藤玄次（關西）	二一	一二六・七	一三六・二	二五二・九
8	伊藤八郎（關東）	二二	一四六・〇	一〇二・〇	二四八・〇
9	廣野良明（關西）	二七	一〇六・一	一一〇・四	二一六・五
10	辻村有吾（北海道）	三〇	一〇七・三	八六・四	一九三・七
11	田中正雄（滿洲）	三三	一〇七・五	七八・〇	一八五・五
12	高森太郎（關東州）	三六	七二・二	五一・〇	一二三・二

女子競技

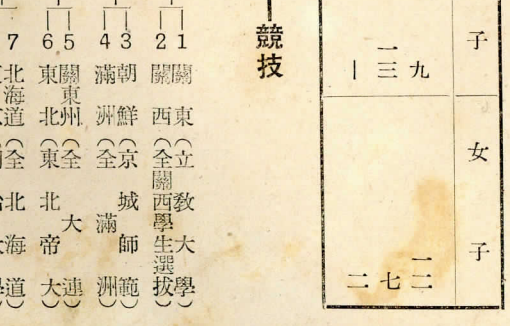
順位	選手名	順位點	スクール	フリー	總得點
1	稻田悅子（關西）	三	三三〇・一	一六九・二	三九九・三
2	月岡芳子（同）	六	二〇四・一	一三九・二	三四三・三
3	矢野美智子（關東）	九	一七八・七	一二九・六	三〇八・三
4	佐藤登美子（同）	一三	一四五・五	一二八・二	二六三・七
5	原田チエ（滿洲）	一五	九五・一	八五・二	一八〇・三

得點表

地區名	男子	女子
關西	九	一二
關東	一三	七
滿洲		二

アイス・ホツケー競技

成績表



第一回戰

關東 2（1 1 0 / 1 0 0）1 關西

（審判 古屋、大野氏）

〔關東〕		〔關西〕
村澤	FW	田
內賀	FW	川
大本	FW	塚
長橋	FW	崎
宮鞍	FW	田
多藤	FW	下
山藤	FW	津
高藤	FW	谷
鬼宅	FW	坂
內	DF	岩
後	DF	本
三	GK	山
宇和川	GK	齋
	GK	水
	GK	津
	GK	小

反則

滿洲 9（2 4 3 / 0 0 0）0 朝鮮

（審判 古屋、大野氏）

〔滿洲〕		〔朝鮮〕
西	FW	上
矢	FW	村
本	FW	森
東	FW	松
申	FW	田
浦	FW	田
手	FW	吉
武	DF	田
藤	DF	田
島	DF	中
池	GK	竹
女	GK	永
	GK	西

反則

關東州 22（6 10 6 / 0 0 0）0 東北

（審判 安部、大橋氏）

〔關東州〕		〔東北〕
崎	FW	坂
玉田	FW	手
光島	FW	田
戶田	FW	丸
富田	FW	山
前崎	FW	澤
山下	FW	千
木	DF	玉
桑山	DF	和
植松	DF	金
小	GK	內
小	GK	黑
關	GK	八
野	GK	小
	GK	條

反則

東京 6（3 1 2 0 / 0 1 1 1）3 北海道

（審判 安部、大橋氏）

〔北海道〕		〔東京〕
瓶	FW	弟
邊	FW	副
本	FW	兄
邊	FW	口
村	FW	藤
場	FW	瀨
藤	DF	村
田	DF	之丙
崎	DF	瀨
森	GK	家
福	GK	小

反則

準決勝

滿洲 1（1 0 0 / 0 0 0）0 關東

（審判 安部、大橋氏）

〔滿洲〕		〔關東〕
西	FW	村
本	FW	賀
大	FW	橋
松	FW	本
申	FW	鞍
矢	FW	內
東	FW	田
浦	FW	藤
手	FW	藤
武	DF	藤
藤	DF	藤
池	GK	宅
女	GK	宇和川

反則

關東州 4（2 2 0 / 0 0 1）1 東京

（審判 大橋、安部氏）

〔關東州〕		〔東京〕
崎	FW	弟
島	FW	副
田	FW	兄
田	FW	口
松	FW	藤
崎	FW	瀨
下	DF	村
田	DF	之丙
關	GK	小

反則

決勝

滿洲 3（2 1 0 / 0 0 0）0 關東州

（審判 古屋、安部氏）

〔滿洲〕		〔關東州〕
西	FW	崎
本	FW	玉島
大	FW	戶田
松	FW	前田
申	FW	光松
矢	FW	植崎
東	FW	山
浦	FW	下
伊	DF	木
藤	DF	富田
吉	DF	桑山
武	GK	小
女	GK	池

反則

昭和十五年度全國代表委員會議事錄

昭和十五年四月十四日正午
於　丸の內・中央亭

出席者

聯盟本部（喜多會長關西旅行の爲め缺席）
理事　兩角政人、倉町太郎、三島一夫、翠川茂次郎、金子諭吉、中澤周平
技術委員　藤原文夫
北海道聯盟　久保信、西田信一
東北聯盟　安積宏、星憲道
關東聯盟　難波憲男
中部聯盟　笠原英一、藤森春太郎
（傍聽　有賀三吉、有賀賢郎、小池富治）
關西聯盟　田山秀士、奥村善之助
朝鮮聯盟　缺席
關東州聯盟　牧定夫

議事錄

喜多會長缺席の爲め兩角專務理事議長となり審議す

一、報告事項
1、昭和十四年度事業に關する件
A　全日本選手權大會
B　第十回明治神宮スケート大會
2、陸軍戸山學校氷上劍道訓練の件
兩角、倉町兩理事より東京スケート倶樂部主催に依る氷上劍道訓練試演會に關し說明、東京倶樂部が本聯盟に對し積極的支援を希望して居る旨報告

二、決議事項
1、會計に關する件
A　全日本選手大會
B　神宮スケート大會
C　昭和十四年度決算及び同十五年度豫算

右各項を承認
2、前年度議事錄を承認
3、理事增員の件
三田倶樂部金子諭吉氏の聯盟本部理事たるを承認し一名の增員を決定
4、普及部長決定の件
金子氏の理事決定と同時に同氏の普及部長たるを承認
5、技術委員會決定事項承認の件
全國技術委員會にて決定せる各事項を承認
6、表彰規定實現促進の件
中部聯盟提出の表彰の件は十四年度代表委員會にてその規約の作成を聯盟理事會に一任と決定せるが大日本スケート競技聯盟規約第四條第九項中の表彰の項がこれに該當せるものとして新たに表彰規定に設けざることに決定
7、大日本スケート競技聯盟に於て國營冬季競技場設定に關し所管當局へ建議せられ度き件
中部聯盟提出の右件は國家的施設の必要を感ぜられつゝある折柄適切なるものと認め聯盟本部は適當の時機に於て厚生省に要請することに決定
8、競技會開催地指定の件
大日本スケート競技聯盟關係綜合競技會開催地として左の七地區を指定す
北海道　苫小牧、札幌
東北　八戸、盛岡
關東　日光
中部　諏訪、松原湖
9、昭和十五年度事業計畫の件
A　選手權大會場及日程を左の通り決定
イ、スピード
會場　北海道苫小牧
期日　昭和十六年一月三十一日(金)、二月一日(土)、二日(日)
ロ、フイギュア
會場　東京
期日　昭和十六年一月廿五日(土)、廿六日(日)、廿七日(月)

ハ、アイスホツケー
會場　東京
期日　昭和十六年一月廿五日（土）、廿六日（日）、廿七日（月）
B　第十一回明治神宮スケート大會會場及び日程を左の通り決定
アイスホツケー、フイギュア、スピード三種目
會場　札幌
期日　昭和十六年二月四日（火）より九日（日）迄六日間

10、名古屋、福岡所屬地區の件
名古屋地方の本聯盟に於ける所屬は關西聯盟なるも第十回神宮大會の地域別區割に於ては中部地區とせり、これを第十一回神宮大會より改め、名古屋は本聯盟地域別區割に從ひ關西聯盟に所屬するものと決定す、次いで新組織の福岡地方も關西聯盟に所屬するものと決す

以上

昭和十五年度全國技術委員會議事錄

昭和十五年四月十三日正午
於朝日新聞會議室

出席者
聯盟本部　技術委員　藤原文雄、鹽田雄二、辻準造、古屋健一
理事　兩角政人、三島一夫、翠川茂次郎、金子諭吉、倉町太郎、中澤周平　大野寛、小林庄太郎、星野正三
北海道聯盟　缺席
東北聯盟　安積宏、星憲道
關東聯盟　難波憲男
中部聯盟　小池富治
關西聯盟　田山秀士
朝鮮聯盟　缺席
關東州聯盟　牧定夫
（傍聽　學生聯盟、川邊英夫）

決定事項

一、第十一回神宮冬季大會に關して
1、スキースケート競技を綜合冬季大會として明治神宮に奉納する
2、競技樣式は第十回大會同樣三種目共地域對抗戰にて行ふ
3、スピード種目も第十回大會同樣の種目及び方法にて行ふ
（滿洲國氷聯より二重走路を希望し來れるも神宮大會にはオープンコースを使用に決す）
一、フイギュア、ジュニア競技會の全日本選手權大會からの分離獨立は尙研究の餘地あるに就き今しばらく從來通り附隨せしめて行ふ
一、各競技に關する件
1、スピード
A　技術委員を左の如く變更補充す
（イ）聯盟本部
倉町太郎、榎本容二、藤原文雄
（ロ）地方技術委員
西田信一（北海道）、星憲道（東北）、宮澤留十（中部）、小池富治（中部）、金正淵（朝鮮）、宮畑虎彥（關東州）、佐川親男（關東州）、下斗米豐次郎（東北）
B　昭和十五年度I・S・U公認審判員を左の如く決定す
倉町太郎、藤原文雄、久保信、西田信一、小池富治、宮澤留十、金正淵、星憲道
C　競技規約を左の如く改正す
（イ）スタートに於て三回失敗（フライング）ありたる時は失格とす
2、フイギュア
A　技術委員を左の如く變更補充す

（イ）聯盟本部

中澤周平、和田吉藏、小林庄太郎、長谷川次男、星野正三、和田龜藏、西川眞吉

（ロ）地方技術委員

久保信（北海道）、三輪充武（中部）、喜田貞三（關西）、五十嵐成一（關西）、帶谷龍一（關西）、今野東雄（關西）、靜勢陽介（關西）、澤田健次郎（關西）五十嵐信一（東北）、大和田新（關西）、杉本清春（關西）、老松一吉（關西）

（ハ）昭和十五年度I・S・U公認審判員は本部委員會に決定を一任

（ニ）公認審判員を左の如く補充變更す

三輪充武（中部）、五十嵐成一（關西）、帶谷龍一（關西）、今野東雄（關西）、喜田貞三（關西）、小林庄太郎（關東）、靜勢陽介（關西）、澤田健次郎（關西）五十嵐信一（東北）、長谷川章夫（關東）、和田吉藏（關東）、久保信（北海道）、小林二郎（關東）、大和田新（關西）、倉橋哲夫（關西）、老松一吉（關西）、杉本清春（關西）、西川眞吉（關東）、長谷川次男（關東）、星野正三（關東）

（ホ）補助審判員に左の諸氏を推薦す

本田修次郎（關西）、北川靜二（關西）、中村衣子（關西）

3、アイス・ホッケー

A　技術委員を左の如く補充變更す

（イ）聯盟本部

小西健一、翠川茂次郎、辻準造、金子諭吉、難波憲男、古屋健一、須藤信夫、小森正朝、安部忠文金谷正二、鹽田雄二

（ロ）地方技術委員

伊澤平勝（東北）、大野寛（關東）、安積宏（東北）、有賀賢郎（中部）、西田信一（北海道）、久保信（北海道）、宮川泰（朝鮮）、牧定夫（關東州）、木下昌樹（關東州）、田中祥皓（關西）、別所敏三郎（關西）、飯田英三（關西）

（ハ）公認審判員

本部及地方技術委員を以てす

（ニ）昭和十五年度L・I・H・G公認審判員を左の六

氏とす

古屋健一、小森正朝、藤野正彦、西田信一、難波憲男、牧定夫

（ホ）競技規約の一部を左の如く改正す

一、第四十三條

主將は理由ありと考へらるゝ意見をインターバル又は試合後に於ては提出し得

一、第七十五條

レフエリーはゴール審判員のなす判決に從ふべき義務なし

（以下は削除）

一、第九十五條（位置變更）

（B）の（a）の四の項は間違にて（A）の四とす

一、第百十二條附則として次の項を設く

（相手に體當りする際二歩以上前進せるものは勢を附けたりと看做し、かゝる體當りは禁止の襲ひかゝりと考へらる。若し體當りの際ステックを用ひて相手を押し返すものは、クロスチェックと看做され、罰則を科せらる）

第十二回全日本選手權大會決算表

收入之部		支出之部		
1. 御菓子料	30.00	1. 競技場使用料		1,300.00
2. 入場料	4,204.50	2. 東北聯盟補助金		200.00
3. 參加料	108.00	3. 會場設備及整理員費		302.60
4. プログラム廣告料	215.00	4. 稅金		410.32
		5. 賣捌手數料		61.84
		6. 印刷費		329.24
		A. 賞狀	45.00	
		B. プログラム	212.00	
		C. 會員券分	72.24	
		7. 役員旅費補助		265.25
		8. 交通、通信、運搬費		36.33
		9. 食券及慰勞會費		287.19
		10. 諸謝禮		99.00
		11. 諸雜費		27.90
合計	4,557.50	合計		3,319.67

差引純益 1,237.83

昭和十四年度決算報告書

收入之部		支出之部		
1. 前年度繰越金	357.22	1. 事務所費		415.76
2. 加盟團體分擔金	200.00	A. 室料	336.00	
3. 厚生省體育奬勵金	600.00	B. 光、熱、水道料	25.76	
4. 全日本選手權純益	1,237.83	C. 留守番掃除代	54.00	
4. 雜收入	9.15	2. 人件費		365.00
		3. 會合費		223.37
		4. 備品及消耗品費		93.20
		5. 器具費		464.00
		6. 新聞、雜誌購入費		25.20
		7. 通信費		140.12
		8. 交通費		47.94
		9. 印刷費		84.50
		10. 加盟費		325.05
		A. 體協	100.00	
		B. I. S. U.	137.75	
		C. L. I. H. G.	87.30	
		11. 諸雜費 (平林氏香奠 40.00 ヲ含ム)		101.57
合計	2,404,20	合計		2,285.73

差引殘高 118.47

昭和十五年度豫算案

收入之部		支出之部		
1. 繰越金	118.47	1. 事務所費		415.00
2. 加盟團體分擔金	350.00	A. 家料	336.00	
3. 前年度未收金	450.00	B. 光、熱、水道料	25.00	
4. 厚生省奬勵金	600.00	C. 留守番掃除代	54.00	
5. 全日本選手權收入	1,300.00	2. 人件費		400.00
6. 雜收入	20.00	3. 會合費		250.00
		4. 備品及消耗品費		100.00
		5. 器具費		150.00
		6. 新聞、雜誌購入費		50.00
		7. 通信費		100.00
		8. 交通費		50.00
		9. 印刷費		100.00
		10. 加盟費		350.00
		A. 體協	100.00	
		B. I. S. U.	150.00	
		C. L. I. H. G.	100.00	
		11. 普及事業費		300.00
		12. 諸雜費		100.00
		13. 豫備費		473.47
合計	2,838.47	合計		2,838.47

大日本スケート競技聯盟

本部所在地 東京市麴町區丸の内三ノ八仲六號館五號

創立年月日 昭和四年十二月廿三日

役員

會長 喜多壯一郎 東京市淀橋區戸塚町一ノ三五〇

副會長 田所哲太郎 札幌市北七條西十二丁目

專務理事 兩角政人 東京市外吉祥寺二九二六

理事

倉町太郎 東京市豐島區椎名町二ノ一九〇二

榎本容二 東京府下武藏境四六一

桑川茂次郎 東京市大森區池上德持町四五三

金子諭吉 東京市世田ヶ谷區玉川奥澤二ノ五三一

三島一夫 東京市淀橋區西大久保二ノ三四五

中澤周平 東京市世田ヶ谷區下代田三〇〇

小西健一 東京市澁谷區代々木富ヶ谷町一三八九

技術委員

スピード部

(部長) 倉町太郎

(委員) 榎本容二(本部)、藤原文雄(本部)、西田信一(北海道)、星壽道(東北)、下斗米豐次郎(東北)、宮澤留十(中部)、小池富治(中部)、金正淵(朝鮮)、宮畑虎彦(關東州)、佐川親男(關東州)

アイス・ホッケー部

(部長) 桑川茂次郎

(委員) 小西健一、辻準造、金子諭吉、難波憲男、古屋健一、須藤信夫、小森正朝、安部忠文、金谷正二、鹽田雄二(以上聯盟本部)、伊澤平勝(東北)、安積宏(東北)、大野寛(關東)、有賀賢郎(中部)、西田信一(北海道)、久保信(北海道)、宮川泰(朝鮮)、牧定夫(關東州)、木下昌樹(關東州)、田中祥皓(關西)、別所敏三郎(關西)、飯田英三(關西)

フイギュア部

（部長）中澤　周平

（委員）和田吉藏、小林庄太郎、長谷川次男、星野正三、和田龜藏、西川眞吉（以上聯盟本部）、久保信（北海道）、三輪充武（中部）、喜田貞三（關西）、五十嵐成一（關西）、帶谷龍一（關西）、今野東雄（關西）、靜勢陽介（關西）、澤田健次郎（關西）、五十嵐信一（東北）、大和田新（關西）、杉本清春（關西）、老松一吉（關西）

公認審判員

（アイス・ホッケー）翠川茂次郎、小西健一、辻準造、金子諭吉、難波憲男、古屋健一、須藤信夫、小森正朝、安部忠文、金谷正二、鹽田雄二、藤野正彥（以上本部）、伊澤平勝（東北）、大野寛（關東）、安積宏（東北）、有賀賢郎（中部）、西田信一（北海道）、久保信（北海道）、宮川泰（朝鮮）、牧定夫（關東州）、木下昌樹（關東州）、田中祥皓（關西）、別所敏三郎（關西）、飯田英三（關西）

（フイギュア）三輪充武、（中部）、五十嵐成一（關西）、帶谷龍一（關西）、今野東雄（關西）、喜田貞三（關西）、小林庄太郎（本部）、靜勢陽介（關西）、澤田健次郎（關西）五十嵐信一（東北）、長谷川章夫（關東）、和田吉藏（本部）、久保信（北海道）、小林二郎（關東）、大和田新（關西）、倉橋哲夫（關西）、老松一吉（關西）、杉本清春（關西）、西川眞吉（本部）、長谷川次男（本部）、星野正三（本部）（補助審判員）、本田修次郎（關西）、北川靜二（關西）、中村衣子（關西）

國際スケート聯盟公認審判員

（スピード）倉町太郎、藤原文雄、久保信、西田信一、小池富治、宮澤留十、金正淵、星憲道

（フイギュア）三輪充武、五十嵐成一、帶谷龍一、喜田貞三、小林庄太郎、久保信、老松一吉、西川眞吉

國際アイスホッケー聯盟公認審判員

古屋健一、小森正朝、藤野正彥、西田信一、難波憲男、牧定夫

普及部

（部長）金子　諭吉

大日本體育協會役員

（理　事）喜多壯一郎

（常議員）兩角　政人

顧　問

子爵　交野　政邁　東京市芝區白金三光町四五〇

男爵　久保田敬一　東京市小石川區金富町三五

久保田晴光　東京市目黑區鷹番町一二五

平沼　亮三　横濱市神奈川區澤渡五五

村山　長擧　兵庫縣武庫郡御影町郡家

佐藤　幸三　仙臺市北四番町

齋藤　力　東京市牛込區加賀町二ノ二

男爵　稻田　昌植　東京市澁谷區青葉町一五

河久保子朗　東京市豐島區池袋町二ノ五六七

三浦　運一　滿洲國奉天市稻葉町一七

西村　啓造　東京市

五代　正友　東京市澁谷區千駄ヶ谷四ノ六一九

評議員（順序不同）

小口　孫六　兵庫縣武庫郡精道村芦屋字田中九五三ノ二

高畠　直定　東京市蒲田區道塚八

小出　秀世　東京市世田ヶ谷區太子堂四六四

東　克己　東京市中野區宮園通一ノ一四

飯田　洋二　東京市世田ヶ谷區松原町二ノ五六七

小里　頼忠　（應召中）東京市杉並區阿佐ヶ谷一ノ七四六

小野木敏雄　東京市芝區白金猿町六一

村津　要　（應召中）東京市澁谷區千駄谷一ノ三四六

高橋　次郎　小樽市綠町四

李　想白　北京

津田　正夫　神奈川縣鎌倉市大町一一

高田　良作　北海道苫小牧町王子製紙會社

金子　祐　東京市麴町區日比谷三信ビル王子製紙會社

兒玉作左衛門　札幌市北海道帝大
飯田　誠一　北海道苫小牧町
三枝　彦雄　仙臺市土樋二一一
黑澤　英俊　仙臺市北六番町一七一
久保　節　八戸市糖塚
小松　直治　長野縣上諏訪町角間町
增澤　弘文　岡谷市小井川
山內不二雄　東京市小石川區茗荷谷八八
金子　尙一　東京市豐島區長崎東町二ノ九八〇
中川　富彌　千葉縣幕張町南門松山三一二
園　乾治　東京市荏原區小山町五ノ一
岸野　佐吉　栃木縣日光町古河精銅所
清水　秀　栃木縣日光町役場
津田　靖平　神戸市須磨區天神町三ノ一九
近藤　一二　東京市世田ケ谷區經堂町四四四
住田　正雄　大阪市住吉區阿倍野筋二ノ一七
林　茂樹　朝鮮京城府漢城銀行
木谷　辰己　滿洲國奉天市大和區萩町一六
十川　彌市　滿洲國奉天市滿洲醫大內
齋藤　兼吉　滿洲國新京特別市

大日本スケート競技聯盟　加盟團體

（昭和十五年十二月現在）

北海道氷上競技聯盟（地域北海道）

所在地　北海道廳學務部學務課內

役員

會長　平本　義隆　北海道廳學務部長
副會長　高田　正己　北海道廳學務課長
同　田所哲太郎　北海道帝大理學部教授
同　高田　良作　苫小牧王子製紙株式會社
同　戸津　高知　北海中學校
同　八卷　耕三　苫小牧町長
專務理事　內藤　芳雄　北海道農會
理事　久保信、西田信一、大和盛一、有岡勇、橫路節雄、小林正薰、有坂織之助、後藤勇、佐藤昌彥、伊藤健二、上田初男、小林武夫
代表委員　內藤芳雄、久保信、西田信一

加盟團體　會長或部長並所在地

札幌スケート聯盟（會長）田所哲太郎
苫小牧スケート協會（會長）飯田　誠一
函館スケート協會（會長）木內　幹
室蘭氷上競技聯盟
旭川スケート倶樂部（會長）清水　三俊
帶廣スケート協會（會長）中川日出雄
釧路スケート協會（會長）藤野　謙助
小樽スケート協會（會長）壽原英太郎

東北スケート競技聯盟

（地域、青森・岩手・福島・秋田・山形・宮城）

所在地　仙臺市東北帝大理學部安積宏氣付

役員

會長　三枝　彦雄　仙臺市土樋二一一
副會長　久保　節　八戸市糖塚
同　村井久太郎
專務理事　安積　宏
理事　十六名
代表委員　安積宏、星憲道

加盟團體　會長或部長並所在地

仙臺スケート協會（會長）三枝　彥雄
仙臺市東二番町一一三岡部方
八戸スケート協會（會長）久保　節
八戸市役所內
岩手スケート協會（會長）村井久太郎
盛岡市本町大手先大澤方
東北帝大スケート部（部長）三枝　彥雄
仙臺市東北帝大內
第二高等學校スケート部（部長）木村　雄吉
仙臺市二高內
仙臺高等工業スケート部（部長）中原　富藏
仙臺市仙臺高工內
南光學園スケート部（部長）長谷川　昂
仙臺市原町小田原南光學園內
東北藥專スケート部（部長）神久　策
仙臺市原町小田原東北藥專內

關東スケート聯盟

（地域、東京・千葉・神奈川・埼玉・群馬・栃木・茨城）

所在地 東京市丸の内三ノ八仲六號館五號

役員

主事 難波 憲男 浦和市上木崎一一六

ホッケー部長 古屋 健一

スピード部長 羽田 達二

フイギュア部長（兼） 難波 憲男

庶務兼會計 大野 寛

代表委員 難波 憲男

加盟團體 會長或部長並所在地

稲門倶樂部（會長）喜多壯一郎

三田倶樂部（會長）槇 智雄

駿臺倶樂部（會長）中川 富彌

セントポール（會長）榎本 容二

早稲田大學（部長）喜多壯一郎

慶應義塾大學（部長）園 乾治

明治大學（部長）中川 富彌

東京帝國大學（部長）

立教大學（部長）金子 尚一

中央大學（部長）柳澤 豐勝

法政大學（部長）大場 實治

東京府立高校（部長）石川 道雄

成城高校（部長）田中 光俊

關東實業團聯盟

中部スケート聯盟

（地域、山梨・靜岡・長野・新潟・富山・岐阜）

所在地 長野縣上諏訪町役場

役員

委員長 鹽原 淵 長野縣上諏訪町

副委員長 林 虎雄 長野縣上諏訪町

同 小口 守一 長野縣下諏訪町

同 小林 公明 長野縣岡谷市

理事（常任）藤森春太郎、三輪充武、有賀賢郎、有賀三吉、河西修治、增澤弘文、宮下美村、笠

原英一、伊藤忠藏

代表委員 鹽原淵、小林公明、小口守一

加盟團體 會長或部長並所在地

上諏訪體育協會（會長）鹽原 淵 長野縣上諏訪町役場

下諏訪體育協會（會長）小口 守一 長野縣下諏訪町役場

白鳥倶樂部（會長）小林 公明 長野縣岡谷市

岡谷工業學校スケート部（部長）金野 巖保 岡谷市岡谷工業學校

全關西スケート聯盟

（地域、愛知・石川・京都・大阪・兵庫・福井・三重・和歌山・奈良・滋賀・中國地方・四國・九州）

所在地 大阪市港區桂町二ノ一一 田山秀士內

役員

名譽會長 村山 長擧 兵庫縣武庫郡御影町

副會長 津田 靖平 神戸市須磨區天神町三ノ一九

同 大石雄一郎 大阪市住吉區西田邊町四二

理事長 田山 秀士 大阪市港區桂町二ノ一一

理事 喜田貞三、本田修治郎、倉橋秀太郎、飯田英三、田中英一、奥村善之助、田中祥皓、（會計）木村源之助

代表委員 大石雄一郎、田山秀士、喜田貞三

加盟團體 會長或部長並所在地

朝日倶樂部 木村源之助 大阪市中之島朝日新聞社內

朝日ビルスケート倶樂部 福田 信 大阪市中之島朝日ビル內

大阪スケート倶樂部 奥村善之助 大阪市天王寺區伶人町九六

神戸スケート會 津田 靖平 兵庫縣武庫郡精道村芦屋岸ノ下八〇倉橋秀太郎方

六甲スケーティング倶樂部 民部雄太郎 神戸市神戸區下山手通六ノ一六八

名古屋スケート同好會　岩田　輝太
名古屋市東區宇田町

京都氷上倶樂部　槇山　次郎
京都市三條河原町京都スケート場內

大丸スケート部　西村　正次
大阪市南區心齊橋筋一丁目大丸人事課

日本生命スケート部　中島　信悟
大阪市東區今橋四丁目日本生命內

三菱倶樂部大阪支部　小西　二郎
大阪市南區安堂寺橋通三丁目三菱商事會社大阪支店內

三菱倶樂部神戸和田支部　五十嵐信一
神戸市兵庫區和田崎町三丁目三菱電機株式會社神戸製作所

三菱倶樂部神戸支部　岩岡　太郎
神戸市神戸區明石町四八三菱銀行三宮支店內

關西稻門倶樂部　飯田　英三
兵庫縣武庫郡精道村打出大太リ一三

關西三田倶樂部　帶谷　龍一
西宮市夙川甲南莊アパート內

關西OB倶樂部　田中　祥皓
大阪市東區高麗橋筋一丁目一二　山中商會內

同志社大學スケート部　今井　仙一
京都市左京區北白川上終町一〇五　飯塚雄次內

關西學院スケート倶樂部　今田　惠
西宮市外仁川

京大スケート部　林　和夫
京都市京大學友會內

神戸商大スケート倶樂部　近藤民三郎
神戸市灘區曾知町三ノ九登山ロアパート內

吳スケート會　吳市西本通一丁目河內スケート場內

朝鮮氷上競技聯盟

所在地　朝鮮總督府社會教育課朝鮮體育協會內

役員
會長　賀田　直治
役員　正木茂久、宮川泰、新木正之介、金正淵、崔龍振、梅津善兵衛、長谷川隆太郎、横井勝造、鄭商熙
代表委員　宮川泰、金正淵

加盟團體
朝鮮アイス・ホッケー聯盟（朝鮮鐵道局內）
龍山鐵道チーム、醇和チーム、城大OBチーム、延禧專門OBチーム（以上實業團）
城大、城大豫科、延禧專門、醫專、高工セブランス醫專、普成專門、齒專（以上專門學校）
京城師範、京城商業、龍山中學、松都中學、光成中學
外人學校、平壤二中、徽文中學（以上中等學校）
朝鮮フイギュア倶樂部（朝鮮鐵道局內）

關東州氷上競技聯盟

所在地　大連市白菊町大連運動場　關東州體育協會內

役員
會長　山岡　信夫（大連都市交通會社々長）
專務理事　森川　義金　大連病院內
理事　金川敏太郎、佐川親雄、牧定夫、木下昌樹、松原克己
評議員　山本壽喜太、池ノ上清德、弘直之、米地武夫、大賀潔、北河清、高橋松三郎、山井武夫
代表委員　森川義金、牧定夫、木下昌樹

加盟團體
大連市民體育會氷滑部（部長）北河　清
大連市役所內
（一般市民、專門學校、中等學校、小學校を包含）

大日本スケート競技聯盟規約

（昭和十二年五月改正）

第一章　名稱及本部

第一條　本聯盟ハ大日本スケート競技聯盟（The National Skating Union of Japan—N. S. U. J）ト稱シ本部ヲ東京市ニ置ク

第二章　目的

第二條　本聯盟ハ日本ニ於ケルスケート競技團體ノ統一的中樞機關トナリ相互ノ融和連絡並ニアマチユアースケート競技ノ健全ナル普及發達ヲ期シ競技精神ノ高揚ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三章　組織

第三條　本聯盟ハ日本ニ於ケルアマチユアースケート競技ニ關スル地方的統轄團體（之ヲ地方聯盟ト稱ス）ヲ以テ組織ス

第四章　事業

第四條　本聯盟ハ左ノ事業ヲ行フ

一、日本ニ於ケルスケート競技ノアマチユアー精神確立

二、日本ニ於ケルスケート競技ノ統制

三、スケート競技ニ關シ政府ノ諮問ニ對スル應答又ハ政府其ノ他公私機關ニ對スル意見ノ提出

四、國際スケート競技聯盟（International Skating Union）、國際アイスホッケー競技聯盟（Ligue Internationale de Hockey sur Glace）大日本體育協會、明治神宮體育會ニ對スル日本スケート競技ノ代表加盟

五、全日本選手權大會ノ開催

六、國際スケート競技會ニ於テ日本ヲ代表スベキ役員及競技者ノ選定及派遣（國際オリムピック大會ニ參加）

七、日本ニ於ケルスケート競技會及日本記錄ノ公認並世界記錄ノ申請

八、日本ニ於ケルスケート競技ノ設備及用具ノ公認

九、スケート競技ニ關スル調査、研究、指導並ニ表彰

十、スケート競技ニ關スル年報其ノ他刊行物ノ發行

十一、其ノ他本聯盟ノ目的達成ニ必要ナル事業

第五章　代表委員

第五條　代表委員ハ本聯盟ニ加盟スル各地方聯盟ニ於テ各三名以内ヲ選出シ所屬聯盟ノ代表機關トス

第六章　役員

第六條　本聯盟ニ左ノ役員ヲ置ク

會長　一名
副會長　二名
評議員　若干名
理事　若干名（内一名ヲ專務理事トス）
會計理事　一名
技術部長　三名
技術委員　若干名

右ノ外會長ハ代表委員會ノ推薦ニ依リ名譽會長及顧問若干名ヲ推戴スルコトヲ得

第七條　會長ハ本聯盟ヲ統轄代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

評議員ハ本聯盟ノ重要事項ニ付其ノ諮問ニ應ス

理事ハ代表委員會ノ決議ニ基キ本聯盟ノ事務ヲ處理シ且常務ヲ掌ル

專務理事ハ理事會ノ決スル所ニ依リ本聯盟ノ事務ヲ執行ス

會計理事ハ本聯盟ノ會計ニ關スル事務ヲ掌ル

技術部長ハ各技術委員會ニ屬スル一切ノ事務ヲ總管シ之ヲ代表ス

技術委員ハ所屬技術委員會ノ事務ヲ處理シ且ツ其ノ技術的事項ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條　會長ハ代表委員會ニ於テ之ヲ推薦ス

副會長ハ會長ノ指名ニ依リ代表委員會之ヲ推薦ス

評議員ハ理事ノ任期ヲ完了シタル者又ハスケート競技界ノ功勞者中ヨリ代表委員會之ヲ推薦ス

理事ハ代表委員會ノ推薦ニ依リ會長之ヲ依囑ス

專務理事ハ理事會ニ於テ互選ニ依リ之ヲ定ム

會計理事ハ代表委員會ノ推薦ニ依リ會長之ヲ依囑ス

技術部長ハ理事會ノ推薦ニ依リ代表委員會ノ承認ヲ經テ會長之ヲ依囑ス

技術委員ハ技術部長ノ推薦ニ依リ代表委員會ノ承認ヲ經テ會長之ヲ依囑ス

第九條　役員ノ任期ハ二年トシ改選期ハ四月トス但シ重任ヲ妨ケス

補缺ニ依ル役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

役員ノ任期滿了ノ場合ニ於テハ其ノ後任者ノ就任スル迄前任者ニ於テ其ノ職務ヲ行フ

其ノ他役員ノ資格及補充ニ付テハ細則ノ定ムル所ニ依ル

第七章　機　　關

第十條　本聯盟ニ左ノ機關ヲ設ク

一、代表委員會

二、理　事　會

三、技術委員會

四、評　議　員　會

第十一條　代表委員會ハ本聯盟ノ最高決議機關ニシテ代表委員ヲ以テ構成シ會長之ヲ招集ス

會長、副會長、理事、會計理事及技術部長ハ代表委員會ニ出席シテ質問ニ答ヘ又ハ意見ヲ述フルモノトス

評議員ハ代表委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

代表委員會ハ毎年四月上旬東京ニ於テ之ヲ開催ス　但シ會長ニ於テ必要ト認メタルトキ並ニ加盟團體ノ半數以上ノ要求アリタル場合ハ臨時代表委員會ヲ開催スルコトヲ得

第十二條　代表委員會ニ於ケル議決權數ハ地方聯盟各一票トス

代表委員會ノ議事ハ議決權數ノ過半數ヲ以テ之ヲ決シ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十三條　代表委員會開催ノ日時、場所及議案ハ二週間前ニ通告スルコトヲ要ス

但シ緊急ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ス

地方聯盟ニテ提案スヘキ事項アルトキハ代表委員會開催前ニ豫メ理事會ニ通告スヘシ

第十四條　代表委員會ニ附議スヘキ事項左ノ如シ

一、收支豫算ノ制定及決算ノ認定

二、事業計畫

三、役員ノ決定

四、地方聯盟ノ加盟、改廢並ニ除名ニ關スル事項

五、大日本體育協會、明治神宮體育會ニ對スル本聯盟代表者ノ決定

六、全日本選手權競技大會開催地ノ決定

七、本聯盟ヲ代表シ參加スヘキ競技會ニ於ケル代表選手及役員ノ承認

八、本規約改正ニ關スル事項

九、報告事項、會計報告、前年度事業報告、體協、I・S・U、L・I・H・G、神宮大會

十、其ノ他重要事項

第十五條　代表委員會ニ代理人ヲ出席セシムル場合ニ於テハ地方聯盟ハ其ノ住所氏名ヲ開會前ニ通知スルコトヲ要シ且代表委員並ニ該地方聯盟ノ委任狀ヲ提示スルニ非サレハ其ノ議決權ナキモノトス

第十六條　代表委員會ニ代表委員ヲ出席セシメサル地方聯盟ハ文書ニ依リ意見ヲ述フルコトヲ得　但シ該代表委員會ニ於ケル議決權ナキモノトス

第十七條　代表委員會ノ議長及書記ハ該代表委員會ニ於テ之ヲ定ム

第十八條　理事會、評議員會ノ施行ニ關シテハ細則ノ定ムル所ニ依ル

第八章　技術委員會

第十九條　本聯盟ニ左ノ技術委員會ヲ設ク

一、フイギュア技術委員會

二、スピード技術委員會

三、ホツケー技術委員會

第二十條　フイギュア技術委員會ハフイギュア競技ニ關シ技術指導、競技者資格ノ審査、審判、日本代表選手ノ詮衡、本聯盟主催競技會ノ企畫準備、競技記錄ノ整理、競技規則ノ研究及制定、日本競技記錄順位ノ作製、其ノ他競技技術ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十一條　スピード技術委員會ハスピード競技ニ關シ技術指導、競技者資格ノ審査、審判日本代表選手ノ詮衡、本聯盟主催競技會ノ企畫準備、競技記錄ノ整理、競技規則ノ研究及制定、日本記錄及日本國際記錄ノ公認、世界記錄ノ申請、日本競技記錄順位ノ作製、其ノ他競技技術ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十二條　ホツケー技術委員會ハホツケー競技ニ關シ技術指導、競技者資格ノ審査、審判、日本代表選手ノ詮衡本聯盟主催競技會ノ企畫準備競技記錄ノ整理、競技規則ノ研究及制定、其ノ他競技技術ニ關スル事務ヲ掌ル

第二十三條　各技術委員會ハ技術部長ヨリ招集セラレ開催ノ都度專務理事ニ通告スルコトヲ要ス

第二十四條　會長、副會長、理事及會計理事ハ各技術委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十五條　各技術委員會ノ施行ニ關シテハ細則ノ定ムル所ニ依ル

第九章　會計（資産及經費）

第二十六條　本聯盟ノ經費ハ地方聯盟ノ聯盟費負擔金、政府又ハ公共團體ヨリノ補助金、本聯盟ノ目的ヲ翼賛スル者ヨリノ寄附金、事業收入、其ノ他ノ收入ヲ以テ支辨ス

第二十七條　本聯盟ハ代表委員會ノ決議ニ依リ特別會計ヲ設クルコトヲ得　但シ之ニ開スル規約ハ別ニ定ム

第二十八條　本聯盟ニ加盟セル地方聯盟ハ別ニ定ムル所ノ聯盟費負擔金ヲ毎年四月末日迄ニ納入スルコトヲ要ス

第二十九條　本聯盟ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月末日ニ終ル

第三十條　會計年度ノ終リニ於テ剩餘金アルトキハ之ヲ翌年度ニ繰越ス

第三十一條　本聯盟ノ豫算ハ理事會之ヲ編成シ定時代表委員會ノ決議ヲ經ルコトヲ要シ決算ハ會計理事ニ於テ會長ノ監査ヲ經タル上定時代表委員會ニ報告シ承認ヲ受クヘシ

第十章　規約ノ變更

第三十二條　本聯盟規約ノ條項ハ代表委員會ニ於ケル議決權數ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第十一章　施行細則

第三十三條　本規約ノ施行ニ付必要ナル事項ニ關スル細則ハ代表委員會ニ於テ之ヲ定ム

附　則

第三十四條　本規約ハ昭和十二年五月八日ヨリ之ヲ實施ス

大日本スケート競技聯盟規約

細則

第一章　本部及事務所

第一條　本聯盟本部ハ專務理事之ヲ管理シ本部内ニ書記一名ヲ任命スルコトヲ得

第二條　本聯盟ハ事務所ヲ東京市麹町區丸ノ内三丁目八番地仲六號館ニ置ク

第二章　地方聯盟

第三條　本聯盟ニ加盟スル地方聯盟ハ本則第四條ニ定ムル統轄區域内ニ於ケル加盟スケート競技團體ヲ以テ構成シ本聯盟ニ對シ該地域ヲ代表ス

第四條　本聯盟ニ加盟スル地方聯盟及該聯盟ノ統轄地域左ノ如シ

北海道氷上競技聯盟　北海道
東北スケート聯盟　東北地方
關東スケート聯盟　關東地方
中部スケート聯盟　中部地方
全關西スケート聯盟　名古屋及關西地方
朝鮮氷上競技聯盟　朝鮮
關東州體育協會　關東州

第五條　地方聯盟ノ聯盟費負擔金ハ年額金五拾圓トス

第六條　地方聯盟ハ毎年三月末日迄ニ左ノ事項ヲ本部ニ報告スヘシ

一、事務所ノ所在地及代表者並役員ノ氏名、住所
二、規約
三、次年度代表委員ノ氏名、住所
四、加盟團體ノ名稱、事務所、代表者及會員ノ數
五、前年度ノ事業報告（競技會記錄ヲ含ム）
六、次年度ノ豫定事業計畫（加盟團體ノ豫定事業ヲ含ム）

第七條　地方聯盟ノ規約ハ本聯盟ノ規約及細則ニ準スヘキモノトス

第三章　役員及代表委員

第八條　本聯盟ノ役員及代表委員ハ加盟團體ニ所屬スルモノニシテ報酬ヲ受クルコトヲ得ズ　但シ特ニ囑託セラレタル專門ノ委員及書記ハ此ノ限ニ非ス

第九條　本聯盟ノ役員又ハ代表委員ニシテ本人カ所屬聯盟トノ關係ヲ失ヒタルトキハ役員又ハ代表委員ノ資格ヲ喪

失ス

第十條　本聯盟ノ役員ニ缺員ヲ生シタルトキハ必要ニ應シ會長指名ニヨリ之ヲ補充ス　但シ次回代表委員會ノ承認ヲ經ルニアラサレハ存續スルヲ得ス

第四章　評議員會

第十一條　評議員會ハ評議員ヲ以テ構成シ會長司會ノ下ニ本聯盟ノ重要事項ヲ審議ス

理事、會計理事及各技術部長ハ必要ニ應シ評議員會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五章　理事會

第十二條　理事會ハ理事ヲ以テ構成シ專務理事之ヲ招集ス

會長、副會長、會計理事及各部長ハ理事會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第十三條　理事ハ本聯盟ノ事務ヲ處理シ地方聯盟トノ連絡通信ノ任ニ當リ、フイギュア、スピード、アイスホツケーノ三種競技技術委員會ノ連絡統一ヲ圖ル

第十四條　專務理事ハ理事會ヲ統卒代表ス

專務理事故障アルトキハ他ノ理事臨時其ノ專務ヲ處理ス

第十五條　事務ノ執行ハ理事會ノ決議ニ依ル　但シ緊急ノ必要アルトキハ會長ノ許可ヲ得テ專務理事ハ自己ノ責任ニ於テ之ヲ專決處理スルコトヲ得　此ノ場合ニハ最近ノ理事會ニ報告シ其ノ承認ヲ受ケルコトヲ要ス

第十六條　理事會ハ必要ニ應シ其ノ決議ニ依リ各種ノ委員會ヲ設クルコトヲ得

第十七條　本聯盟役員、代表委員會及地方聯盟ハ理事會ニ提案スルコトヲ得

第六章　技術委員會

第十八條　各技術委員會ニ於テ其ノ職務權限ニ付爭ヲ生シタルトキハ理事會之ヲ決定解決スヘキモノトス

第十九條　各技術委員會ハ技術部長コレヲ招集司會シ、開會ノ都度專務理事ニ通告スルコトヲ要ス

各技術委員會ノ議事ハ其ノ技術委員ノ過半數ヲ以テ決ス

但シ緊急ノ必要アルトキハ技術部長之ヲ專行處分スルコトヲ得　此ノ場合ニハ最近ノ技術委員會ニ報告シ其ノ承認ヲ受ケルコトヲ要ス

第二十條　各技術委員會ノ決定事項其ノ他ニシテ之ヲ外部ニ發表又ハ通知セントスルトキハ總テ理事ヲ經由スルコトヲ要ス

第七章　選手權大會開催地ノ決定

第二十一條

一、選手權ハフイギュア、スピード、アイスホツケーノ三種目トナシ大會ハ各異ル地ニ於テ開催スルコトヲ得

二、選手權大會開催地ハ各技術委員會之ヲ選定シ理事會ヲ經、代表委員會ノ承認ヲ經テ決定スルモノトス

三、次年度選手權大會開催希望ノ地方聯盟ハ二月末日迄ニ大會ノ計畫及豫算書ヲ本部宛提出スヘキモノトス

第八章　會計

第二十二條　加盟團體ニシテ聯盟費、負擔金ノ滯納一ケ年以上ニ及フトキハ當該代表委員ハ代表委員會ニ於テ議決權ヲ失ヒ二ケ年以上ニ及フモノハ本聯盟ノ主催スル競技會ニ對スル選手派遣權ヲ失フモノトス

第二十三條　本聯盟臨時事業ニ關シ寄附ヲ募リ或ハ特別費用ノ收支アル場合ハ該事業終了後會計理事ヨリ收支計算ヲ理事會ニ提出シ其ノ直後ノ代表委員會ニ報告シ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第二十四條　本聯盟ノ基本財産ハ有志ノ寄附及代表委員會ニ於テ基本財産ニ編入スルヲ適當ト認メタルモノヲ以テ之ヲ設定ス

基本財産ハ現金、有價證券及不動産ノ三種トシ元本ハ之ヲ消費スルコトヲ得ス

基本財産ヨリ生スル收入ノ處分ニ關シテハ代表委員會ノ承認ヲ要スルモノトス

附則

第二十五條　本規約ハ昭和十二年五月八日ヨリ之ヲ實施ス

以上

〔スピード・スケート記錄〕

日本記錄（2600現在）

【男子の部】

種目	記錄	選手名	大會名	場所	年度
500米	43.5	石原省三（日本）	歐洲選手權	オスロー	1936
1000米	1.43.0	李聖德（一般）	神宮競技	日光	1934
1500米	2.25.0	金正淵（日本）	オリムピツク	ガルミツシユ	1936
3000米	5.04.9	同（日本）	歐洲選手權	オスロー	1936
5000米	8.47.0	張祐植（明大）	全日本選手權	蓼の海	1936
10000米	18.02.7	金正淵（日本）	オリムピツク	ガルミツシユ	1939
2000米リレー	3.00.5	東京（阿部剛、南洞邦夫、高林三郎、山下勝久）	第十回神宮大會	蓼の海	2600

【女子の部】

種目	記錄	選手名	大會名	場所	年度
500米	50.6	繩手滿喜子（滿洲）	神宮大會	蓼の海	2600
1000米	1.48.5	中川キヨ（苫小牧）	全日本選手權	同	1939
1500米	2.45.5	江島八重子（奉天）	神宮競技	同	1938
3000米	5.55.6	中川キヨ（苫小牧）	全日本選手權	同	1939
5000米	10.14.9	汾陽泰子（奉天）	奉天選手權	奉天	1937
1600米リレー	2.46.4	（坂本、北澤、大高、中川）（日本）	日滿對抗	同	1939

神宮大會記錄

【男子の部】

種目	記錄	選手名	場所	年度
500米	43.6	崔龍振（明大）	蓼の海	第九回
1000米	1.43.0	李聖德（一般）	日光	第七回
1500米	2.26.6	崔龍振（明大）	蓼の海	第九回
3000米	5.05.7	張祐植（同）	同	同
5000米	9.00.1	同（同）	同	同
2000米繼走	3.00.5	東京（阿部剛、南洞邦夫、高林三郎、山下勝久）	同	第十回

—— オープン・コース ——

種目	記錄	選手名	場所	年度
3000米	5.02.0	朴潤哲（滿洲）	蓼の海	第十回
5000米	8.49.7	同（同）	同	同

【女子の部】

種目	記錄	選手名	場所	年度
500米	50.6	繩手滿喜子（滿洲）	蓼の海	第十回
1000米	1.48.8	江島八重子（同）	同	同
1500米	2.45.5	同（同）	同	第九回
1600米繼走	2.58.9	北海道（坂本キヨ、大高タエ、北澤キクエ、中川キヨ）	同	第十回

—— オープン・コース ——

3000米	5.26.9	平井サエ（北海道）	蓼の海	同

全日本男子選手權保持者

回數	年度	獲得者	所屬	場所
1	1930	木谷德男	（滿洲）	八戸
2	1931	大澤義一	（同）	諏訪湖
3	1932	溫暖大會不可能の爲め中止		
4	1933	李聖德	（早大）	日光
5	1934	金正淵	（明大）	同
6	1935	同	（同）	同
7	1936	安達利男	（滿洲）	〃
		（第四回オリムピツク年度）		
8	1937	崔龍振	（明大）	諏訪湖
9	1938	同	（同）	札幌
10	1939	泉山貞義	（同）	蓼の海
11	1940	朴潤哲	（滿洲）	八戸

全日本女子選手權保持者

回數	年度	獲得者	所屬	場所
1	1935	瀧三七子	（滿洲）	日光
2	1936	江島八重子	（同）	同
3	1937	同	（同）	諏訪湖
4	1938	同	（同）	札幌

5	1939	中川キヨ	(北海道)	蓼の海
6	1940	汾陽泰子	(滿洲)	八戸

學生大會記錄

種目	記錄	選手名		場所	年度 昭和 年月日	
500米	44.9	山下勝久	(早大)	蓼の海	14.1.7	(14回)
1500米	2.27.1	金正淵	(明大)	日光	12.1.5	(12回)
5000米	9.07.1	深井恒雄	(慶大)	日光	15.1.8	(15回)
10000米	18.58.0	張祐植	(明大)	蓼の海	14.1.7	(14回)
2000米繼走	3.03.5	早大(中村、穂口、山下、南洞)		蓼の海	14.1.7	(14回)

男子世界記錄 (1940年現在)

種目	記錄	選手名	國名	大會名	場所	年度
500米	41.8	エングネスタンゲン	(ノールウエー)	世界選手權	ダボス	1933
1000米	1.28.4	ツンベルグ	(フインランド)	國際競技	同	1930
1500米	2.13.8	エングネスタンゲン	(ノールウエー)	同	同	1939
3000米	4.49.6	バラングルード	(同)	三國競技	同	1935
5000米	8.17.2	同	(同)	米諾對抗	オスロー	1936
10000米	17.14.4	同	(同)	世界選手權	ダボス	1938

女子世界記錄 (1940年現在)

種目	記錄	選手名	國名	大會名	場所	年度
500米	46.4	ニールセン	(ノールウエー)	世界選手權	ダボス	1937
1000米	1.38.8	同	(同)	同	同	1937
1500米	2.38.1	同	(同)	諾威女子選手權	オスロー	1937
3000米	5.29.6	同	(同)	世界選手權	ダボス	1937
5000米	9.28.3	同	(同)	同	同	1937

オリムピツク記錄

種目	記錄	氏名	國名	場所	年度
500米	43.2	シエー	(米國)	レークプラシツド	1932
1500米	2.19.2	マチーゼン	(諾威)	ガルミツシユ	1936
5000米	8.19.6	バラングルード	(同)	同	1936
10000米	17.24.3	同	(同)	同	1936

アイスホツケー競技規則目次

註、……二頁
一、設備……二
イ、リンク……二
ロ、ゴール……三
ハ、パツク……三
ニ、ステツク……三
ホ、ゴールキーパーの脛當……三
ヘ、競技者の道具……四
ト、役員席……四
二、競技者……四
イ、位置……四
ロ、交代者……四
ハ、交代……五
ニ、豫備人員……五
ホ、番號……五
ヘ、色彩……五
ト、主將……五
三、役員……六
イ、レフエリー……六
ロ、計時員……八
ハ、罰則計時員……八
ニ、ゴール審判員……九
四、競技……九
イ、試合時間……九
ロ、勝者、得點……一〇
ハ、場所(エンド)……一〇
ニ、競技休止……一〇
ホ、フエイス、オフ……一一
五、反則……一二
イ、總則……一二
ロ、オフ、サイド……一二
ハ、パツクを運ぶ事、蹴る事……一三
ニ、禁止姿勢……一三
ホ、襲ふ事及亂暴なる行爲……一三
ヘ、防禦の際の競技者數……一四
ト、ラツギング……一四
チ、其他の反則……一四
六、罰則……一五
イ、罰則の種類……一五
ロ、適用……一五
ハ、時間、處罰に對する提案……一五
附圖……一七

アイスホッケー競技規則

註

第一條　此競技規則は唯從前の規則と、L・I・H・Gの會議によりて爲されたる若干の變更を輯め、一般に實施せらるゝ所を加味して完成したるものにして以前のもの（一九二五年）よりも一層合理的なる順序に配列したるものなり。

第二條　アイスホッケーは加奈陀に發祥したるものにして、バンデーと混合さるべきものに非ず、之は氷上に於てスケートを穿きたる各六名よりなる二つチームの間に競技され、ステックを用ひてパックを押し或は滑らして相手方ゴールに之を打込む事を努むるものなり。

試合は一定の時間行はれ、其間により多くゴールを得たるチームが勝者となる。一人（或は二人）のレフェリーは規則が遵守され居るや否やに注意し競技を監視す、而して計時員及ゴール審判員之を助く。

一、設　備

イ、リ　ン　ク

第三條　リンクの廣さは少くとも長さ五〇米（一六五呎）幅一八米（六〇呎）を必要とし、長さ七六米（二五〇呎）幅三・三五米（一一〇呎）を超ゆるべからず、而して此の割合は如何なる場合に於ても嚴守さるべし、尙最も理想的なるリンクの廣さは長さ五六米（一八五呎）幅二六米（八五呎）なり。

第四條　ゴールはリンクの兩端の短き側の中央に之が入口をリンクの中央に向けて置き、ゴールラインはリンクのベースラインに平行にリンクの廣さに從つて之より少くも一・五米（四・五呎）最大四・五米（一五呎）の距離に設く。

第五條　（イ）各ゴールの支柱間の氷の上或は氷の中に幅二・五糎（一吋）の暗色の線を引く（ゴールライン）

（ロ）ゴールラインに平行に、少くとも幅五糎（二吋）の線を氷面の全幅を横切り次の場所に引く、リンクの長さが六〇米（二〇〇呎）或はそれ以上の時はゴールラインより一八米（六〇呎）の所、又長さ六〇米（二〇〇呎）以上の場合は兩ゴールライン間の距離の三分の一の所に引き之等の線を「青線（ブルーライン）」或は「氷域線（ゾーンライン）」と名付けられ、リンクを防禦氷域（デフェンス・ゾーン）中央氷域（ニュートラル或はセーター・ゾーン）及び攻撃氷域（アタッキング・ゾーン）の三つの氷域に分つ、尙攻撃氷域とは各チームにとつて相手方のゴールを含む氷域にして各チームにとりて自分のゴールに近き青線を防禦線（デフェンス・ライン）と呼び、他を攻撃線（アタッキング・ライン）と名付く。

（ハ）直徑三〇糎（一吋）の圓周をリンクの中央、即ち想像上の對角線の交叉點に印す。

（ニ）ゴール・ラインの中央を中心としたる半徑三米（一〇呎）幅五糎（二吋）の圓周をゴールの周圍に描きゴール・ラインに平行にゴール・ラインより後方〇・五五米（二二呎）の距離にある直線の所にて終る（附圖第六圖）

（第一一九條による特別の罰則のフェイスは此の圓周の外緣に

てゴール・ラインの中央に立てたる垂線の交はる點に於て行ふ）

（ホ）各ゴール支柱より側方五米（一五呎）のところを板圍ひに暗色の線を塗り、エンドボードの始りとして示す（之は第一一九條にて定むる特別の罰則を適用するフェイス・オフに際して防禦側競技者の近づき得る限界なり）

（ヘ）之等の線はリンク氷面に印すと共に延長して板圍ひに入工光線にても見易き暗青色を以て印すべし（之等の線を印せる氷面には更に水を撒きて透明なる薄氷を作りて線を保護すると共に滑走が止まる事を避くる必要あり）

第六條　リンクはその境界を成す板圍にて取卷かる。之等の板圍はリンクの長邊に於ては少くも二五糎（一〇吋）の高さを有し出來得れば高さ一、〇七米（三、五呎）あり、短邊に沿ふ板圍は少くも一、二二米（四呎）の高さを有すべく、尙リンクの四隅は出來得る限り之を圓くすべし。

ロ、ゴ　ー　ル

第七條　ゴールは高さ一二二糎（四呎）の垂直なる二つの支柱が一八三糎（六呎）離れて立てられ、其の頂上は水平なる横棒によりて結ばれしものなり。

第八條　ゴールの前部は之等の枠組よりなり力强きシュートに耐え得るに充分なる强き網にて支へられ、網籠は頂上にて奥行四〇糎（一六吋）氷に沿ふ底部にて奥行五五糎（二二）吋なり。ゴール上方も後方、側方と同じく網にて包まれ、ゴール審判員の視野を遮るが如きものを以て蔽ふべからず。

第九條　ゴールの支柱は氷中にしつかり固定し、兩支柱間氷面には暗色の線を引くべし。

第十條　ゴール網が破れ、支柱が折れ、動きたる時は審判は試合を中止し、必要なる修復を待ちて試合を再開すべし。

第十一條　試合開始の時審判はゴールを檢測する義務あり。

第十二條　主催側チームはリンクの線引き、ゴールの固定に關して責を負ふべし、レフェリーは之等に關する規則が嚴守せらるゝ迄試合開始すべからず。

ハ、パ　ッ　ク

第十三條　パックは平圓盤にして、硬硫化護謨よりなり、厚さ二・五四糎（一吋）直徑直徑七・六二（三吋）重量は一四一・五瓦（五オンス）より輕からず、一七〇瓦（六オンス）より重かるべからず。

ニ、ス　テ　ッ　ク

第十四條　ステックは斷面矩形にして、下端は柄に對して鈍角をなして曲り、扁平なる薄板に終る、ステックの幅は何處に於ても七・七五糎（三吋）を超ゆるべからず。但しゴールキーパーのステックは幅は九糎（三・五吋）扁平な薄板の部分の長さは三八糎（一五吋）を超ゆるべからず。柄の全長は一三七糎（五四吋）を超ゆるべからず。之等ステックは全部木製にてテープは卷く事を許さる。

ホ、ゴールキーパーの脛當

第十五條　ゴールキーパーの脛當は元來身體保護の目的に用ふるものにしてゴールを守る不當なる助けを與ふる意圖に非ず脛當は脚の周圍に卷きつけ、脚の兩側或は一側に突出して盾の役目

をなすべからず。

第十六條　兩脚を並べし時二個の脛當が如何なる狀態に於てもその幅五〇糎（二〇吋）を超ゆるべからず。

第十七條　審判員は試合前に脛當を檢測すべし、試合中と雖隨時檢測する事を得。

ヘ、競技者の道具

第十八條　競技者及ゴールキーパーは試合中競技の助けとならざる限り、他の競技者を傷けざるものなれば、身體保護の目的にて如何なる道具を付けることも許さる。競走用や型滑用のスケートを用ふる事は特に禁ぜらる、ゴールキーパー以外の競技者はゴールキーパーの道具を使用すべからず（但し第二十五條にて定めたる如くキーパーのステックを使用する場合は別とす）

ト、役員席

第十九條　役員席はリンクの長邊の中央に接したる場所に役員と計時員の爲めに設けらる、其必要なる條件は計時員が試合中何にてもレフエリーを見失はざる樣設けらるゝことなり。出來得る限り役員席は罰則計時員並に罰せられたる競技者を合せて八名を收容し得る廣さなることを要す。

第二十條　他の席は交代者及罰則計時員の爲に設けられ、之等の他には唯チームのマネージャーのみが此席に入ることを許さる、尙此席も出來得ればリンクの長邊中央に置かるべし。

第二十一條　リンクの短邊の中央にて、リンク外（各ゴール後方）にゴール審判員の爲に席が設けらる、其中にはゴール審判員のみ入るべし。

二、競技者

イ、位置

第二十二條　一チームは六人の競技者よりなる試合中の彼等の位置によりて次の如く名付けらる、即ち三人の前衛（ライトキング、レフトキング及センター）二人の防衛（ライトデフエンスとライトデフエンス）及一人のゴールキーパーなり。

ロ、交代者

第二十三條　前述の六人の競技者に加ふるに各チームは交代者として四人の追加競技者を置く事を得、但しこれは以下に述ぶる狀態に於てのみ必要あらば交代し得、而して如何なる時にもリンクには一チーム六人以上の競技者居る事を得ず。

第二十四條　他に一人のゴールキーパーの交代者を置く事を許さる、これはゴールキーパーとしてのみ競技し得、この交代は新しきピリオドの始りに於てのみなし得られ、又試合中の交代は競技續行不可能なる程度の傷害を受けたりとレフエリーが認めたる場合は隨時交代し得。

尙傷害を受けたるゴールキーパーが回復するや否やレフエリーは彼が再びその位置に戻ることを許すべし。

ゴールキーパーが傷害を受けたるチームは競技中止以後十五分以内に其ゴールキーパーか或は他のゴールキーパーを連れて戻るべし、然らざれば罰則として試合は敗となる。

第二十五條　ゴールキーパーが罰則を受けたる場合、彼の退場し居る間、リンクに居る競技者の一人が之に代ることを得、其競

技者はゴールキーパーの位置に於て競技することを許さるゝもステイテクを除き他のゴールキーパーの道具を付くることを許されず。

ハ、交代

第二十六條　競技者の交代はこれをなす理由の如何を問はず競技中止の間にのみなさるべきものとす。

第二十七條　競技者交代をなす場合はレフエリーにその旨通告すべし。

第二十八條　之等の規則に違反したる時はレフエリーは之に對し次の罰則を科す、競技進行中に交代したる二人の競技者に二分間、又はリンクに六人以上居りしチームには其主將に二分間の退場を命ずるべし。

第二十九條　交代者は直に競技し得る樣用意し競技を遲滯することなく交代の位置につくべし。

第三十條　交代者が入ると同時に交代さるべき競技者はリンクを去るべし。

第三十一條　競技に參加し居らざる交代者は、レフエリーが競技中の者と間違へざる樣上衣を着用すべし。

第三十二條　或る偶發事故により一方のチームのゴールキーパー以外の四人以上の競技者が退場を餘儀なくせられ、其爲最早リンクに六人の競技者を出場させ得ざる時は、他のチームも双方の力を同等にする爲に一人或はそれ以上の競技者を除外す。

ニ、豫備人員

第三十三條　大會の主催者は大會を通じて參加を許すべき總人員を定むべし、而して第二十三條により一試合には四人の交代者と一人のゴールキーパーの交代者を含めて十一人の競技者が指定さる、若し主催者が此の人數を規定せざる時は、各チームは各競技者に對して一人宛の豫備人員を置く事を得。

世界選手權、歐洲選手權及オリムピック選手權には豫備人員四人を超過せざるを要す。

ホ、番號

第三十四條　總ての競技者には番號を附し其番號を明確に背中に負ふべし、此番號の大きさは少くとも高さ二十五糎（一〇吋）なかるべからず。

ヘ、色彩

第三十五條　各チームは競技中混同を避くる爲に互に判然區別し得らるゝ色彩を裝ふべし。

第三十六條　ゴールキーパーのみは味方の他の人達の服裝と異れる色彩にても差支へなし。

第三十七條　兩チームの色彩が試合中混同され易しとレフエリーが認めたる場合には、主催地チーム或は抽籤によりて決められたるチームが他の色彩の服裝に變更すべし。

ト、主將

第三十八條　各チームはその選手中より一名の主將を指名す。

第三十九條　主將は右腕の肩と肘との間に彼の服裝の他の部分と異る色彩の腕章を附し、それに「C」なる文字を附すべし。

第四十條　主將は他の競技者を指揮し公式の代表者にして、チームの名に於て總て必要なる決定をなす。

第四十一條　主將はリンクの場所選擇の抽籤を行ひ、之に勝ちたる際は選擇をなす。

第四十二條　主將はレフエリー及相手方主將と相計り、豫期せざりし事情により餘儀なくせらるゝ規則の變更を決定し、規則の解釋、延期、取消及競技時間等につきて決定す。但し意見の一致せざる時はレフエリーの決裁が最後なり。

第四十三條　主將は理由ありと考へらるゝ意見をインターバル又は試合後に於て提出し得。

第四十四條　偶然の出來事により棄權する場合主將之を宣言す。

三、役　員

イ、レフエリー

第四十五條　レフエリーは競技に關し絶對の支配權を有す。

第四十六條　レフエリーは競技規則に基き總てを明確に處理す。又總ての論爭を判斷し、必要なる決定をなす。適用すべき規則なき場合は慣例と自己の判斷によりて之に決定を與ふ。

第四十七條　レフエリーの決定に對しては抗議をなすことを得ずレフエリーに對する正當なる抗議も彼が故意に不正の判決をなしたりと認められたる場合に處罰（審判の停止或は資格剝奪）以外に効果なし。但し既になされたる判決は之を無効となすことを得ず。

第四十八條　主催者はレフエリーを指名しレフエリーの爲になるべく特別の更衣室を設備すべし。

第四十九條　L・I・H・Gによりて國際的レフエリーと認められたる者は之を忌避することを得ず。

第五十條　レフエリーは兩チームに關係なき人たるべく、無關係なるレフエリーを得ること不可能なる時は兩チームの主將が之に同意を表明したる人を選ぶべし。

第五十一條　レフエリーは計時員及ゴール審判員を指名し、之を能ふ限り中立の者より選出すべし。レフエリーは彼等につき責任を持ち、試合中隨時交代せしむることを得、レフエリーは彼等の忠告に從ふべき束縛は決して有せず、又彼等の任務に關する總ての議論を直に判決するを要す。

第五十二條　レフエリーは兩チームの主將と規則の解釋並に環境によりてなさるべき規則の變更に關して協定す。

第五十三條　レフエリーは亂暴なる行爲或は故意の反則なき公正なる試合を確保する爲適當なる嚴格さを以て審判すべし。

第五十四條　レフエリーは競技動向と共に移動すべし。

第五十五條　レフエリーの義務は原則として次の如し。

（イ）試　合　前

（一）リンクの線が氷面に正しく引かれ居るや否やを確め、必要あらば之を變更せしむ。

（二）競技者の用具、少くとも二個あるべきパック、コールキーパーの適當、ステツク、ゴール及番號と其競技者が一致せるや否やを點檢す。

（三）役員席、交代者席及ゴール審判席を檢し、その中に所定の人員以外が入らぬ樣注意すべし。

（四）他の役員を指命し所定の位置に着けるかを確む。即ち

二人の計時員、一人或は二人の罰則計時員が時計を用意し彼等の所定の位置に待てるか、二人のゴール審判員がゴール後方の席に在つて、パックがゴールに入るを見るべく立ち居るか且小旗或は白ハンカチを用意せるかを確む。

（五）主將に場所決定の抽籤を行はしむ。

（六）交代を行ふ時の規則を競技者に注意し、務めて靜粛にする樣、そして如何に罰則を科するかを知らしむ。

（七）天候惡しき場合レフエリーは試合を延期すべきか否かにつき決定すべし、若し二人のレフエリーの意見一致せざる時は試合を延期せず。一旦試合開始されたる後に於てはレフエリー及兩チーム主將の合意なければ試合を續行す。

（ロ）試　合　中

（一）パックを競技に入れ、笛を吹きて競技開始を知らしむ

（二）反則に對しては試合を中止し、必要あらば競技者を罰す。然し乍ら競技中止が却つて反則競技者側に有利となる如き反則に對しては競技を中止せず。

（三）罰則計時員に科したる罰則時間を知らしむ。

（四）ゴールインの場合は競技を中止し、其ゴールが正當なるや否や（ゴール審判員に諮り）强ひて其意見に從ふことなし（之を決定す）

（五）各競技中止の後レフエリーはパックを競技に入れ、笛を吹きて競技の再開を示す。

（六）總て紛爭を判決す。

（七）競技者が怪我せし場合、又第十條に記載せる狀況に於ては競技を中止す。

（八）休　息　中

（一）計時員及競技者と連絡ある場所に居り、競技者に休息時間終了前三分を通告す。

（二）氷上の線が尙充分明確なりや否やを調べ不明の場合は引き直さしむ。

（三）その回の得點を計算す。

（ニ）再　開　始

（一）休息の後尙罰則時間の經過し了らざる罰則競技者が退場を續け居るやを注意す。

（二）レフエリーの統制及ばざる場合を除き、リンク上に全競技者が居らざる場合と雖も所定時刻に競技を再開せしむ

（三）各チームが場所を交換せるかを注意す。

（四）從前通り審判す。

（ホ）試合終了の際

試合中の各チームの得點數を計算し、必要あらば延長時間の競技を命ず。

（ヘ）試　合　後

試合報告書を檢し、署名す。

第五十五條（附）二人審判制

（イ）二人のレフエリーの場合交互にセンターにてフエイスオフをなす、即ち抽籤によりて定められたる第一のレフエーは第一回戰の間と第三回戰及延長時間の前半の間フエイスオフをなし、他のレフエリーは第二回戰の間と第三回戰

及延長時間の後半に於て同じ事を行ふ。

（ロ）一人のレフエリーは板圍ひに倚りて一方の青線に位置し他は反對側の板圍ひに倚りて他の青線に停る。出來得る限り其位置を離れざる樣にし、餘儀なく離れたる場合は直ちに戻るべし。レフエリーはチームと共に場所を交換することなく、全試合中同じ青線上にて審判すべし。

（ハ）各レフエリーは彼の居る青線を含む半分（センターと短邊の間）に責任あり、リンクの彼の半分に於て必要なる總ての決定をなす。尙隨時他のレフエリーの意見を徵する必要あるも最後の決定はその側のレフエリーにあり。

（ニ）兩者の境界に起りし反則につきて、若し兩レフエリーの意見一致せざる時は、最後に於て其回の間フエイスオフの責任あるレフエリーによりて決定さる。

（ホ）例外として一方のレフエリーが他のレフエリーの範圍内に起りし反則及偶發事故にしてこれが重大且他のレフエリー氣附かざる場合は競技を中止せしむることあり。併しながらその判決と處罰は常に後者にあり。

ロ、計　時　員

第五十六條　二名の計時員はレフエリーによりて指名さる、能ふ限り中立のものを選び、之が不可能なる場合は各チームに屬するもの各一名を選出すべし。然しながら中立の計時員得られず兩チームより計時員を指名出來ざる場合は、大會主催國の聯盟の公の計時員を指名すべし。

第五十七條　計時員の職務は、競技時間が終了すると同時に鐘を打ち、又他の合圖の方法により競技を中止することなり、若しこの合圖が充分聞えざる場合は計時員は笛を吹きて之を補足すべし。

第五十八條　計時員はレフエリーがパックを競技に入れ最初に笛を吹きたる瞬間より時間を測り始むべし。

第五十九條　計時員は自己の時計を競技休止の間は停止すべし。若し停止裝置なき場合は、競技休止時間を競技時間に加算すべし。

第六十條　計時員は各休息時間終了三分前にレフエリーに之を通告すべし。

第六十一條　時間に關する計時員間の紛爭はレフエリーが兩チームに協議して調停す。

ハ、罰則計時員

第六十二條　レフエリーは一名の罰則計時員を指名す（これが中立なる時は一名、中立の計時員なき時は各チームより一名宛都合二名）その職務は競技者に科せられる罰則時間を特に測るものなり。罰則計時員は秒時計と笛を用意すべし。

第六十三條　罰則時間の長さはレフエリーによりて示さる。

第六十四條　罰則計時員は罰せられたる競技者がリンクを離れ競技が再び始まりたる瞬間より計測すべし。

第六十五條　罰則計時員は（競技時間に於けると同樣）競技休止時間を罰則時間に加算すべし。

第六十六條　罰則計時員は罰せられたる競技者がその罰則時間を完全に終るまで競技場に戻ることを許すべからず、若し罰せら

れたる競技者が罰則時間の終了前に入りたる時は、罰則計時員は笛を吹きてレフエリーに注意しレフエリーは未だ終了せざる罰則時間の殘餘の時間に一分間を追加したる罰則時間を科すべし。同樣に若し罰則を受けたる競技者が競技場に入り再び競技に參加する前に兩足を自分の防禦氷域に入るゝ事を怠りたる場合は、笛を吹きてレフエリーに注意し、違反せる競技者にもう一分間の罰則を科す。

第六十七條　罰せられたる競技者に對する交代者は罰則時間經過後と雖も競技中止のありたる場合の外罰則計時員は交代を許すべからす。

第六十八條　休息時間となりたるも罰則時間未經過の場合は次の競技開始と共に其の殘りの時間を計算す。然しながら總ての罰則時間は競技終了と共に消滅す、而して次の競技に持ち越さるゝことなし。

第六八條（附）罰則計時員は各競技者に科せられたる罰則の記錄を作り、此の記錄或は罰則時間數の表をレフエリーの試合報告書に再錄すべし。

第六十九條　二名の罰則計時員間の紛爭は直にレフエリーにより決せらる。

ニ、ゴール審判員

第七十條　レフエリーは出來得るならば兩チームに無關係なる二名のゴール審判員を選出す、然しながら之れが不可能なる場合は兩チームより一名宛選出すべし。

第七十一條　ゴール審判員の職務は、パックが前方よりゴールラインを越え完全に之を横切りたる場合、その結果が正當に之が得點なることを、旗或は白ハンカチを擧げてレフエリーに通告すべし。

第七十二條　ゴール審判員はレフエリーよりそのゴールが正當なる得點なりや（即ちキック、オフサイドの反則等無く）に就て意見を質されたる時に答へ、レフエリーがゴール審判員に問ふ必要ありと認めたる如何なる質問にも答ふべし。

第七十三條　ゴール審判員は休息後場所を交換せず、それ故各チームのゴールの背後に於て交互に審判す。

第七十四條　ゴール審判員はゴールラインが完全に見得る樣位置すべし。

第七十五條　レフエリーはゴール審判員のなす判決に從ふべき義務なし

四、競　技

イ、試合時間

第七十六條　競技は十五分間宛三回行ひ各回の間に十分間の休息時間を置く、但歐洲、世界選手權又はオリムピック競技に非ざる試合の時は、若し双方の主將間に同意あらば各回二十分間宛行はれる。

第七十七條　凡ての試合中の競技中止は實際の競技時間に加算す

第七十八條　若しこの試合時間經過後勝負決せざる場合、即ち兩チームが同じ得點をなし、或は双方共得點せざる場合は時間を延長して競技す。此の場合十分間休息の後試合は十分間續けら

る。各チームは其の五分間を同一場所で競技す。此の五分の間には場所を交換するのみにて休息時間なし。

第七十九條　若し此の延長時間後勝敗を決せざる場合は同樣の方法により、各十分間の延長時間の間に五分間の休息時間を置き十分間延長試合を行ふ。

第八十條　然しながら三回の延長時間、正味三十分間以上の延長は行はれず、尙勝負決せざる時は再び競技をし直すものとす、

第八十一條　一方のチームが要求せられたる延長時間の競技を拒みたる場合はそのチームは敗と宣言さる。

第八十二條　此の延長時間は友誼的試合に於ては相互の協定に依り優勝杯爭奪試合等に於ては主催者により、歐洲世界及オリムピック選手權に於ては其の主管理者により豫め一定し置くべし

ロ、勝者——得點

第八十三條　試合の優勝チームとは延長時間も含む試合時間內に得點を多く記錄したるものなり。

第八十四條　パックが攻擊側競技者のステックによりて押し進められ、或は防禦側競技者の如何なる方法によりても、之れがゴールライン、支柱、横棒によつて形成されたる平面を前方より完全に通過せる場合は得點が記錄さる。パックがゴールラインに觸れ居る場合は得點とならず。

第八十五條　防禦側によりて得點を妨げる爲に反則が爲されたる場合は常に其の直後の得點をレフエリーは斯かる反則のありたる故を以て無得點と判定することなし。

第八十六條　得點が攻擊側の反則に依りなされたる場合例へばオフサイドの後、蹴込みたるもの、或はゴールキーパーがチャージされた爲等によるものはレフエリーは之を得點とせず。

ハ、場所

第八十七條　試合の前に兩チームの主將はレフエリーの面前にて抽籤をなす、抽籤に勝ちたる主將は第一回戰に於て防禦すべき場所を選擇することを得。

第八十八條　各回毎に第三回戰開始後七分半、及延長時間に於ては五分後に場所を交換す。

二、競技中止（ストツペーヂ）

第八十九條　競技はレフエリーが笛を吹きたる時或は計時員の合圖によりてのみ中止さる。

第九十條　レフエリーは次の場合競技を中止す。

一、パックがリンク外に出たる場合。パックが觀客に觸れそれがリンクに彈返りたる場合もパックがレフエリーに觸れたると同樣に考ふ。

二、反則が行はれたる場合（第九十七條參照）

三、パックがレフエリーに觸れたる場合

四、得點せし場合

五、特別の原因、例へば競技者が怪我せし場合、ゴール支柱が破損せし場合等

六、各回の終了、第三回戰の七分半後、延長時間の各五分後

第九十一條　競技者がステックを折りたる場合は競技を中止せずゴールキーパーの場合は中止す。競技者はステックなしに競技に參加することを許されず。（第百十六條參照）

ホ、フエイス・オフ

第九十二條　競技を開始するため、各チームより一名宛都合二名の競技者はレフエリーの示したる場所に互に向ひ合て位置し體の左側を相手のゴールに向け、互にステックの薄板を五十糎離して平行に氷上に味方のゴールの側に置く。レフエリーは（當に最も近きゴールと反對側に、中央氷域に於ては自分の位置すべき青線に近き側に位置せる）兩ステックの薄板の中間にパックを投入し、同時に笛を吹きて競技開始を知らすべし。フエイスする兩競技者はパックが氷面に觸るゝまでステックを上ぐることを得ず。

第九十三條　フエイス・オフの際フエイスを行ふ二名の競技者を除き、他の競技者のオンサイド（パックと各自の氷域の後壁との間）に在りて、フエイスを行ふ點より少くとも三米離れし處に居るを要す。但しゴールキーパーは自己のゴールの前方の平常の位置に居らざるべからず。

第九十四條　各回の初め、或は得點せる場合レフエリーはリンクの中央（暗色圓周にて印されたる）にてフエイスを行ふ。

第九十五條　競技中レフエリーがフエースを行ふ地點は何故、何處にて競技が中止されたるかにより、下記の特例あり。

A、中央氷域

一、オフ・サイド（即ち中央氷域に在る競技者が防禦氷域に在る味方よりパックを受けたる時　防禦線の上にてパックが之を横切りたる點。

二、其他反則に對しては其の反則が行はれたる地點に於て

三、パックがリンク外に出たる時は、パックがリンク外に出た長邊板圍（ロングサイド）より三米離れたる地點に於て

四、他の理由による競技中止（例へばゴールの破損等の場合は競技中止の瞬間パックのありたる位置に於て

B、兩端（エンドゾーン）の氷域

a、攻擊者による反則

一、攻擊線に於けるオフサイドは、攻擊線上にてパックが之を横切りたる點

二、ゴールクリースに於けるオフサイドは攻擊線の中央に於て

三、他の反則に對して、パックがリンク外に出たる場合も兩チーム各一名宛の競技者によりて一緒に反則が行はれたる場合も攻擊線上の反則が行はれ或はパックが出たる長邊板圍より三米離れたる地點に於て

b、防禦による反則

一、ゴールキーパーの輕き反則（第百十條）ラツギングの初犯（第百十五條）に對してはゴール前の氷上に印されたる地點（第百十九條）に於て

二、他の反則に對しては、防禦者がパックをリンクの外へ叩き出したる場合も反則が行はれたる地點（換言すれば反則せる競技者が立ちたる地點）に於て

c、他の理由による競技中止に對しては（偶然ゴールが破損せる等）パックが在りし處より青線に垂線を下しその青線上にて行ふ。

第九十六條　然しながら兩端の氷域内ゴール直前にて行ふフェイスオフは常にフェイスの地點をゴールの一側より三米離しゴールラインよりも同じ距離だけ離し其處を反則が起りし場所の如くにして行ふ。

五、反　則

イ、總　則

第九十七條　一般にレフェリーはそれが故意たると否とを問はず如何なる反則に對しても競技を中止すべし。この競技中止が反則を犯せるチームに有利となる場合は競技を中止する要なし、然しながらその反則が罰則を科する程度のものなる時は反則者を罰する爲め競技動向の一段落の際競技を中止すべし。

第九十八條　レフェリーは公正なる競技を進むるため務めて嚴格に任務を遂行すべし、但し關斷なき競技中止により競技者を困惑せしめ、競技不能に陥らしむること勿れ。

ロ、オフサイド

第九十九條　パックと味方のゴールの間に位置する競技者はオンサイドに有りと稱せらる。パックと相手方ゴールの間に居る者はオフ・サイドなり。同一チームの競技者はチームメート（味方）と呼ばれ、他のチームの者はオツポーネント（敵）と呼ばる。

第百條　競技者は常にオンサイドに在る味方へパスする事を得。若し自分と同じ氷域に在るものならば、その味方がオフ・サイドの位置に在りてもそれにパスすることを得、併し他の氷域に在つてオフ・サイドなる味方へはパスすることを得ず。

第百一條　然しながらパックが一旦防禦氷域より中央氷域に入りたる場合パスの瞬間防禦氷域に在りたる何れの競技者も之を採ることを得、これを中央氷域にパックを追求し得と稱す。

第百二條　防禦氷域より中央氷域にパスされたる場合、パスのなされたる瞬間防禦氷域に在らざりし味方がそのパックに觸れたる時は競技は中止され、防禦線上にてフェイスオフが行はる競技者がその兩足を中央氷域に入るゝに非ざれば、中央氷域に入りしものと看做さず（パスを受けたる競技者の防禦氷域に居りし敵より來れるパックを受けたる時は競技を中止されず、防禦側の競技者は、そのパックを得る爲め防禦氷域へ戻る必要なし）

第百三條　中央氷域の競技者がパックを持ちて攻撃氷域に入り、或は攻撃氷域へパックをシュートして入れし時、中央氷域又は防禦氷域に居りしその味方のものは攻撃氷域に入り競技に參加し得、但しパックより先に攻撃氷域に入ることを得ず、競技者の誰かゞ斯くせる場合は競技を中止す。但し該反則競技者がパックの攻撃氷域に到達する以前に中央氷域に戻りし場合は競技を中止せらるゝことなし。

第百四條　第二の防禦氷域はゴールクリースなり（第五條二、附圖第六）此處はリンクの殘餘の部分と恰も防禦氷域が他の二つの氷域に對すると同樣なる關係存在す。例へば

一、攻撃側競技者は假令オンサイドの場合にもパックが入りたる後に非ざればゴールクリースに入る事を得ず。

二、然しながら、若し攻撃側競技者が境界を越えて一旦その中

に入りパックがゴールクリースに入る以前に再び直に其處を出し場合は競技を中止さるゝことなし。

三、一旦合法的にゴールクリースに入りたる競技者達は相互にオフサイドの位置に在る他の競技者に對してもパスすることを得。

然しながら之等の規則はゴールキーパーが各自のクリースの内に居る場合に限り適用するものにして、若しゴールキーパーがクリースを離れたる時は此の規則は無効とす。

ハ、パックを運ぶ事、蹴る事

第百五條　總て競技者は身體何れの部分によりてもパックを止むることを得、但し掌中に持つことなく押へつけることなく、リンクの上に落す事を要す。パックを止めたる競技者は然る後パックに競技しかくる樣規定さる。ステック以外の方法にてパックを運び、また競技することは許されず、而して競技者はステックを肩より上に擧げざる範圍にて自由に用ひ、パックを空中で叩き、パックを押し、パックをステック上に載せて運ぶことを得。

第百六條　パックを前進する競技者は各氷域にて、青線を超えてもパックを彼のステックの方へ足にて押しやる事、（フートラッグ）は許さる。然しパックを蹴り、又は此の方法にて味方へパスすることは許されず。

二、禁止姿勢

第百七條　ゴールキーパーを除く他の競技者は氷上に横臥し、坐り、跪き又は故意に倒るべからず。偶然倒れし競技者は競技に手出しする事を得ず、即時起立すべく努力すべし。禁止姿勢にて競技し、其れによりて得點を妨げたる場合は其の競技者は重大なる反則を犯したるものなり。

第百八條　ゴールキーパーが罰則退場の間之に代りし競技者のみは如何なる姿勢（坐り、跪き、倒れ）にてパックを止め、最善と思考する方法（蹴り、手にて投げ等）にてパックを拂ひ除けることを得、但しパックを自己の前方に非ずして後方へ投るべき一つの制限あり、又パックを把持し、パックの上に横はり、跪き、坐るべからず、ゴールキーパーによる些細なる反則は第百十九條に記載されたる特別のフェイスオフによりて罰せらる

第百九條　ゴールクリース内にて密集しレフェリーがパックヲ見失ひたる場合は競技を中止し、ゴール側方にてフェースオフを行ふ。

ホ、襲ふ事（チャージ）及亂暴なる行爲

第百十條　總て亂暴なる行爲は之を禁ぜらる。相手を襲ひ、躓かし（即ち相手を倒し得る如き位置に足、膝、ステックを置き）或は互に摑み合ひ、スケート又はステックにて打ち、或は押し捉へ（手、ステック又は他の方法にて）或は手にて相手を阻止する事は特に禁ぜらる。相手を撲りたる競技者は嚴重に處罰すべし。その相手が若し復讐せば之も亦輕く處罰すべし。然しながら打撃を避くる爲め相手を捉ふるは反則に非ず。相手を背後より襲ひたる競技者は嚴重に之を處罰すべし。相手を怪我せしめたる襲撃も亦同じ。

第百十一條　ゴールキーパーが防禦し居る時襲ふ事は特に之を禁

ず、而して斯かる狀態にて得點せるものは之を無効とす。然しながらゴールキーパーがそのゴールクリースを離れたる場合は斯る擁護はなきものと看做さる。

第百十二條　體當り（ボデーチエキング）は次の狀態にて行はれたる場合差支なし。

防禦氷域内に限り、防禦側競技者がパックを所持せる攻擊側競技者に對し、全く身體に身體を付け、胸、背中、肩又は臂を用ふることを得るも、膝、肘又ステックを前方へ突き出すことを得ず。體當りをなす競技者は彼の體重を攻擊側競技者に對して輕く掛くる事を得るも、襲ふ爲め勢をつけることを得ず。傍を通過せる許りの攻擊側競技者を背後より襲ふことは許されず、又板圍ひより五呎以内に於て體當りを行ふことを得ず。相手に體當りする際、二歩以上前進せるものは勢を附けたりと看做され、斯樣なる體當りは禁止の襲ひかゝりと考へらる。若し體當りの際ステックを用ひて相手を押し返すものは、斯樣なる體當りをクロスチエックと看做され、罰則を科せらる。

第百十三條　如何なる場合に於てもパックを扱ひ居らざる競技者を體當りすべからず、假令之がパスを當然受くる競技者なりとも。然し乍ら防禦側競技者はステックを用ひず或は摑まざる程度にてパックを保持せざる攻擊側競技者にまつはり惱ます事を得。但し體當りはパックを保持せる競技者に對してのみ許さる

へ、防禦の際の競技者數（アンテデフエンス）

第百十四條　パックが味方の防禦氷域に無き時、其の防禦氷域内にゴールキーパーを含めて味方の競技者が三名以上居ることを得ず、但しパックが防禦氷域を去りし場合若し餘分の競技者が直に防禦氷域を去りしものは反則をせるものに非ず。同樣に第四人目の防禦側競技者も相手のパック保持を阻止する目的にてパックより先きに味方の防禦氷域に相手よりステックの長さ以内に非ざれば入ることを得ず。此の餘分の競技者の初犯に對しては一分間の罰則を科し、第二犯に對しては二分間と順次犯を重ぬる毎に一分增しとなる。同時に多數の競技者がパックより先に防禦氷域に入りし場合は反則せるチームの主將が處罰さるべき競技者を指名す。

ト、ラッギング

第百十五條　如何なる理由にせよ、時間を潰す爲にパックを前方に運ぶに非ずして同じ地點の周圍を廻し、ゴール後方へ運び等して味方の防禦氷域に相手方チームの競技者が居らざるに故意に防禦的動作を爲し、又中央氷域より防禦氷域にパックを持ち歸り、リンク外へパックを叩き出す事（斯樣な行爲をラッキングと稱す）は反則なり、此の初犯はレフエリーに依り第百十九條に記載せる如く特別のフエイス・オフにて罰せらる、第二犯は罰則となる。

チ、其他の反則

第百十六條　下品なる或は野蠻なる試合をなし、レフエリー或は他の役員の判決に反駁し、不穩當或は野卑なる言辭を弄し、觀客或は他の競技者と口論し、ステックを肩より上へ擧げ（相手の頭より上を傷害せしものは重大なる反則なり）又ステックを氷上に投ぐることは（特に防禦氷域に於ては）禁ぜらる。競技者が

ステックを氷上より拾ひ上げんとするを妨ぐる事亦禁ぜらる。最後に、競技者がステックを失ひ或は破損したる場合、ステックを拾ひ、交換するまでは試合に如何なる方法にても加はる事を得ず。

第百十七條　防禦側の競技者が危機に際し競技を中止する爲に輕き反則を故意になしたりとレフエリーが認めたる時は、この反則の爲めに競技を中止することなく、次に起りし最初の競技中止の際該競技者を罰すべし。

六、罰　則

イ、罰則の種類

第百十八條　レフエリーは反則者を競技より除外する爲パックの停止を必要とする競技の中止を行ふ事を得、但しその間他の競技者を以つて之に代る事は許されず。

第百十九條　特殊の罰則は第百十條（ゴールキーパーの輕き反則）及第百十五條（ラッキング初犯）の二つの場合に適用さる。レフエリーは反則せるチームのゴールラインの中央に垂直に三米前方に離れてフエイスオフを行ひ、其の際ゴールキーパー（ゴール前の本來の位置に居り）及フエイスをなす競技者を除く他の防禦競技者は最も近きゴール支柱より五米以内に居る事を得ず。此の距離を知る爲に特別の地點を氷上に印し、板圍に線を塗るべし、（第五條參照）

第百二十條　一般にレフエリーは罰則を科する前に警告を與ふべきなり。レフエリーは故意の反則なき公正なる試合を進むる爲必要なる嚴格さを以て罰則を科すべし、誇大なる罰則によりて競技者を混亂せしめざる樣にすべし。

第　二十條　（附）本來の競技以外の時間中、例へば競技の前後或は休息時間中に競技者によつてなされたる反則には、大會組織委員が之に出場停止を科す。

ロ、適　用

第百二十一條　或る競技者が罰則を犯せりと考ふる時レフエリーは競技を中止し、反則競技者並に罰則計時員に罰則即ち退場せしむる時間を通告すべし。

第百二十二條　罰せられたる競技者は直に競技より離れ、混同せざる上衣を着用すべし。

第百二十三條　罰則の時間は退場せる競技者が罰則計時員の處に來り、競技が再開さるゝと同時に計測し始めらる。

第百二十四條　總て競技中止の時間は罰則の時間に加へらる。故に罰則時間は實際競技する時間として計算さる。

第百二十五條　處罰時間が終るや否や罰せられたる競技者（交代者は不可）は競技中止を待たずしく再び競技に參加し得。罰則計時員は處罰時間の完了を該競技者に通告すべし。

第百二十六條　該競技者は競技に參加する前に味方の防禦氷域に戻らざるべからず。

第百二十七條　第六十八條參照

ハ、時間、處罰に對する提案

第百二十八條　レフエリーは適當と考ふる時間、一分、二分、五分、或は反則が故意に相手を傷害し、レフエリーを撲る等の特

に惡性の場合は全試合を通じて處罰し得。

第百二十九條　レフエリーは其反則の重大性、反復又は競技の結果に及ぼす影響を考慮して罰則を科すべし。

第百三十條　此等の情況の下に罰則の尺度を決める事は甚だ困難なることなり、されど指針として、基礎となるべき二、三の罰則をレフエリーの爲に提示せん、併しレフエリーは之に拘泥する事を要せず、罰則の科料は全くレフエリーの判斷に俟つものなり。

第百三十一條　下記はレフエリーに對して指針として役立つ程度の罰則を示し、之等提案は國際レフエリーが罰則の嚴格さを同程度となすに利益あり。

○一分間

一、ゴールキーパー以外の者がパックを投げし場合
二、故意にパックを蹴り、手又は腕にてパックを押したる者
三、手にパックを保持せるもの、リンクの隅又は板圍に身體或は足にてパックを止めたる者
四、ゴールキーパーが相手をステックにて毆打し、躓かしたる場合
五、故意にオフサイドせるもの
六、相手をステックにて躓かしたる者
七、味方の防禦氷域に既に三人の味方が居るにその氷域に入りたるもの（初犯）
八、ラッギング（第二犯）
九、ステックを彼たずして競技に參加せるもの
十、相手が自身のステックを拾はんとするを妨げたるもの
十一、罰則時間が經過せざるに競技に再び參加し、又は兩スケートを味方の防禦氷域に入れずして再び競技に參加したる場合

○二分間

一、相手を偶然轉倒させたもの
二、自分のステックを投げたもの
三、相手のステックを叩き落したもの
四、故意にオフサイドせるもの（再犯）
五、體當り以外の方法にて相手を襲ひたるもの
六、自分の肩より上にステックを擧げたるもの
七、レフエリーに口論せるもの
八、ステックにて相手を躓かしたるもの（再犯）
九、觀客に口論せしもの
十、交代に關する規則を紊したるもの

○三分間

一、體當りの際ステックを使用せるもの
二、相手を故意に轉倒したるもの
三、得點を妨ぐる爲ステックを投げたるもの

○五分間

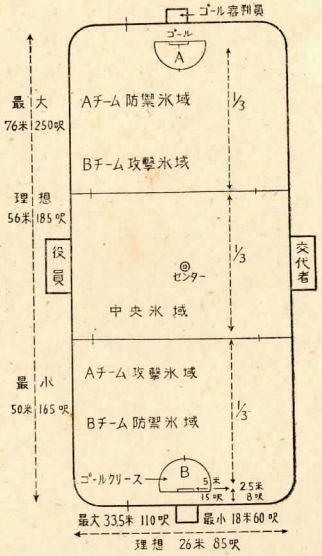
一、役員を傷害せるもの
二、野卑な言辭を弄せるもの
三、スケートにて相手を蹴りたるもの
四、ステックにて相手の頭を打ちたるもの

○十分間

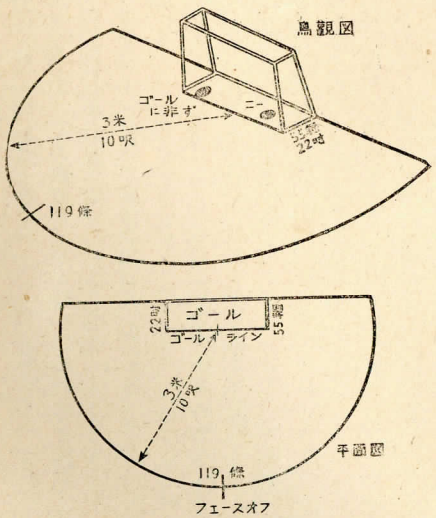
一、相手を故意に傷害せるもの
二、役員を襲ひたるもの
三、ステックの柄にて相手を毆打せるもの

附圖

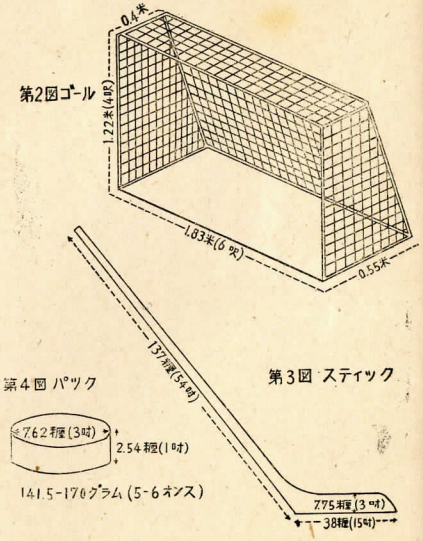
附圖第1圖 リング



附圖第6圖 ゴールクリース



附圖 第2.3.4圖



スピードスケーティング競技規則

「附」國際規則

註

大日本スケート競技聯盟制定の「スピードスケーティング競技規則」は國際統一團體たる〝國際スケート聯盟制定〟の國際競技規則を參酌し吾國情に適したる規則に改正したるものなり。從つて國際競技規則と多少異れる條項あり。之を對照する爲に相違せる箇條の次に「附」として國際規則との差異を説明せり。

第一條 距離

日本選手權並に正式競技は次の距離についてのみ行ふことを得

(例外第二條)

五百米、千米、千五百米(以上短距離)

三千米、五千米、一萬米(以上長距離)

但し該距離の個々について賞品を與へるか又は數個の距離について賞品を與へるかは豫め主催者に於て決定し置くべし。

第二條 例外の距離

一、第一條に規定せる距離の外に一萬米以上の距離についてもこれを擧行する事を得。

二、但し此の競技は第三條規定標準競技場に於て行ふ事を要せず。

三、多數同時に出發する競技は單一滑走路競技場に於て行ふべし。

四、該競技に於て出發線に並列不可能の場合は之を數組に分割して豫選競技を行ふ事を得、

「附」國際規則に於ては豫選競技は行ふ事を得ず。

第三條 競技場

一、標準スピードスケート競技場は一周四百米又は三百三十三米三三の二重滑走路にして內側の半徑二十六米以下、二十四米以上にして半圓型を二個を有するものなり。

二、滑走路の測定は內側より半米離れて行ふものなり。

三、交叉線は少くとも七十米たるべし。

四、各滑走路の巾は最少三米、可能ならば五米のものたるべし

五、各滑走路の境界は直線、彎曲部共に固定ざる雪線又は動かし得べき木片を以て定むべし。

六、滑走路の目標等には固定せる木片等を使用すべからず。

七、出發線及決勝線は氷面を切込みたる線又は色線を以て滑走路の直線に垂直、曲線の切線に直角に示すべし。

八、標準的ならざる競技場と雖も二重滑走路を準備する際には內側の半徑十八米以上交叉線最少四十米、走路の巾各二米以上を有し、一周三百米以上の競技場たるべし。

九、同時に多數出發するスピードスケート用單一滑走路は最小內側半徑二十四米、巾十米、一周三百米以上の競技場たるべし。

十、日本選手權並に國際競技は以上のスピードスケード用競技場に於てのみ行はる(例外 第二條第一項及第二項)

第四條 滑走路の測定

滑走路は聯盟制定の測定委員に依りて測定せられ、同委員の署名に依りてのみ保證せらる。

第五條 競技者の組合せ及出發順序

一、二重滑走路競技場に於ける凡ての國際競技は二人宛同時に出發せしらめらるべし。(例外第二條)

二、競技者は抽籤に依りて二人宛組合せられ出發番號の順序に從つて出發せしめらるべし。

三、出發に際し內側より出走するか外側より出走するかは抽籤に依りて決せらる。

四、競技者數が奇數なるか又は抽籤決定後相手の棄權に依りて獨走になりたる場合には該競技者は最後に出走せしめらる。

五、獨走者多數生じたる場合には再び抽籤に依りて組合せ及出走の順序を決定せらる。

第六條 綜合選手權競技に於ける組合せ及出發順序

一、二個以上の距離について一個の賞品が與へらる場合に於ては最初に行はる距離についてのみ二人宛の組合せ及順序が抽籤に依りて決定せらる。

二、四個の距離について一個の賞品が與へらる場合に於ては最初の短距離及長距離にせ對してのみ二人宛の組合せ及順序が決定らる。

三、最初に個々の走者の出發番號が抽籤せらる。

四、二人宛の組合せは出發番號の一番と二番三番と四番以下同樣に組合せらる。

五、一番と二番の走者が最初に出走し三番四番が二回目に出走すべき組なり、以下同樣なり。

六、何れが內側又は外側の滑走路より出發すべきやは又抽籤に依りて決せらる。

七、二個及三個の距離に於ける競技會に於ては走者の得たる時間に從つて次の距離に出場する組を最良の者より順次二人宛組合せらる。

八、四個の距離について行はる競技會に於ては各前の短距離及長距離に得たる時間に從つて最良の者より順次二人宛組合せられ、次の短距離及長距離の組合せが決定せらる。

九、其他の距離に於ける組合せ及順序は別に抽籤せらる。但し一萬米は例外なり。(第十項)

十、一萬米に於てはこれまでに終了せる長距離の第十四位迄即ち七組が先に出走せしめらる(「附」國際競技に於ては第十位迄即ち五組なり)此の組の出走順序は抽籤せらる。

十一、次いで殘りの組の出走順序が抽籤せらる。

十二、一個の距離に於て二名又はそれ以上多數の者が同時間を得たる場合に於ては抽籤に依りて順位を決定せらる。

十三、競技者數が奇數なるか又は抽籤決定後相手の棄權に依りて獨走となりたる場合には該競技者は最後に出走せしめらる

十四、獨走者多數生じたる場合には該競技者の得たる時間に依りて二人宛組合せられ、出走の順序は抽籤に依りて決定せらる。

十五、審判長は前の距離を滑走せる一人の競技者に少くも三十

分間の休憩を與へる爲にその組を遲らして出走せしむる事を得。

第七條 滑走違反

各走者は畧走路內側線を横切りて滑走すべからず。

第八條 左廻滑走

滑走に際しては左廻り即ち競技場を左に見て滑走すべし。

第九條 單一滑走路に於ける競技者の位置

單一滑走路に於て同時に出走する場合各走者は少くとも二米以上離れて滑走せざるべからず。

第十條 衝突の責任

一、單一滑走路に於ては各走者は出發後に滑走路の內側を占むる事を得、但し之が爲他の走者に衝突せる場合にはその責任を自ら負ふものなり。

二、滑走路の內側を占めたるものは其位置を持續せざるべからず。

三、自己の前方の走者を拔く場合は左右何れよりするも此危險は自己の危險に於て行ふべきなり。

四、二重滑走路競技場の交叉線に於ける衝突の危險は常に內側より外側滑走路に出んとする走者の責任なり。

五、衝突に依りて競技者が其責任を課せられたる場合に第十一條に從ひて處罰せらる。

第十一條 資格剝奪

一、審判長が一競技者の妨害を確認せる場合には當該競技成績より除外せらる。

二、妨害が故意に行はれたる場合には該競技者は次後行はる競技に參加する資格を剝奪せらる。

三、該競走者は其競技會が數個の距離について賞品が與へらる場合には以前に行はれたる距離についても資格を剝奪せらる

四、走者への誘導或は伴走を許さず。

第十二條 走者間の間距

一、單一滑走路に於て多數滑走する場合前走者との間距五米以上ある時のみ其背後を滑走する事を得。

二、監察員の注意にも拘らず此の規定に違背したる場合には入賞より除外せらる。

第十三條 出發線

走者は出發に際しスケートを以て出發線を横切りて立つべからず、即ちスケートの先端を以て此の線まで達する事を得るのみとす。

第十四條 決勝線

一、走者のスケートが決勝線に觸れ又は到達せる時を以て全距離を完走したるものとす。

二、走者が決勝線の僅か手前にて轉倒せる場合に於てはその走者のスケートが決勝線に觸れ又は到達したる時を以て計時せらる。

役員

第十五條 出發合圖員

一、出發員は出發に際し生じたる總ての紛爭を自ら解決すべし

二、出發合圖員は走者の背後に位置を占めざるべからず。

三、出發合圖員は走者に「位置ニツイテ」と號令をかけて出發の位置につかしめる。

四、次に「用意」なる豫令の後一發の發砲を以て出發せしむべし。

註 「用意」より發砲迄は約一秒間を原則とす。

五、不正出發の場合は續いて二發目の發砲を以て走者を戻し再出發せしむべし。

六、不正出發三回繰返し行ひたるものは失格せしむことあり。

「附」國際規則なし。

第十六條 監察員

監察員は競技規定に對する總ての違反につき注意し、之を發見したる時は直ちに之を審判長に報告すべし。

第十七條 回數算定員

回數算定員は走者の今後滑走すべき回數を明瞭に示すべし。最終回の初めには打鐘を以て之を知らしむべし。

第十八條 決勝審判員

決勝審判員は何れの走者が最初に又は第二位に決勝線を通過したるやを確定す、その宣言に對して取消すべからず。

第十九條 計時員

一、復計時計の得らるゝ場合には各走者に對して三人の計時員が任命せられ、各計時員は夫々走者の所用時間を計測すべし。

二、復計時計不充分なる時は單針時計を使用する事を許さる。

三、各計時員は只一個の時計のみを使用すべし。

四、二名の計時員の時計が同時間を示したる場合にはこの時間が採用せらる。

六、一名の計時員が何等かの理由に依り計時せざりし場合には殘る二名の時計の中間の時間が採用せらる。

七、此の中間時間が十分の一秒以下なる場合には多き方の十分の一秒が結果として採用せらる。

八、各計時員は各自記錄帳に時間を記錄すべし。

九、各走者に對する計時は計時員長に提示すべし。

十、計時員長は所要の時間を確定しその正しき決定を記錄に留むべし。

十一、記錄は主催者に依りて大日本スケート競技聯盟へ送附せらるべし。

十二、確定せる時間は之を取消す事を得ず。

十三、計時員は出發合圖員の背後に背を向けて位置すべし。

第二十條 周圍計時員

一、二周以上の競技に於ては各回の時間を計測し各周毎に之を記錄すべし。

二、通告員

走者並に觀衆の爲に周回計時員より得たる時間を場內に通告する事を要す。

第二十一條 時計

時間計測に使用せらるゝ時計は一時間以內に一秒以上の誤差なき事を時計商により證明せられたものたる事を要す。

第二十二條 綜合競技成績

一、數個の距離に對して一個の賞品が與へらる場合に於ては全

距離を完走し、且つ滑走したる各距離の過半數以上に就きて最良の時間を示したる者を以て勝者とす。

二、多くの走者が一個の距離について最良の時間を得たる場合には之等の走者は凡て此の距離についての勝者と認めらる。

三、何れの競技者も第一項の要求を滿たされたる場合には全距離を完走し最小總得點を得たる者を以て勝者とす。

四、五百米に於ては所要時間の秒數、千米に於ては秒にて表示せる時間の二分の一、千五百米に於ては同樣にして三分の一三千米に於ては六分の一、五千米に於ては十分の一、一萬米に於ては二十分の一を得點とす。

五、二位以下の順位も同樣の計算に依り總得點に依りて決定せらる。

六、或距離に除外せられたる競技者は總得點計算より除外せらる。

第二十三條　公認記錄

一、國際競技會、國內競技會又は地方的競技會に於て得られたる記錄にして左記の條件を具備せる場合には大日本スケート競技聯盟により日本記錄として公認せらる。

イ、滑走路は標準滑走路なること

ロ、第四條及第二十一條が遵守せられたること

二、國內競技會に於て得られたる記錄は主催地方聯盟に依りて證明せらるべきこと。

三、男子及女子の日本記錄は大日本スケート競技聯盟規則第一條に規定せるものゝ外男子二千米繼走、及女子千六百米繼走のみ公認さる。（繼走は國際記錄なし）

四、記錄及證明は遲くも三月末日迄に大日本スケート競技聯盟宛加盟團體會長の名の下に提出せらる事を要す。

五、記錄の認定は大日本スケート競技聯盟技術員會の審議を經たる上全國代表委員會の贊同を得る事を要す。

六、日本記錄を樹立せるものに對して大日本スケート競技聯盟は賞狀を交附す。

「附」

第二十三條　世界公認記錄

一、國際競技會、國內競技會又は地方的競技會に於て得られたるものにして左記の條件を具備せる場合には國際スケート聯盟により世界記錄として公認せらる。

イ、滑走路は標準滑走路なること。

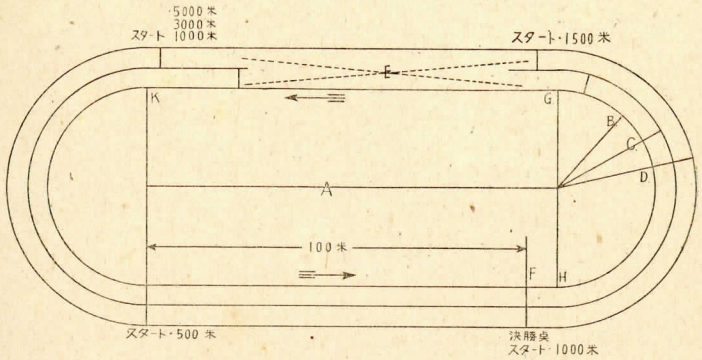
ロ、第四條及第二十一條が遵守せらたること。

二、國內競技會に於て得られたる記錄は開催國內聯盟に依りて證明せらるべきこと。

三、男子及女子の世界記錄は國際スケート聯盟に於ては第一條に規定せる距離についてのみ公認さる。

四、記錄及證明は遲くも毎年五月一日迄に國際スケート聯盟の理事に提示せらるゝ事を要す。

五、樹立せられたる記錄者に對して國際スケート聯盟は賞狀を交附す。



第三條ニ據ル400米標準競技場

內側ノ半徑		25米
各コースノ幅		5米
交叉線		70米
コースノ長サ		
2×中軸 (A)	2×111,945米	=223.89米
內側ノカーヴ (B)	$25\frac{1}{2}$×Radins=3,1416	= 80.11米
外側ノカーヴ (C)	$30\frac{1}{2}$×Radins=3,1416	= 95.82米
交叉 (E)	$\sqrt{(交叉線ノ長)^2+(コースノ幅)^2}$=70meter	= 0.18米
		400米

フイギュアー競技規定

總則

第一條

第一項　國際フイギュアー競技に於ては次の如く區別さる

a　個人競技

b　ペア競技

c　團體競技（グループ）

d　ダンス競技

第二項　個人競技に於て男子と女子とは別個に行はるものとす

第三項　ペアー競技に於ては同樣に構成せられたる組（女子と男子、女子二人若くは男子二人）に於て行はれ團體競技に於ては參加者が同數にして同樣の構成をもつ團體の間に於て行はる

第二條

スクール及びフリー競技

第一項　個人フイギュアー競技は

イ、課題の規定せられたる競技（スクール競技）

ロ、公表により規定せられたる一定時間を自由選擇に依り滑走する競技（フリー・スケーティング）に分たる

第二項　一方若くは他方の部門のみに申込むことは之を許さず

第三項　スクール競技はフリー競技以前に行ひ出來得れば一日中の異れる時又は前日に之を擧行すべきものとす

賞の決定

第四項　賞の決定は兩部門に於て獲られたる結果の綜合によりて之を行ふ

特別賞

第五項　一方若くは他方の部門に於て獲られたる成績に對して更に特別賞を與ふることは主催する聯盟若くは協會の隨意なり

第三條

ペアー及び團體競技

第一項　ペアー及び團體競技はフリー・スケーティングのみを包括す

第二項　ペアー競技は二人のフリー・スケーティングに依つて行はれ兩競技者の統一的活動に徹したるフイギュア・スケーティングが示さるべきものとす

第三項　パートナーはそれ〴〵の異つた多くの滑走をなすことを得るも之は一時的であつて全體として一致と協同の印象を失はざるものなることを要す

第四項　競技者の一方が他方の力により氷面から比較的長い時間離るるスケーティングは之を禁ず、或スウイングに續きパートナーを上げ下しする飛躍は許可せらる

ダンス競技

第五項　ダンス競技はフリー競技のみを含み之が滑走は舞踊の性質を有するものなることを要す

前進運動のなされざるシャムブ交互の滑走及びフイギュアーは前進、後進の滑走と同樣に禁ぜらる故に滑走は停止の位置から開始すべきものとす

第四條

スクールの課題

第一項　スクールの課題は別表に就いて行はれ世界選手權大會競技規約には六つ、國際競技には五つの圖型が滑走せらる

第二項　右（a）及び左（b）より始められるものはa、b兩方を滑走することを要す

第五條

スクールの課題に就ける競技者の順序

第一項　圖型の公表及び點呼の行はれたる後各競技者は同一の圖型を抽籤せられたるスタート番號の順序によつて競技す

第二項　競技者の滑走順序は各圖型毎に變更せらるゝものとす即ち先の圖型を滑つた最初の競技者は次の圖型を最後に滑走す

第三項　出場競技者二名のみにして二名が合意した場合は例外とす

第四項　各競技者は遲くとも點呼の行はれたる二分後に課題を開始せざるべかず然らざれば該課題は「滑走せざるもの」として採點せらる

第六條

スクール競技の姿勢及び開始

第一項　競技者がスクール・フイギュアーをはじめるに際してはスケートのカーヴのところで立つことを要す

第二項　スケートの先で立つことは禁ぜらる

第三項　圖型は假想せる軸の交叉點に於て開始すべし

唯一回の蹴り

第四項　スクールの課題は靜止の位置より始められ他方の足（浮足）で唯一回の蹴りに依つて前進若くは目立つて身體を捻轉することなく開始せらるへし

圖型の再度の開始

第五項　圖型が前進若くは身體を著しく捻轉して開始された場合審判長は競技者にその圖型を再走せしむべく滑走を停止せしむるを要す

無停止

第六項　一方の足から他方の足への移行は浮足（次いで滑足）を立て且從來の滑足（次いで浮足）を以て一回蹴ることに依つて停止することなく行ふものとす

三回の實施

第七項　各圖型は右足並に左足で三回宛實施さるゝことを要す

第八項　繰返しは上記の如く停止なく行ふこと

第九項　審判長は自分自身若くは代理人に依りて競技者に對し行はれたる圖型の三回の實施を通告せざるべからず

第七條

點　數

第一項　各スクールの課題は次の如き0——6の點數に依つて判定せらる

0＝滑走せず
1＝不良の滑走
2＝缺點ある滑走
3＝可なりの滑走
4＝良き滑走
5＝非常に良き滑走
6＝完全なる滑走

第二項　詳細な點數を示すために十分の一迄の中間數字が採用せらる（例　1・2點、3・8點、5・5點）

第三項　點數の認定に於ては第一に氷上の正確なる圖型、第二に姿勢及動作、第三に三回の滑走に於ける軌跡が凡そ重り合つて居るかどうか第四に圖型の大きさが考慮せらるゝものとす

正確なる滑走

第四項　競技者及び採點審判員は第一に第八條に依る正確なる圖型第二に第九條による姿勢及び動作第三に合致及び第四に初めて大さに重點を置かざるべからず

第五項　重合ひは第八條に依る正確なる圖型の基準が遵守せらる場合にのみ考慮に入るものとす

第六項　第九條に從ひ正確なる姿勢及動作が出來た後難しい正しい圖型の重なりへの向上が期せられる

第七項　第八條に據る正確なる圖型及び第九條による滿足の姿勢及び動作の價値が獲られたならば次は圖型の適當な大きさにつき考慮せらる

第八項　圖型の表現が少なくとも良き滑走と見られない場合に於ては姿勢及動作は圖型の重なり及大きさと同樣餘り考慮せられず

第九項　競技者が一つの圖型を滑走する際に部分的に失敗しまたは轉倒した場合に於て採點審判員は圖型を滑走されずとして採點を決定することを得ず

第十項　之に反して圖型のなしとげられたる部分に對し相應に點數を與ふることは差支へなし左右三回行はれた圖型が失敗された場合に於ては（轉倒又は他の方法で）次の方法に依つて採點さるゝ成功した部分に對し點數は六分の五、二度失敗したならば六分の四を剩ず之に反して六回の滑走に就いて三回失敗したならばその圖型に就いては零點を與ふ

轉　倒

第十一項　轉倒は凡ての部門に於て優勝への障碍とならず

一回若くは數度の轉倒はフリーペアー及びグループ競技に於てはこの轉倒がなかつた場合與へられるパーフオーマンスの點數に於てのみ價値判斷せらる

第十二項　採點審判員は競技者の責任に歸すべき個人的の轉倒については少しも顧慮せず

第八條

正確なる圖型の標準

第一項　正確なる圖型の基準は次の如し

イ、三回の滑走に於ける縱軸及び横軸の正確なる保持（圖型の縱軸はエイトの中央を通り縱に進みエイトを左右等分に分つ線なること横軸は縱軸に直角エイトの中央を通ること）

ロ、（横軸によつて分たれたる）圖型の第一及び第二の半分は大約同じ大きさとなること

ハ、縱軸及び横軸に關する圖型の夫々の部分の均整的配置

ニ、弧は凹凸なく即ち出發點近くに還り終り迄完全に滑る事

ホ、スリー・ターンに於ては尖端が縱軸上にあり第二の弧は最初の弧と殆んど等しき大きさとなること

ヘ、ダブルスリーはその中間の弧を以て縱軸を直角に截り三つの弧は殆んど等しき大きさなること

ト、ループは幅よりも縱長く尖りたり角なくその縱の方向はエイトの軸に當り第二の弧は殆んど第一の弧と同し大きさなること

チ、チエンヂは穩かに進行して軸に於て双を轉換すエイトを完全に滑走する場合は次いで最初の弧の出發點の附近に於て双を轉換し第二の弧は恰度その場所に戻り最初の弧と殆んど同じ大きさとなること

リ、ロッカー及びカウンターは双の轉換なく反轉は軸の附近に於て行ふこと

ヌ、ブラツケットは反轉の前後に双の轉換なくその尖端は縱軸上にあること最初及び第二の弧は殆んど同じ大きさなること

第九條

正確なる姿勢及び基準

第一項　スクール課題滑走の際の正確なる姿勢及び運動の基準——何れの基準の内にも競技者の個性に對して自由なる活動領域と採點審判員の側からの出來る限りの考慮が許さる—として次の如きものあり

a、餘りに遲き滑走でなく元氣よく平均のとれた動作

b、直直に腰を曲げざる姿勢にて硬直せざること

c、膝若くは胴を適當に曲げ頭は出來る丈眞直に

d、浮足は僅かに氷面から離れ曳摺ることなくスケートの尖端は下方に外側へ向け膝は輕く曲げ一般に滑足の後に保ち然らざれば自由に振りて運動を助け而も滑足を遠く離れて擧げざること

e、腕は自然に垂れ浮足と同じく腕の運動によつて滑走を補助することを得而も肘若くは手を遠く身體から離すことなく手も出來る限り帶の高さ以上に出でず指は擴げず又拳は握らざること

第二項　一般に激しく角の立ち或ひは硬直せる運動並びに著しく特色がある補助運動は之を避くべし

第三項　圓滑なる滑走の印象を心掛くべし

第十條

個人競技のフリー競技に於ける競技者の順序

第一項　フリー競技に於て個人競技者の出場順位はスクール競技の終了及び計算の後直ちに採點審判員出席のもとに決勝審判員により文書により確められ而も次の規則に從ふ

a、競技者はスクール競技に於て得たる總得點に從ひ三つのグループに分ける

b、競技者三分の一のスクール競技に於て最高點を得たる競技者達のグループは上記によりまとめられて第二番目のグループとしてフリー競技に於ては出發する

c、殘餘は更に二つのグループに分けられ其の中スクール競技にてよりよき總得點を得たるものが最初に一番低い總得點を得たるものはフリー競技の最後のグループとして出發する

第二項　フリー競技の順序はこれ等すべて三つのグループ内に於ては抽籤により決定する、同樣に二人の競技者が得點を同じくするときはいづれのグループに歸屬するかは抽籤によつて決定する。

ペアー及グループ競技に於ける競技者の順序

第三項　ペアー及グループ競技又舞踊競技に於ても競技者は抽籤に依りて決定せられたる開始番號の順序に從ふ

フリー競技の續行時間

第四項　競技者の處理に委せられたる時間はそのプログラムの開始から起算して充分に利用せらる可し

第五項　時間の開始及び終結は笛若くは打鐘に依り示され審判長の監督を受くべし

殘餘時間のアナウンス

第六項　未だ利用せられない時間は競技者に對し適當る掲示板を示す事により又希望によつてはアナウンスにより通告せらる

第七項　他の方法による通告若くは指示、主として役員又は他の人によるフイギュアープログラムの助言は許されず

フリー競技場の大さ

第八項　競技場は大約方形に區切られ出來得れば一方向少くとも五〇米之に垂直な方向に少くとも二五米あることを要し而も五〇米——七〇米より大なるを得ず

第九項　天候の條件の悪い場合に於ける競技場の大きさの判定に關しその競技場を承認すべきか否かは審判長これを決す

第十一條

フリー競技の採點

第一項　フリー競技及びグループ競技の採點は次の如く行ふ

イ、滑走せるプログラムの内容（難易及び多樣性調和せる構成圖型の分布）

ロ、滑走の方法に對して（安定度、姿勢、動作、韻律に適へるなだらかな運動）常にスクールフイギュアー競技に於けると同じ意味を有する0—6の點を附して之をなすものとす

調和的演技

第二項　ペアー及びグループ競技並びに舞踊競技に於ては特にロの後に競技者の正確なる動作の合致が特に考慮せらるべし

第三項　フリー競技、ペアー及びグループ競技に於てプログラムの内容を採點するには多樣性となだらかさとが殊に注意せらる

唯單に難かしく優美を缺き相互に調和的構成を形成せしむる樣何等まとまつて居ない運動の連續は之と反對なり

第四項　個人の責任により引起されたる轉倒に採點に際し考慮せらるべし

第十二條

公開の採點

第一項　第五條による國際試合に於ては公開の採點がなされるべし、即ち夫々の採點審判員に依つて與へられたる點數は審判長及び觀衆に示さるゝものとす

第二項　この目的の爲に各採點審判員は二種類のカードの小箱を持つこの内一種類は黑で0—6迄の全點を他方は赤で1—9迄の十分の一點が刻印せられてゐる、各カードは當該數を附した小さな見出しを備へてゐる、其結果採點審判員はそれを容易に取出し且容易に再び正當な場所へ挿入することを得

第三項　各圖型が終つたならば審判長の笛の信號によつて全採點審判員は同時に當該點數のカードを高く揭ぐるものとす

第四項　採點審判員によつて示されたる點は二人の記錄員によつて讀上げられ他方によつて二枚の採點表に記入せらる

第五項　各競技者につき二通の採點表が作成せられるべし（末尾表參照）

第六項　全點數が採點表に記入せられたる後採點審判員は再び笛の信號によりカード箱へ入る

第七項　一人の競技者による一圖型が終つた後兩記錄は直に相互に比較し點數は難易係數を剩ぜらる

第八項　同樣なる方法により各圖型は行はる

第九項　採點審判員は自己の記錄をなすことは許さる

第十項　フリー競技の採點は採點審判員によつて先づ内容に對する點數が示され後直ちに種類及び方法の點數が示さる

第十三條

個人競技に於ける結果の確定

第一項　スクール及びフリーの採點は同一の採點表に爲さる

第二項　個人競技に於ては各スクールの採點表に付き與へられたる點數に難易係數を乘ず、この難易係數は當該課題の難易の程度により決るものにしてスクール・フイギュアー一覽表中より之を採用すべきものとす

點數

第三項　採點表に各競技者毎に別個に記載せられたこの結果の總合計は各個々競技者にとり個々の採點審判員より得たるスクール競技の總點數となる

第四項　フリー競技に於ては前記(イ)及(ロ)各項目に付與へられたる兩方の點數は之を合計しこの和に對し競技細目規定により公表したる係數を乘ず、この結果をフリー競技の點數となす

係數

第五項　係數はフリー競技に於て到達し得べき最高點數がスクール・フイギュアーに於て到達し得べき最高點數の出來得れば三分の二、然らざるも三分の二を超へざるものとなるやう之を選

定すべきものにしてその際小數一桁迄を許すものとす

總　點　數

第六項　フリー競技の點數とスクール競技の點數の合計は各競技者が個々の採點審判員より與へられたる總點數なり

ペアーグループ競技及び舞踊競技に於ける結果の確定

第七項　ペアー及びグループ競技に於てはフリー競技の（イ）及（ロ）に於て得たる點數を合計す

結果の算出

第八項　競技者ペアー若くはグループは採點審判員の採點表に表はれたる總點によつて點數の順序に竝べらる、この際競技者ペアー若くはグループは最高の總點數を以て席次第一位、次點者を席次二位、等々が與へらる

席　次

第九項　採點表に於て二若くは若干數の競技者ペアー若くはグループが總點數に於て等位を占むる場合はそれらの間の席次に關し個人競技に於てはスクールの點數、ペアー及グループに於ては競技の方法の點數のより高きものが之を決す

第十項　スクール競技の點數もペアー及グループに於ける競技方法の點數も等しければ記錄係は採點表に競技者ペアー若くはグループを當該の席次の中間を以て記入す

第十四條

多數決による優勝者

第一項　優勝者は採點審判員の絶對多數により第一位に置かれたるもの第二位は第二位者若くはより上順位の絶對多數を獲たるものとす

第二項　斯の場合一、一・五及び二の順位點を二位として數へ、一、一・五、二、二・五、三の順位點を三位として數ふ以下之に從ふ

第三項　同一順位につき多數を得たる競技者數名ある時は此の順位につき絶對多數を得たるものを以て其の順位に於ける優者とす

第四項　多數決に依り同數なる場合は多數決を構成する採點審判員の順位點合計の低きものを以て決定す

第五項　第四項に依り順位點數同じ時は全採點審判員の順位點總合計を以て決定す、この場合も亦同點なる時は總得點の多きものを以て決定し、之も亦同じ時は個人競技の場合はスクールの得點を以てしペアー及びグループ競技の場合は種類及び方法の得點を以て決す

多數決を缺きたる場合の勝者

第六項　順位の決定に對して絶對多數が生ぜざる時はこの順位に對する結果の取極めは全採點審判員によりて與へられたる順位數の合計による

第七項　全採點審判員の順位數總計に於て多數の競技者が同數なる時は總得點數の多きものによりて決す、これ亦等しければ第五項に依る順位の決定をなす

第八項　各順位の決定は先づ多數決の原則に從ひ第一項—第四項

の規定が適用せられ然らざる場合は第五項—第七項の規定に依り常に上述の順序に依るものとす

舞踊競技に於ける結果

第九項　結果の採點及び決定に對する規定は舞踊競技に對しても適用さる

第十五條

スクール競技の結果の發表

第一項　スクール競技の結果は其が行はるゝや直ちに計算せられ發表せられねばならぬ

採點板の公示

第二項　更に望ましきは採點板を充分に表示し若くは滑走後直ちに尠くとも少時一般の人に見得る樣公示しなくてはならぬ

結果の公表

第三項　結果については尠くとも各個の採點板によるスクール竝びにフリーの得點とそして其に依りたる總得點とを公表せねばならぬ

第四項　綜合得點表の寫しは競技に參加したる總ての聯盟に對して競技後十四日以内に送達せられねばならぬ

原採點表の提出

第五項　國際競技の原採點表の提出はI・S・Uの理事により要求せらるゝ事あるべし

第十六條

他の採點

規定せられたる方式によるものと異る採點は無效なり

第十七條

補充規定

主催する聯盟若くは協會は告示に補充規定を——こゝに決定せられたるものと一致する限り——任意に採用することは隨意とす

選手權大會

選手權大會の採點審判員

第十八條

第一項　選手權大會のために定められたるスクールの課題は次の規定に基いて確めらるゝものとす

歐洲選手權大會のスクール課題

第二項　歐洲選手權のスクール課題を毎年I・S・U理事は男子及び女子選手權大會に關する次に擧ぐる分類を顧慮して決定す

第三項　本スクール課題の通告はI・S・U理事により選手權大會の割當て及び時間に關する通告と同時に又遲くとも十一月十五日迄の獨立の通告によりてI・S・U　の全成員に對して爲されざるべからず—

世界選手權大會のスクール課題

第四項　世界選手權大會のスクール課題は次の規定に從ひ抽籤により決定せらるゝものとす（本條第六項、第八項抽籤樣式參照）

第五項　抽籤及び乘數の確定は審判長により若くは審判長缺席の場合は主催する協會の役員によりスクール競技日の前夜少くとも二名の採點審判員及び二名の申込者の出席の下に行はる

第六項

一、抽　籤

イ、世界選手權大會に於ける最初の抽籤乃至ヨーロッパ選手權大會に於ける選擇は次の方法に從ふ、即ち最初スクール圖型は競技規則の圖型三八、三九、四〇、四一の中より採用する

二、抽　籤

ロ、①最初の抽籤（選擇）に於て圖型四〇若くは四一の中からとられたならば第二の抽籤（選擇）は圖型一四、一五、一六、一七、三〇、三一、三八及び三九から行はる

②之に反し最初の抽籤（選擇）に於て圖型三八及び三九の中からとられたならば第二の抽籤（選擇）は圖型一八、一九、三二、三三、四〇及び四一から行はる

三、抽　籤

ハ、第三の抽籤（選擇）は圖型三四、三五、三六及び三七から行ふ

四、抽　籤

ニ、①第三の抽籤（選擇）に於て圖型三四若くは三五の中からとられたならば第四の抽籤（選擇）は圖型一、二、一〇、十一、十二、十三、二四、二五、二八及び二九から行ふ

②之に反して第三の抽籤（選擇）に於て圖型三六及び三七の中からとられたならば第四の抽籤（選擇）は圖型三、四、五、六、七、八、九、二六及び二七から行ふ

五、抽　籤

ホ、第五の抽籤（選擇）は圖型二二及び二三から行ふ

六、抽　籤

ヘ、第六の抽籤（選擇）は圖型二〇及び二一から行ふ

第七項　圖型は番號順に滑走せらるへし

世界選手權大會に於ける削除圖型

第八項　世界選手權大會に於ては上記の抽籤樣式から次の圖型が削除せらる即ち一、二、二、五、六、七、九、一〇、一一、一二、一四、一五、一六、一七、一八及び一九

フリー競技續行時間

第十九條

第一項　男子世界及び歐洲選手權大會及びペア競技選手權に對してはフリー競技の時間は五分、女子選手權に對しては四分とす

最　少　點

第二項　選手權を獲得する爲めには優勝者は決勝審判員の多數に於て少くともスクール課題の三分の二及びフリーの內容及び演技の種類及び方法に於て「良好」（四點）の最少點を以て滑走することを要す

第二十條

制　限　規　定

第十七條に於て豫め定められたる補充規定は選手權大會に對して適用せず

上記規定が決定的のものなり

第二十一條

原採點表の提出

第一項　選手權大會の原採點表はプログラムと共にI・S・Uの理事に對し競技後四週間以內に提出さるゝことを要す

第二項　フイギュアー選手權大會に競技者を派遣せる協會に對しては總採點表の全內容の寫本が送附せらる

第二十二條

印刷せる記錄表の內容

第一項　選手權フリー競技の印刷せる記錄表は別表の形式を備ふる事を要す

第二項　其他に記錄表は次の如き內容を有する事を要す

イ、審判長及び採點審判員の氏名

ロ、滑走したるスクール圖型の名稱

ハ、確定せる係數

ニ、最高得點數

第三項　更に必要なる事項としてスケート場の種數及び大きさ、天候の狀態を記載せねばならぬ

第二十三條

第二十四條乃至第三十條は更に必要なる規定の爲にフキギュア競技規則の第三部として豫備とす

フキギュア競技に於ける試驗に關す規定

第二十四條

フキギュアー競技に於ける試驗は四階級に分けられ行はる

第二十五條

第四級に於て試驗を通過したるに對して競技者はI・S・Uの賞狀を得る、第三級第二級第一級に於ては賞狀の他にI・S・Uのブロンズ銀及び金鍍金の徽章が與へられる

第二十六條

第一項　採點審判は三人の採點審判員により構成せらる

第二項　第四級及び第三級に於ては採點審判は三人の國內若くは國際採點審判員より成り、第二級に於ては三人の國際採點審判員より成り、第一級（選手權級）に於ては二人の國際採點審判員と一人の選手權採點審判員より成る、其一人は他の國の聯盟に屬して居なくてはならぬ

第三項　如何なる場合に於ても試驗委員は受驗者の屬する一協會（クラブ）の採點審判員のみを以て構成せらるゝ事は許されず

第四項　第一級及び第二級に對する試驗に於ては受驗者の屬する協會の採點審判員は唯一人のみ利用せらるゝことを得

第五項　選手權採點審判員に對する費用は主催せる國の聯盟若く

は協會が競技規約第九條第五項の規定に從ひ負擔す

第二十七條

第四級は競技規約中係數一のスクール圖型の總てを含む第三級は係數二の總ての圖型、第二級は三六番a及bを除き係數三の圖型第一級は係數四と五の總ての圖型及び其他三六番a及bを含む

第二十八條

各級に於ては全圖型を滑走せざるべからず然し唯a若くはbの形式にて、其は各個圖型の試驗の前に抽籤により決定す
三九番a及b四一番a及bは左右共滑走せられねばならぬ

第二十九條

フリーに於ける試驗は何れの級に於ても行はれず

第三十條

第一項　試驗の採點は競技規約第六條乃至第九條の規定に從ひなされる
第二項　第二級及び第一級に於ては競技規約第十二條に依り公開採點が適用せらる
第四級及び第三級に於ては非公開採點が許される
第三項　結果の計算に於て係數は使用せられず

第三十一條

各試驗は一日の中に同一の採點審判に於て終了せしめられねばならぬ

第三十二條

試驗は受驗者の屬する國の聯盟の前以ての文書による同意あれば他國に於ても行ふ事を得る

第三十三條

受驗者は次の場合は試驗を通過する事となる、即ち第四、第三級に於ては尠くとも平均して最高得點數の五五%、第二、第一級に於ては尠くとも六六%、而もどの採點審判員も第四、第三級に於ては一圖型を二點以下に、又第二、第一級に於ては三點以下に採點せざりし場合なり

第三十四條

試驗の再通知は三十日經過後初めてなされる

第三十五條

第一項　各試驗は順序に從ひ爲されねばならぬ（この規定は一九四一年六月一日以後效力を生ず）
第二項　前掲の規定に違反したる時はこの試驗を無效とす

第三十六條

國の聯盟はこの試驗を自身にて若くは其の聯盟所屬の協會により

擧行す、而して三人の採點審判員により記入せられたる原採點表及びI・S・Uにより要求せられるゝ證據書類が三週間以内にI・S・Uに更に送達せらるゝことを要す

第三十七條

第一項　結果を檢査したる後I・S・Uの理事は賞狀及び徽章を授與す
第二項　當該聯盟（協會）にとつて授與せられたる標章の購入は義務なり
第三項　聯盟は競技者に賞狀及び徽章を交附するものとす

第三十八條

賞狀及び徽章の樣式は一九三九年のアムステルダムに於ける第二十一回の總會に於て決定せらる

第三十九條

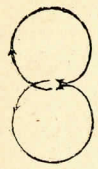
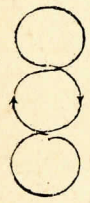
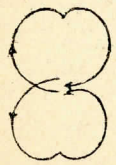
第一項　第二、第一級の各試驗に對し競技者は五スウエーデッシュクローネの申込料を其の屬する國の聯盟に支拂はざるべからず
第二項　試驗を通過する事能はざりし時は申込料は返還せず

以　上

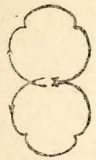
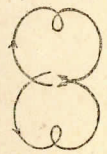
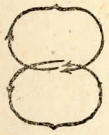
「フイギユアー・スケーテイング」ニ於ケル「スクール・フイギユアー」

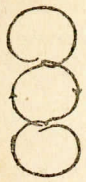
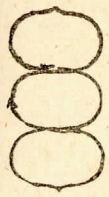
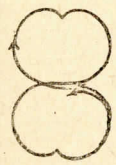
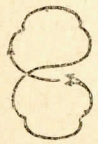
畧語解

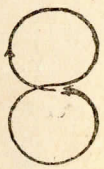
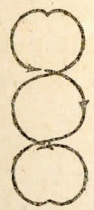
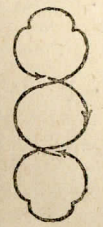
R = 右	o = 外	B =「ブラツケツト」
L = 左	i = 内	RK =「ロツカー」
f = 前	T =「スリー」	C =「カウンター」
b = 後	LP =「ループ」	

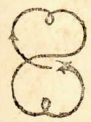
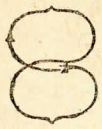
圖形	番號	名稱	難易係數
		「カーヴ・エイト」 獨 Bogen-Achter / 英 Curve Eight / 佛 huit	
	1	Rfo — Lfo	1
	2	Rfi — Lfi	1
	3	Rbo — Lbo	1
	4	Rbi — Lbi	2
		「チエーンジ」 獨 Schlangenbogen / 英 Change / 佛 changement de carre	
	5a	Rfoi — Lfio	1
	b	Lfoi — Rfio	1
	6a	Rboi — Lbio	2
	b	Lboi — Rbio	2
		「スリー」 獨 Dreier / 英 Three / 佛 trois	
	7	RfoTbi — LfoTbi	1
	8a	RfoTbi — LbiTfo	2
	b	LfoTbi — RbiTfo	2
	9a	RfiTbo — LboTfi	1
	b	LfiTbo — RboTfi	1

（獨英佛三箇國語畧語解詳細ハ本表末ニ掲ケタリ）

圖形	番號	名稱	難易係數
		「ダブル・スリー」 獨 Doppeldreier / 英 Double-Three / 佛 double-trois	
	10	RfoTbiTfo — LfoTbiTfo	1
	11	RfiTboTfi — LfiTboTfi	1
	12	RboTfiTbo — LboTfiTbo	1
	13	RbiTfoTbi — LbiTfoTbi	2
		「ループ」 獨 Schlinge / 英 Loop / 佛 boucle	
	14	RfoLPfo — LfoLPfo	2
	15	RfiLPfi — LfiLPfi	2
	16	RboLPbo — LboLPbo	2
	17	RbiLPbi — LbiLPbi	2
		「ブラツケツト」 獨 Gegendreier / 英 Bracket / 佛 bracket	
	18a	RfoBbi — LbiBfo	3
	b	LfoBbi — RbiBfo	3
	19a	RfiBbo — LboBfi	3
	b	LfiBbo — RboBfi	3
		「ロツカー」 獨 Wende / 英 Rocker / 佛 rocker	
	20a	RfoRKbo — LboRKfo	4
	b	LfoRKbo — RboRKfo	4
	21a	RfiRKbi — LbiRKfi	4
	b	LfiRKbi — RbiRKfi	4

圖形	番號	名稱	難易係數
		「チエーンジ・ループ」 獨 Schlangenbogen-Schlinge 英 Change-Loop 佛 changement de carre-boucle	
	30a	RfoiLPfi — LfioLPfo	2
	b	LfoiLPfi — RfioLPfo	2
	31a	RboiLPbi — LbioLPbo	3
	b	LboiLPbi — RbioLPbo	3
		「チエーンジ・ブラツケツト」 獨 Schlangenbogen-Gegen-dreier 英 Change-Bracket 佛 changement de carre-bracket	
	32a	RfoiBbo — LboiBfo	3
	b	LfoiBbo — RboiBfo	3
	33a	RfioBbi — LbioBfi	3
	b	LfioBbi — RbioBfi	3
		「スリー・チエーンジ・スリー」 獨 Dreier-Schlangenbogen-Dreier 英 Three-Change-Three 佛 trois-changement de carre-trois	
	34a	RfoTbioTfi — LfiTboiTfo	3
	b	LfoTbioTfi — RfiTboiTfo	3
	35a	RboTfioTbi — LbiTfoiTbo	3
	b	LboTfioTbi — RbiTfoiTbo	3
		「ダブルスリーチエーンジ・ダブルスリー」 獨 Doppeldreier-Schlangen-bogen-Doppeldreier 英 Double-Three-Change-Double-Three 佛 double-trois-changement de carre-double-trois	
	36a	RfoTbiTfoiTboTfi — LfiTboTfioTbiTfo	3
	b	LfoTbiTfoiTboTfi — RfiTboTfioTbiTfo	3
	37a	RboTfiTboiTfoTbi — LbiTfoTbioTfiTbo	4
	b	LboTfiTboiTfoTbi — RbiTfoTbioTfiTbo	4

圖形	番號	名稱	難易係數
		「カウンター」 獨 Gegenwende 英 Counter 佛 contre-rocking	
	22a	RfoCbo — LboCfo	3
	b	LfoCbo — RboCfo	3
	23a	RfiCbi — LbiCfi	3
	b	LfiCbi — RbiCfi	3
		「ワン・フート・エイト」 獨 Achter auf einem Fusse 英 One-Foot Eight 佛 huit sur un pied	
	24a	Rfoi — Lfio	2
	b	Lfoi — Rfio	2
	25a	Rboi — Lbio	3
	b	Lboi — Rbio	3
		「チエーンジ・スリー」 獨 Schlangenbogen-Dreier 英 Change-Three 佛 changement de carre-trois	
	26a	RfoiTbo — LboiTfo	2
	b	LfoiTbo — RboiTfo	2
	27a	RfioTbi — LbioTfi	3
	b	LfioTbi — RbioTfi	3
		「チエーンジ・ダブルスリー」 獨 Schlangenbogen-Doppel-dreier 英 Change-Double-Three 佛 changement de carre-double-trois	
	28a	RfoiTboTfi — LfioTbiTfo	1
	b	LfoiTboTfi — RfioTbiTfo	1
	29a	RboiTfoTbi — LbioTfiTbo	3
	b	LboiTfoTbi — RbioTfiTbo	3

圖形	番號	名稱	難易係數
		「ループチエーンジ・ループ」 獨 Schlinge-Schlangenbogen-Schlinge / 英 Loop-Change-Loop / 佛 boucle-changement de carre-boucle	
	38a	RfoLPfoiLPfi — LfiLPfioLPfo	4
	b	LfoLPfoiLPfi — RfiLPfioLPfo	4
	39a	RboLPboiLPbi — LbiLPbioLPbo	5
	b	LboLPboiLPbi — RbiLPbioLPbo	5
		「ブラツケツト・チエーンジ・ブラツケツト」 獨 Gegendreier-Schlangen-bogen-Gegendreier / 英 Bracket-Change-Bracket / 佛 bracket-changement de carre-bracket	
	40a	RfoBbioBfi — LfiBboiBfo	4
	b	LfoBbioBfi — RfiBboiBfo	4
	41a	RboBfioBbi — LbiBfoiBbo	5
	b	LboBfioBbi — RbiBfoiBbo	5

（畧語詳解）

獨 R＝rechts＝右
英 R＝right＝右
佛 d＝Droit＝右

獨 L＝links＝左
英 L＝left＝左
佛 g＝Gauche＝左

獨 v＝vorwärts＝前
英 f＝forwards＝前
佛 v＝Avant＝前

獨 r＝rückwärts＝後
英 b＝backwards＝後
佛 r＝Arrière＝後

獨 a＝auswärts＝外
英 o＝outside＝外
佛 H＝Dehors＝外

獨 e＝einwärts＝內
英 i＝inside＝內
佛 D＝Dedans＝內

獨 D＝Dreier＝「スリー」
英 T＝Three＝「スリー」
佛 T＝Trois＝「スリー」

獨 S＝Schlinge＝「ループ」
英 LP＝Loop＝「ループ」
佛 B＝Boucle＝「ループ」

獨 GD＝Gegendreier＝「ブラツケツト」
英 B＝Bracket＝「ブラツケツト」
佛 Bk＝Bracket＝「ブラツケツト」

獨 W＝Wende＝「ロツカー」
英 RK＝Rocker＝「ロツカー」
佛 R＝Rocker＝「ロツカー」

獨 G＝Gegenwende＝「カウンター」
英 C＝Counter＝「カウンター」
佛 C＝Contre-rocking＝「カウンター」

大日本スケート競技聯盟

競技＿＿＿＿　出場者氏名＿＿＿＿　番號＿＿＿＿

スクール

年　月　日

國型	番號	名稱	係數	審判員 1. 得點	計	2. 得點	計	3. 得點	計	4. 得點	計	5. 得點	計	6. 得點	計	7. 得點	計

フリー

a.コンテンツ							
b.パーフオーマンス							
計							
フリー係數							
フリー合計							
スクール合計							
總得點							

計算員＿＿＿＿

檢算員＿＿＿＿

東京・新宿

伊勢丹

スケート場

場開時十前午
業終分十三時九後午

平日

場開時九前午
業終分十三時九後午

土曜日
日曜祭

クンリの樣皆るれ滑くし樂

營業御案内

氷面手入時間

分十三リヨ時一後午
分十三リヨ半時五後午

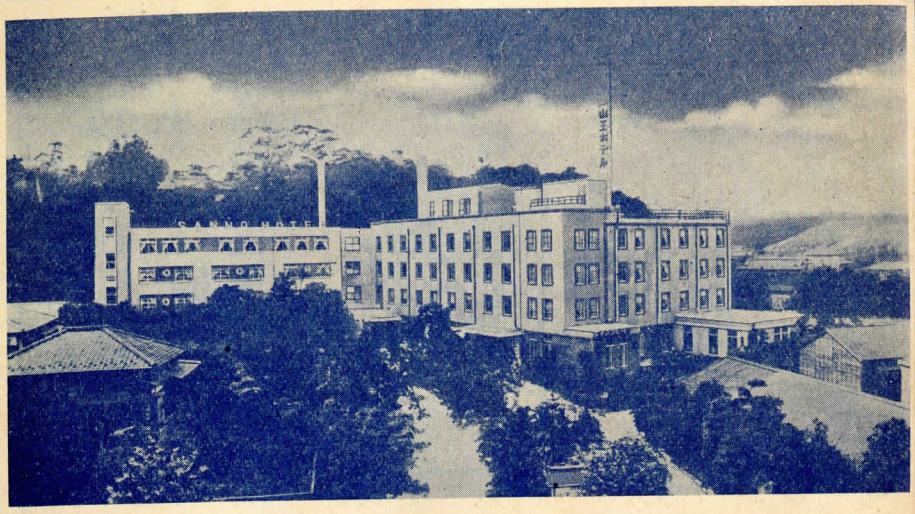
得點結果表

於

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
審判員										
合計										
勝敗決定順位										

計算員

檢査員



銀盤に躍る健康美

愉快なスポーツ
輕快なスケート

山王スケート・スイア場

いつも朗らかな芝浦風景！
健康の爲めに
オススメするデス

芝浦アイススケート場

活版・石版
オフセット・コロタイプ
高級寫眞製版印刷

合資會社
白橋印刷所

東京市京橋區西八丁堀四丁目四番地
電話京橋(56)一一〇一三
一六八八二番

編輯後記

◇…紀元二千六百年を記念してスケート年鑑第一號の出來上つたのは嬉しい。尤もこの年鑑發行はこゝ數年來の懸案であつて、本來なら、もうとつくに、世に出てゐる筈のものだが、なか〳〵簡單にはいかなく、今年こそは、今年こそはと、いつも全國代表委員會の席上、頭をかきながらあやまつてやつとのこと第一號發刊の運びとなつたのである。

◇…年鑑だから一年一回といふことになつて居る。スケート界一年間の事象を、なるべく細大漏らさず一册の中に蒐錄しやうと思つて居る。ところが第一號は御覽の通り、そこまで手が屆いて居ない。せめて日本スケート界の歷史と云つたやうなもの全日本選手權大會の記錄などもつと詳しく集めたいと努力したが、それも及ばず中途半端のものになつたのは聊か汗顏の至りである。

◇…第二號にはどんなものを蒐錄するか、氣早い話だが手まはしよくやるべきである。然しこれは聯盟本部だけではとうてい出來ることではない、お互が智惠をしぼり、協力をしてこそ完全なものが出來るのである。全國スケート關係のみな樣の御後援を期待して居る譯けである。

◇…第一號はおそくも十二月末迄には發行したいと、小生も馬力をかけ、白橋印刷所も全員協力してくれたのだが、とう〳〵三月になつてしまつた。第二號は十一月上旬には是非出し度いと思ふ。何れにしても各位の御協力を待つよりほかない。御協力を乞ふ。(昭和十六年三月七日兩角生)

スケート年鑑第一號
2600——2061

昭和十六年四月十五日印刷
昭和十六年四月二十日發行
【定價 金貳圓】

編輯兼發行者 大日本スケート競技聯盟 代表者 兩角政人
東京府北多摩郡武藏野町吉祥寺二九二六

印刷者 東京市京橋區西八丁堀四ノ四 白橋龍夫

印刷所 東京市京橋區西八丁堀四ノ四 白橋印刷所

發行所 大日本スケート競技聯盟
東京市神田區駿河臺岸記念體育會館內
(電、神田四九六〇)